

大道遺跡群 4

大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 7

第20次 第23次 第32次調査
弥生時代・古墳時代環濠関連遺構編

2011

大分市教育委員会



第 23 次調査空中写真 (23SD001 全景)



第 23 次 SD001 調査状況 (近景)



第 23 次調査空中写真 (西側調査区全景)



第 23 次調査空中写真 (東側調査区全景)



第 20 次調査空中写真 (調査区全景)



第 20 次調査空中写真 (南東から)



第 32 次調査空中写真 (32SD001 全景)



第 32 次調査空中写真 (調査区全景)

序 文

本書は、大分駅南地区に所在する大道遺跡群の発掘調査報告書であります。現在同地区におきましては、大分駅周辺総合整備事業が進められており、この事業に伴う大道遺跡群の発掘調査は、平成 12 年度より年次計画にもとづいて実施しているところであります。

ここに収録しました大道遺跡群第 20・23・32 次調査の調査対象地は、大分駅南口駅前広場を含む一帯にあたり、主に古墳時代初めの大規模集落および平安時代初めの役所に係る遺跡が発見されております。中でも今回報告の中心となります古墳時代初めの集落を囲むと考えられる環濠や井戸跡の検出、そしてこれら遺構から出土する大量の遺物の存在が特筆されます。出土量もさることながら、豊富なバリエーションの土器や、製塩土器、網のおもりとして使用された土錘等のあり方は、大分川河口部に営まれた海とのつながりの深い人々のムラとその生活の様子を物語る貴重な成果となりました。

つきましては、本書が広く市民の皆さまに活用され、文化財保護への理解を深める一助となり、さらには歴史研究や学術振興に寄与できれば幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘から報告書の刊行に至るまでご指導いただきました諸先生方、ご協力いただいた関係各位に対しまして厚く御礼申し上げます。

平成 23 年 3 月

大分市教育委員会
教育長 足立 一馬

例 言

1. 本書は大分市教育委員会が大分駅総合整備事業に伴って平成 18・19・21 年度に実施した大道遺跡第 20,23,32 次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、大分市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査は、第 20 次調査を平成 18 年 12 月 9 日～平成 19 年 3 月 28 日、第 23 次調査を平成 19 年 7 月 24 日～平成 19 年 12 月 1 日、第 32 次調査を平成 21 年 10 月 13 日～平成 21 年 12 月 3 日の期間で実施し、資料整理は、調査終了時から平成 22 年度に渡り行われた。報告書の作成は、平成 22 年度に行われた。
4. 平成 19・21 年度の発掘調査に係る掘削・埋戻業務については、大分市の委託を受け、岡三リビック(株) (平成 19 年度 業務責任者 堀苑孝志)、(株)九州文化財総合研究所 (平成 21 年度 業務責任者 三ツ又正明) が行った。
5. 調査における遺構の実測及び写真撮影は、第 20 次 (荻幸二・高畠豊)、第 23 次 (高畠・羽田野達郎・上原翔平)、第 32 次 (佐藤道文・山下朋紀) が行った他、写真測量図化及び空中写真撮影については、大分市の委託を受け九州航空(株) (業務責任者 高瀬浩嗣) が行った。
6. 報告書に掲載した遺物の実測・製図・写真撮影は、大分市の委託を受け、国際航業(株) (平成 21 年度①業務責任者 伊藤敬太郎)、埋蔵文化財サポートシステム (平成 21 年度②業務責任者 石川哲哉)、(株)アーキジオ (平成 22 年度業務責任者 森隆) が行った他、井口あけみ・木村藍子・高畠・坪根伸也が行った。
7. 出土遺物及び記録資料は大分市教育委員会文化財課に収蔵・保管している。
8. 本書の企画は、井口・木村・倉増美智代・佐藤良子・稗田智美が行い、執筆は第Ⅰ章を河野史郎、第Ⅱ章を井口・佐藤孝則、第Ⅲ章を井口・河野・木村・倉増・佐藤(良)・稗田、第Ⅳ章を(株)古環境研究所、第Ⅴ章を井口・木村・倉増・佐藤(良)・稗田の分担で行った。本書の編集は大分市の委託を受け(株)アーキジオ (平成 22 年度業務責任者 森隆) が行った。

凡 例

- 1 本調査の座標は、旧日本測地系の平面直角座標第 2 系の座標値を実測・測量の基準として使用した。図中に記載される方位は座標北 (G.N) を指している。
- 2 本書に記載される遺構番号は、以下の要領で理解される。
「20SD001」20(調査回数) SD(遺構略号) 001(遺構番号)
- 3 本書で用いた遺構略号は原則として、以下の要領で理解される。
SA: 柵列、SB: 掘立柱建物、SE: 井戸跡、SD: 溝状遺構、SK: 土坑、SX: 性格不明遺構を表している。
- 4 本書で用いた遺構の規模は m、遺物の法量は cm をそれぞれ用いている。
- 5 本書に掲載される遺物の年代観等については、以下の文献を参考にした。
坪根伸也 2006 「第三章第 10 節 (5) 小結 下郡遺跡群第 120 次調査小結— 120SD1100・120SD1200 出土土器について—」『下郡遺跡群Ⅳ』大分市教育委員会
坪根伸也 2007 「第四章第 2 節下郡遺跡出土の弥生時代終末期から古墳時代初頭の土器について」『下郡遺跡群Ⅴ』大分市教育委員会
坪根伸也 2010 「第三章第 3 節 (4) 弥生時代から古墳時代前期の土器による時期区分」『下郡遺跡群Ⅶ』大分市教育委員会

目次

第Ⅰ章 はじめに	1
第1節 調査に至る経過(河野)	1
第2節 調査組織(河野)	1～2
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	4～7
第1節 地理的環境(佐藤孝)	4～5
第2節 歴史的環境(井口)	5～7
第Ⅲ章 調査の成果	8～269
第1節 調査の概要(河野)	8
第2節 大道遺跡群第23次調査	8～109
概要(河野)	8
23SE003(稗田)	13
23SE003 出土遺物(稗田)	13～14
23SE011(佐藤良)	15
23SE011 出土遺物(佐藤良)	15～22
23SX038(佐藤良)	23
23SX038 出土遺物(佐藤良)	23～28
23SD001(佐藤良)	29
23SD001 出土遺物(倉増・木村・佐藤良・稗田)	30～72
23SD170(佐藤良)	73
23SD170 出土遺物(倉増・木村・佐藤良・稗田)	74～101
23SE051(佐藤良)	102
23SE052(佐藤良)	102
23SE052 出土遺物	102
23SE051 出土遺物(佐藤良)	103
23SE076(稗田)	104
23SE076 出土遺物(稗田)	104～105
23SE085(稗田)	105
23SE087(稗田)	105
23SE087 出土遺物(稗田)	106
23SE099(稗田)	107
23SE099 出土遺物(稗田)	107～108
23SE183(稗田)	109
23SE209(稗田)	109
23SE209 出土遺物(稗田)	109

第3節 大道遺跡群第20次調査	110～175
概要(河野)	110
20SD001(木村)	111
20SD001 出土遺物(倉増・木村・佐藤良・稗田)	112～169
20SE001(木村)	170
20SE001 出土遺物(木村)	170～173
20SE018(木村)	174
20SE018 出土遺物(木村)	174～175

第4節 大道遺跡群第32次調査	176～203
概要(河野)	176
32SD001(倉増)	177
32SD001 出土遺物(倉増・木村・佐藤良・稗田)	177～193
32SE020(倉増)	193
32SE025(倉増)	193～194
32SE030(倉増)	194～195
32SE020・025 出土遺物(倉増)	195～198
32SE030 出土遺物(倉増)	198～203

大道遺跡群第20・23・32次出土の土師器高坏の分類について(倉増) 204

大道遺跡群第20・23・32次出土の土師器鉢の分類について(木村) 205

大道遺跡群第20・23・32次出土の土師器壺の分類について(佐藤良) 206～207

大道遺跡群第20・23・32次出土の土師器甕の分類について(稗田) 208～209

参考文献 210

第5節 特殊遺物について	211～213
製塩土器(井口)	211～213
猿形土製品(井口)	213
土製模造鏡(井口)	213

第Ⅳ章 自然科学分析	270～271
大道遺跡群における樹種同定(株式会社古環境研究所)	270～271

第Ⅴ章 まとめ	272～276
第1節 総括(井口)	272
第2節 大道遺跡群第20・23・32次調査溝状遺構について(佐藤良)	272
第3節 大道遺跡群第20・23・32次井戸状遺構の変遷について(稗田)	273～276

挿図目次

第 1 図	調査区位置図 (1/5,000) ・ ・ ・ ・ ・	3
第 2 図	調査地周辺地形分類図 (『大分市史』上 一部改変) および遺跡分布図 (1/60,000) ・ ・ ・ ・ ・	4
第 3 図	周辺主要遺跡分布図 (1/40,000) ・ ・ ・ ・ ・	5
第 4 図	大道遺跡群第 20・23・32 次遺構配置図 (1/500) ・ ・ ・ ・ ・	9～10
第 5 図	大道遺跡群第 23 次調査区全体図 (1/400) ・ ・ ・ ・ ・	11～12
第 6 図	23SE003 遺構実測図 (1/40) ・ ・ ・ ・ ・	13
第 7 図	23SE003 出土遺物実測図 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	14
第 8 図	23SE011 遺構実測図 (1/40) ・ ・ ・ ・ ・	15
第 9 図	23SE011 出土遺物実測図 1 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	16
第 10 図	23SE011 出土遺物実測図 2 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	17
第 11 図	23SE011 出土遺物実測図 3 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	18
第 12 図	23SE011 出土遺物実測図 4 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	19
第 13 図	23SE011 出土遺物実測図 5 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	20
第 14 図	23SE011 出土遺物実測図 6 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	21
第 15 図	23SE011 出土遺物実測図 7 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	22
第 16 図	23SX038 遺構実測図 (1/40) ・ ・ ・ ・ ・	23
第 17 図	23SX038 出土遺物実測図 1 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	24
第 18 図	23SX038 出土遺物実測図 2 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	25
第 19 図	23SX038 出土遺物実測図 3 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	26
第 20 図	23SX038 出土遺物実測図 4 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	27
第 21 図	23SX038 出土遺物実測図 5 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	28
第 22 図	23SD001 遺構実測図 (1/200・1/40) ・ ・ ・ ・ ・	29
第 23 図	23SD001 出土遺物実測図 1 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	31
第 24 図	23SD001 出土遺物実測図 2 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	32
第 25 図	23SD001 出土遺物実測図 3 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	33
第 26 図	23SD001 出土遺物実測図 4 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	34
第 27 図	23SD001 出土遺物実測図 5 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	36
第 28 図	23SD001 出土遺物実測図 6 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	37
第 29 図	23SD001 出土遺物実測図 7 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	38
第 30 図	23SD001 出土遺物実測図 8 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	39
第 31 図	23SD001 出土遺物実測図 9 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	40
第 32 図	23SD001 出土遺物実測図 10 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	41
第 33 図	23SD001 出土遺物実測図 11 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	42
第 34 図	23SD001 出土遺物実測図 12 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	43
第 35 図	23SD001 出土遺物実測図 13 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	44
第 36 図	23SD001 出土遺物実測図 14 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	46
第 37 図	23SD001 出土遺物実測図 15 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	47
第 38 図	23SD001 出土遺物実測図 16 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	48
第 39 図	23SD001 出土遺物実測図 17 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	49
第 40 図	23SD001 出土遺物実測図 18 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	51
第 41 図	23SD001 出土遺物実測図 19 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	53
第 42 図	23SD001 出土遺物実測図 20 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	54
第 43 図	23SD001 出土遺物実測図 21 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	56
第 44 図	23SD001 出土遺物実測図 22 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	57
第 45 図	23SD001 出土遺物実測図 23 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	58
第 46 図	23SD001 出土遺物実測図 24 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	59
第 47 図	23SD001 出土遺物実測図 25 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	60
第 48 図	23SD001 出土遺物実測図 26 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	61
第 49 図	23SD001 出土遺物実測図 27 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	62
第 50 図	23SD001 出土遺物実測図 28 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	63
第 51 図	23SD001 出土遺物実測図 29 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	64
第 52 図	23SD001 出土遺物実測図 30 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	65
第 53 図	23SD001 出土遺物実測図 31 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	66
第 54 図	23SD001 出土遺物実測図 32 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	67
第 55 図	23SD001 出土遺物実測図 33 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	68
第 56 図	23SD001 出土遺物実測図 34 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	69
第 57 図	23SD001 出土遺物実測図 35 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	70
第 58 図	23SD001 出土遺物実測図 36 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	71
第 59 図	23SD001 出土遺物実測図 37 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	72
第 60 図	23SD170 遺構実測図 (1/300・1/40) ・ ・ ・ ・ ・	73
第 61 図	23SD170 出土遺物実測図 1 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	75
第 62 図	23SD170 出土遺物実測図 2 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	76
第 63 図	23SD170 出土遺物実測図 3 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	77
第 64 図	23SD170 出土遺物実測図 4 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	78
第 65 図	23SD170 出土遺物実測図 5 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	79
第 66 図	23SD170 出土遺物実測図 6 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	80
第 67 図	23SD170 出土遺物実測図 7 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	81
第 68 図	23SD170 出土遺物実測図 8 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	83
第 69 図	23SD170 出土遺物実測図 9 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	84
第 70 図	23SD170 出土遺物実測図 10 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	85
第 71 図	23SD170 出土遺物実測図 11 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	86
第 72 図	23SD170 出土遺物実測図 12 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	87
第 73 図	23SD170 出土遺物実測図 13 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	88
第 74 図	23SD170 出土遺物実測図 14 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	89
第 75 図	23SD170 出土遺物実測図 15 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	90
第 76 図	23SD170 出土遺物実測図 16 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	92
第 77 図	23SD170 出土遺物実測図 17 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	93
第 78 図	23SD170 出土遺物実測図 18 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	94
第 79 図	23SD170 出土遺物実測図 19 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	95
第 80 図	23SD170 出土遺物実測図 20 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	96
第 81 図	23SD170 出土遺物実測図 21 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	97
第 82 図	23SD170 出土遺物実測図 22 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	98
第 83 図	23SD170 出土遺物実測図 23 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	99
第 84 図	23SD170 出土遺物実測図 24 (1/5) ・ ・ ・ ・ ・	100
第 85 図	23SD170 出土遺物実測図 25 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	101
第 86 図	23SE051 遺構実測図 (1/40) ・ ・ ・ ・ ・	102
第 87 図	23SE052 遺構実測図 (1/40)・出土遺物実測図 (1/4) ・ ・ ・ ・	102
第 88 図	23SE051 出土遺物実測図 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	103
第 89 図	23SE076 遺構実測図 (1/40) ・ ・ ・ ・ ・	104
第 90 図	23SE076 出土遺物実測図 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	104
第 91 図	23SE085 遺構実測図 (1/40) ・ ・ ・ ・ ・	105
第 92 図	23SE087 遺構実測図 (1/40) ・ ・ ・ ・ ・	105
第 93 図	23SE087 出土遺物実測図 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	106
第 94 図	23SE099 遺構実測図 (1/40) ・ ・ ・ ・ ・	107
第 95 図	23SE099 出土遺物実測図 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	108
第 96 図	23SE183 遺構実測図 (1/40) ・ ・ ・ ・ ・	109
第 97 図	23SE209 遺構実測図 (1/40) ・ ・ ・ ・ ・	109
第 98 図	23SE209 出土遺物実測図 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	109
第 99 図	大道遺跡群第 20 次調査区全体図 (1/300) ・ ・ ・ ・ ・	110

第 100 図	20SD001 遺構実測図 (1/300・1/40)・	111
第 101 図	20SD001 出土遺物実測図 1 (1/4)・	113
第 102 図	20SD001 出土遺物実測図 2 (1/4)・	114
第 103 図	20SD001 出土遺物実測図 3 (1/4)・	115
第 104 図	20SD001 出土遺物実測図 4 (1/4)・	116
第 105 図	20SD001 出土遺物実測図 5 (1/4)・	117
第 106 図	20SD001 出土遺物実測図 6 (1/4)・	118
第 107 図	20SD001 出土遺物実測図 7 (1/4)・	119
第 108 図	20SD001 出土遺物実測図 8 (1/4)・	120
第 109 図	20SD001 出土遺物実測図 9 (1/4)・	121
第 110 図	20SD001 出土遺物実測図 10 (1/4)・	122
第 111 図	20SD001 出土遺物実測図 11 (1/4)・	123
第 112 図	20SD001 出土遺物実測図 12 (1/4)・	124
第 113 図	20SD001 出土遺物実測図 13 (1/4)・	125
第 114 図	20SD001 出土遺物実測図 14 (1/4)・	126
第 115 図	20SD001 出土遺物実測図 15 (1/4)・	127
第 116 図	20SD001 出土遺物実測図 16 (1/4)・	128
第 117 図	20SD001 出土遺物実測図 17 (1/4)・	129
第 118 図	20SD001 出土遺物実測図 18 (1/4)・	130
第 119 図	20SD001 出土遺物実測図 19 (1/4)・	131
第 120 図	20SD001 出土遺物実測図 20 (1/4)・	132
第 121 図	20SD001 出土遺物実測図 21 (1/4)・	133
第 122 図	20SD001 出土遺物実測図 22 (1/4)・	134
第 123 図	20SD001 出土遺物実測図 23 (1/4)・	135
第 124 図	20SD001 出土遺物実測図 24 (1/4)・	136
第 125 図	20SD001 出土遺物実測図 25 (1/4)・	137
第 126 図	20SD001 出土遺物実測図 26 (1/5)・	140
第 127 図	20SD001 出土遺物実測図 27 (1/5)・	141
第 128 図	20SD001 出土遺物実測図 28 (1/5)・	142
第 129 図	20SD001 出土遺物実測図 29 (1/5)・	143
第 130 図	20SD001 出土遺物実測図 30 (1/5)・	144
第 131 図	20SD001 出土遺物実測図 31 (1/5)・	145
第 132 図	20SD001 出土遺物実測図 32 (1/5)・	146
第 133 図	20SD001 出土遺物実測図 33 (1/5)・	147
第 134 図	20SD001 出土遺物実測図 34 (1/5)・	148
第 135 図	20SD001 出土遺物実測図 35 (1/5)・	149
第 136 図	20SD001 出土遺物実測図 36 (1/5)・	150
第 137 図	20SD001 出土遺物実測図 37 (1/5)・	151
第 138 図	20SD001 出土遺物実測図 38 (1/5)・	152
第 139 図	20SD001 出土遺物実測図 39 (1/5)・	153
第 140 図	20SD001 出土遺物実測図 40 (1/5)・	154
第 141 図	20SD001 出土遺物実測図 41 (1/5)・	155
第 142 図	20SD001 出土遺物実測図 42 (1/5)・	156
第 143 図	20SD001 出土遺物実測図 43 (1/5)・	157
第 144 図	20SD001 出土遺物実測図 44 (1/5)・	158
第 145 図	20SD001 出土遺物実測図 45 (1/5)・	159
第 146 図	20SD001 出土遺物実測図 46 (1/5)・	161
第 147 図	20SD001 出土遺物実測図 47 (1/5)・	162
第 148 図	20SD001 出土遺物実測図 48 (1/5)・	163
第 149 図	20SD001 出土遺物実測図 49 (1/5)・	164
第 150 図	20SD001 出土遺物実測図 50 (1/5)・	165

第 151 図	20SD001 出土遺物実測図 51 (1/5)・	166
第 152 図	20SD001 出土遺物実測図 52 (1/5)・	167
第 153 図	20SD001 出土遺物実測図 53 (1/5)・	168
第 154 図	20SD001 出土遺物実測図 54 (1/4)・	169
第 155 図	20SE001 遺構実測図 (1/40)・	170
第 156 図	20SE001 出土遺物実測図 1 (1/4)・	171
第 157 図	20SE001 出土遺物実測図 2 (1/4)・	172
第 158 図	20SE001 出土遺物実測図 3 (1/4)・	173
第 159 図	20SE018 遺構実測図 1 (1/40)・	174
第 160 図	20SE018 出土遺物実測図 (1/4)・	175
第 161 図	大道遺跡群第 32 次調査区全体図 (1/300)・	176
第 162 図	32SD001 遺構実測図 (1/200・1/40)・	177
第 163 図	32SD001 出土遺物実測図 1 (1/4)・	179
第 164 図	32SD001 出土遺物実測図 2 (1/4)・	180
第 165 図	32SD001 出土遺物実測図 3 (1/4)・	181
第 166 図	32SD001 出土遺物実測図 4 (1/4)・	182
第 167 図	32SD001 出土遺物実測図 5 (1/4)・	183
第 168 図	32SD001 出土遺物実測図 6 (1/4)・	184
第 169 図	32SD001 出土遺物実測図 7 (1/4)・	185
第 170 図	32SD001 出土遺物実測図 8 (1/4)・	186
第 171 図	32SD001 出土遺物実測図 9 (1/4)・	187
第 172 図	32SD001 出土遺物実測図 10 (1/5)・	189
第 173 図	32SD001 出土遺物実測図 11 (1/5)・	190
第 174 図	32SD001 出土遺物実測図 12 (1/5)・	191
第 175 図	32SD001 出土遺物実測図 13 (1/5)・	192
第 176 図	32SD001 出土遺物実測図 14 (1/4)・	193
第 177 図	32SE020 遺構実測図 (1/40)・	193
第 178 図	32SE025 遺構実測図 (1/40)・	194
第 179 図	32SE030 遺構実測図 (1/40)・	194
第 180 図	32SE020・025 出土遺物実測図 1 (1/4)・	195
第 181 図	32SE020・025 出土遺物実測図 2 (1/4)・	196
第 182 図	32SE020・025 出土遺物実測図 3 (1/4)・	197
第 183 図	32SE030 出土遺物実測図 1 (1/4)・	199
第 184 図	32SE030 出土遺物実測図 2 (1/4)・	200
第 185 図	32SE030 出土遺物実測図 3 (1/4)・	201
第 186 図	32SE030 出土遺物実測図 4 (1/4)・	202
第 187 図	大道遺跡群第 20・23・32 次出土土師器 (高坏) 分類図 (1/8)・	204
第 188 図	大道遺跡群第 20・23・32 次出土土師器 (鉢) 分類図 (1/8)・	205
第 189 図	大道遺跡群第 20・23・32 次出土土師器 (壺) 分類図 (1/8・1/16)・	207
第 190 図	大道遺跡群第 20・23・32 次出土土師器 (甕) 分類図 (1/16)・	209
第 191 図	大道遺跡群第 20 次・23 次・32 次出土製塩土器実測図 (1/3)・	212
第 192 図	大道遺跡群第 4 次・7 次・22 次出土製塩土器実測図 (1/3)・	212
第 193 図	東田室遺跡出土製塩土器実測図 (1/3)・	212
第 194 図	23SD001 出土猿形土製品実測図 (1/2)・	213
第 195 図	32SD001 出土土製模造鏡実測図 (1/2)・	213
第 196 図	大道遺跡群の木材・	271
第 197 図	大道遺跡群第 20・23・32 次井戸状遺構時期変遷模式図・	274
第 198 図	大道遺跡群第 20・23・32 次時期別遺構分布図 (1/500)・	275・276

表目次

第 1 表	調査地点一覧表	1	第 30 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表	29
第 2 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 1	214	第 31 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 30	243
第 3 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 2	215	第 32 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 31	244
第 4 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 3	216	第 33 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 32	245
第 5 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 4	217	第 34 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 33	246
第 6 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 5	218	第 35 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 34	247
第 7 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 6	219	第 36 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 35	248
第 8 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 7	220	第 37 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 36	249
第 9 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 8	221	第 38 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 37	250
第 10 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 9	222	第 39 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 38	251
第 11 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 10	223	第 40 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 39	252
第 12 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 11	224	第 41 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 40	253
第 13 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 12	225	第 42 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 41	254
第 14 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 13	226	第 43 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 42	255
第 15 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 14	227	第 44 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 43	256
第 16 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 15	228	第 45 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 44	257
第 17 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 16	229	第 46 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 45	258
第 18 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 17	230	第 47 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 46	259
第 19 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 18	231	第 48 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 47	260
第 20 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 19	232	第 49 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 48	261
第 21 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 20	233	第 50 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 49	262
第 22 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 21	234	第 51 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 50	263
第 23 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 22	235	第 52 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 51	264
第 24 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 23	236	第 53 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 52	265
第 25 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 24	237	第 54 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 53	266
第 26 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 25	238	第 55 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 54	267
第 27 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 26	239	第 56 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 55	268
第 28 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 27	240	第 57 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 56	269
第 29 表	大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 28	241			

写真図版目次

巻頭図版 1	巻頭図版 2	巻頭図版 3	巻頭図版 4
第 23 次調査空中写真 (23SD001 全景)	第 23 次調査空中写真 (西側調査区全景)	第 20 次調査空中写真 (調査区全景)	第 32 次調査空中写真 (32SD001 全景)
第 23 次 SD001 調査状況 (近景)	第 23 次調査空中写真 (東側調査区全景)	第 20 次調査空中写真 (南東から)	第 32 次調査空中写真 (調査区全景)

写真図版

写真図版 1	写真図版 2	写真図版 3
1. 23SE011 土層断面 (南から)	1. 23SE003 遺物出土状況 2 (木器近景)	1. 23SD001 土層断面 (北西から)
2. 23SE011 遺物出土状況 1 (南から)	2. 23SD001 検出状況 (北西から)	2. 23SD001 遺物出土状況 3 (近景)
3. 23SE011 遺物出土状況 2 (南から)	3. 23SD001 検出作業状況 1 (北西から)	3. 23SD001 遺物出土状況 4 (近景)
4. 23SX038 完掘状況 (南から)	4. 23SD001 検出作業状況 2 (南から)	4. 23SD001 遺物出土状況 5 (近景)
5. 23SX038 遺物出土状況 (南東から)	5. 23SD001 遺物出土状況 1 (北から)	5. 23SD001 遺物出土状況 6 (猿形土製品)
6. 23SX038 土層断面 (南から)	6. 23SD001 遺物出土状況 2 (南東から)	6. 23SD170 拡張部検出状況 (北東から)
7. 23SE003 土層断面 (北から)	7. 23SD001 検出作業状況 3 (北西から)	7. 23SD170 遺物出土状況 (東から)
8. 23SE003 遺物出土状況 1 (北から)	8. 23SD001 完掘状況 (南東から)	8. 23SD170 土層断面 1 (北西から)
写真図版 4	写真図版 5	
1. 23SD170 土層断面 2 (東から)	5. 23SE051 土層断面 (南から)	1. 23SE085 完掘状況 (西から)
2. 23SD170 完掘状況 (西から)	6. 23SE051 完掘状況 (東から)	5. 23SE087 土層断面 (西から)
3. 23SE052 土層断面 (南西から)	7. 23SE051 遺物出土状況 1 (南から)	6. 23SE087 遺物出土状況 (南東から)
4. 23SE052 完掘状況 (西から)	8. 23SE051 遺物出土状況 2 (近景)	7. 23SE099 遺物出土状況 (北から)
		8. 23SE099 土層断面 (北東から)

写真図版 6

1. 23SE183 完掘状況 (西から)
2. 23SE209 完掘状況 (南東から)
3. 23SE209 土層断面 (南東から)
4. 20SD001 遺物出土状況 1 (北から)
5. 20SD001 遺物出土状況 2 (近景)
6. 20SD001 遺物出土状況 3 (東から)
7. 20SD001 遺物出土状況 4 (東から)
8. 20SD001 遺物出土状況 5 (近景)

写真図版 9

1. 20SE001 遺物出土状況 2 (近景)
2. 20SE001 完掘状況 (南から)
3. 20SE018 土層断面 (北から)
4. 20SE018 遺物出土状況 1 (近景)
5. 20SE018 遺物出土状況 2 (近景)
6. 20SE018 完掘状況 (西から)
7. 32SD001 遺構掘り下げ作業状況 (近景)
8. 32SD001 遺構検出状況 1 (東から)

写真図版 12

第 23 次調査出土遺物

- 第 7 図 001 第 7 図 002 第 7 図 003
第 7 図 004 第 7 図 005 第 7 図 006
第 7 図 007 第 7 図 007 第 9 図 001
第 9 図 002 第 9 図 009 第 9 図 010
第 10 図 015 第 10 図 016 第 10 図 017
第 10 図 018 第 11 図 024 第 11 図 026

写真図版 15

第 23 次調査出土遺物

- 第 24 図 040 第 24 図 041 第 24 図 042
第 24 図 043 第 24 図 046 第 24 図 049
第 24 図 050 第 25 図 054 第 25 図 055
第 25 図 057 第 25 図 084 第 27 図 100
第 27 図 101 第 27 図 103 第 27 図 110
第 27 図 112 第 27 図 114 第 27 図 115

写真図版 18

第 23 次調査出土遺物

- 第 32 図 187 第 32 図 189 第 32 図 195
第 32 図 196 第 32 図 197 第 32 図 198
第 32 図 199 第 32 図 203 第 33 図 204
第 33 図 206 第 34 図 211 第 34 図 212
第 35 図 214 第 35 図 215 第 35 図 216
第 35 図 218 第 36 図 220 第 36 図 221

写真図版 21

第 23 次調査出土遺物

- 第 54 図 355 第 54 図 357 第 54 図 359
第 54 図 361 第 54 図 362 第 56 図 371
第 56 図 372 第 56 図 373 第 56 図 374
第 56 図 377 第 57 図 387 第 57 図 390
第 57 図 391 第 57 図 393 第 61 図 001
第 61 図 005 第 61 図 007 第 61 図 008

写真図版 7

1. 20SD001 遺物出土状況 6 (近景)
2. 20SD001 遺物出土状況 7 (南から)
3. 20SD001 遺物出土状況 8 (近景)
4. 20SD001 遺物出土状況 9 (南から)
5. 20SD001 遺物出土状況 10 (近景)
6. 20SD001 遺物出土状況 11 (近景)
7. 20SD001 遺物出土状況 12 (南から)
8. 20SD001 遺物出土状況 13 (近景)

写真図版 10

1. 32SD001 遺構検出状況 2 (東から)
2. 32SD001 遺構検出状況 3 (東から)
3. 32SD001 遺物出土状況 (近景)
4. 32SD001 土層断面 (東から)
5. 32SD001 完掘状況 (西から)
6. 32SE020 遺物出土状況 1 (南から)
7. 32SE020 遺物出土状況 2 (南から)
8. 32SE020 遺物出土状況 3 (南から)

写真図版 13

第 23 次調査出土遺物

- 第 12 図 033 第 13 図 043 第 13 図 045
第 13 図 046 第 14 図 047 第 17 図 001
第 17 図 002 第 18 図 010 第 18 図 011
第 19 図 015 第 19 図 016 第 19 図 017
第 19 図 018 第 19 図 019 第 19 図 020
第 23 図 005 第 23 図 006 第 23 図 008

写真図版 16

第 23 次調査出土遺物

- 第 27 図 116 第 27 図 118 第 27 図 119
第 27 図 120 第 27 図 124 第 28 図 127
第 28 図 128 第 28 図 132 第 28 図 133
第 28 図 135 第 28 図 138 第 28 図 142
第 29 図 143 第 29 図 148 第 30 図 151
第 30 図 152 第 30 図 155 第 31 図 157

写真図版 19

第 23 次調査出土遺物

- 第 37 図 229 第 38 図 231 第 38 図 232
第 38 図 236 第 39 図 237 第 39 図 239
第 39 図 240 第 39 図 241 第 41 図 244
第 41 図 245 第 41 図 246 第 41 図 247
第 42 図 250 第 42 図 252 第 43 図 256
第 43 図 258 第 46 図 271 第 46 図 273

写真図版 22

第 23 次調査出土遺物

- 第 61 図 010 第 61 図 011 第 61 図 014
第 61 図 015 第 61 図 017 第 62 図 020
第 62 図 023 第 62 図 025 第 62 図 026
第 62 図 028 第 62 図 030 第 63 図 031
第 63 図 041 第 64 図 043 第 65 図 050
第 65 図 060 第 65 図 061 第 65 図 066

写真図版 8

1. 20SD001 遺物出土状況 14 (近景)
2. 20SD001 土層断面 1 (南から)
3. 20SD001 土層断面 2 (南から)
4. 20SD001 土層断面 3 (南から)
5. 20SD001 土層断面 4 (南から)
6. 20SD001 完掘状況 (東から)
7. 20SE001 土層断面 (南から)
8. 20SE001 遺物出土状況 1 (近景)

写真図版 11

1. 32SE020 完掘状況 (西から)
2. 32SE025 土層断面 (南から)
3. 32SE025 完掘状況 (北から)
4. 32SE030 検出状況 (南から)
5. 32SE030 遺物出土状況 (近景)
6. 32SE030 調査状況 (東から)
7. 32SE030 土層断面 (東から)
8. 32SE030 完掘状況 (南から)

写真図版 14

第 23 次調査出土遺物

- 第 23 図 010 第 23 図 011 第 23 図 012
第 23 図 015 第 23 図 016 第 23 図 017
第 23 図 021 第 23 図 022 第 23 図 023
第 23 図 024 第 23 図 026 第 23 図 027
第 23 図 028 第 23 図 032 第 23 図 033
第 24 図 034 第 24 図 035 第 24 図 039

写真図版 17

第 23 次調査出土遺物

- 第 31 図 159 第 31 図 161 第 31 図 162
第 31 図 164 第 31 図 165 第 31 図 166
第 31 図 168 第 31 図 169 第 31 図 171
第 31 図 174 第 31 図 175 第 31 図 177
第 31 図 178 第 31 図 179 第 31 図 181
第 31 図 182 第 31 図 183 第 31 図 184

写真図版 20

第 23 次調査出土遺物

- 第 46 図 279 第 47 図 282 第 47 図 289
第 47 図 291 第 48 図 296 第 48 図 298
第 48 図 299 第 48 図 302 第 49 図 305
第 49 図 310 第 50 図 313 第 50 図 315
第 50 図 320 第 50 図 321 第 51 図 324
第 51 図 328 第 51 図 329 第 52 図 333

写真図版 23

第 23 次調査出土遺物

- 第 65 図 068 第 65 図 070 第 65 図 072
第 65 図 073 第 66 図 081 第 67 図 086
第 67 図 088 第 68 図 090 第 68 図 097
第 68 図 099 第 68 図 104 第 68 図 105
第 68 図 107 第 68 図 108 第 68 図 111
第 69 図 114 第 69 図 115 第 70 図 119

写真図版 24

第 23 次調査出土遺物

第 71 図 123 第 72 図 130 第 73 図 133
第 73 図 134 第 73 図 135 第 73 図 136
第 74 図 140 第 74 図 141 第 74 図 143
第 74 図 146 第 76 図 150 第 76 図 151
第 76 図 152 第 76 図 156 第 76 図 153
第 77 図 167 第 79 図 180 第 80 図 192

写真図版 27

第 23・20 次調査出土遺物

第 95 図 007 第 101 図 001 第 101 図 004
第 101 図 006 第 101 図 007 第 101 図 008
第 101 図 015 第 101 図 016 第 101 図 017
第 101 図 022 第 101 図 024 第 101 図 026
第 101 図 027 第 102 図 030 第 102 図 031
第 102 図 032 第 102 図 034 第 102 図 037

写真図版 30

第 20 次調査出土遺物

第 112 図 243 第 113 図 249 第 114 図 259
第 114 図 260 第 115 図 268 第 115 図 269
第 116 図 271 第 117 図 276 第 117 図 282
第 118 図 283 第 120 図 289 第 120 図 291
第 122 図 299 第 123 図 303 第 124 図 309
第 124 図 310 第 124 図 311 第 128 図 336

写真図版 33

第 20・32 次調査出土遺物

第 157 図 017 第 157 図 018 第 157 図 020
第 157 図 021 第 157 図 025 第 158 図 028
第 160 図 001 第 160 図 002 第 160 図 003
第 160 図 004 第 163 図 001 第 163 図 002
第 163 図 003 第 163 図 005 第 163 図 006
第 163 図 007 第 163 図 008 第 163 図 009

写真図版 36

第 32 次調査出土遺物

第 168 図 063 第 168 図 065 第 169 図 066
第 169 図 068 第 169 図 069 第 169 図 070
第 169 図 071 第 169 図 072 第 170 図 073
第 170 図 074 第 170 図 075 第 171 図 076
第 171 図 077 第 171 図 078 第 171 図 080
第 171 図 081 第 172 図 083 第 172 図 084

写真図版 39

第 32 次調査出土遺物

第 182 図 016 第 182 図 017 第 182 図 018
第 182 図 019 第 183 図 001 第 183 図 002
第 183 図 003 第 183 図 004 第 183 図 005
第 183 図 011 第 183 図 013 第 183 図 014
第 183 図 015 第 183 図 016 第 183 図 018
第 183 図 019 第 183 図 020 第 183 図 022

写真図版 25

第 23 次調査出土遺物

第 80 図 193 第 81 図 194 第 81 図 198
第 81 図 199 第 81 図 201 第 82 図 204
第 82 図 214 第 83 図 217 第 83 図 220
第 83 図 221 第 83 図 222 第 83 図 223
第 84 図 233 第 84 図 248 第 88 図 003
第 88 図 004 第 88 図 005 第 88 図 006

写真図版 28

第 20 次調査出土遺物

第 102 図 038 第 102 図 039 第 102 図 041
第 102 図 043 第 102 図 044 第 103 図 045
第 103 図 046 第 103 図 047 第 103 図 048
第 105 図 088 第 105 図 111 第 105 図 112
第 105 図 116 第 105 図 120 第 105 図 125
第 105 図 130 第 106 図 131 第 106 図 136

写真図版 31

第 20 次調査出土遺物

第 129 図 344 第 130 図 346 第 130 図 347
第 134 図 373 第 134 図 375 第 134 図 376
第 135 図 381 第 136 図 394 第 137 図 403
第 138 図 420 第 139 図 434 第 139 図 435
第 140 図 437 第 140 図 440 第 142 図 459
第 143 図 464 第 145 図 486 第 146 図 501

写真図版 34

第 32 次調査出土遺物

第 163 図 013 第 163 図 015 第 163 図 017
第 163 図 018 第 163 図 019 第 163 図 020
第 163 図 022 第 163 図 024 第 164 図 025
第 164 図 028 第 164 図 031 第 164 図 032
第 164 図 033 第 164 図 034 第 164 図 035
第 164 図 036 第 164 図 037 第 165 図 038

写真図版 37

第 32 次調査出土遺物

第 172 図 085 第 172 図 086 第 172 図 087
第 172 図 088 第 172 図 089 第 173 図 090
第 173 図 094 第 173 図 096 第 173 図 097
第 174 図 102 第 174 図 103 第 174 図 104
第 174 図 105 第 174 図 106 第 174 図 107
第 175 図 108 第 175 図 110 第 175 図 111

写真図版 40

第 32 次調査出土遺物

第 184 図 023 第 184 図 024 第 184 図 025
第 184 図 026 第 184 図 027 第 185 図 028
第 185 図 029 第 185 図 033 第 185 図 034
第 185 図 035 第 185 図 036 第 185 図 037
第 186 図 038 第 186 図 040 第 186 図 041
第 186 図 042 第 186 図 043 第 191 図 002

写真図版 26

第 23 次調査出土遺物

第 88 図 007 第 88 図 008 第 87 図 001
第 87 図 002 第 90 図 001 第 90 図 002
第 90 図 003 第 90 図 004 第 93 図 001
第 93 図 002 第 93 図 003 第 93 図 004
第 93 図 005 第 95 図 001 第 95 図 002
第 95 図 003 第 95 図 004 第 95 図 006

写真図版 29

第 20 次調査出土遺物

第 106 図 137 第 106 図 138 第 106 図 151
第 106 図 153 第 108 図 168 第 108 図 169
第 109 図 173 第 111 図 190 第 111 図 192
第 111 図 196 第 111 図 197 第 111 図 215
第 111 図 222 第 112 図 223 第 112 図 231
第 112 図 232 第 112 図 239 第 112 図 241

写真図版 32

第 20 次調査出土遺物

第 147 図 509 第 148 図 510 第 150 図 528
第 150 図 529 第 151 図 549 第 151 図 550
第 151 図 555 第 151 図 559 第 153 図 606
第 156 図 003 第 156 図 004 第 156 図 006
第 156 図 007 第 156 図 009 第 156 図 010
第 156 図 011 第 156 図 012 第 156 図 013

写真図版 35

第 32 次調査出土遺物

第 165 図 039 第 165 図 040 第 165 図 041
第 165 図 042 第 165 図 043 第 165 図 046
第 165 図 047 第 165 図 048 第 165 図 049
第 165 図 053 第 166 図 054 第 166 図 055
第 166 図 056 第 167 図 057 第 167 図 059
第 167 図 060 第 168 図 061 第 168 図 062

写真図版 38

第 32 次調査出土遺物

第 175 図 112 第 175 図 114 第 175 図 117
第 175 図 118 第 176 図 123 第 176 図 124
第 176 図 125 第 180 図 001 第 180 図 002
第 181 図 003 第 181 図 004 第 181 図 005
第 181 図 006 第 181 図 007 第 181 図 009
第 181 図 010 第 182 図 012 第 182 図 014

写真図版 41

第 20・23・32 次調査出土遺物

第 191 図 005 第 191 図 006 第 191 図 007
第 191 図 008 第 191 図 009 第 191 図 010
第 191 図 011 第 191 図 012 第 191 図 013
第 191 図 014 第 191 図 015 第 191 図 016
第 194 図 001 第 194 図 002 第 195 図 001
未掲載 (23SD001－R940)
未掲載 (23SD001－R941)
未掲載 (23SD170－R939)

第 I 章 はじめに

第 1 節 調査に至る経過

大分駅周辺総合整備事業は、「大分駅付近連続立体交差事業」、「大分駅南土地区画整理事業」、及び「庄の原佐野線等関連街路事業」の三つの事業を一体として実施し、総合的なまちづくりを行うものである。この事業によって、鉄道により分断されていた大分駅南北市街地の一体化を図り、駅北・商業業務中核都心と駅南・情報文化新都心との役割分担の中で、ゆとりと潤いのある新都心を創出することを可能とする後世に誇り得る県都「大分の顔づくり」を目指している。事業は、平成 8 年度より平成 26 年度までの事業期間で推進している。

本事業に先立つ埋蔵文化財の記録を目的とした発掘調査について、事業地区内における遺跡の有無の確認を目的とした試掘調査を平成 8 年度に行い、東大道遺跡（平成 12 年度から大道遺跡群に改称）の存在を確認、引き続き平成 9 年度から 11 年度にかけて順次実施した本調査必要箇所の決定を目的に行われた試掘・確認調査の結果、新たに南金池遺跡の存在を確認した。この結果、平成 21 年度末の段階での本調査地点は、南金池遺跡では第 1 次～7 次、大道遺跡群では第 1 次～37 次の合計 44 地点となっている。

本書に収録した大道遺跡群の調査は、第 20 次を平成 18 年度、第 23 次を平成 19 年度、第 32 次を平成 21 年度にそれぞれ行い、いずれも大分駅南土地区画整理事業地内における街路ないし街区の整備予定地を対象とした調査となっている。

調査次	所在地	調査担当	調査期間	調査面積
第 20 次調査	大分市東大道 1 丁目	荻 幸二・高畠 豊	2007.12.09 ～ 2008.03.28	1,389 m ²
第 23 次調査	大分市金池南 1 丁目	高畠 豊・羽田野達郎・上原翔平	2008.07.24 ～ 2008.12.01	4,152 m ²
第 32 次調査	大分市東大道 1 丁目	佐藤道文・山下朋紀	2010.10.13 ～ 2010.12.03	954 m ²

第 1 表 調査地点一覧表

第 2 節 調査組織

調査主体

大分市教育委員会 教育長 秦 政博（～平成 19 年 4 月）
足立一馬（平成 19 年 5 月～）

事務局

平成 18 年度

大分市教育委員会 教育総務部 文化財課
課 長 佐藤 功（～平成 18 年 9 月）
玉永光洋（平成 18 年 10 月～）
参 事 玉永光洋（～平成 18 年 9 月）
係 長 安東時男
塔鼻光司
主 査 幸 俊昭
専門員 坪根伸也

大分市 都市計画部 駅周辺総合整備課
部参事兼課長 木崎康雄
課長補佐兼係長 岩田祐治
富永好一
主 査 桜井敏男
山本雅博
後藤正一
主 任 加藤真由美

平成 19 年度

大分市教育委員会 教育総務部 文化財課
課 長 玉永光洋
係 長 安東時男
塔鼻光司
主 査 幸 俊昭

大分市 都市計画部 駅周辺総合整備課
部参事兼課長 木崎康雄
課長補佐兼係長 岩田祐治
富永好一
主 査 桜井敏男

専門員

坪根伸也

主 任

加藤キヌ

平成 21 年度

大分市教育委員会

教育部

文化財課

次長兼課長

玉永光洋

参 事

岩田祐治

課長補佐兼係長

福田誠一

課長補佐

塔鼻光司

係 長

坪根伸也

主 査

幸 俊昭 (～平成 21 年 6 月)

神崎小由美 (平成 21 年 7 月～)

主 任

加藤キヌ (～平成 21 年 6 月)

平成 22 年度

大分市教育委員会

教育部

文化財課

次長兼課長

玉永光洋

課長補佐

福田誠一

塔鼻光司

係 長

坪根伸也

主 査

神崎小由美

調査員

平成 18 年度

大分市教育委員会

教育総務部

文化財課

主 任

高 畠 豊

主 事

永松正大

嘱 託

井口あけみ

荻 幸二

古田 陽

平成 21 年度

大分市教育委員会

教育部

文化財課

専門員

池邊千太郎

高 畠 豊

主 任

佐藤道文

永松正大

嘱 託

井口あけみ

木村藍子

倉増美智代

小 島 愛

佐藤良子

佐藤孝則

鍋島千恵子

山下朋紀

山本雅博

後藤正一

主 任

加藤真由美

大分市 都市計画部 駅周辺総合整備課

次長兼課長

中畑 修

参事兼係長

伊達俊秀

課長補佐兼係長

富永好一

主 査

高屋修司

後藤正一

加藤真由美

主 事

大川内匡史

大分市 都市計画部 駅周辺総合整備課

次長兼課長

中畑 修

参 事

伊達俊秀

課長補佐兼係長

富永好一

係 長

衛藤興憲

主 査

高屋修司

主 任

鶴上 浩

主 事

大川内匡史

平成 19 年度

大分市教育委員会

教育総務部

文化財課

主 任

高 畠 豊

嘱 託

井口あけみ

上原翔平

羽田野達郎

平成 22 年度

大分市教育委員会

教育部

文化財課

専門員

高 畠 豊

河野史郎

主 任

佐藤道文

嘱 託

井口あけみ

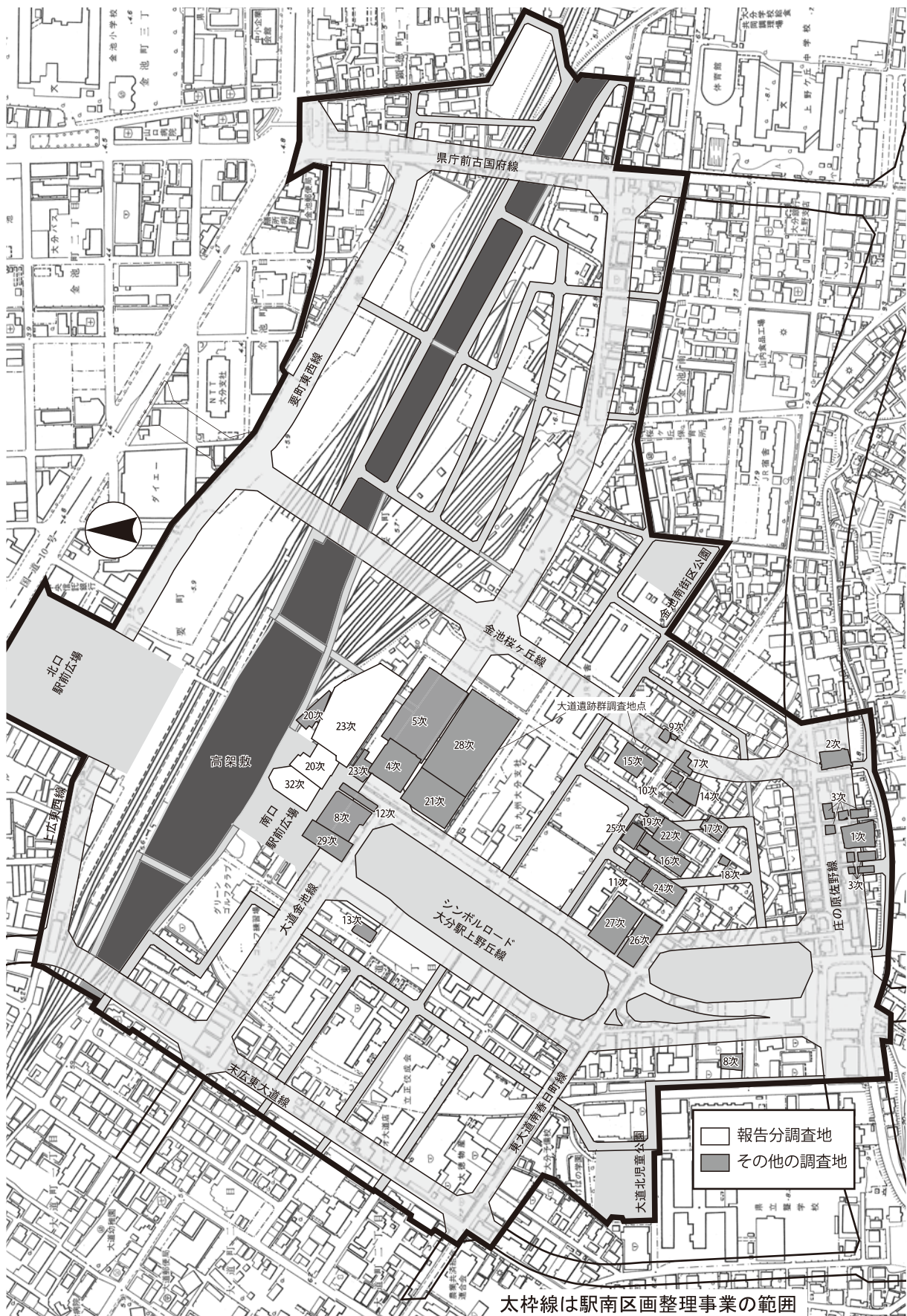
木村藍子

倉増美智代

佐藤良子

佐藤孝則

稗田智美



第1図 調査区位置図 (1/5,000)

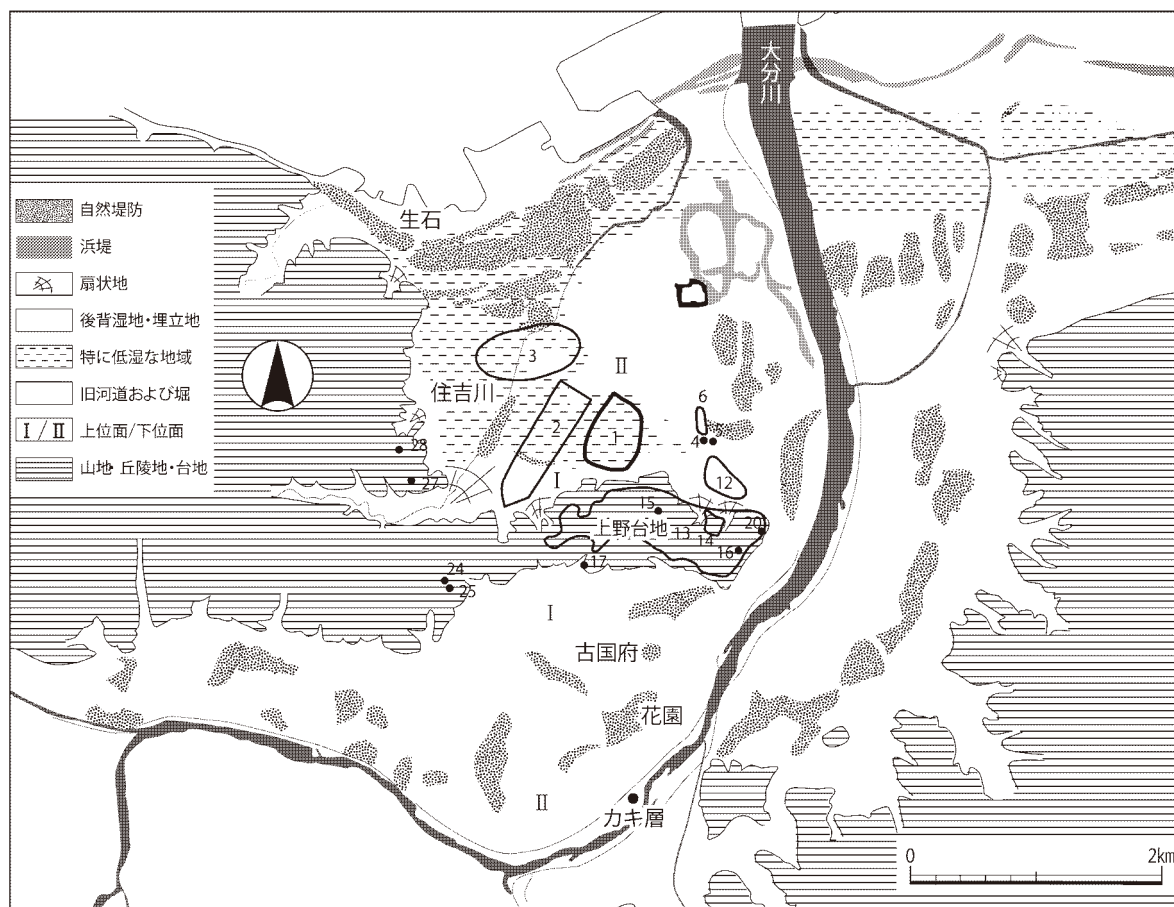
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

大分県大分市は、九州の東端、瀬戸内海の西端に位置する。周辺部には高崎山、九六位山、霊山、鎧ヶ岳、樅木山などの山々が連なり、これらの山々を縫うように県下の二大河川である大野川と大分川が南北に貫流しながら別府湾に注いでいる。その下流部には大分平野が形成される。また、気象は瀬戸内海気候に属している。

大分市の中心市街地に位置する大分駅の北口周辺では、各百貨店、商店街、大分県の行政機関が立ち並んでいる。その一方で、南口周辺は、戦後宅地化する以前から湿田が広がる人家が少ない土地であった。駅の南北で様相が異なるのは、日豊本線により市街の南北が完全に分断されたためであり、その解消のため駅の高架化と並行して南口周辺の再開発も行われている。現在、大分駅付近連続立体交差事業と併せ、関連する都市計画道路の整備や土地区画整理事業等の市街地開発事業を大分駅周辺総合整備事業として一体的に行うことにより、この地域は魅力ある新しい大分の顔になりつつある。

今回報告する大道遺跡群は、この大分駅南土地区画整理事業地区の中心地域に位置する。遺跡は、東大道、南金池、桜ヶ丘地区の東西約0.6km、南北約0.7kmの標高約4.6～6mの微高地上に展開している。遺跡範囲の北限には大分駅が位置し、南限には上野台地が延びる。大分川流域の沖積面には今から約7400年前に最高水位に達した縄文海進時に海成層が堆積しており、当時の海域は上野台地を越え、さらに内陸側の古国府や玉沢地区付近まで至っていたことが確認されている。さらに、大分川から約6km遡った花園付近では、「花園カキ層」が確認されており、当時の海岸線を裏付ける資料となっている。大分川は、大分平野の西半分の形成に関わる河川である。大分川流域の沖積面は、東西に延びる上野台地により南北に二分される。第2図からも南側は河道変遷が激しく、旧河道や微高地が複雑に入り組む様相であり、大道遺跡群が位置する北側は三角州地帯であるこ



第2図 調査地周辺地形分類図（『大分市史』上 一部改変）および遺跡分布図（1/60,000）

とがわかる。しかし、北側には自然堤防、後背湿地、旧河道などの微地形が包蔵されており、流路と流路に挟まれた部分の紡錘形の平面をもつ微高地に遺跡が立地していることが確認された。また、出土遺物からも海岸線と接した立地であることが確認され、周辺に展開する東田室遺跡、若宮八幡宮遺跡、上野町遺跡が位置する現在の日豊本線付近は一時海岸線になっていたと想定される。その海岸線の変遷とともに土地利用が変化している点も当地域における重要な所見である。このように大道遺跡群は、海岸に隣接し、水田を行うのに適した後背湿地にも隣接するという土地条件を備えた環境に位置していたと考えられる。

第 2 節 歴史的環境

大道遺跡群が位置する地点を中心に半径 2 キロ以内には大分川左岸の沖積低地、上野台地、更には中世の大友府内町跡、近世府内町跡までが含まれる。こういった状況を踏まえて、考古学的調査の成果を踏まえ、時代や遺跡ごとに当該地域における歴史を概観したい。



1	大道遺跡群	11	勢家遺跡	21	古国府遺跡群
2	大道条里跡	12	若宮八幡宮遺跡	22	岩屋寺遺跡
3	東田室遺跡	13	上野遺跡群	23	城南遺跡
4	上野町遺跡	14	上野大友館跡(上原館跡)	24	千人塚古墳
5	顕徳寺遺跡	15	上野廃寺	25	弘法穴古墳
6	南金池遺跡	16	上野竜王畑遺跡	26	永興遺跡
7	中世大友府内町跡	17	元町石仏	27	古宮古墳
8	大友氏館跡	18	岩屋寺石仏	28	亀甲古墳
9	万寿寺跡	19	伽藍石仏	29	羽田遺跡
10	府内城・城下町跡	20	大臣塚古墳	30	下郡遺跡群

第 3 図 周辺主要遺跡分布図 (1/40,000)

旧石器時代の遺物としては、上野遺跡群から流紋岩製二次加工剥片が出土している。

縄文時代の良好な遺跡は確認されていない。ただ、大道遺跡群（第 7・10・14・15 次調査）では、縄文時代前期の轟Ⅲ式土器や中期の瀬戸内系土器である船元式土器、後期の磨消縄文土器、阿高系土器、晩期の土器が多量に出土していることから、周辺では、途絶える事なく人々の営みがあったと想定される。また、古国府上七曾子遺跡・園遺跡などで、西平式を中心とした後期の土器や晩期の包含層が確認されている。大道遺跡群の南側に位置する上野遺跡群では、腰岳産、姫島産黒曜石を使用した石器が出土している。

弥生時代になると、良好な遺構や集落遺跡の存在が確認できる。上野台地北側の低地に位置する若宮八幡宮遺跡では、溝状遺構から下黒野式に比定される土器が一定量出土している。このことから、弥生時代早期段階には微高地としてすでに安定しており、人々の生業が始まっていると推測できる。古国府上七曾子遺跡では、弥生時代前期前半（板付Ⅱ a 式）の土器を伴う溝が検出されている。溝には全体に白色粘土が貼られており、初期の水田耕作に関わる遺構だと考えられる。大道遺跡群や東田室遺跡では、弥生時代前期末と後期の土坑が発見された。東田室第 2 次調査地点では舟形土製品が出土していることから海との関わりが示唆される。東大道遺跡 B 地区や大道遺跡群第 4 次調査では、弥生時代後期の後漢鏡の破片が採集されており、この遺跡の周辺に比較的規模の大きな集落の存在が予測される。また、上野台地上にも弥生時代中期の上野遺跡群が立地する。美術館の建設に伴い調査が行われた上野遺跡群では、当該時期に比定される集落を区画する V 字溝（環濠）・住居跡・貯蔵穴・内部に掘立柱建物を持つ隅丸長方形周溝遺構などが発見された。特に、隅丸長方形周溝遺構の溝からは、祭祀用の土器類や鉄製ヤリガンナなどが出土しており、特殊な祭祀遺構として位置づけられている。大分県内で唯一の遺構である。

古墳時代前期は、大道遺跡群で発見される遺構のピークというべき時代である。近年注目すべき発見が相次いでいる。平成 18・19・21 年度の第 20・23・32 次調査地点では、土器が大量に廃棄された幅約 2 ～ 4 m の環濠が検出された。現在の大分駅を中心とする地域に大規模な集落が形成されていたものと考えられる。残念ながら、環濠や井戸等の特に深い遺構以外の住居跡などの遺構は、後世の削平によりほとんど失ってしまったと考えられる。しかし、多量の出土遺物の中には、大形の土錘や製塩土器といった海との深い関わりを示す資料が見られる。そのほか注目される遺物としては、猿形土製品が環濠から出土しており、管見の限りでは、弥生時代後期～古墳時代前期の資料としては、徳島県に例があるのみである。大道遺跡群第 24 次調査では、当該期の井戸が多数発見されたが、このうちの 1 基（SE008）からはクスノキ製のほぼ完形の臼が出土した。クスノキの伐採年代は歴博年代研究グループにより西暦 290 年頃と判明している。大道遺跡群のやや西側の東田室遺跡では、古墳時代前期中葉～中期前葉にかけての住居跡などの遺構が多数検出されている。大道遺跡群に後続する時期であり、拠点集落がこちらに移動したかのようである。また、東田室遺跡第 3 次調査 SH3205 から絵画土器が出土している。竜をモチーフにしていると考えられ、古墳時代に生きた人々の精神世界や祭祀行為を推察する上で貴重な資料といえる。若宮八幡宮遺跡では古墳時代後期の玉作り工房を伴った集落跡が確認され、工房である竪穴住居跡の内部から、近畿地方より搬入されたと考えられる大阪湾岸製の製塩土器が出土している。古墳時代の墳墓である高塚古墳や横穴墓は、上野台地および駄ノ原・永興台地に存在する。古墳時代前期の拠点集落に対応する墳墓として想定されるのは、三角縁波文帯三神三獣鏡と仿製重圈文鏡が出土したことで著名な亀甲山古墳がある。大道遺跡群から見てやや西側に離れた永興台地上の構築されており、古墳時代前期後半に位置付けられる事からも、時期的、距離的に近い東田室遺跡との関連が想定される。上野台地の東端部には大臣塚古墳が存在する。当該古墳は、1997 年に大分県教育委員会が実施した確認調査で円筒埴輪が出土している。その特徴から 4 世紀末～5 世紀初頭の前方後円墳と考えられている。永興台地上には、5 世紀後半代～6 世紀初頭の所産とされる千人塚古墳がある。前方部が短い全長約 47m の前方後円墳である。また、後期古墳では大規模な横穴石室を持つ弘法穴古墳が 6 世紀後半に造られる。これらの古墳は、一系列の首長墓であると考えられるが、発掘調査により前方部が明らかになった千人塚古墳の例を見れば、上野、永興台地上には後世に削平されたため知られていない古墳が他にもあることが推定される。これら首長墓の最後に位置づけられるのが古宮古墳である。古宮古墳は、九州地方唯

一の畿内系刳貫式横口構造を有する終末期古墳で、7 世紀後半に築造されたものと推定され、壬申の乱で大海人皇子方として活躍した大分君恵尺・雅臣のいずれかの墓と想定されている。上野台地南斜面には 6 世紀末から 7 世紀の時期の南太平寺横穴墓群が存在する。

古代の遺構としては、羽屋井戸遺跡の成果が注目される。長大な規模の掘立柱建物跡や門状遺構・柵列などが検出されている。これらの帰属年代は、7 世紀後半から 8 世紀初頭に遡ることから評衙関連の遺構である可能性が想定されている。国衙推定地の古国府地区では、いままでの調査結果から 8 世紀以降の国衙関連施設が存在する可能性を想定することは困難であるという評価がなされつつある。それに伴い、従来から豊後国府の比定地であった古国府遺跡群に変わり上野台地上に豊後国府及び国衙関連施設の存在を推定する考えが有力になってきている。1997 年に大分県教育委員会が実施した上野遺跡群竜王畑遺跡では、7 世紀後半から 10 世紀代にかけてのまとまった大規模建物群が検出された。特に 9 世紀代の遺構群には築地塀に伴うと見られる溝や一定方位に沿って規画的に配置されている掘立柱建物跡などが認められ、これらが『国司館』の一部であった可能性が考えられている。また、大道遺跡群第 23 次遺跡調査では、8 世紀後半から 9 世紀前半の国衙関連施設と推定される掘立柱建物跡 14 棟などが検出されている。竜王畑遺跡から北西約 1.4km の地点にあり、大分河口部の水上拠点でもあることから国衙の何らかの機能を持つ施設が分立したものと考えられる。また、隣接する調査地点では、当該期の井戸跡や掘立柱建物跡だけでなく円面硯や奈良三彩陶器壺も出土している。また、海とつながっていたと考えられる水路から『厨』と刻書された土師器が出土している。隣接する金池南遺跡では、井戸や、製塩土器が多量に廃棄された土坑が検出されており、青銅製柄杓子の注口部破片など特殊な遺物も出土している。金池南遺跡の東側に近接し、一連の遺跡である可能性の高い上野遺跡では自然流路と思われる遺跡の内部から大形土鍾 79 個、小形土鍾 339 個が集中して出土している。これら土鍾の存在は海岸線付近である事、漁労を営む集団が居住していた事を示唆している。埋土中には墨書土器や円面硯、長沙窯系黄釉褐彩水注が出土している。国府比定地の北側に位置しており、大道遺跡群と同様に国府との関連性をもつ水上交通の拠点集落である可能性が指摘されている。また、大分川右岸には大分郡衙と推定される下郡遺跡群が立地している。11 世紀後半以降、上野台地東部とその北・東側の沖積低地では「高（隆）国府・勝津留」の名称で呼称されるようになる。

鎌倉幕府の時代になると大友氏がこの地域の支配権を掌握するようになり、この「高（隆）国府・勝津留」の割譲を迫る文書が見られるようになる。南北朝時代以後、大友氏は大分川河口付近の左岸地域を拠点とし、第 21 代義鎮（宗麟）の頃には、南蛮貿易を背景に西日本随一の都市として繁栄した。大道遺跡群は、中世大友府内町跡の近くに立地するにもかかわらず、中世以降の遺構の検出は顕著でない。

参考文献

- 大分市教育委員会 1993『上野遺跡群』大分市立美術館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- 大分市教育委員会 2005『東田室遺跡 2』都市計画道路田室まち春日線に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- 大分市教育委員会 2008『大道遺跡群 1』大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4
- 大分市教育委員会 2009『大道遺跡群 2』大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 5
- 大分市教育委員会 2010『大道遺跡群 3』大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 6
- 大分市教育委員会 2006『若宮八幡宮遺跡第 1 次発掘調査』上野ヶ丘中学校の校舎建て替え工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- 大分県教育委員会 2004『東大道遺跡（A 地区）』庄の原佐野線工事に伴う発掘調査 2
- 大分県教育委員会 2006『上野町遺跡 / 顕徳寺遺跡』大分駅付近立体交差事業に伴う埋蔵文化財調査報告書
- 大分県教育庁埋蔵文化財センター 2008『東田室遺跡』大分駅付近立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（7）

第Ⅲ章 調査の成果

第1節 調査の概要

今回報告の対象となる調査区は、第20次・23次・32次の3地点である。大分駅旧南口一帯に設定したこれらの調査区の調査期間及び面積は、第20次が平成18年12月9日～平成19年3月28日で1,389㎡、第23次が平成19年7月24日～平成19年12月1日で4,152㎡、第32次が平成21年10月13日～平成21年12月3日で954㎡である。

一連の調査区の調査の結果、東から第23次、20次、32次とそれぞれ隣接する位置関係にある全ての調査区にまたがる形で検出された古墳時代前期の環濠遺構が、JR大分駅構内を中心とする環濠集落を想定した一連の環濠遺構(23SD001・23SD170・20SD001・32SD001)として捉えられることから、今回の報告は、これら環濠関連遺構に係る調査成果を中心とした「弥生時代・古墳時代環濠関連遺構編」とした。この他、今回の調査結果の中には、第23次調査区における古代官衙に関連する掘立柱建物跡群を中心とした遺構群・近代～現代の遺構群には、現在のJR、旧国鉄時代の大分駅に係る廃棄遺構、第20次の時期不明の溝群、第32次の中世から近代の溝、土坑群等の遺構が検出されているが、これらの遺構・遺物については、「古代以降遺構編(仮)」での報告となる。

以下、第23次、20次、32次調査の調査成果のうち、弥生時代・古墳時代環濠関連遺構内容について報告する。

第2節 大道遺跡群第23次調査

概 要

第23次調査区は、3地点中最大面積の調査区で、弥生時代後期、古墳時代前期、古代、近代～現代の遺構群が検出された。

弥生時代後期の遺構は、井戸跡(23SE003・011)及び不明遺構(23SX038)で、古墳時代の環濠をまたぐ形で、調査区南西部に分布の中心をもつ。

古墳時代前期の遺構は、環濠遺構(23SD001・23SD170)及び井戸跡(23SE051・052・076・087・099)がある。遺構の分布は、調査区の南西隅で北方に延びる23SD001、南東部で東方に延びる23SD170の環濠遺構が存在し、これらに囲まれた一帯に井戸跡の分布が見られる。井戸跡の分布については調査区西側23SD001に近い一群と調査区中央部に分布する2群が存在するようである。

古代の遺構群には、掘立柱建物跡(23SB001～008・011～016)、柵列跡(23SA009・010)、井戸跡(23SE047・109・090)、竪穴跡(23SX169)及び溝跡がある。掘立柱建物跡群は、調査区南西部を中心に分布し、2間×5間の大型建物2棟(23SB005・007)を含む。その主軸方位により大きく2つのグループに分類され、少なくとも3時期存在するが、概ね8世紀末～9世紀前半の時期幅での変遷と考えられている。「L」字状や「コ」字状の規格的な建物配置はみられないものの、周辺に隣接する調査区において出土した奈良三彩陶器壺・円面硯・刻書土器(「厨」)の存在から総合的に考えると、なんらかの官衙関連施設の可能性が考えられる。

近代～現代の遺構群には、現在のJR、旧国鉄時代の大分駅に係る廃棄遺構がある。23SD170の続きを確認するために設けられた東側拡張区で検出されたこれらの遺構からは、汽車土瓶が大量に出土した。

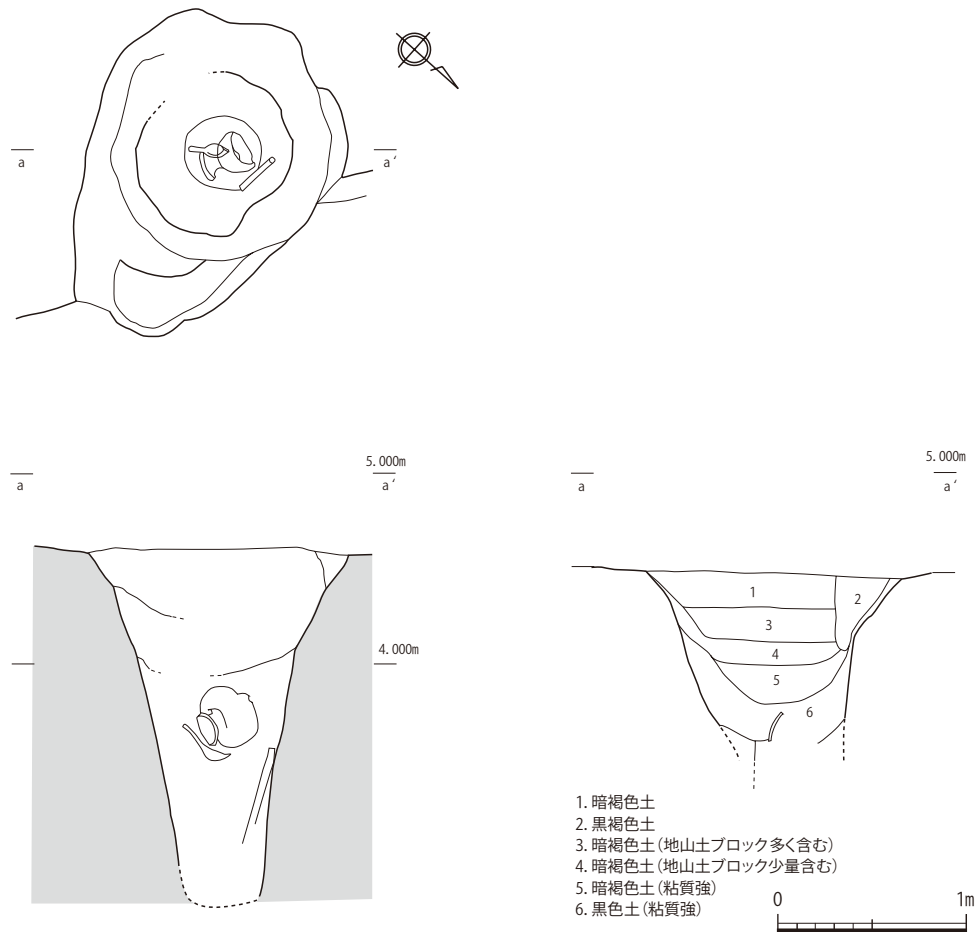
以下、これらの遺構から弥生時代・古墳時代環濠関連遺構及び出土遺物についてその詳細を記す。



第4図 大道遺跡群第20・23・32次遺構配置図 (1/500)



第 5 図 大道遺跡群第23次調査区全体図（1/400）



第 6 図 23SE003 遺構実測図 (1/40)

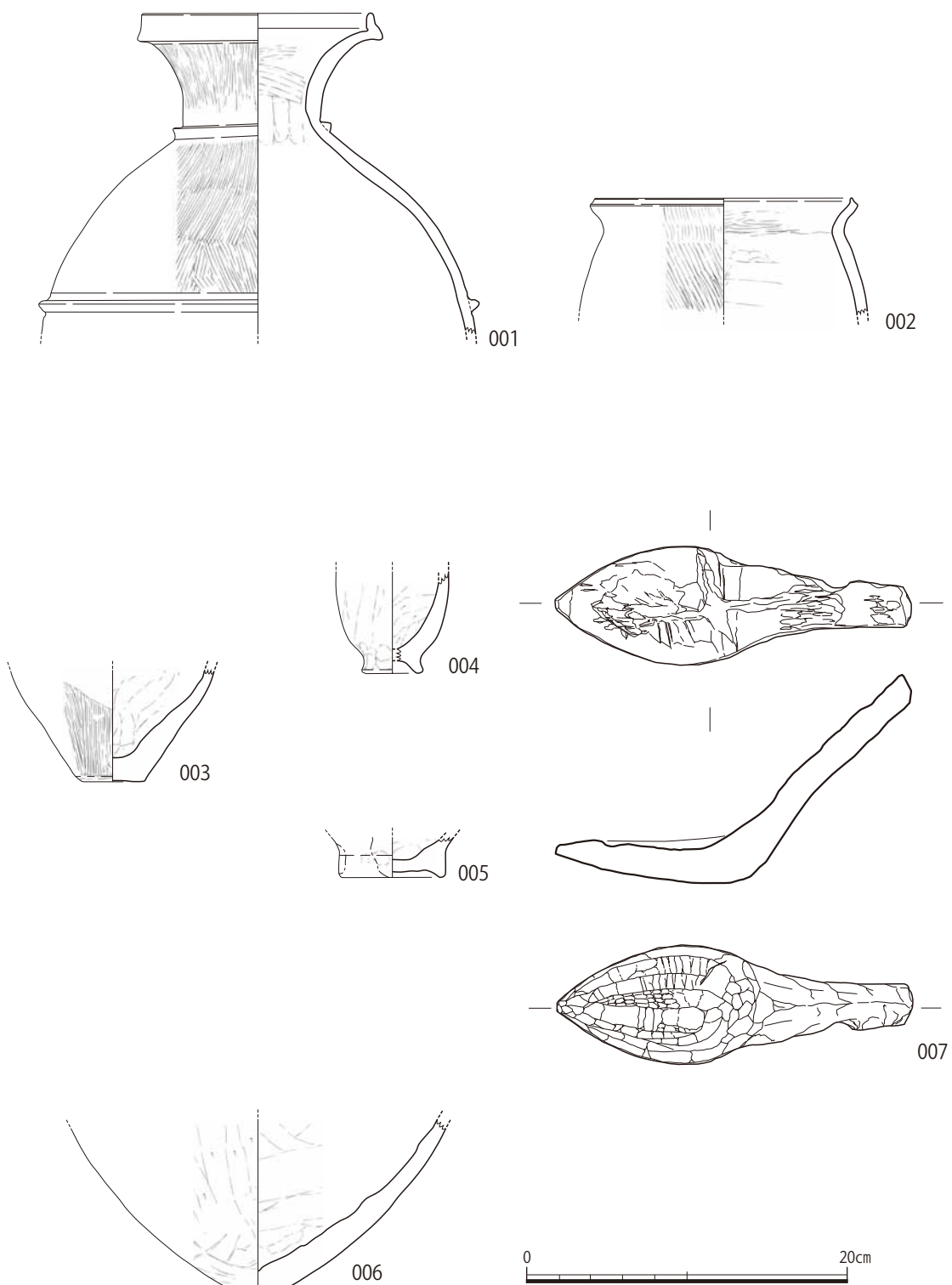
23SE003 (第 6 図)

調査区南西端において検出した、径 1.3 m～1.4 mを測る円形状の井戸状遺構である。深度は現状で 1.85 mを測るが、湧水により崩落の危険が生じたため、それ以下の掘り下げは行っておらず底面までには至っていない。埋土は 6 層下位に垂直方向に不整合面があり、その形状から井筒の痕跡とも考えられる。7 層以下の最深部は湧水のため、土色等の詳細な観察が困難であった。遺物は 6 層下位にあたる標高 3.4 m～3.6 m付近において弥生土器壺と、木製品が出土した。これらの出土遺物は、井戸が埋まって行く過程において投棄されたものとみられるが、上層の 3・4 層はブロックを含む埋土であり、遺物投棄後に人為的な埋戻し行為が行われたと考えられる。

23SE003 出土遺物 (第 7 図)

出土遺物には、弥生土器壺、甕、鉢、木製杓がある。

001 は弥生土器複合口縁壺である。口径 14.4cm を測る。口縁部から体部上半を遺存し、頸部及び胴部に突帯が認められる。胴部の突帯の位置は中位より若干上に位置する。002 は弥生土器甕である。復元口径 16.6cm を測る。口縁端部は平坦に納められ、沈線が認められる。003～006 は弥生土器底部資料である。004・005 は弥生土器鉢形の脚付き底部、003・006 は弥生土器甕形資料の底部である。007 は木製の杓である。現存長 22.1cm を測る。出土遺物の様相から弥生時代後期終末の所産と考えられる。



第 7 図 23SE003 出土遺物実測図 (1/4)

23SE011（第 8 図）

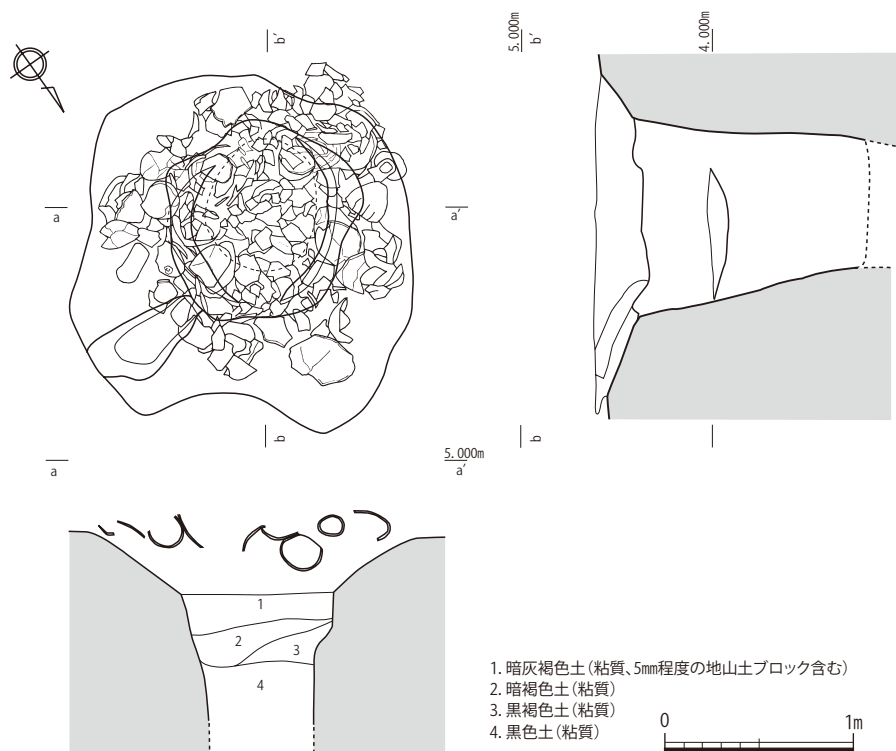
調査区西端付近で検出した井戸跡と考えられる遺構である。中心部の直径約 1.0m ～ 1.1m の不整円形を呈し、最大深さは検出面から 1.6m 以上を測る。検出面付近では、直径約 1.7m、深さ 0.3m の不整円形の浅い凹みを伴っていた。この部分には人頭大の石数点とともに多量の土器が廃棄されており、出土遺物の大半はここから出土したものである。遺構廃絶時に一括廃棄されたものとみられる。1 層以下の井戸掘り込みには壁面のオーバーハングや崩落痕は認められなかった。調査中下層からは豊富な湧水があり、検出面から 1.6m 以下については崩落の危険が生じたため、完掘には至らなかった。埋土は暗褐色から黒色の粘質土を基調とする。井筒は検出されず、土層にも痕跡が窺えない。出土遺物は、弥生時代後期中葉頃と推定され、遺構の廃絶も同時期と考えられる。

23SE011 出土遺物（第 9 図～第 15 図）

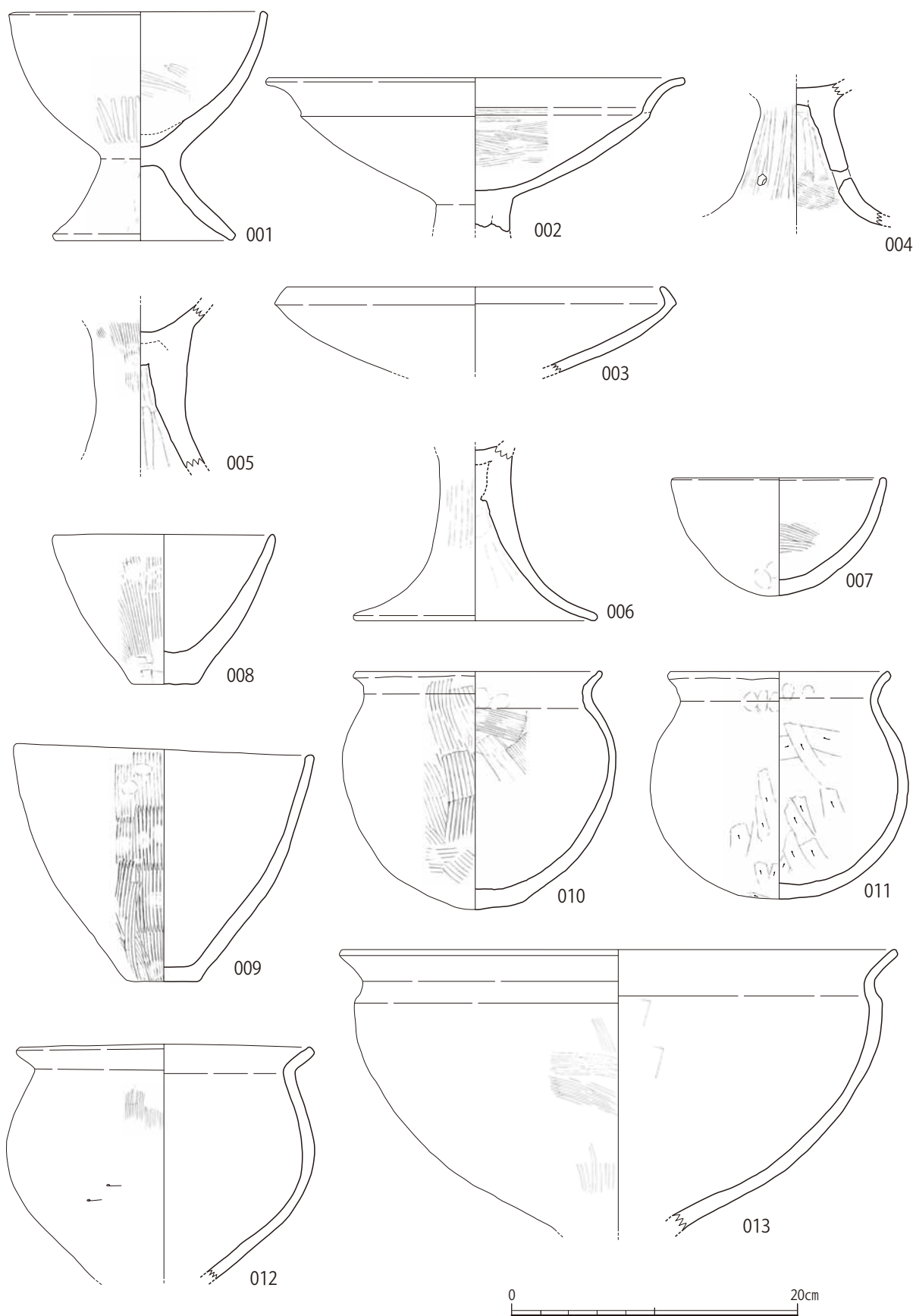
出土土器は、弥生土器高坏、鉢、壺、甕である。001 ～ 006 は高坏である。002 は、坏部の中位に段を持ち口縁部が外方に大きく開く。007 ～ 014 は鉢である。007 は碗形を呈す。008・009 は、バケツ状で口縁部が直線的に開く。010 ～ 014 は、口縁部が「く」の字状を呈し、端部が外方へ開く。底部は平底が基本だが、007 など丸底化した資料が一部みられる。

015 ～ 041 は壺である。015 は長頸壺。016 は台付き壺。017 ～ 018 は小形で口縁部が屈曲し、肩が張る壺である。017 は肩部の屈曲部分に穿孔があり、弥生時代後期中葉の所産と考えられる。019 は無頸壺。主に出土しているのは、短く外反する口縁部をもつ短頸壺（020 ～ 032）と、安国寺式の複合口縁壺（033 ～ 041）の二つのタイプである。020 は小形壺。024 は肥厚した口縁端部に文様を施文する。壺の底部は平底が基本だが、中には 023 のように凸レンズ状を呈す。胴部形態は長胴形が基本である。安国寺式の複合口縁壺は、033 のように、逆「く」の字状の口縁部に 1 段の櫛描波状文を施文し、頸部の突帯は 1 条、胴部の突帯は 3 条のタイプが主体的に出土している。頸部の浮文は省略傾向である。042 ～ 059 は甕である。在地の甕から型式変化した資料が主流で、内面はケズリ調整である。底部は小形化しているが、平底が多い。045 は上げ底状の底部。なかには、043 のように凸レンズ状を呈する個体や、046 のように、より小さな不安定な平底をもつ資料も出土している。060 ～ 067 は、壺または、甕の底部と考えられる。060 は、底部外面にハケ目が施される。

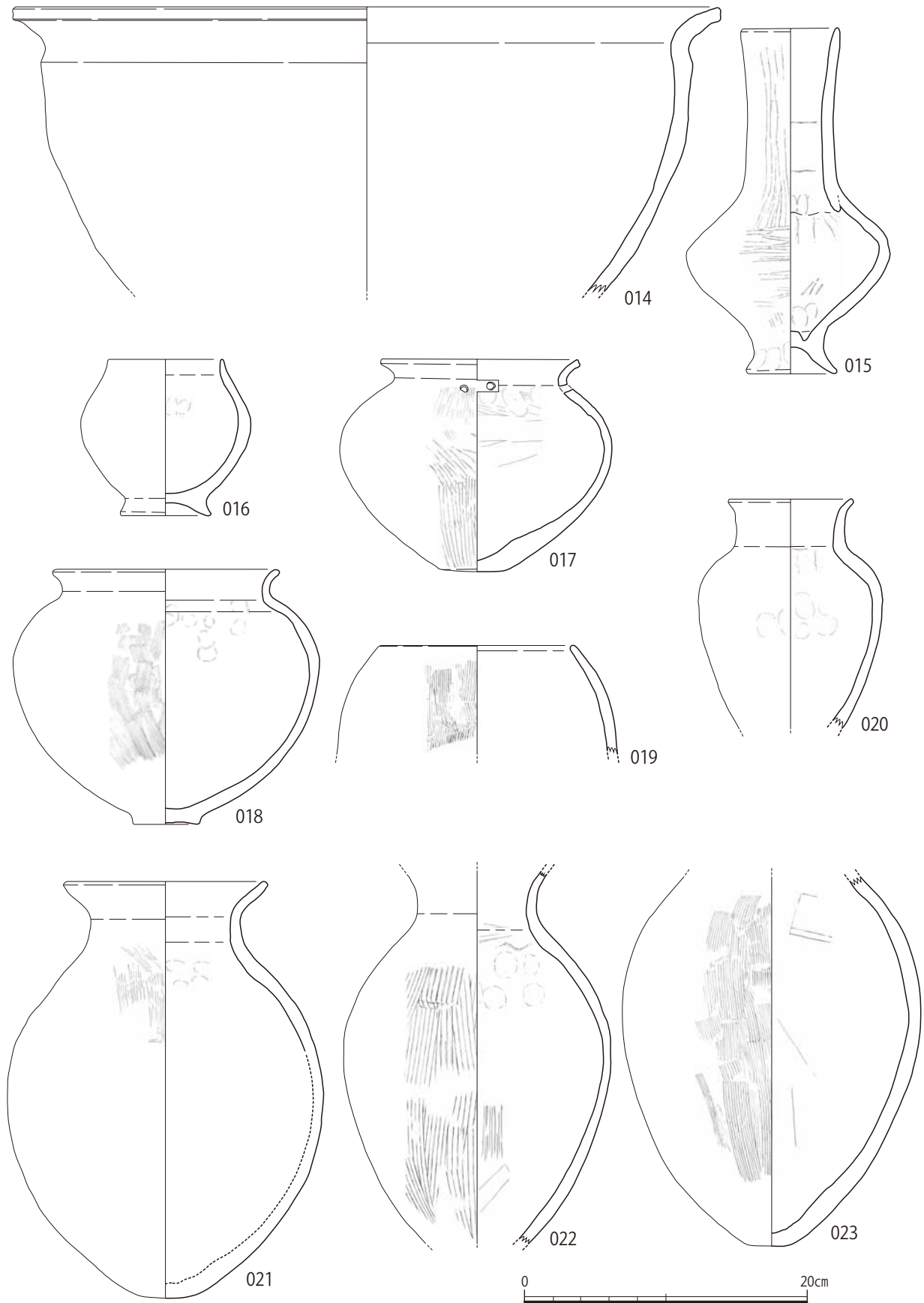
23SE011 出土土器の様相は、甕の内面にケズリ調整が施され、底部が小形化しているものの、比較的安定した平底を呈す。安国寺式の複合口縁壺は、033 のように頸部の浮文と、突帯の減少傾向が認められる。概ね弥生時代後期中葉の様相を示しているが、なかには 012 のような丸底化した鉢、046 のような小さく不安定な平底の甕など、弥生時代後期後葉の要素を示す資料を一部に認めることができる。



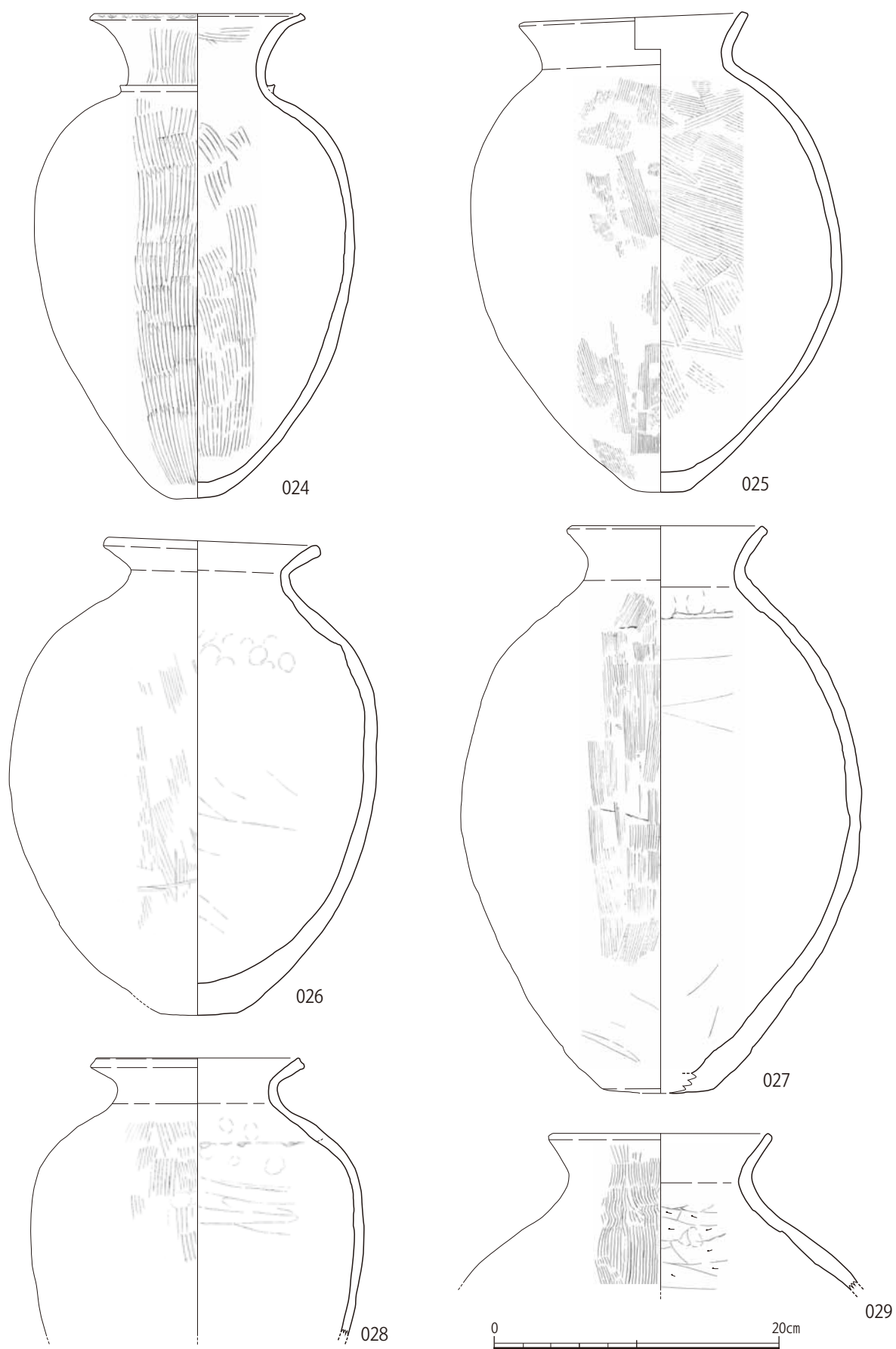
第 8 図 23SE011 遺構実測図（1/40）



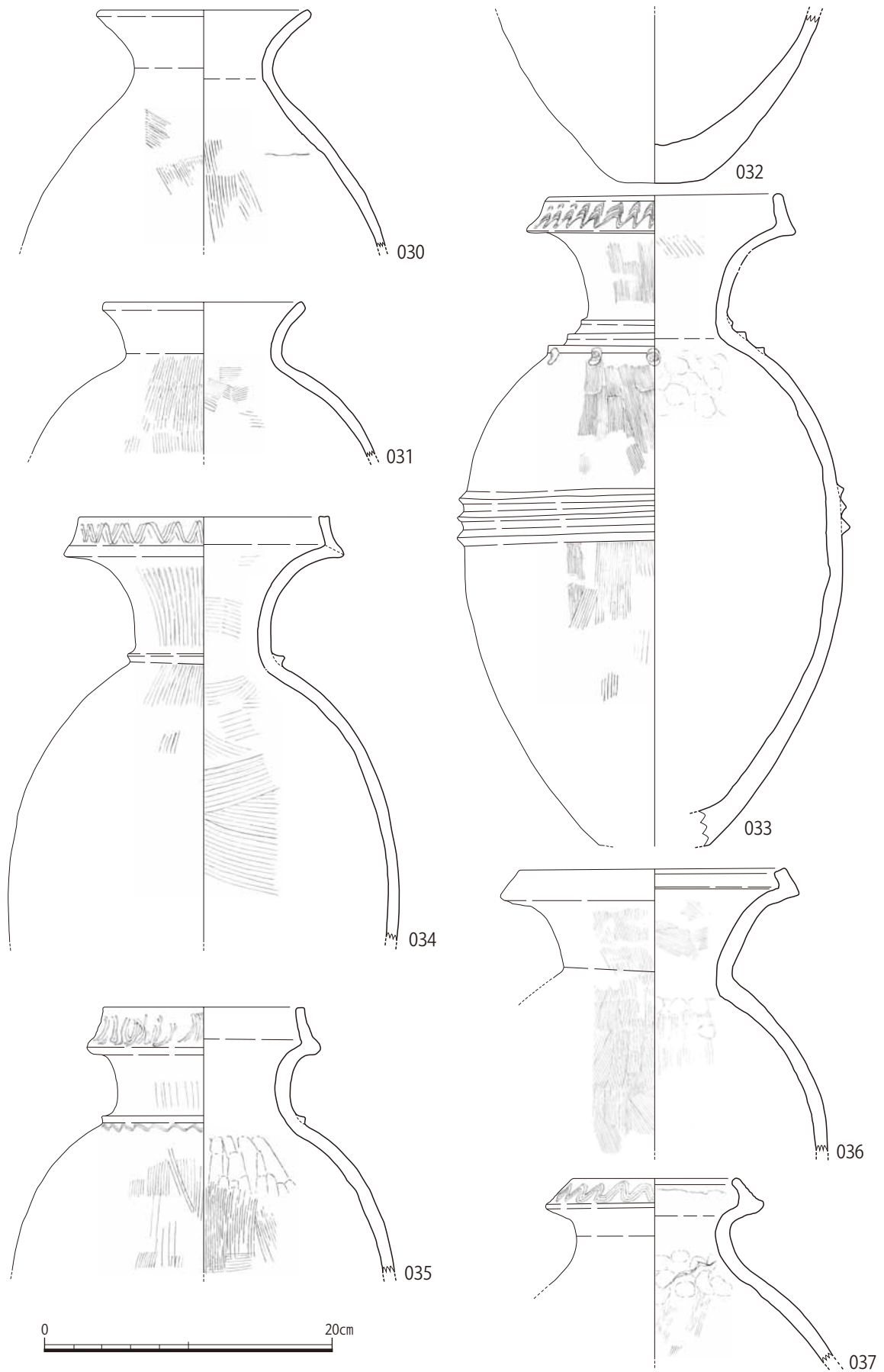
第9図 23SE011 出土遺物実測図1 (1/4)



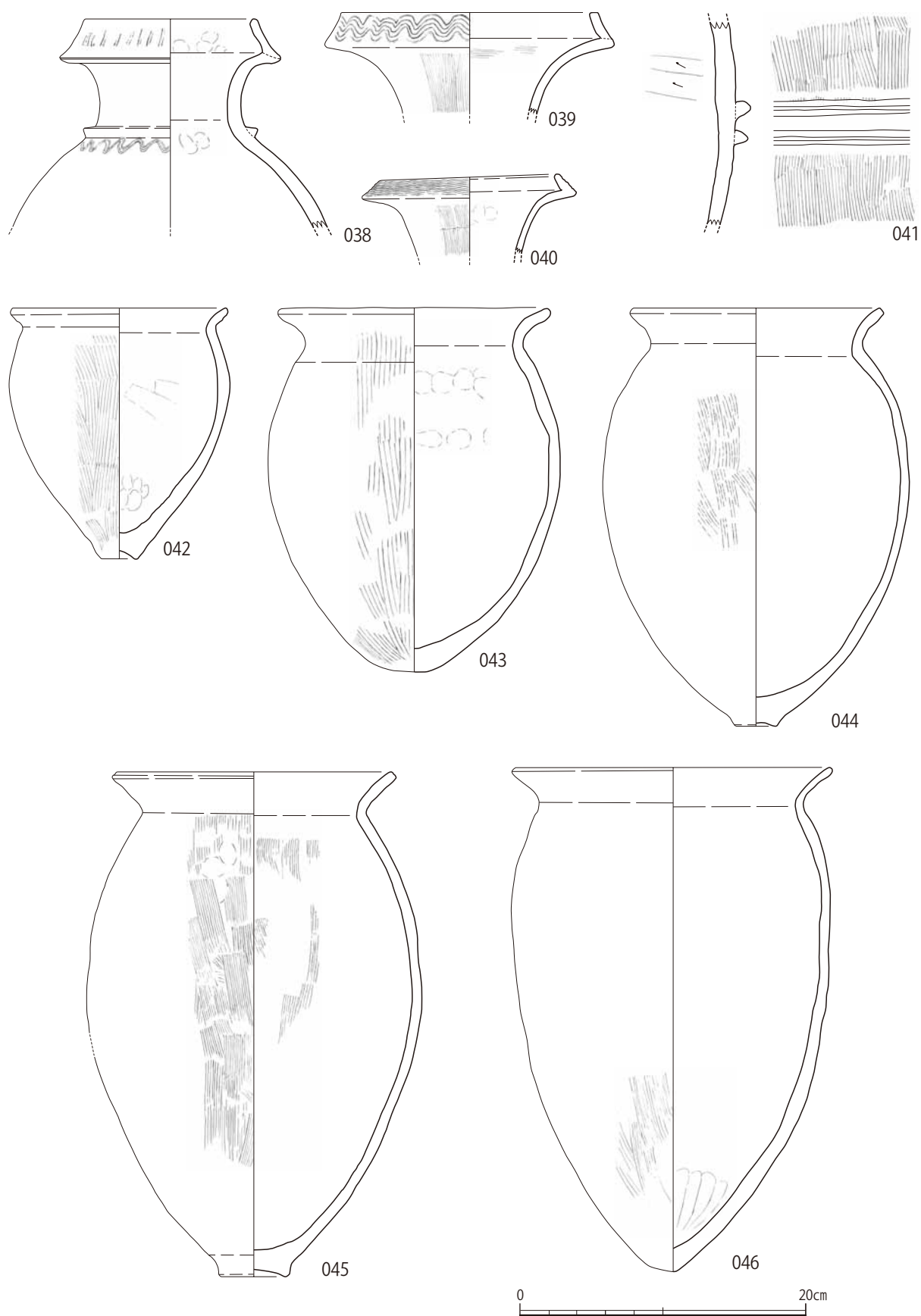
第10図 23SE011 出土遺物実測図2 (1/4)



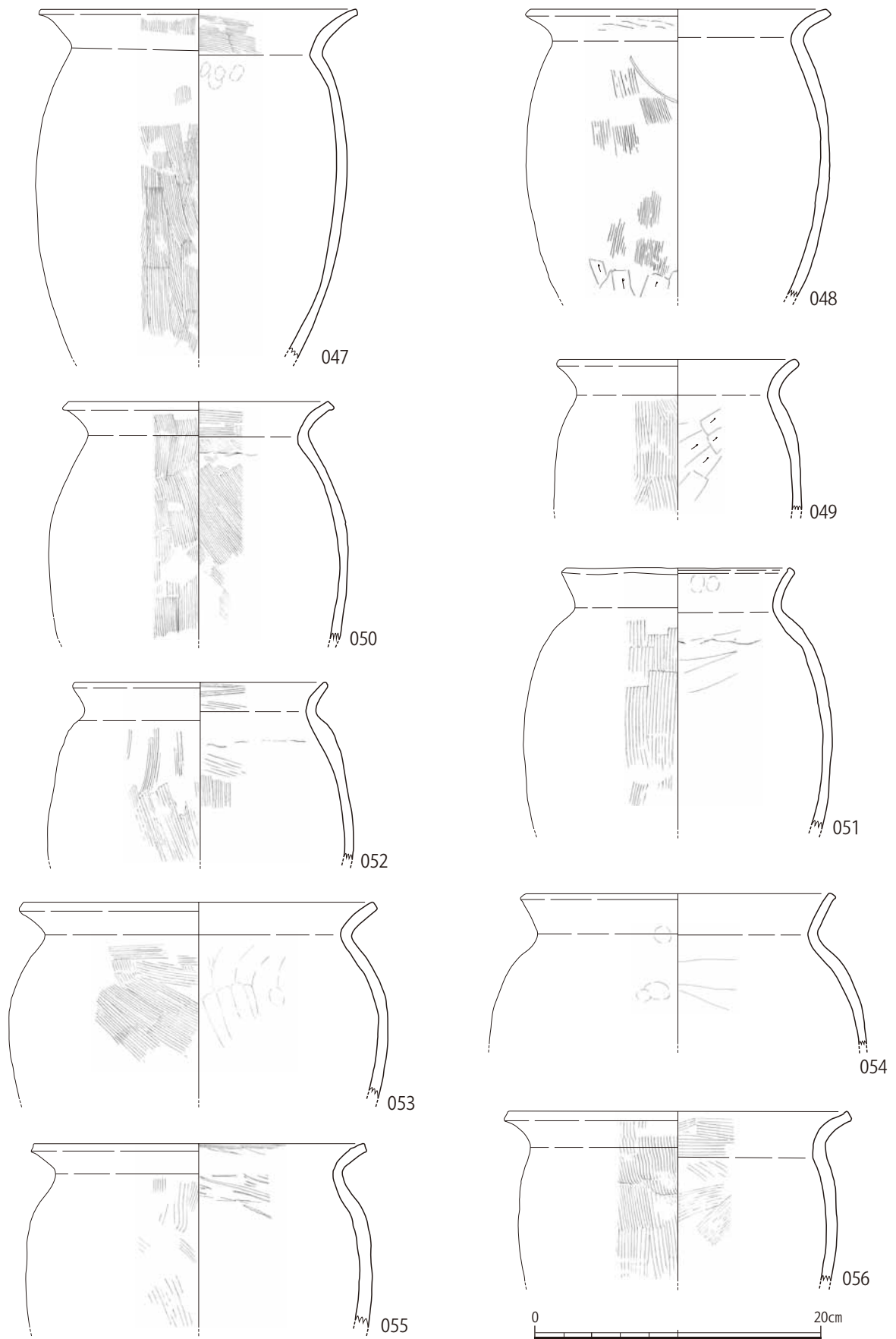
第 11 図 23SE011 出土遺物実測図 3 (1/4)



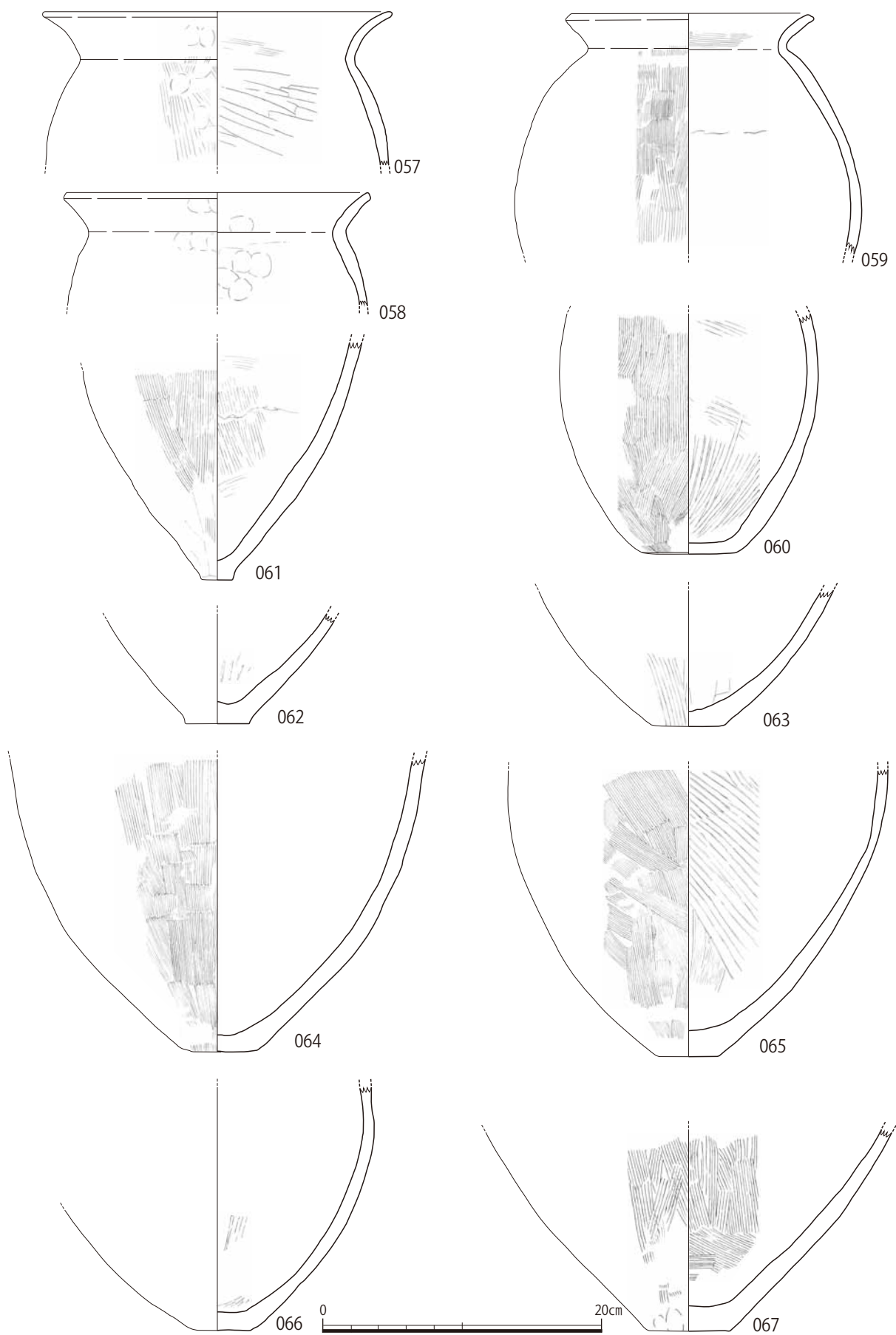
第 12 図 23SE011 出土遺物実測図 4 (1/4)



第 13 図 23SE011 出土遺物実測図 5 (1/4)



第 14 図 23SE011 出土遺物実測図 6 (1/4)



第 15 図 23SE011 出土遺物実測図 7 (1/4)

23SX038 (第 16 図)

調査区の西部、23SD001 の東側で検出した遺構である。東西長 1.8m × 南北長 2.1m の不整形円形を呈する土坑であり、最大深度は検出面より約 0.6m を測る。遺構の南側の 3 分の 1 程度は、長方形状を呈する近代以降の攪乱により欠失する。遺物は 2 層下半から 3 層にかけて多量に出土しているが、多くが破損した土器片であり、レベル差をもって出土している状況が観察されることから、この遺構は廃棄土坑であり、一定の時間幅をもって土器等が廃棄され、埋没したものと考えられる。出土遺物から、弥生時代後期後葉の時期に埋没したものと推定される。

23SX038 出土遺物 (第 17 図～第 21 図)

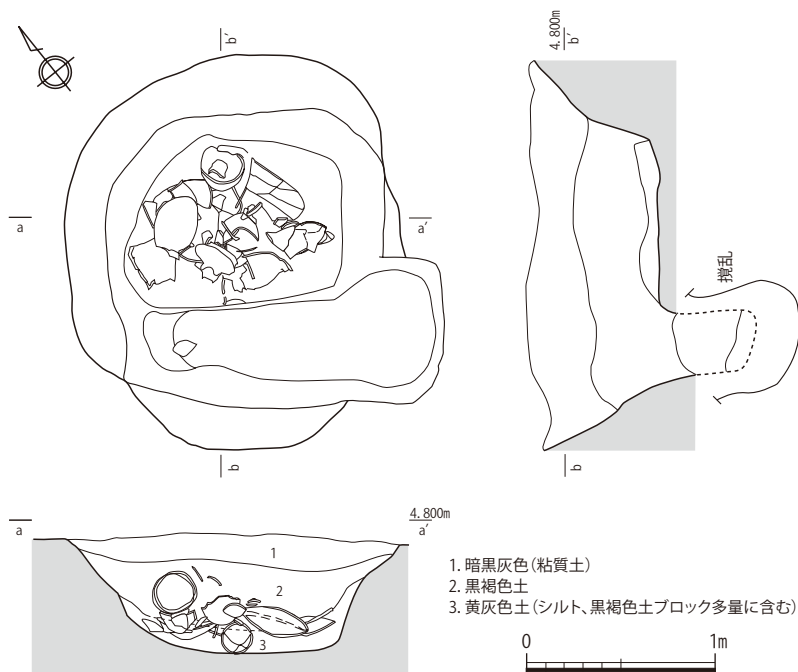
出土遺物は、弥生土器鉢、壺、甕、石器である。001 ～ 002 は鉢である。002 はやや深めである。

003 ～ 014 は壺である。003 は無頸壺。005 ～ 009 は、頸部から底部資料である。底部は平底と、007 のように凸レンズ化している資料、006、008 のように丸底化している資料がある。胴部は長胴形が基本であるが、006 のように球形化が進んでいる資料が見られる。010 は口縁部から胴部片である。011・012 は安国寺式複合口縁壺の破片資料で、同一個体と考えられる。011 は口縁部から頸部片で、伸長した複合口縁部に櫛描波状文が 2 段に施文されており、頸部には 2 条の突帯がめぐり、浮文が貼付されている。012 は、胴部片で 2 条の三角突帯を持つ。胴部は細めの長胴形で、突帯や浮文の数も多いことから、弥生時代後期中葉の所産であろうか。以上のように壺は、弥生時代後期後葉の様相を示し、さらに新段階への過渡期の様相を呈していると考えられる。

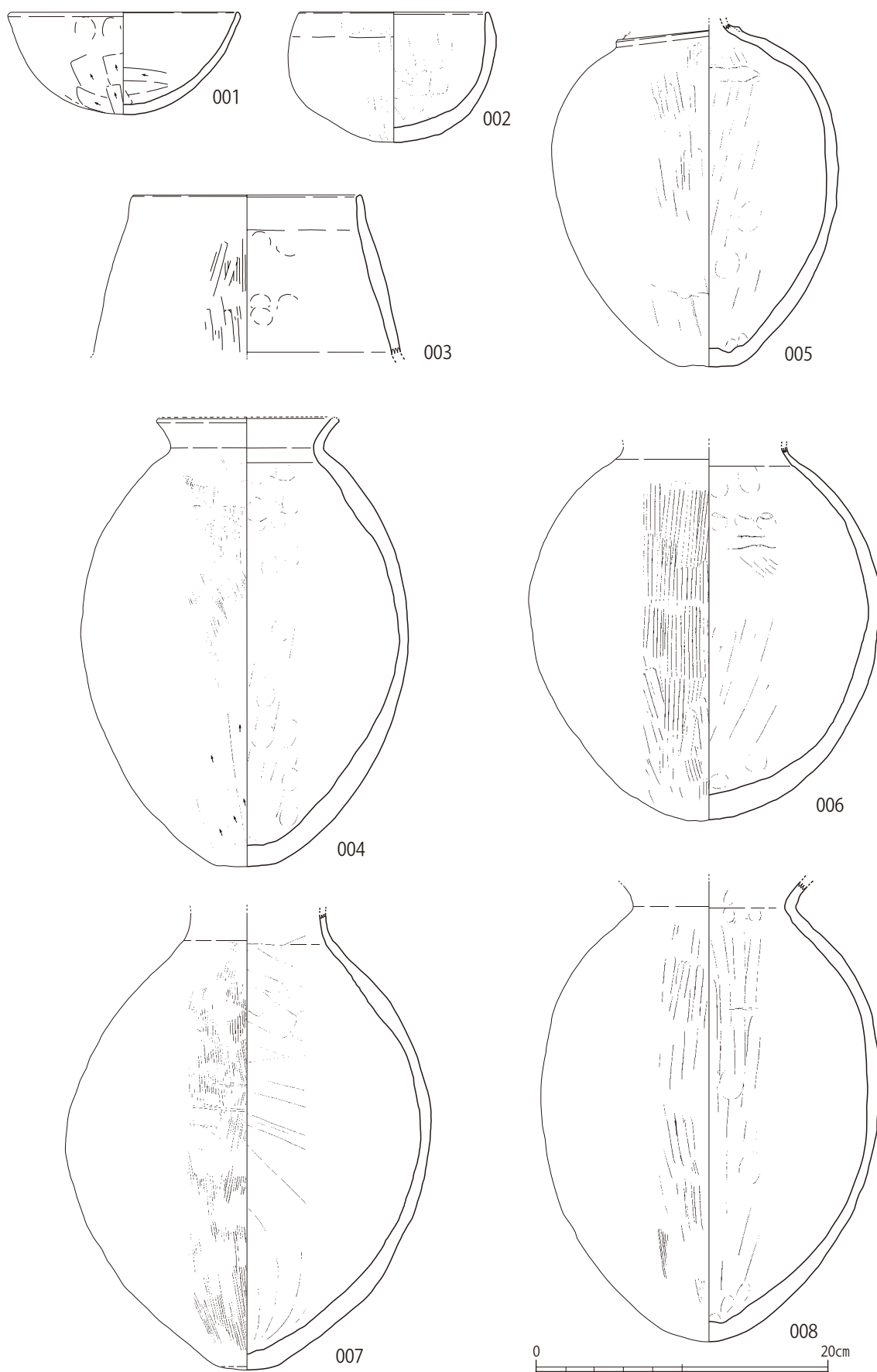
015 ～ 036 は甕である。015 ～ 022 は平底であり、中でも 019・020 は上げ底状の底部。017 は口縁端部が肥厚気味の資料である。023 は底部を欠損する。024 ～ 033 は甕の口縁部から胴部片、034・035 は甕の口縁部片。036 は甕の底部。甕の口縁端部は、丸くおさめるものと、面取り風に調整するものの 2 つのタイプがある。甕の底部は小さいものの、平底が基本であり、凸レンズ状を呈すものはない。胴部は長胴形が基本であり、甕内面にケズリ調整は施されない。甕は弥生時代後期後葉の様相を示していると考えられる。

037 は蛇紋岩製のすり石である。

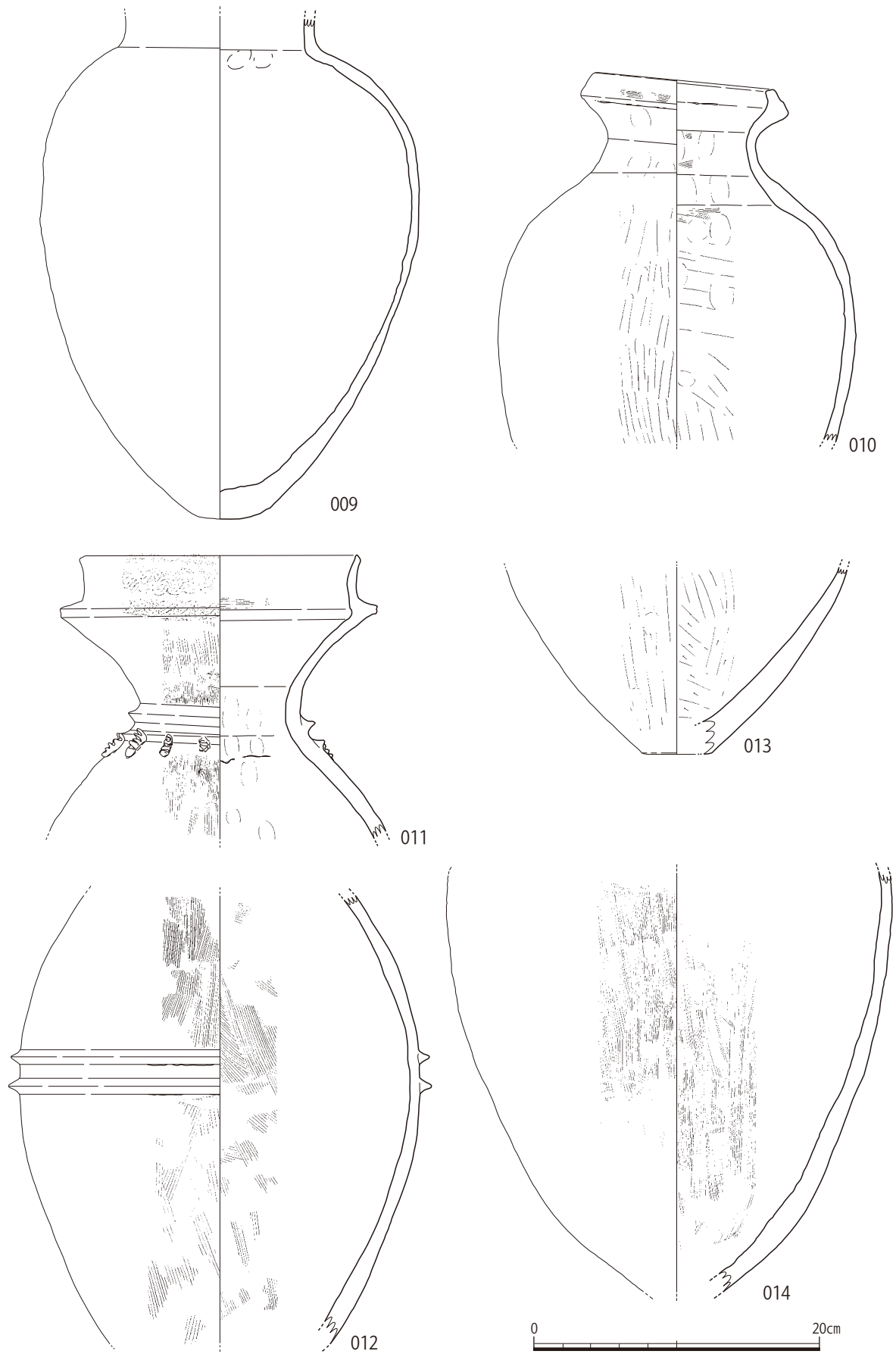
出土遺物の様相は、弥生時代後期中葉を示す 012 の安国寺式複合口縁壺以外は、弥生時代後期後葉の様相を示していると考えられ、一部に新相を示す 006 のように胴部の球形化が進み、底部が丸底化した資料が混在する。



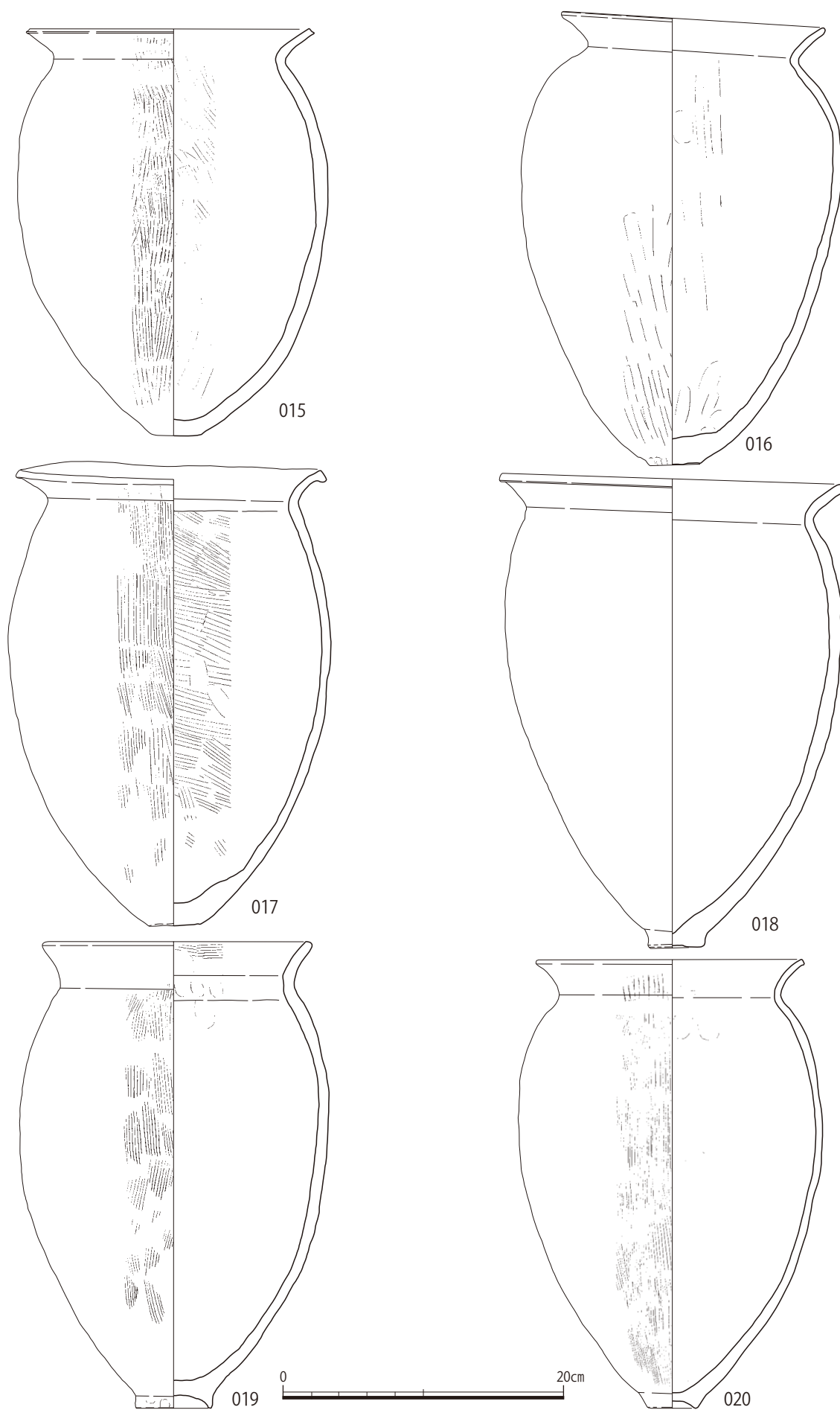
第 16 図 23SX038 遺構実測図 (1/40)



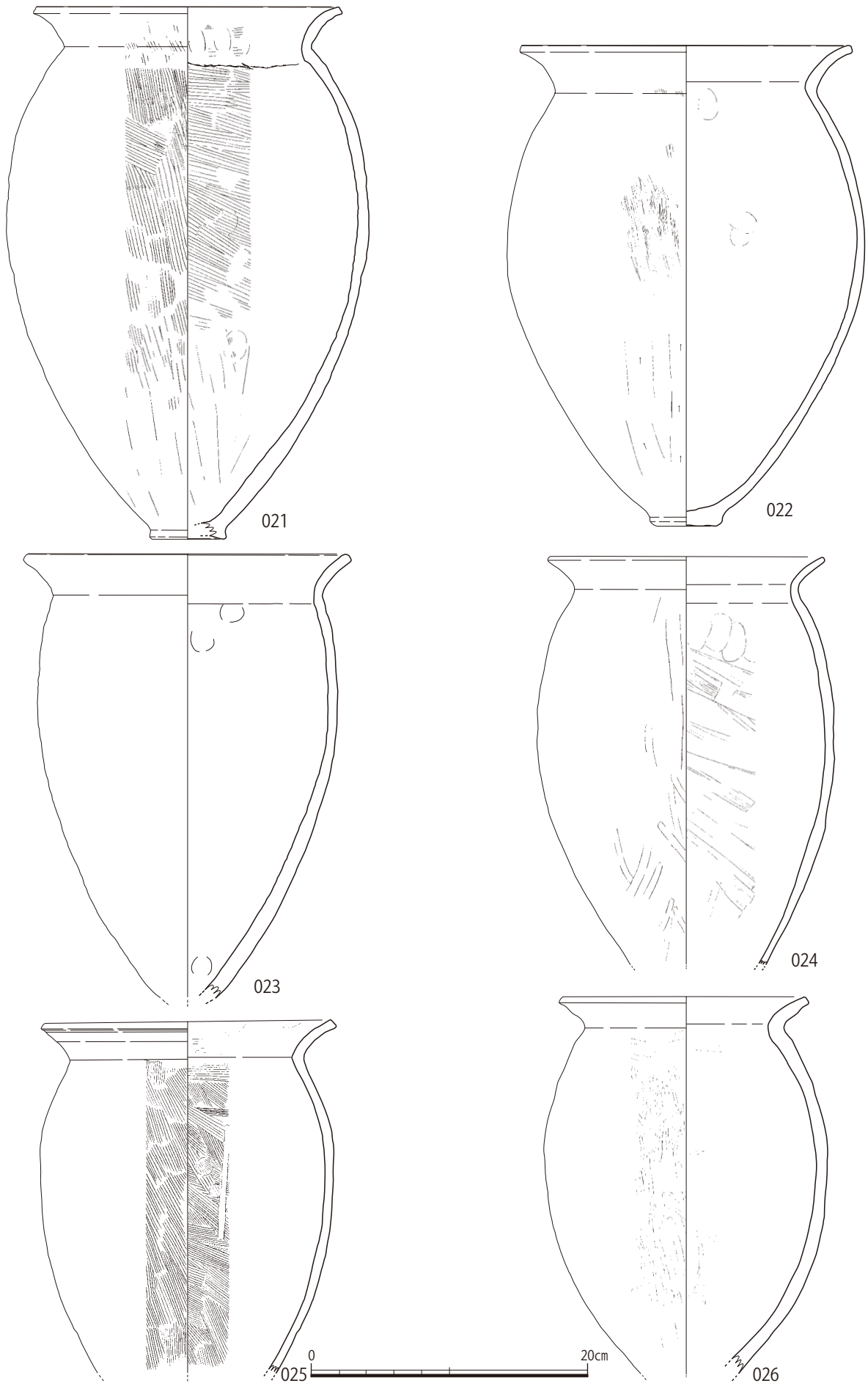
第 17 図 23SX038 出土遺物実測図 1 (1/4)



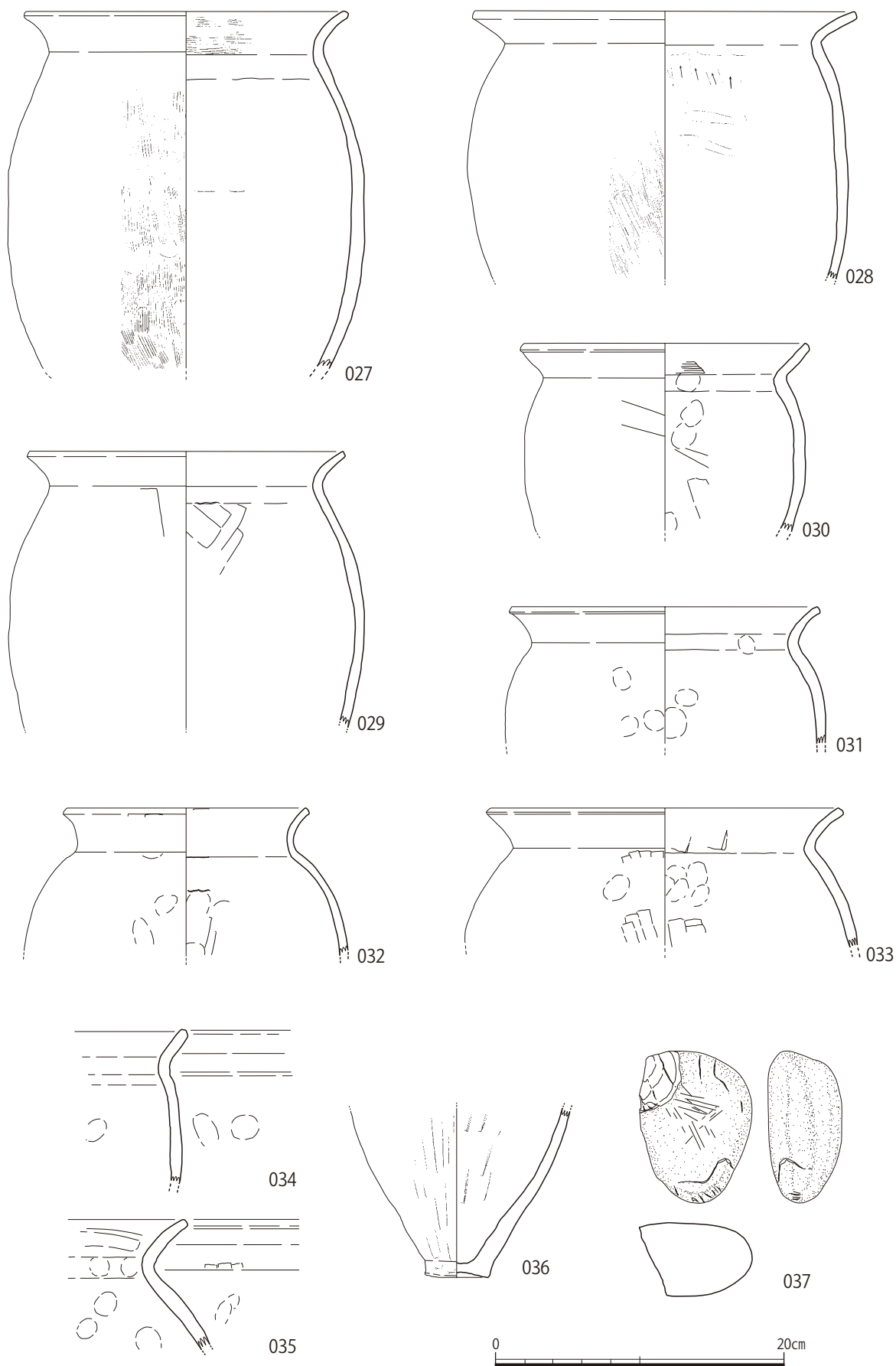
第 18 図 23SX038 出土遺物実測図 2 (1/4)



第 19 図 23SX038 出土遺物実測図 3 (1/4)



第 20 図 23SX038 出土遺物実測図 4 (1/4)

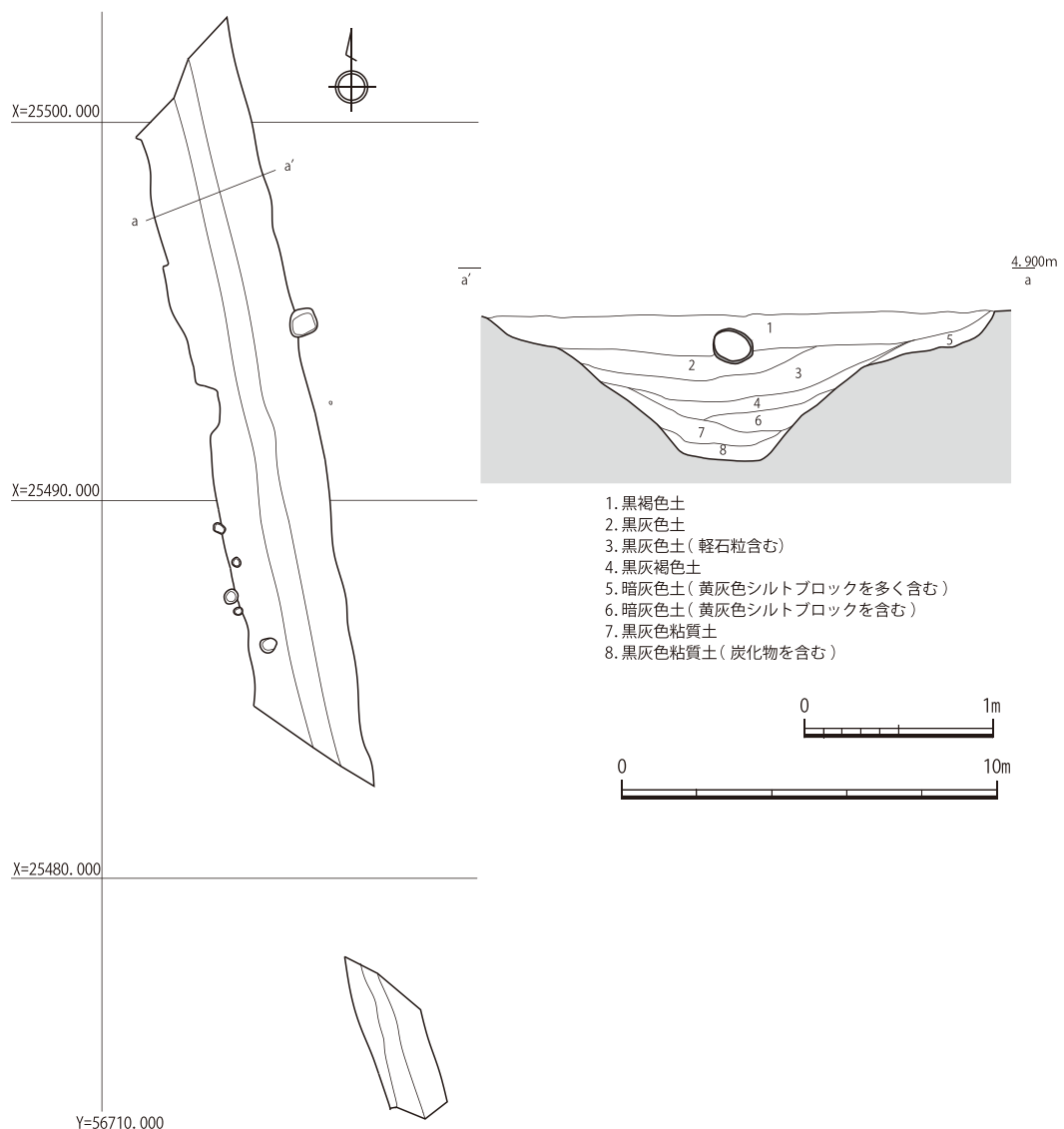


第 21 図 23SX038 出土遺物実測図 5 (1/4)

23SD001 (第 22 図)

23SD001 は、調査区の西端で検出した溝状遺構で、南北方向に延び、主軸方向は N-12.7° -W である。西側に隣接している第 20 次調査で検出した 23SD001 に連続するものである。東側拡張調査区においても、ほぼ同時期と推定される大溝 (23SD170) を検出しており、これらは一連の環濠と考えられる。

最大幅約 3m、最大深さ 1 m で、断面形状は、逆台形状を呈している。最上層では、やや広がっているが、これは埋積時に肩部が崩落した結果であろう。埋土は最上層を除き、黒灰色～暗灰色土を基調とする。7・8 層は特に粘質土からなっており、滞水した状態により堆積した可能性が考えられる。調査時にも常に湧水があり、渇水時期を除いて滞水していた。4・6 層と 7 層の間には不整合がみられ、少なくとも 1 回の掘り返しが行われたと推定される。溝内には、大量の土器が廃棄されていた。土師器甕・壺・高坏・鉢などと共に、猿形土製品と製塩土器が出土しているが、出土遺物はおもに 1 層～3 層で出土しており、一定程度埋まった時点で土器が廃棄されていることが窺われる。遺物は、古墳時代前期中葉を中心とした資料であり、溝の埋没時期もほぼこの時期と推定できる。



第 22 図 23SD001 遺構実測図 (1/200・1/40)

23SD001 出土遺物（第 23 図～第 59 図）

出土遺物には、ミニチュア土器、器台形土器、高坏形土器、鉢形土器、壺形土器、甕形土器、土錘、石器などがある。

ミニチュア形土器・器台形土器（第 23 図 001 ～ 020）

001 ～ 011 はミニチュア土器鉢。012・013 はミニチュア土器壺。014 はミニチュア土器の底部片。015 は皿状の受け部に直線的に広がる脚部を持つ小形器台である。016 は皿状、017 は直線的に広がる中空の小形器台の上半部である。018 ～ 020 は小形器台の脚部で、019 はやや内湾気味に開き、円孔が中位に 3 箇所施す。

高坏形土器（第 23 図～第 26 図 021 ～ 087）

今回掲載する大道遺跡 20 次・23 次・32 次調査検出の溝状遺構からは、多数の土師器高坏が出土している。その形態はさまざまであり、高坏形土器は坏部形状と脚部形状により組合せられるため、それらを二分して分類した。まず坏部形状を A ～ D 類に分け、次にそれに組合せられる脚部形状を分類した。第 187 図に掲載した分類表を基に記述する。23SD001 土師器高坏について述べる前に分類について説明を加える。

坏部形状から高坏 A ～ D 類の 4 タイプに分類した。

高坏 A 類 稜をもって大きく外反する口縁部を有するもの

高坏 B 類 坏部の下半が有段を呈し、概ね直線的に外傾する口縁部を有するもの

高坏 C 類 稜をもって概ね直線的に外傾する口縁部を有するもの

高坏 D 類 坏の受け部が深く緩やかに外反する口縁部を有するもの

高坏 A 類はいわゆる弥生土器の系統を残す在地系のものである。脚部は円柱状の脚柱部に稜をもって屈曲する脚裾部を有するものと組合せられる。

高坏 B 類は外来系の技法がみられるもので、坏部に有段を有する畿内系（庄内式系）の技法を模倣した高坏と考えられる。脚部は脚柱部に下部に広がりをもち、稜をもって屈曲する脚裾部を有するものと組合せられる。口縁部が外反するなどの在地系の様相も残るが、調整は丁寧な横方向のミガキがみられ外来系の影響を受けている。

高坏 C 類は外来系（布留式系）の技法を模倣した高坏と考えられる。口縁部が外反気味のものもあるが、坏底部は水平化が進み、口縁部も直線的をなす。坏口径 20cm ～ 27cm と大型のものから次第に縮小化（10cm ～ 17cm 程度）が進む。それに伴い坏の深さも浅くなる。内外面にはミガキ調整が施されているが、次第にハケ目やナデなど調整に手抜きがみられる。高坏 C 類に組み合わせられる脚部はバリエーションが多く、a ～ e 類に細分した。

脚 a 類 脚柱部の下部に広がりをもち稜をもって屈曲する脚裾部を有するもの

脚 b 類 脚柱部から稜をもって低平に屈曲する脚裾部を有するもの

脚 c 類 ラップ状で稜をもたず直線的に広がるもの

脚 d 類 長脚で稜をもって緩やかに広がる脚裾部を有するもの

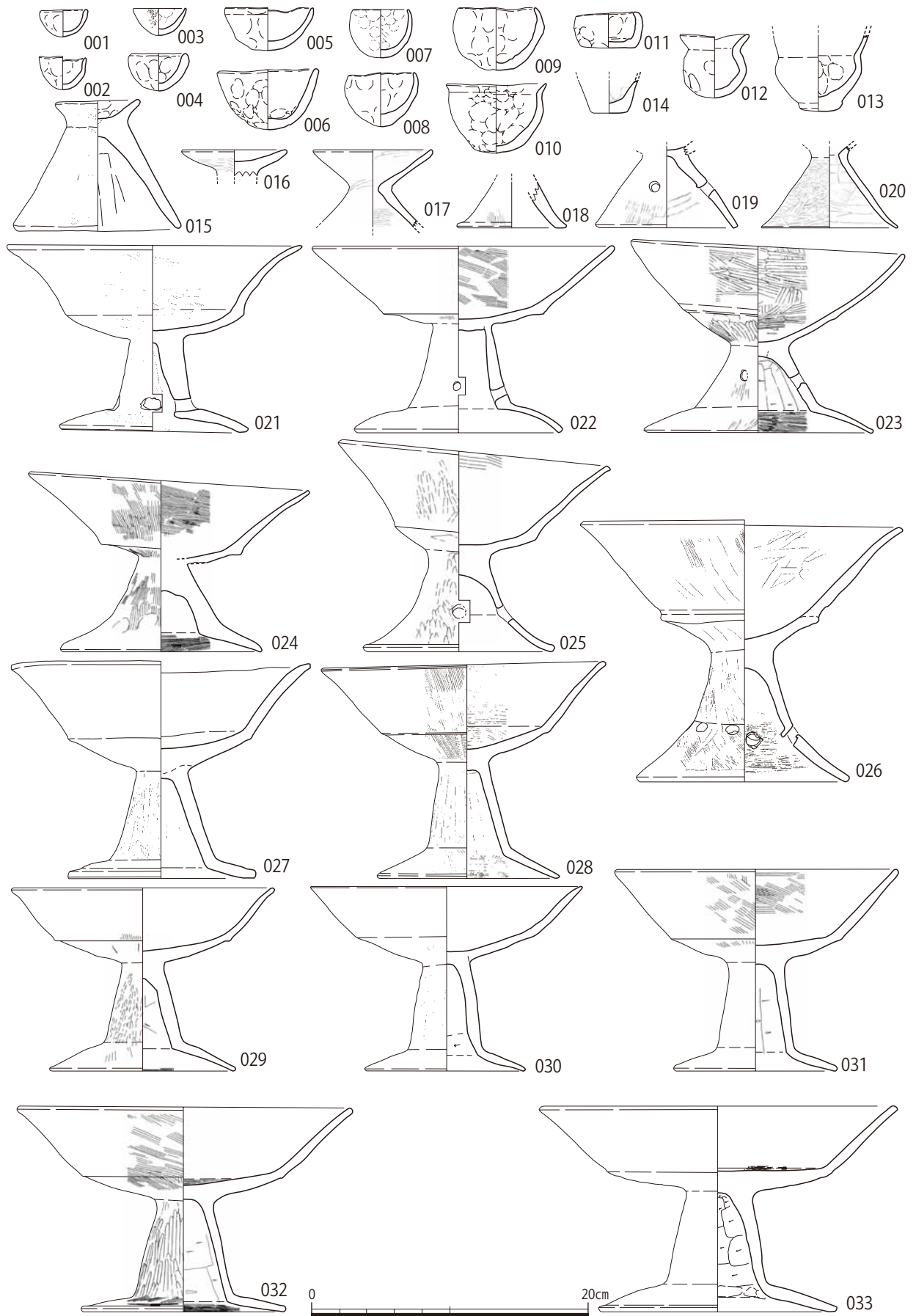
脚 e 類 脚柱部が細長く稜をもって低平して屈曲する脚裾部を有するもの

高坏 C 類に組み合わせられる脚部は、坏部と同様に外面はミガキ調整からハケ目・ナデと調整に手抜きがみられる。内面調整はケズリが施されるようになるのが特徴的である。それにより器壁は次第に薄くなる。

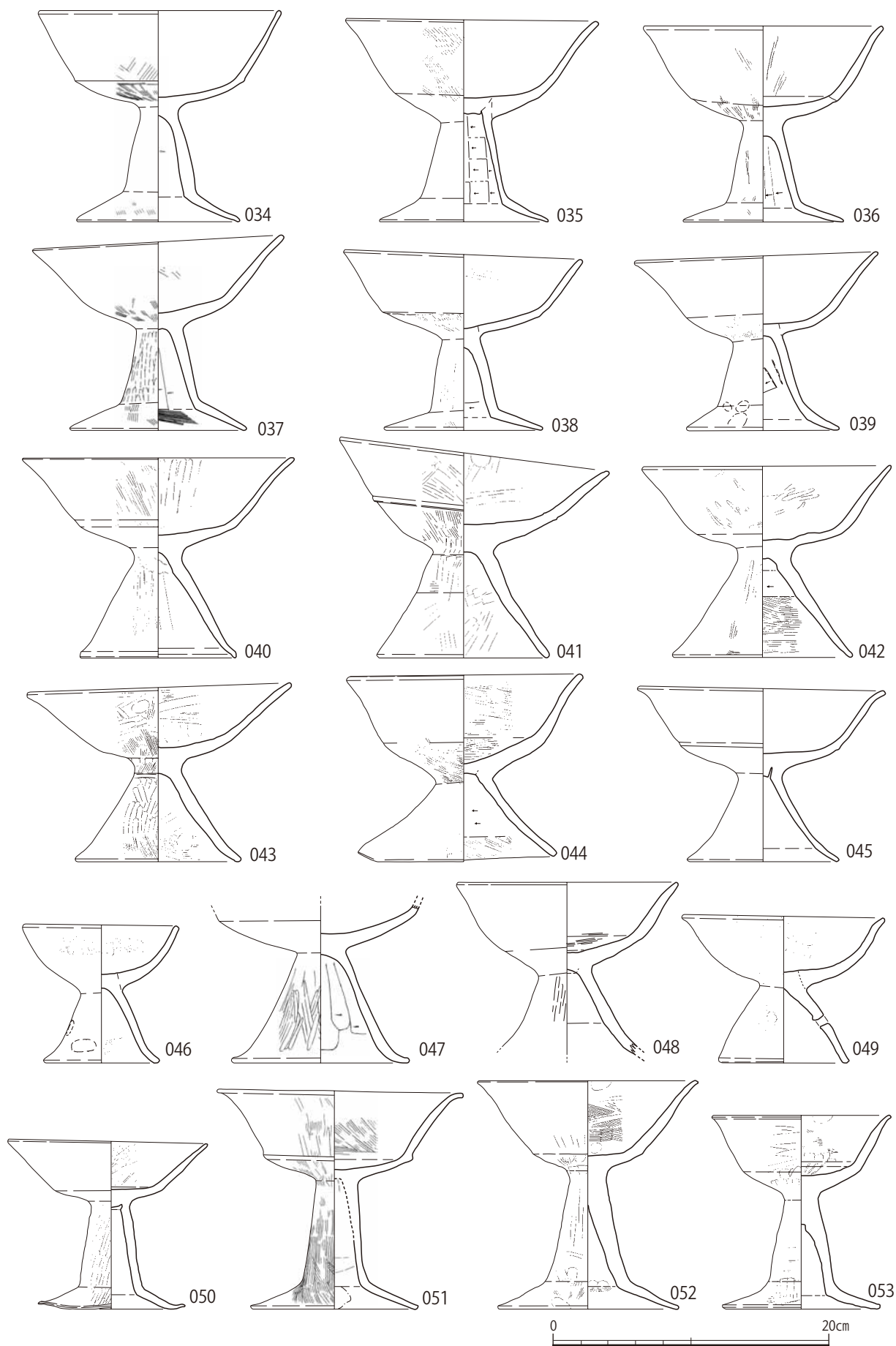
高坏 D 類は弥生土器の系譜をたどる在地系の高坏で、台付鉢の形状に類似している。守岡遺跡 19 号住居跡出土の高坏と同様のものと考えられる。脚部は低脚でラップ状に広がるものが組み合う。

以上の分類をもとに本文の記述を行う。

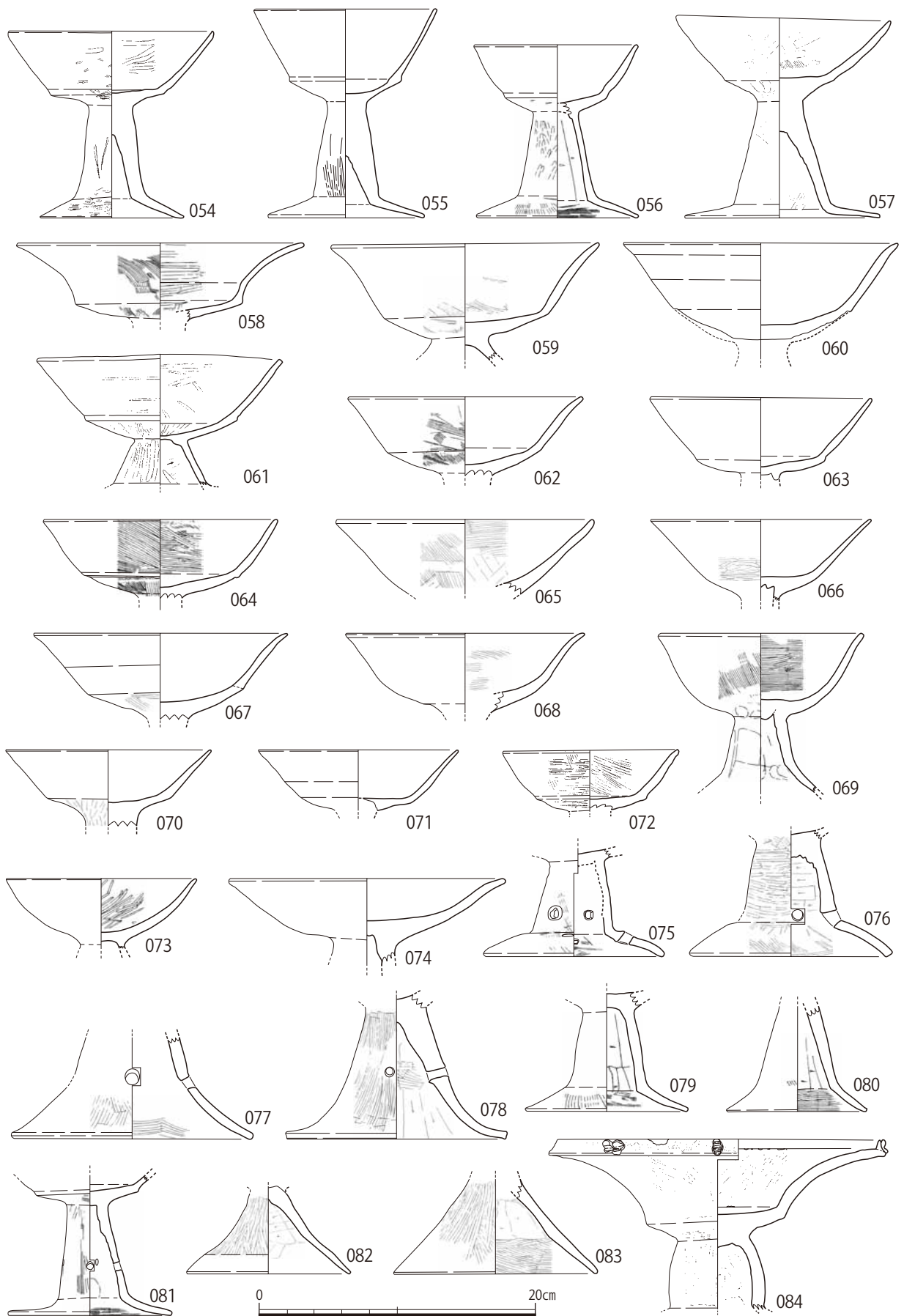
021 ～ 083 は土師器高坏である。021 ～ 057 は坏部が稜をもって直線的に外傾する口縁部をもつ高坏 C 類である。021 ～ 026 は、脚柱部が下部に広がりをもち稜をもって屈曲する脚部に、坏の深さが器高の 1/2 程度と深めの高坏 Ca 類。概ね坏口径 20cm ～ 24cm を測る。021 ～ 023 は脚裾部に膨らみをもつ。円孔は脚部の



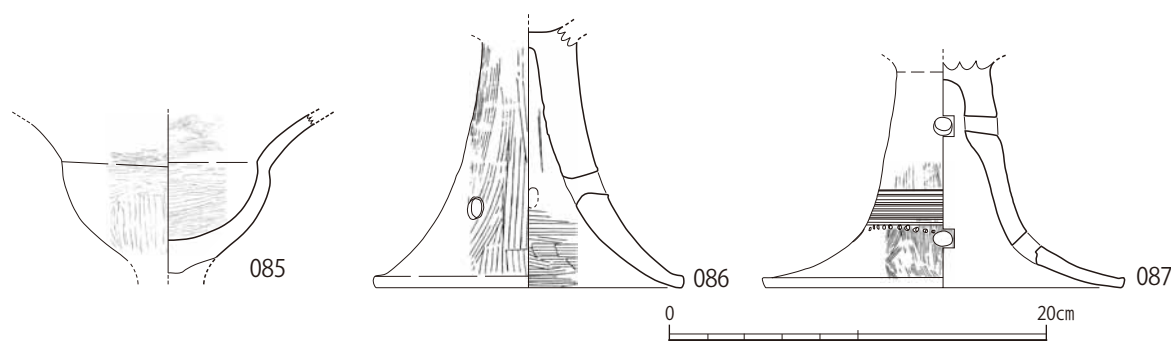
第 23 図 23SD001 出土遺物実測図 1 (1/4)



第 24 図 23SD001 出土遺物実測図 2 (1/4)



第 25 図 23SD001 出土遺物実測図 3 (1/4)



第 26 図 23SD001 出土遺物実測図 4 (1/4)

屈曲部より上位に施す。024 は脚部外面の稜は不明瞭だが内面の稜は明確である。025・026 は脚部の屈曲部付近に円孔を施す。027 ～ 039 は脚柱部から稜をもって低平に屈曲する脚部に、坏の深さが器高の 1/3 程度と浅めの高坏 Cb 類。脚部内面はヘラケズリ。027 ～ 031 は坏口径 20cm 前後を測る。032・033 は大型の坏部で、032 は口径 24.2cm、033 は口径 25.9cm を測る。034 ～ 039 は坏口径 17cm 前後で、027 ～ 033 よりもやや小さめで深い。040 ～ 049 は脚部はラッパ状で直線的に広がり、浅めの坏部をもつ高坏 Cc 類。概ね坏口径 16 ～ 21cm を測る。043 は坏部が皿形状である。044・045 は口縁端部を外方に少しつまみ出す。046 ～ 048 は脚端部が外側に折れる。049 は口縁端部を少し外方につまみ出し、脚部はやや膨らみ気味に広がる。脚部中位に円孔を施す。046・049 は坏口径 11.4cm、14.5cm と小形である。050 ～ 057 は脚柱部が細長く稜をもって低平に屈曲する脚部で、坏口径 16cm 前後の小さめの坏部をもつ高坏 Ce 類。050 は脚裾部の端部が跳ね上がる。051 ～ 053 は口縁端部を少し外方につまみ出す。054 ～ 057 は口縁部がやや内湾気味である。056・057 は口縁部の中位が肥厚気味。058 ～ 072 は高坏 C 類の坏部の資料。058 ～ 061 は坏口径 21 ～ 24cm 前後の深めの坏部。062・064・065 は坏口径 17 ～ 20cm 前後の浅めの坏部。067・068 は坏口径 17cm 前後のやや小さめの深い坏部。063・066・071・072 は坏口径 12 ～ 16cm の小さめの坏部。074 は椀状を呈する坏部。075 は坏の深さが 3.2cm と極めて浅い皿状の坏部片。076 ～ 082 は高坏 C 類と組合せられる脚部である。075 ～ 078 は脚 a 類である。075・076 は脚裾部が膨らみをもつ。円孔を屈曲部の上位に施す。077 は円孔が屈曲部分、078 は脚柱部の中位に施す。079・080 は脚 d 類である。081 は脚 g 類で、円孔は脚柱部中位に施す。082・083 は高坏 Ce 類もしくは小形器台の脚部。084 は装飾高坏で口縁端部が立ち上がり、3 ～ 5 条の波状文を巡らす。その上に浮文 4 箇所が認められる。残存部分から浮文に 1 本の沈線のあるものは 2 個 1 組で、2 本の沈線のものは 1 個単位で、交互に 8 箇所貼付されていたと考えられる。

085 ～ 087 は弥生時代後期終末期の所産と考えられる。085 は弥生土器高坏の坏部片。086・087 は脚部の資料である。086 は円孔を 4 箇所施す。087 は円孔が脚上部に 4 箇所と裾部に残存 2 箇所に認められ、下部の円孔の上部に多条の沈線を巡らす。

23SD001 では、土師器高坏は高坏 C 類のみが出土している。その中でも、高坏 Ca 類の割合は少なく、一方で坏部が浅い高坏 Cb 類と高坏 Cc 類が大半を占める。調整は脚部の内面にケズリがみられる。古墳時代前期中葉でも新相を示すものか。また 050 ～ 057 のような植田市遺跡 E 区溝 I を標識とする古墳時代前期中葉から後葉の布留式系高坏と同様の高坏 Ce 類のものが多くなる。全体の様相は、弥生時代後期終末期の遺物も混在するが、主体は古墳時代前期中葉から前期後葉の時期と考えられる。遺物の主体は古墳時代前期中葉であると考えられる。

鉢形土器 (第 27 図～第 30 図)

今回報告する大道遺跡群第 20 次・第 23 次・第 32 次検出の溝状遺構の出土遺物には、報告書掲載点数約 230 点の鉢形土器が含まれている。その形状は坏・皿に近いごく浅い形状のものから脚台付のもの、屈曲した口縁部を有する深鉢型のものなど多種多様に渡る。報告にあたり、鉢 A ～ G 類のように、形状別に以下の通りに

分類を行った。更に、A～Dは口縁部／器高の値を算出して数値化し、基準を設けて 1: 浅いもの、2: 深いものと細分した。各基準に関しては、後述する。尚、各分類は、第 188 図に掲載している。

鉢 A 類には、坏・皿に近い形状をしたものを分類した。浅い形状のものから順に並べて整理し、前述の算出方法により 2.5 を境に、2.5 を超えるものを浅いもの（鉢 A1 類）、1.5 から 2.5 を深いもの（鉢 A2 類）とした。口縁部形状は主に直線的・やや内湾気味・外反気味の三つからなる。

鉢 B 類には、鉢 A 類よりも深い坏・皿に近い形状をしたものを分類した。値 1.0 から 1.5 のもの（鉢 B1 類）、1.0 に満たないもの（鉢 B 2 類）とある。鉢 B2 類には弥生時代の所産と思われる底部形状が尖底で長胴タイプのもので多く含まれる。また、鉢 A 類と比べ、底部厚が厚いものが多い。

鉢 C 類には、口縁部に屈曲を有する浅い形状の鉢を分類した。値 2.5 を超えるもの（鉢 C1 類）、2.0 から 2.5 のもの（鉢 C2 類）とあり、屈曲部の締りはゆるい。

鉢 D 類には、口縁部に屈曲を有する深い形状の鉢を分類し、値 2.0 に満たないものをこの鉢 D 類とした。小形から中形（口縁部径 35cm 未満）のもの（鉢 D1 類）、大形（口縁部径 35cm 以上）のもの（鉢 D 2 類）、山陰系と思われる複合口縁を有するもの（鉢 D3 類）とあり、屈曲部に突帯を有するものを含む。底部形状は大部分が丸底化している。

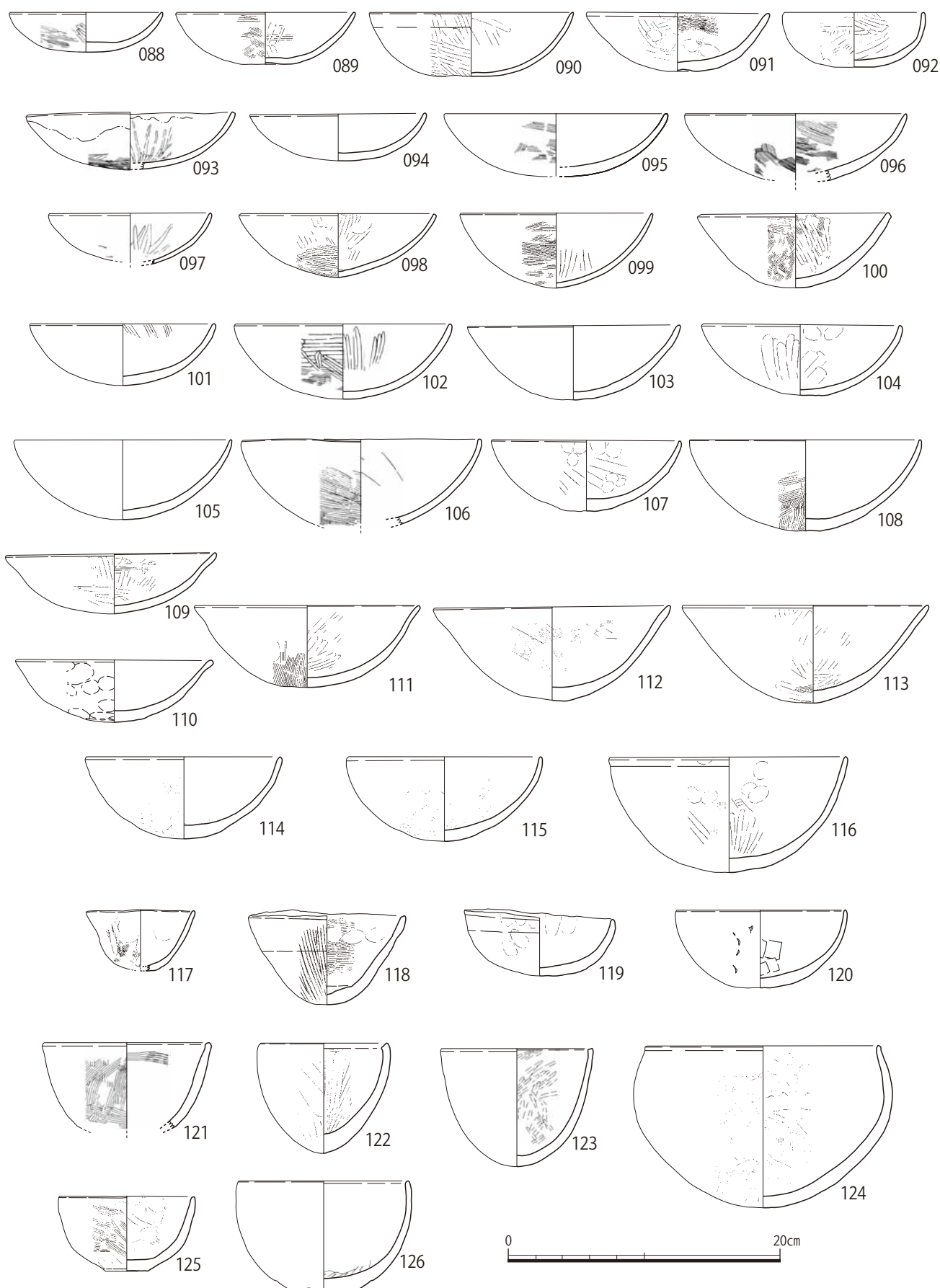
鉢 E 類には、坏・碗の形状を呈する鉢に脚が付いたものを分類した。細分類はしていないが、高坏の脚に近い脚部形状、外反しない短い脚部形状などもこの鉢 E 類に分類した。脚台部には指頭圧痕、工具痕が認められる。

鉢 F 類には、口縁部が屈曲する形状の脚台付鉢を分類した。鉢 E 類同様、脚部形状での細分類は行っていない。

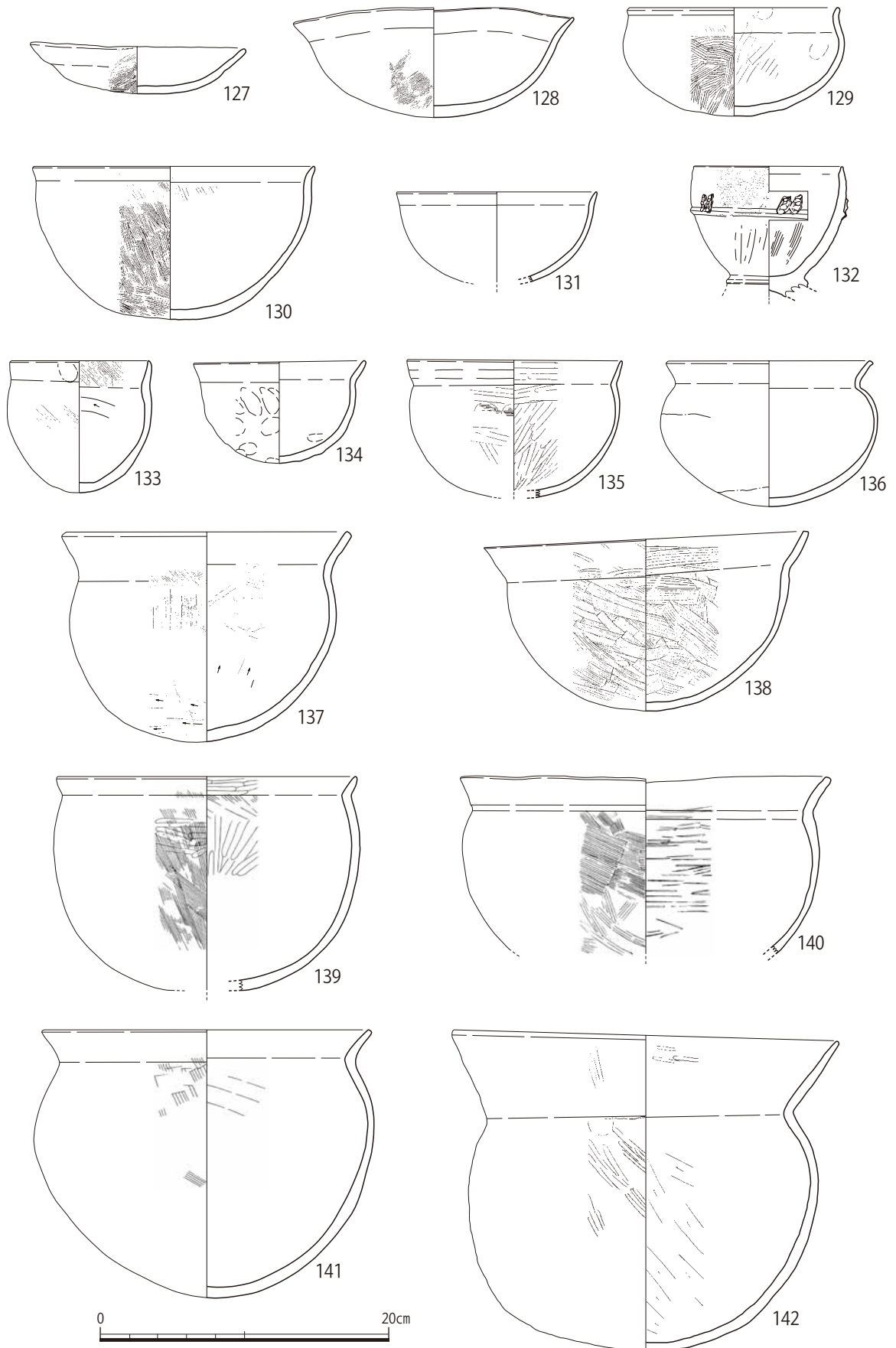
鉢 G 類には、平底を呈する鉢を分類した。口縁部径の値が 18cm に満たない小形のもの（鉢 G1 類）、18cm を越える大形のもの（鉢 G2 類）とある。

088～113 は鉢 A1 で、皿・坏に近い形状の小形の浅い鉢である。088 はレンズ状の底部を呈する。089～091 は直線的に外方に伸びる口縁端部、092 は平底気味の底部。093～097 は直線的に上方に伸びる口縁端部を有し、093 には内外面共にススの付着がみられる。098～103 は直線的で外方へと伸びる口縁部と、尖底気味の底部を有する。104～108 は軽く内湾する口縁端部を有し、104 は全体にスス付着。109～113 は外反する口縁端部を有する。114～121 は鉢 A2 で、碗型の小形の鉢。114・115 は僅かに内湾した口縁端部と、丸底の底部。116 は赤色塗彩を施し、直線的に上方に伸びる口縁部と、丸底の底部を有する。117・118・121 は直線的に外方に伸びる口縁と、尖底を呈する。118 は赤色塗彩を施す。119・120 は軽く内湾する口縁端部を有する。122～124 は鉢 B1 で、深鉢である。122 は器壁が厚く、内側へと入り込む口縁端部と、尖底を呈する。123 は水平に整えられた口縁端部を有し、口縁部は直線的に伸びる。124 は内湾する口縁部を有し、球形の形状を呈する。125・126 は鉢 G1 で、小形の平底鉢。127 は鉢 C1 で、口縁部に屈曲を有する浅鉢である。128～131 は鉢 C2 で、C1 よりも深い口縁部に屈曲を有する形状のものである。128 は全体的に歪みが著しい。129 は胴部に膨らみを持たせ、口縁端部を外方へと屈曲させている。132 は鉢 E で、台付鉢である。内外面共に赤色塗彩を施し、中位に貼付突帯と等間隔に二つずつ並んだ浮文を 5 箇所所有する。類例が下郡遺跡群第 90 次 SX464 から出土。133～148 は鉢 D1 で、口縁部に屈曲を有する深鉢である。133～136 は小形、137～148 は中形の鉢である。140 は外面にススの付着がみられる。144 は内湾する口縁端部を有する。148 は屈曲部に貼付突帯を有する。149・150 は鉢 D2 で、口縁部に屈曲を有する深鉢である。共に屈曲部に貼付突帯を有する。150 は内面にススが付着。151・152 は鉢 F で、口縁部に屈曲を有する台付鉢である。151 は曲線的に外反する口縁部を有し、胴部中位の器壁が薄い。153・154 は鉢 B2 で、深鉢である。共に尖底で器壁が厚い。154 は内湾する口縁部を有する。155 は弥生土器鉢。平底を呈し、口縁部に歪みが見られる。156 は分類不明の平底の鉢で、外器面全体に指頭圧痕が見られるため凹凸が著しい。

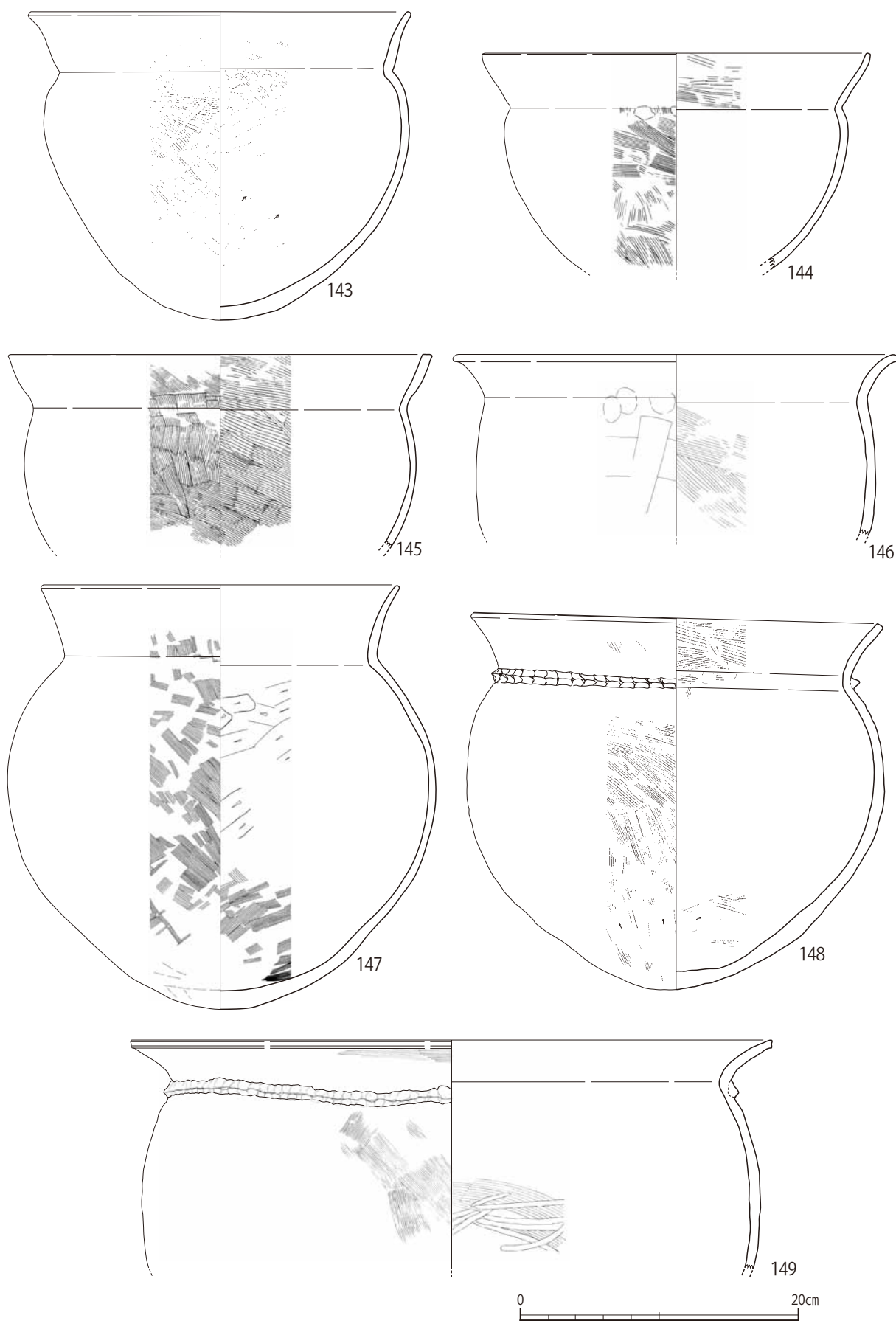
23SD001 から出土した鉢は、丸底化した底部形状を呈するものが大半である。胴部も 150 をはじめ、球形化したものが多い。このことから、23SD001 出土の鉢は主として古墳時代前期前葉（古相）から古墳時代前期後葉の所産であると考えられるが、平底の底部を有する小形の鉢（155）や長胴を呈する深鉢（153・154）もみられることから、弥生時代後期末所産の遺物も僅かに含まれていると思われる。



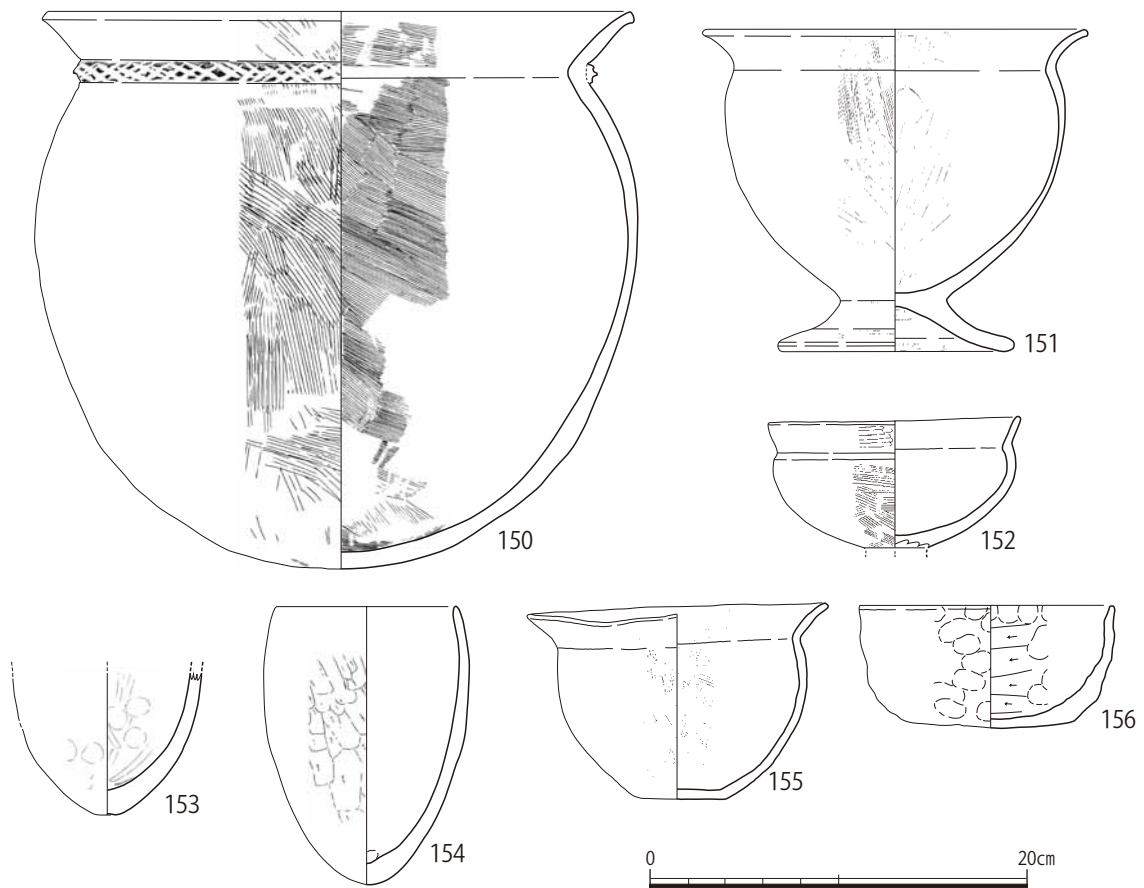
第 27 図 23SD001 出土遺物実測図 5 (1/4)



第 28 図 23SD001 出土遺物実測図 6 (1/4)



第 29 図 23SD001 出土遺物実測図 7 (1/4)



第30図 23SD001 出土遺物実測図8 (1/4)

壺形土器 (第31図～第40図)

今回掲載した大道遺跡群第20次・23次・32次検出の溝状遺構からは、多くの土師器壺形土器が出土している。出土点数が多いため、壺形土器を形態からA～E類に分類し、分類表に基づいて記述した。壺A類：小形の丸底壺・鉢、壺B類：直口壺、壺C類：単口縁壺、壺D類：複合口縁壺、壺E類：二重口縁壺である。

ここでは、23SD001 出土の壺形土器について述べる前に、今回の分類について説明を加える。分類表については、第189図に掲載している。

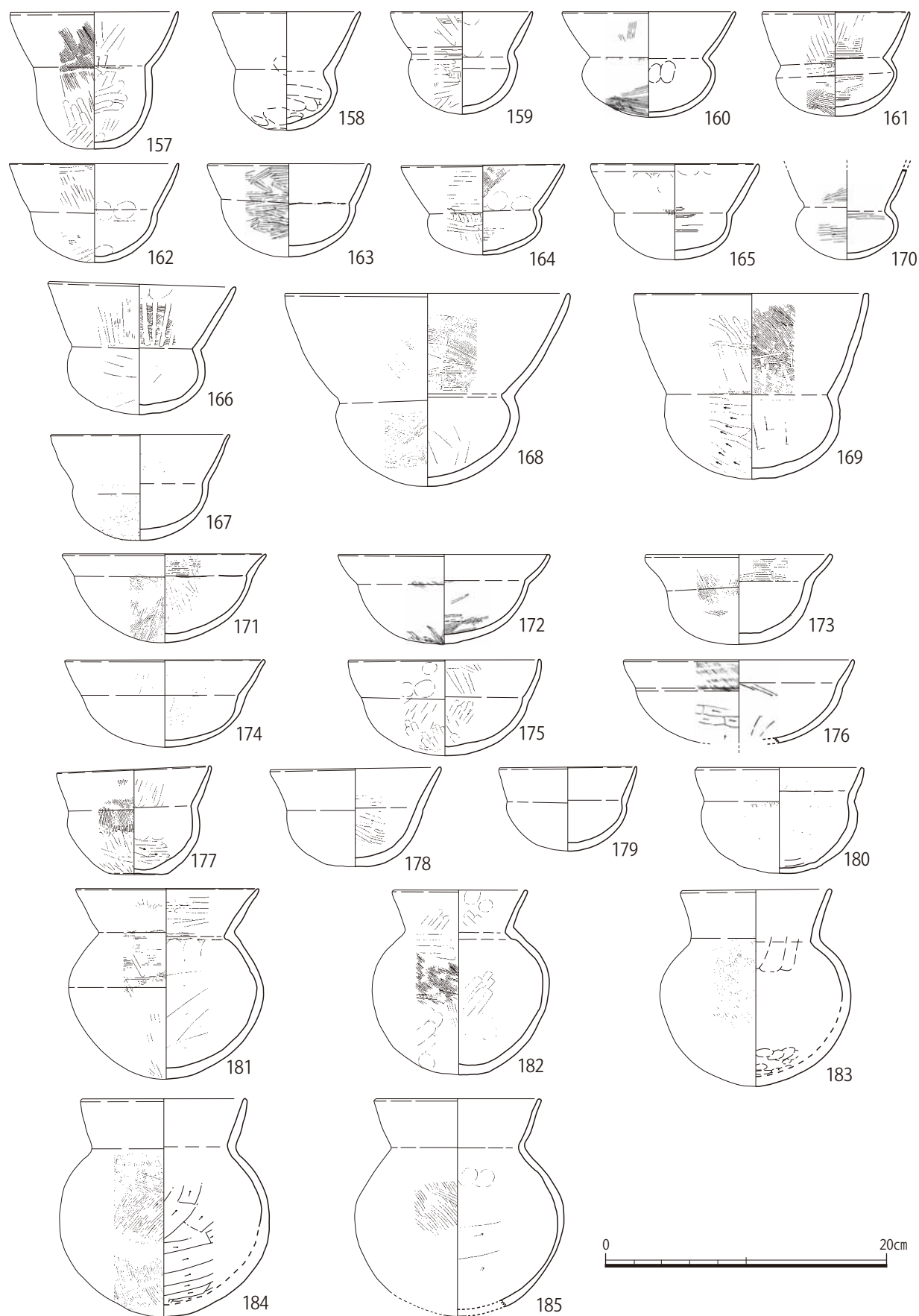
壺A類は、小形の丸底壺・鉢。壺A類には、大きく分けて①いわゆる畿内の影響のもとに成立した小形精製器種を構成する小型丸底壺と、②口縁部が、「く」の字形に屈曲する小形鉢から発展したもの、③さらに両者の影響を受け成立したと考えられるもの、があると考えられる。これらを一括し、主に形態の違いや、器高に対する口縁高の割合、口径に対する器高の割合などでさらに細分した。

①は、壺A-a類～壺A-b類、②には壺A-c類、③には壺A-d類～壺A-h類が、概ね相当すると考えられるが、調整技法の検討などから、更に細分できる可能性がある。

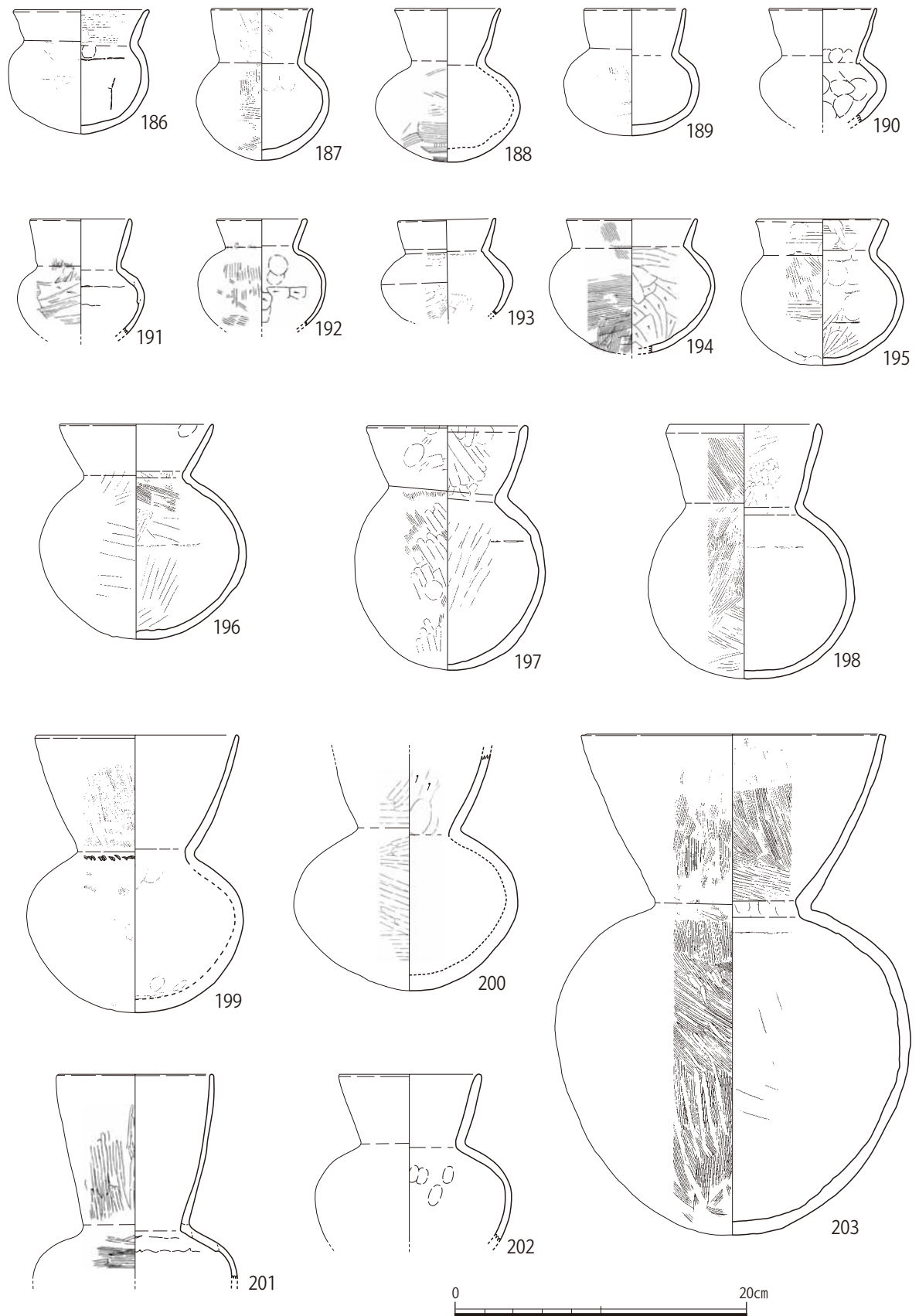
本書に掲載した次数で出土した壺A類の遺物は、ミガキを多用する精製と呼べるものは少なく、特に壺A-d類～壺A-h類は、器壁が厚く、粗い作りのものが多い傾向にある。外面はハケ目もしくは、ケズリのままなど、調整に手抜きがみられる。底部はほぼ丸底化している。

壺B類は、直口壺。おもに、器高15cm～20cm程の法量が主体であるが、30cmを超える大形品も混じる。口縁部高の器高に対する割合でさらに細分した。口縁部高が、概ね器高の1/3を超える資料が主である。口縁端部が外反する資料と、内湾する資料がある。内外面の調整は、ミガキ、ハケ目、もしくはナデである。

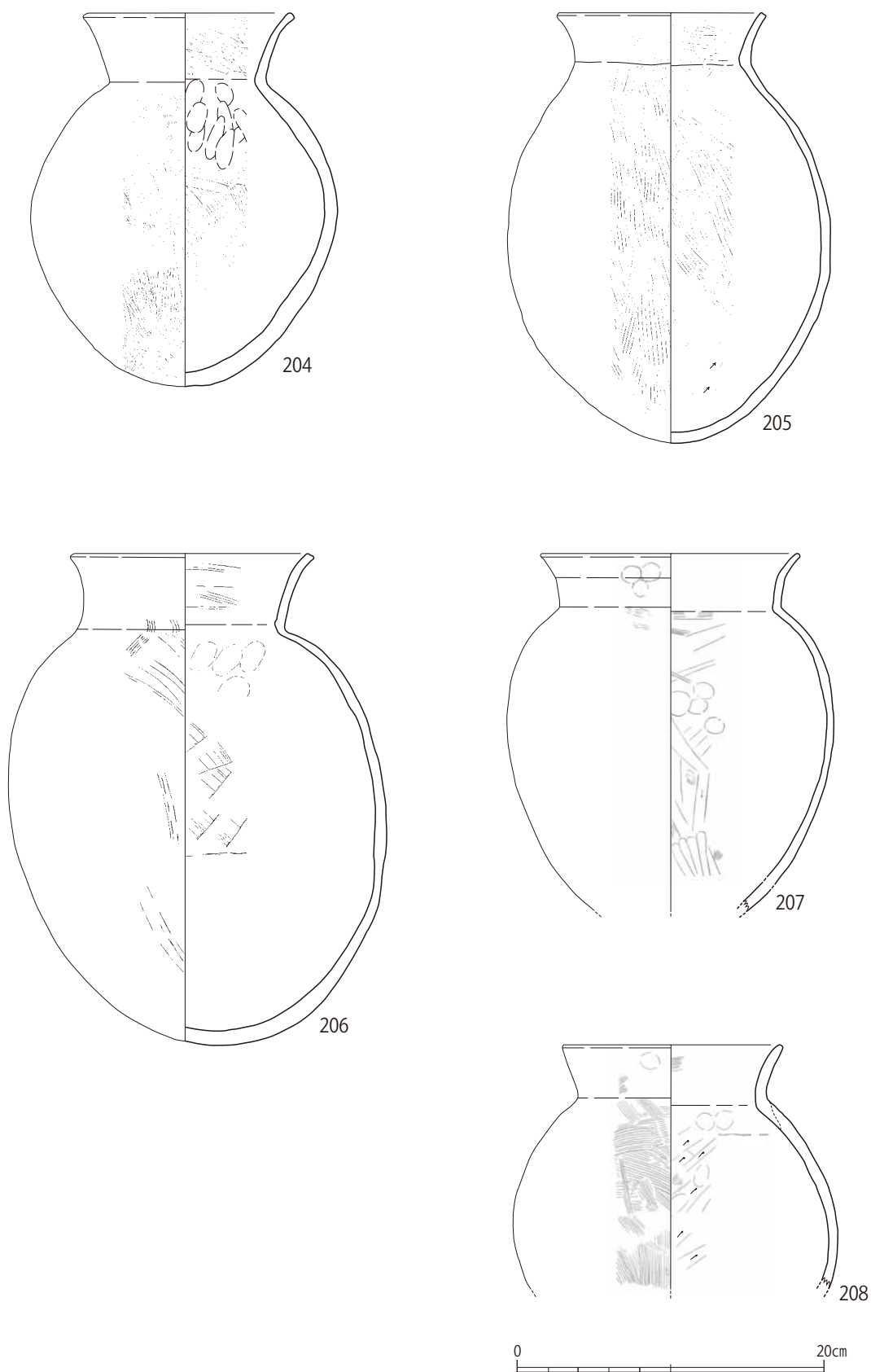
壺C類は、単口縁壺。器高15cm～20cmほどの中形のものと、25cmを超える大形の器種がある。底部は丸



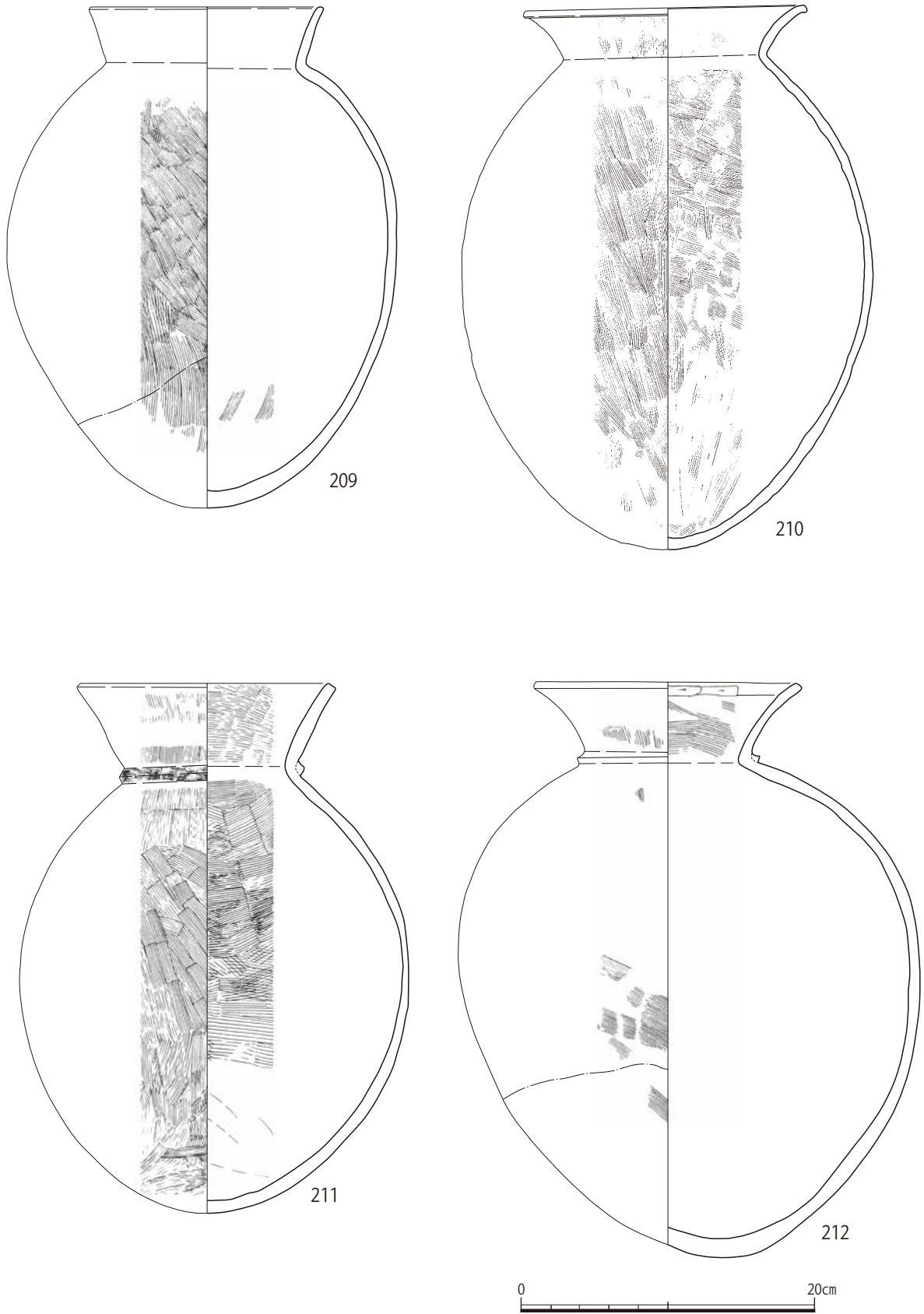
第 31 図 23SD001 出土遺物実測図 9 (1/4)



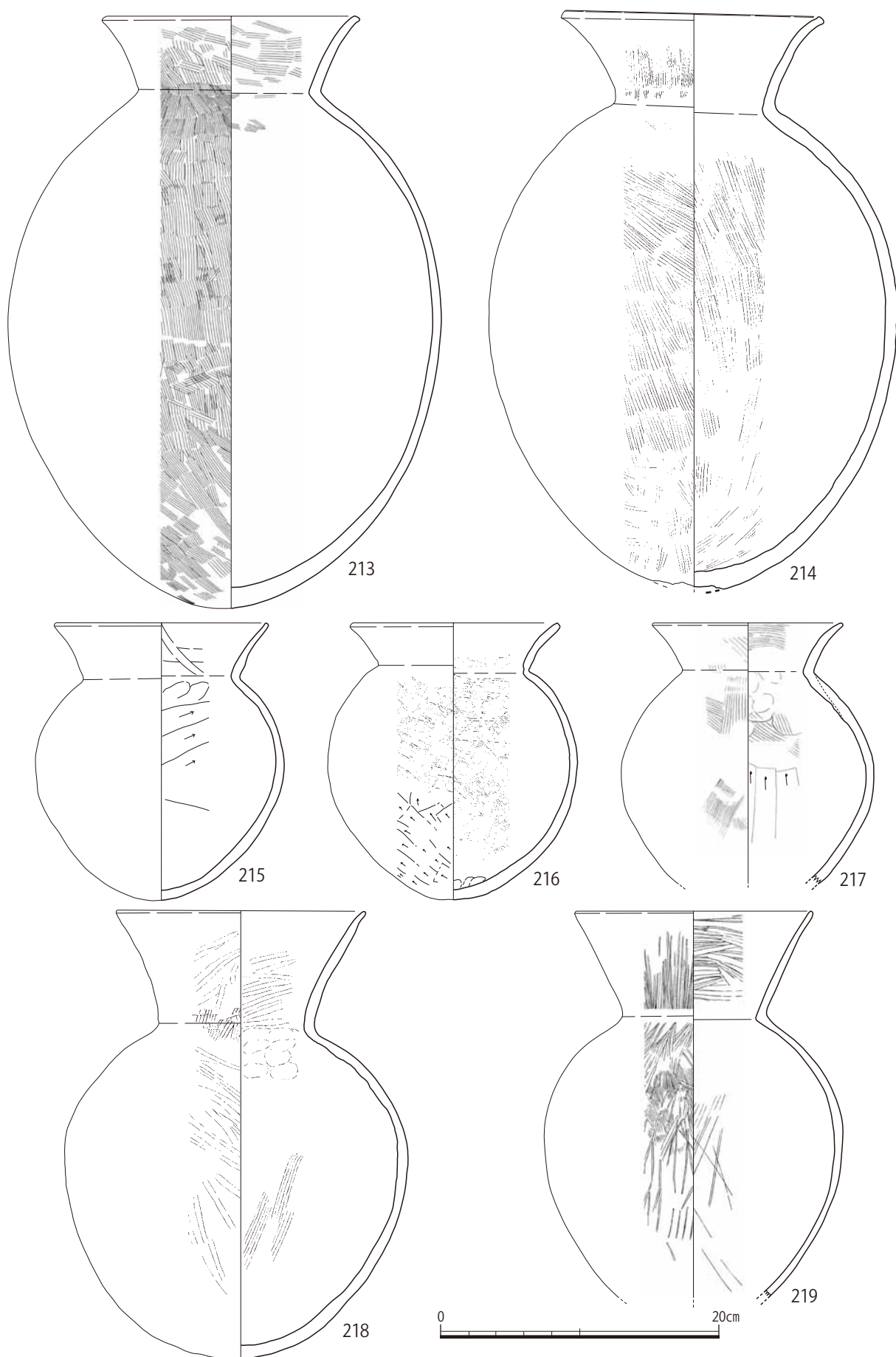
第 32 図 23SD001 出土遺物実測図 10 (1/4)



第 33 図 23SD001 出土遺物実測図 11 (1/4)



第 34 図 23SD001 出土遺物実測図 12 (1/4)



第 35 図 23SD001 出土遺物実測図 13 (1/4)

底化しており、内面調整にケズリを施す資料が存在する。長胴卵形の胴部に、外反ないし内湾気味に外方へ開く短い口縁部を有する資料（壺 C-a 類）などは、頸部に突帯を有するものがあり、弥生時代後期からの系譜をたどることができると考えられる資料である。さらに、胴部は長胴形であるが、より直線的に長い口縁部を有する資料（壺 C-b 類）や、球形化のすすんだ胴部に外方へ開く口縁部を有する資料（壺 C-c 類）などは、外来系の影響を少なからず受けているものと考えられる。

壺 D 類は、複合口縁壺。弥生時代から続く在地系の「安国寺式」タイプの複合口縁壺（壺 D-a 類～壺 D-c 類）と、外来系（山陰系）と考えられるタイプの複合口縁壺（壺 D-d 類）がある。安国寺式タイプの複合口縁壺は、胴部、頸部の突帯の有無でさらに細分した。複合口縁部の立ち上がりが直線的で、胴部、頸部の突帯が省略される資料（壺 D-c 類）ほど、複合口縁部に施文される櫛描波状文が粗雑化し、調整の粗いものが目立つ傾向にある。外来系（山陰系）と考えられる複合口縁壺（壺 D-d 類）は、内面に横方向のケズリが施され、器壁が薄いものがある。

壺 E 類は、二重口縁壺。一次口縁部との境がスムーズで、二次口縁部が大きく外反するタイプ（壺 E-a 類）と、頸部が筒状を呈し、一次口縁との境が明瞭なタイプ（壺 E-b 類）に細分した。壺 E-a 類は、内面にヘラケズリが施されるものがあり、山陰系の影響下に成立したものを含んでいると考えられる。壺 E-b 類は、畿内系の影響を受けていると考えられる。出土数は、壺 E-a 類が多い。

23SD001 から出土した壺形土器は、すべて土師器である。

157～195 は、小形の丸底壺・鉢である。底部はほぼ丸底化している。157～163 は、壺 A-a 類で、体部が偏球形で、口径が器高より大きく、さらに口縁部が内湾気味に大きく広がり、口縁部高が体部高と同じかやや小さいタイプである。157 は体部がやや長め。外面にミガキが施される。158 は、内外面に指頭圧痕が残る。160 はハケ目調整。159・161～163 は、外面調整にミガキが施される。162 は、口縁部から体部へのしまりがゆるい。163 は、やや丁寧なミガキ調整を施す。

164～170 は、壺 A-b 類で、壺 A-a 類より口縁部が長く伸長し、口縁部高が体部高を超えるものである。164 は、外面にミガキ調整。器壁が薄い。167 は内外面ともハケ目調整。中でも、168・169 の 2 点は、大分市東田室遺跡 SD111a (X6 区) で出土した「巨大な小型丸底土器」と表現されてる土器と類似している。今回の調査で出土した同形状の壺 A-b 類の小形の丸底土器と比較して、口径・器高ともに 2 倍ほどのサイズになる資料である。法量に差はあるが、形状の一致からここに掲載した。169 の外面下半はヘラケズリが施される。170 は、口縁端部が欠損しているが、壺 A-b 類であると考えられる。内外面にミガキが施される。

171～176 は、壺 A-c 類で、器高が口径の 1/2 より小さく、浅い鉢状の体部に、おおむね体部高より小さい口縁部がつくものである。171 は口縁部が内湾せず、外反気味に広がる。外面は、ハケ目調整。内面はミガキ調整が施される。172・174・175 は、内外面に、ミガキ調整が施される。173 は器壁が厚く、粗い作りである。176 は底部を欠損している。

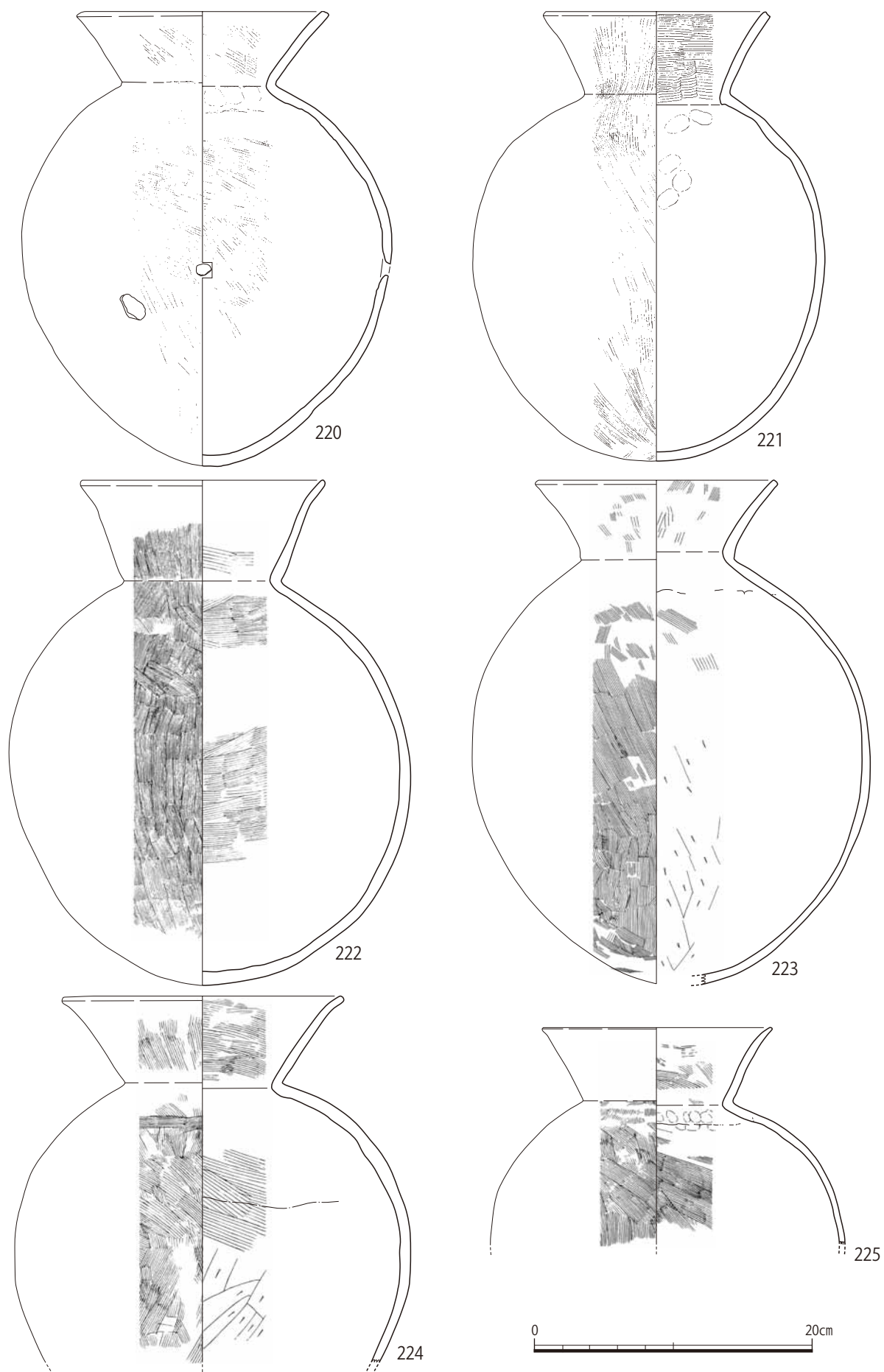
177～180 は壺 A-d 類で、内湾しつつ開きながら立ち上がる体部に、短い口縁部がつく資料である。いわゆる小型丸底壺を模倣した鉢と呼ぶべきような形態である。全体的に口縁部のしまりがゆるく、作りが粗い。ナデで仕上げる資料が多い。177 は内外面ともミガキ調整が施される。178 は内面にミガキ調整が施される。177・178 は、底部が平底である。

181 は、壺 A-e 類である。体部が偏球形で、器高の 1/3 程度の口縁部が直線的に立ち上がり、口縁部径が体部最大径に近い。内面はケズリ、外面と口縁部内面は、ミガキ調整が施される。

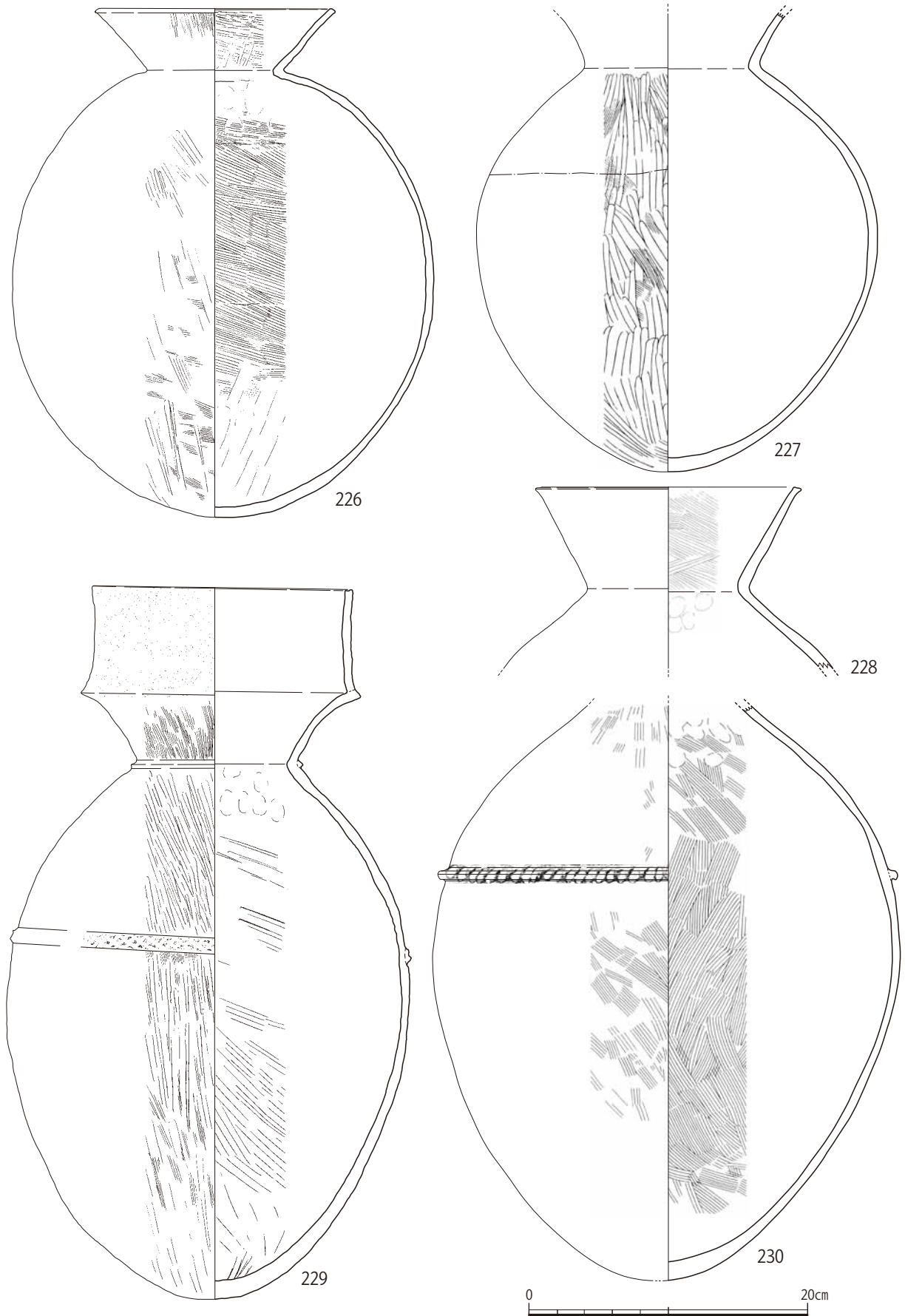
182～185 は、壺 A-f 類。体部が球形ないし偏球形で、口縁部がおおむね器高の 1/4 ほどで、最大径は胴部にある。183～184 は、内面にケズリ、外面はハケ目後ナデで仕上げられる。法量は、やや大きめである。

186 は、壺 A-g 類。内湾しつつすばまる鉢状の体部に短い口縁部がつく資料である。器壁が厚く、作りは粗い。

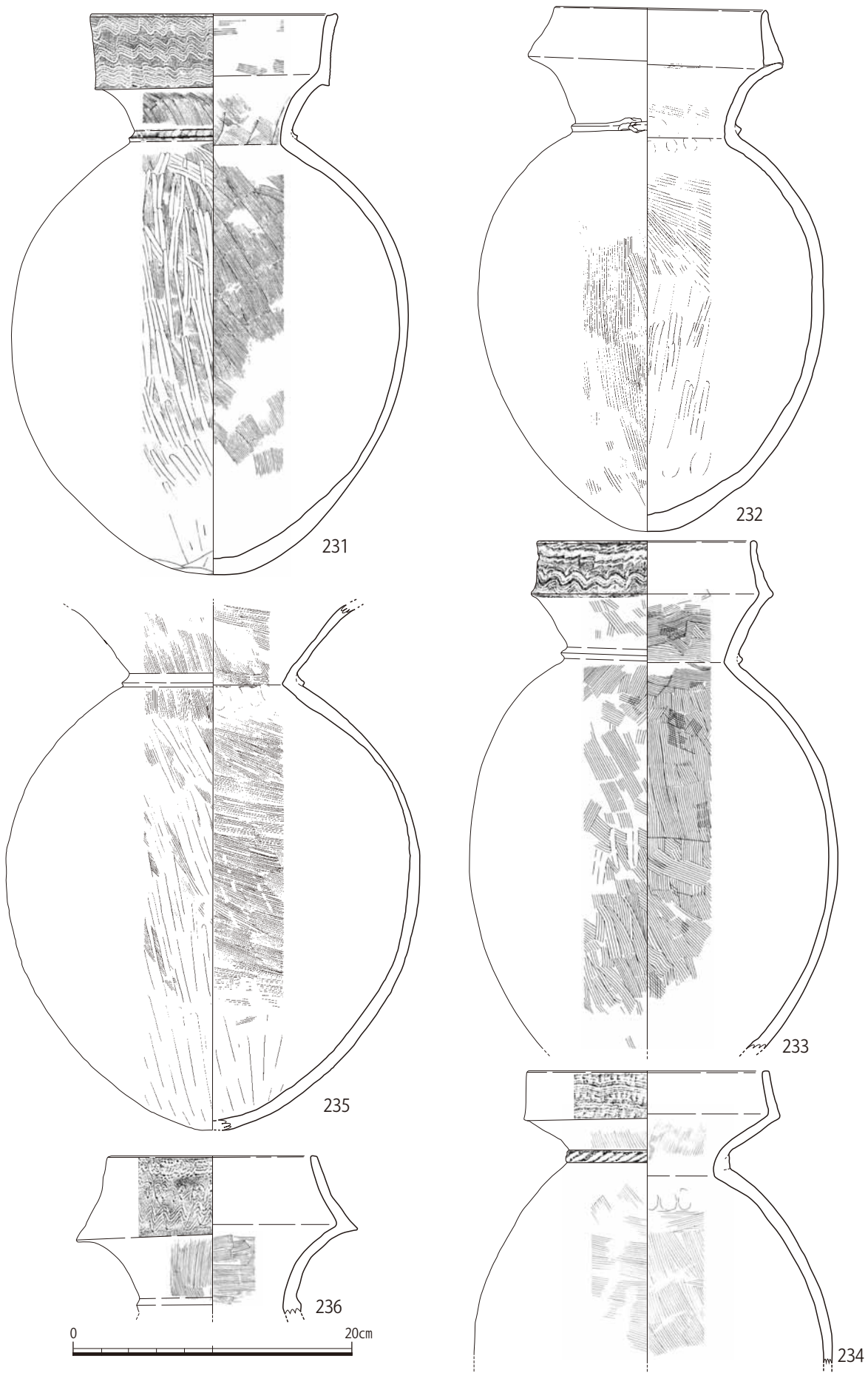
187～195 は壺 A-h 類である。口径が器高あるいは、胴部最大径より小さい。185～189 のような口縁部が長く伸長する資料と、190～193 のような短く直線的に立ち上がる資料がある。内外面の調整は、ミガキを施す資料が少なく、ハケ目、もしくはヘラケズリなどによる資料が多い。188 は内面に指頭圧痕が残る、189 は



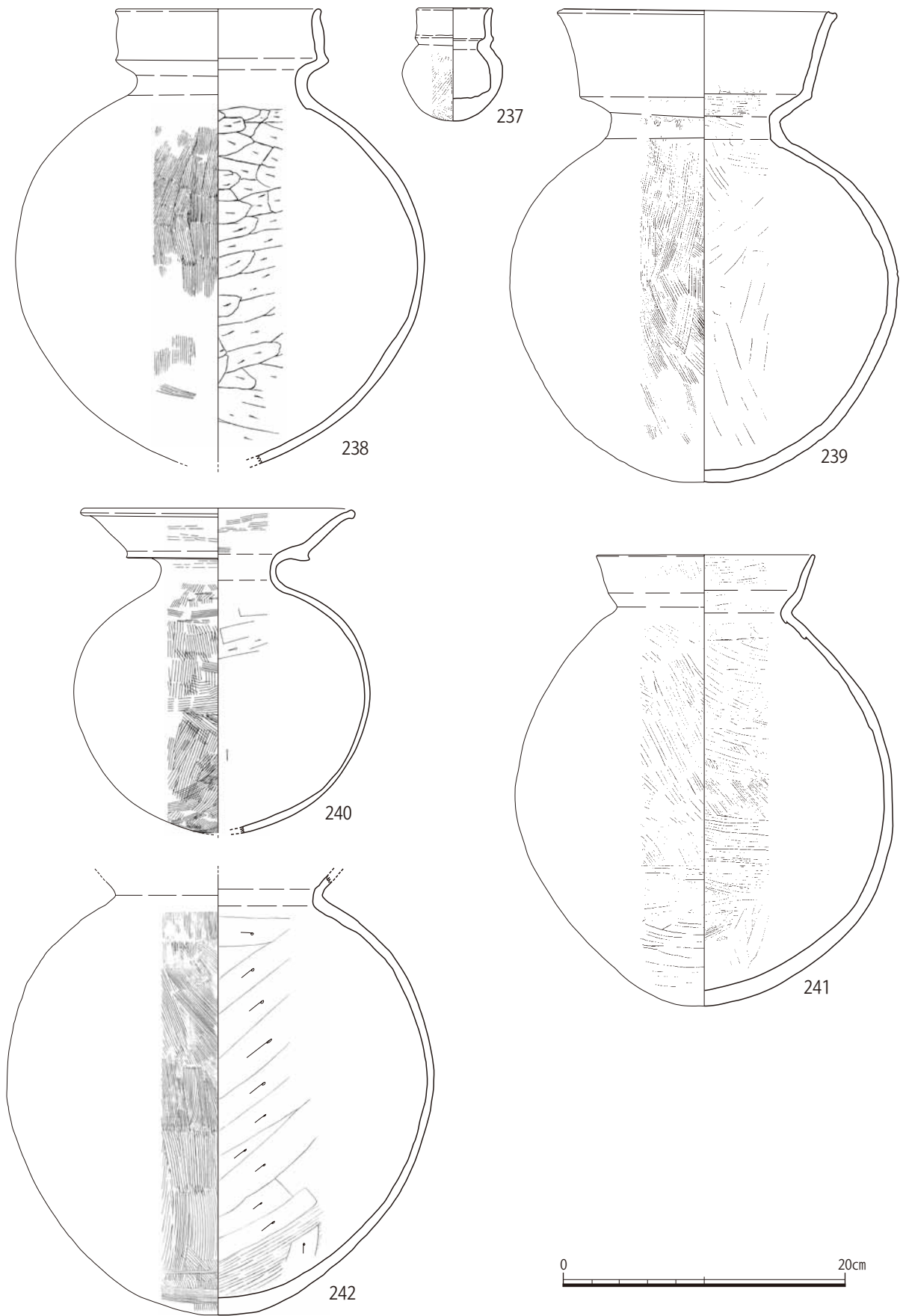
第 36 図 23SD001 出土遺物実測図 14 (1/4)



第 37 図 23SD001 出土遺物実測図 15 (1/4)



第 38 図 23SD001 出土遺物実測図 16 (1/4)



第 39 図 23SD001 出土遺物実測図 17 (1/4)

粘土接合痕が観察できる。191 と 192 は内面にヘラケズリが施される。193 は内外面とも、胴部下半にミガキが施される。185 ～ 191 は、上層からの出土遺物である。

壺 A 類の様相として、壺 A-a 類や、壺 A-b 類のようないわゆる小型丸底壺は、口縁部が伸長して、体部高の 1/2 以上を占める資料がほとんどである。ただし、口縁部が伸長して体部高を凌駕する壺 A-b 類の資料は、後述する 20SD001 に比べると、伸びが比較的少ない印象を受ける。壺 A-d 類のような小型丸底壺の模倣鉢と呼ぶべきような形態の資料の出土が増加しており、全体的に調整も粗い。また、口径が器高・胴部最大径などより小さい壺 A-h 類なども多数出土しており、古墳時代前期中葉でも新相を示していると考えられる。

196 ～ 203 は直口壺である。196 ～ 198 は、壺 B-a 類で、口縁部の伸びが短く全体の 1/3 程度の資料である。

199 ～ 203 は、壺 B-b 類で、口縁部高が器高の 1/3 以上の資料である。器高はおおむね 15cm ～ 20cm がほとんどであるが、なかには 203 のような器高 30cm を超えるような大形品がある。

204 ～ 228 は、単口縁壺である。204 ～ 210 は、壺 C-a 類である。長胴形の胴部に、短く外反ないし、内湾気味に立ち上がる口縁部をもつ資料である。204 などの比較的小振りな器高 25cm 程度の資料と、30cm を超える大形品がある。底部はほぼ丸底化している。外面調整はハケ目が施される。

211 ～ 214 は、壺 C-b 類で、長胴形の胴部に壺 C-a 類より伸長した口縁部を有する資料である。211・212 は頸部に突帯を有する。212 は尖底傾向。外面調整は、ハケ目を基本とする。

215 ～ 228 は、壺 C-c 類で、球形化のすすんだ胴部に外方に開く口縁部を有する資料である。215 ～ 217 は、器高 20cm 程度の小振りな資料である。218・219 は、他に比べて、口縁部が長く伸長する資料である。内外面には、ミガキ調整が施される。220 は尖底傾向で、胴部には打ち欠きが見られる。220 ～ 225 の外面調整は、ハケ目が基本である。223 は、内面にヘラケズリを施す。224・225 は底部を欠損する。224 は口縁端部が肥厚気味の資料。胴部下半にケズリが施される。226 は頸部のしまりが他資料より強く、胴部もかなり球形化がすすんでいる。外面にはミガキが施される。227 は口縁部を欠損する。外面にはミガキ調整が施される。228 は、胴部以下を欠損する。口縁部端部を面取り風に調整する。

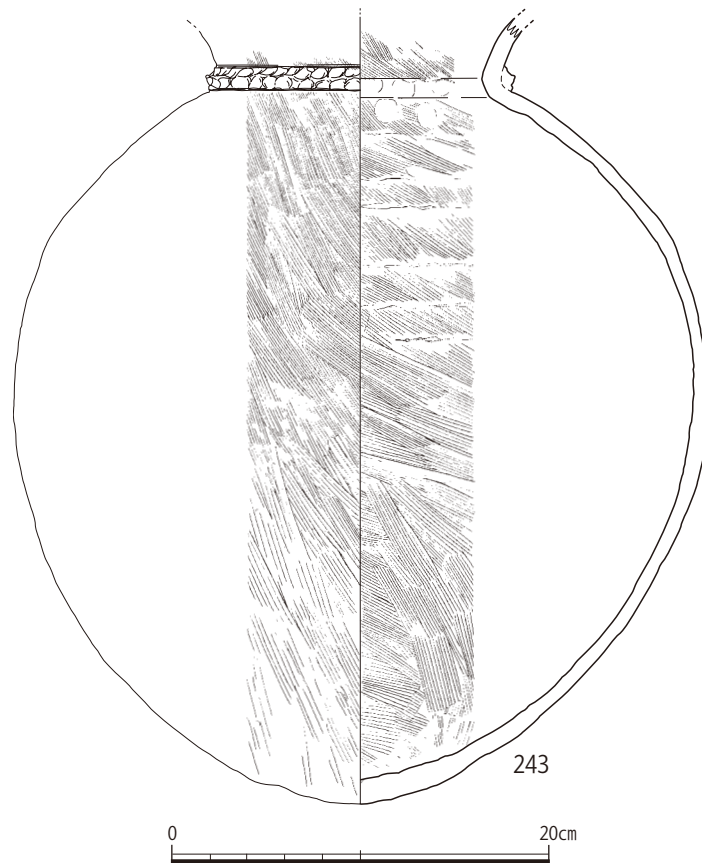
単口縁壺は、長胴形が残るものの、球形胴の資料も増加している。底部は丸底化している。内面の調整は、ヘラケズリを施す資料がやや少ない。

229 ～ 234 は、安国寺式タイプの複合口縁壺である。底部は丸底化している。229 ～ 230 は、壺 D-a 類で胴部及び頸部に突帯を有する資料である。229 は伸長した口縁部が直立気味に立ち上がり、3 段に粗めの櫛描波状文を施文する。外面はミガキ調整。230 は複合口縁部を欠損するが、胴部の突帯は安国寺式タイプの複合口縁壺に特有のものである。229 に比べ頸部がしまる。胴部は長胴である。

231 ～ 234 は、壺 D-b 類で、胴部突帯を省略し、頸部に突帯を有す。231 は垂直に立ち上がった複合口縁部に、櫛描波状文を 3 段に施文する資料である。外面にはミガキ調整が施される。外面下半は、ヘラケズリ。232 は、底部がわずかに凸レンズ状の痕跡を残し、他の資料に比べ、複合口縁部が内傾している。古相を示すと考えられる資料である。233 は直立気味の複合口縁部に長胴気味の胴部で、底部を欠損する。2 段にわたって施文される櫛描波状文は、だれた印象を受ける。234 は、胴部から底部を欠損するが、短く直立した複合口縁部をもつ資料である。235 は複合口縁部を欠損するが、口縁部の立ち上がりから、安国寺式タイプの複合口縁壺であると考えられる。外面は下半にミガキ調整が施される。236 は複合口縁部のみの破片資料。頸部に突帯を有する。

安国寺式タイプの複合口縁壺は、長胴形の資料が残るものの、球形化のすすんだ資料もみられる。複合口縁部の立ち上がりが直線的で長く、施文される櫛描波状文の粗い資料がある。23SD001 からは、胴部及び頸部突帯を省略する壺 D-c 類は出土していない。内面の調整は、ハケ目が主体である。

237 ～ 239 は、壺 D-d 類で、山陰系の複合口縁壺と考えられる資料である。237 は小形の資料。底部がかなり厚い。238 は、直立する口縁部に肩の張った胴部の資料である。内面には丁寧な横方向のヘラケズリが施され、器壁が薄くなっている。底部は欠損する。20SD001 出土資料と遺構間接合している。239 は、複合口縁部が 238 より伸長する。胴部は球形化が進み、内面にはケズリ後ナデ調整が施される。



第 40 図 23SD001 出土遺物実測図 18 (1/4)

240・241 は、壺 E-a 類で、山陰系の二重口縁壺と考えられる資料である。240 は底部の一部を欠損する。内面には、ケズリ後ナデ調整が施され、器壁は薄い。二重口縁部にはミガキが施される。一次口縁から二次口縁への移行はスムーズで、口縁端部は玉縁状に肥厚している。241 は、口縁部形状に二重口縁形状への意識が感じられる資料である。最大径が胴部下半にあり、下膨れの印象を受ける。内外面ともハケ目調整が施される。242 は口縁部を欠損するため、全体形状は不明であるが、球形化のすすんだ胴部に、内面に横方向のケズリが施され、器壁が薄いことなどから、山陰系などの外来の影響を受けている資料と考えられる。外面はハケ目調整が施される。243 は口縁部を欠損する。頸部に突帯を 1 条有し、球形化のすすんだ胴部に、内外面ともハケ目調整が施されている。外面下半にはミガキ調整が施される。胴部形態などに外来の影響が考えられるが、在地系の壺であると考えられる。

23SD001 から出土した土師器壺は、いわゆる小型丸底壺の口縁部が伸長して、体部高より長くなっている壺 A-b 類が出土している、小型丸底壺の模倣と考えられる壺 A-d 類などの小形資料が増加している。また、口縁部が器高・胴部最大径より小さい壺 A-h 類が多く出土している。単口縁壺の胴部形態が、長胴に混じって球形化が進んでいる。安国寺式タイプの複合口縁壺では、複合口縁部が伸長し、直線的になっているなどの特徴が挙げられる。古墳時代前期中葉頃と考えられる下郡遺跡群第 90 次 SH020 や、同 92 次 SH343 出土土器と比較し、やや新相を示すと考えられる。ただし、より新相を示すと考えられる複合口縁壺の胴部及び頸部の突帯を省略するタイプ（壺 D-c 類）が見られず、小型丸底壺の口縁部の伸びも比較的短い。古墳時代前期中葉から後葉の標識となっている大分市植田市遺跡 E 区溝 I 資料との比較では、古相を示していると考えられる。全体としては古墳時代前期中葉でも新相を示し、古い様相を示す壺 C-a 類とした資料なども、古墳時代前期中葉の範疇におさまると考えられる。

甕形土器（第 41 図～第 57 図）

大道遺跡群第 20 次・23 次・32 次出土の土師器甕資料は本稿に掲載した完形に近い資料だけでも 500 点以上を数える。それらの遺物の所産時期は古墳時代前期に相当すると考えられる。大道遺跡群内の既往の調査による該期の遺構、遺物の様相も今次報告と同様の結果が得られている。また、該期の大分平野における甕の様相は「長胴タイプ（在地系）を残しつつも、丸底化し球形タイプ（外来系）の甕へと暫時移行していく」ということが先学により指摘されている。

ここでは以上の点を踏まえ、各次数別溝状遺構出土の土師器甕の様相についてを検証するために、下記の基準においてまず次数別に分類を試みる。その上で、検討遺構が溝状遺構であることを念頭におきながら、分類したタイプを先学諸氏の編年と比較検討し、時間的な位置付けを明らかにする。さらに、検出長 60 m を超える環濠において、廃棄された地点により出土遺物間に時期的な様相差が認められるのか。タイプ別出土個数の変移等をみながら検討したい。

分類は、出土した多様な甕を法量の上で「大甕」「中甕」「小甕」に分別する。次に、大甕・中甕を長胴タイプと球形タイプに分け、前者を A 類、後者を B 類とする。長胴と球形を分別するために、器高と最大胴部径を使用し球形率を算出した。この数値が 1 に近ければ近いほど球形となる。その結果 0.8 付近を境に大きく二つに分ける事ができたため、0.8 以上は球形、未満は長胴とみなしている。さらに、口縁部の形状により外反するものを 1 類、直線的に立ち上がり外傾するものを 2 類として細分する。また、頸部の締まり具合、底部形態によっても下記の基準に基づき分類する。頸部の締まり具合は頸部径と口径を使用し算出した。その結果、0.75 付近を境に分けることが可能であったため、0.75 以上は締りがゆるいものとして a 類、0.75 未満の締りが強いものは b 類としている。底部形状は、尖底もしくは尖底状に近いものを i 類、丸底またはそれに近い丸底状を ii 類とする。なお、小甕については多様のバリエーションが認められ、甕資料としているものの、小壺もしくは小形鉢等との判別が困難な資料も存在したため、細分類は行わず、一括して報告する。

《分類属性のツリー》

大甕・・・器高 29cm 以上のもので口径は概ね 19cm 以上

中甕・・・器高 18 ～ 28cm のもので口径は概ね 15 ～ 18cm

A・・・長胴タイプ（0.8 以下）

B・・・球形タイプ（0.81 以上）

1・・・口縁部が外反するもの

2・・・口縁部が直線的に立ち上がり外傾するもの

a・・・頸部の締りの緩いもの（0.75 以上）

b・・・頸部の締りの強いもの（0.75 未満）

i・・・尖底状のタイプ

ii・・・丸底状のタイプ

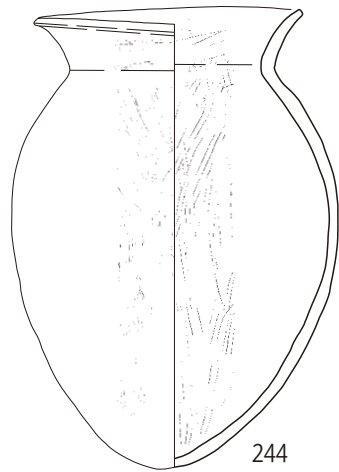
小甕・・・器高 18cm 未満のもので口径は概ね 14cm 以下

（例）

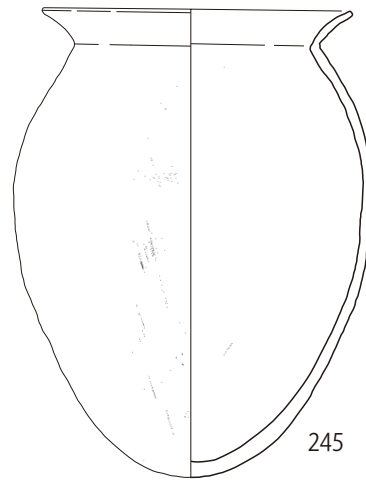
大甕 A1-ai・・・法量は大で長胴タイプ、口縁部は外反し、頸部の締まりは緩く、尖底状のもの

中甕 B2-bii・・・法量は中で球形タイプ、口縁部は直線的に外方へ外傾し、頸部の締まりは強く、丸底状のもの

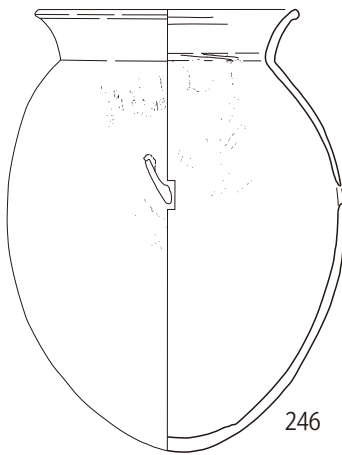
上記分類表は第 190 図に掲載している。また、これら数百点にのぼる個々の資料の詳細については紙面の都



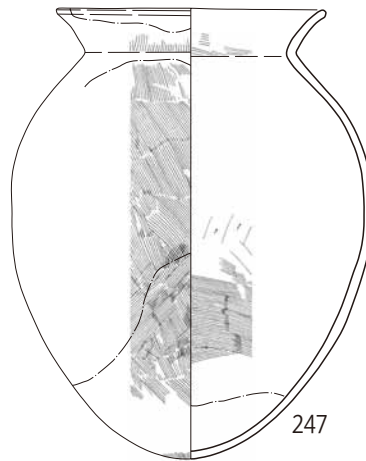
244



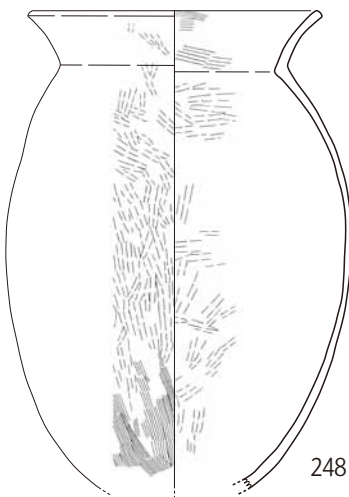
245



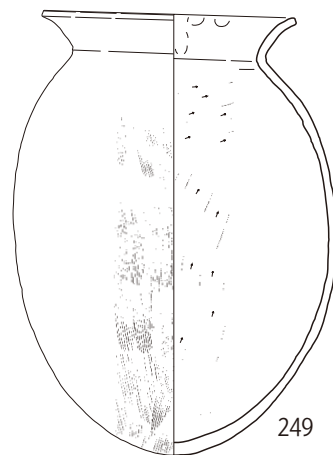
246



247



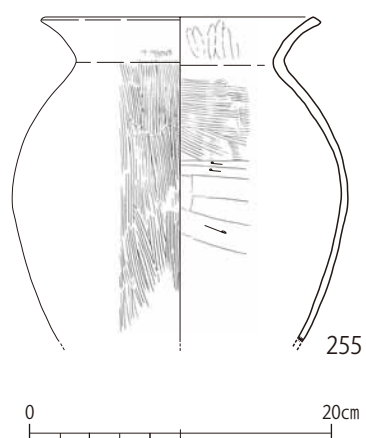
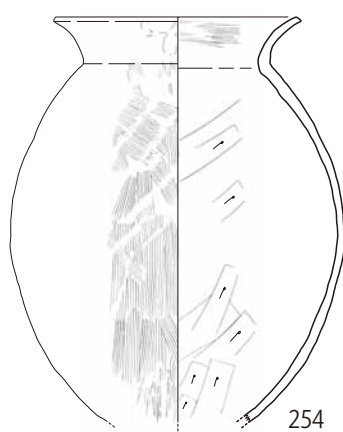
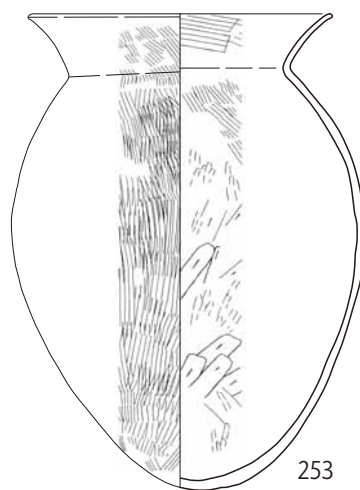
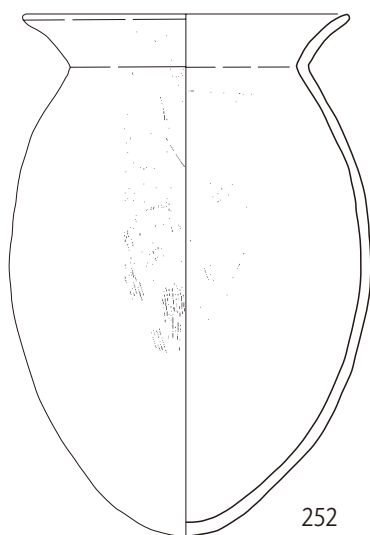
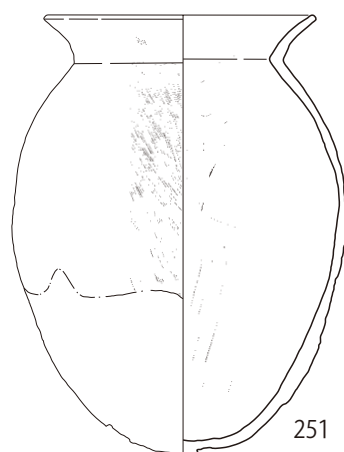
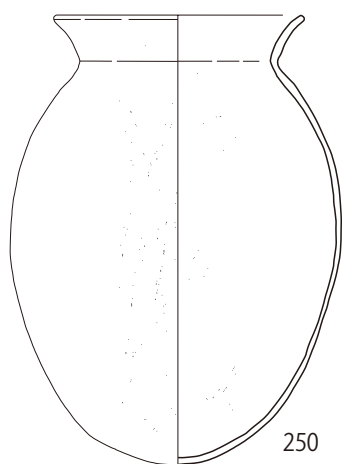
248



249



第 41 図 23SD001 出土遺物実測図 19 (1/5)



0 20cm

第 42 図 23SD001 出土遺物実測図 20 (1/5)

合上すべての報告が困難なため、ここでは主に各分類の代表的な資料や特記すべき資料について説明をくわえる。

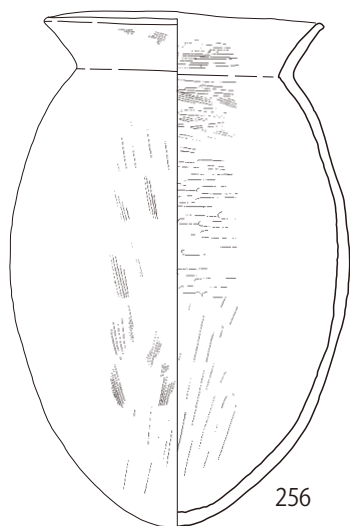
244 から 260 は大甕 A と分類した資料である。法量は器高 29cm 以上、口径 19cm 以上を測るもので、球形率は 0.8 以下のものである。

244 ～ 247 は頸部のしまり具合はゆるく、底部形態は尖底を呈する大甕 A1-ai である。

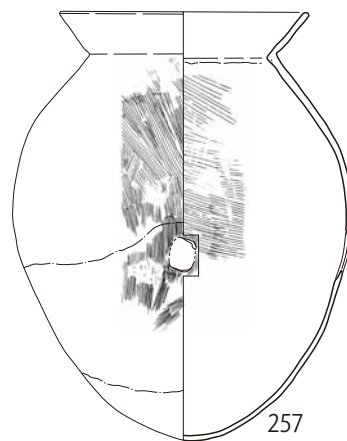
244 は口径 17.8cm、器高 30.6cm、最大胴部径 21.6cm であり、口縁端部は外方に丸く納まる。外面はハケ目、内面はミガキ調整が認められる。胎土中には石英粒、長石粒、雲母粒等が含まれる。胴部の膨らみは胴部中位より少し上にあり、底部形状は尖底、凸レンズ状の名残を残す資料である。246・247 は同じく大甕に分類されるものであり、頸部の締りは緩く、調整は外面・ハケ目、内面・ミガキあるいはハケ目が認められる。口縁部は外反しており、口縁端部は丸く納まる。

248 ～ 251 は大甕 A1-aii に分類されるものである。球形率は 0.8 未満であり、口縁部は外反し、頸部の締りは緩い。底部形状は丸い。252 ～ 255 は大甕 A1-bi および大甕 A1-b タイプに属する資料である。252 は大甕 A1-bi に分類されるものであり、口径 21.6cm、器高 34.5cm、最大胴部径 23.8cm を測り、口縁は外反する。頸部の締りは、0.75 以下で締りが強く底部は尖底状をなす。253 は大甕 A1-bi に属するが口縁部は他資料に比して長い。また、内面にハケ目調整後ケズリが認められる。254・255 は大甕 A1-b タイプである。口縁部は外反し、口縁端部は平坦に納められる。肩部はナデ型状を示し、胴部の膨らみは中央付近で最大である。255 にあつては口縁端部を平坦に仕上げた後、その中央部が浅く凹む。また、内面頸部にはっきりとした稜はなく平坦に仕上げられる。このような特徴は在地の甕には認められず、外来の制作技術を模倣したと考えられる。256・257 は大甕 A2-ai である。256 は口径 18.5cm、器高 34.1cm、最大胴部径 22.6cm を測る。内外面ともに橙色を基調とし、口縁部は直線的に立ち上がり外傾する。調整は内外面ともにハケ目、ケズリが実施される。球形率は 0.66 と低く、長胴の資料である。底部形状は尖底をなす。257 は 256 と同様の大甕 A2-ai であるが、球形率は 0.8 を示し大甕 B に近く、A と B のボーダーライン上の資料である。口縁部は中位付近で肥厚しながら直線的に立ち上がり外傾する。頸部内面の稜は明確である。肩部はナデ肩状を呈しており、胴部中央付近には打ち欠きと推定される穿孔が認められる。いわゆる布留式系甕の影響を受けた模倣甕と考えられる。258・259 は大甕 A2-aii に分類される資料である。258 は口径 18.4cm、器高 31.7cm、最大胴部径 24.6cm を測る。内面は黄橙色～黒色、外面は黄橙色～橙色を呈する。ハケ目調整で仕上げられる資料であり、口縁端部は外方に丸く納まる。260 は大甕 A2-bii に分類される。口径 16.8cm、器高 30.0cm、最大胴部径 23.4cm を測る。この資料も球形率 0.79 を示し B タイプに近い。内外面はハケ目調整が認められる。頸部は稜を持って肥厚する。口縁端部は平坦面を有し微妙な凹みが認められる。261 ～ 269 は大甕 B としたものである。口径・器高は大甕 A と同様であるが、球形率が 0.8 より大きいものをさす。261 は大甕 B1-ai である。口径 22.0cm、器高 35.4cm、最大胴部径 28.8cm を測る。この資料は他の甕資料に比して大きく目を引く資料である。内面は橙色、外面は明褐灰色を呈し、胎土中には長石、角閃石等を含む。調整は内面・ハケ目、ケズリ、外面はハケ目が認められる。口縁部は外反し、頸部付近は肥厚し、明確な稜を持つ。262 ～ 265 は大甕 B1-a に属する資料である。262 は復元口径 16.4cm、器高 28.5cm、最大胴部径 23.3cm を測る。ナデ肩状の形状を示すが球形率は 0.82 を示し胴部は丸味が増す。内面は強いナデ、外面はハケ目により調整される。口縁部は直線的に立ち上がり外傾する。口縁端部は平坦に仕上げられる。底部はわずかに欠損しているが、形状は丸い。265 は口径 18.3cm、器高 28.6cm、最大胴部径 24.4cm を測る。内外面ともにハケ目により調整される。胴部の膨らみは胴部中央より上位にあり、口縁部はわずかであるが肥厚しながら外傾する。胴部の器壁は薄いが頸部は稜をなし、肥厚する。266・267 は底部が欠損するため大甕 B1-a タイプとなるものである。いずれも外反する短い口縁部を持ち、頸部の締りは緩い資料である。268・269 は大甕 B2-b タイプに属する資料であり頸部が締まるものである。270 は広口甕と考えられる資料である。このタイプは 1 点のみの出土である。復元口径 27.6cm を測る。内外面ともにハケ目により調整される。内面は黄橙色～赤色、外面は橙色～黒褐色を呈する。

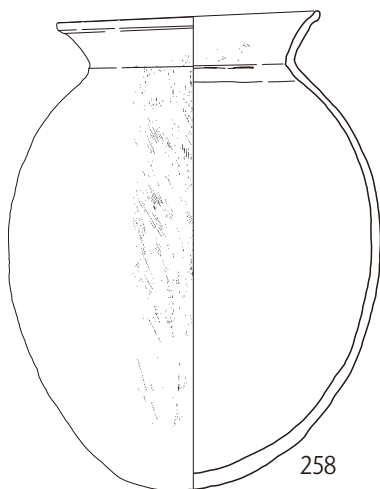
271 ～ 295 は口径 15cm ～ 18cm、器高 18cm ～ 28cm 前後を測り、球形率 0.8 未満の中甕 A に属する資料



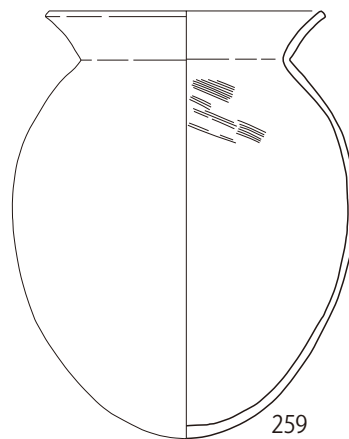
256



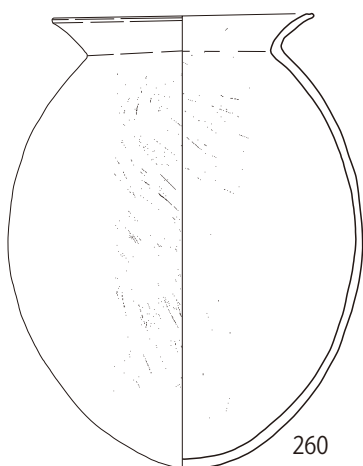
257



258



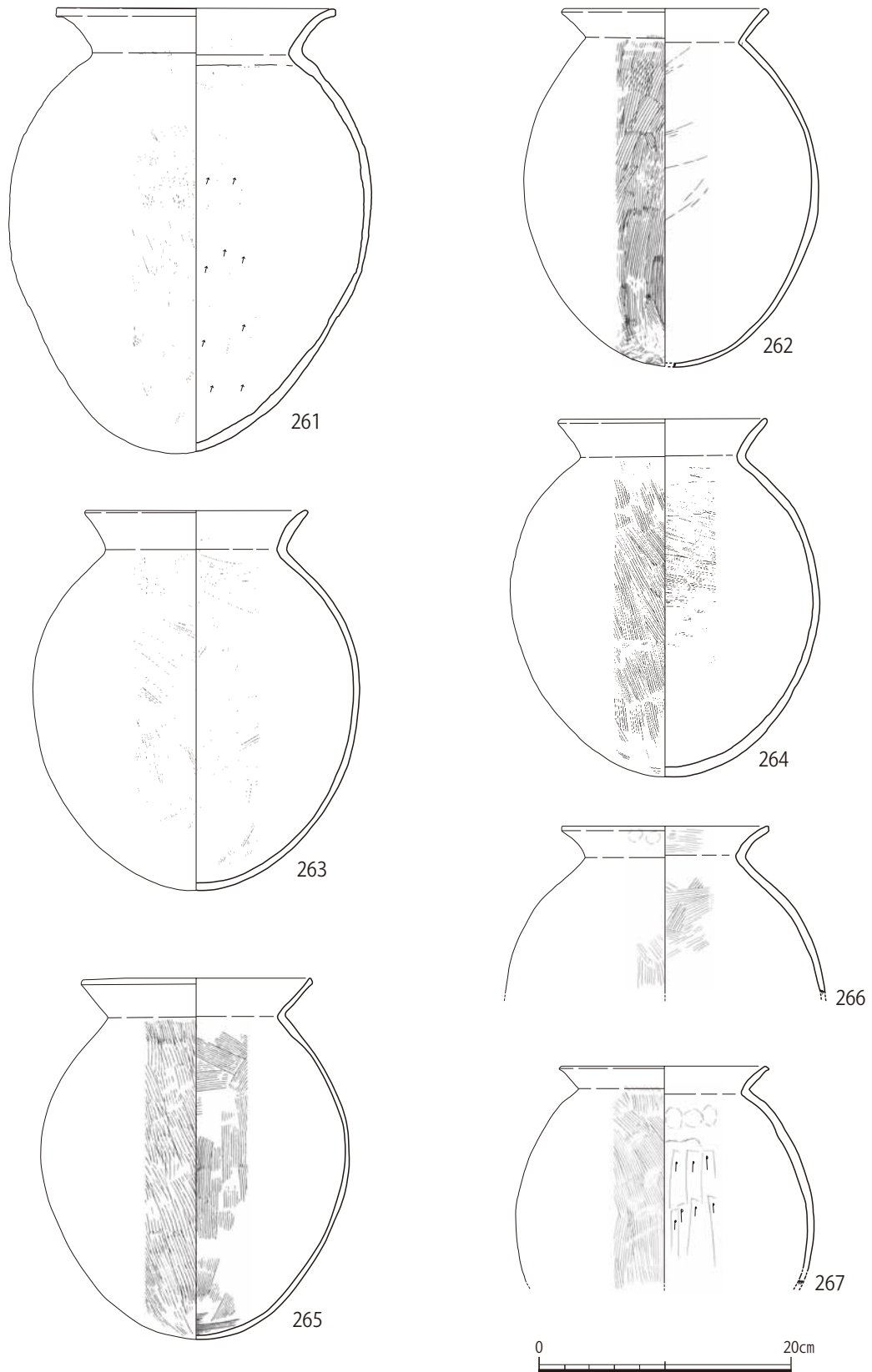
259



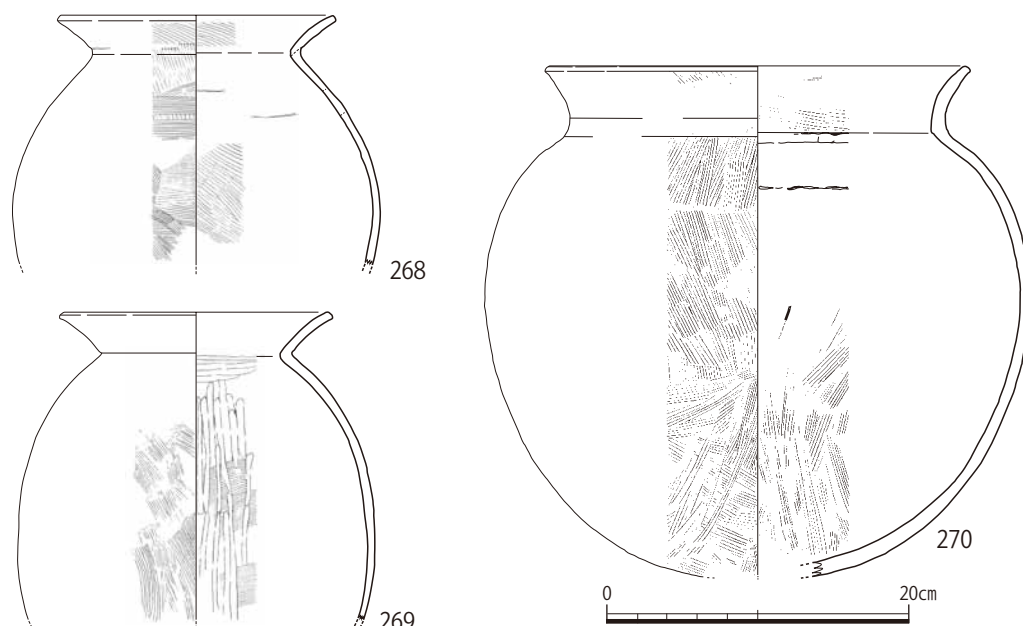
260



第 43 図 23SD001 出土遺物実測図 21 (1/5)



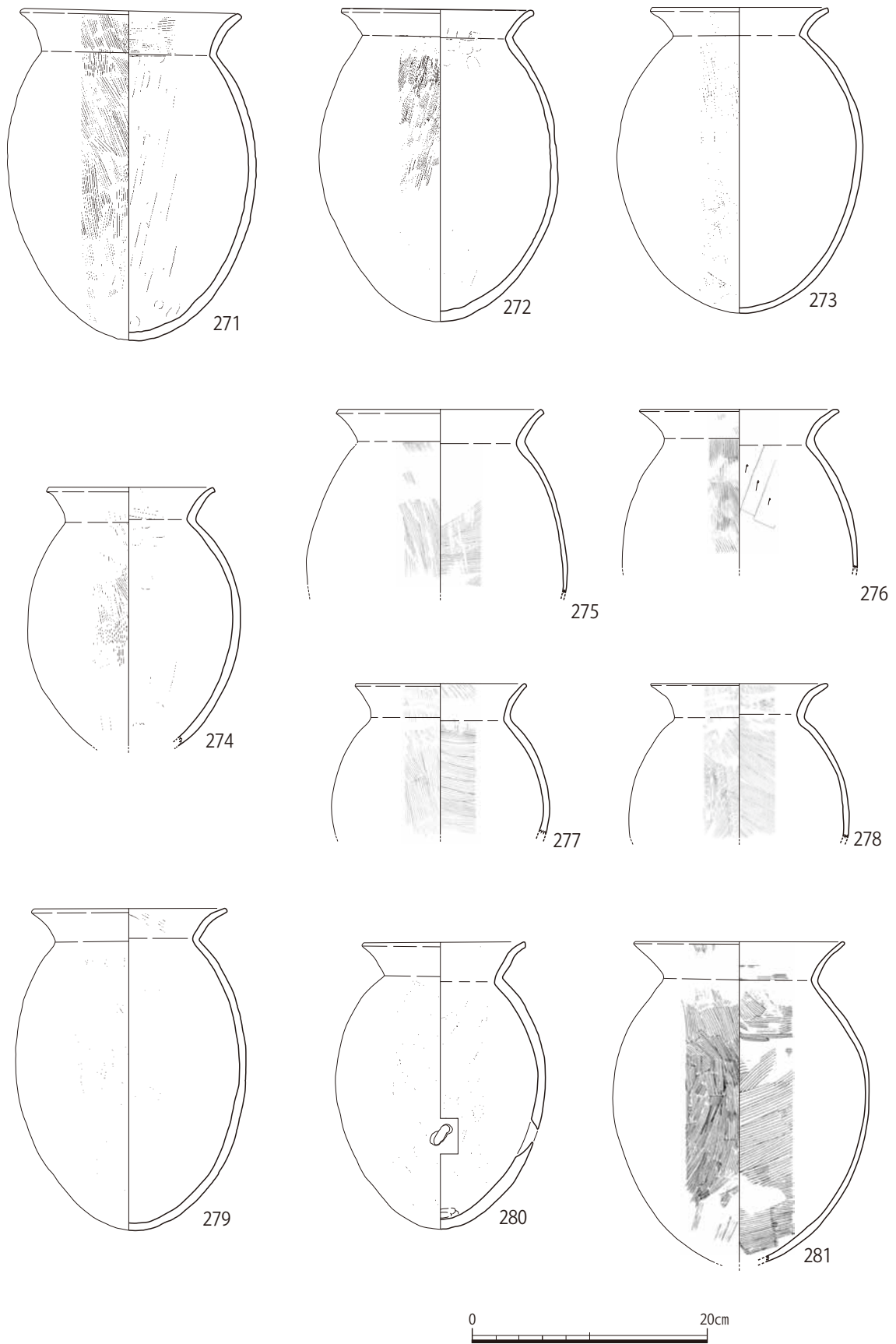
第 44 図 23SD001 出土遺物実測図 22 (1/5)



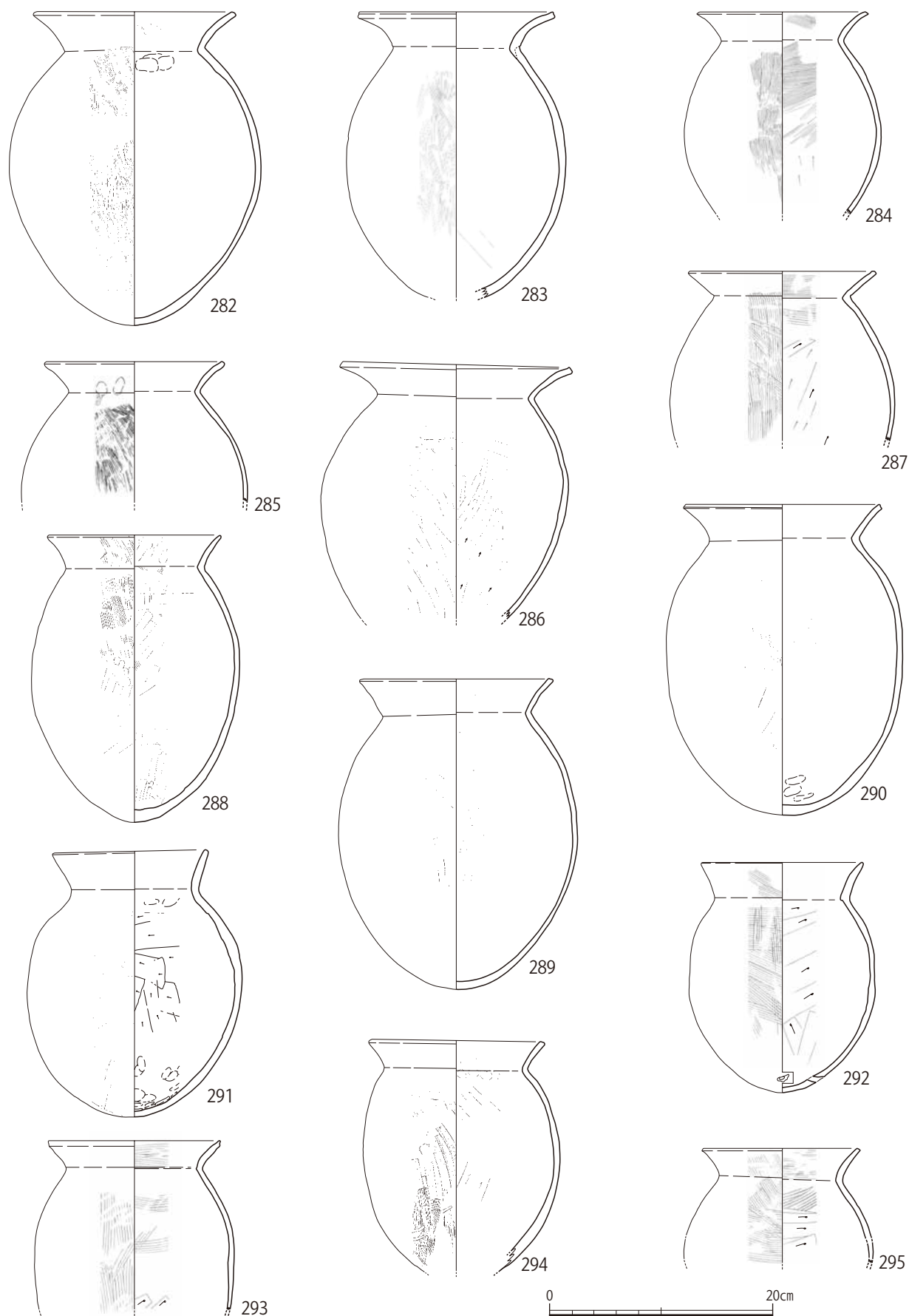
第 45 図 23SD001 出土遺物実測図 23 (1/5)

である。271・272 は中甕 A1-ai である。調整はいずれも内面はケズリ、外面はハケ目である。頸部の締りは緩い。273 は中甕 A1-aii に分類されるものである。口径 15.1cm、器高 26.0cm、最大胴部径 20.9cm を測る。外面はハケ目調整が認められる。頸部の締りは強い資料である。274 ～ 278 は底部欠損している資料である。口縁部形状と締り具合により中甕 A1-a タイプとしている。279 ～ 281 は中甕 A1-bi に属する資料である。036 は口径 16.2cm、器高 27.4cm、最大胴部径 19.6cm を測る。口縁部は外反する。内外面ともにハケ目調整が主体である。279 も同様の甕資料であるが器壁は他資料に比して厚い。口縁部は立ち上がり部分から中位にかけて肥厚している。281 は内外面ともにハケ目調整で仕上げられているものの、器壁は 279 とは対称的に胴部から口縁部に至るまでほぼ同じ厚さである。頸部の締りは強い。288・289 は中甕 A2-ai である。288 は口径 25.5cm、器高 25.5cm、最大胴部径 18.6cm を測る。内面は強いナデ、ケズリ、外面はハケ目により調整される。口縁部は外方に外傾し、頸部内面の稜が明確である。底部形状は尖底気味である。290 ～ 292 は中甕 A2-aii である。290 は口径 17.7cm、器高 27.8cm、最大胴部径 21.2cm を測る。内面底部には指頭圧痕が残りケズリ痕跡も認められる。外面はハケ目調整で仕上げられる。頸部付近は肥厚している。292 は復元口径 14.6cm、器高 20.8cm を測る。内面はヘラケズリが顕著にみられるが、器壁は厚い。外面はハケ目調整である。頸部の締りは緩いが、肩部に張りが認められるため、締りがあるようにみられる。

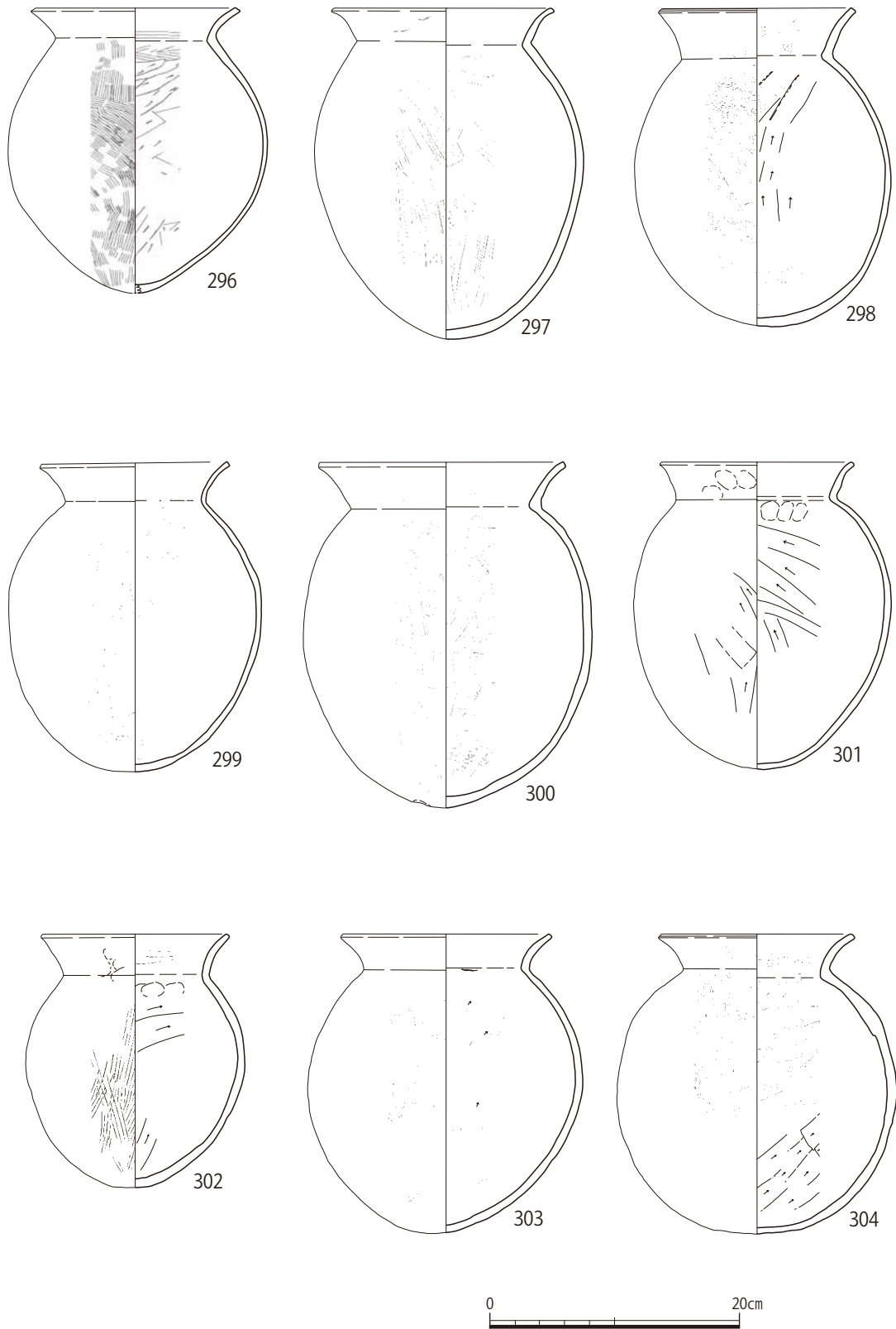
296 ～ 369 は中甕 B に属する資料である。口径 15cm ～ 18cm、器高 18cm ～ 28cm 前後を測り、球形率 0.8 以上の資料が相当する。296 は中甕 B1-ai に属するタイプである。中甕 B1 資料の中で底部が尖底状をなす資料はこの 1 点のみである。内面は胴部下位から上位にかけてケズリが認められ口頸部付近にはハケ目調整が実施される。甕全体のフォルムはナデ肩状を呈し底部は尖底状となっている。また、体部から続く口頸部内面は明確な稜を持ちながら肥厚する。いわゆる、布留式系甕の模倣甕と考えられる資料である。297 ～ 305 は中甕 B1-aii に属する資料である。297 は復元口径 17.8cm、器高 26.4cm、最大胴部径 21.5cm を測る。内外面ともにハケ目調整が認められる。口縁部は立ち上がり部分から肥厚し、口頸部の締りは緩いタイプである。301 は 297 と全体のフォルムや口縁部の形状等類似しているが、内外面の調整にはケズリが導入されている。また、304 は口径 15.7cm、器高 24.0cm、最大胴部径 22.4cm を測る資料であるが、球形率は 0.93 と明らかに球形に近いものである。内面の調整は胴部下位にケズリが認められる。313 ～ 316 は中甕 B2-ai である。314 は口径



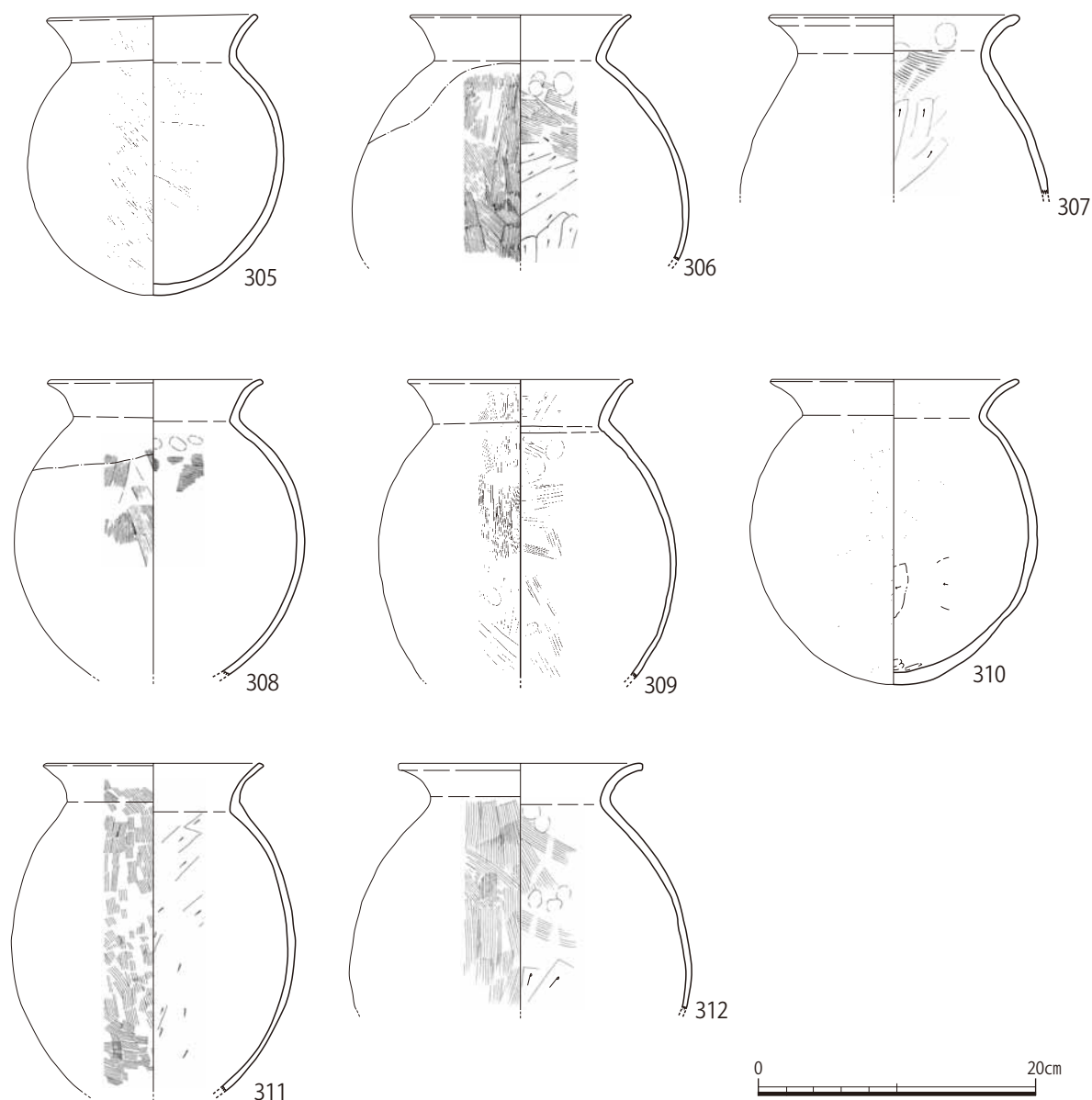
第 46 図 23SD001 出土遺物実測図 24 (1/5)



第 47 図 23SD001 出土遺物実測図 25 (1/5)

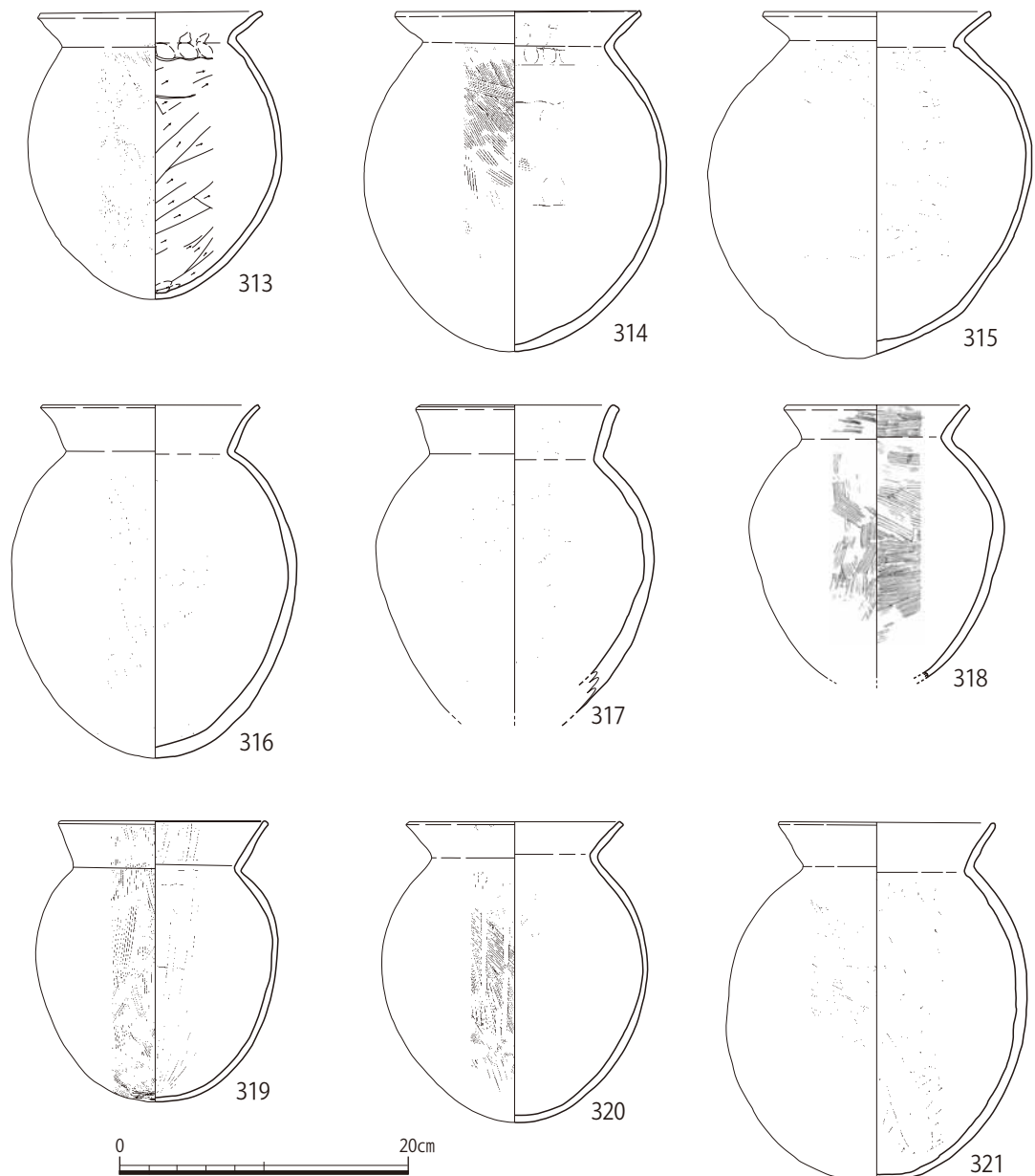


第 48 図 23SD001 出土遺物実測図 26 (1/5)



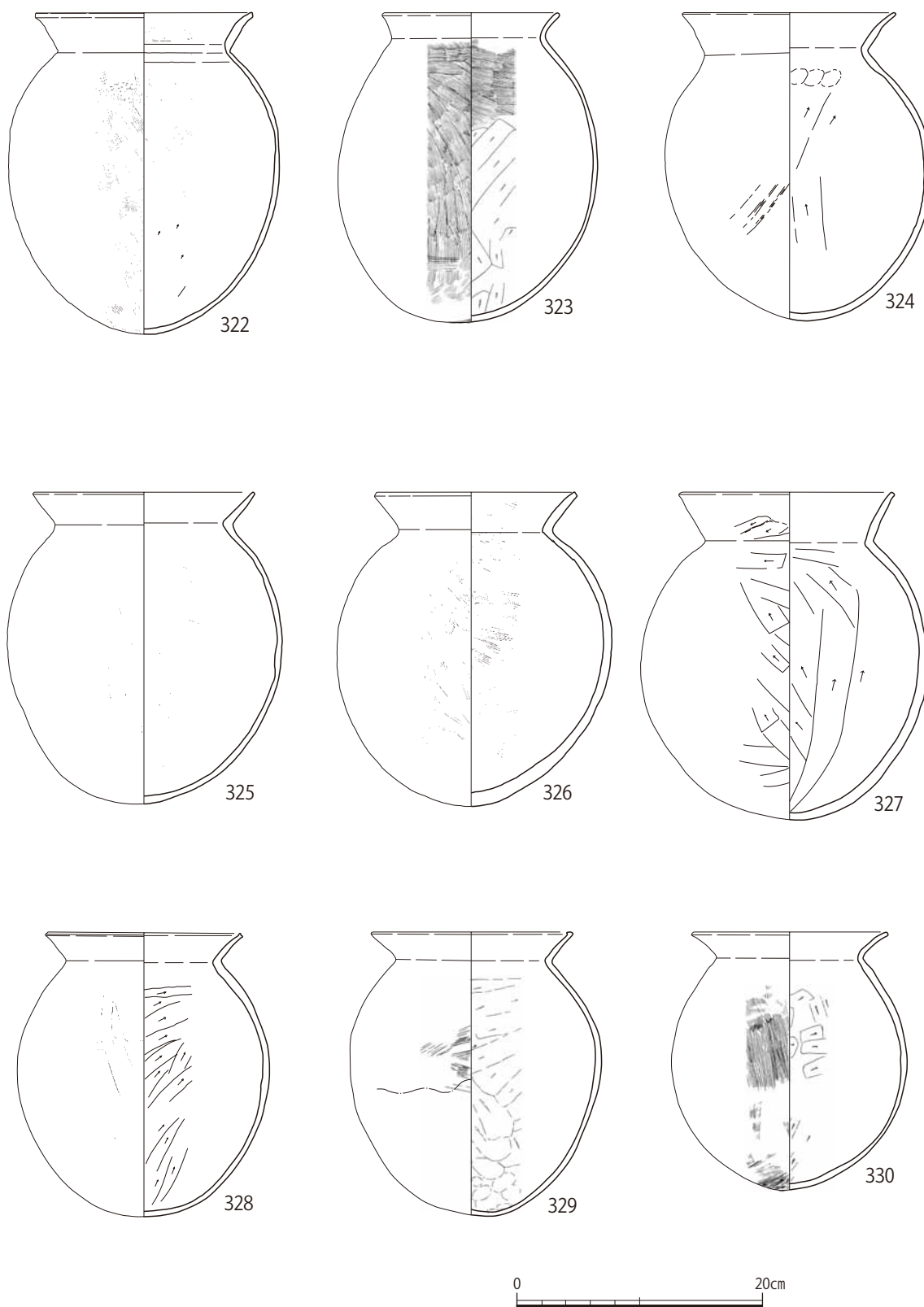
第 49 図 23SD001 出土遺物実測図 27 (1/5)

17.0cm、器高 23.5cm、最大胴部径 21.0cm を測る。内面・黄橙色、外面・灰白色～浅黄橙色を呈し、胎土中には長石粒、角閃石粒等が含まれる。外面は胴部上位にハケ目調整が施されている。短い口縁部は外方に外傾し、中位はわずかに肥厚する。315 は口径 15.6cm、器高 25.0cm、最大胴部径 22.4cm を測る資料であり、調整は内外面ともにケズリが認められる。314 はナデ肩状を呈するのに対し 315 は球形を呈している。内面頸部は肥厚し平坦に仕上げられている。布留式系甕の要素が強い資料である。また、317・319・321・322・324・327 等は他資料に比して口縁部がより直立して立ち上がり外傾する。327 は内外面ともにケズリが顕著に認められる資料である。329 は口径 16.4cm、器高 23.1cm、最大胴部径 20.4cm を測る。内面は底部付近に指頭圧痕が認められ、胴部下位から上部にかけてヘラケズリが実施される。口縁端部は平坦に仕上げられ内面方向にわずかに突出する。339 の資料も同様の口縁部形状を示す。ナデ肩状のフォルムをなし、ヘラケズリの多用や口縁端部の処理等、新来の技術の導入がなされた布留式系甕の模倣と考えられる。341 ～ 353 は底部が欠損する資料であ

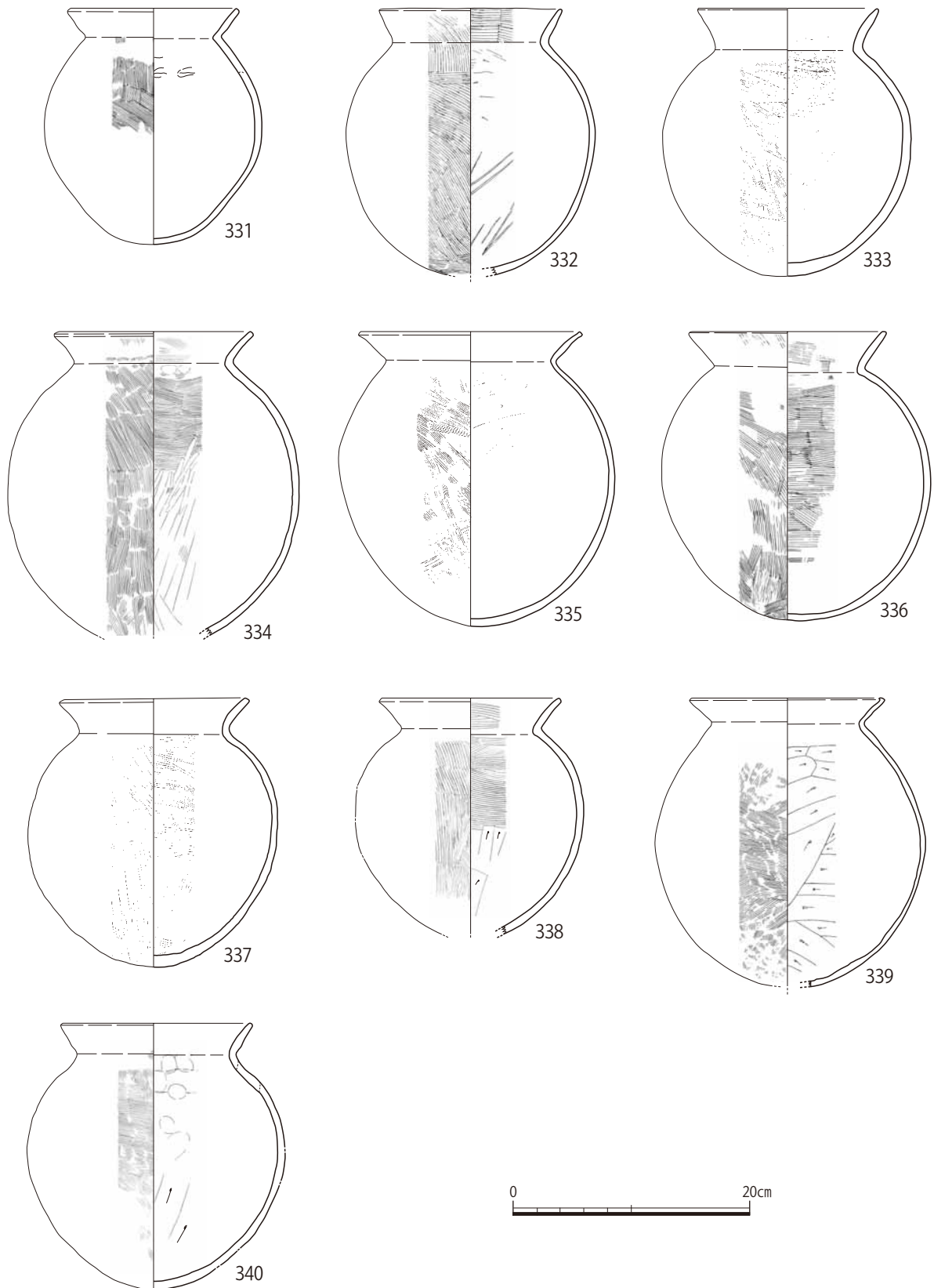


第 50 図 23SD001 出土遺物実測図 28 (1/5)

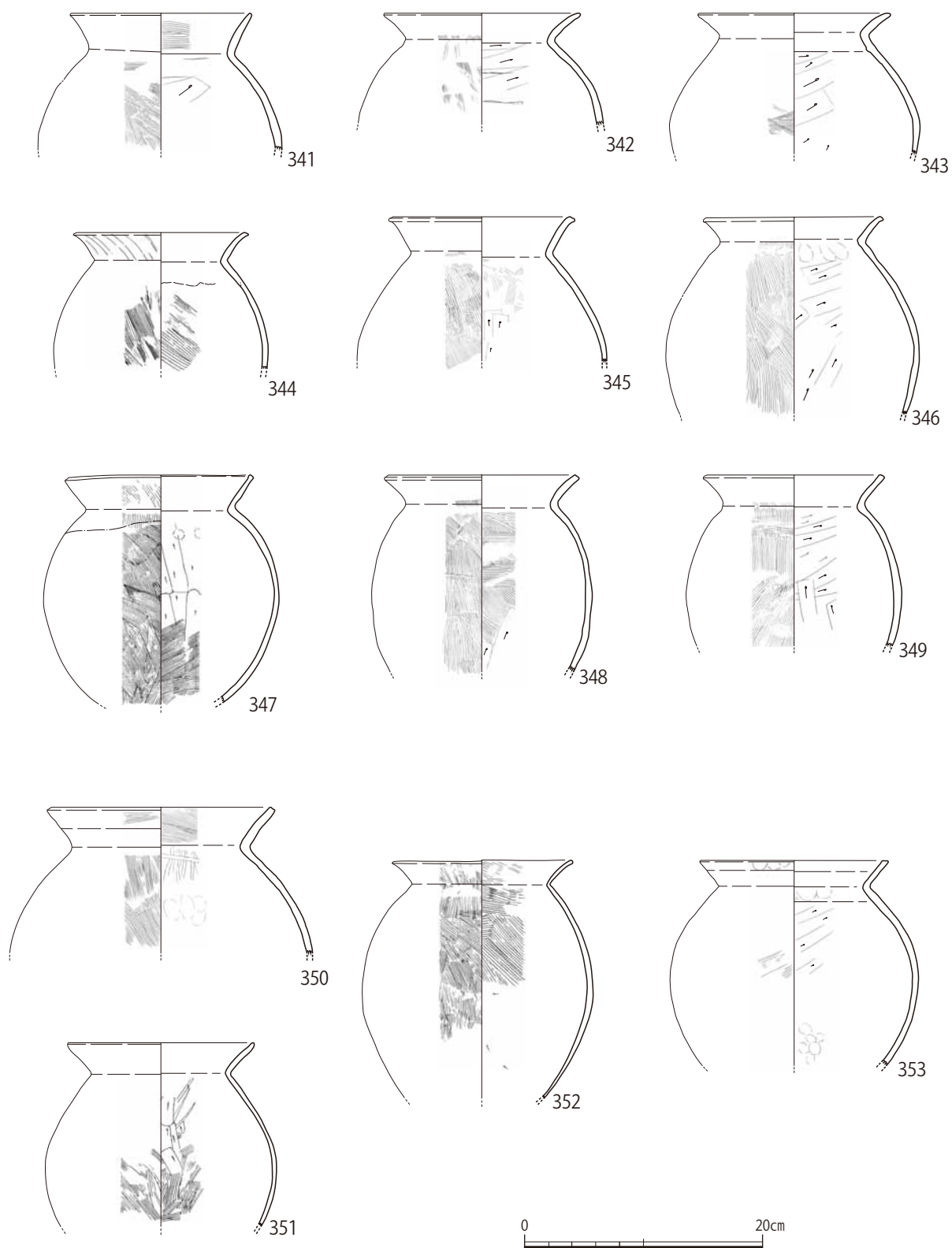
り、口縁部の形状と口頸部の締り具合により中甕 B2-a タイプとしたものである。口縁端部の処理にはバリエーションが多く、そのほとんどは布留式系甕の影響を受けたものである。354 は中甕 B2-bi に分類されるものである。内外面はハケ目により調整されている。口縁部は中位においてわずかに外方へ屈曲する。頸部の締りは強いタイプである。底部形状は尖り気味である。355 ～ 363 は中甕 B2-bii に属する資料である。360 は復元口径 20.4cm、最大胴部径 22.0cm を測る。内外面ともにハケ目調整により仕上げられる。胴部は球形に近いフォルムをもち、口縁部は他の資料に比して長く伸びる。その中位はわずかに外側に肥厚し、口縁端部は平坦に仕上げられている。361 はヘラケズリが内面に認められ、口縁端部は 360 と同様に平坦に仕上げられたのち中央部分に沈線状の凹みがめぐるものである。362 は復元口径 16.4cm、器高 23.1cm、最大胴部径 20.7cm を測り、内面は底部付近に指頭圧痕、胴上半部にはヘラケズリが認められる。外面のハケ目は上半部にヨコハケ目が認められる。頸部内面は平坦に削られており、口縁部は肥厚しながらわずかに内湾する。また、口縁端部は内側につま



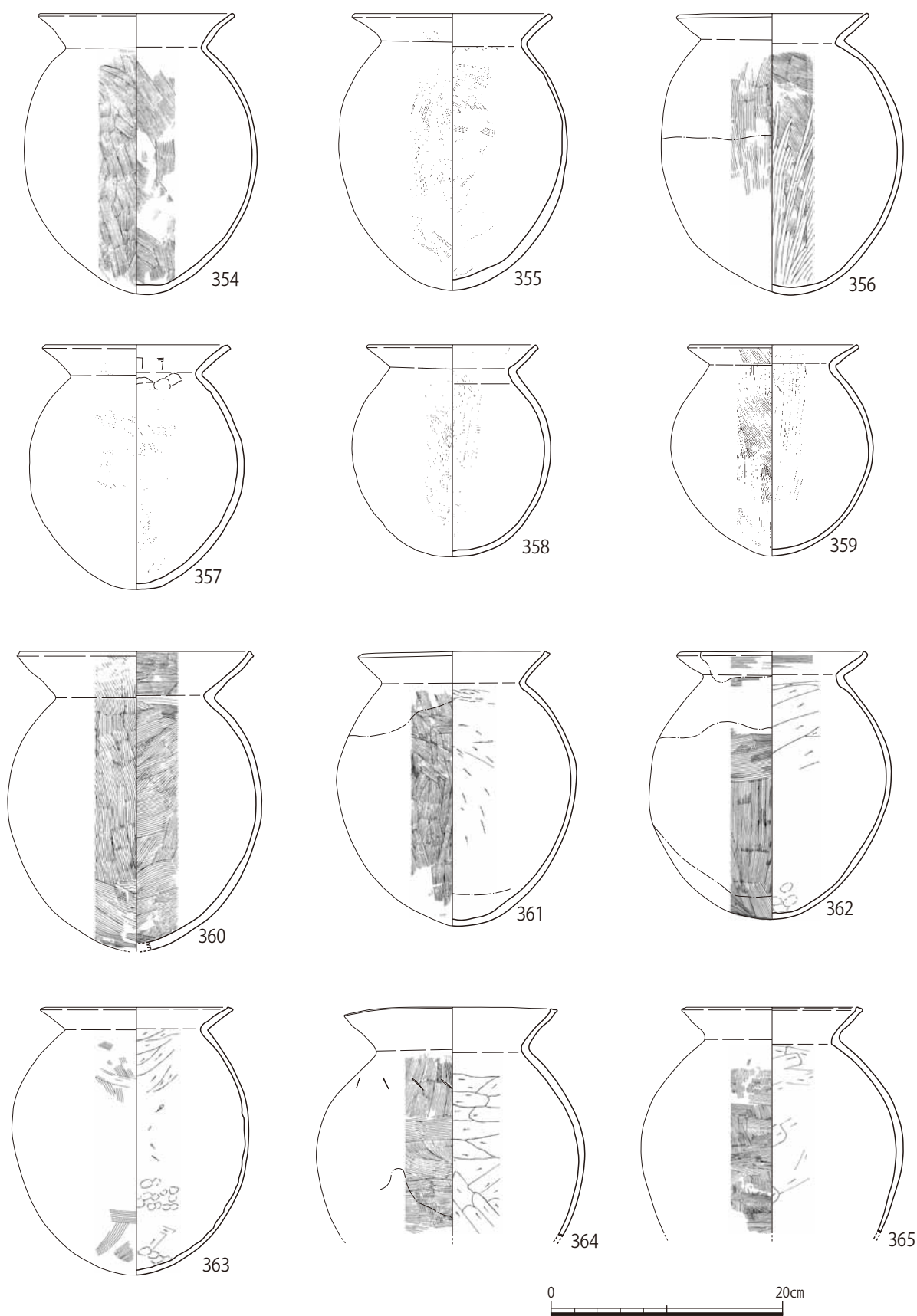
第 51 図 23SD001 出土遺物実測図 29 (1/5)



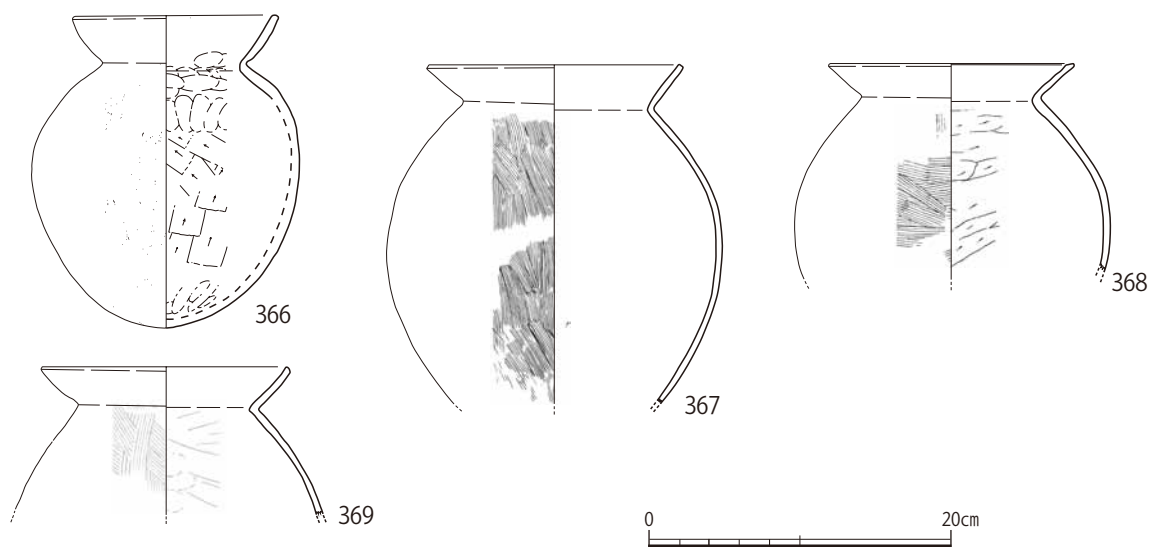
第 52 図 23SD001 出土遺物実測図 30 (1/5)



第 53 図 23SD001 出土遺物実測図 31 (1/5)



第 54 図 23SD001 出土遺物実測図 32 (1/5)



第 55 図 23SD001 出土遺物実測図 33 (1/5)

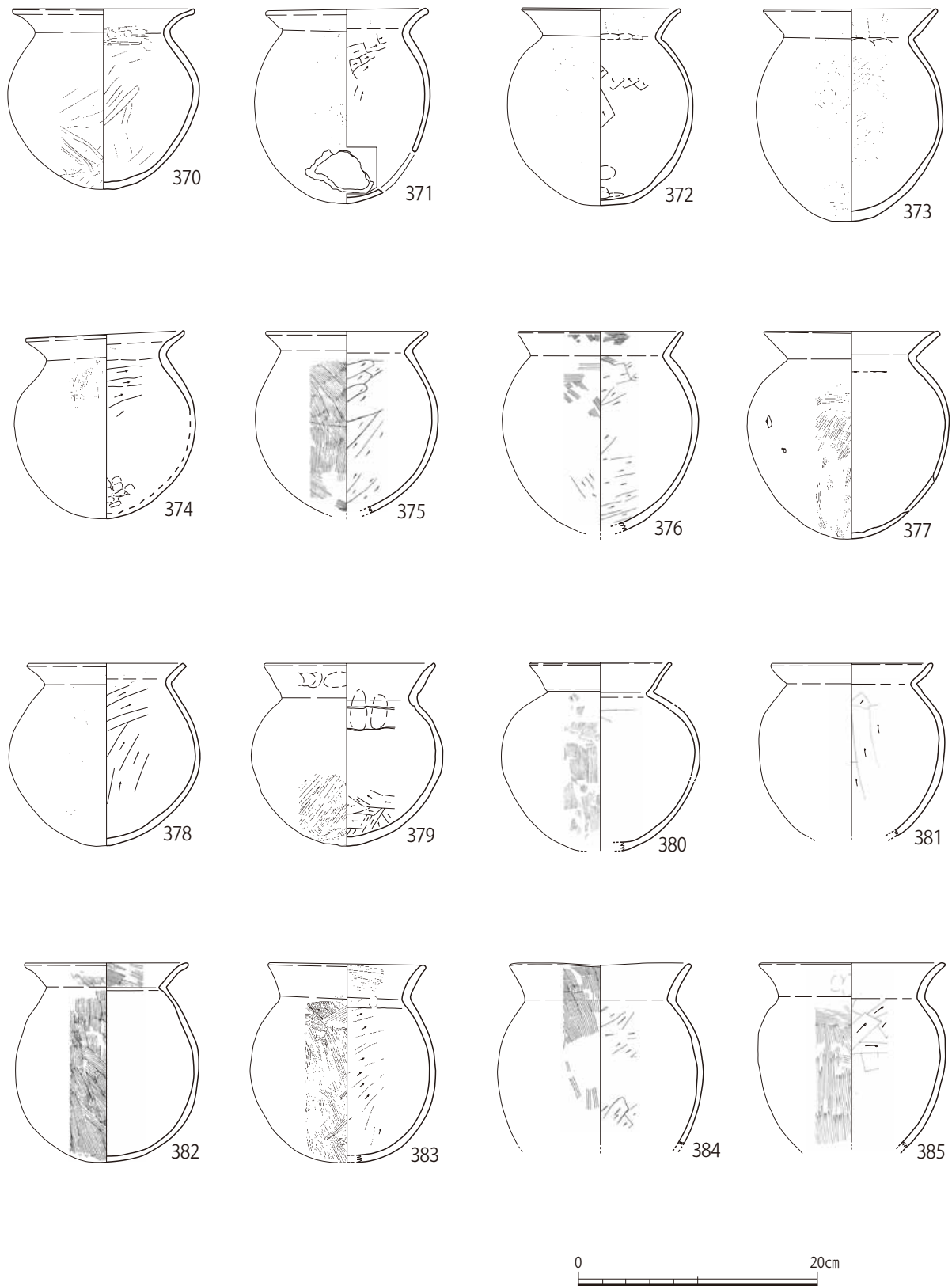
みあげたように膨らむ。363～365 はいずれも口縁端部を平坦に仕上げた後、中央部に沈線状の凹みをめぐらす。このような特徴は布留式系甕でも古相のタイプに認められるものである。364～369 は中甕 B2-b タイプである。370～397 は法量による分類で小甕としたものである。386～396 の小甕はバリエーションに富み、中には 388・391 のように頸部が締り、小壺としても小甕としても違和感がないものや、390 のように小形の鉢としても認められるような資料がある。内面調整にはほとんどの資料にケズリが実施されている。この小甕は第 20 次溝資料と第 23 次溝資料の中に一定量出土しており、器高が 15cm～18cm 前後のもの、10cm～15cm 前後のものとさらに細分が可能のようであるが、本書では一括して掲載した。402 は弥生土器甕の底部資料と考えられる。底部は厚く平底を呈している。

以上が 23SD001 出土甕資料の詳細である。

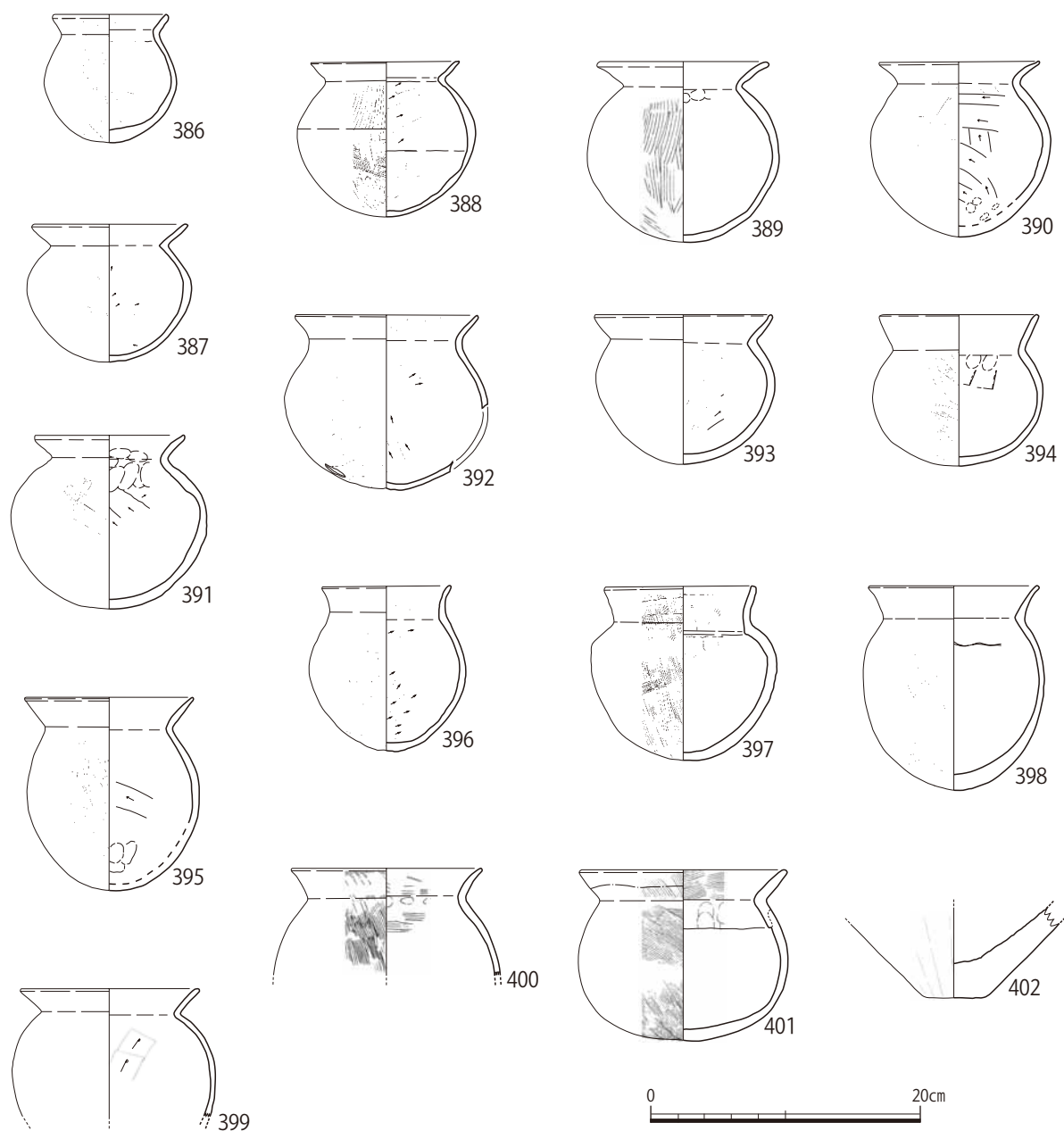
ここで 23SD001 出土の甕について分類結果を踏まえて、時間的位置づけを検討する。

23SD001 出土土器の中で土師器甕の個体数は、大甕・中甕・小甕を合わせ 157 個体である。そのうち大甕は全体の 17%、中甕は 63%、残る 20% は小甕である。大甕 17% の中で、大甕 A に分類された長胴タイプの甕は 65% と半数以上を占める。逆に中甕では、球形タイプの（中甕 B：75%）占める割合が大きい。さらに口縁形態別の割合では、大甕の場合は 1 類とした外反するタイプのものが 7 割ほどを占め、中甕では 2 類としたタイプが 8 割ほどを占める。また、底部形状の分類結果は長胴タイプの占める割合が大きい大甕は尖底（i 類）も丸底（ii 類）も半々であった。逆に球形タイプが半数以上を占める中甕は丸底（ii 類）が 8 割ほどを占めている。

以上の点を整理すると、長胴の甕は、尖底状を残しつつ、丸底化を指向している。また、球形タイプの甕は新来の技術導入が進み、口縁端部は面取りされ平坦に仕上げられるものが主流である。底部も丸底となり球形化したタイプが一定量出土するという状況が認められる。これらは古墳時代前期前葉から前期中葉の範疇におさまるものと考えられる。具体的にいえば、大甕 A1-ai とした長胴タイプの甕 244・252・280 などは内外面の調整にハケ目、ミガキが施され、器壁の薄壁化は進展していない。これは古墳時代前期前葉の標識資料となっている守岡遺跡 19 号住居跡出土の在り系甕資料や下郡遺跡群第 90 次 SH020 出土の甕に類似する。同じ長胴タイプの甕でも 249・251・256 には内面にヘラケズリが認められ在り系甕に新来の技術が導入されているものである。また、329・362・363 はナデ肩のプロポーションを持ち、口縁端部の処理についても外来の成形技法が導入されている。これは下郡遺跡群第 92 次 SH343 出土の甕資料に類似し、古墳時代前期中葉における諸特徴と一致する。

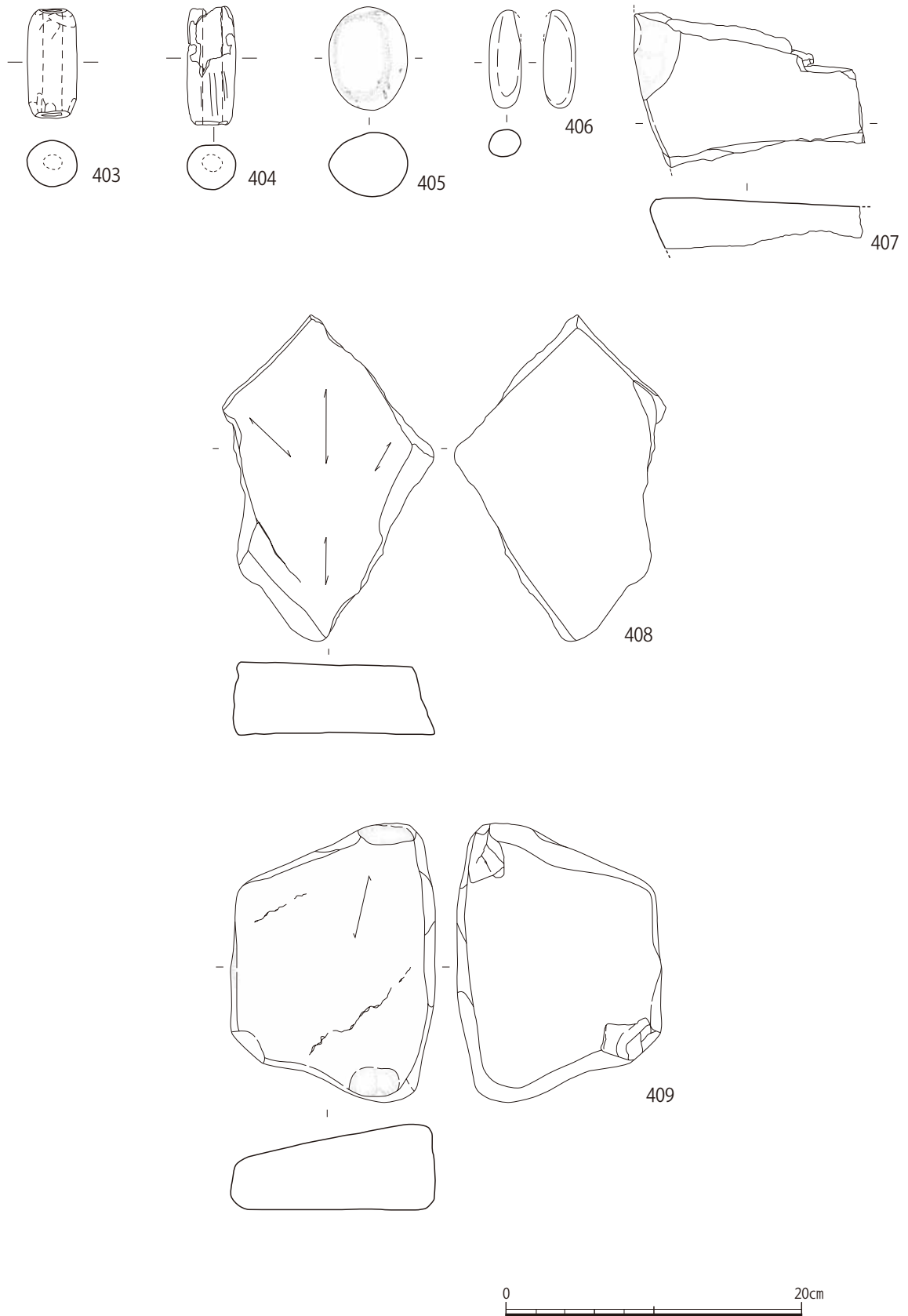


第 56 図 23SD001 出土遺物実測図 34 (1/5)

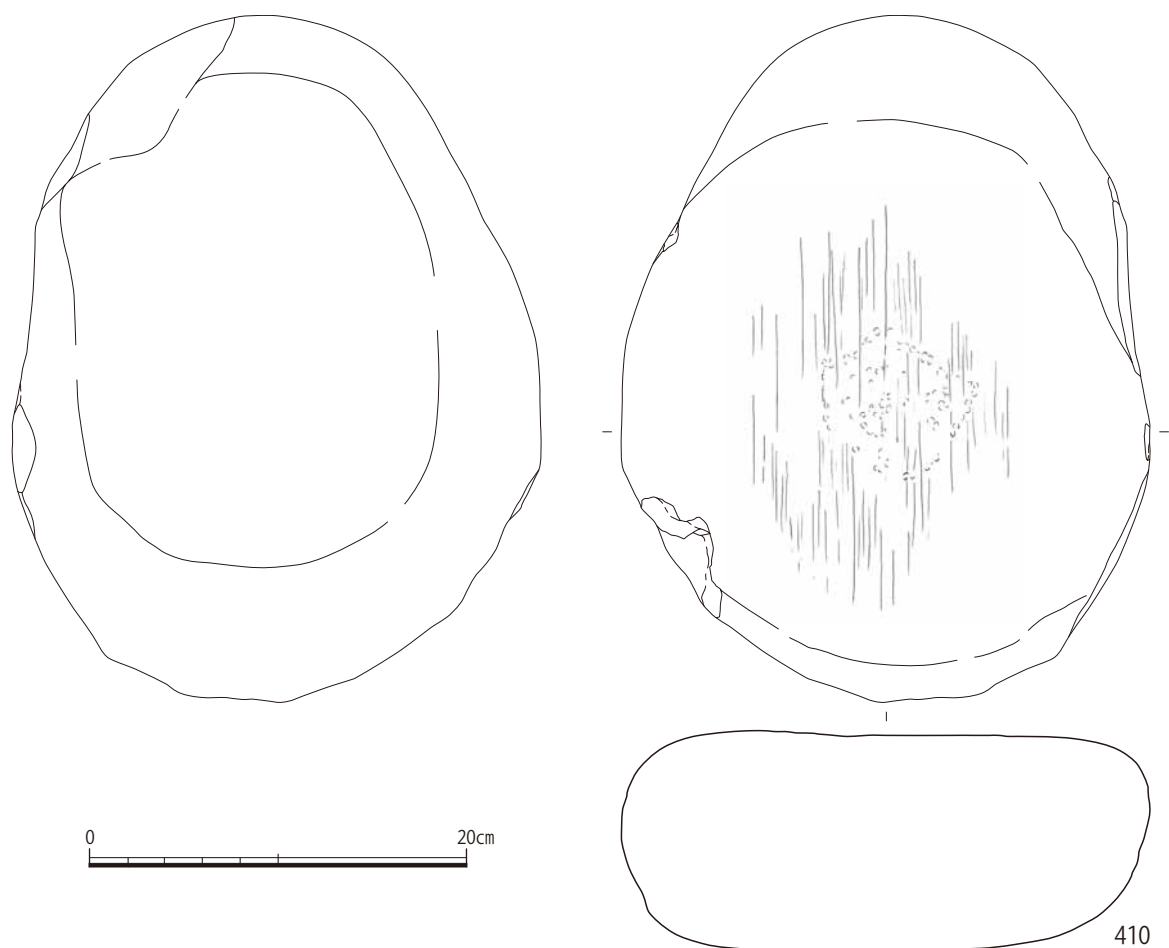


第 57 図 23SD001 出土遺物実測図 35 (1/5)

ものである。さらに 120 においては内面の指頭圧痕が底部から胴部中位付近まで見られ、092 には口縁部の肥厚も認められる。このような特徴は古墳時代前期中葉でも新相段階に位置づけられるものである。以上のことから 23SD001 出土の甕は先述した通り古墳時代前期前葉から前期中葉に相当するとしながらも、その主体は古墳時代前期中葉であると考えられる。



第 58 図 23SD001 出土遺物実測図 36 (1/4)



第 59 図 23SD001 出土遺物実測図 37 (1/4)

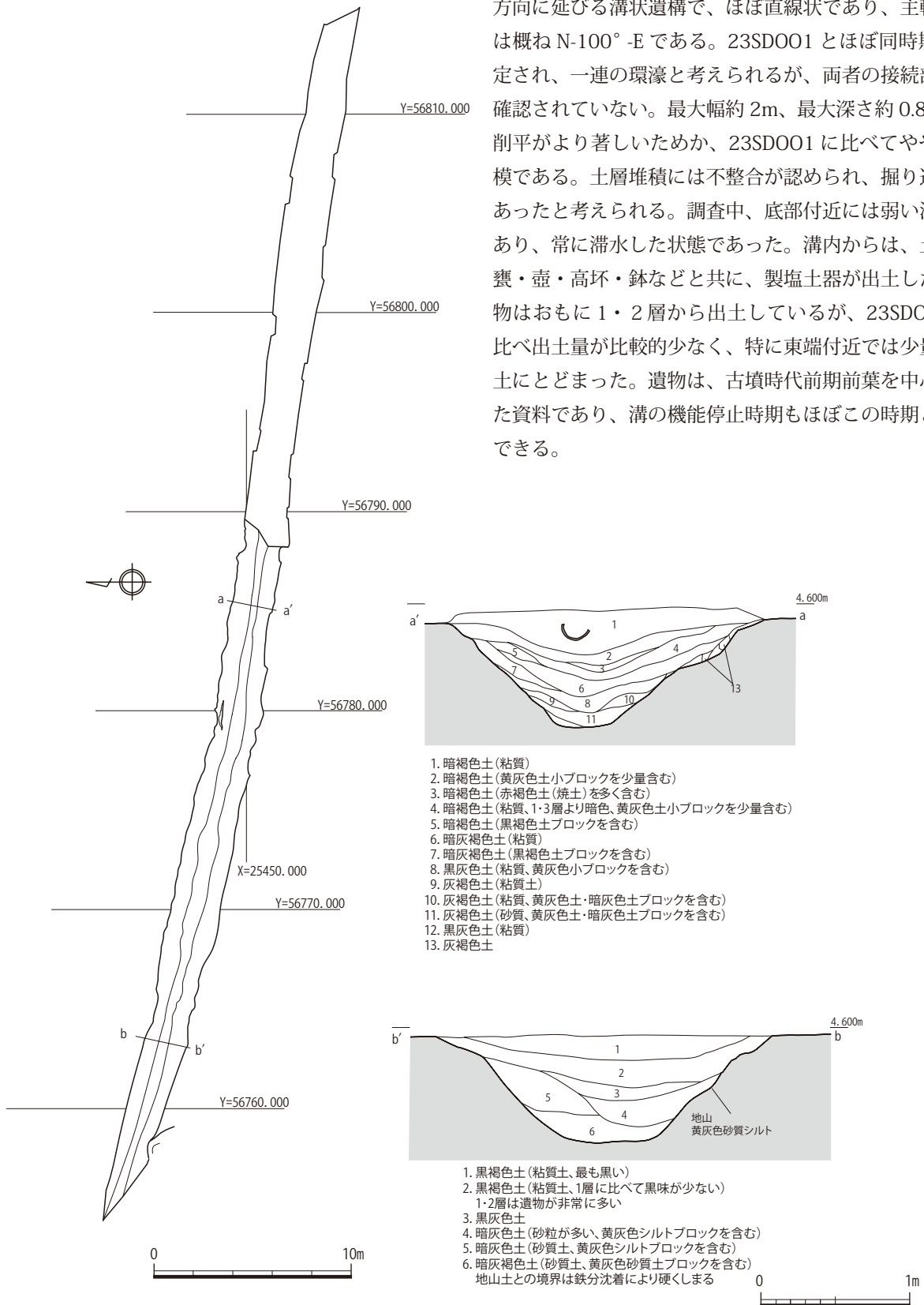
土錘・石器（第 58 図～第 59 図）

403・404 は管状土錘である。403 は褐色から黒褐色、404 は赤褐色を呈す。

405 ～ 410 は石器である。405・407 ～ 409 は、いずれも安山岩製のすり石である。405・409 は下層から、408 は中層から出土した。406 は砂岩製と考えられる用途不明石器である。410 は安山岩製の台石である。大形で中央には使用痕が確認できる。敲打痕か。中層から出土した。

23SD170 (第 60 図)

23SD170 は、東側拡張調査区において検出した東西方向に延びる溝状遺構で、ほぼ直線状であり、主軸方向は概ね N-100° -E である。23SD001 とほぼ同時期と推定され、一連の環濠と考えられるが、両者の接続部分は確認されていない。最大幅約 2m、最大深さ約 0.8m で、削平がより著しいためか、23SD001 に比べてやや小規模である。土層堆積には不整合が認められ、掘り返しがあったと考えられる。調査中、底部付近には弱い湧水があり、常に滞水した状態であった。溝内からは、土師器甕・壺・高坏・鉢などと共に、製塩土器が出土した。遺物はおもに 1・2 層から出土しているが、23SD001 に比べ出土量が比較的少なく、特に東端付近では少量の出土にとどまった。遺物は、古墳時代前期前葉を中心とした資料であり、溝の機能停止時期もほぼこの時期と推定できる。



第 60 図 23SD170 遺構実測図 (1/300・1/40)

23SD170 出土遺物（第 61 図～第 85 図）

出土遺物には、ミニチュア土器、器台形土器、高坏形土器、鉢形土器、壺形土器、甕形土器、土錘、石器などがある。

ミニチュア形土器・器台形土器（第 61 図 001～008）

001～004 はミニチュア土器鉢である。001 は口縁部付近に渦巻状の線刻が認められる。002～004 は碗状の鉢である。005 は皿状の受け部に直線的に広がる脚部をもつ小形器台で、円孔が脚中位に 4 箇所認められる。006 は小形器台の受け部と考えられる。007・008 は浅い鉢状の受け部をもち直線的に広がる脚部をもつ小形器台である。円孔が脚中位に 4 箇所認められる。007 は脚部が外反気味。008 はやや内湾して広がる。

高坏形土器（第 61 図～第 64 図 009～047）

009 は稜をもって大きく外反する口縁部をもつ坏部で、脚柱部が円柱状で稜をもって屈曲する高坏 A 類と考えられる。脚裾部に円孔を施す。

010～012 は、坏下半が有段でやや直線的に広がる口縁部をもち、脚部は脚柱部が下方に向かって広がり稜をもって屈曲する高坏 B 類である。脚の屈曲部の下位に円孔が認められる。010 は坏上半が外反気味。坏部の調整は縦方向ミガキ、脚外面は横方向のミガキを施す。011 は内外面ともに横方向のミガキを施す。脚内面の調整はケズリを施す。012 は 010・011 に比べ、坏底部の水平化が進んでいる。器壁も薄く、脚部にはミガキ調整が残るものの坏部などはヨコナデ・ナデなど調整に手抜きがみられる。

013～030 は、坏部が明確な稜をもち概ね直線的に外傾する口縁部をもつ高坏 C 類である。013～019 は脚柱部が下部に広がりをもち稜をもって屈曲する脚部で、坏の深さが器高の 1/2 程度の深めの坏部をもつ高坏 Ca 類である。坏口径 20cm～24cm を測る。脚裾部に円孔を施す。015 は 2 個 1 組の円孔を 1 対施す。020～024 は屈曲部付近に円孔を施す。025～030 は脚柱部が短めで下部で大きく広がり稜をもって屈曲する脚部で、坏口径 23cm 以上と大きく浅いものになり、全体の器壁は薄い。025・029・030 は坏内面に放射状のミガキを施す。円孔が 025 は脚部の屈曲部より下位に、028 は屈曲部付近、026・027・029・030 は脚の屈曲部の上位に施す。

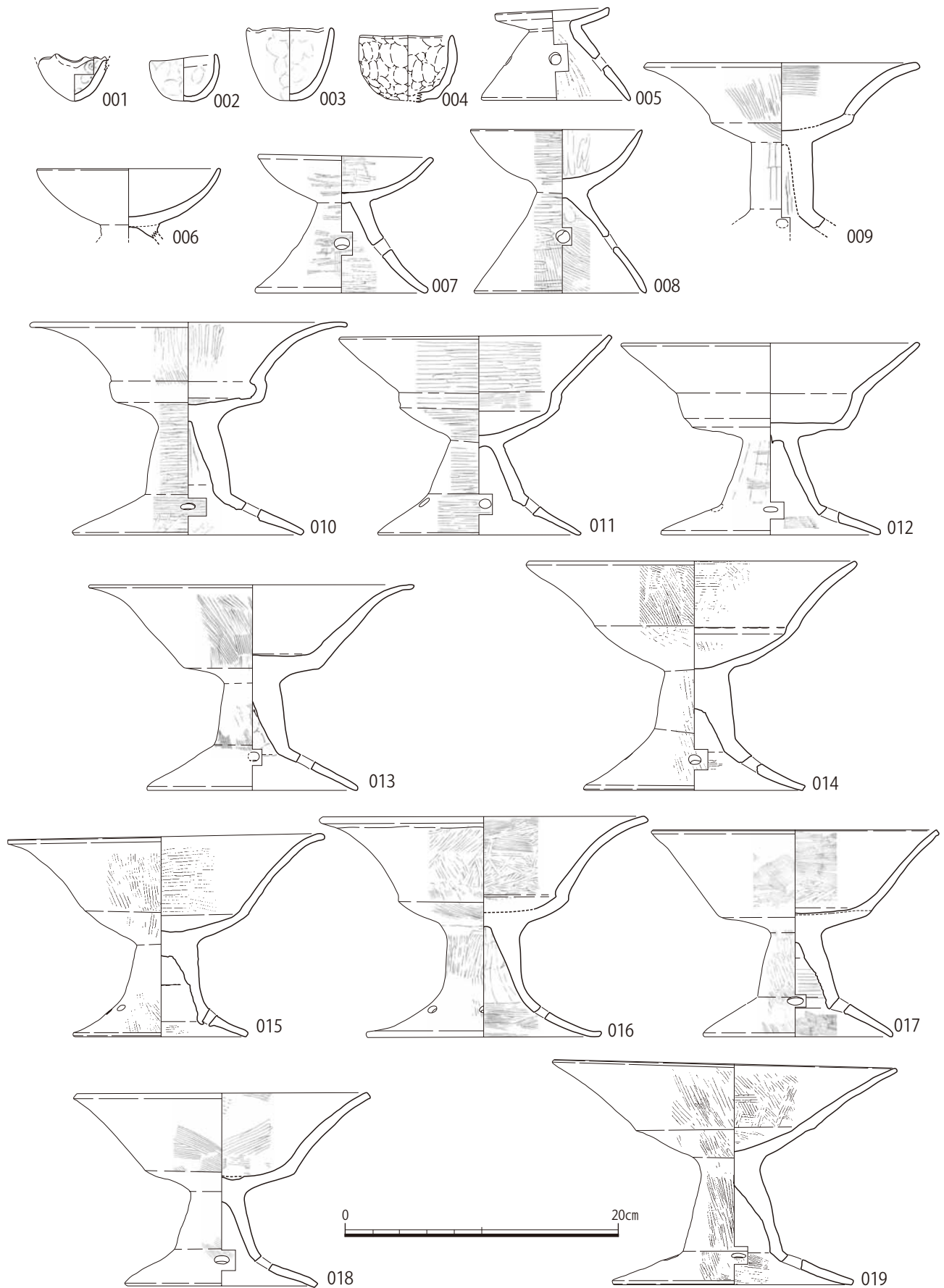
031・032 は坏下半が深く口縁部が緩やかにやや外反し、脚部はラッパ状に広がる高坏 D 類である。弥生時代終末期の 043～048 よりも坏下半部は浅めで、口縁部は直線に近くなる。調整はハケ目後ミガキ、指オサエを施す。

033～037 は高坏 C 類の坏部片の資料である。033～035 は脚 a 類で、脚柱部が下部に広がりをもち稜をもって屈曲する。036 は坏口径が 27.0cm と大型である。脚裾部が欠損しているが高坏 Ca 類と思われる。037 は坏口径 18.6cm を測る。外面にミガキを施す。038～039 は高坏 C 類と組合せられる脚部片の資料と考えられる。038 は屈曲部付近に、039 は屈曲部の上位に円孔を施す。040 は口縁部・脚裾部が欠損しているため、全貌は不明である。脚柱部が中実であり、円孔を 4 箇所施す。

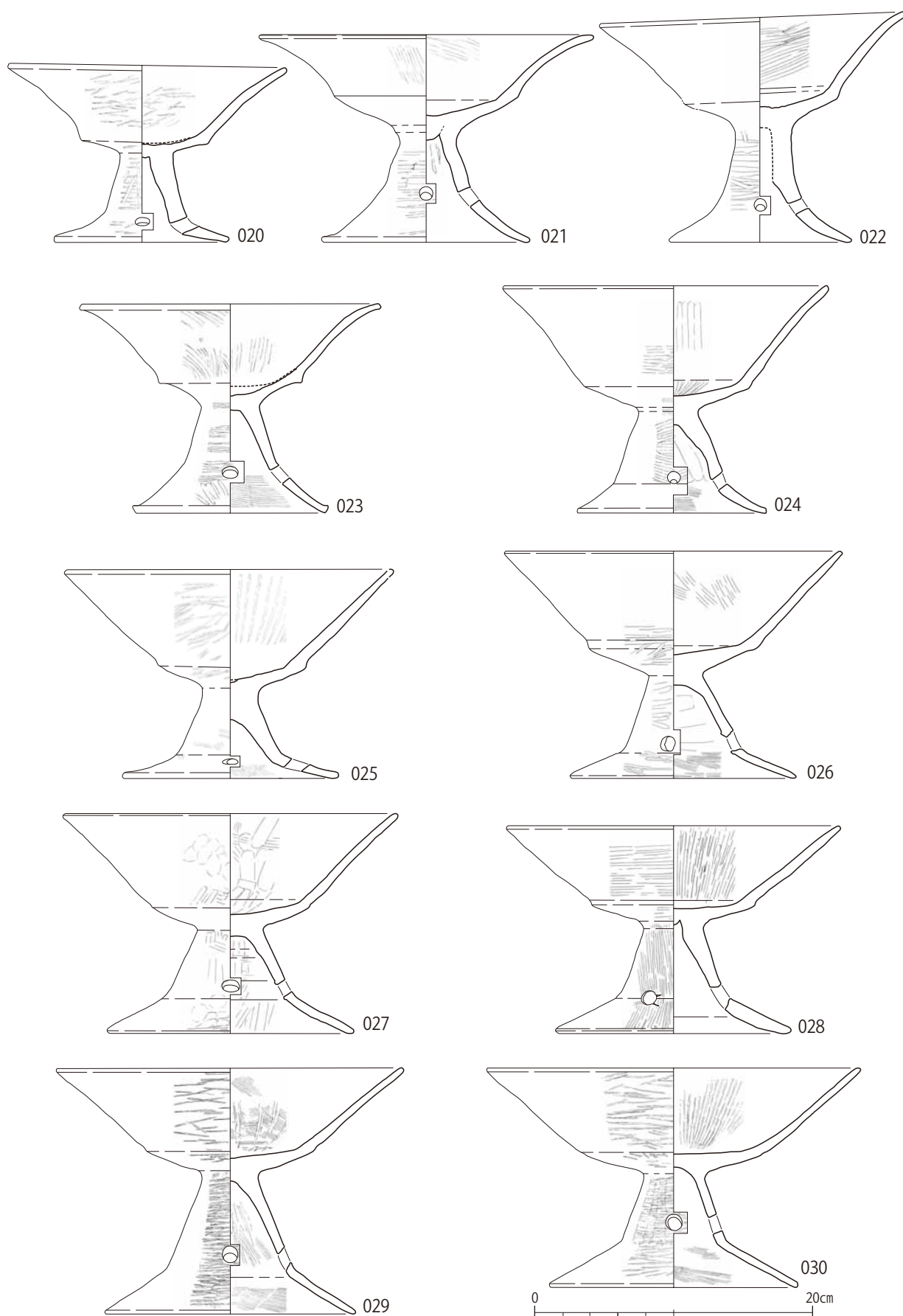
041 は装飾高坏である。口縁端部が短く立ち上がり、2 個 1 組の円形浮文を 4 箇所に貼りつける。脚柱部はエンタシス状で、稜をもって屈曲し脚裾部に至る。脚裾端部は欠損しているため不明であるが、脚柱部の屈曲部のすぐ下位に円孔が施され、その下位に明確な稜をもって脚裾部の端部へ至る。口縁端部と脚裾部の稜に竹管文を各 2 条施文している。坏部内面に放射状のミガキを施す。

042～049 は弥生時代後期終末期頃の所産と考えられる。042 は大形高坏の坏部である。口径は 28.6cm を測る。内外面ともに丁寧なミガキを施す。043 は坏部に外面から内面への穿孔がみられ、対称面にも 1 箇所認められる。044 は口縁端部が欠損している。045 は口縁・脚部の端部を欠損している。046・047 は同様の坏部片である。047・049 は脚部片である。

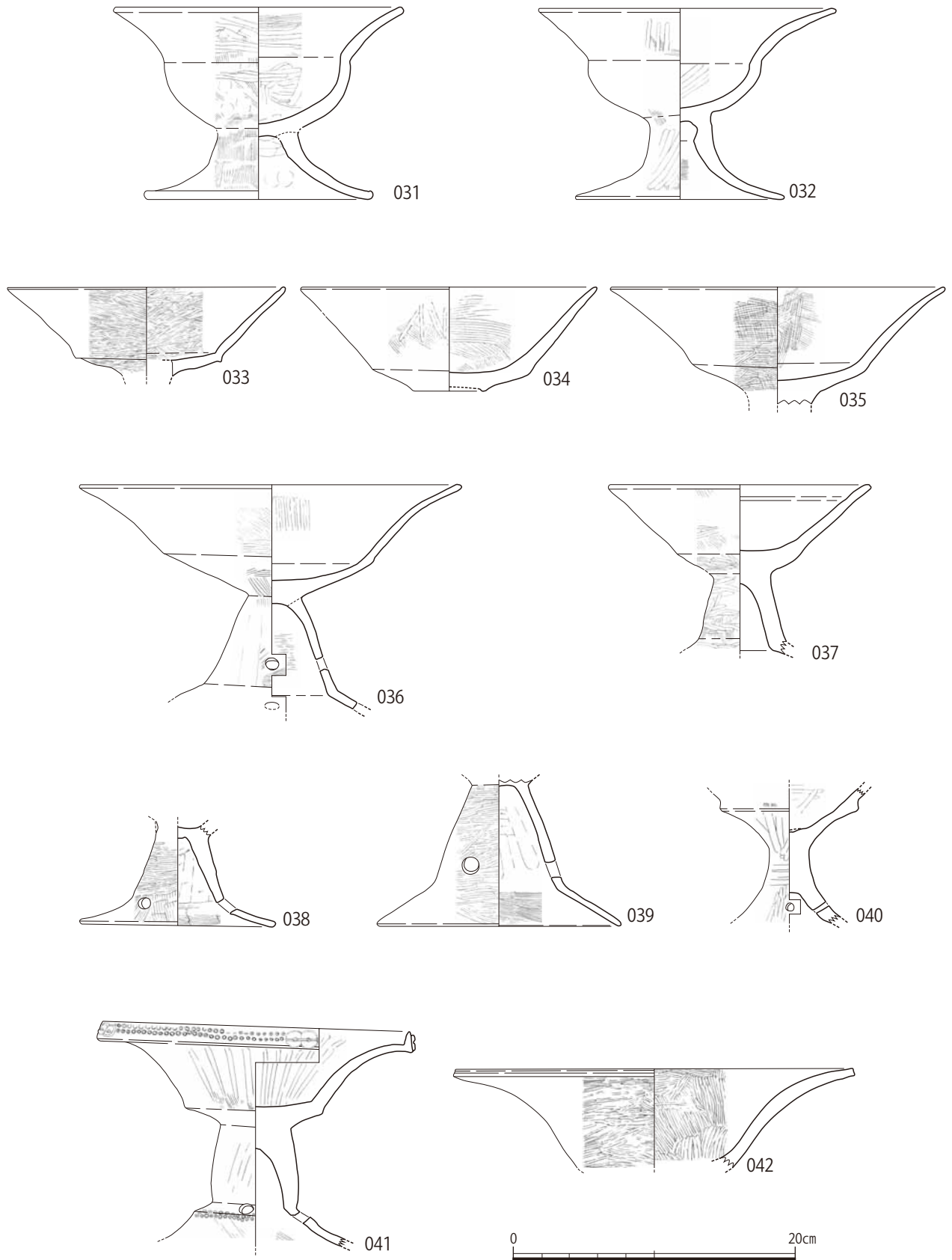
23SD170 では、他調査区の溝状遺構に出土していない高坏 B 類 (010～012)・高坏 D 類 (031・032) が出土している。高坏 B 類は外来系（庄内式系）の影響を受けて成立したものである。012 は同種であるが、ミガキが



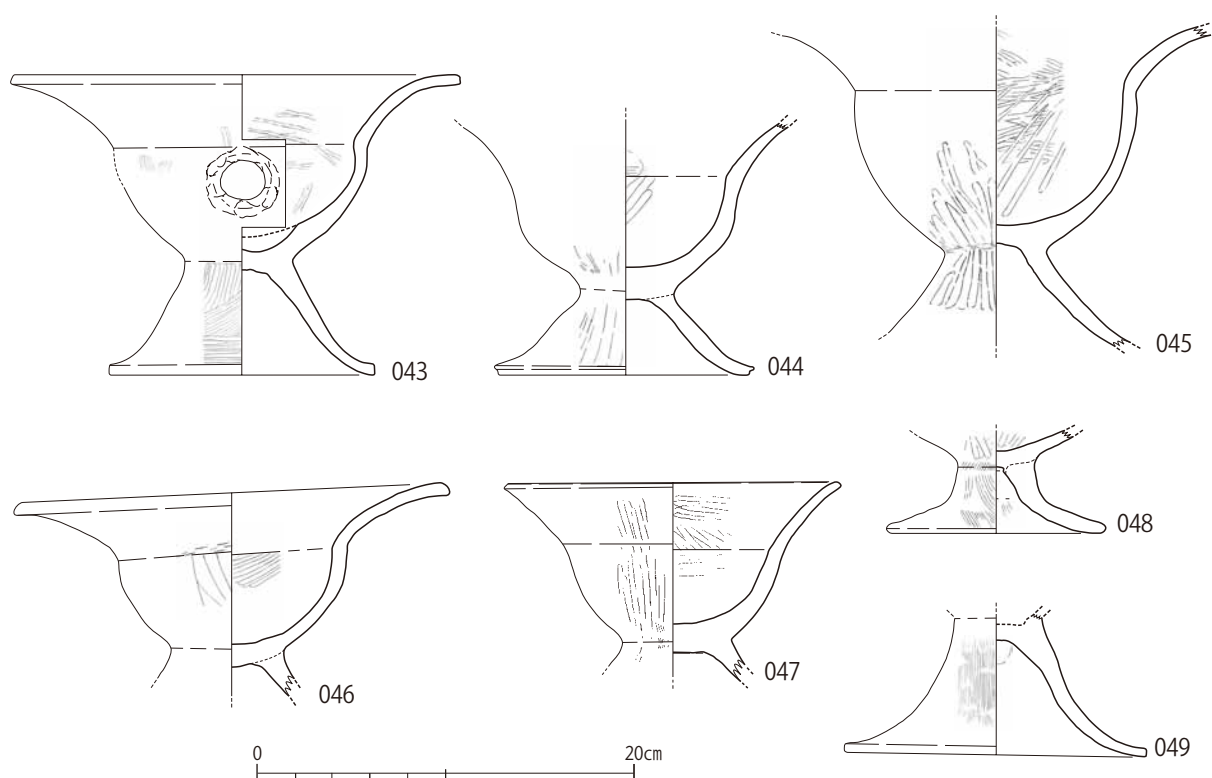
第 61 図 23SD170 出土遺物実測図 1 (1/4)



第 62 図 23SD170 出土遺物実測図 2 (1/4)



第 63 図 23SD170 出土遺物実測図 3 (1/4)



第 64 図 23SD170 出土遺物実測図 4 (1/4)

省略され、器壁が薄くなるなど布留式系の要素もとり入れられる。高坏 D 類は、守岡遺跡 19 号住居跡出土資料を標識とする古墳時代前期前葉の高坏と同様のものである。高坏 Ca 類については、口縁部が外反気味なものや内外面に丁寧なミガキが残るなど古い様相もみられる。脚部の内面にヘラケズリを施す外来系の影響を受けたものもみられるようになる。高坏 Cb・Cc・Cd・Ce 類はみられない。全体の様相は、古墳時代前期初頭から前期中葉頃が考えられ、弥生時代終末期の土器も混在する。

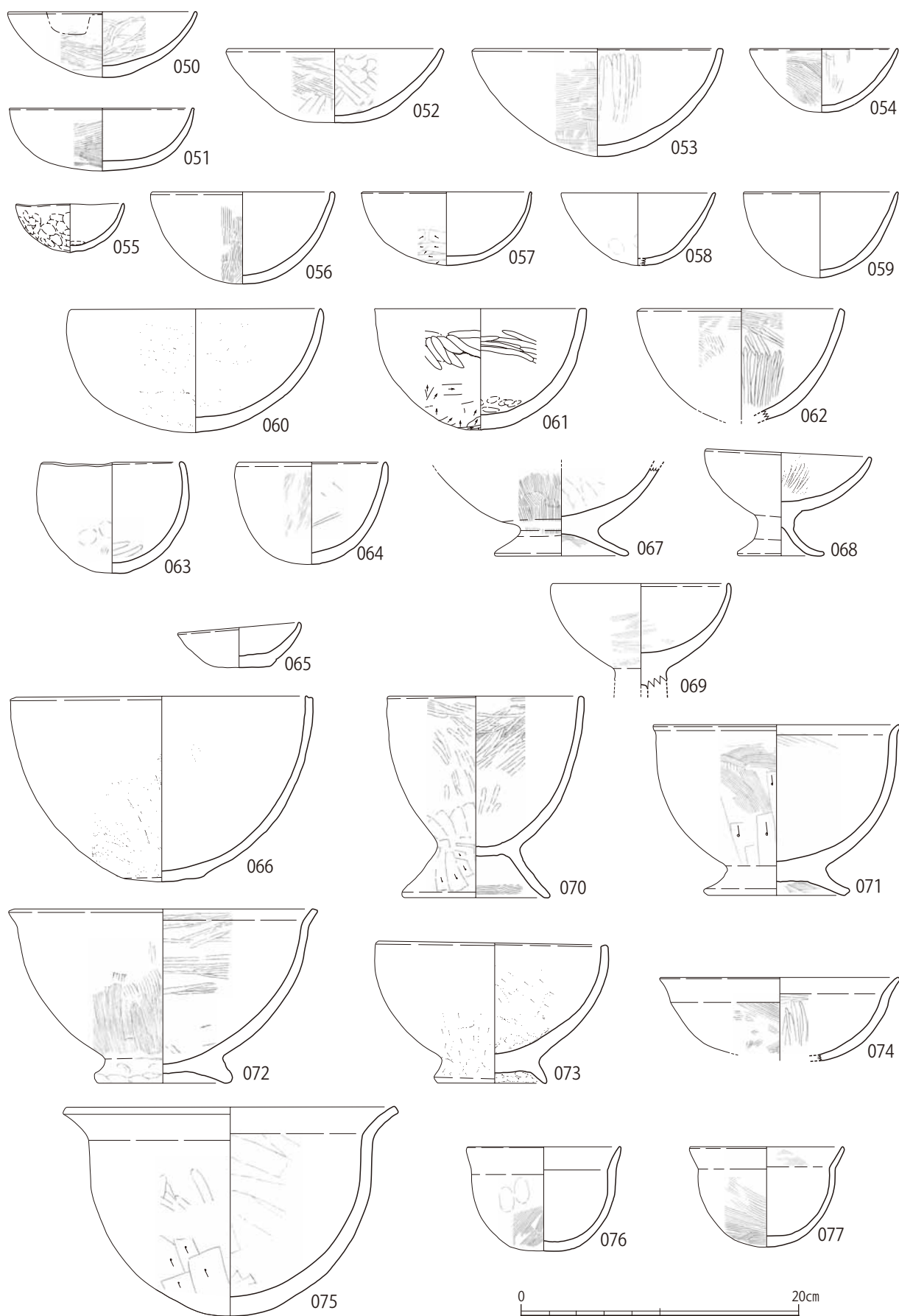
鉢形土器 (第 65 図～第 67 図)

050～052 は鉢 A1 で、皿・坏に近い形状の小形の浅い鉢である。050・051 は直線的に外方へと伸びる口縁端部を有する。050 はススの付着が認められる。052 は軽く内湾する口縁端部を有する。053～062 は鉢 A2 で、椀型の小形の鉢である。053 は平坦に整えられた口縁端部を有し、内面に縦方向のミガキを施す。054・058・059 は直線的に外方に伸びる口縁と、やや尖底気味の底部を有する。055 は外方に伸びる口縁端部を有し、外面は全体的に指頭圧痕による調整が見られる。056・057 は外方へと伸びる口縁端部と丸底を呈する。060 は軽く内湾した口縁部を有し、粘土接合痕が認められる。内外面共にミガキを施す。061 は直線的に上方へと伸びる平坦に整えられた口縁端部を有し、全体的に器壁が厚い。062 はやや外側へと傾いた平坦な口縁端部を有し、全体的に器壁が厚い。内面にミガキを施す。

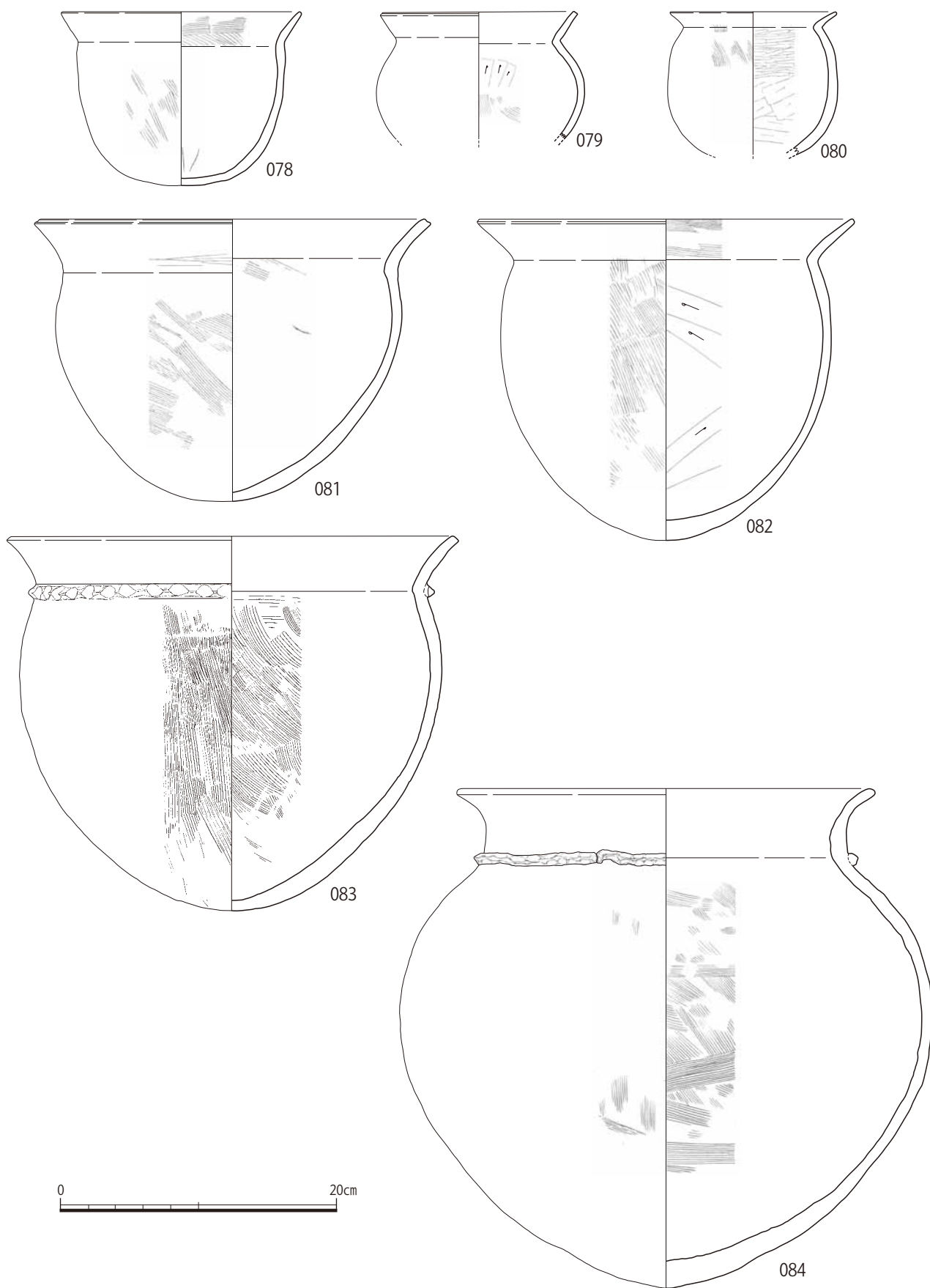
063・064 は鉢 B1 で、深鉢である。共に軽く内湾する口縁部を有し、丸底を呈する。

065 は鉢 G1 で、小形の平底鉢である。底部が厚く、器高に傾きが見られる。066 は鉢 G2 で、大形の平底鉢である。口径 21.8cm を測り、口縁端部に沈線状の凹みを有する。

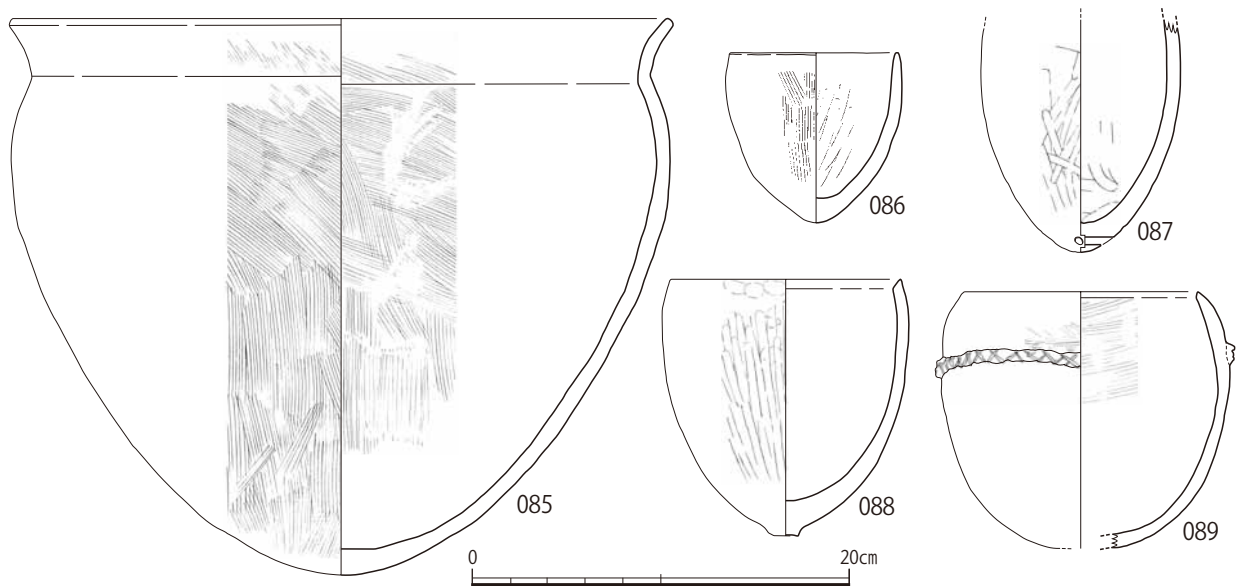
067～073 は鉢 E で、台付鉢である。068 は高坏の脚部に似た脚台部を有し、内面にミガキを施す。069 は脚部が欠損しているが、高坏の脚部に似た脚台部を有すると考えられる。070 は深鉢状の坏部を有し、脚部～鉢部外面下方にケズリ、内外面共にミガキを施す。071 は口縁端部をつまみ出す。外面下方にヘラケズリを施す。072 は肥厚した口縁端部をつまみ出し、平坦に整える。外面にススの付着が認められる。073 は肥厚した口縁



第 65 図 23SD170 出土遺物実測図 5 (1/4)



第 66 図 23SD 170 出土遺物実測図 6 (1/4)



第 67 図 23SD170 出土遺物実測図 7 (1/4)

端部を平坦に整えている。

074 は鉢 C1 で、口縁部に屈曲を有する浅鉢である。内面にミガキを施す。075 は鉢 C2 で、口縁部に屈曲を持つ鉢 C1 よりも深い形状のものである。底部が厚く、やや外側へと傾いた肥厚した口縁端部を有する。

076 ～ 085 は鉢 D1 で、口縁部に屈曲を有する深鉢である。082 は内面にケズリを施す。083 は屈曲部に貼付突帯を有し、内外面ともにハケ目調整を施す。084 は曲線的に外反する口縁部と貼付突帯を有し、胴部は球形である。086 ～ 089 は鉢 B2 で、鉢 B1 よりも深い形状の深鉢である。087 は底部に横方向の穿孔を有し、赤色塗彩を施す。088 は口縁端部を内側に平坦に整え、平底を呈する。外面にミガキを施す。089 は口縁部が内湾し、胴部上位に刻み目突帯を廻らせる。

23SD170 から出土した鉢には、084 のように胴部の球形化が進んだ形状の鉢が見られる一方で、086 ～ 089 のように弥生時代の所産と思われる深鉢が含まれている。また、085 に見られるようなやや尖底気味の底部形状を呈する深鉢や、070 のような深い鉢部を有する台付鉢がみられることから、弥生時代後期終末から古墳時代前期前葉の所産であると考えられる。

壺形土器 (第 68 図～第 75 図)

23SD170 から出土した壺形土器は、壺 A 類:小形の丸底壺・鉢、壺 B 類:直口壺、壺 C 類:単口縁壺、壺 D 類:複合口縁壺、壺 E 類:二重口縁壺である。ほとんどが土師器であるが、148 は弥生土器である。

090 ～ 106 は小形の丸底壺・鉢の資料である。090 ～ 091 は壺 A-a 類。092 は、壺 A-b 類。093 ～ 095 は、壺 A-c 類である。096 ～ 099 は、壺 A-d 類。100 は壺 A-e 類。101 は壺 A-f 類。102 ～ 103 は壺 A-g 類。104 は球形化が進んだ胴部に、強く外反する短い口縁部がつく資料で、口縁部には一箇所穿孔が見られる。105 は法量が大いだが、壺 A-g 類と考えられる資料である。106 も同じく壺 A-g 類とした。

107 ～ 113 は直口壺。多くは、内外面ともナデもしくはハケ目調整を施される。110 は、口縁部に内外面ともミガキが施される。111 は口縁端部が内湾する資料である。112 は口縁端部を欠損するが、体部外面や口縁部内面にミガキが施される。113 は頸部から口縁部を欠損するが、直口壺の胴部と考えられる資料である。

114 ～ 126 は、単口縁壺である。114 ～ 122 は壺 C-a 類で、胴部が長胴形で、口縁部が短く外反、もしくは内湾気味に立ち上がる資料である。114 ～ 117 は、頸部に突帯を有する。114・116 は口縁部が内湾気味に立ち上がる。117 は胴部から下部を欠損するが、同タイプの資料であると考えられる。116 は、短く外反す

る口縁部に長胴形の胴部。底部はいずれも丸底化している。118～122は、頸部に突帯がないタイプである。118・119は内面にケズリが施される。120～122は胴部から底部を欠損する。

123～126は、球形化のすすんだ胴部に大きく開く口縁部を有する壺C-c類の資料である。124は、口縁部を欠損するが、球形化のすすんだ胴部が共通する。内面調整はハケ目である。125・126は底部を欠損するため全体の形状は不明である。

127～143は複合口縁壺である。127・128は、安国寺式タイプの複合口縁壺であると考えられる。壺D-a類で胴部及び頸部に突帯を貼り付ける。胴部は長胴で底部を欠損する。複合口縁部は長く伸長し、2段にわたって比較的精緻な櫛描波状文が施文されている。129は頸部に1条と、球形化のすすんだ胴部に突帯を1条巡らせる。直線的に立ち上がる複合口縁部には鋸歯文（連続三角文）を施文している。安国寺式タイプに特徴的な櫛描波状文ではないが、鋸歯文（連続三角文）も、古墳時代初頭に在地系の複合口縁壺の文様として盛行する。このような頸部や胴部の突帯や、施文される文様は、在地系の複合口縁壺と共通する。しかしながら、かなり球形化がすすんだ胴部形状は、在地系にはあまり類例のないタイプであり、外来系の影響が考えられる。130は、壺D-a類で、長胴の胴部に内面にはヘラケズリを施し、器壁は薄くなっている。131は、複合口縁部を欠損するが、安国寺式タイプの複合口縁壺か。132～136は、安国寺式タイプの複合口縁部。いずれも、頸部に突帯を貼り付ける。137は129と同じく、複合口縁部に鋸歯文（連続三角文）を施文する。

139～143は、壺D-c類か。胴部及び頸部の突帯を省略する。内外面ともハケ目調整。139は、複合口縁部に波状文を施文する。文様はかなりだれており、沈線状である。140は外反気味に立ち上がる複合口縁部や、肩が張る胴部形状に、外来系の影響がみられる資料である。141は、複合口縁部に2段の櫛描波状文を施文する。複合口縁部の器壁が厚い。142は、複合口縁部の櫛描波状文を省略する。複合口縁部が外反気味に立ち上がるなど、外来系の影響か。143は、小形の複合口縁壺の口縁部片で、赤色塗彩される。

144・145は、山陰系の複合口縁壺と考えられる壺D-d類である。144は小形で脚付きである。145は複合口縁部のみで遺存である。146は、壺E-a類の口縁部資料と考えられる。山陰系の二重口縁壺の資料か。

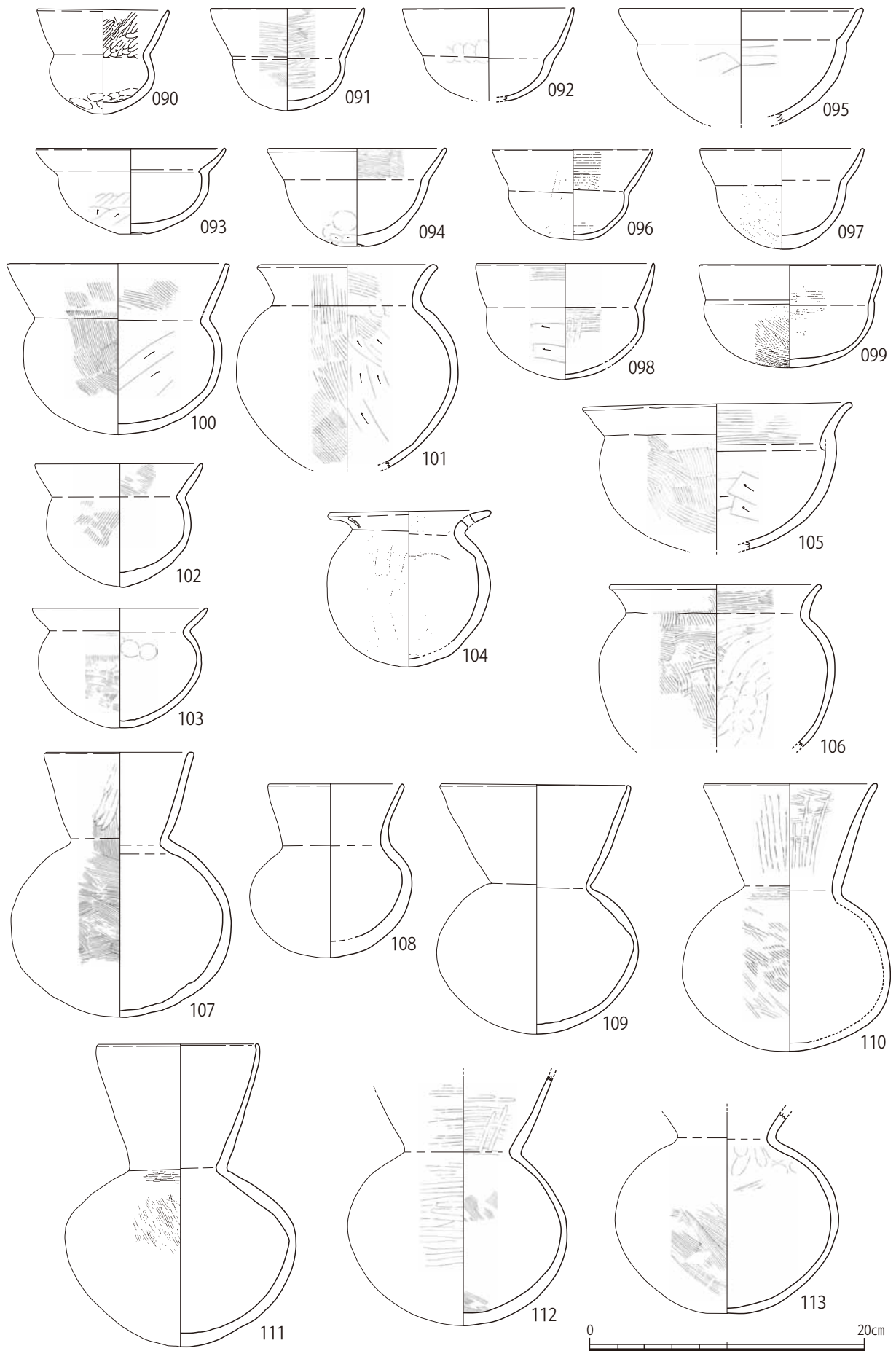
147は今回分類していないタイプの壺で、土師器の無頸壺か。口縁部から肩部の破片資料である。内面はケズリ後ハケ目、外面はミガキ調整が施される。

148は頸部から上を欠損するが、弥生土器長頸壺か。赤色塗彩され、内外面ともミガキ調整が施される。

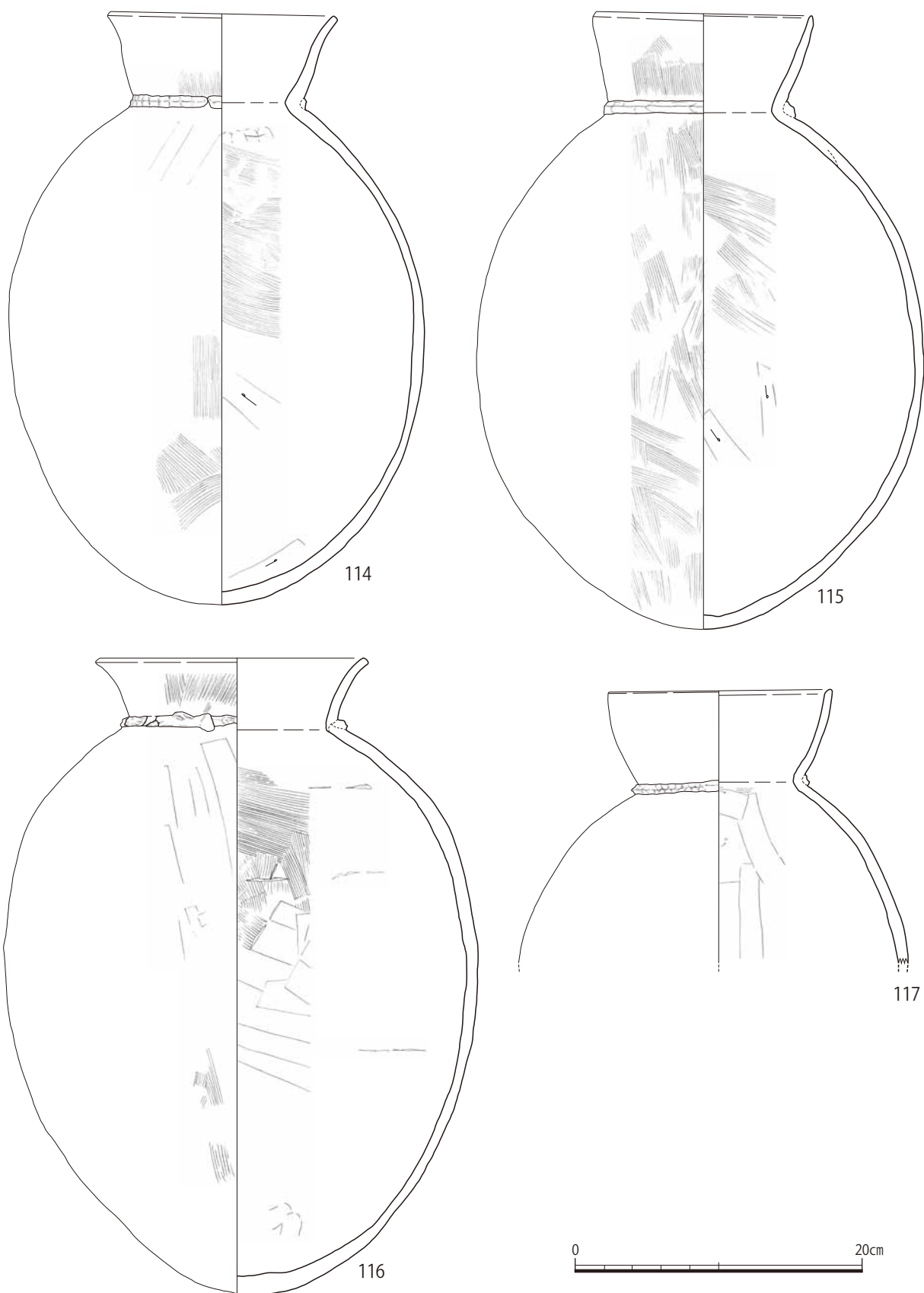
149は、頸部から上を欠損する大形の土師器壺である。内面は単位の大いハケ目調整、外面はハケ目後ナデ調整を施す。器壁は薄いものの、底部は小さいながら凸レンズ気味の平底が残るため、古相を示していると考えられる。

全体の様相として、いわゆる小型丸底壺は口縁部の伸びが短く、23SD001や後述の20SD001で比較的多く出土している091のような壺A-b類がほとんどみられない。また、新相を示すと考えられる口縁部が器高、胴部最大径より狭いタイプ（壺A-h類）が認められない。複合口縁以外の壺は球形化が顕著ではなく、胴部が長胴形で、頸部に突帯を有する資料（壺C-a類）が主体で、口縁部が直線的に大きく開くタイプ（壺C-c類）が少ない。安国寺式タイプの複合口縁壺は、全体的に複合口縁部に施文される櫛描波状文も比較的精緻で、粗いものが少ない。胴部形態も長胴形が多い。

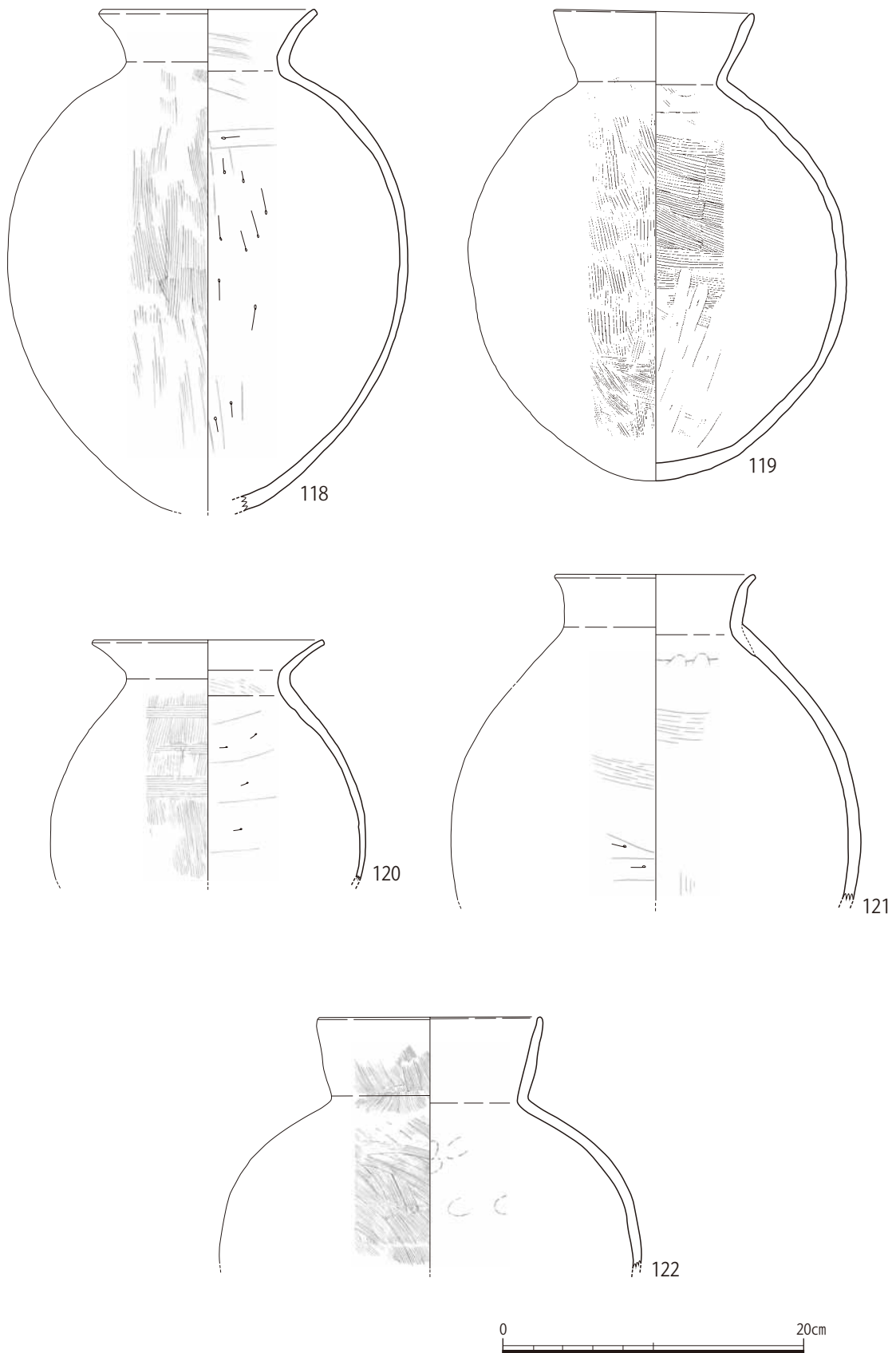
これらの様相は先に述べた23SD001や後述する20SD001出土土器より古相を示していると考えられ、古墳時代前期前葉が主体であると考えられる。



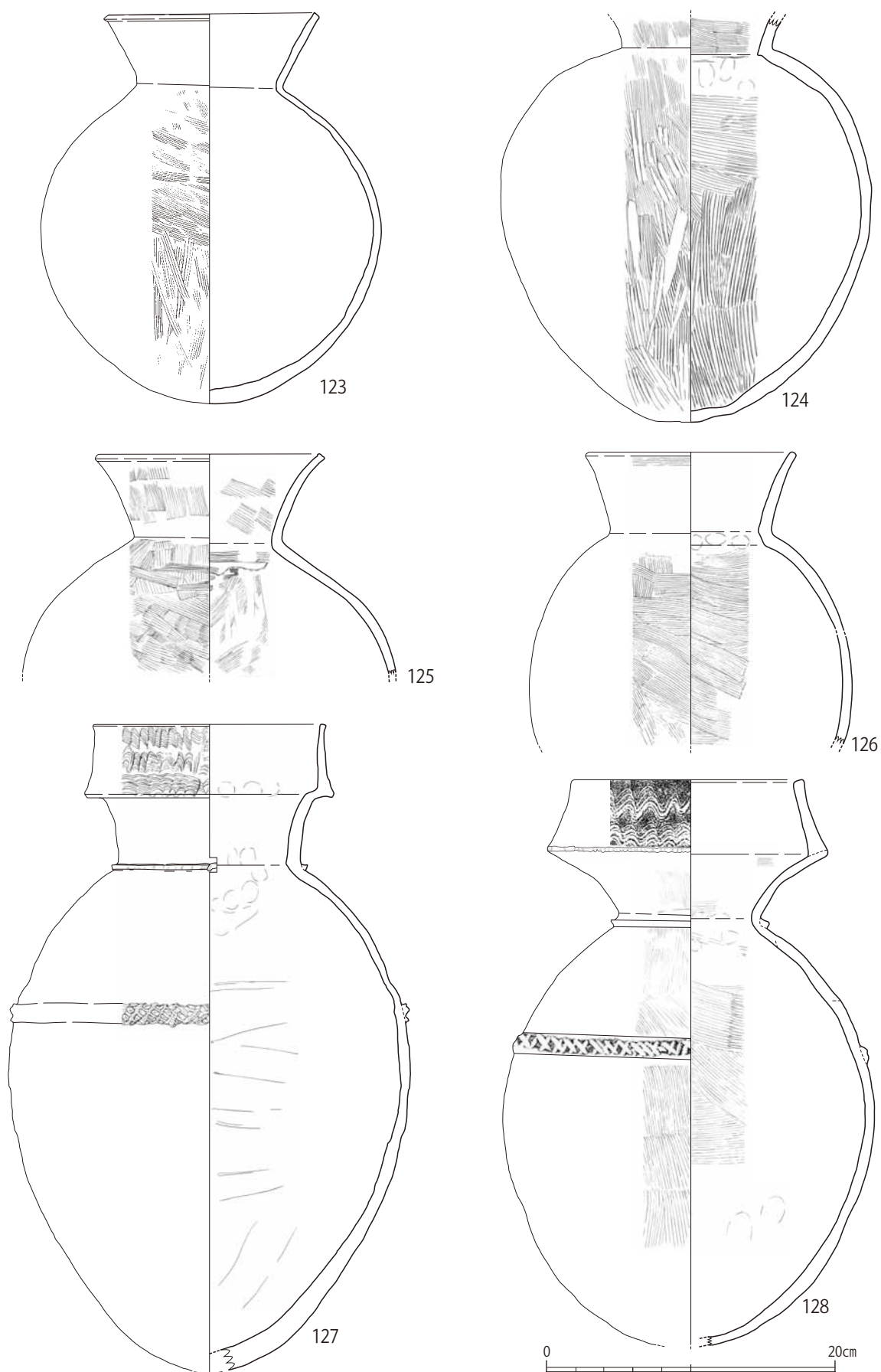
第 68 図 23SD170 出土遺物実測図 8 (1/4)



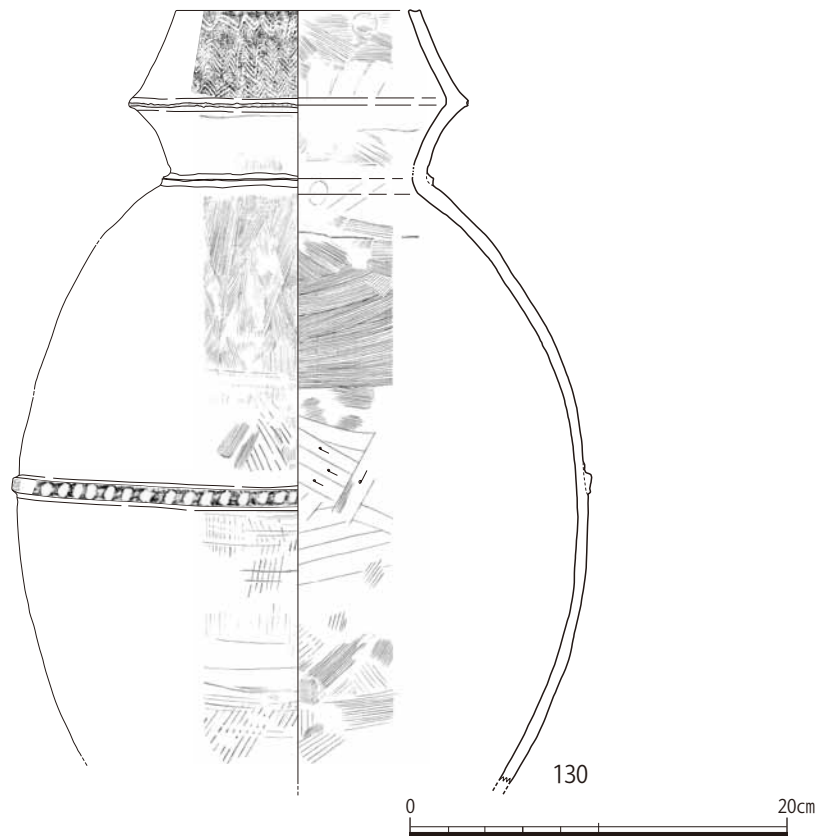
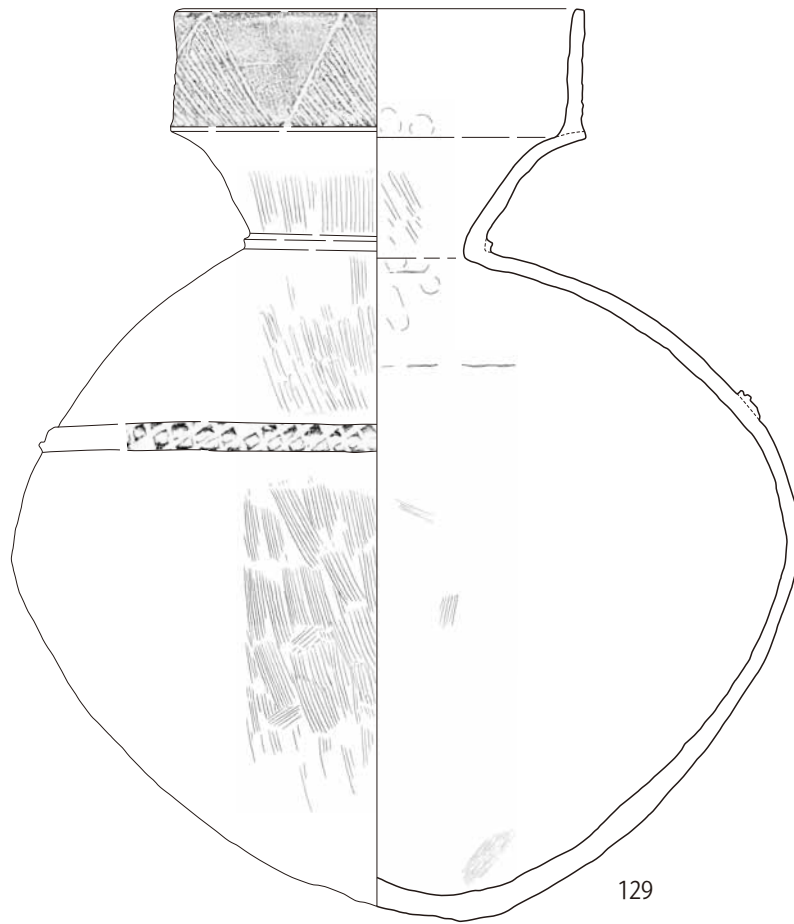
第 69 図 23SD170 出土遺物実測図 9 (1/4)



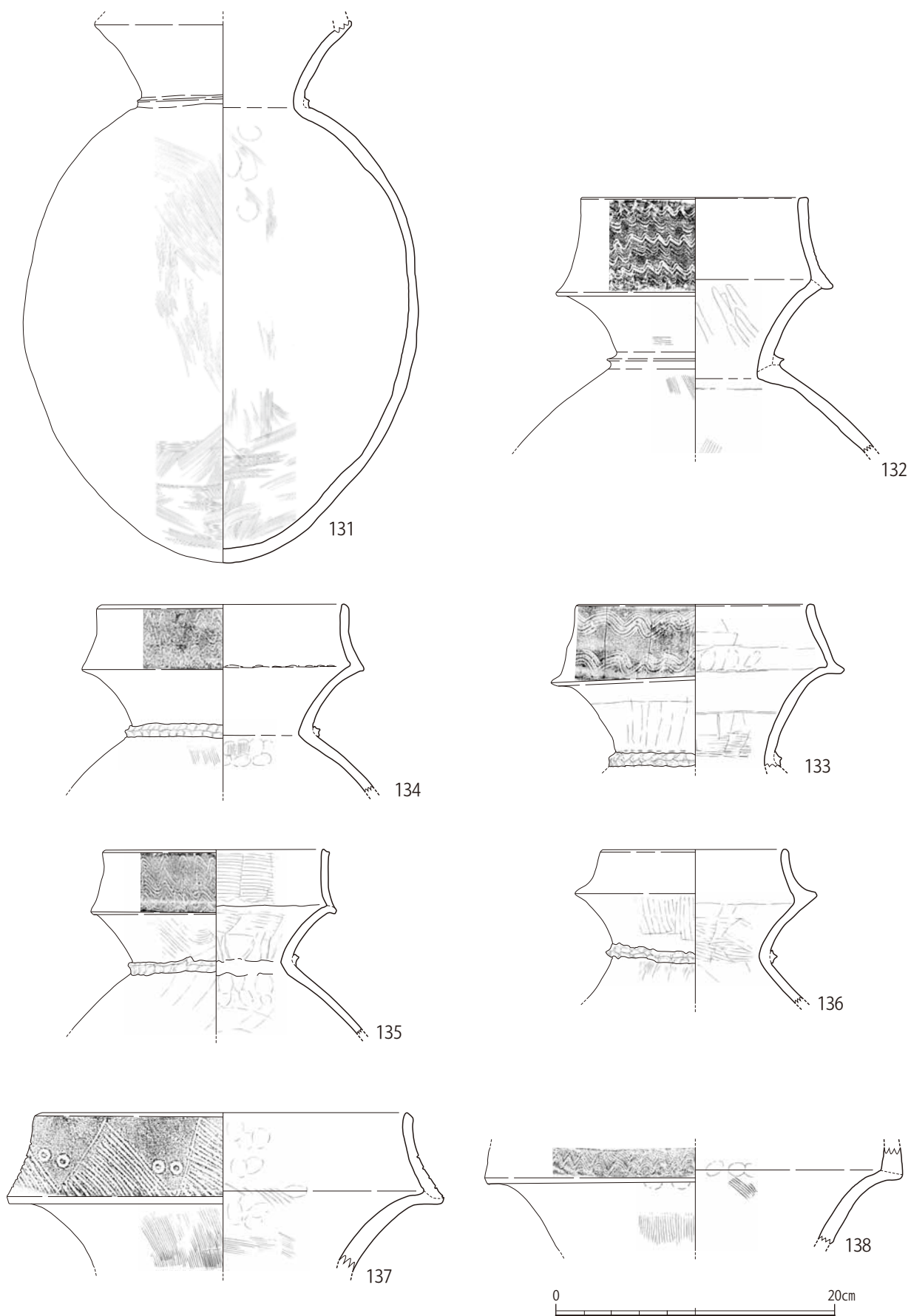
第 70 図 23SD170 出土遺物実測図 10 (1/4)



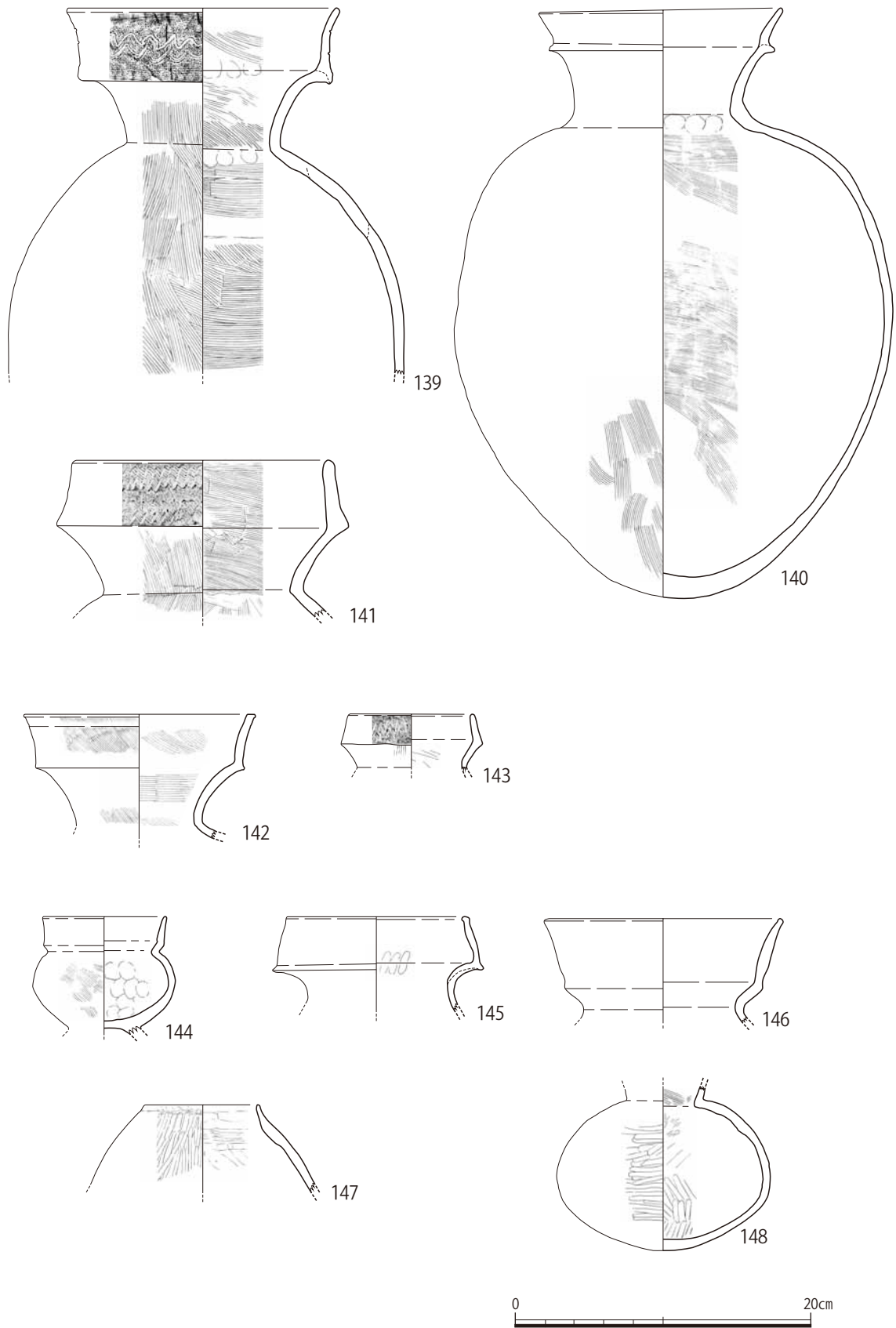
第 71 図 23SD170 出土遺物実測図 11 (1/4)



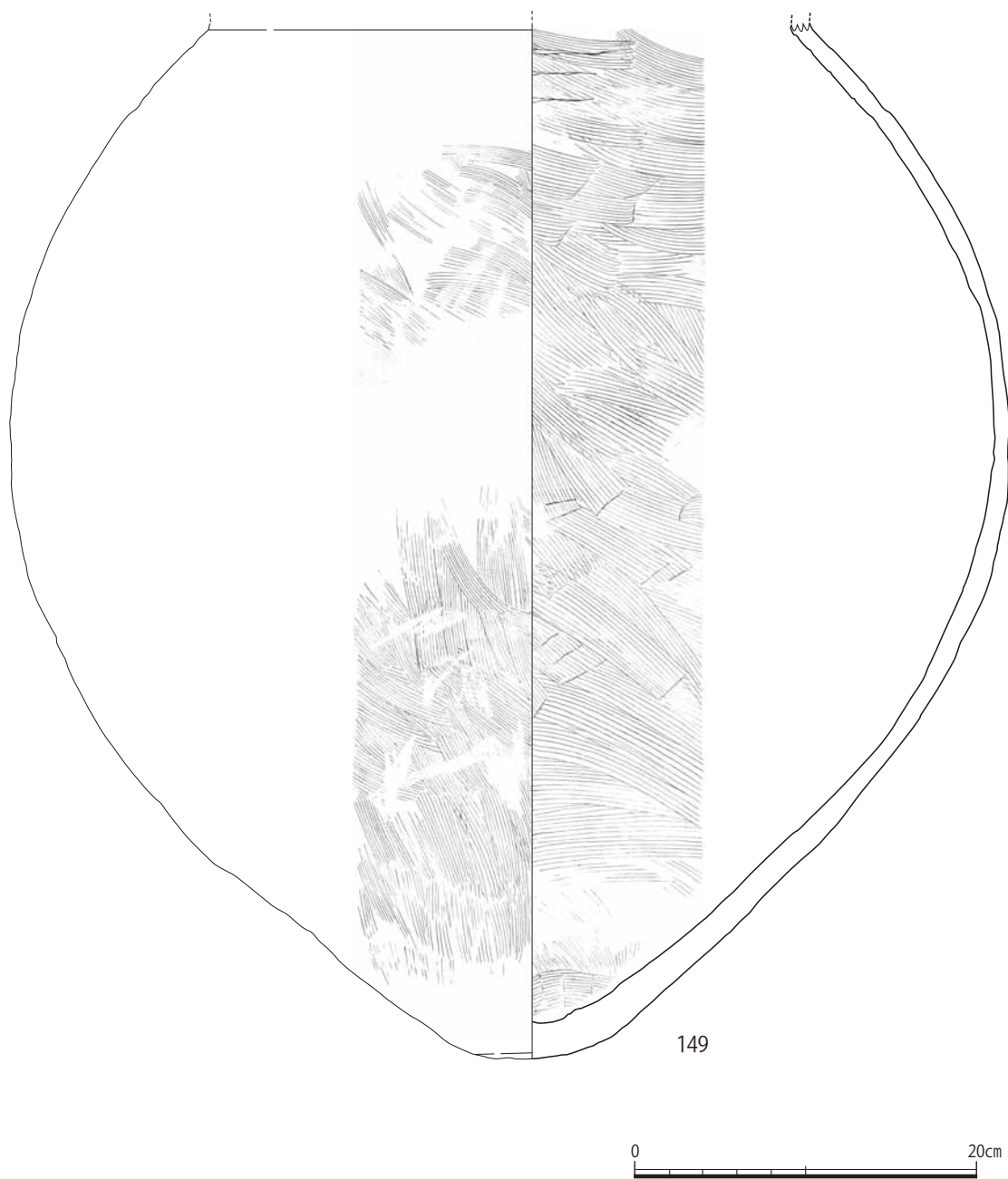
第 72 図 23SD170 出土遺物実測図 12 (1/4)



第 73 図 23SD170 出土遺物実測図 13 (1/4)



第 74 図 23SD170 出土遺物実測図 14 (1/4)

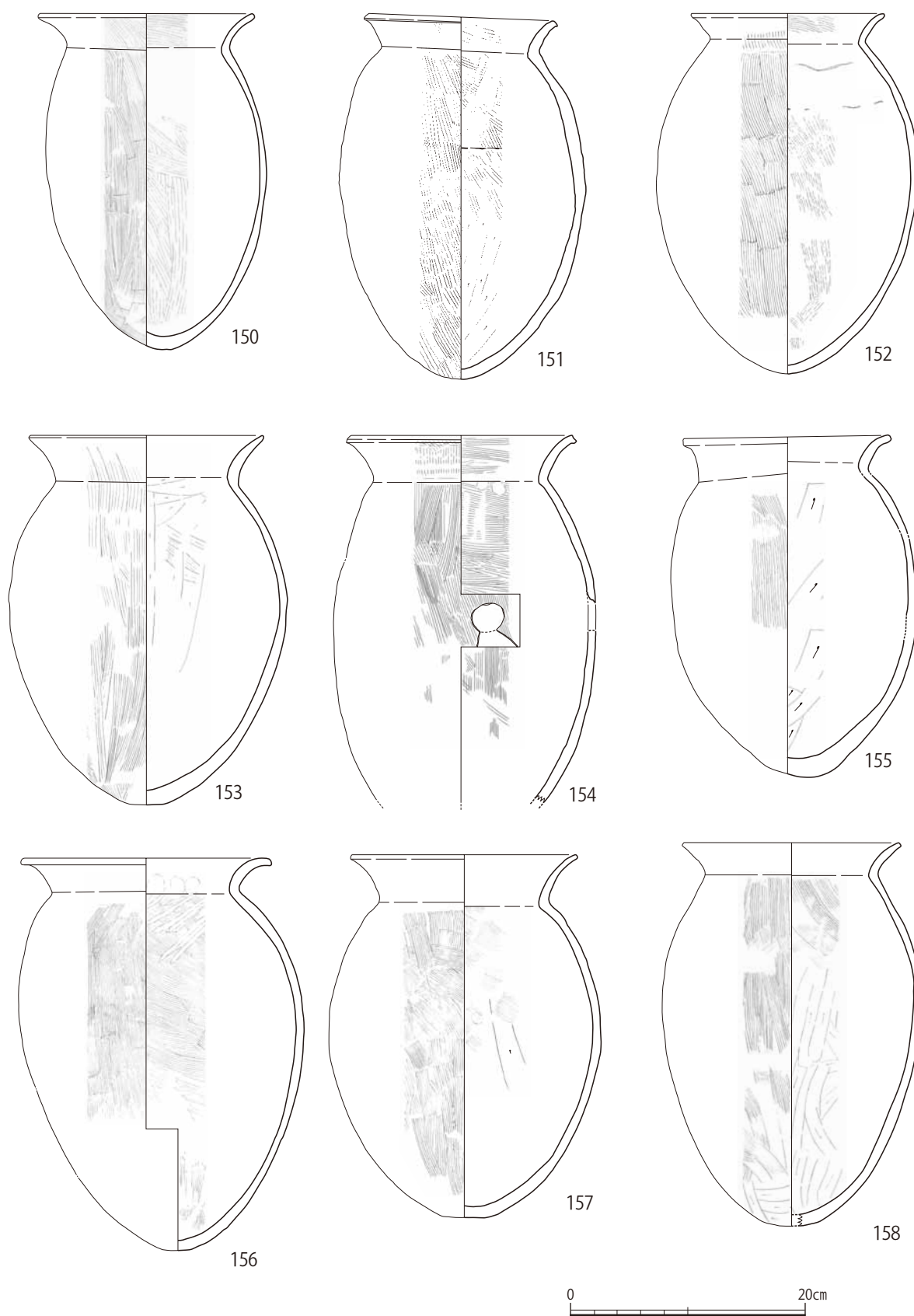


第 75 図 23SD170 出土遺物実測図 15 (1/4)

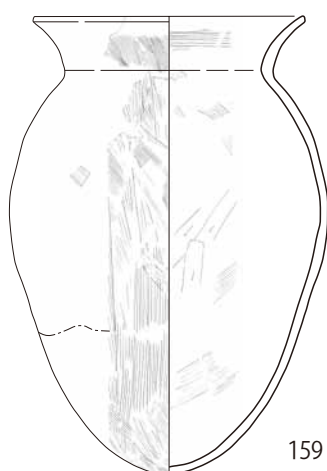
甕形土器（第 76 図～第 85 図）

23SD170 から出土した土師器甕の本稿における掲載点数は 100 点あまりである。それらの甕について、23SD001 同様に本稿での分類基準（第 190 図参照）に準じながら報告する。

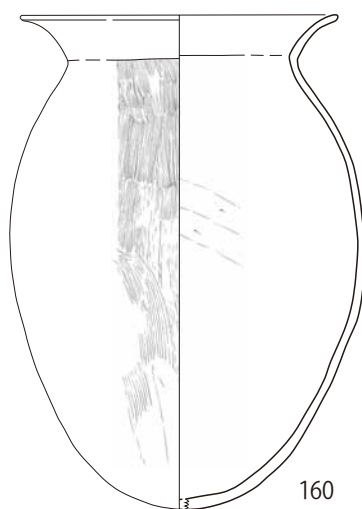
150 ～ 178 は器高 29cm 以上の大形の甕である。球形率 0.8 以下の長胴傾向を示すもの（甕 A）に相当する。その中で、150 ～ 155 は口縁部が外反し、頸部の締まりがゆるく、底部形状は尖底状を呈するタイプである。大甕 A1-ai に分類される。151 は口径 18.5cm、器高 31.1cm、最大胴部径 20.8cm を測り、内面は底部から胴部中位付近までケズリが施され、それよりも上位にはハケ目が認められる。外面はハケ目調整が全面に施されている。球形率は 0.68 を示す。152 は口径 16.4cm、器高 30.7cm、最大胴部径 22.0cm を測り、内外面ともにハケ目が認められる。球形率は 0.7 を示し、数値的にはわずかな差違であるが 151 に比して胴部の膨らみが増し、最大胴部の位置も胴中位付近に認められる。155 は口径 17.6cm、器高 29.5cm、最大胴部径 20.8cm を測る資料である。口縁部の立ち上がり角度は大きく、頸部付近から肥厚し、口縁端部は外方にわずかに屈曲して丸く納まる。内面はケズリ、外面はハケ目により調整される。底部付近の器壁は厚い。156 ～ 161 は大甕 A1-a_{ii} に属するタイプである。器高は 29cm 以上と大形であり、口縁部は外反し、口縁頸部は締りが緩く、底部形状は丸底を呈する。157 は復元口径 19.2cm、器高 31.0cm、最大胴部径 23.0cm を測り内面はケズリとハケ目、外面は綿密なハケ目により調整される。口縁端部は先細りとなり丸く納まる。底部形状は丸底状を呈するが、一部平坦部も認められる資料である。162 は大甕 A1-bi である。復元口径 17.5cm、最大胴部径 19.5cm を測り、内外面ともにハケ目により調整される。頸部の締まりは強く、底部はわずかに欠損するものの形状は尖底状を呈する。164 は器高 30cm 以上の大形の資料である。肩部に張りがあり、口縁部は長く伸びる。底部形状は丸底状を呈する。166 ～ 168 は大甕 A2-bi に属する資料である。166 は復元口径 17.4cm、器高 33.4cm、最大胴部径 23.3cm を測り、口縁部は直線的であり、「く」字状に外傾し、頸部の締まりは強い。内面の調整は胴上半部にハケ目、底部付近に指頭圧痕が認められる。底部は他資料に比して厚く、器壁も全体を通じて厚い。底部形状は尖底である。前代からの在地の甕を踏襲する在地色の強い甕資料である。169 ～ 178 は大甕の、口縁部から胴上半部が遺存する資料である。底部形状は欠損のため不明である。胴部の膨らみから長胴タイプと仮定し、口縁部・頸部により細別する。169 ～ 174 までは大甕 A1-a タイプ、175 ～ 178 は大甕 A2-b タイプに相当する。179 ～ 189 は大甕 B に属する資料である。球形率は 0.81 以上のものであり、胴部の膨らみが顕著なタイプである。口縁部の形状も多様に認められ、底部形状は丸底タイプが大半を占める。外来系の甕の影響を強く受けていると考えられる。179 は復元口径 17.1cm、器高 27.9cm、最大胴部径 23.2cm を測り、内面底部付近には指頭圧痕が認められ、胴上半部は縦方向の、頸部直下は横方向のヘラケズリが施され器壁は薄い。外面は胴上半部に縦方向のハケ目を施した後、横方向のハケ目が最終調整として実施される。肩部はナデ肩状を呈し、底部は尖底状である。布留式系甕の属性を具備した甕資料と考えられる。180 は大甕 B1-b_{ii} に相当する甕資料である。内面は底部から胴部中位にかけてヘラケズリが実施されており、その上位には、縦方向のハケ目の後、横方向のハケ目が認められる。器壁は厚く、底部は丸底状を呈する。外来の影響を受けつつも在地色が残る甕資料である。185 は 23SD170 出土の大甕 B タイプの中でも特に大形の資料であり、復元口径 24.2cm、器高 35.5cm、最大胴部径 29.0cm を測る。口縁部は直線的に外傾し、頸部の締まりは緩いタイプの大甕 B2-a_{ii} に属する。内面はケズリにより調整され、頸部付近はハケ目が実施されている。胴部下半に穿孔が認められる。186 ～ 189 は大甕 B2-b タイプに相当する甕資料である。いずれの資料も内面は横方向のケズリが認められ、器壁は薄い。外面のハケ目調整は縦方向後横方向に実施されており 188 は頸部付近にも指頭圧痕が認められる。口縁端部は平坦に仕上げられ沈線状の凹みが認められる。いずれも布留式系甕の影響を強く受けている資料である。190 ～ 193 は突帯が貼付された土師器甕資料である。192 は口径 20.6cm、器高 38.5cm を測る。頸部に三角状突帯が一条貼付する。内外面ともにハケ目により仕上げられる。底部はボタン状に突出している。193 は口径 26.4cm、器高 42.0cm を測る。内面はケズリ、外面はハケ目、ケズリにより調整される。頸部に貼付突帯が貼付する。190 ～ 192 は弥生時代後期終末に比定される資料と考えられるが、193 に関しては球形化が見られる点、ヘラケズリが内外面に認められ



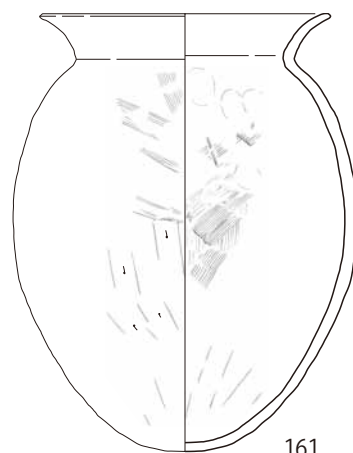
第 76 図 23SD170 出土遺物実測図 16 (1/5)



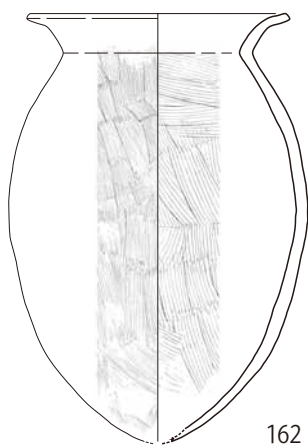
159



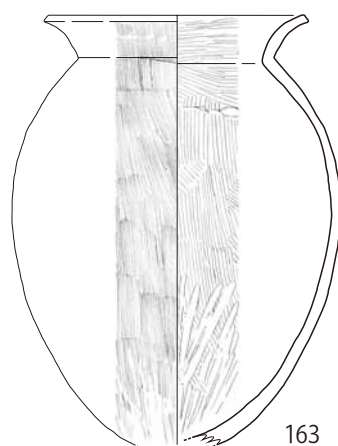
160



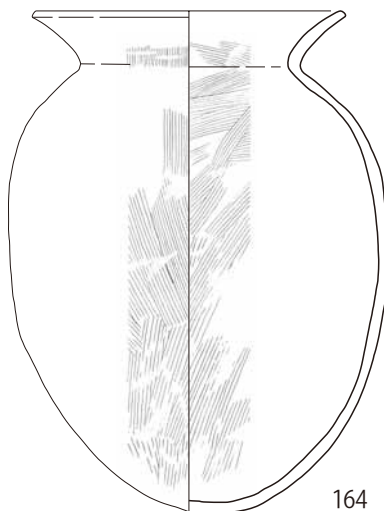
161



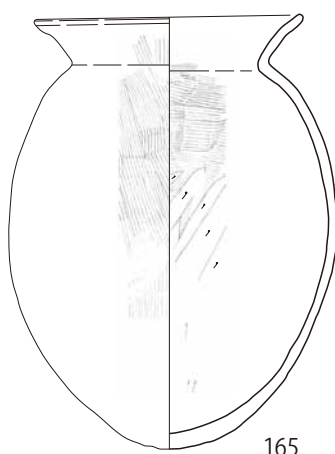
162



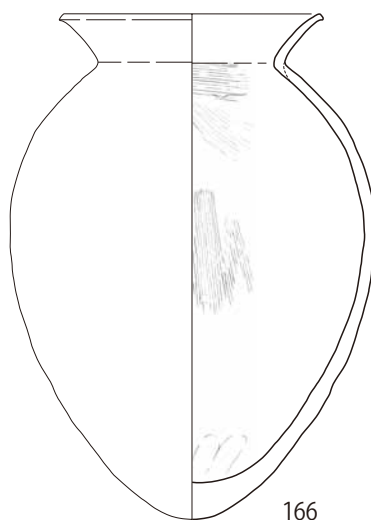
163



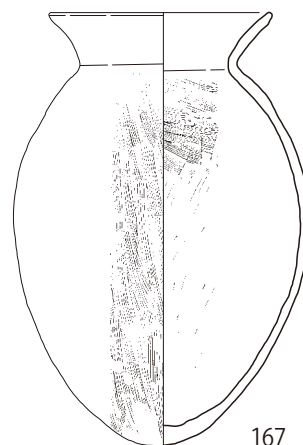
164



165



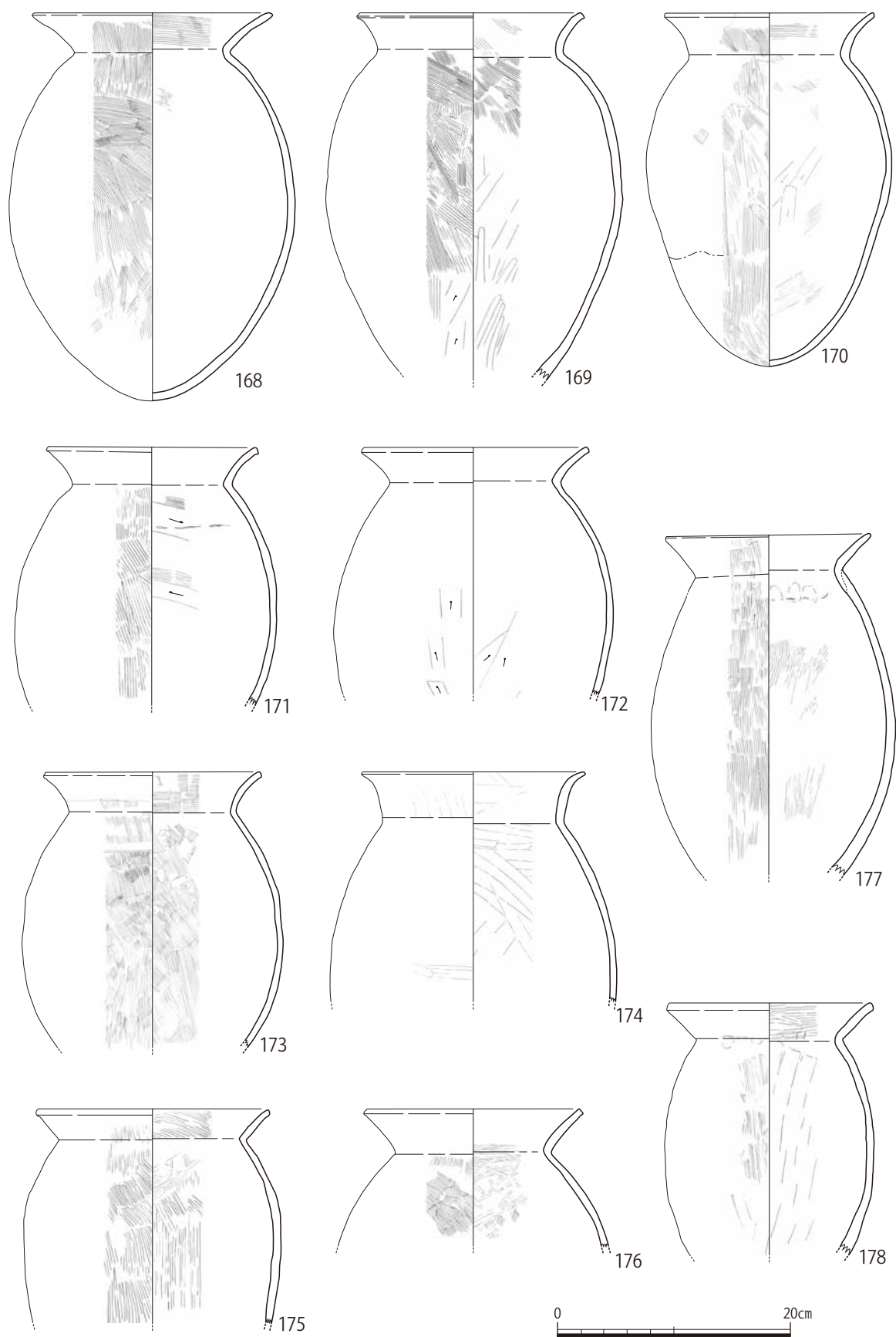
166



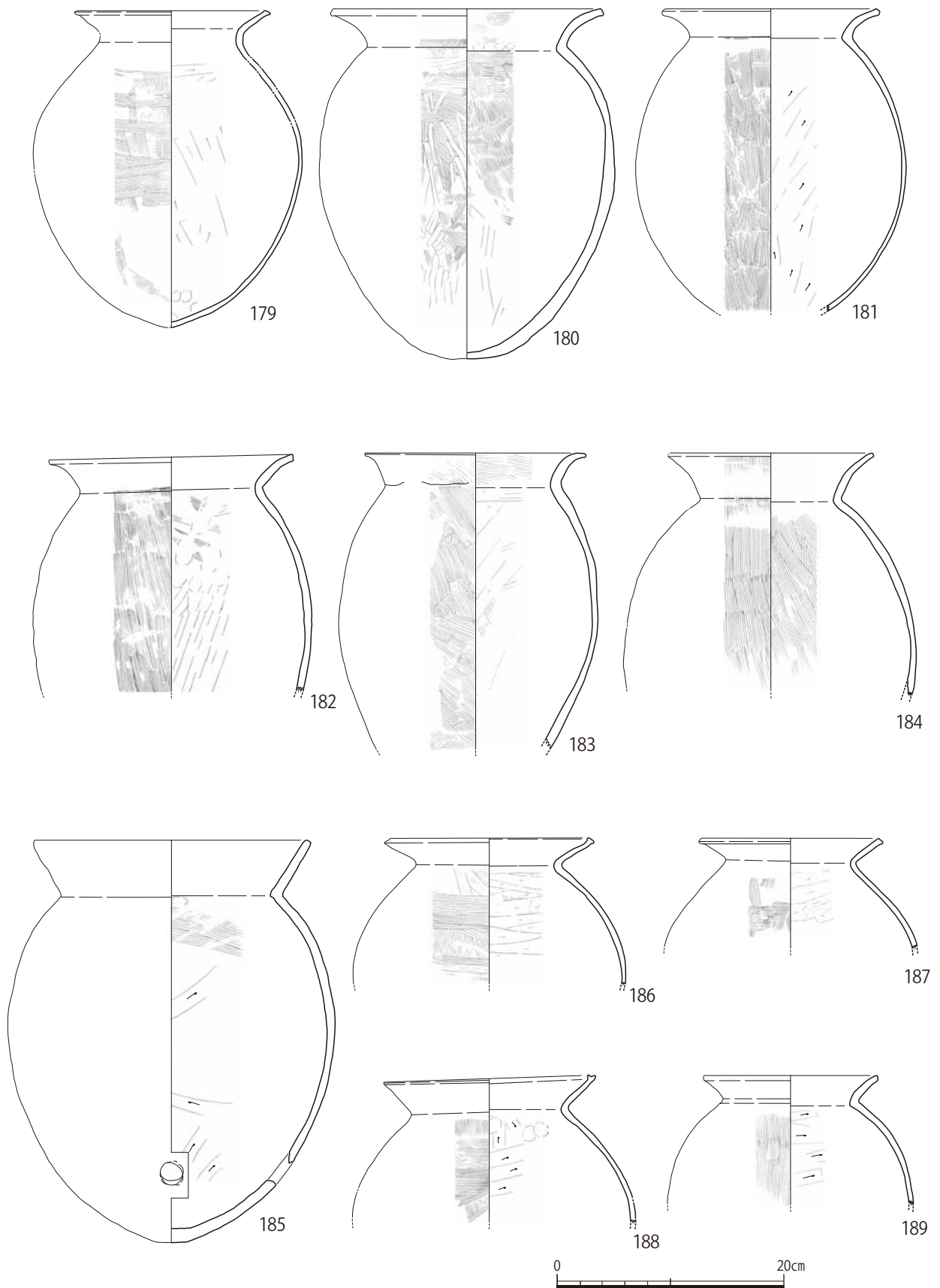
167



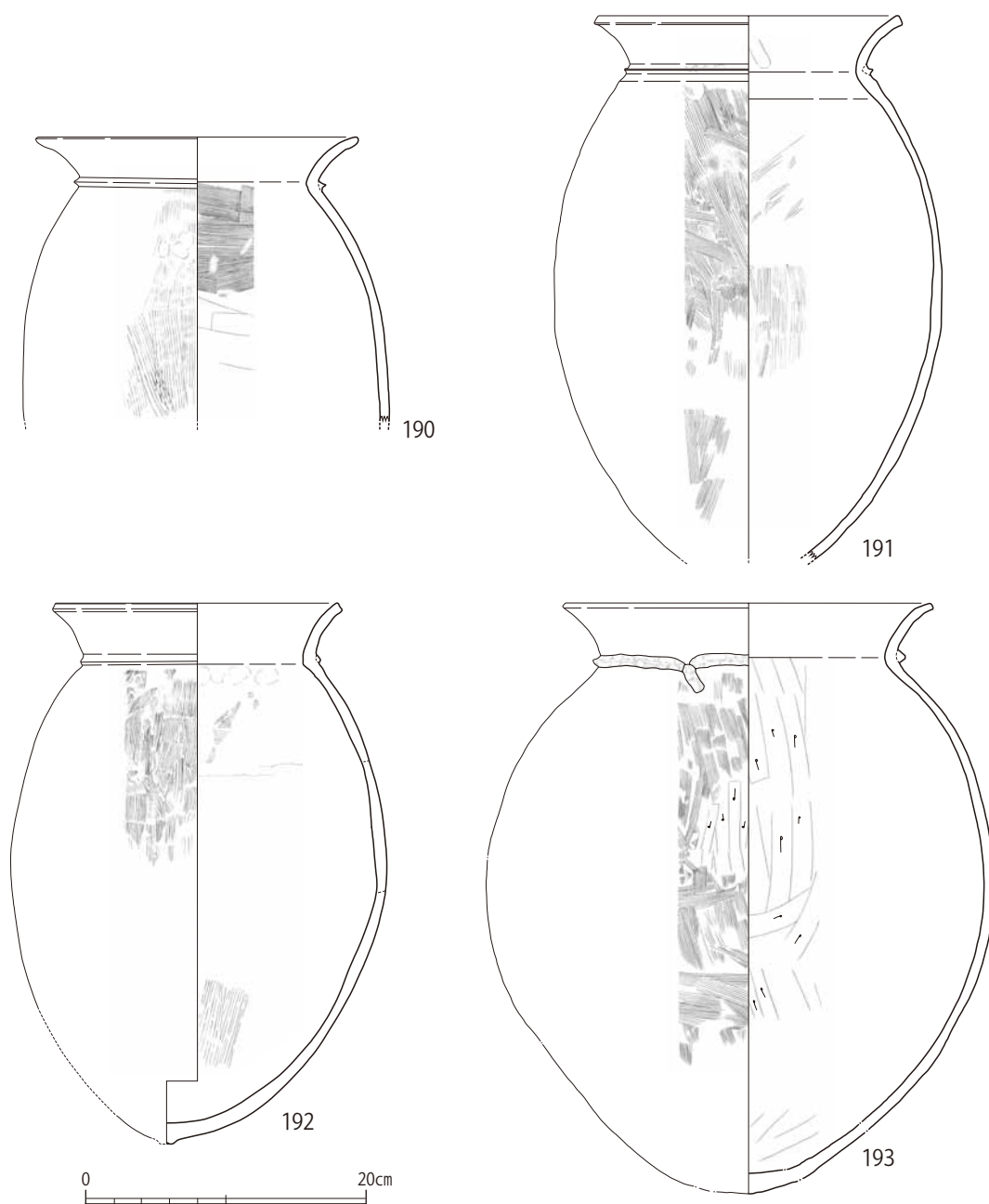
第 77 図 23SD170 出土遺物実測図 17 (1/5)



第 78 図 23SD170 出土遺物実測図 18 (1/5)

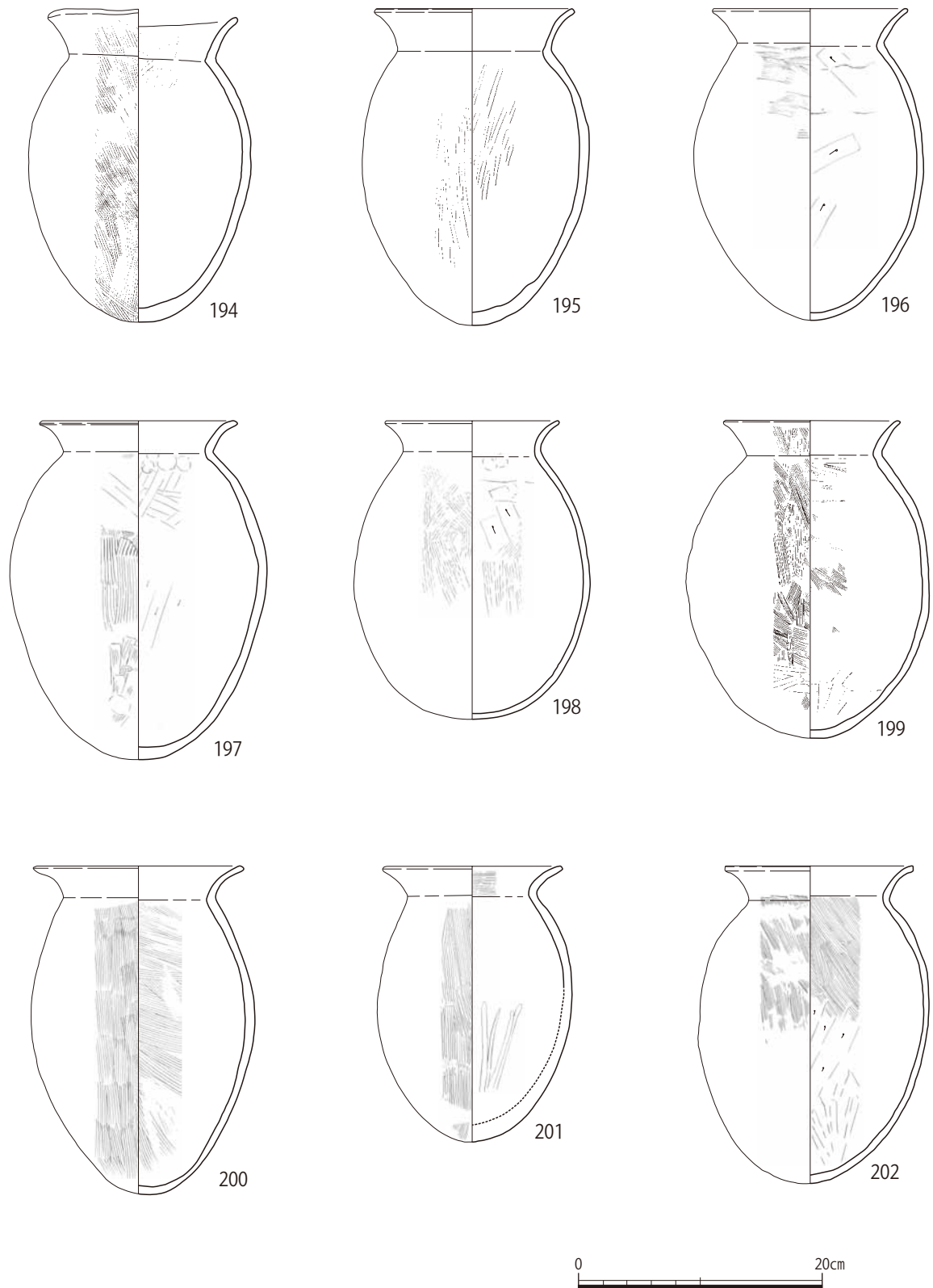


第 79 図 23SD170 出土遺物実測図 19 (1/5)

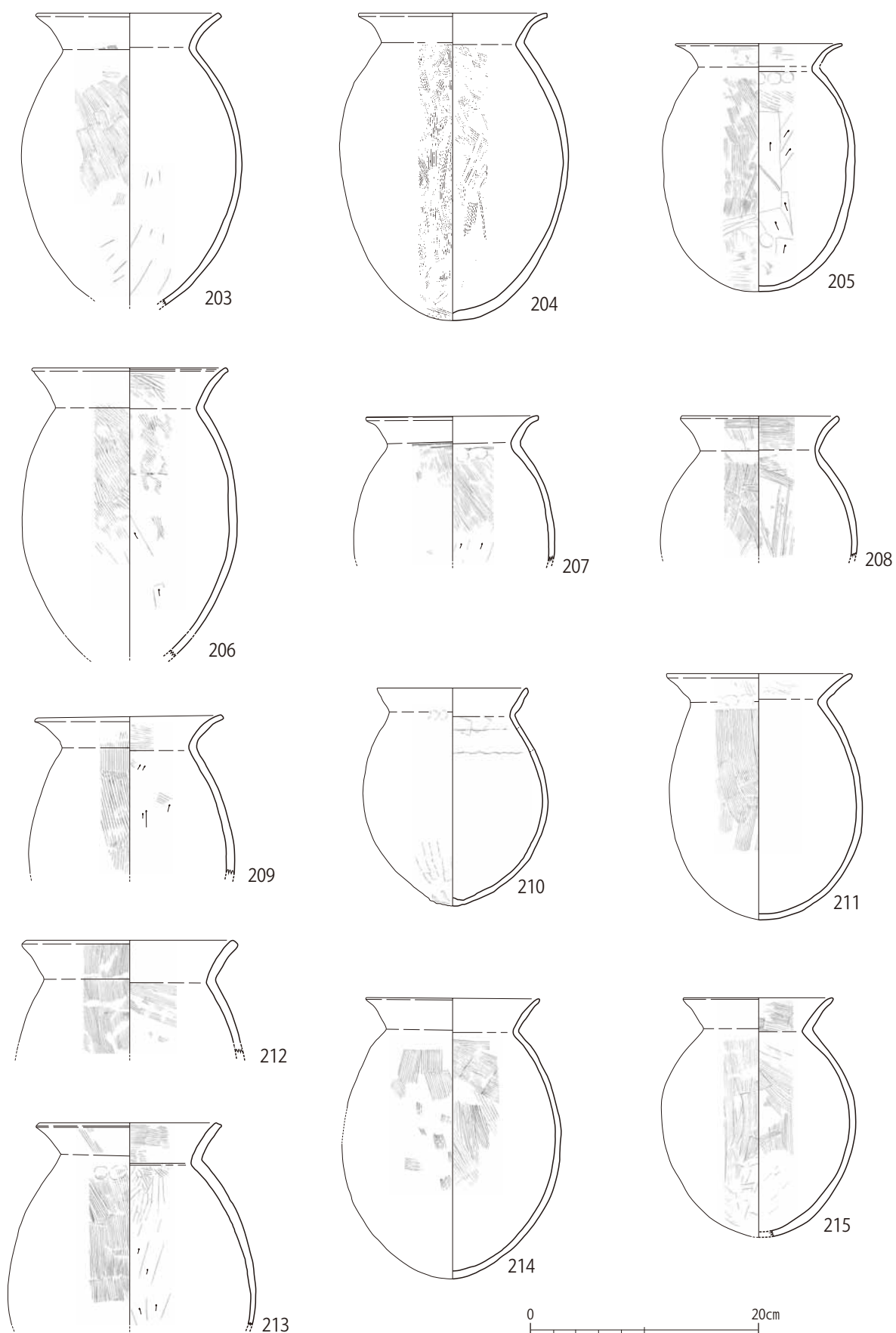


第 80 図 23SD170 出土遺物実測図 20 (1/5)

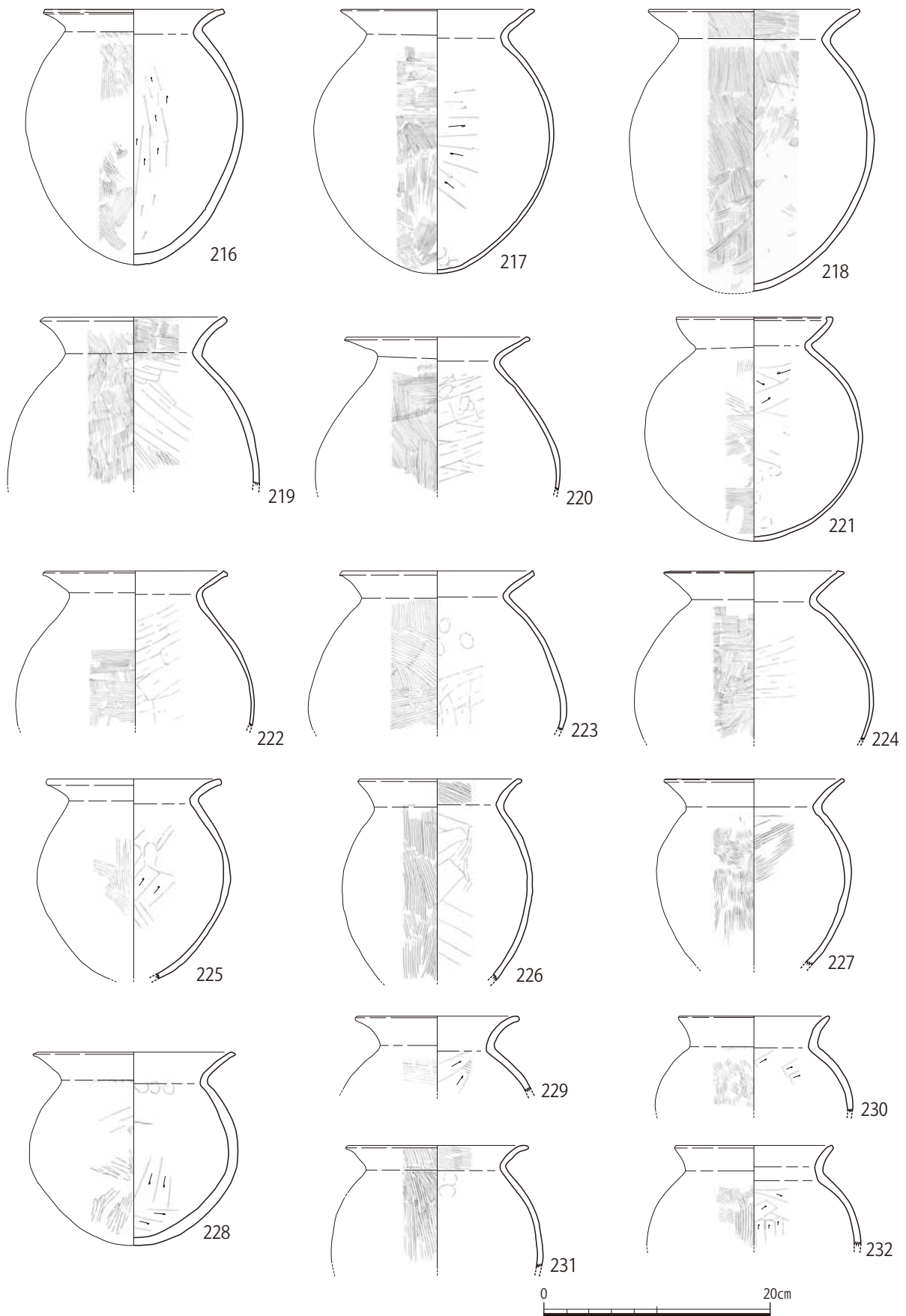
る点、新来の制作技術を取り入れており、古墳時代初頭から前葉にかけての資料と考えられる。194～215 は中甕 A タイプとされるものであり、器高 19cm～28cm、口径 15cm～20cm の資料で球形率が 0.8 未満のものが相当する。194～199 は中甕 A1-aii に属する。194 は口径 15.6cm、器高 25.7cm、最大胴部径 18.0cm を測る。内外面ともにハケ目により調整される。口縁部は外反し、底部形状は丸底状を呈する。196 は底部が尖り気味ではあるものの丸底をなす。内面はケズリにより調整され、器壁の薄壁化が認められる。198 は最大胴部径の位置がわずかに中位より下にあり、雑なつくりである。内面のヘラケズリにより器壁は薄く、頸部の締めりは緩い。204 は中甕 A1-bii に分類される資料である。内外面ともにハケ目により調整される。口縁部は口縁中位において屈曲し外反する。底部形状は丸底である。214 は口縁部が直線的に立ち上がって外傾する。内面底部付近はケズリにより調整される。216～232 は中甕 B タイプに相当する資料である。217 は中甕 B2-bii に分類される。内面は底部付近に指頭圧痕、胴部中程にはヘラケズリが認められる。また、外面は縦方向のハケ目後、



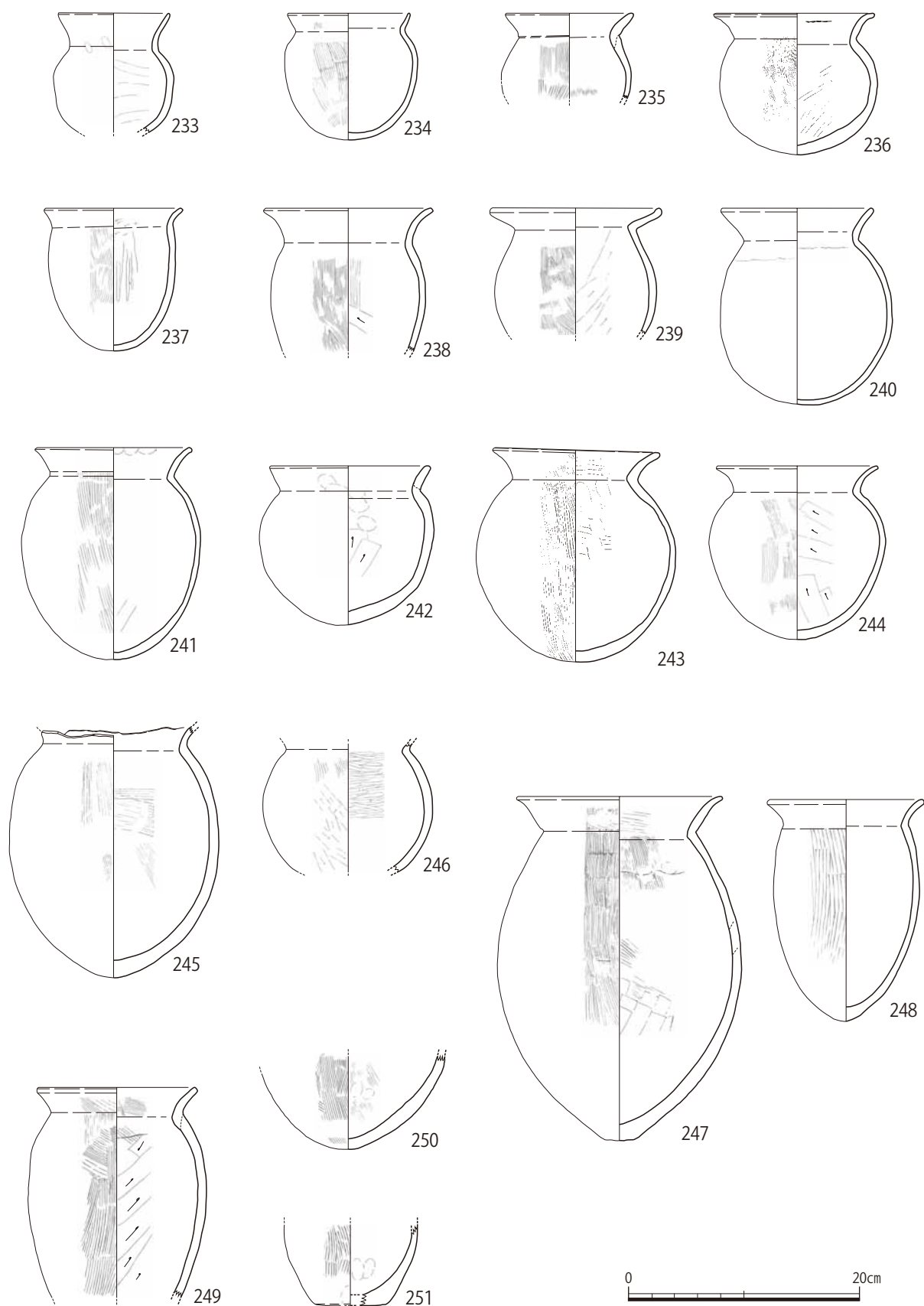
第 81 図 23SD170 出土遺物実測図 21 (1/5)



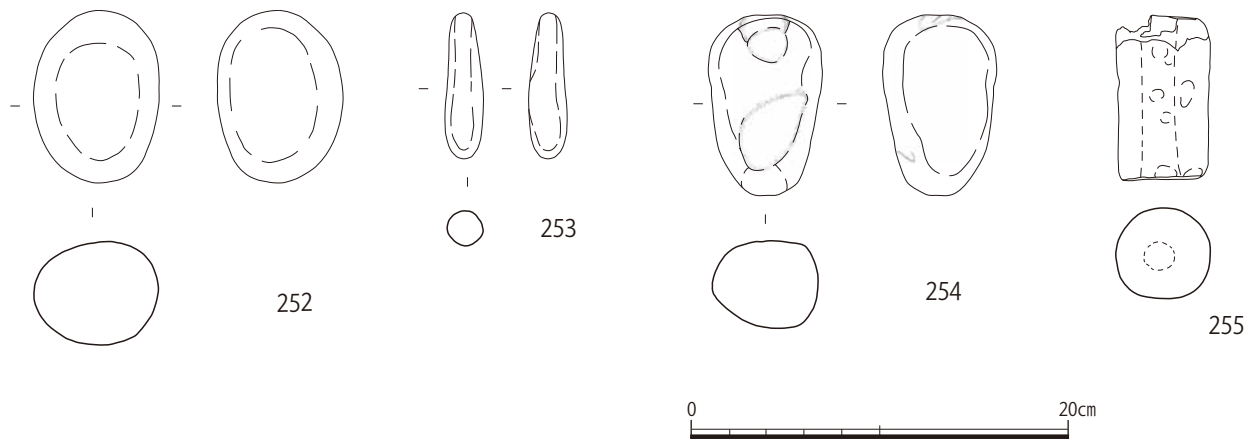
第 82 図 23SD170 出土遺物実測図 22 (1/5)



第 83 図 23SD170 出土遺物実測図 23 (1/5)



第 84 図 23SD170 出土遺物実測図 24 (1/5)



第 85 図 23SD170 出土遺物実測図 25 (1/4)

横方向のハケ目が実施される。頸部付近は肥厚し口縁中位はわずかに凹む。肩部はナデ肩状を呈し、布留式系甕の特徴を模したものである。221 も同じく布留式系甕の影響を強く受けた資料であり、内面の調整にはケズリ、指頭圧痕が認められ、外面はハケ目調整が実施されている。233 ～ 244 は小甕資料である。該期の小形の甕はバリエーションにとみ、分別が困難を極めたため、分類上小甕としているものの、小形の鉢および壺として考えられる資料も一括している。247 ～ 251 は弥生時代後期終末前後の資料である。247 は底部平底を残す甕資料である。内面はケズリが認められ、外面はハケ目により調整される。

以上が 23SD170 のついでにの遺物の報告である。

ここで、23SD170 出土の甕資料の分類結果を踏まえて、時間的位置づけを検討する。

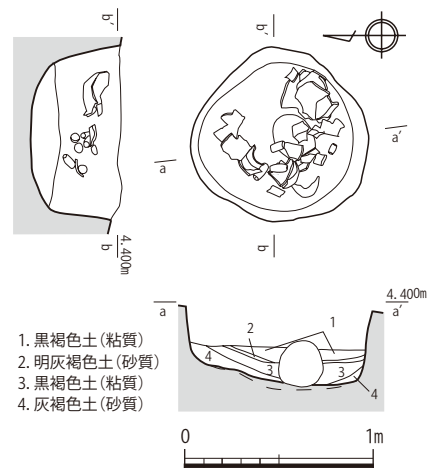
23SD170 出土の甕のうち、法量別の出土状況は、大甕が全体の 44% を占める。その中で大甕 A とする長胴タイプのものは 73% におよび、大甕 B とする球形タイプのものは 27% である。また、中甕は全体の 43% であり、残りは小甕である。中甕 A の割合は 56%、中甕 B は 44% となり、わずかに中甕においても A タイプの占める割合が多い。大甕、中甕を合わせてみても、長胴タイプである A タイプは 56%、球形タイプである B タイプは 32% となり低い割合を示す。これは、23SD001 の様相とは逆転しており、異なる様相を示している。また、口縁形態別でみると、1 類とした外反するタイプは 8 割ほどを占め、2 類とされる直線的に立ち上がるタイプは 2 割ほどである。底部形態別では ii 類とする丸底タイプが 6 割強を占めている。以上のことから、23SD170 出土の甕は長胴タイプのものが半数以上を占め、口縁形態も在地系の甕に多用される外反した口縁部を持つもので占められる。底部形態は尖底状から丸底化を指向し始めている時期のものである。これらの特徴は古墳時代前期初頭から前葉に相当すると考えられる。具体的に示せば、23SD170 の 152・156・166・201 は口縁部が外反し、胴部形態は長胴、調整もハケ目やミガキが実施され、器壁も厚く前代の系譜をひく資料と考えられる。古墳時代前期前葉の標識資料となっている守岡遺跡 19 号住居跡出土の甕資料にはケズリがみられるものも多く、賀来中学校 1 次調査出土の甕資料は底部にわずかに平底を呈しているものが多いことから先述の資料はそのどちらでもなく、底部形態が型式変化していく途上の段階に位置するものと推定される。また、球形タイプの甕 179・217・221 等は新来の技術導入による影響を強く受けたものであり、外面は細密なハケ目、内面は胴上半部にケズリ、底部付近に指頭圧痕が認められる。守岡遺跡 19 号住居跡の出土資料に類似する。以上のことから、23SD170 出土の甕は古墳時代初頭から前期前葉の所産であり、その主体は古墳時代前期前葉に求められるものとする。

土錘・石器 (第 85 図)

252・253 はすり石であり、ともに安山岩を使用している。254 は用途不明石製品である。255 は大形の土錘である。一部欠損しており現在長は 8.8cm、径 4.8cm を測る。

23SE051 (第 86 図)

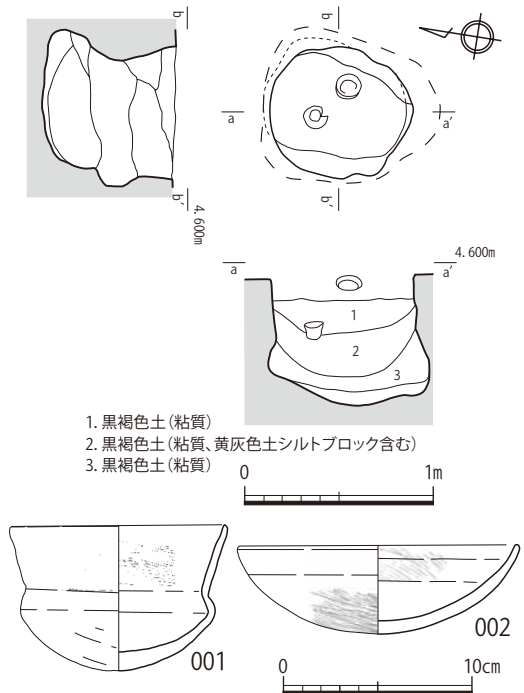
調査区の北西で検出した井戸跡と考えられる遺構である。径 0.9m ほどの円形基調で、後世の削平により検出面からの最大深は 0.49m 程しか残存していない。黒褐色粘質土を基調とする土で埋積しているが、底部付近のみ砂質土が層状に堆積している。底部付近にはわずかながら湧水が認められる。井筒は検出されなかった。遺構上層（1 層）からは土師器片とともに土錘がまとまって出土した。土錘は出土位置が記録できたものが 8 点、それ以外にも 4 点出土した。いずれも大型のものである。最下層からは、ほぼ完形の土師器甕が出土している。出土遺物は、古墳時代前期中葉の土器であり、井戸の廃絶も同時期と考えられる。



第 86 図 23SE051 遺構実測図 (1/40)

23SE051 出土遺物 (第 88 図)

出土遺物は、土師器器台、壺、甕、土錘である。001 は小形の器台で、内外面にミガキが施される。002 ～ 004 は、山陰系の二重口縁壺であろうか。002 は小形。004 は上層出土。005 ～ 008 は土師器甕である。底部形態は丸底が基本だが、005 は尖底傾向。005 ～ 007 の甕は、内面にケズリが施されているが、器壁が厚く、いずれも在来系の甕であると考えられる。005・007 の口縁部が外傾気味で、005 の頸部屈曲部分が平坦化していること、007 の口縁部の中位が、肥厚していることなどに外来系の影響が見られる。全体的に、球形胴化が進んでいるものの、最大径は胴部中位もしくは、005 のように上位にある。008 は、最下層から出土した在来系の土師器甕で、ほぼ完形で器壁は厚く、内面はハケ目調整、胴部は球形胴化が進むが、長胴傾向が残る。009 ～ 020 は長さ 7.0cm ～ 10cm 程度の大形の管状土錘で、多くがほぼ完形の状態で出土した。016 ～ 018 は下層からの出土である。遺物の時期は、甕の底部が丸底化する一方で、長胴傾向が残ることなどから、古墳時代前期中葉でも古相であると考えられる。



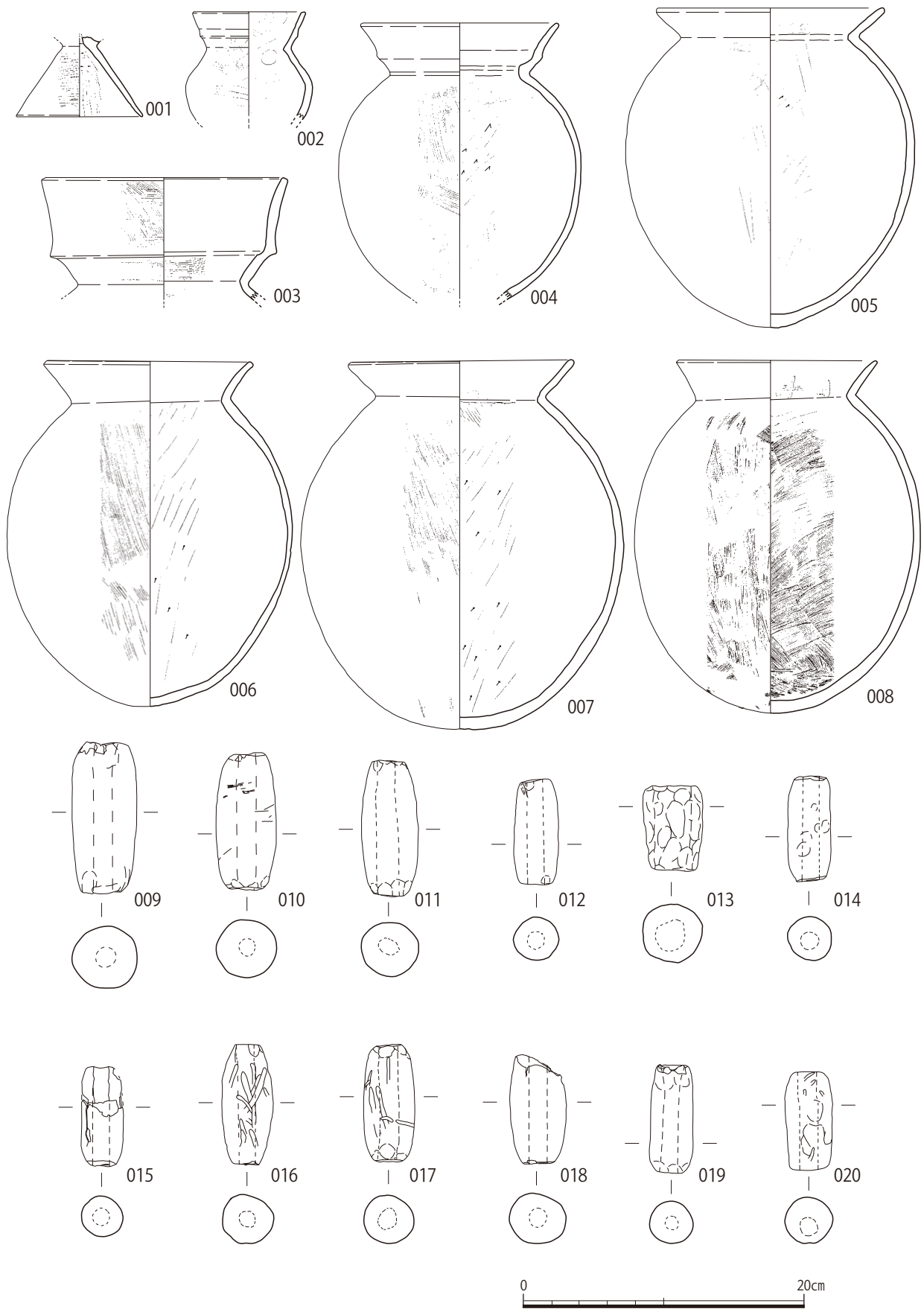
第 87 図 23SE052 遺構実測図 (1/40) ・
出土遺物実測図 (1/4)

23SE052 (第 87 図)

調査区の北西、23SE051 の南側で検出した井戸跡と考えられる遺構である。径 0.9m ほど円形基調で、後世の削平が著しいため検出面からの深さは 0.7m 程度である。埋土は黒褐色土を基調とする。壁面の一部には滞水により崩落したとみられるオーバーハングが認められ、遺構北東側と南側で特に著しく、壁面から 15cm 程度に及んでいる。調査中も底部付近には湧水が認められる。井筒は検出されなかった。出土遺物は少ないが、遺構検出面付近ではほぼ完形の土師器鉢が出土している。出土遺物から、遺構廃絶時期は古墳時代前期中葉と考えられる。

23SE052 出土遺物 (第 87 図)

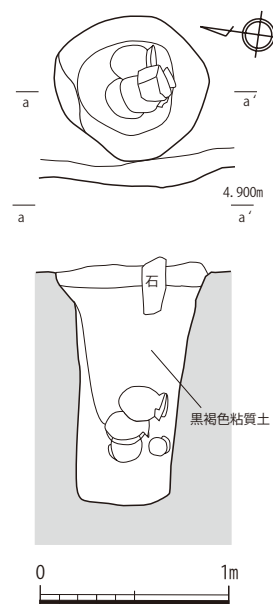
出土遺物は、土師器小型丸底壺と鉢の 2 点である。001 は小型丸底壺。胴部はつぶれた偏球形で、長く伸長した口縁部は、器高の 1/2 程度を占める。外面は丁寧なナデで調整される。002 は鉢。古墳時代前期中葉頃の所産であろうか。



第 88 図 23SE051 出土遺物実測図 (1/4)

23SE076 (第 89 図)

調査区西端中央付近で検出した井戸状遺構である。長軸 0.82 m、短軸 0.86 m、検出面からの深度は 1.28 m を測り、平面プランは円形に近い形状を呈する。井戸底部付近に豊富な湧水が認められたが、それによる崩落痕跡や井戸壁面の抉り痕等は見られない。また、井筒や井戸枠等も検出されていない。底部の標高は約 3.3 m である。それから 30cm ～ 50cm 上位において遺物の出土が認められ、完形もしくは、ほぼ完形の土師器甕や壺 4 個体がまとまって出土した。遺構廃絶時の一括廃棄と考えられる。また、埋土については分層は困難で、黒褐色を基調とする粘質土のみであり、遺物の一括廃棄とともに、一度に埋め戻されたことを示す可能性が高いと考えられる。検出面付近からは 20cm × 30cm の大形の角礫が出土している。出土遺物の様相から、古墳時代初頭から前期前葉の所産と推定される。

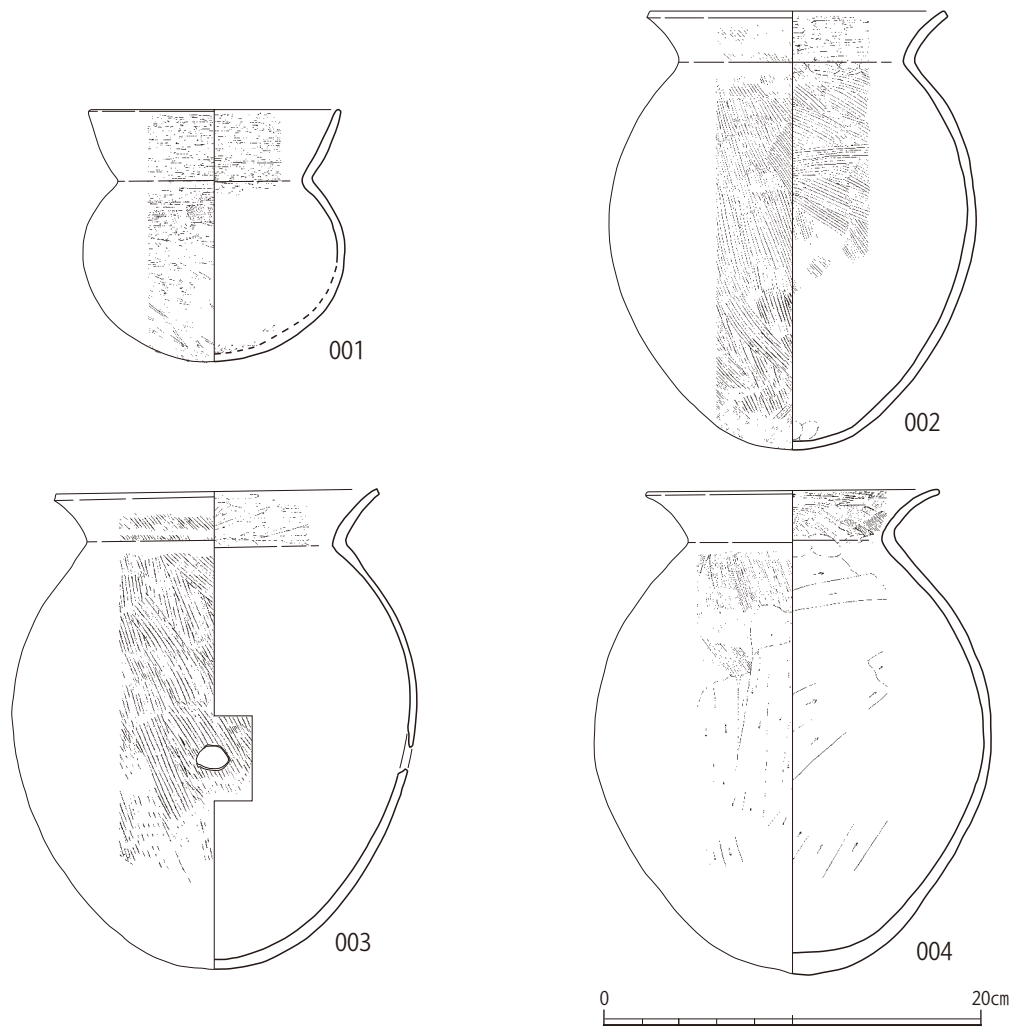


第 89 図 23SE076
遺構実測図 (1/40)

23SE076 出土遺物 (第 90 図)

出土土器は、小型丸底壺、土師器甕である。

001 は小型丸底壺である。口径 13.3cm、器高 13.3cm を測る。口縁部内

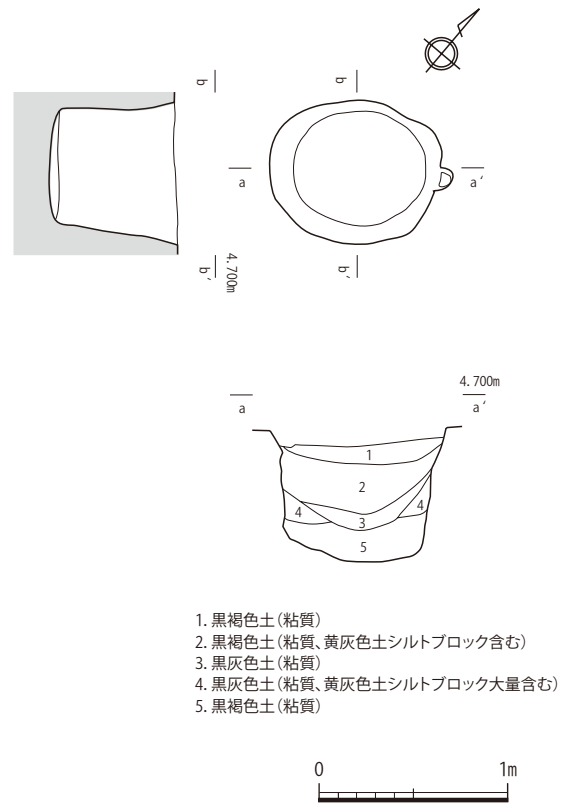


第 90 図 23SE076 出土遺物実測図 (1/4)

面及び外面にはハケ目後ミガキ調整が施される。002～004 は土師器甕である。器高、口径とも中甕 B に属し、いずれの資料も球形率 0.8 以上を示す。口縁部は外反しており、調整はハケ目やミガキが施される。底部形状は丸底を呈し、外面には環状にススが付着している。胴部が膨らみ、内面の調整にケズリが施されている資料もあることから外来の影響を受けつつ、在地の甕の系譜を引く資料と考えられる。古墳時代前期前葉の中でも古相を示す資料である。

23SE085 (第 91 図)

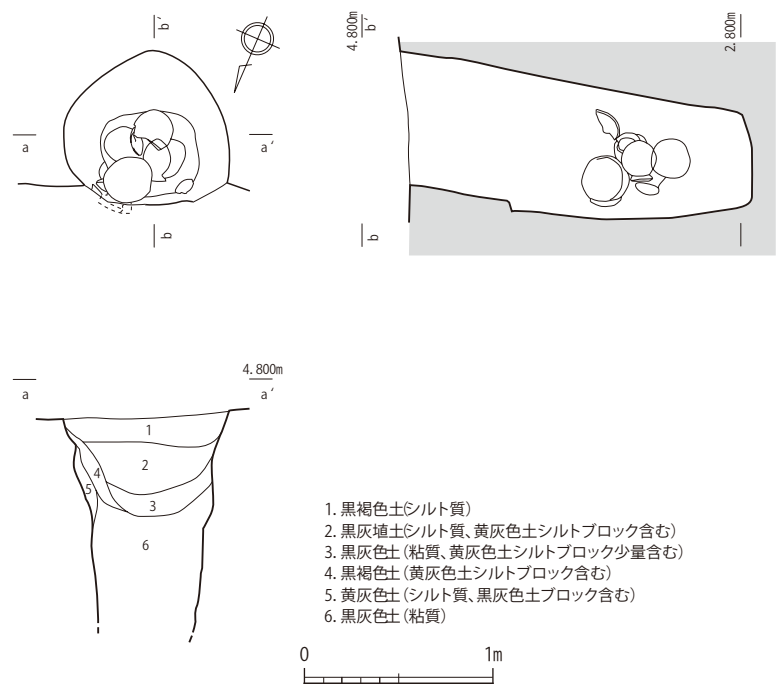
調査区西端北側において検出した井戸状遺構である。平面プランは長軸 0.91 m、短軸 0.74 m の楕円形状を呈し、深度は 0.78 m を測る。井戸底部に湧水が認められる。埋土は黒褐色を基調とする粘質土であり、堆積状況から掘り返しが認められる。出土遺物はほとんどみられず、遺構の時期は不明である。しかしながら、周辺に古墳時代に属すると考えられる遺構が認められ、黒褐色～黒灰色を呈する埋土も類似している事等から、古墳時代に属する可能性が高いと考えられる。



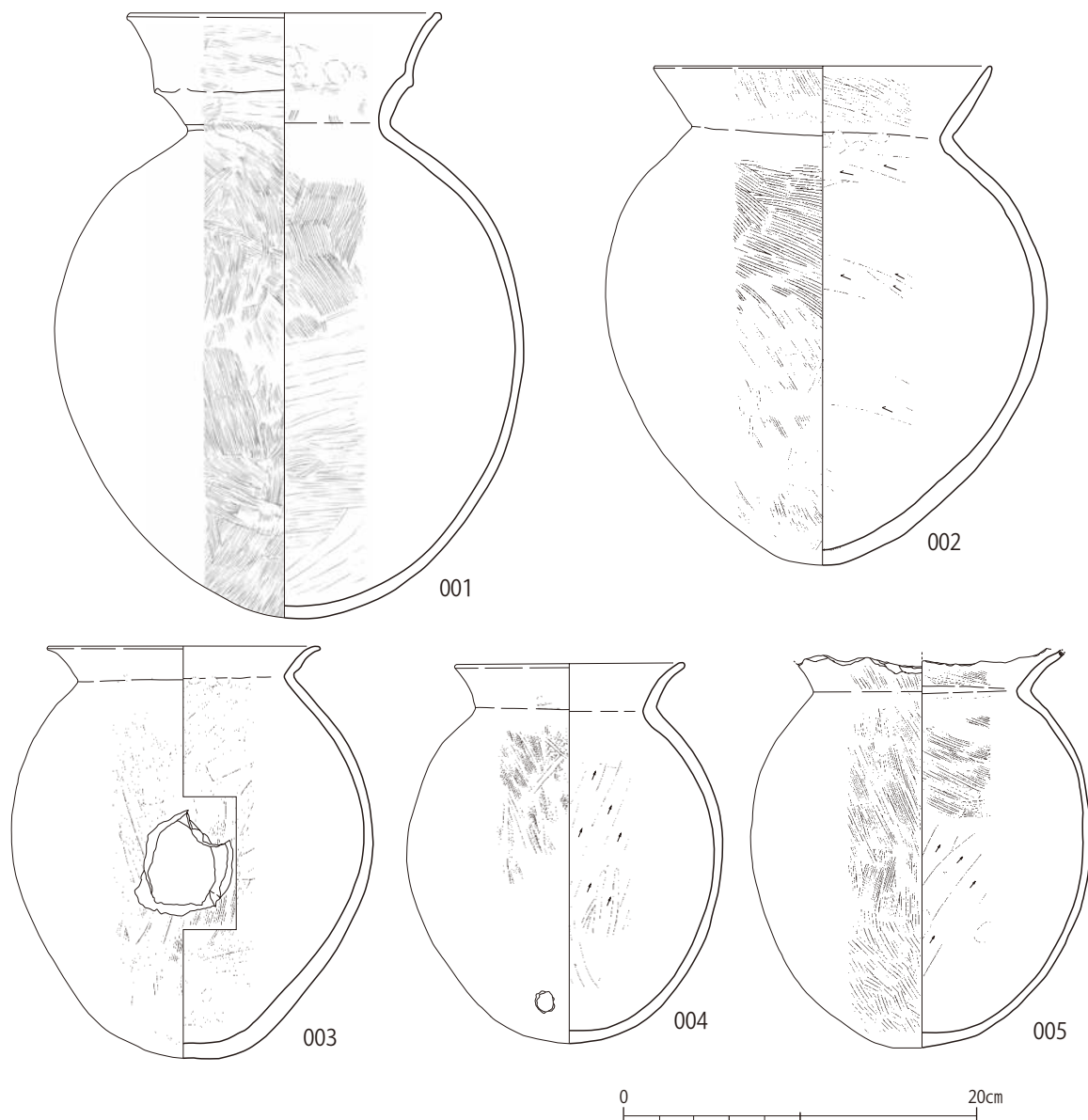
第 91 図 23SE085 遺構実測図 (1/40)

23SE087 (第 92 図)

調査区西端において検出した井戸状遺構である。平面プランは径 0.84 m の不整形円形を呈する。検出面から井戸底部までは、1.82 m を測る。井戸底部付近には現状において豊富な湧水が認められた。土層堆積状況から 6 層と 3・4 層の間に不整合があり、掘り返しの可能性が考えられる。さらに同層より下位、井戸下部に相当する土層の観察は湧水のため、明確には確認できていないものの、土質は概ね 6 層と類似している。井筒は検出されていない。6 層下部に相当する標高 3.1 m～3.4 m の位置において、土師器 6 個体を主体とする遺物が集中して出土しており、井戸廃絶時の一括廃棄と考えられる。出土遺物の様相から古墳時代前期前葉と推定される。



第 92 図 23SE087 遺構実測図 (1/40)



第 93 図 23SE087 出土遺物実測図 (1/4)

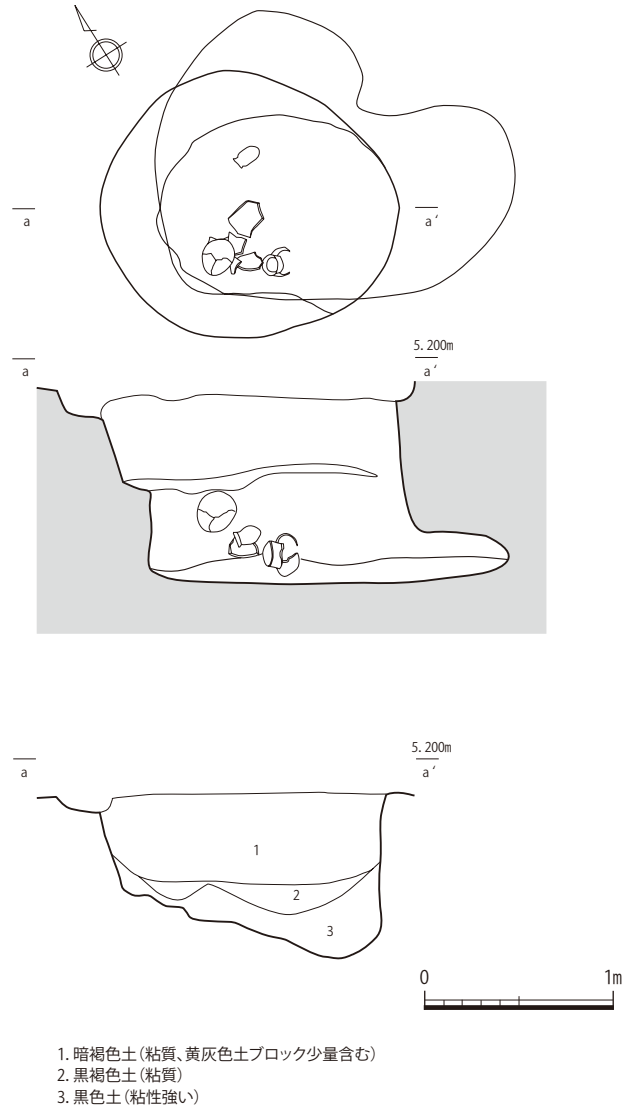
23SE087 出土遺物 (第 93 図)

出土遺物には、土師器壺、甕がある。

001 は二重口縁壺である。口径 17.8cm、器高 34.2cm を測る。一次口縁部との境がスムーズで、二次口縁部が大きく外反する口縁部を持つとされる壺分類 E-a に属する。胴部は球形を呈し、底部は丸底である。002 ～ 005 は土師器甕資料である。002 は口径 19.0cm、器高 23.2cm を測り、内面はケズリ、外面はハケ目調整が施される。口縁部は外方に直立気味に立つ。底部は尖底状をなす。中甕 B2-aii に属する。003 は口径 15.3cm、器高 23.3cm を測る資料であり、胴部中位には打ち欠きと考えられる穿孔が 2 箇所ほど認められる。内外面はハケ目による調整が施される。口縁部中位が膨らみ、口縁端部は外方に丸くおさめる外来系技術の影響を受けた形状を示している。004・005 とともに口縁部が外反し、内面はケズリが認められる。004 は胴部外面に環状にススの付着が認められる。005 は口縁部全体をきれいに打ち欠いた痕跡が認められ、胴部を打ち欠いた 003 資料とともに井戸廃絶時の祭祀行為に伴うものと推定される。

23SE099 (第 94 図)

調査区中央東よりにおいて検出した井戸状遺構である。検出時の平面形状は径 1.6 m の円形を呈する。深度は検出面から約 1.0 m であるが、検出面から約 0.4 m ～ 0.5 m の位置にテラス状の平坦面が確認されている。埋土については底部付近に黒褐色を基調とする粘性の強い土が堆積している。また、テラス部分よりも上位にはブロック状の黄灰色土を含む土が堆積しており、廃絶後に人為的に埋め戻された可能性が高いと考えられる。また、井戸底部西側は湧水によると考えられる深い挟りが確認され、50cm ～ 60cm 奥まで井戸壁面が窟状に浸食されている。こうした状況から機能時は素掘りであったと推定される。出土遺物には小型丸底壺、土師器甕、壺等があり、遺構の所産時期は古墳時代初頭～前期前葉頃と考えられる。

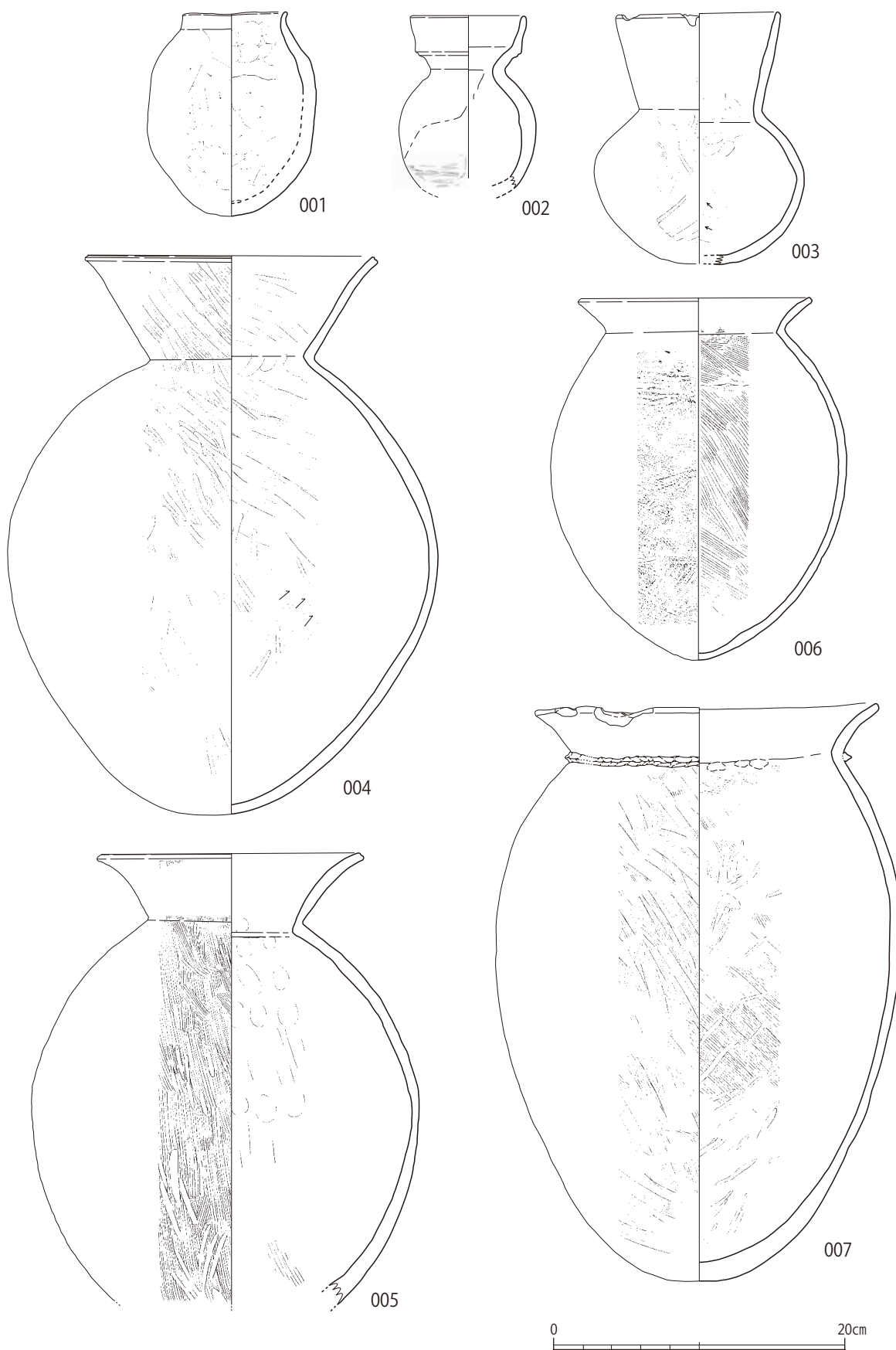


第 94 図 23SE099 遺構実測図 (1/40)

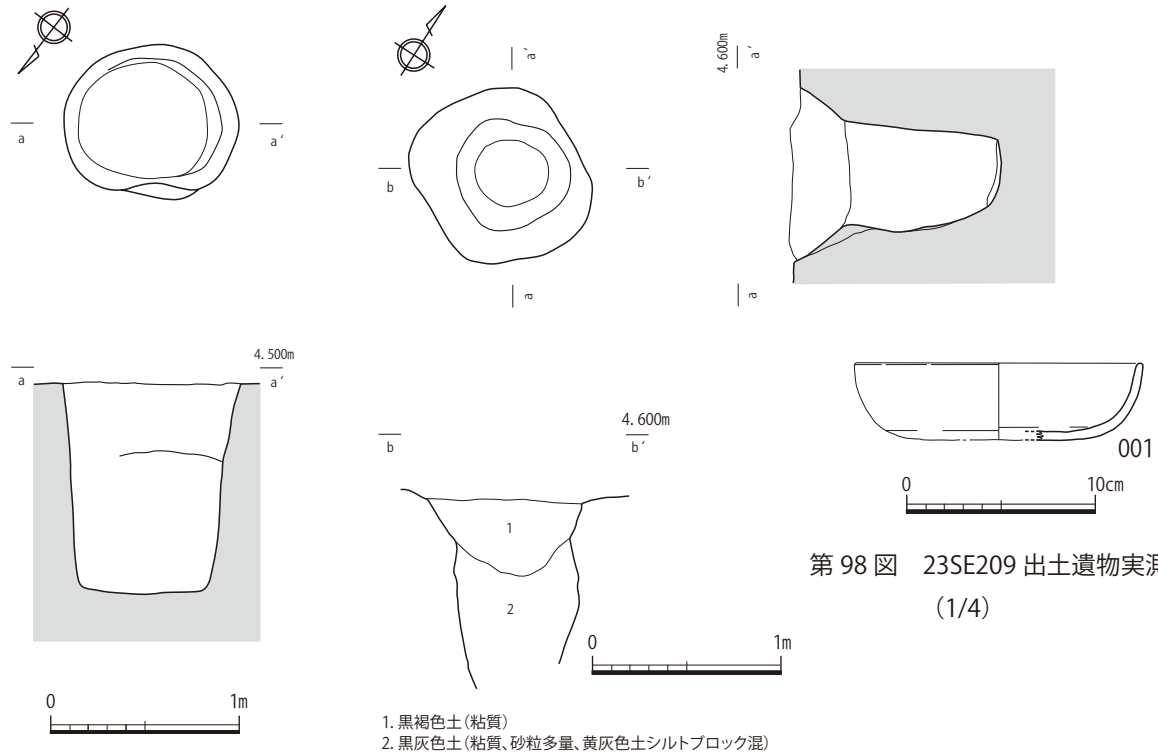
23SE099 出土遺物 (第 95 図)

出土遺物には、土師器壺、甕、弥生土器壺がある。

001 は小形の弥生土器無頸壺である。口径 7.2cm、器高 13.9cm を測り、内面明褐色～灰褐色色、外面にぶい黄褐色～にぶい黄橙色を呈する。内外面ともに指頭圧痕が顕著であり、その後粗い工具ナデにより仕上げられる資料である。002 は小形の二重口縁壺である。復元口径 7.6cm 測る。003 は小形の長頸壺である。口径 10.8cm を測りヨコナデ、ナデにより調整される。004・005 は単口縁壺である。ともに大きくハの字状に開く口縁部を持ち、平坦な口縁端部には沈線が認められる。004 は外面に細かいハケ目、内面は粗いハケ目が施される。胴部の張りは中位にあり、底部形態は尖底気味である。006 は土師器甕資料である。復元口径 16.1cm、器高 24.9cm、最大胴部 20.2cm を測る。頸部のしまりはゆるく、口縁部は外方に大きく外傾する。内面はハケ目、外面はハケ目後タタキ調整である。底部形態は尖底状をなす。在地系の甕と考えられる。分類は中甕 B2-a i である。007 は土師器甕である。口径 23.3cm、器高 39.5cm を測り、頸部に突帯を貼付する。内外面ともにハケ目調整が施され、内面にミガキが認められる。弥生時代後期終末の資料と考えられる。壺資料の球形化が認められることからこの遺構の帰属年代は古墳時代前期前葉頃と考えられる。



第 95 図 23SE099 出土遺物実測図 (1/4)



第 96 図 23SE183 遺構実測図 (1/40)

第 97 図 23SE209 遺構実測図 (1/40)

第 98 図 23SE209 出土遺物実測図 (1/4)

23SE183 (第 96 図)

調査区中央北東寄りにおいて検出した井戸状遺構である。長軸 0.92 m、短軸 0.81 m、深度は 1.1 m を測る。平面プランは楕円形状を呈し、井戸底部付近には豊富な湧水が認められる。埋土は暗褐色土を基本とする軟質土である。また、出土遺物は僅少であり、時期決定には至っていないが、周辺に存在する他遺構との埋土の類似性から古墳時代の可能性が高いと考えられる。

23SE209 (第 97 図)

東側拡張区中央北東より、23SE183 の北側において検出した井戸状遺構である。平面プランは長軸 0.91 m、短軸 0.81 m の隅丸方形を呈する。深度は 1.1 m を測る。調査時には井戸底部付近に豊富な湧水が認められた。埋土下層 (2 層) は黄灰色シルトブロックを含む土であり、遺構廃絶後に埋め戻された可能性が考えられる。また、上層 (1 層) については廃絶後の掘り返しの可能性が考えられる。出土遺物には土師器があるが、小片のため時期決定には至っていない。

23SE209 出土遺物 (第 98 図)

001 は復元口径 15.6cm、器高 4.1cm、復元底径 7.8cm を測る土師器皿状の資料である。底部が平坦に仕上げられており、内面・淡橙色、外面・橙色を呈する。胎土中には石英粒・白色粒子・赤色粒子が含まれ、内外面ともにナデにより調整される。詳細な所産時期等は不明である。

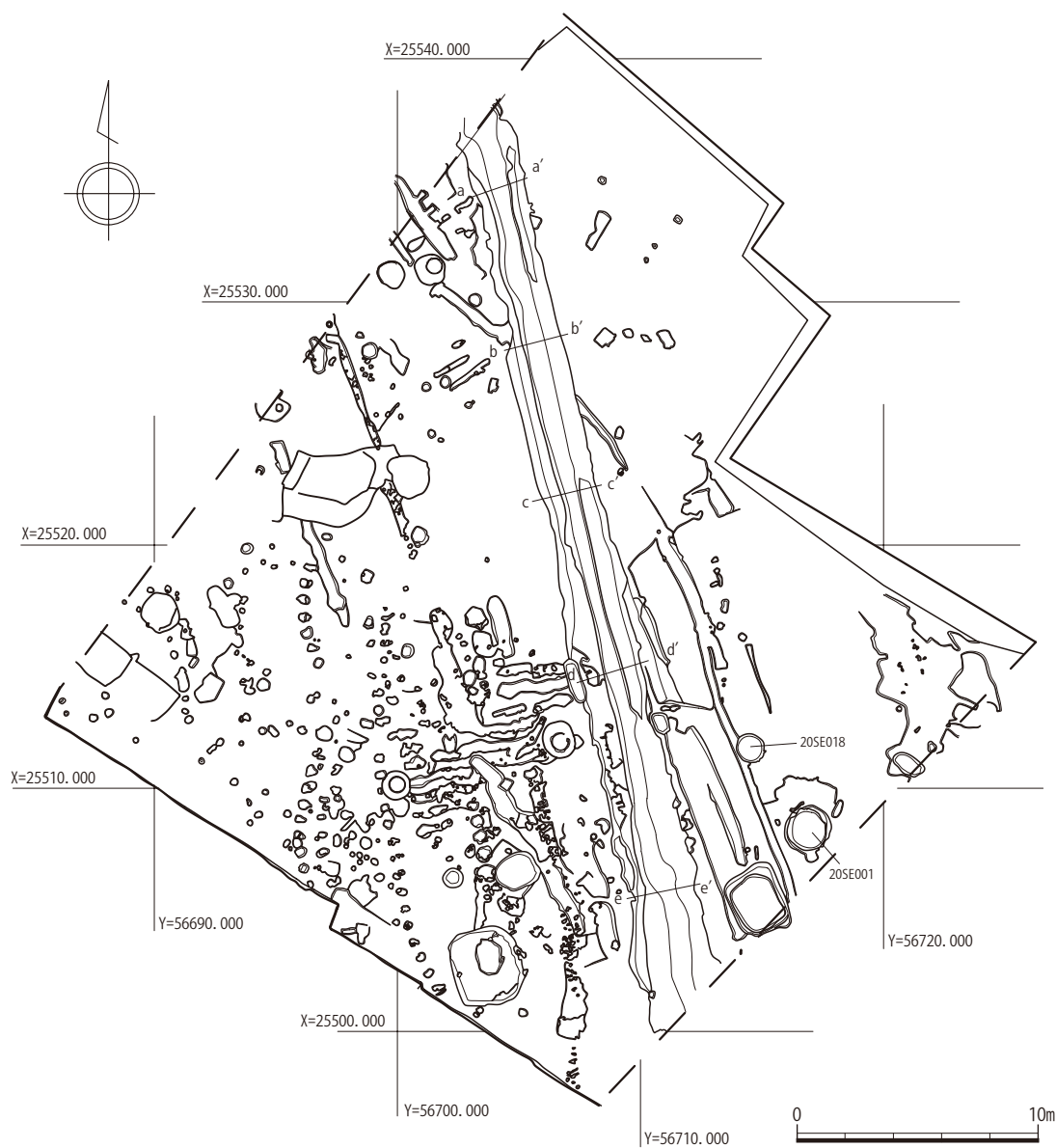
第3節 大道遺跡群第20次調査

概 要

第20次調査区は、第23次と第32次の間に挟まれた調査区で、古墳時代前期の遺構群が検出された。古墳時代前期の遺構は、環濠遺構(20SD001)及び井戸跡(20SE001・018)がある。遺構の分布は、南東部を23SD001、北西部を32SD001に連続する環濠遺構20SD001が調査区の中心に位置し、その北東部に井戸跡群が存在する。

この他出土遺物が少なく、時期の確定が困難な溝状遺構等が検出されている。これら遺構群については、古墳時代の環濠と同じかやや西に主軸をもつ方向性を有している。隣接する第23・第32次にも同様な方向性を有する溝が存在している。

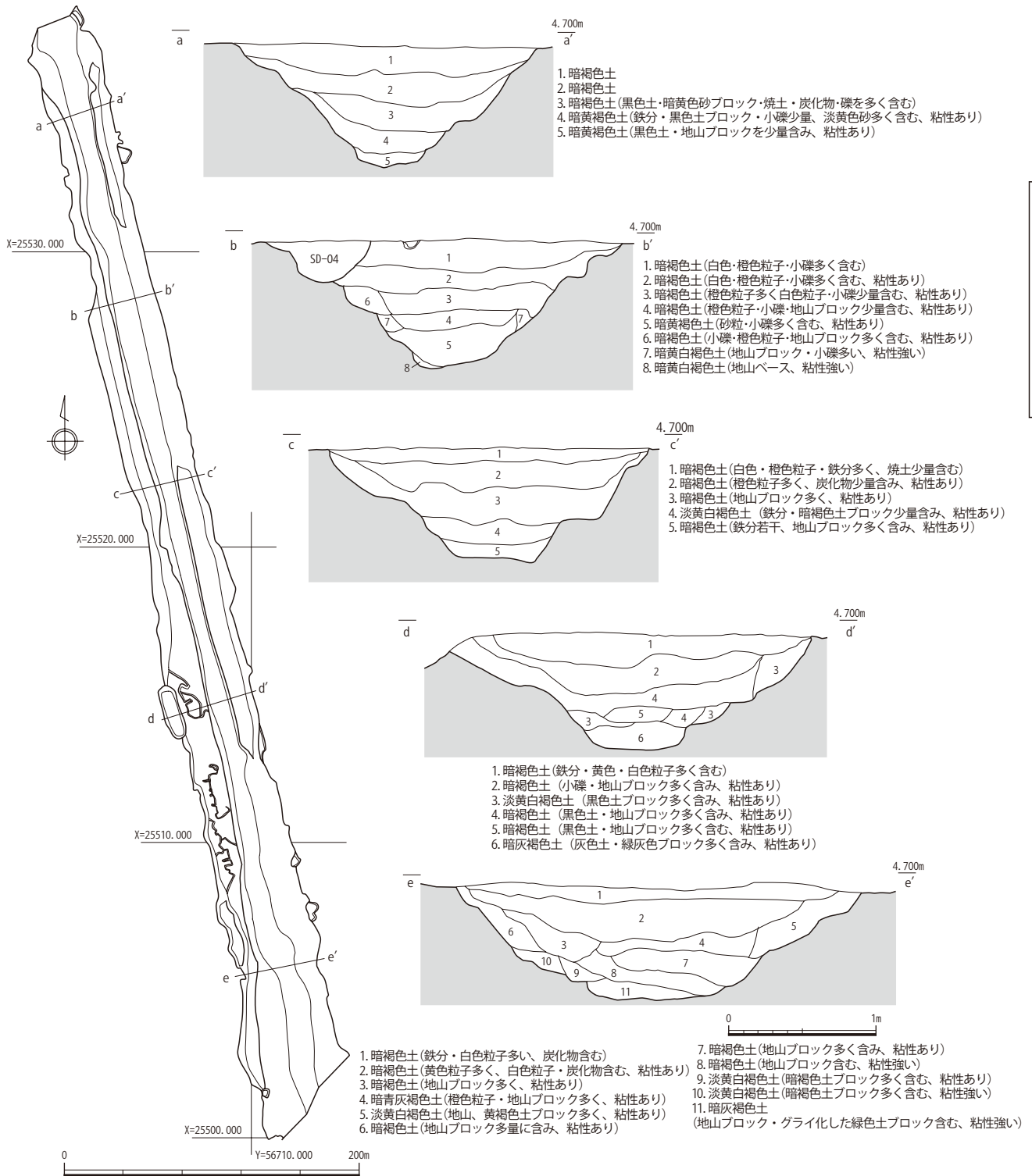
以下、調査区内で検出した弥生時代・古墳時代環濠関連遺構及び出土遺物についてその詳細を記す。



第99図 大道遺跡群第20次調査区全体図(1/300)

20SD001 (第 100 図)

調査区のほぼ中央において検出した、南北方向に伸びる溝状遺構である。幅約 2.8m ～ 4.3m、検出長さ約 57.8m、最大深度約 0.9m を測る。断面形状は概ね逆台形を呈する。遺構の北端は 32SD001 と南端は 23SD001 と接続する。埋土は暗褐色土を基調とし、土層断面 b-b' からは鉄分の集積が 2 枚観察されており、溝の中央付近は滞水していたと考えられる。また、土層堆積には不整合が認められ、少なくとも 1 回の掘り返しがあったと推測される。出土遺物には、土師器甕、壺、高坏、鉢、ミチア土器とともに製塩土器や土鍾が出土している。土器の出土層位は上層から中層で、ある程度埋まった時点で土器が廃棄されたと考えられる。出土遺物の状況から、古墳時代前期中葉に機能を停止した遺構であると考えられる。



第 100 図 20SD001 遺構実測図 (1/300・1/40)

20SD001 出土遺物（第 101 図～第 154 図）

出土遺物は、ミニチュア土器、器台形土器、高環形土器、鉢形土器、壺形土器、甕形土器、土錘、石器などがある。

ミニチュア形土器・器台形土器（第 101 図 001 ～ 022）

001 ～ 012 はミニチュア土器鉢である。013 は平底タイプである。015 ミニチュア土器高台付鉢。016・017 はミニチュア土器壺。018・019 はミニチュア土器高環の脚部片である。020 は小形器台の受け部片。021 は筒形器台の下半部片。弥生時代後期終末期の所産か。022 は鼓形器台で、古墳時代前期中葉頃と考えられる。

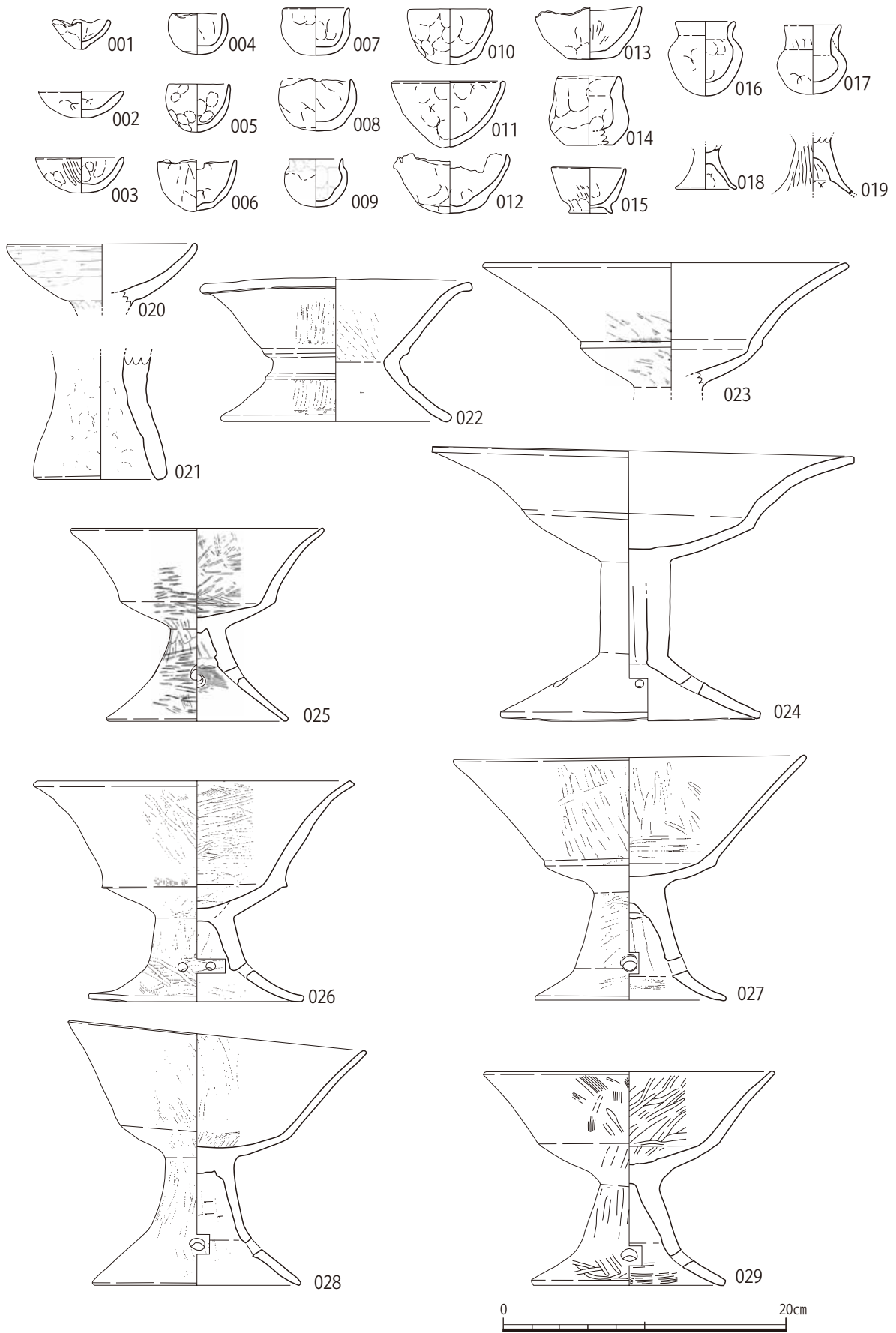
高環形土器（第 101 図～第 104 図 023 ～ 086）

023・024 は稜をもって大きく外反する口縁部をもつ坏部で、脚柱部が円柱状で稜をもって屈曲する高環 A 類である。024 は円孔が脚裾部に 4 箇所認められる。

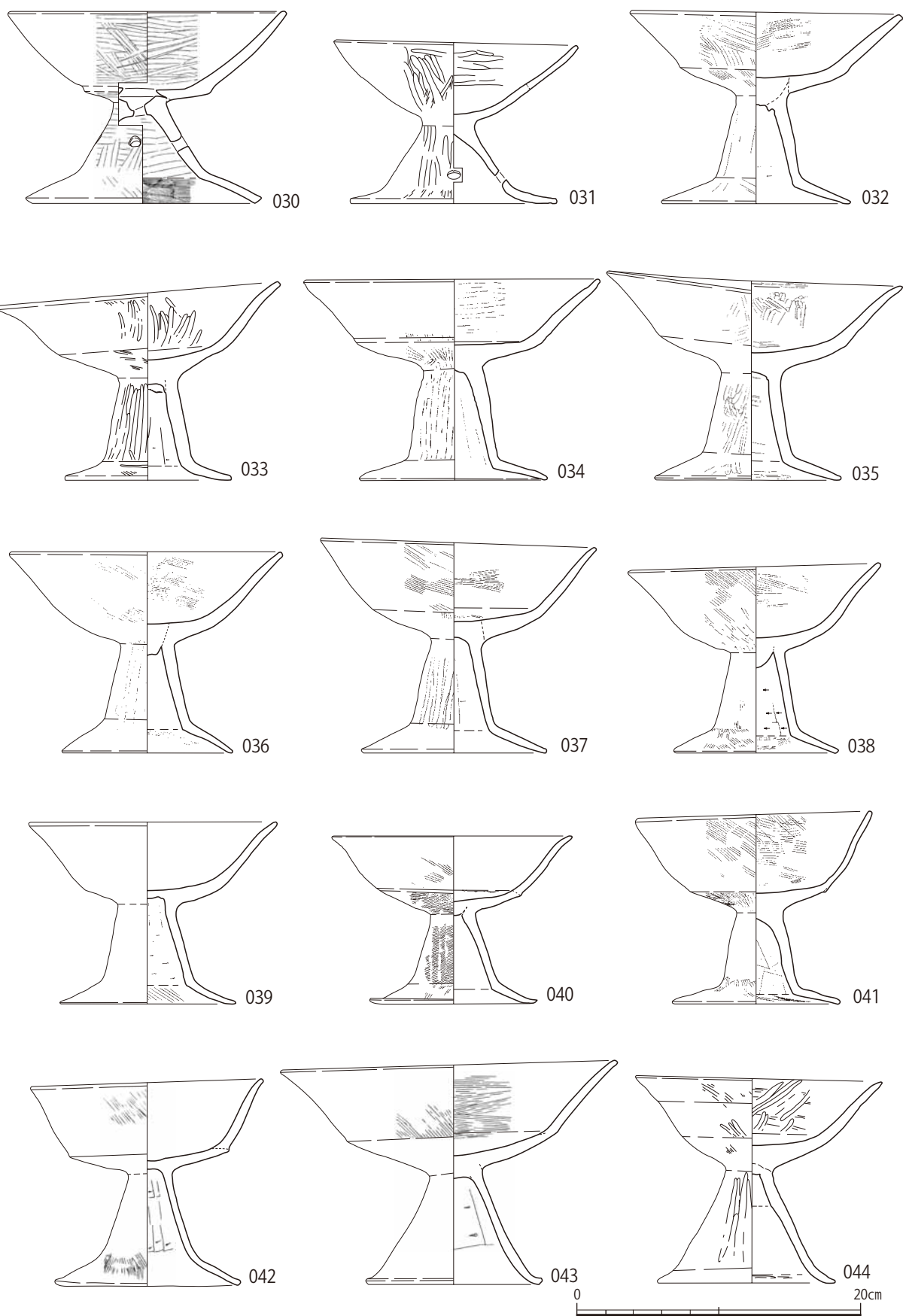
025 ～ 048 は坏部が稜をもって概ね直線的に外傾する口縁部をもつ高環 C 類である。025 ～ 029 は脚柱部が下部に広がりもち稜をもって屈曲する脚部で、坏の深さが器高の 1/2 前後の深めの坏部をもつ高環 Ca 類。坏口径 20cm ～ 24cm を測る。脚部の屈曲部に円孔を施す。026 は円孔が 2 個 1 組で 1 対に施される。030・031 は円孔は屈曲部の上位に施す。032 ～ 042 は脚柱部から稜をもって低平に屈曲する脚部で、坏の深さが器高の 1/3 前後の浅めの坏部をもつ高環 Cb 類。脚部内面はヘラケズリが実施される。032 ～ 035 は坏口径 20cm 前後を測る。036 ～ 042 は坏口径 17cm 前後で、032 ～ 035 よりもやや小さめで深い。040 は口縁端部がやや外方に広がり、脚部の端部は跳ね上がる。043・044 はラッパ状で直線的に広がる脚部で、浅めの坏部をもつ高環 Cc 類。043 は坏口径 23.7cm を測る大形の坏部で、口縁端部と脚端部は外側に丸くおさめる。044 は坏口径 17.1cm を測り、脚端部は外方に広がる。045 は長脚で稜をもって緩やかに広がる脚部で、坏の深さが器高の 1/4 程度の浅い坏部をもつ高環 Cd 類。坏口径 15.4cm を測る。坏部は皿形状、脚部は細い脚柱部から稜をもって緩やかに広がる。脚部内面はヘラケズリが施される。046 ～ 048 は脚柱部が細長く稜をもって低平に屈曲する脚部で、小さめの坏部をもつ高環 Ce 類。坏口径は 13cm ～ 16cm を測る。046・047 は口縁部の中位が肥厚気味で、外面は丁寧な横方向のミガキを施す。049 ～ 063 は高環 C 類の坏部片の資料である。051 ～ 052 は深めの坏部。坏口径 21cm ～ 24cm を測る。053・055・056・058 ～ 063 は浅めの坏部。坏口径 17cm ～ 20cm を測る。063 は高環 Cd 類と考えられる。円孔が脚中位に 2 箇所、上位に 3 箇所確認できるが欠損により総数は不明である。054・057 は小さめの坏部。坏口径は 054 が 16.3cm、057 が 15.8cm を測る。064 ～ 077 は高環 C 類と組合せられる脚部片と考えられる。064 ～ 068 は脚 a 類で、064・065 は円孔が屈曲部の上位に施す。066 ～ 067 は円孔を屈曲部に施す。068 は脚裾部が膨らみ、円孔を屈曲部の上位に施す。069 ～ 071 は脚 b 類。072・073 は脚 c 類の脚部。074 ～ 077 は脚 e 類の脚部。

078 ～ 085 は弥生時代終末期の高環の破片資料である。078・079・085 は坏部片。080・081 は在地系の弥生土器高環（台付鉢）の破片資料である。082 ～ 084 は脚部片で、円孔が認められる。084 は脚柱部のみで充填部から中位に円孔 6 箇所認められる。欠損のため総数は不明である。086 は小形の脚部片である。

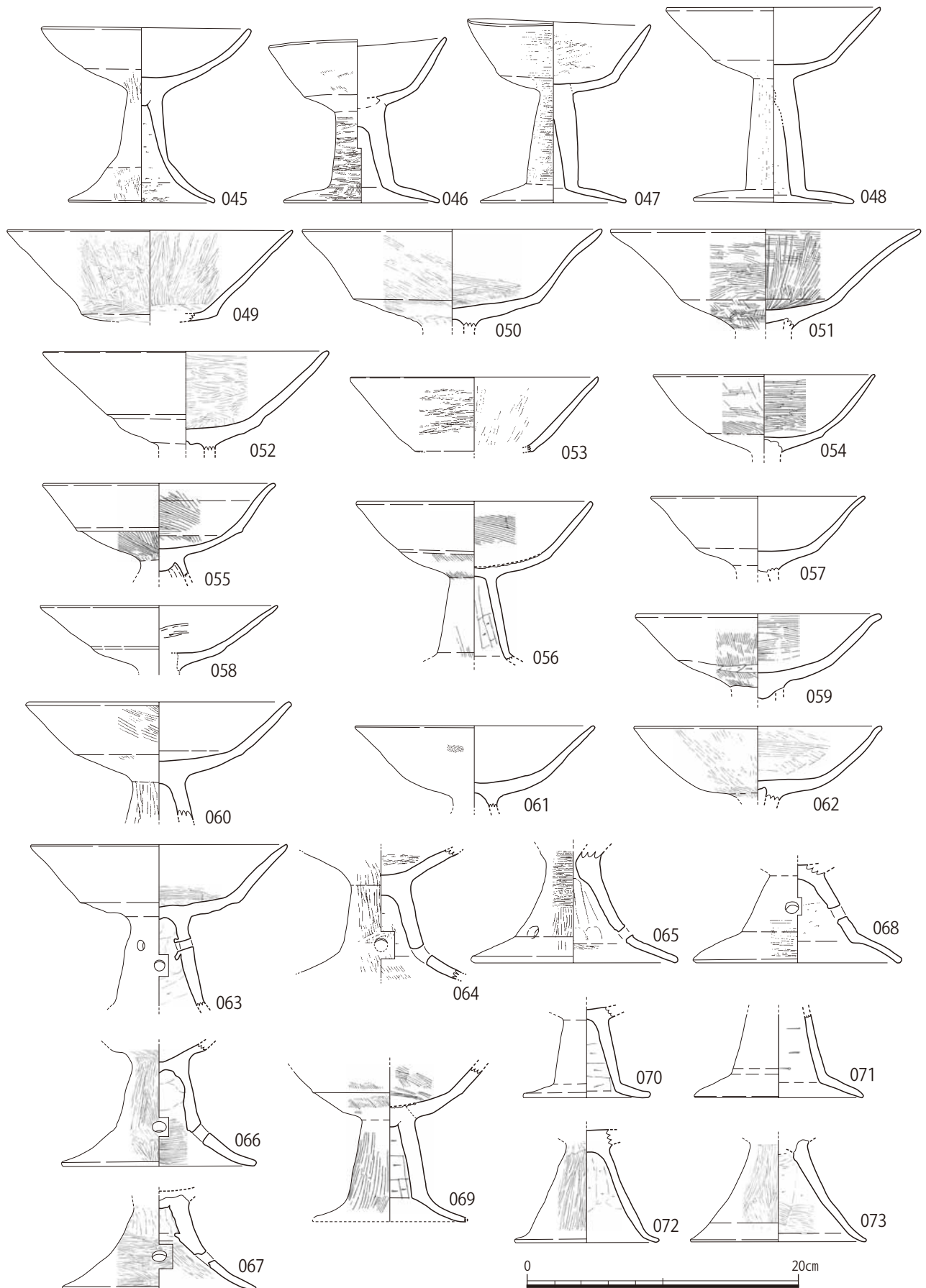
20SD001 の高環の様相は、ほぼ同類の遺物が出土している前述した 23SD001 と時期差はあまりないと考えられる。高環 Ca 類は口縁部が外反気味であったり、ミガキ調整をしていることから 23SD001 より古い様相を示す。大半は高環 Cb 類と高環 Cc 類が占める。また、他遺構ではみられない 045 のような高環 Cd 類が出土している。形状は、坏部が浅くなり稜も不明瞭で皿状を呈し、脚部が細長くなる。外面の調整は省略され、脚部の内面にケズリを施すなど外来系の技術の強い影響がみられる。今回分類する中で、形状や調整から布留式系高環を代表する高環 Ce 類の前段階という位置付けを行った。高環 Ce 類の出土からも、全体の様相は、弥生時代後期終末期のものも混在するが、主体は古墳時代前期中葉から前期後葉頃と考えられる。



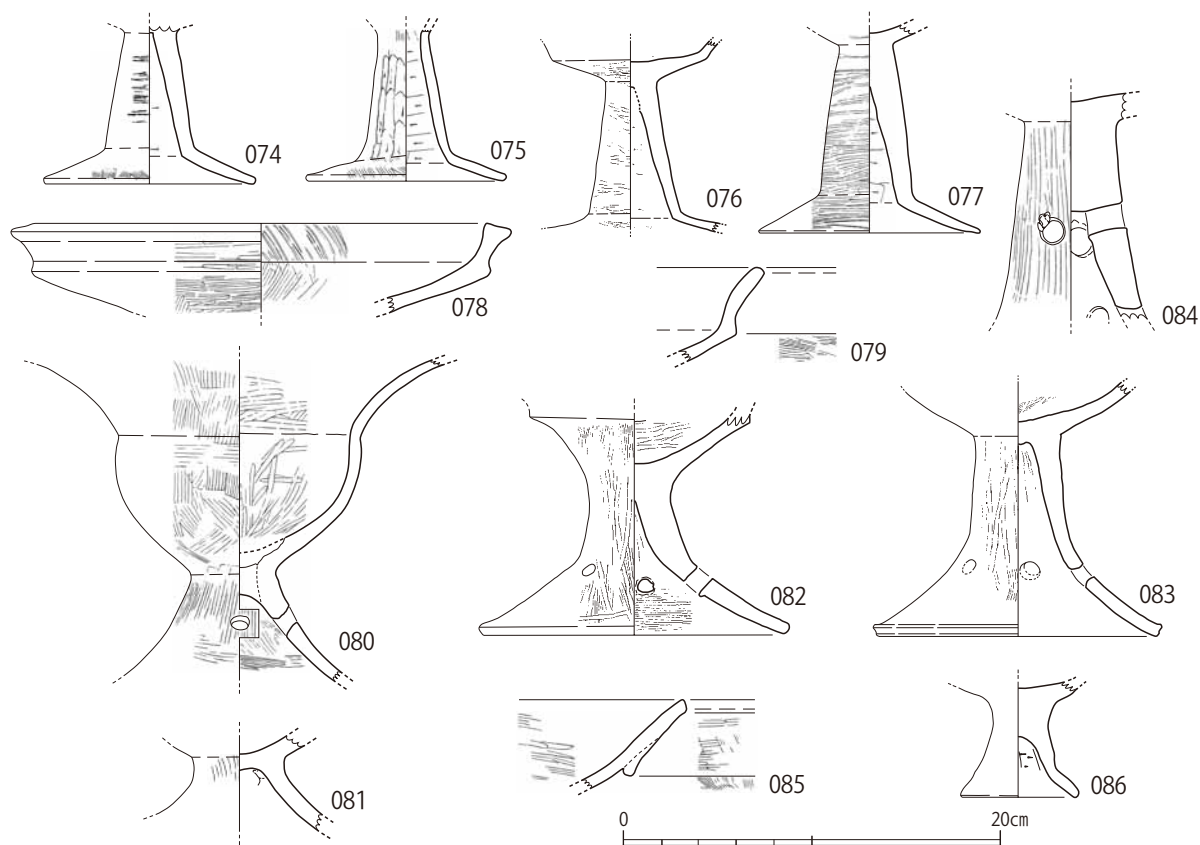
第 101 図 20SD001 出土遺物実測図 1 (1/4)



第 102 図 20SD001 出土遺物実測図 2 (1/4)



第 103 図 20SD001 出土遺物実測図 3 (1/4)

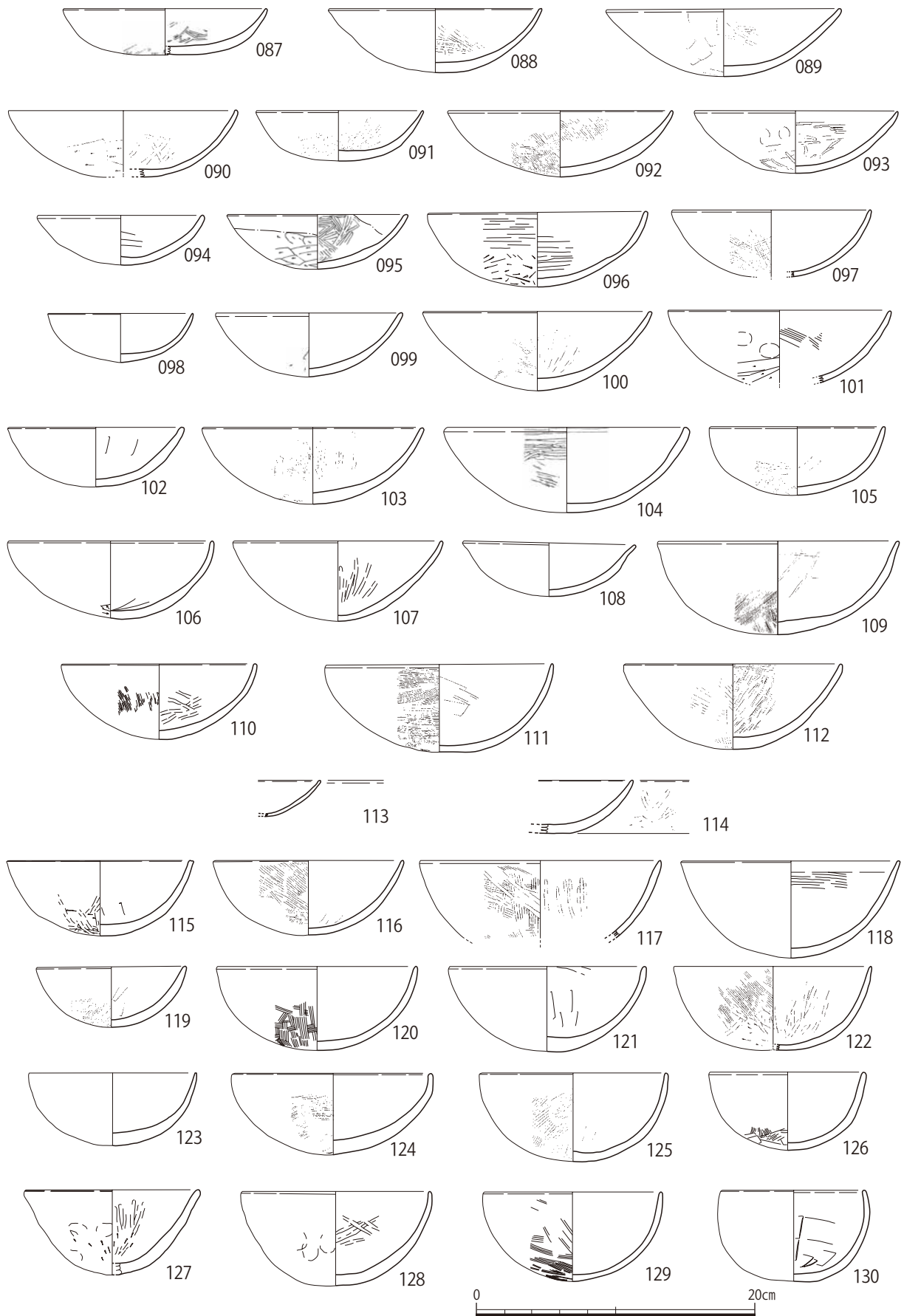


第 104 図 20SD001 出土遺物実測図 4 (1/4)

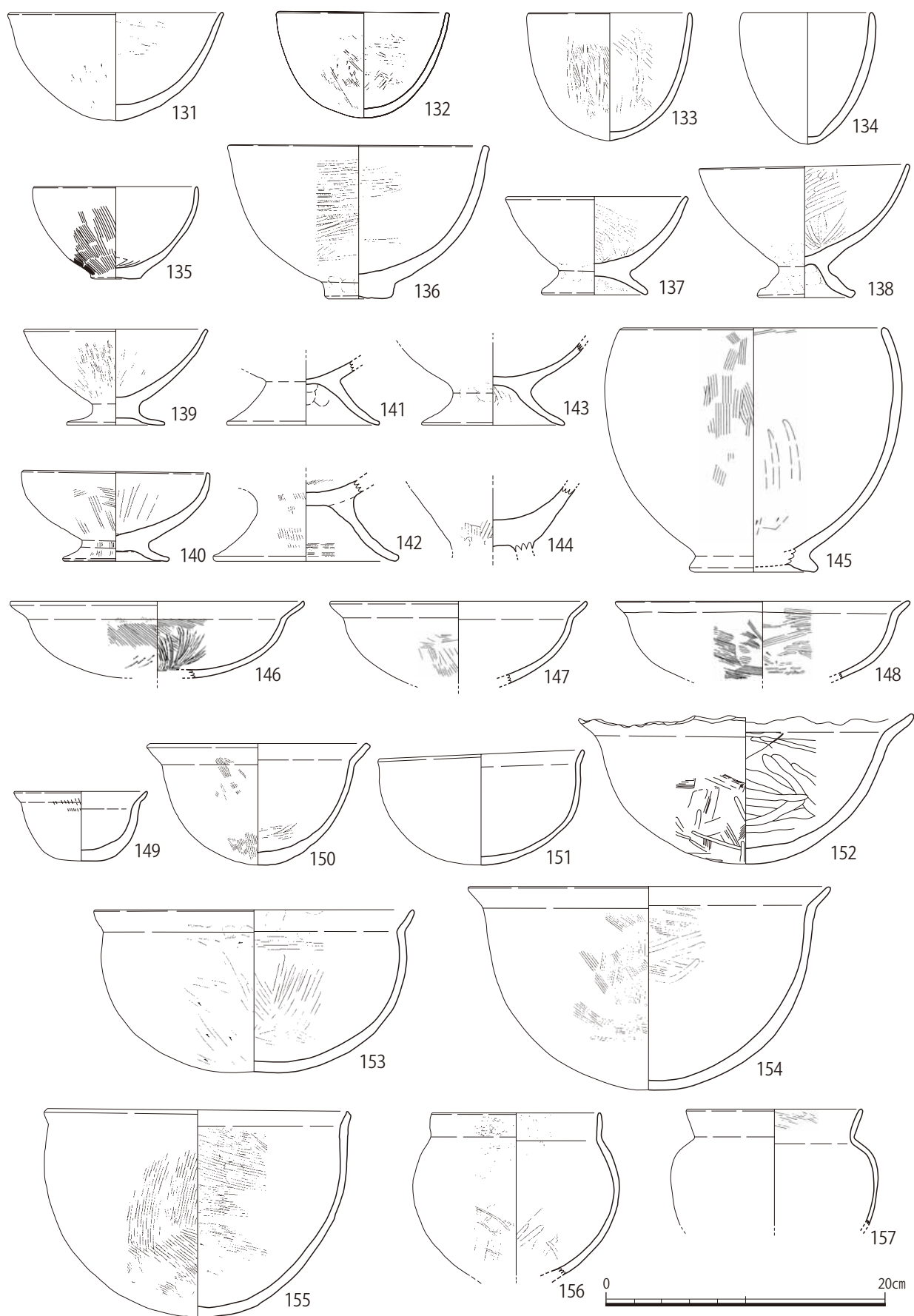
鉢形土器 (第 105 図～第 110 図)

087～114 は鉢 A1 で、皿・坏に近い形状の小形の浅い鉢である。087～104 は直線的に外方に伸びる口縁部を有する。099 は内外面共にススの付着がみられる。105～107 は、直線的に上方に伸びる口縁部を有する。108・109 は僅かに外反する口縁部を有し、口縁端部は器壁が薄くなっている。110～112 はやや内湾する口縁端部を有し、丸底を呈する。113・114 は口縁部のみの資料である。115～130 は鉢 A2 で、椀型の小形の鉢である。115～118 は直線的に外方に伸びる口縁部を有する。119～126 は直線的に上方に伸びる口縁部を有する。127 は外反する口縁部を有し、全体的に器壁が厚い。128～130 は内湾する口縁部を有し、丸底を呈する。131～133 は鉢 B1 で、深鉢である。131 は僅かに外反する口縁端部を有する。134 は鉢 B2 で、深鉢である。内外面に赤色塗彩がみられ、全体的に丁寧なナデを施された精製品である。135 は鉢 G1 で、小形の平底鉢である。136 は鉢 G2 で、大形の平底鉢である。137～145 は鉢 E で、台付鉢である。137 は内湾する脚台部を有する。141～143 は脚台部のみで、144 は鉢部の底部のみである。145 は大きく内湾する球形の形状を呈する。146～148 は鉢 C1 で、口縁部に屈曲を有する浅鉢である。146 は内面に放射状のミガキを施す。147 は内外面共に丁寧なナデが施されている。149～155 は鉢 C2 で、口縁部に屈曲を有する浅鉢で、鉢 C1 よりも深い形状のものである。149 は厚い平底気味の底部を呈する。152 は口縁部を打ち欠いており、器壁が厚い。155 はやや外側に傾いた肥厚した平坦な口縁端部を有する。156～171 は鉢 D1 で、口縁部に屈曲を有する深鉢である。156～159 は小形、160～171 は中形の鉢である。164～171 は屈曲部に貼付突帯を有する。172 は鉢 D2 で、大形の深鉢である。173～175 は山陰系折衷型の二重口縁鉢である。173 は屈曲部に貼付突帯を有する。176 は底部の一部のみ残存の詳細不明遺物である。177～181 は鉢 F で、口縁部に屈曲を有する台付鉢である。179 は底部器厚が著しく厚い。182 は弥生土器鉢である。内外面に赤色塗彩が施され、口縁部外面に波状文が認められる。

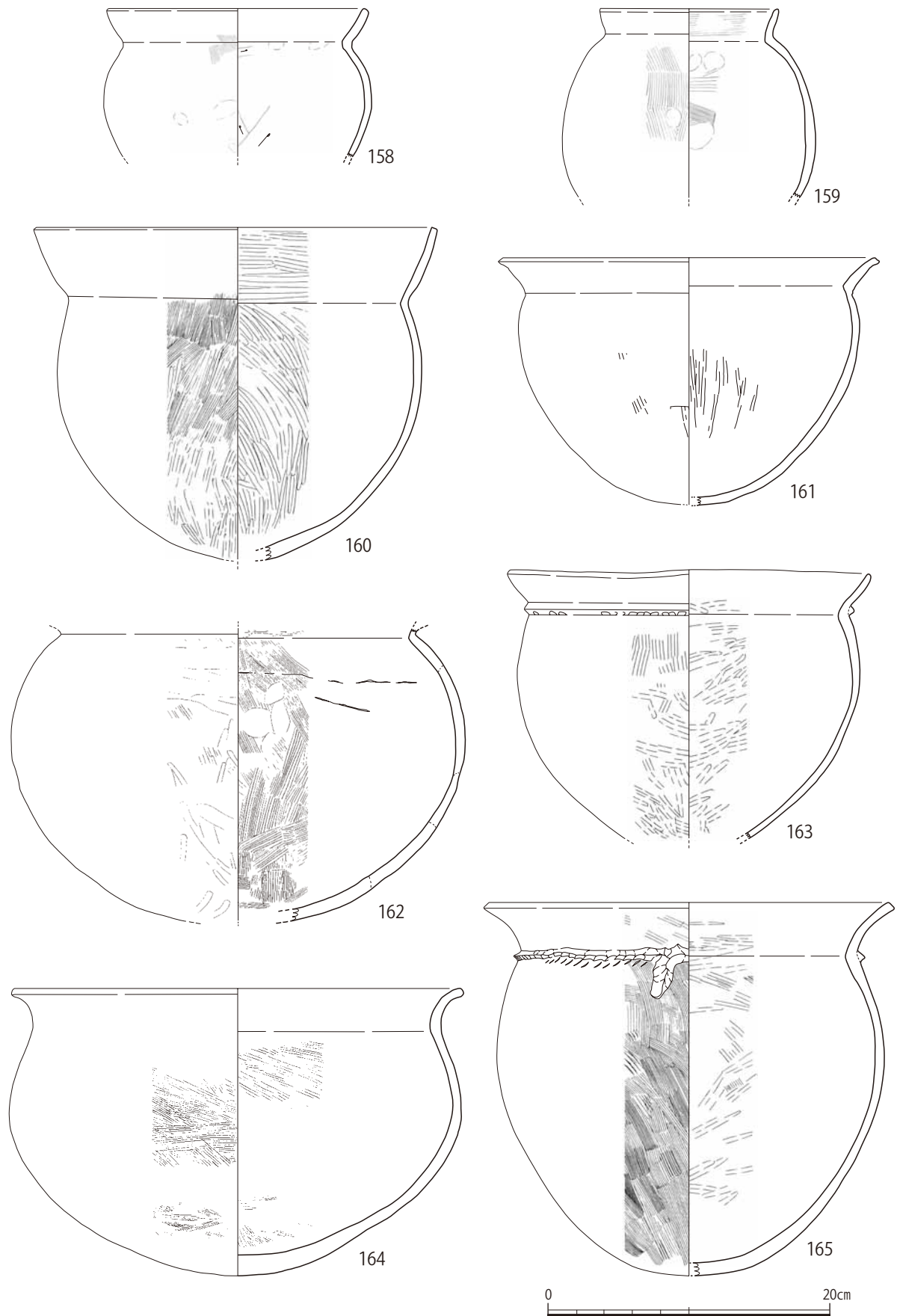
20SD001 から出土した鉢は、尖底を呈する底部形状のものは少なく、丸底化した底部形状を呈するものが大半である。胴部も球形化したものが多い。このことから、20SD001 出土の鉢は主として古墳時代前期中葉の所産であると考えられるが、全体の様相は古墳時代前期前葉から前期後葉で、弥生時代後期末所産の遺物も含んでいる。



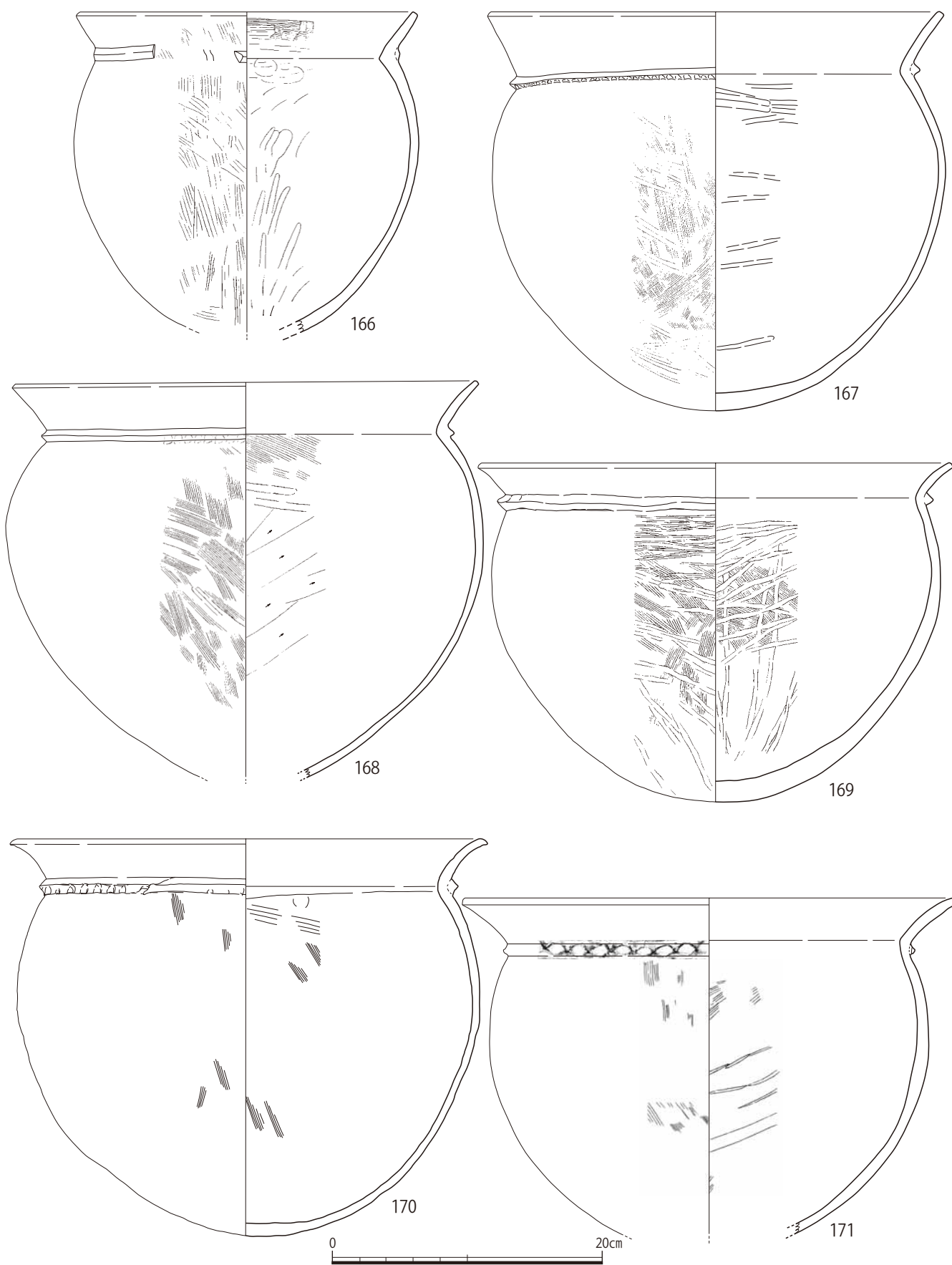
第105図 20SD001 出土遺物実測図5 (1/4)



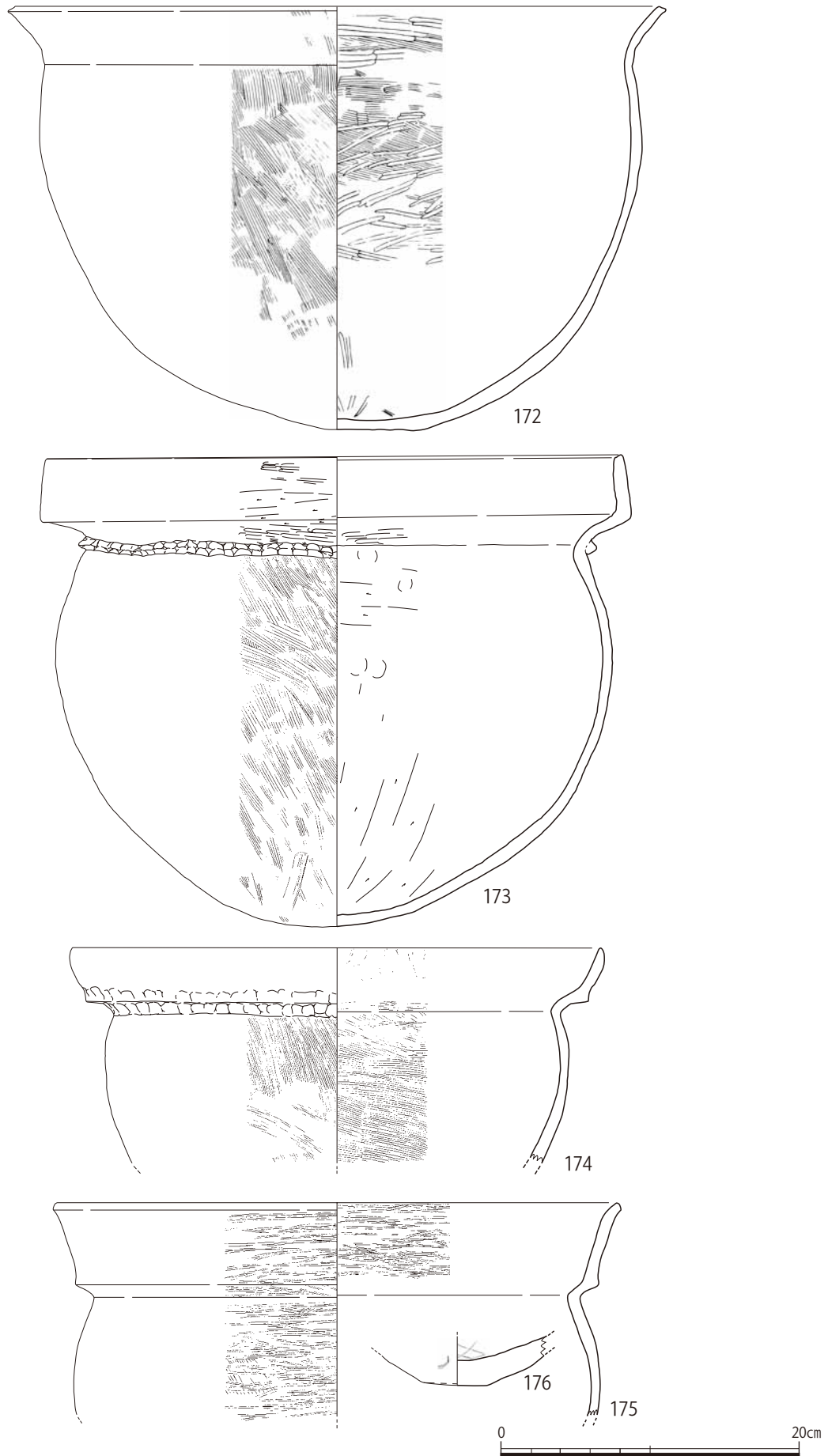
第 106 図 20SD001 出土遺物実測図 6 (1/4)



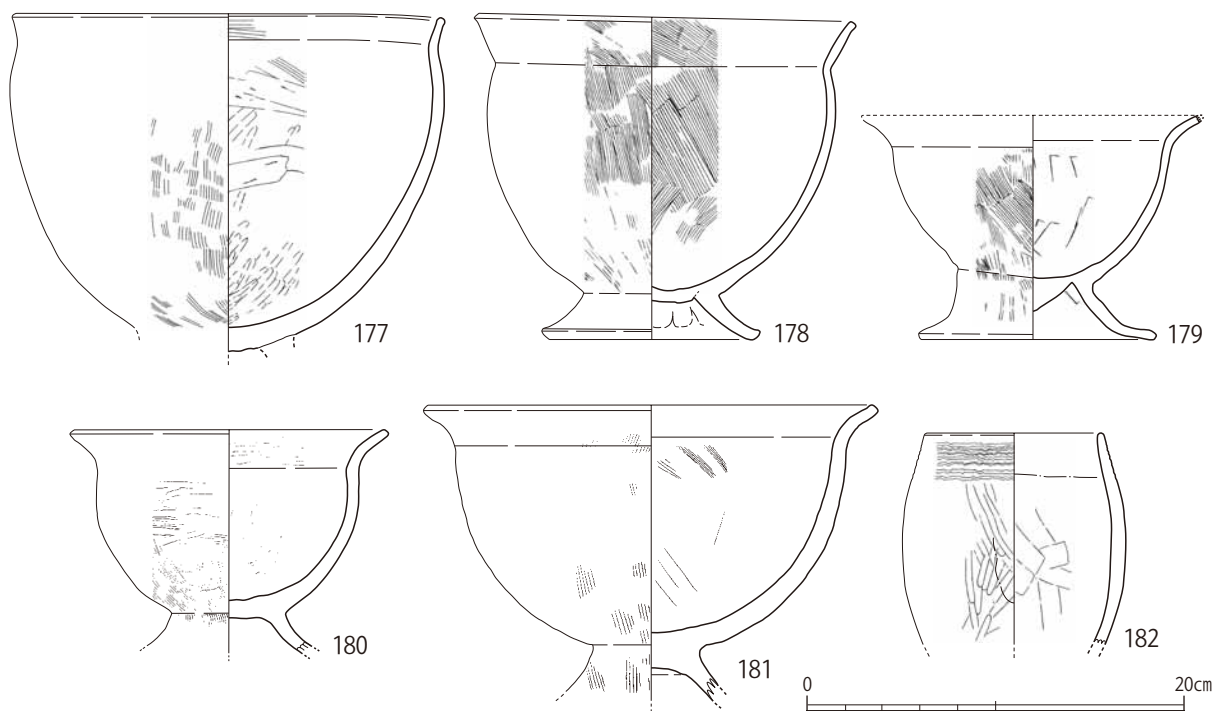
第 107 図 20SD001 出土遺物実測図 7 (1/4)



第 108 図 20SD001 出土遺物実測図 8 (1/4)



第 109 図 20SD001 出土遺物実測図 9 (1/4)



第 110 図 20SD001 出土遺物実測図 10 (1/4)

壺形土器 (第 111 図～第 125 図)

出土した壺形土器には、壺 A 類：小形の丸底壺・鉢、壺 B 類：直口壺、壺 C 類：単口縁壺、壺 D 類：複合口縁壺、壺 E 類：二重口縁壺がある。掲載した壺形土器のうち、183～317 は土師器、弥生土器壺は 318～320 である。

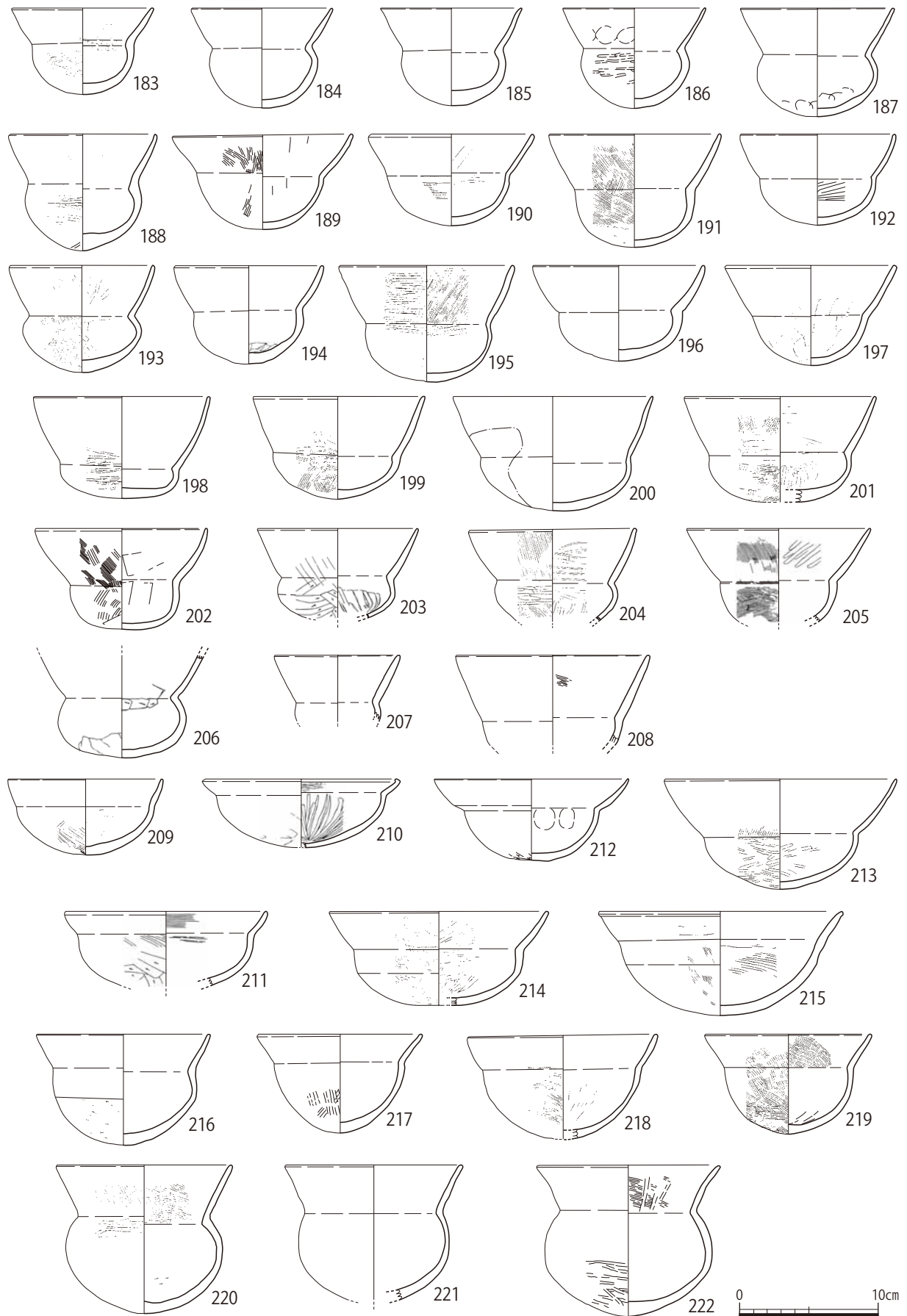
183～238 は小形の丸底壺・鉢である。183～197 は、壺 A-a 類である。体部が偏球形で、大きく広がる口縁部の高さが、体部高と同じか、やや小さい資料である。183 は、内外面ともミガキ調整。185 は、外面にススが付着する。底部が厚い。186 は、外面にミガキ調整か。188 は底部が尖底気味で、外面はミガキ調整。191 の外面は、ハケ調整、下半はヘラケズリ。193 は、外面にススが付着する。195 は外面ミガキ調整、内面はハケ調整。196 は器壁が厚い。197 は、外面にススが付着する。内外面とも工具ナデの痕跡が残る。

198～208 は、壺 A-b 類である。壺 A-a 類より口縁部がさらに伸長し、器高の 1/2 以上を占めている資料である。198 は体部が小さくつぶれた形状をしている。外面にはミガキ調整が施される。199 は外面にミガキ調整が施される。200 は外面にススが付着し、丁寧なナデで調整され、やや精良な作りである。201 は底部を欠損する。内外面ともミガキ調整が施される。202 は内面に工具ナデが施される。203 は底部を欠損する。外面はケズリが顕著で、内面上半は、丁寧なナデ調整。204 も底部を欠損する。内外面とも、ミガキ調整が施される。205 は底部を欠損する。外面は全体的に丁寧なミガキ風のナデが施される。206 は口縁端部を欠損する。内面にヘラケズリが施される。207・208 は、底部を欠損する。

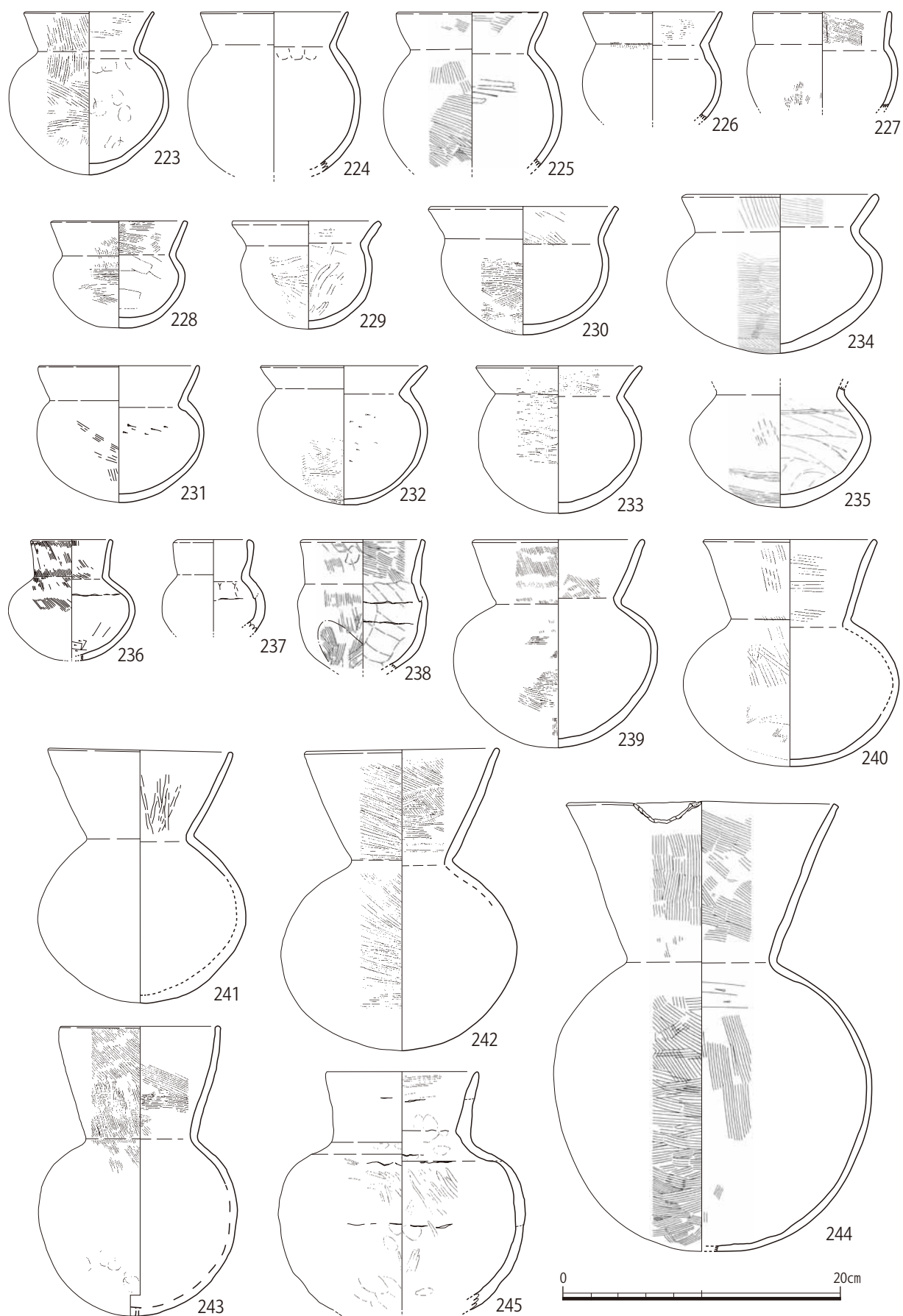
209～215 は、壺 A-c 類である。器高が口径の 1/2 より小さく、浅い鉢状の体部に、概ね体部高より小さい口縁部がつくものである。209 は外面にミガキが施される。口縁部のしまりがゆるい。210 は、内面に放射状のミガキを施す。口縁端部を内側につまみあげる。211 は底部を欠損する。210・211 は、口縁部が他に比べ短い。212 は外面にヘラケズリ。213 は、内外面とも体部にミガキ調整が施される。口縁部が体部高と同程度に伸長している。新相を示す資料か。214 は、内面にミガキ調整を施す。215 は口縁部のしまりがゆるい。

216～219 は、壺 A-d 類である。内湾しつつ開きながら立ち上がる体部に、短い口縁部がつく。外面調整は、ハケ目、ケズリなどである。218 は、外面にミガキを施す。底部を欠損する。

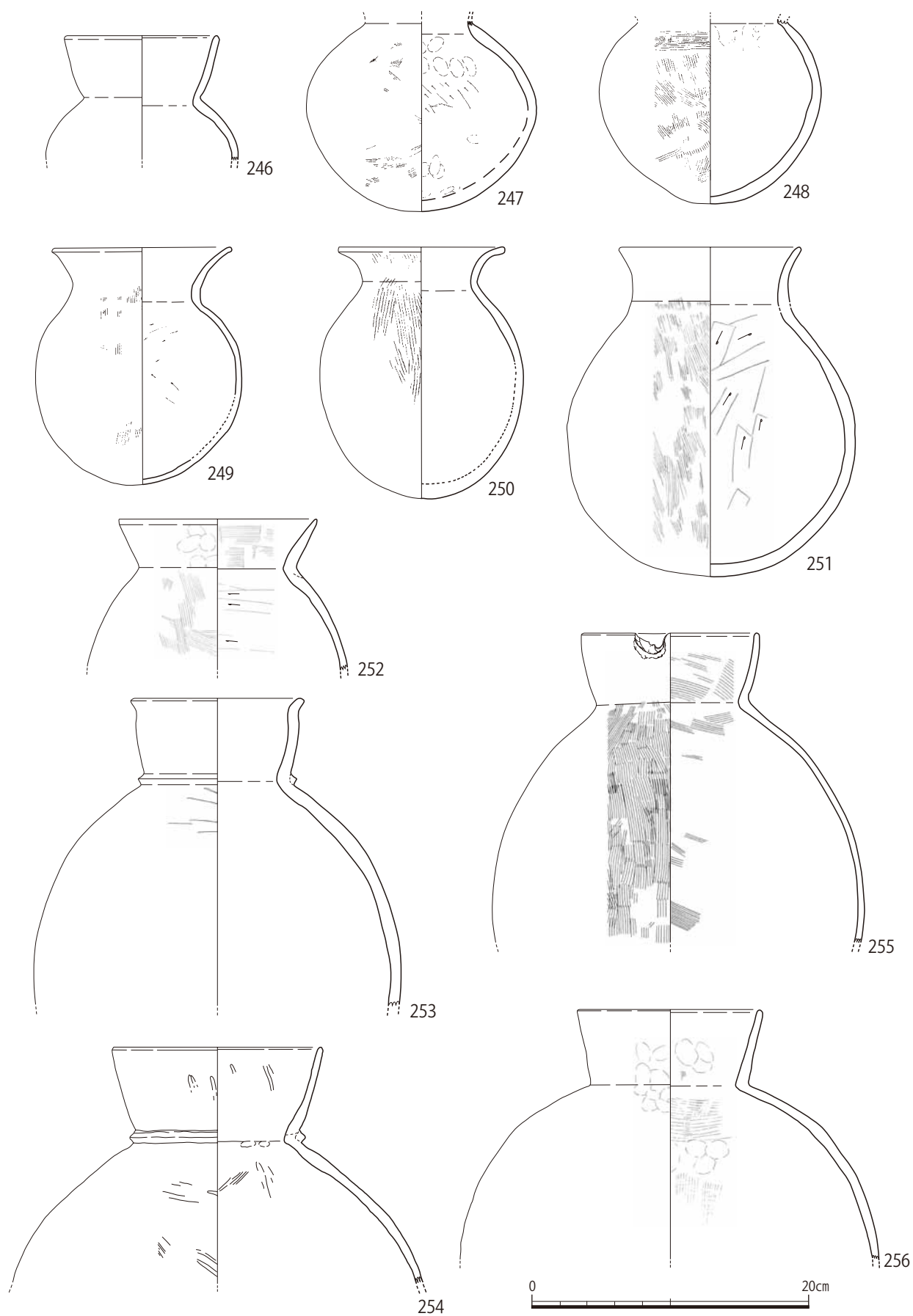
220～222 は、壺 A-e 類である。体部が偏球形で、器高の 1/3 程度の口縁部が直線的に立ち上がり、口縁部径が体部最大径に近いもの。221 は底部を欠損する。220・222 は、外面にミガキ調整を施す。



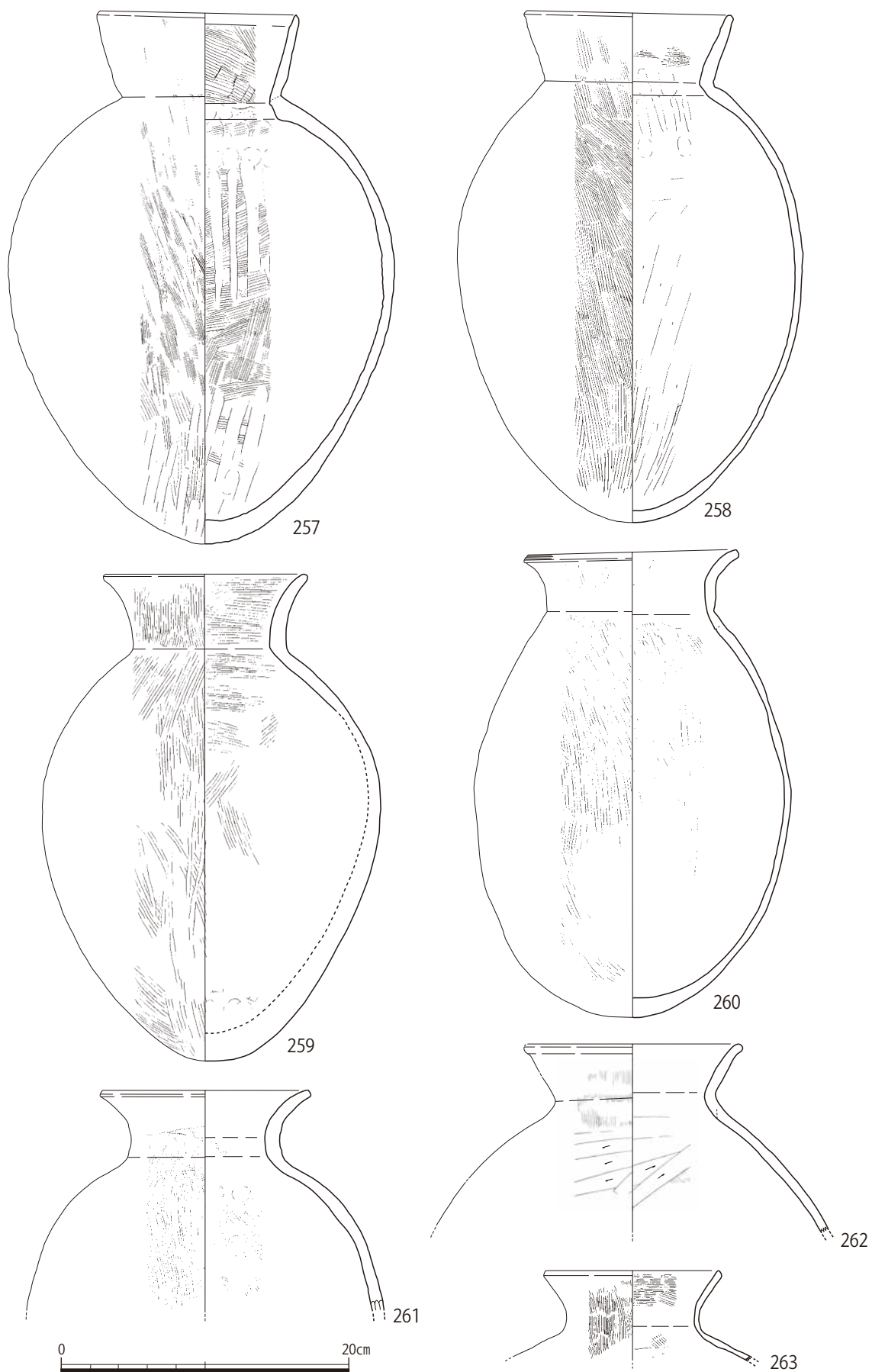
第 111 図 20SD001 出土遺物実測図 11 (1/4)



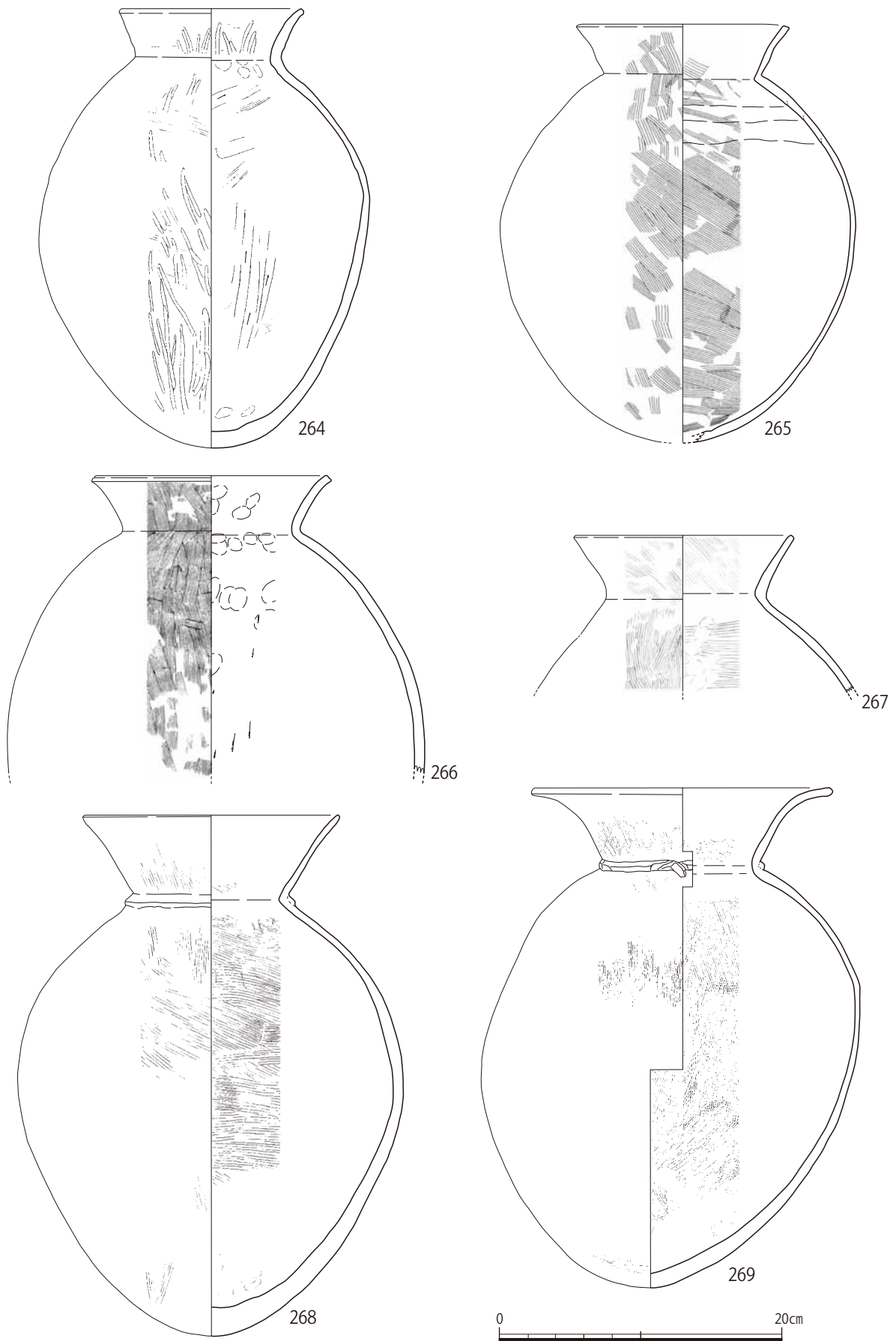
第 112 図 20SD001 出土遺物実測図 12 (1/4)



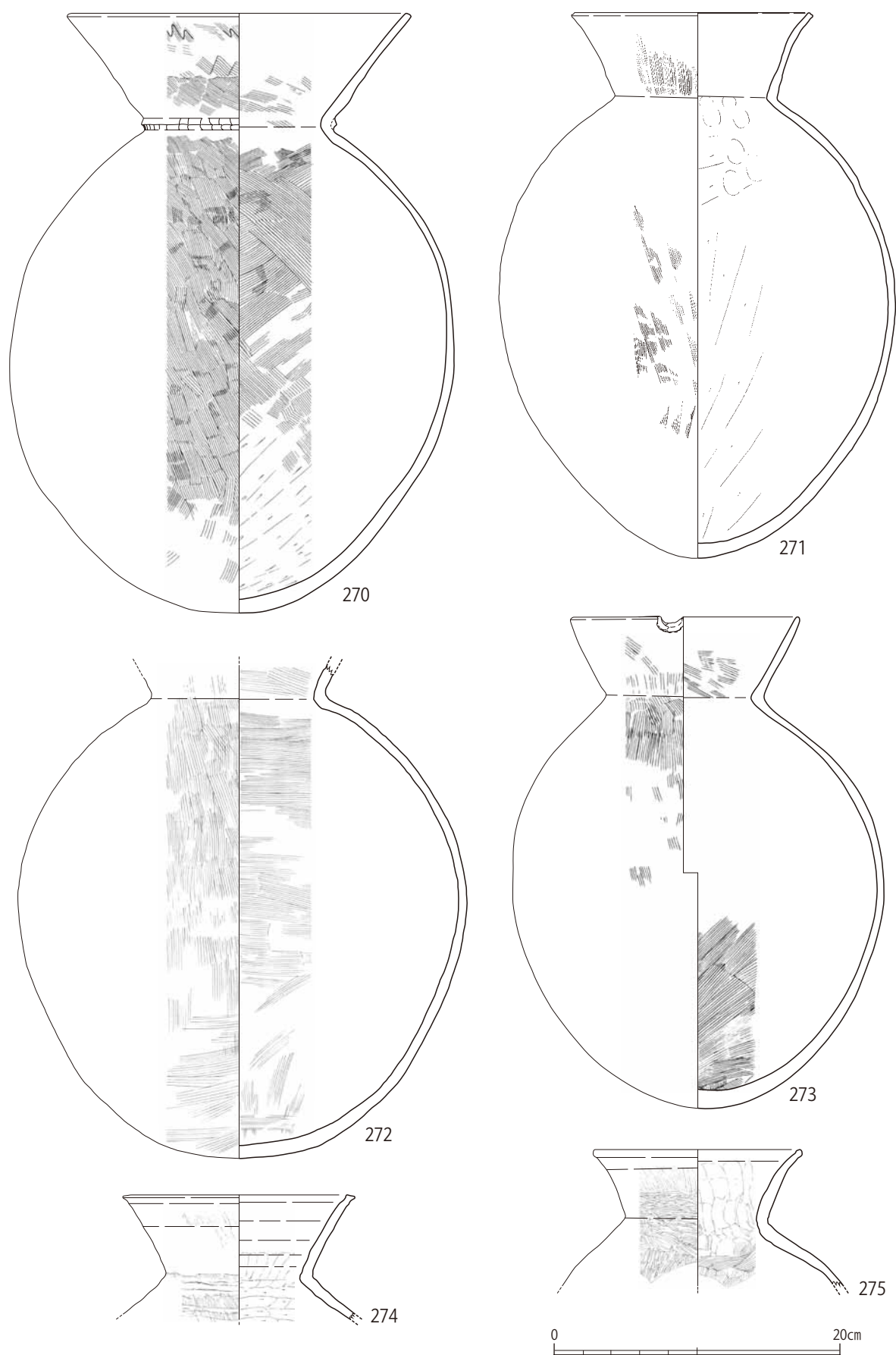
第 113 図 20SD001 出土遺物実測図 13 (1/4)



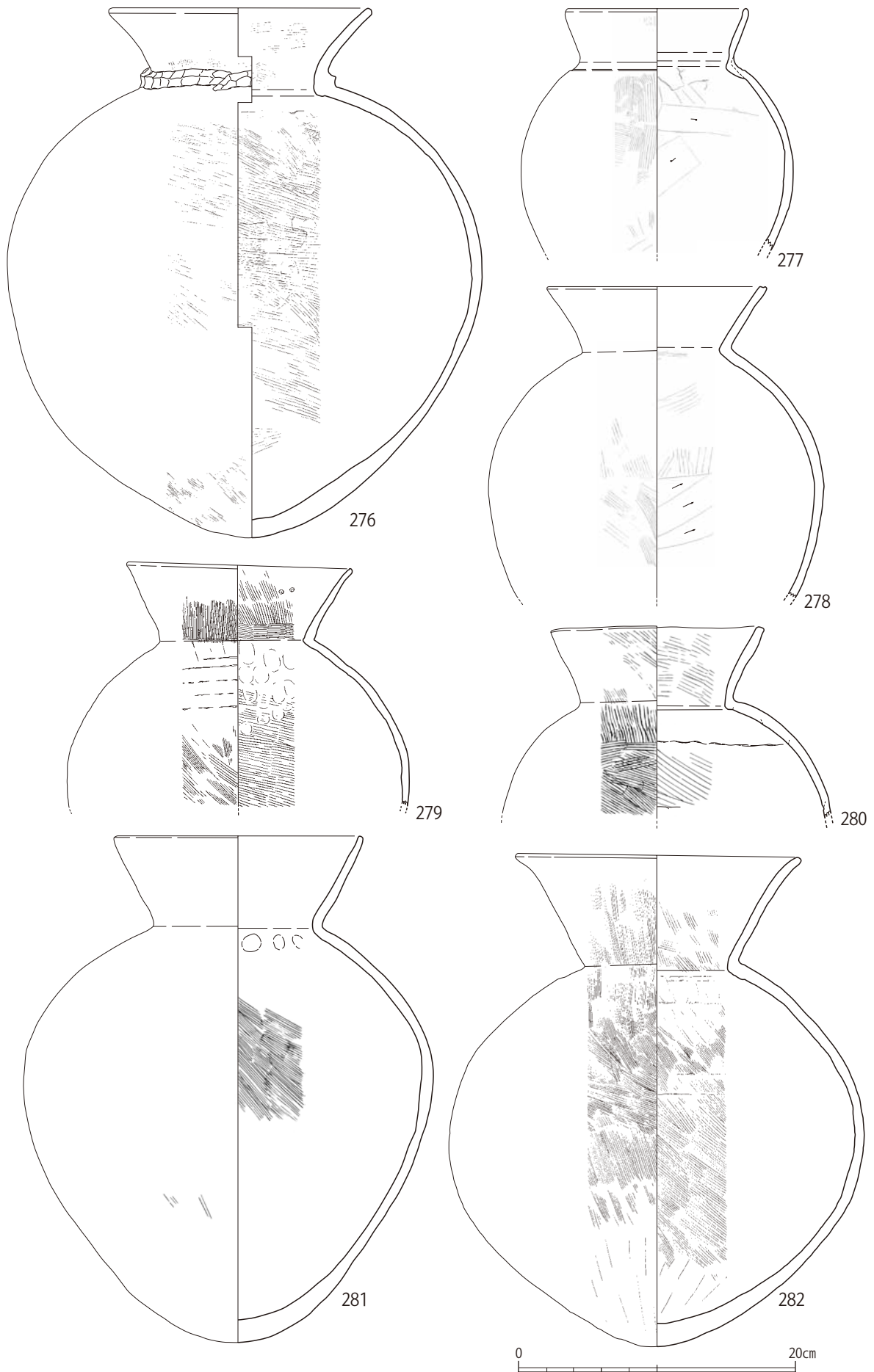
第 114 図 20SD001 出土遺物実測図 14 (1/4)



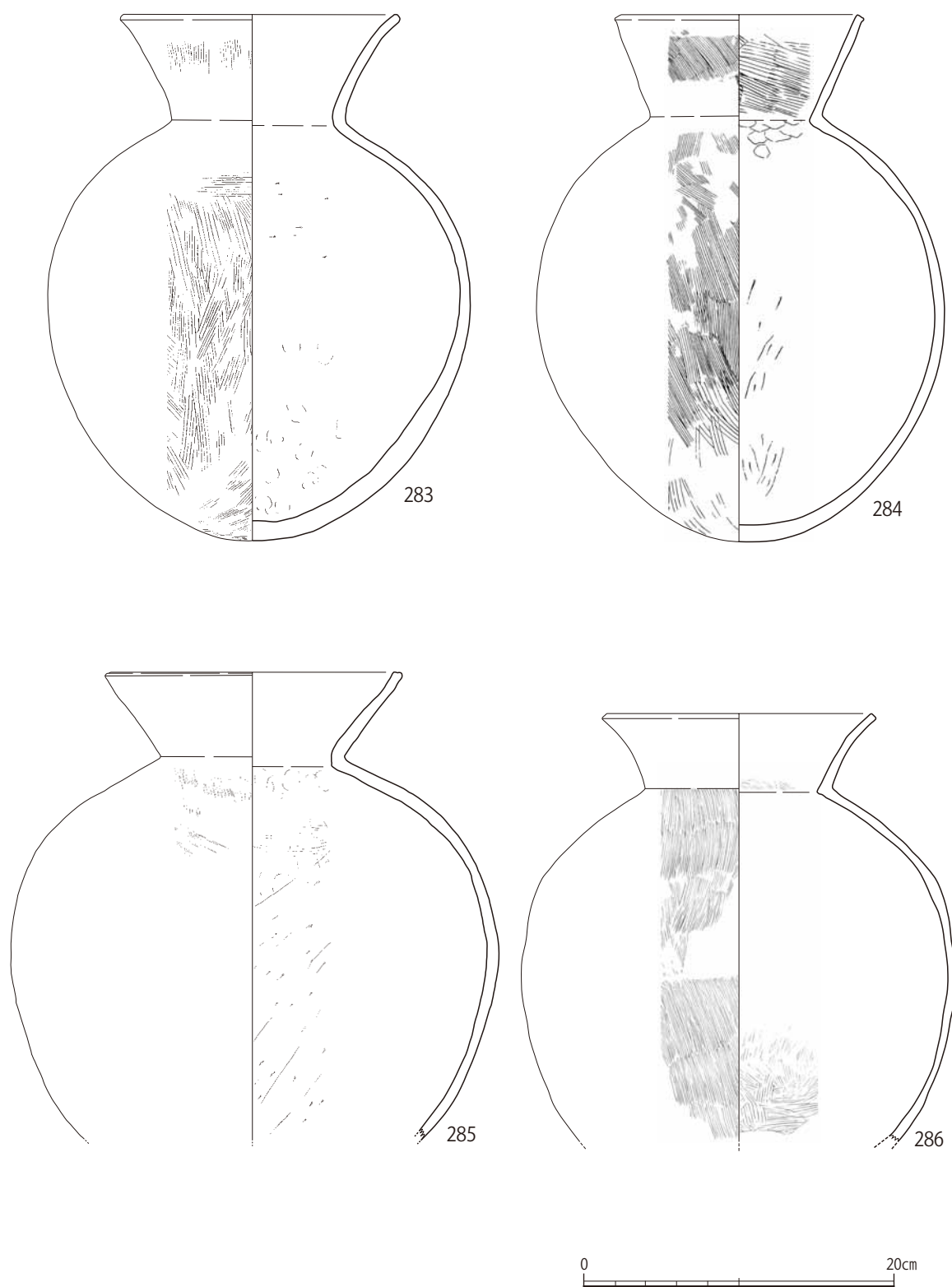
第 115 図 20SD001 出土遺物実測図 15 (1/4)



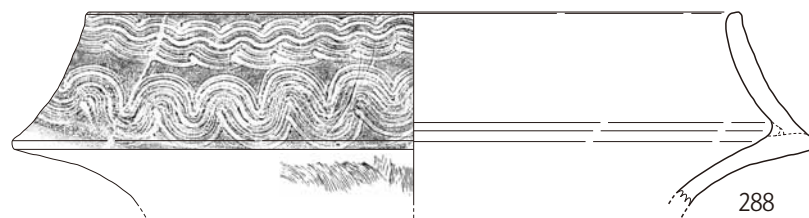
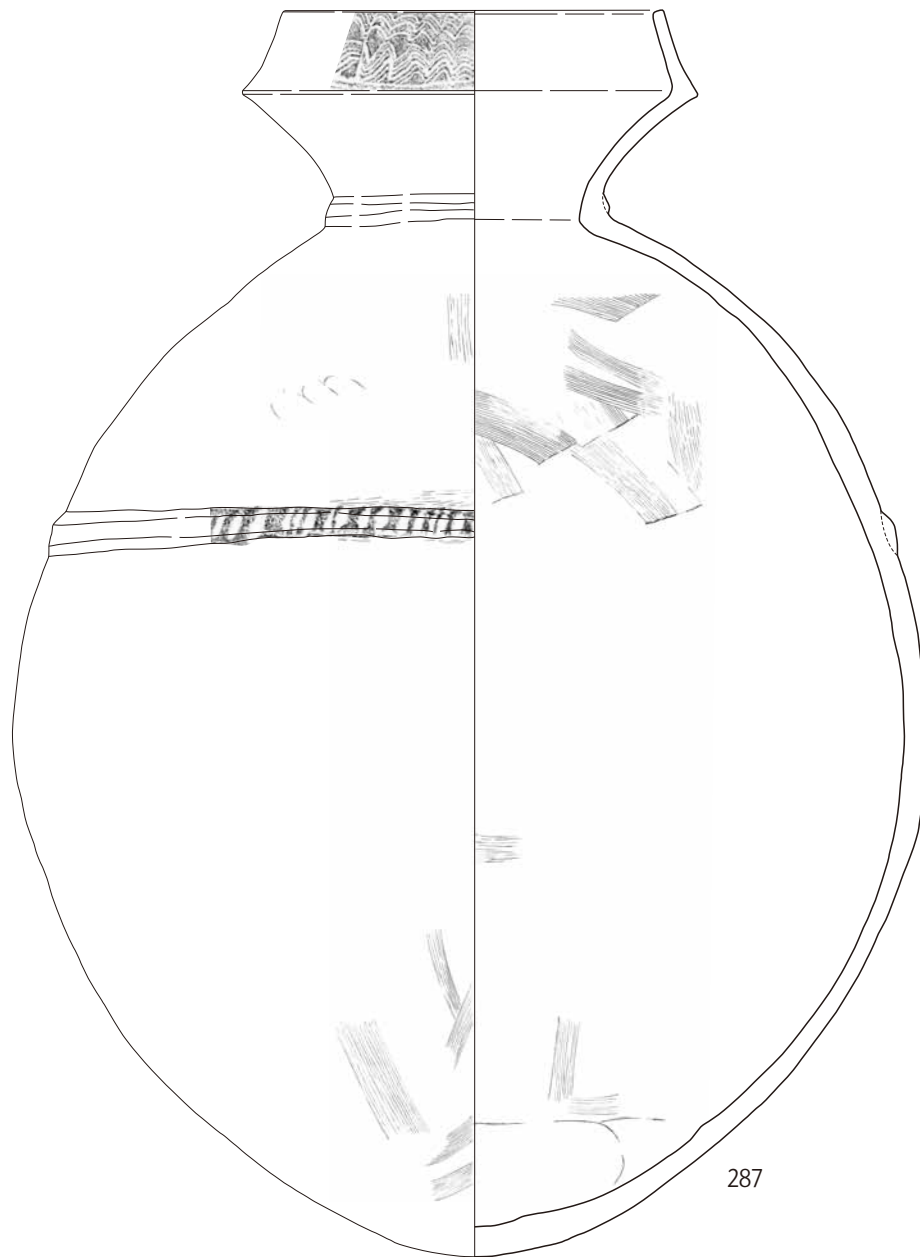
第 116 図 20SD001 出土遺物実測図 16 (1/4)



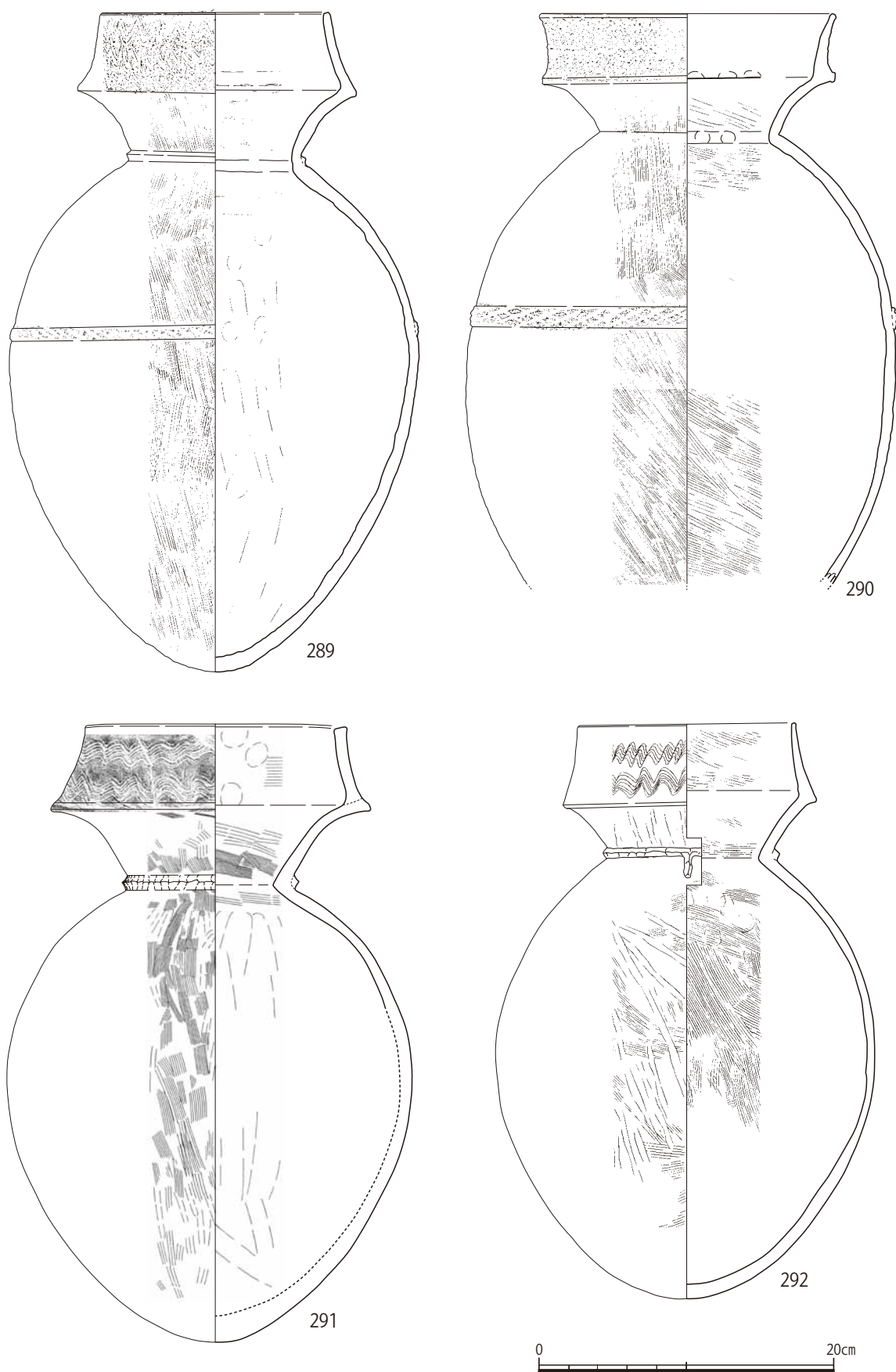
第 117 図 20SD001 出土遺物実測図 17 (1/4)



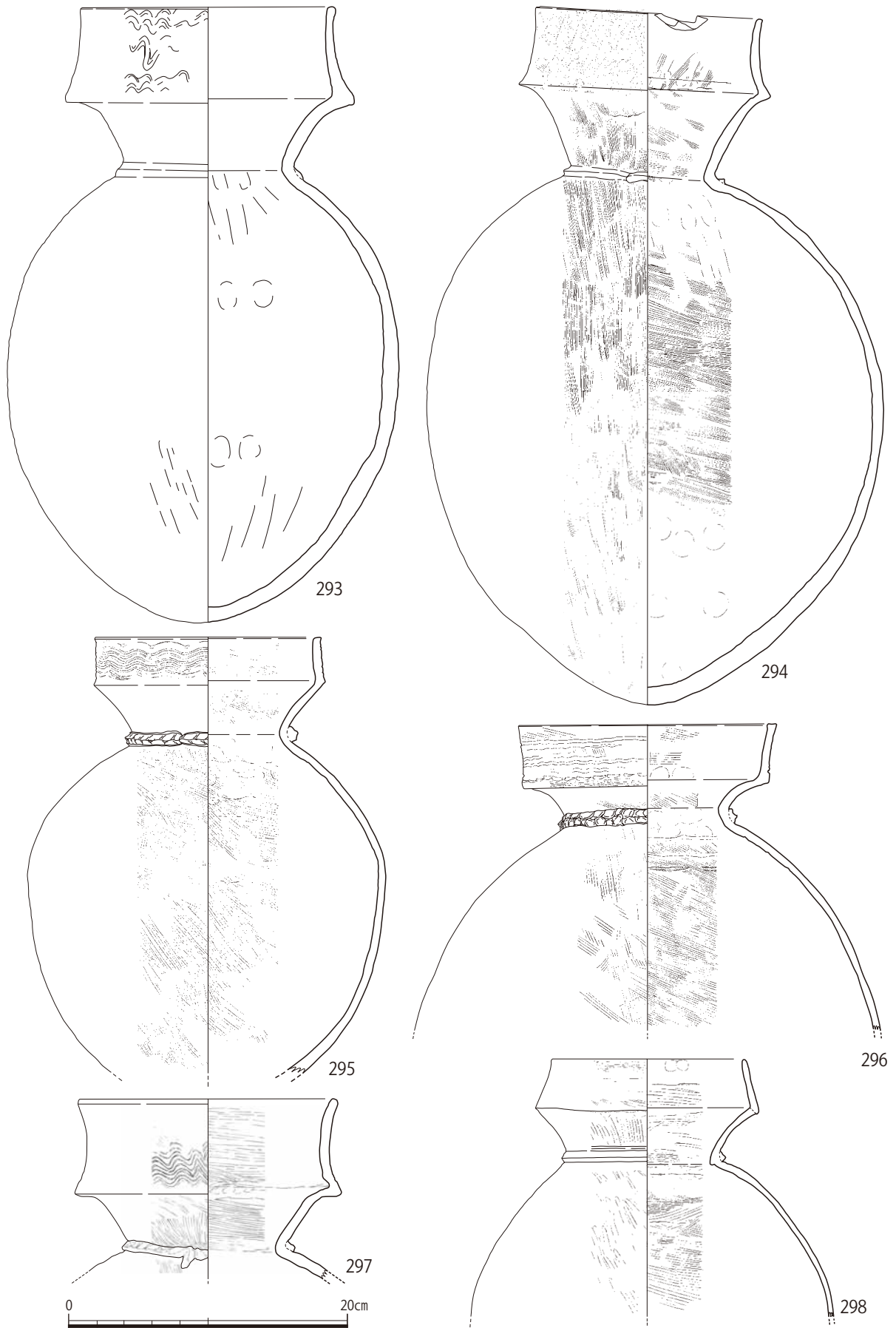
第 118 図 20SD001 出土遺物実測図 18 (1/4)



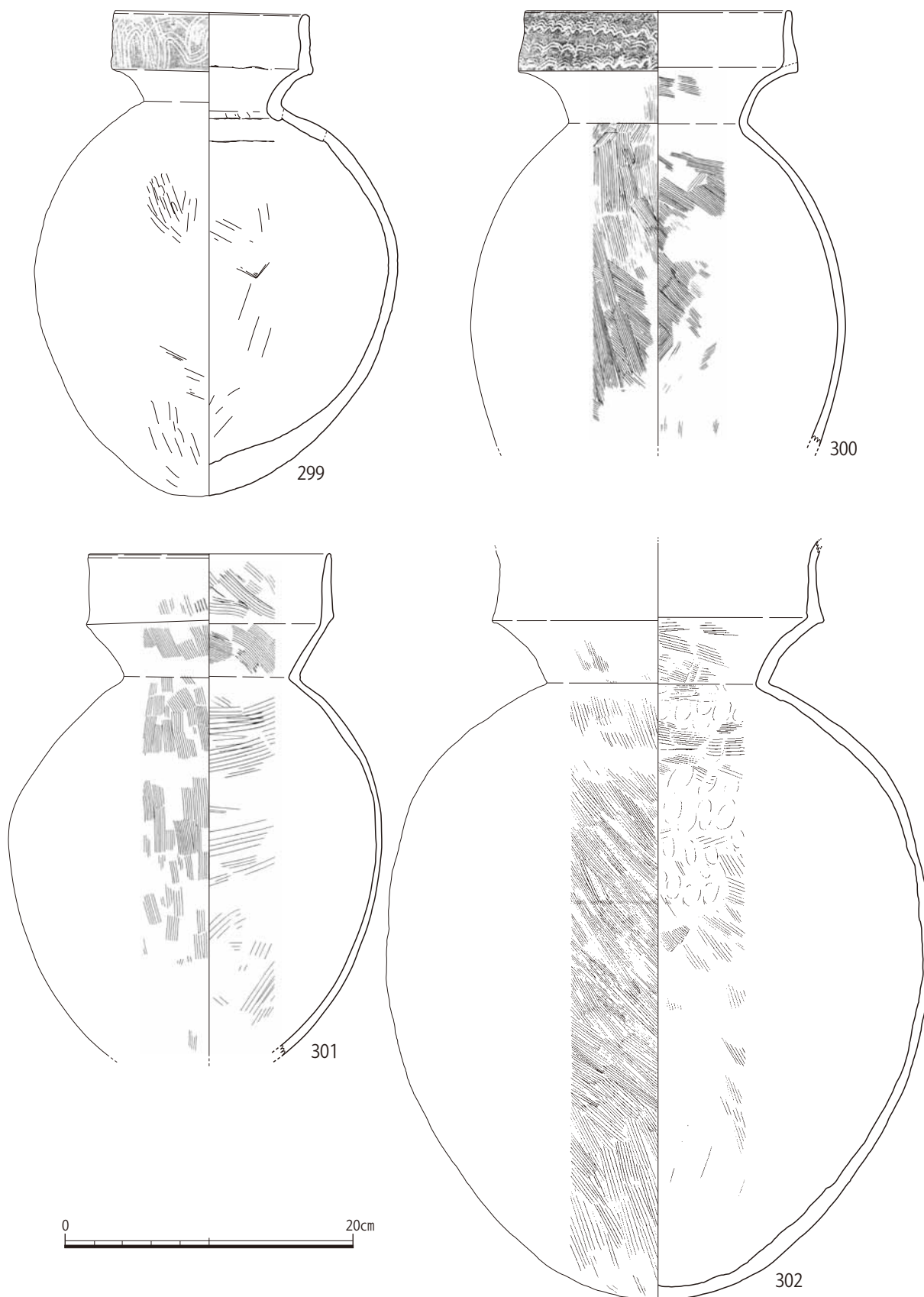
第 119 図 20SD001 出土遺物実測図 19 (1/4)



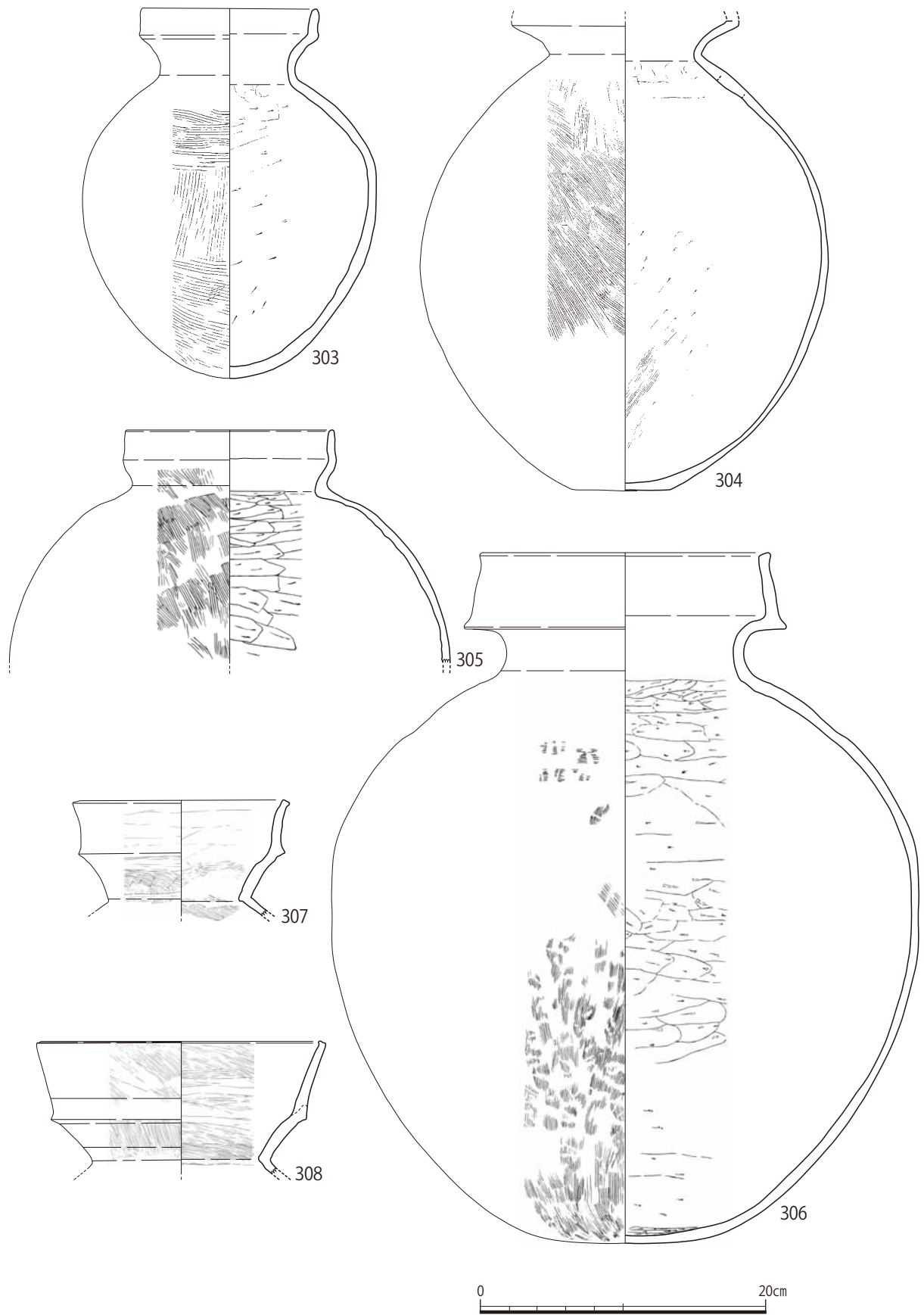
第 120 図 20SD001 出土遺物実測図 20 (1/4)



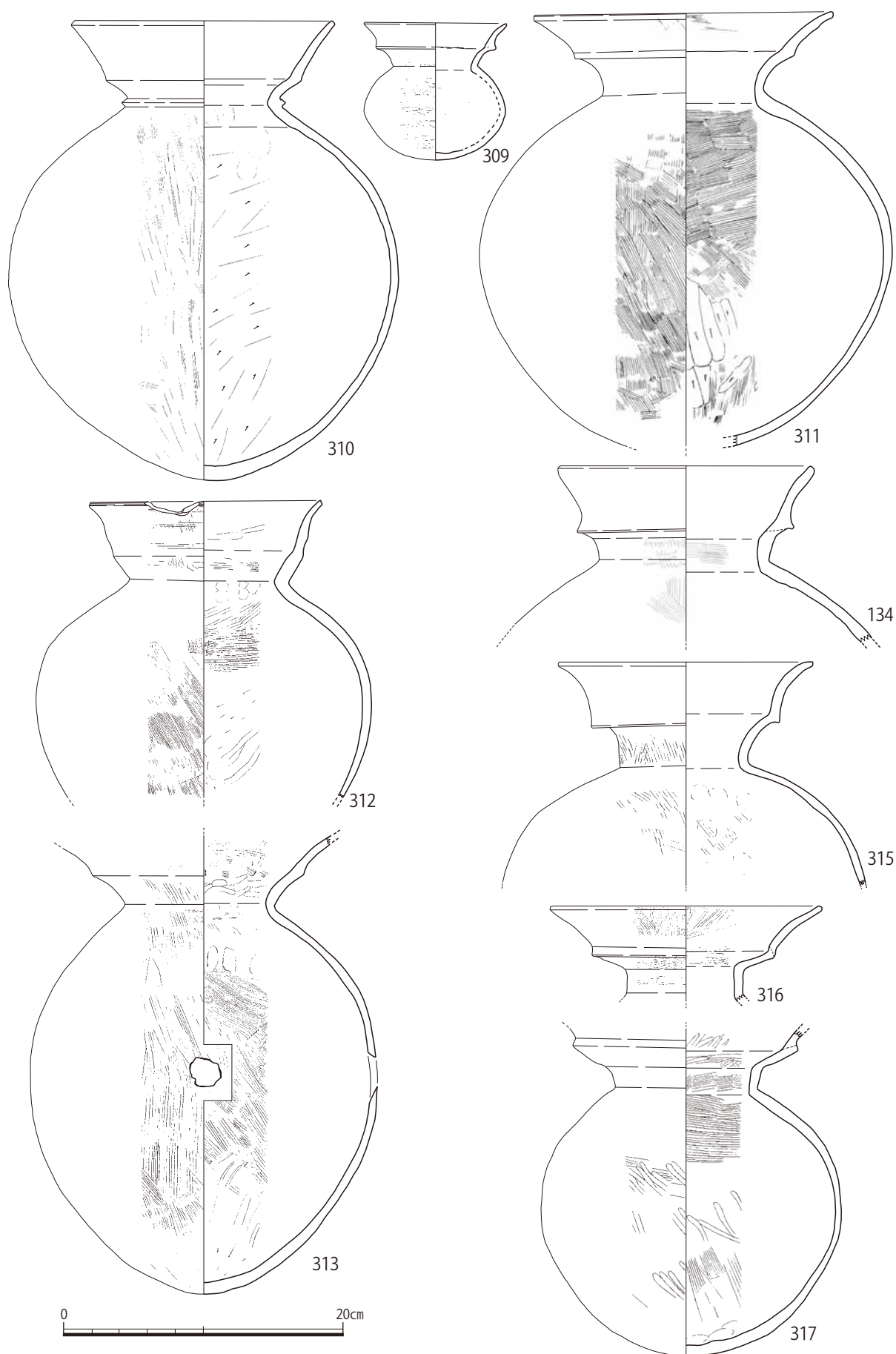
第 121 図 20SD001 出土遺物実測図 21 (1/4)



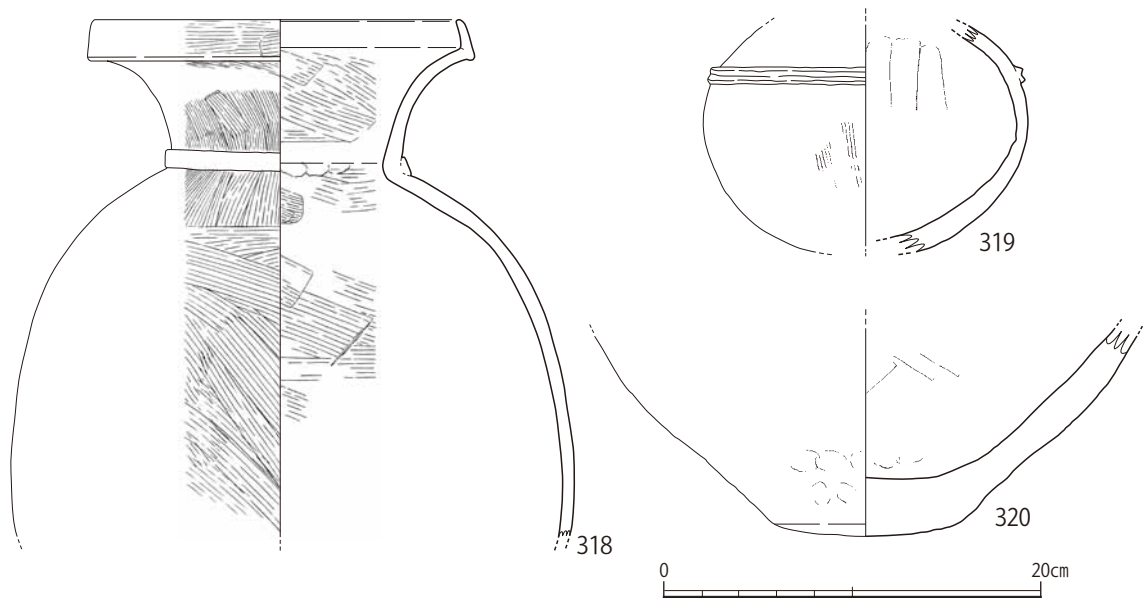
第 122 図 20SD001 出土遺物実測図 22 (1/4)



第 123 図 20SD001 出土遺物実測図 23 (1/4)



第 124 図 20SD001 出土遺物実測図 24 (1/4)



第 125 図 20SD001 出土遺物実測図 25 (1 / 4)

223～227 は、壺 A-f 類である。体部が球形ないし、偏球形で、口縁部が概ね器高の 1/4 程度で、最大径は胴部にある。224～227 は底部を欠損する。外面はハケ目調整がほとんどである。

228～235 は、壺 A-g 類である。内湾しつつすばまる鉢状の体部に短い口縁部がつく。229 が内外面ともミガキ調整で、赤色塗彩を施す。230～232、外面はハケ目調整。231・232 は、内面ヘラケズリ。233 は、外面ミガキ調整が施される。232 はやや大形。235 は口縁部を欠損するが、このタイプか。

236～238 は、壺 A-h 類。口径が、器高あるいは胴部最大径より小さい。すべて底部を欠損する。238 は、粗い器形調整の資料である。外面にススが付着し、ハケ目調整。内面は工具ナデ。

239～245 は、直口壺。器高 15cm～22cm 程度の資料がほとんどであるが、一部 30cm を超える大形の資料が混在する。239・240 は、壺 B-a 類である。口縁部の伸びが短い。240 は、口縁端部が外反する。

241～244 は、壺 B-b 類。口縁部の伸びが a 類より長い。242 は外面に丁寧なミガキ調整を施す。243 は口縁部が直立気味に立ち上がり、端部が内湾する。244 は大形。底部を欠損する。外面にはススが付着し、ハケ目調整が施される。口縁部に打ち欠きがみられる。245 は底部を欠損する。口縁部が直立気味に立ち上がり、内外面には、一部ミガキが施され、接合痕が観察できる。新相を示す資料と考えられる。

246～248 は、直口壺の破片資料と考えられる。246 は底部を欠損する。247・248 は口縁部を欠損する。

249～286 は、単口縁壺である。249～267 は、壺 C-a 類。長胴形の胴部に、外反ないし、内湾気味に外方へ開く短い口縁部を持つ。249～251 は、25cm 以下の小振りな資料。249・251・252 は、外面にヘラケズリを施す。253～258 は、口縁部が内湾気味に立ち上がる。253・254 は、頸部に突帯を有する。底部を欠損する。255 は、口縁部に打ち欠きが見られる。257・258 は、口縁部の屈曲部分が平坦化している。258 は、内面ヘラケズリで器壁が薄く、下半はミガキ調整が施される。259～267 は、口縁部が外反する資料。260 は、最大径が胴部中位より下位にあり、下膨れの形状を呈す。262 は内外面ともヘラケズリ。口縁端部を玉縁状に肥厚させる。264 は外面にミガキ調整、内面には、ヘラケズリが施される。265 は胴部の球形化がすすんでいる。266 は部分的にススが付着し、口縁端部は、面取り風に調整する。

268～275 は、壺 C-b 類である。長胴形の胴部に、壺 C-a 類より長い口縁部がつく。268～270 は、頸部に突帯を有す。268・270 が、口縁部が直線的に開くのに対し、269 は口縁部が大きく外反する。270 の内面下半は、ヘラケズリが施される。やや球形化がすすむ。271 は、内面にヘラケズリ。272 は、口縁部を欠損するが、内外面にハケ目調整を施す。胴部はやや球形化がすすんでいる。273 は、口縁部に 3 箇所の打ち欠きがある。

274・275 は、胴部から下を欠損する。274 は、口縁端部を面取り風に調整する。275 は、口縁端部を玉縁状に調整する。

276 ～ 285 は壺 C-c 類である。球形化のすすんだ胴部に、大きく開く口縁部を有する資料である。276 は、尖底気味の資料。頸部には突帯を有する。277 は、底部を欠損するが、やや小振りな資料。277・278 とともに内面にヘラケズリが施される。279 は、口縁部に 2 箇所、刺突文と思われる痕跡が見られる。280 は、内外面に赤色塗彩の痕跡が認められる。281 は外面がやや粗いナデで調整される。最大径がやや胴部上位にある。282 は、外面にススが付着し、内外面ともハケ目調整。底部は尖底傾向である。283 は、内面ヘラケズリが施される。284 は、外面に赤彩が残るか。ケズリ後ナデ調整。285 は、底部を欠損するが、内面にヘラケズリが施される。口縁端部上面に沈線が施される。286 は、底部を欠損する。

287 ～ 302 は、安国寺式タイプの複合口縁壺である。287・289・290 は、頸部及び胴部に突帯を持つ壺 D-a 類である。287 は口縁部に比して、器高がかなり大きく 65cm を超える大形品である。内傾する複合口縁部には、2 段に比較的精緻な櫛描波状文を施文する。色調は内外面とも淡黄色。複合口縁部の様相などは、古相を示していると考えられるが、胴部の球形化がかなりすすんでいることから、古墳時代初頭の所産か。288 は、大形の複合口縁部。精緻な櫛描波状文を 2 段に施文する。289 は、内面にヘラケズリが施される。290 は、複合口縁部が直立気味に立ち上がる。

291 ～ 298 は、胴部の突帯を省略する壺 D-b 類である。複合口縁部は、直立気味に立ち上がる資料がほとんどである。292 は、外面にミガキ調整が施される。293 は、内外面にケズリ調整が施され、複合口縁部の櫛描波状文はだれた印象となっている。294 は、尖底傾向、幅広の櫛描波状文を 2 段に施文する。297 は、複合口縁部の櫛描波状文を省略する。

299 ～ 302 は、壺 D-c 類である。頸部及び胴部の突帯を省略する。299 は底部がかなり厚い。内面はヘラケズリ。直立する複合口縁部にはかなり崩れた櫛描波状文が施文される。301 は、器形調整が粗く、複合口縁部の櫛描波状文を省略する。302 は 301 と同じタイプか。口縁部を欠損するが、器高 50cm を超える大形品である。

303 ～ 308 は、壺 D-d 類である。外来系（山陰系）の複合口縁壺と考えられる。いずれも内面はヘラケズリが施され、器壁が薄くなっている。305・306 は、内面の横方向のヘラケズリが顕著である。306 は平底が残る。

309 ～ 315 は、壺 E-a 類である。二次口縁と一次口縁の境がスムーズな二重口縁壺である。309 は小形。外面はミガキ調整。310 は内面ヘラケズリ。311 は、内面のヘラケズリが顕著ではない。畿内系の二重口縁壺か。312 は底部を欠損する。口縁部に 4 箇所打ち欠きが見られる。313 は口縁部を欠損する。胴部は長胴形である。314・315 は、肩部から上の資料。内外面ともハケ目調整が施される。

316・317 は、壺 E-b 類である。頸部が筒状をなし、一次口縁と二次口縁に明瞭な境がある。内外面ともに、ミガキ調整を施し、ケズリを行わない。外来系（畿内系）と考えられる。

318 ～ 320 は、弥生土器である。318 は、複合口縁壺。319 は、M 字形貼付突帯を胴部に巡らせる長頸壺。320 は、壺の底部である。凸レンズ気味の平底が残る。いずれも弥生時代後期終末の所産か。

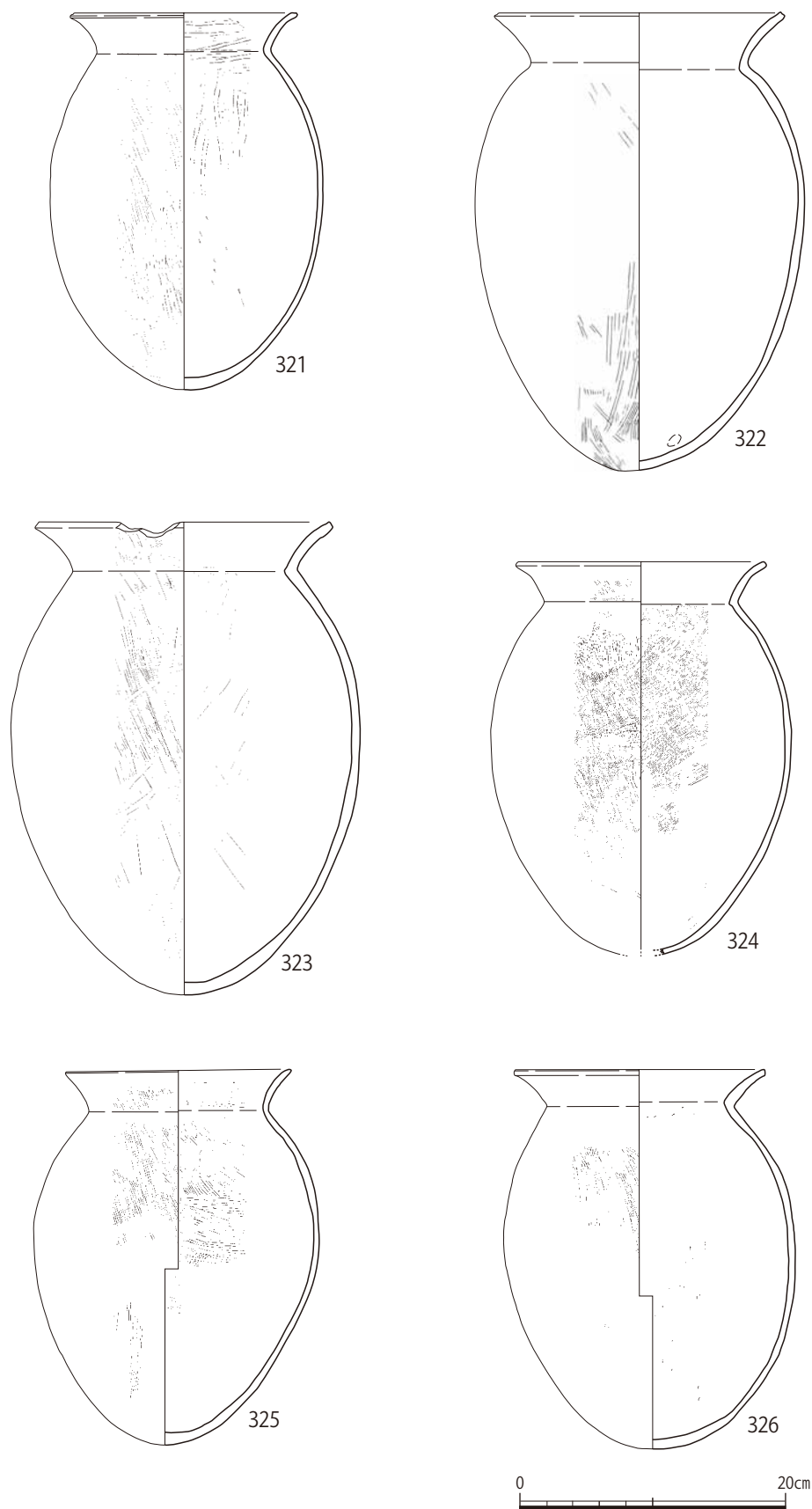
20SD001 の資料は、小型丸底壺では、口縁部が伸長して、体部高を凌駕するタイプ（壺 A-b 類）が多く出土している。なかでも 198 は、かなり口縁部が伸長し、体部が小さくつぶれている。調整は、精製のミガキ調整を施すものが少なく、なかには外面をヘラケズリで終える資料などが散見される。さらに、いわゆる小型丸底壺を模倣したような調整の粗い資料（壺 A-d 類）や、口径が器高や、体部最大径より小さいタイプ（壺 A-h 類）が見られるなど、古墳時代前期中葉でも新相を示していると考えられる。単口縁の壺では、内面にヘラケズリを施す資料が増え、長胴卵形の胴部の壺に混じって球形胴化のすすんだ壺が多い。壺 C-a 類とした突帯付の長胴壺が残るが、壺の底部は丸底化しているなど、古墳時代前期前葉の新相から古墳時代前期中葉の様相を示していると考えられる。安国寺式タイプの複合口縁壺では、複合口縁部の内傾化が弱く、直線的に立ち上がる資料が多く見られ、胴部にベルト状突帯を貼付する資料のほかに、胴部の突帯及び、頸部の突帯も省略する資料（壺 D-c 類）が出土。それらの多くは、複合口縁部の立ち上がりが直線的で逆 L 字状を呈している。中には大分市植田市遺跡

E区溝I資料に類似する、301のような複合口縁部の櫛描波状文を省略し、器形の粗い資料が存在する。さらに、複合口縁壺の内面にヘラケズリの痕跡がある299のような資料が見られるなど、古墳時代前期中葉から古墳時代前期後葉への過渡期的な様相を示していると考えられる。しかしながら、比較的精緻な櫛描波状文を施文する287・288のような資料もあり、古墳時代初頭などの古い様相も一定量混じると考えられる。また、外来系(山陰系)の複合口縁壺と思われる土器が一定程度存在する。平底が残り、比較的古相を示すと思われる306などの資料も、古墳時代前期前葉の標識となっている大分市守岡遺跡19号住居跡出土遺物よりは、新相を示していると考えられる。わずかに出土した弥生土器は、弥生時代後期終末の様相を示している。

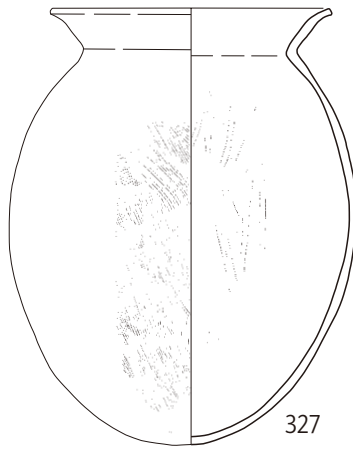
甕形土器(第126図～第153図)

20SD001出土の土師器甕資料は今回報告する中で一番多く287点を数える。ここでは、それらを本稿分類基準に従い記述する。(第190図参照)。

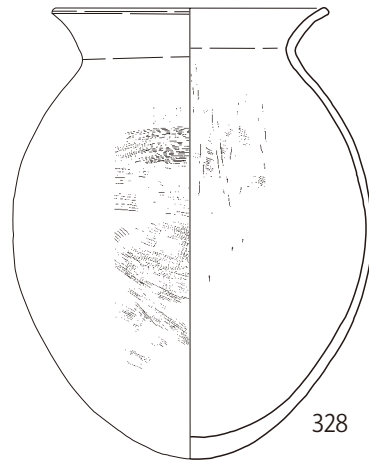
321～349は大甕Aタイプに属する資料である。器高29cm以上、口径21cm以上の大型の甕資料であり、球形率が0.8未満のものをさす。その中で口縁形状や底部形状によりさらに小分類している。321～325は大甕A1-aiに相当する。322は復元口径21.8cm、器高34.4cm、最大胴部径25.0cmを測る。内面は指オサエ、ナデにより、外面はハケ目により調整される。口縁部は外反し、底部形状は尖底状をなす。肩部に張りが残る資料である。324は復元口径18.8cm、最大胴部径22.6cmを測る。底部をわずかに欠損しているが現存高29.5cmを測るため大型の甕に分類している。内外面ともに綿密なハケ目により調整され、頸部には明瞭な稜をもつ。326は口径18.6cm、器高28.5cm、最大胴部径21.9cmを測る。内面・暗褐色、外面・黒褐色を呈し、内面の調整はケズリ、外面はハケ目によるものである。頸部付近から口縁中位が肥厚している。いずれも外来系の手法を取り入れながらも底部状況等には在地色を強く残す資料である。327・328は大甕A1-aiiの資料である。頸部の締りはゆるく底部は丸底を呈している。330は長胴タイプの甕であり、在地の甕のフォルムを強調している資料であるが、内外面にはケズリが実施されており、外来系の製作技法が施されている。過渡期の様相を如実に表している資料の一つといえよう。333～337は大甕A1-biに相当する。334は口径21.2cm、器高35.8cm、最大胴部径24.2cmを測る。内面はケズリ、ハケ目により、外面は綿密なハケ目により調整される。内外面にススの付着も認められる。頸部内面には明確な稜が認められ、底部形状は尖底状を呈する在地系の甕資料である。337は復元口径18.0cm、器高29.2cm、最大胴部径23.2cmを測る。内外面ともにハケ目により調整される。底部は尖底状を呈している。334同様に大甕A1-biに相当するが球形率は0.79と高く在地系の甕の球形化が進展した資料の一つである。339～341は大甕A1-biiの資料である。いずれの資料も口縁部が長く伸び、口縁中位より少し上でわずかに外方に屈曲する。頸部の締りは強いタイプである。341は口径19.2cm、器高30.3cm、最大胴部径24.2cmを測る。内面は胴部中位までケズリが実施されており上半部にはハケ目による最終調整が認められる。外面は縦方向のハケ目により調整される。長胴タイプに分類されているものの、かなり球形化した、外来系要素の強い資料である。342は口縁形状が直線的に立ち上がり外傾するタイプの大甕A2に相当する。内面はケズリ、外面はハケ目により調整される。口縁部は体部をそのまま引っ張りあげたような、だれたつくりである。345～349は大甕A2-biに属する資料である。345は口径16.8cm、器高32.6cm、最大胴部径21.8cmを測る。頸部は締め、内面は底部から胴上半部までヘラケズリが実施されており頸部付近には指頭圧痕が認められる。外面はハケ目により調整される。346は口径16.2cm、器高34.2cm、最大胴部径22.7cmを測る。内外面は橙色を呈し、内面はハケ目後ミガキが施され、外面は綿密なハケ目により調整される。どちらも在地系の甕であるが、345は外来系の要素が入った資料である。350～365は大甕Bに分類される甕資料である。球形率0.81以上であり、胴部が膨らみ球形化の進展した資料が相当する。350は復元口径18.7cm、器高29.1cm、最大胴部径23.6cmを測る。内面はケズリ、外面はハケ目により調整される。器壁は薄い。351は口径20.9cm、器高32.6cm、最大胴部径26.7cmを測る。内面・にぶい橙色、外面・淡黄色を呈し、内外面はケズリ後ハケ目により調整される。口縁部は長く伸び口縁端部は面取りされ中央は沈線状の窪みが認められる。353は底部が



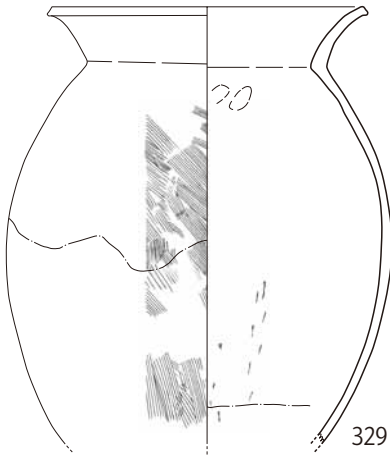
第 126 図 20SD001 出土遺物実測図 26 (1/5)



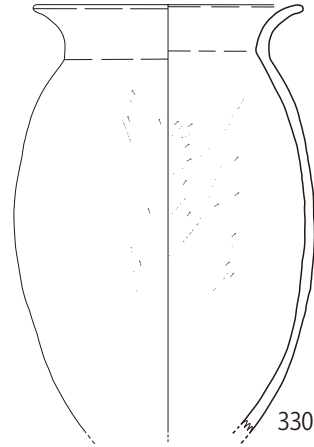
327



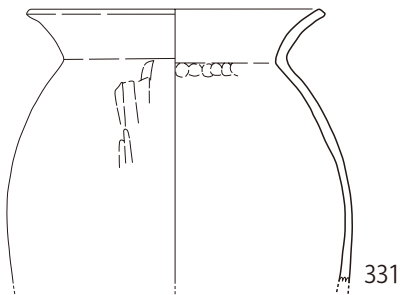
328



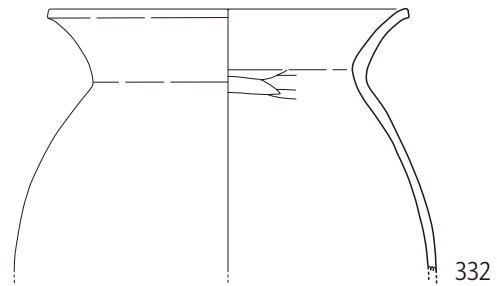
329



330



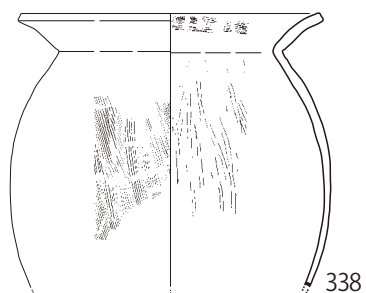
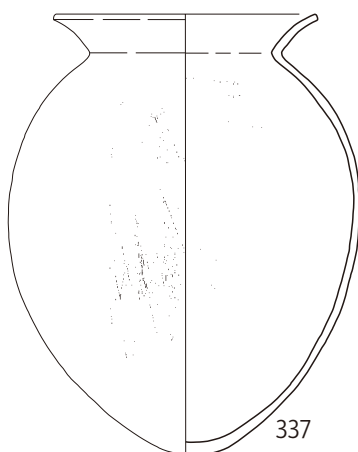
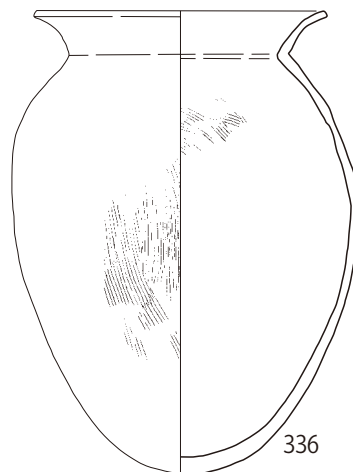
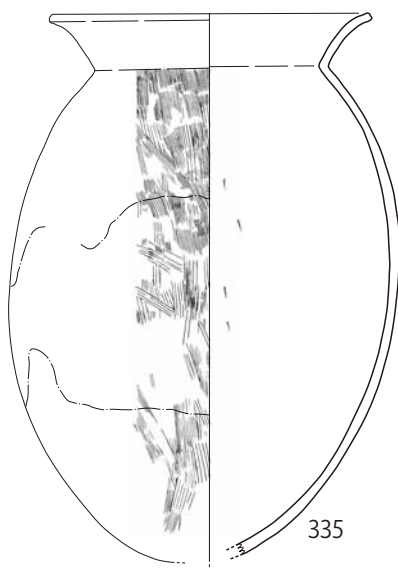
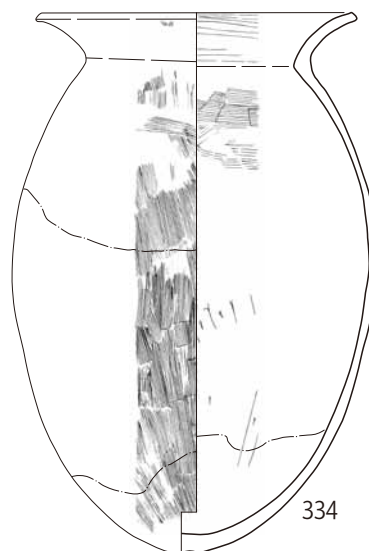
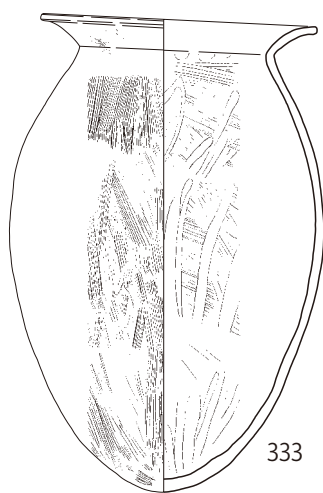
331



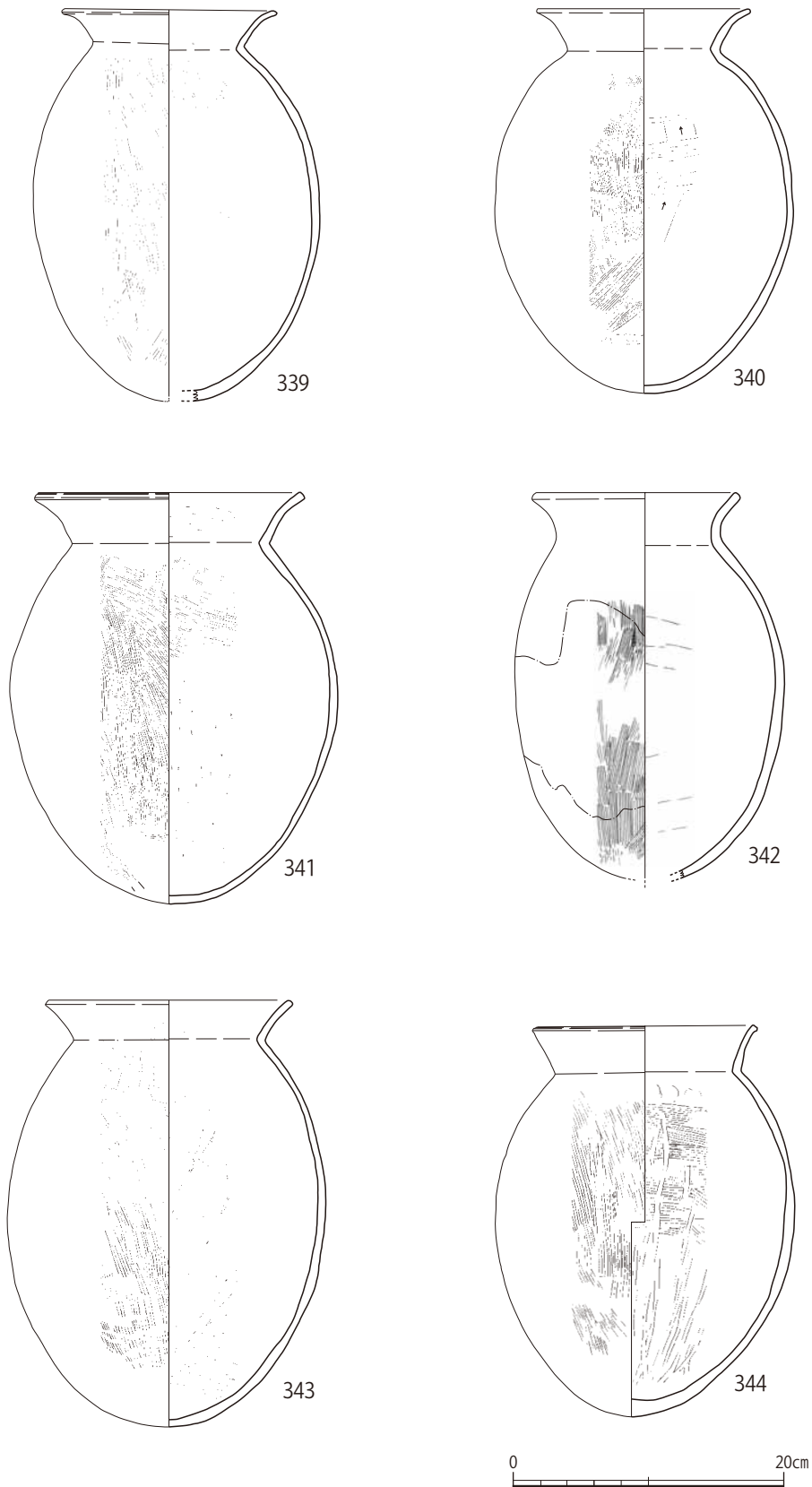
332



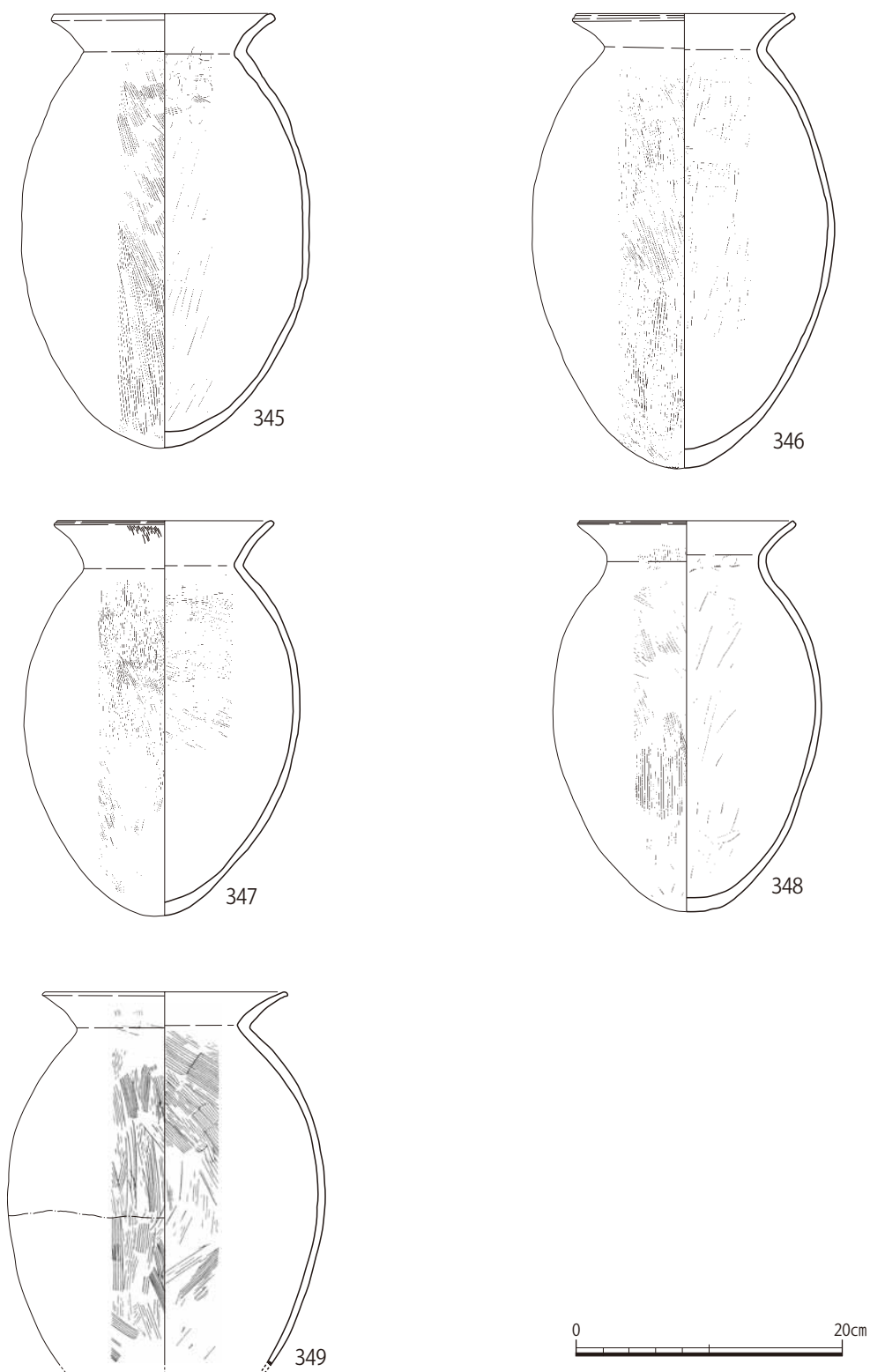
第 127 図 20SD001 出土遺物実測図 27 (1/5)



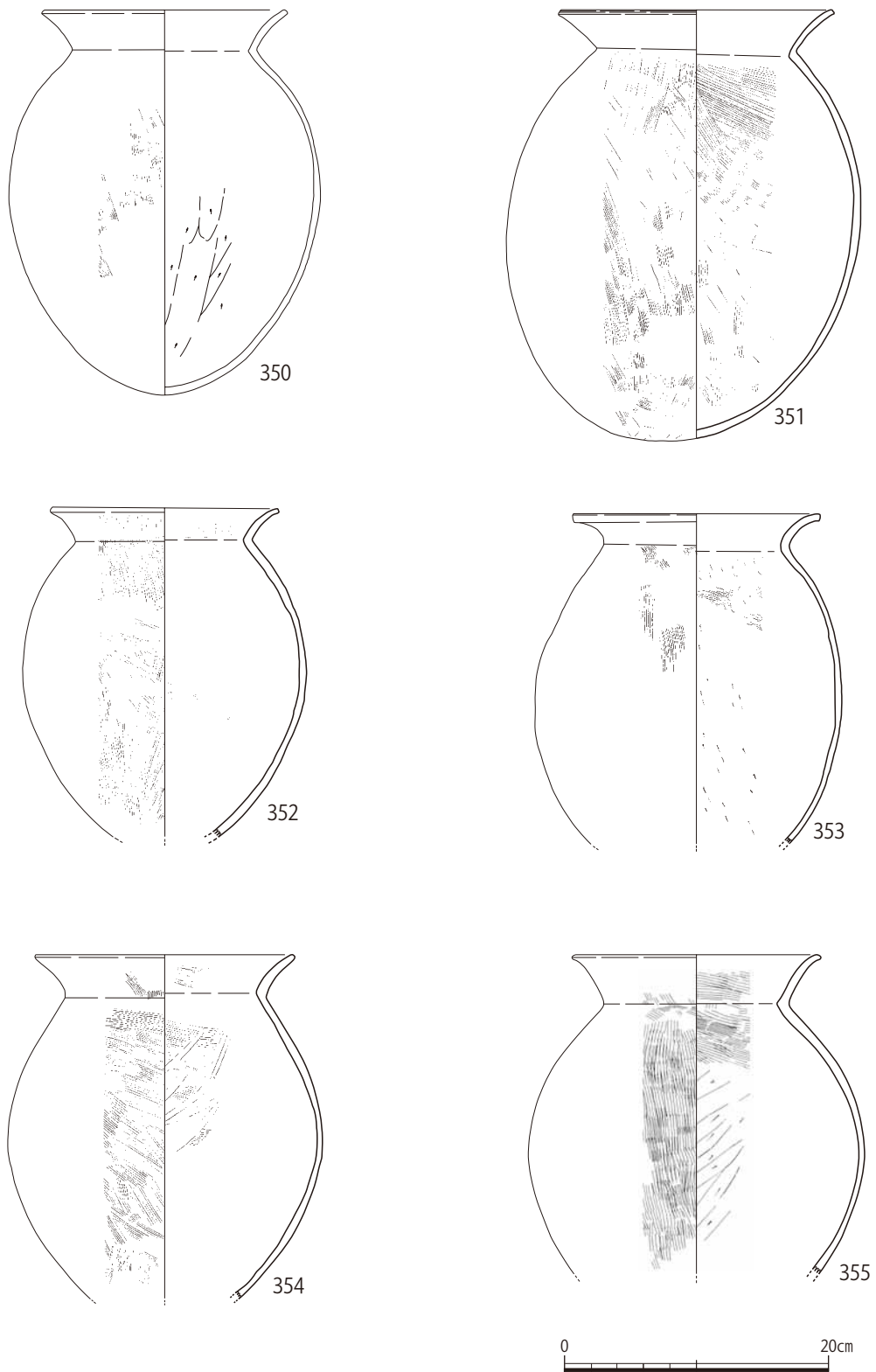
第 128 図 20SD001 出土遺物実測図 28 (1/5)



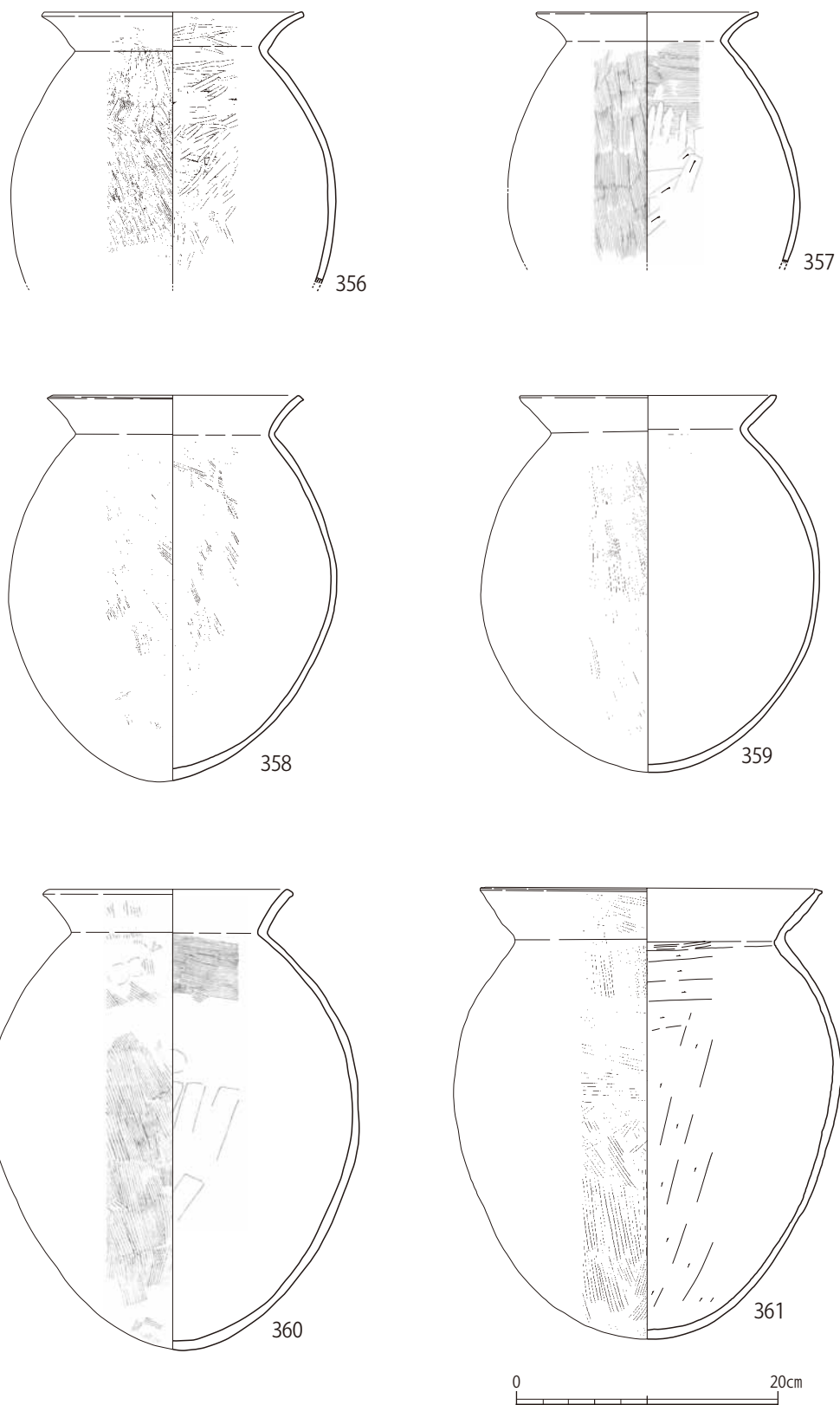
第 129 図 20SD001 出土遺物実測図 29 (1/5)



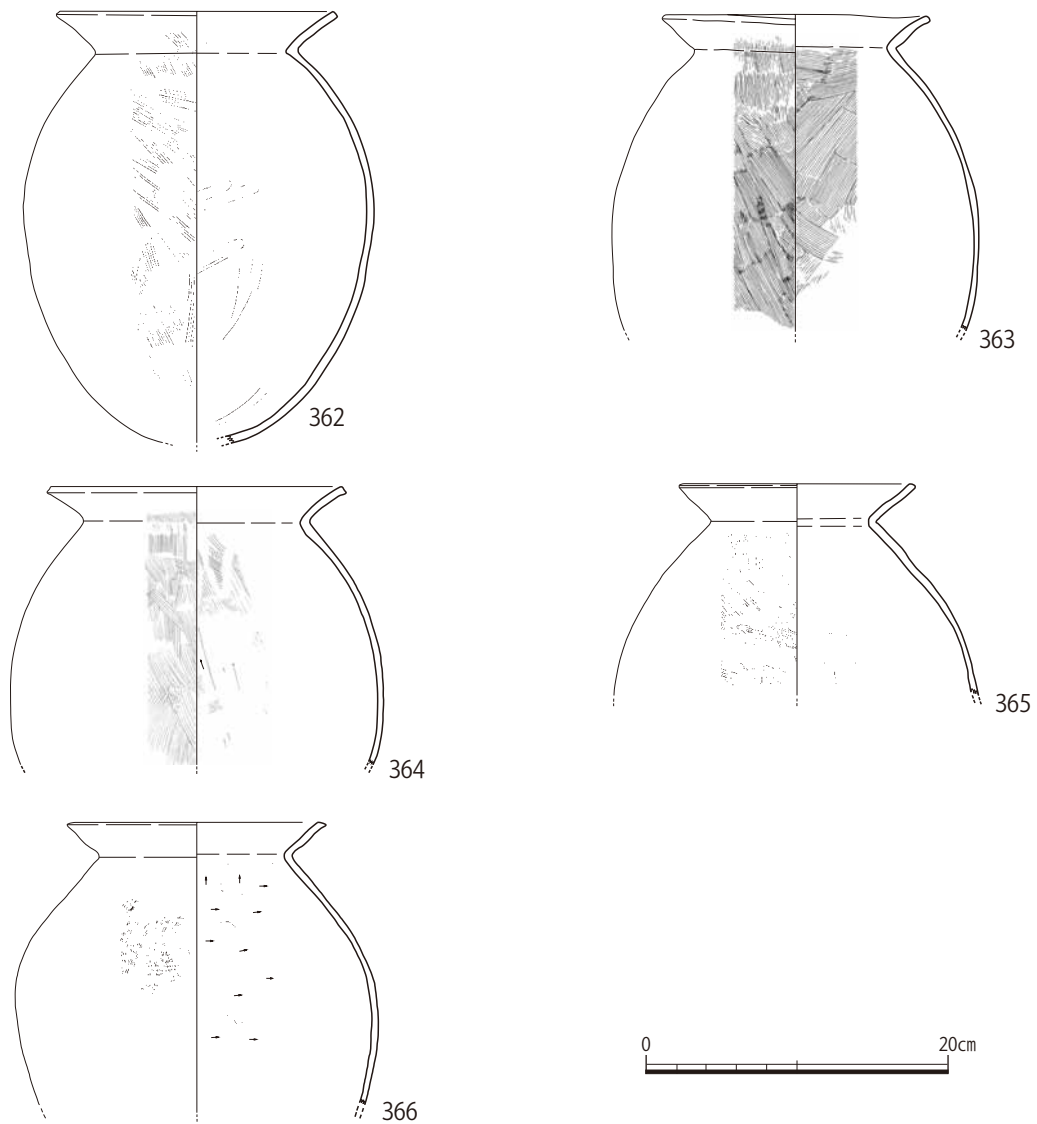
第 130 図 20SD001 出土遺物実測図 30 (1/5)



第 131 図 20SD001 出土遺物実測図 31 (1/5)

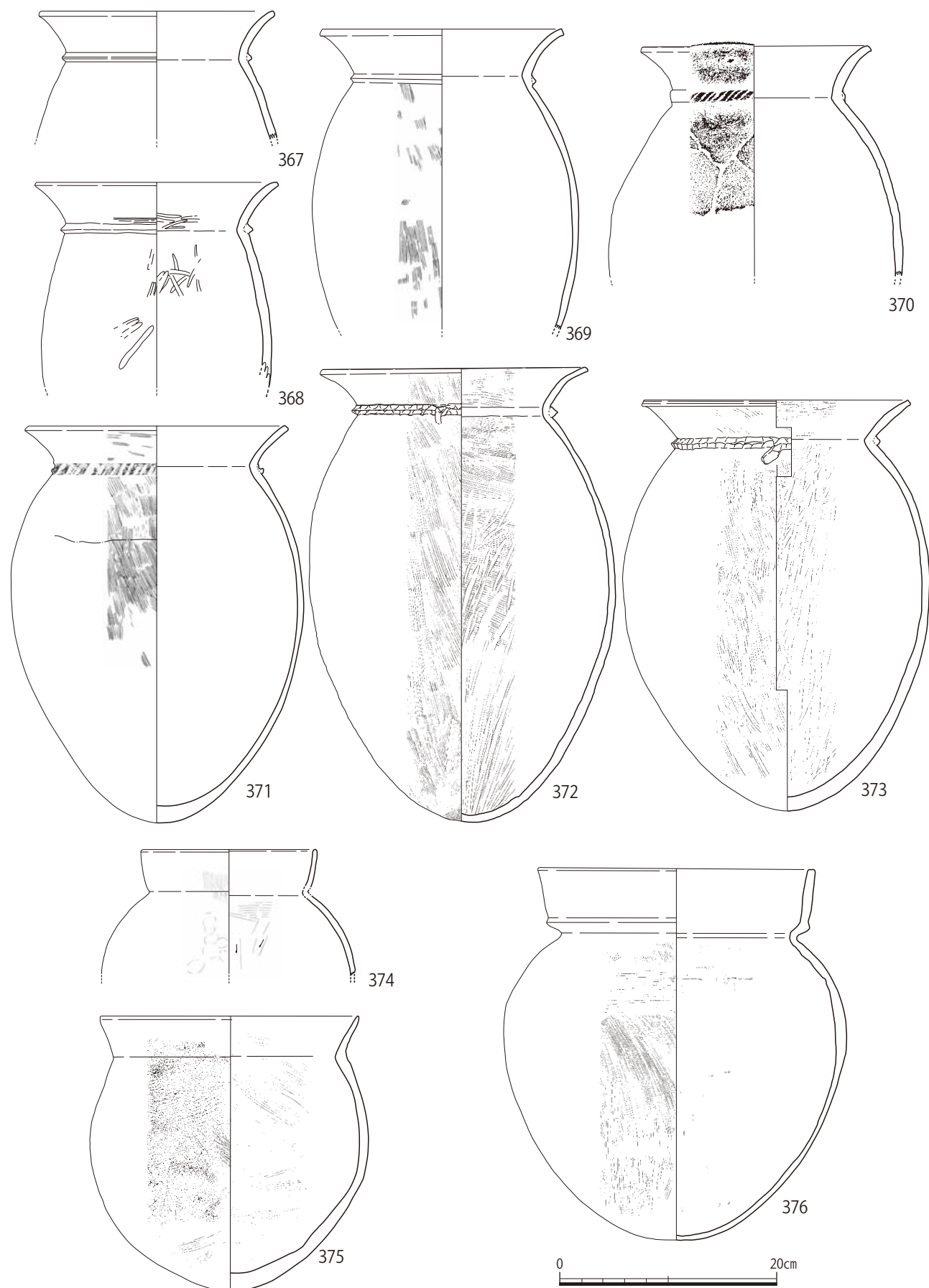


第 132 図 20SD001 出土遺物実測図 32 (1/5)

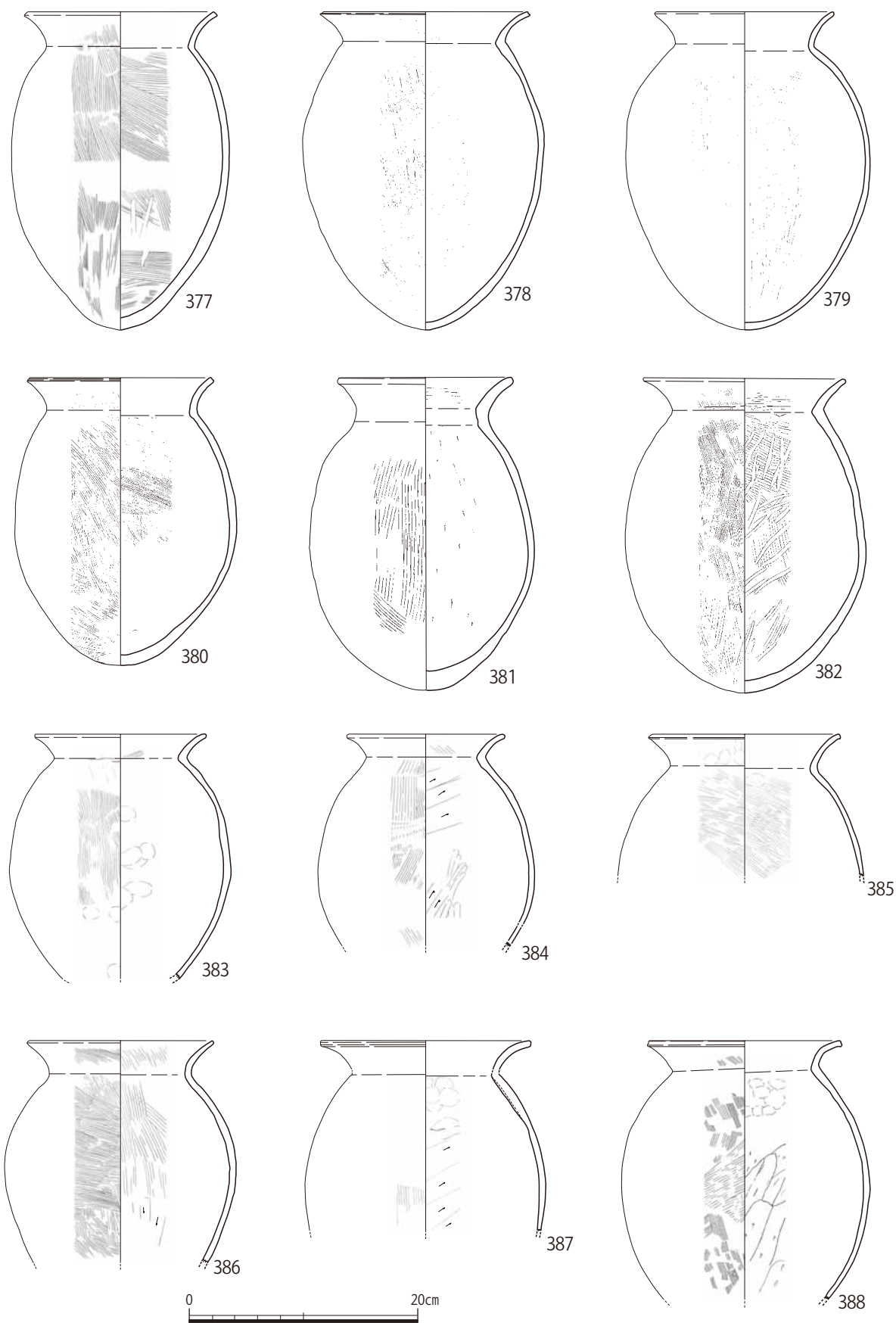


第 133 図 20SD001 出土遺物実測図 33 (1/5)

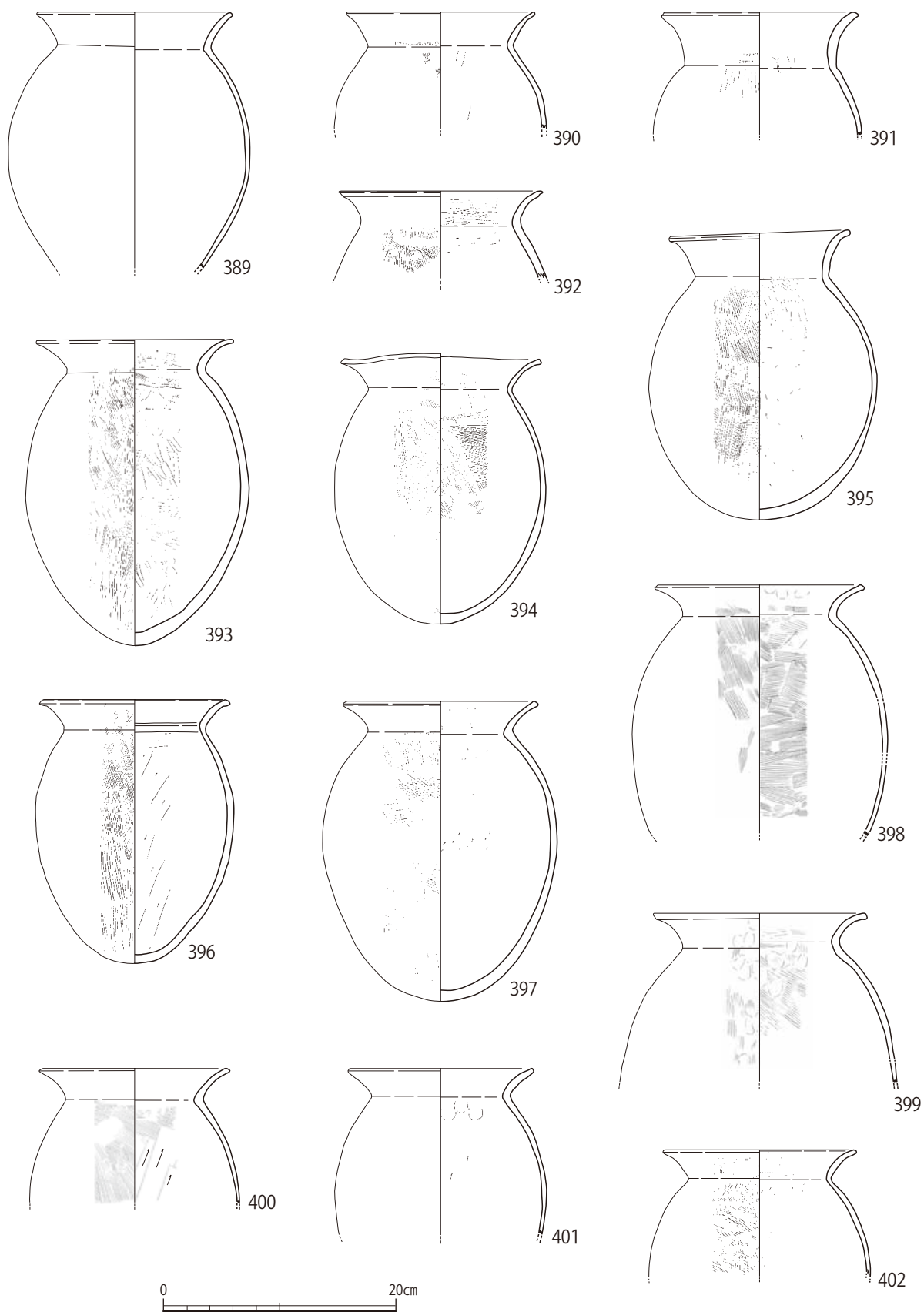
欠損する資料である。内面は頸部直下に指頭圧痕、胴部下半から上半部にかけてヘラケズリが認められる。最大胴部の位置は中位より下位にあり全体にだれた感がある。357 の資料も底部が欠損するものであるが 353 同様に最大胴部の位置が中位より下位にあり下膨れ状のフォルムを呈する資料と推測される。358 ～ 361 は大甕 B2-aii に相当する資料である。361 は口径 26.0cm、器高 34.5cm、最大胴部径 29.4cm を測る。内面・橙色、外面・浅黄橙色を呈す。内面はケズリ、外面は縦方向のハケ目の後横方向のハケ目が実施される。頸部付近は肥厚し、口縁端部はツマミ上げされた後面取りされている。362 は大甕 B2-bii に分類される資料である。口径 18.5cm、最大胴部径 23.2cm を測る。口縁部は直線的に立ち上がり外傾する。頸部は明確に稜を持つ。底部は欠損しているが丸底を呈するタイプと推測される。365 および 366 は胴部下半が欠損しているが肩部の形状や口縁部の処理等明らかに布留式系甕を模倣した甕資料である。367 ～ 373 は突帯の貼付けされた資料である。弥生時代後期終末前後の資料と考えられるものである。369 は三角様の突帯が頸部にめぐり、内面はナデ、外面はハケ目により調整される。371 は口径 24.3cm、器高 36.6cm、最大胴部径 26.8cm を測る。内面はナデ、外面はハケ目により調整され、ススの付着も認められる。頸部には斜方向に刻み目の入った突帯が以一条巡っている。372 は口径 24.6cm、器高 41.9cm、最大胴部径 28.3cm を測る大形の甕資料である。内面はハケ目後ミガキ、外面



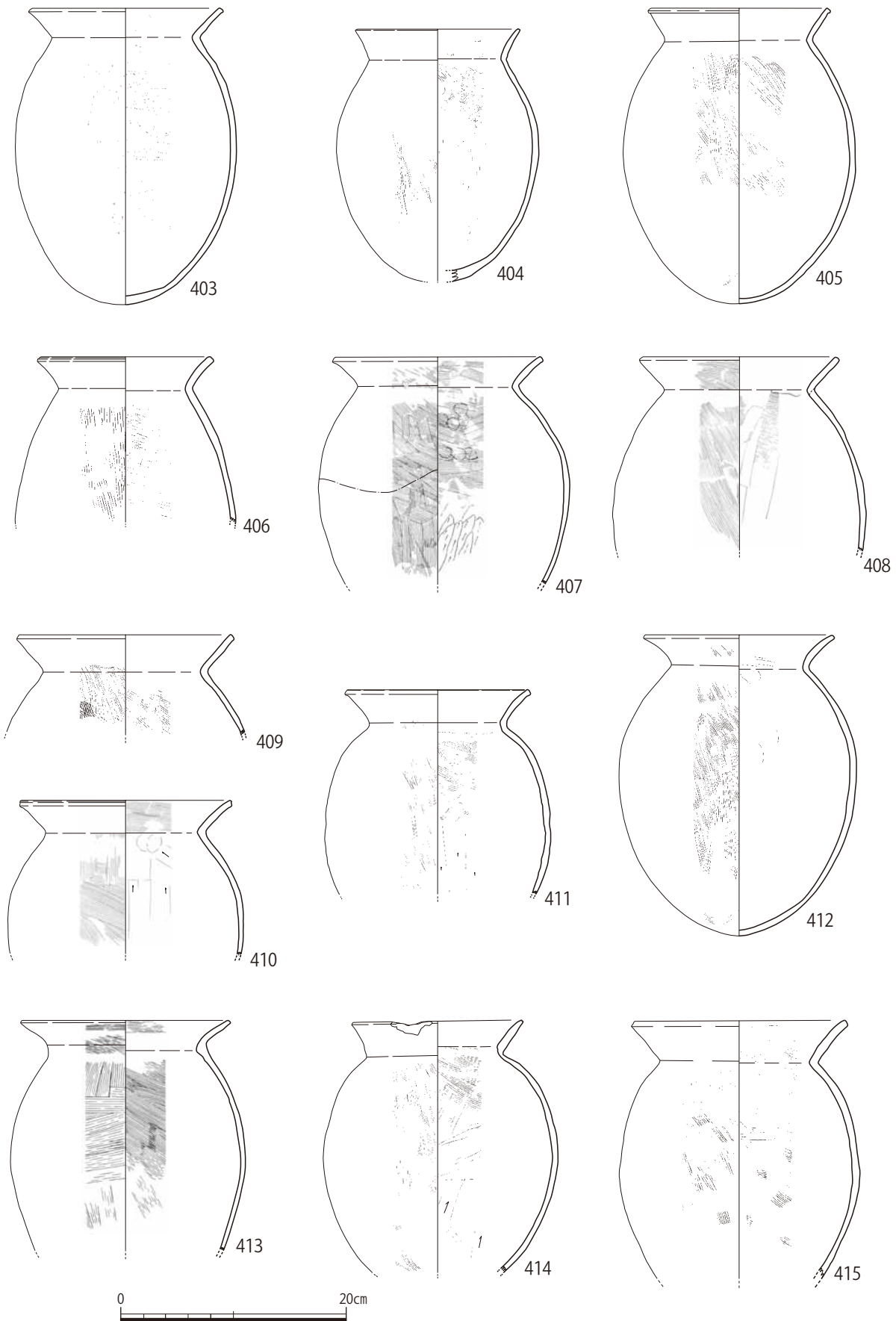
第 134 図 20SD001 出土遺物実測図 34 (1/5)



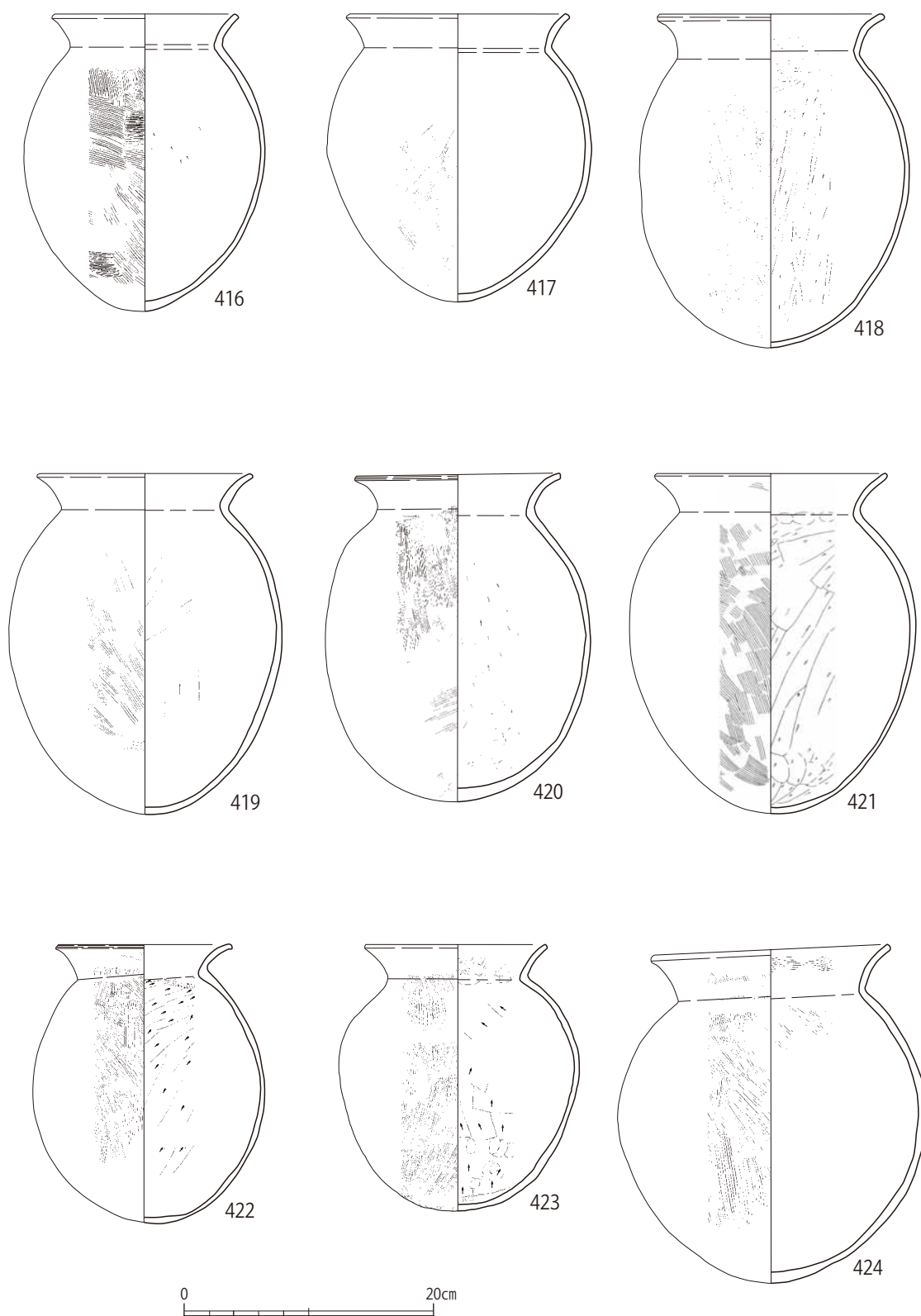
第 135 図 20SD001 出土遺物実測図 35 (1/5)



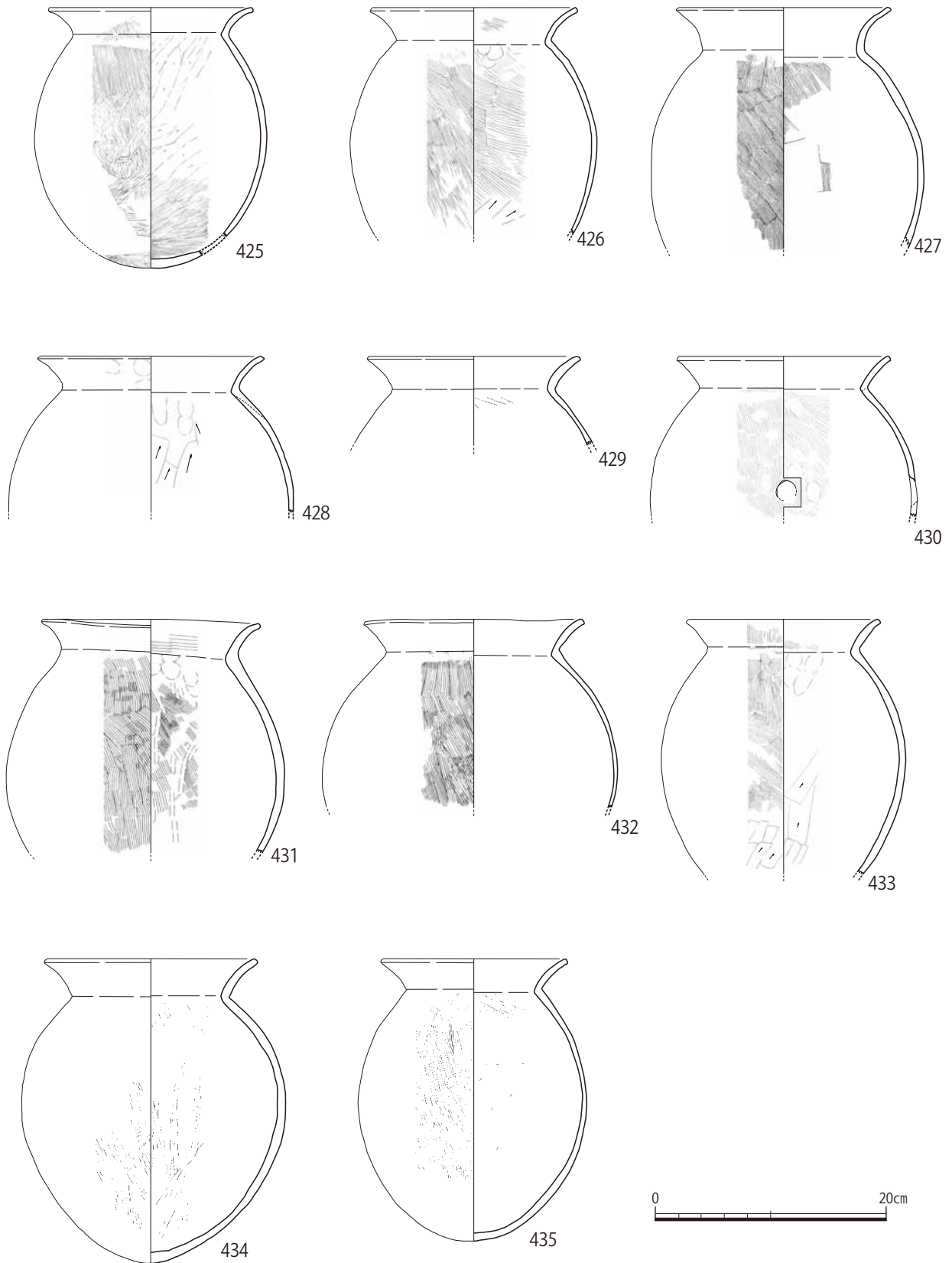
第 136 図 20SD001 出土遺物実測図 36 (1/5)



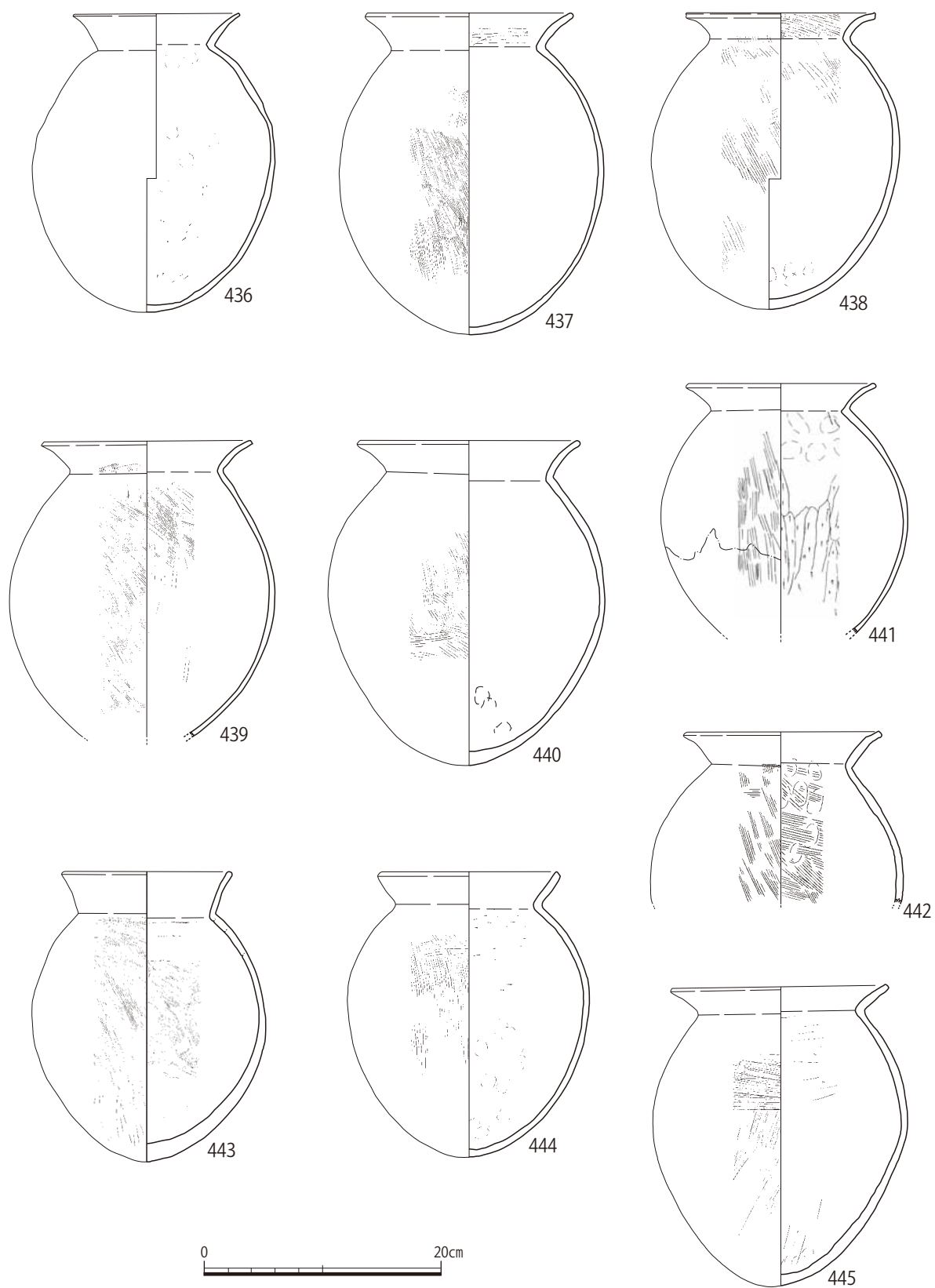
第 137 図 20SD001 出土遺物実測図 37 (1/5)



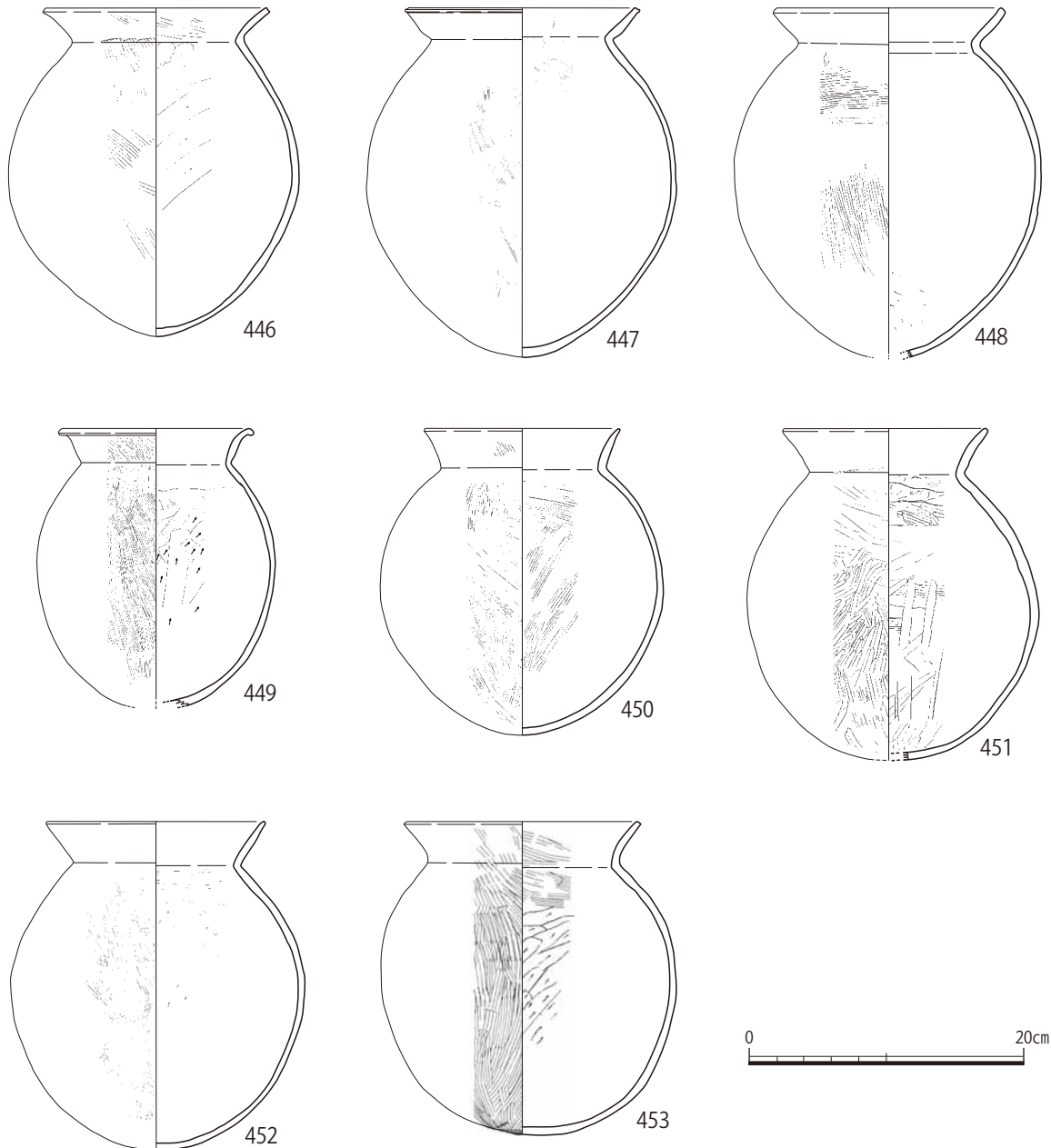
第 138 図 20SD001 出土遺物実測図 38 (1/5)



第 139 図 20SD001 出土遺物実測図 39 (1/5)

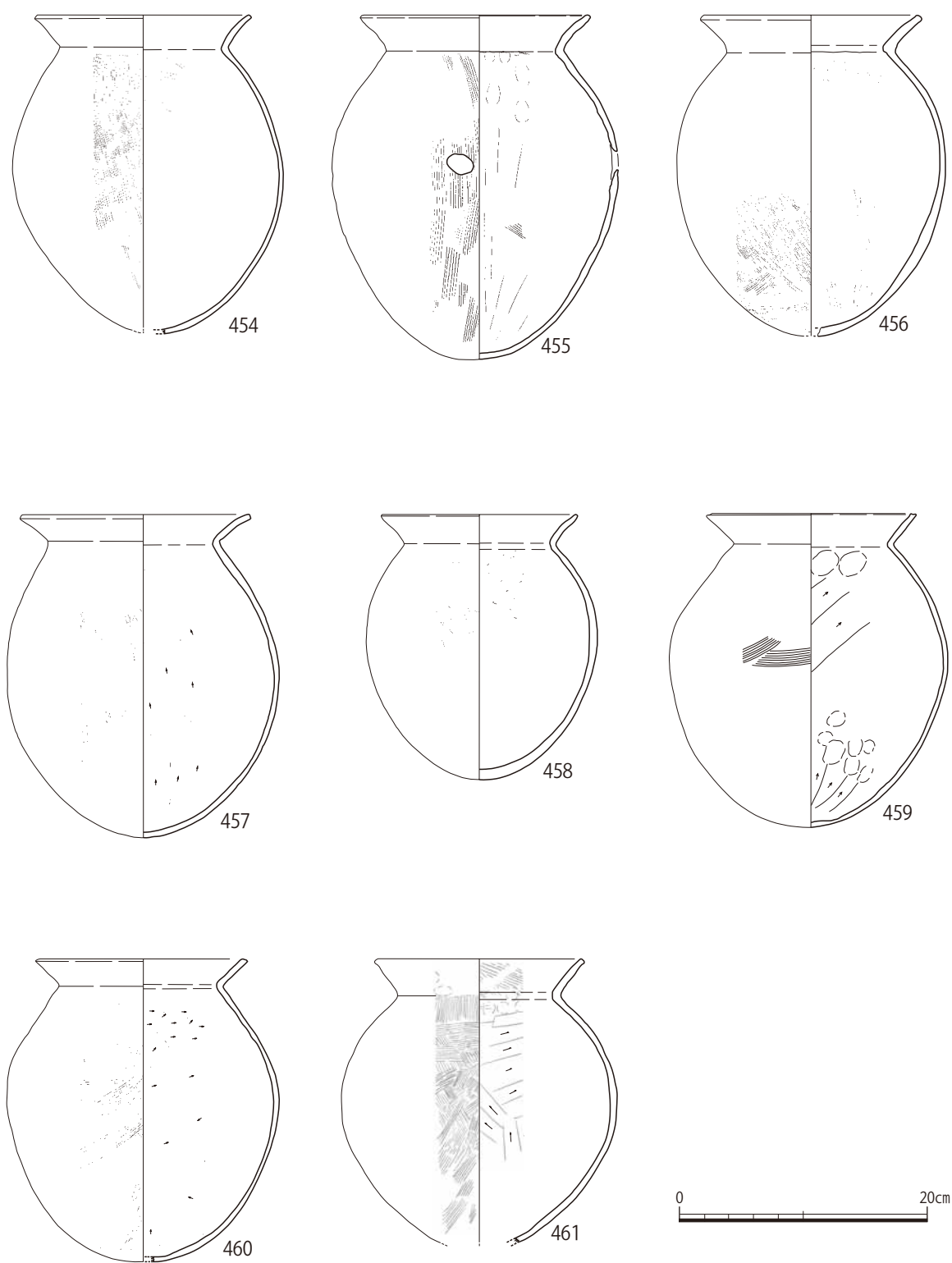


第 140 図 20SD001 出土遺物実測図 40 (1/5)

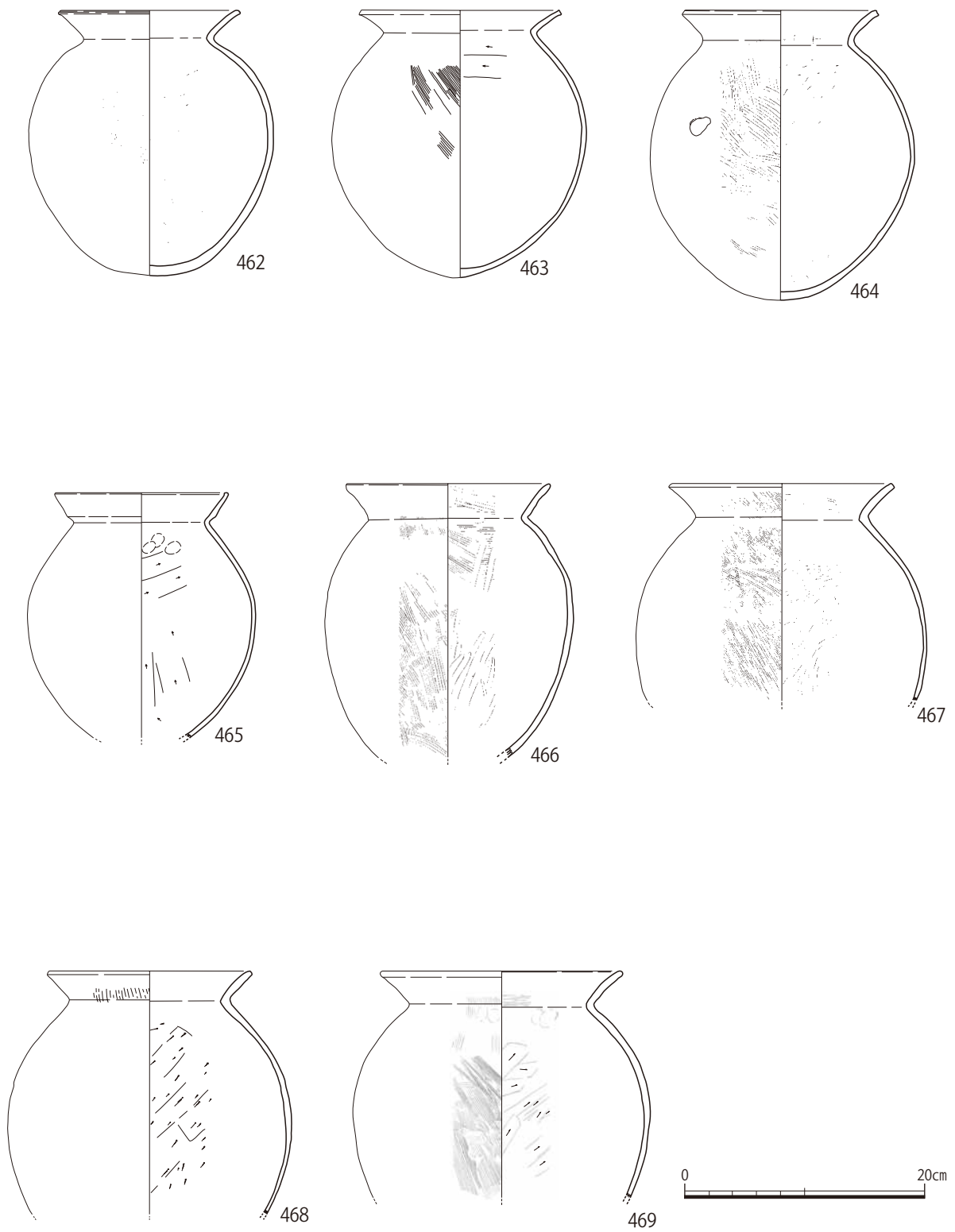


第 141 図 20SD001 出土遺物実測図 41 (1/5)

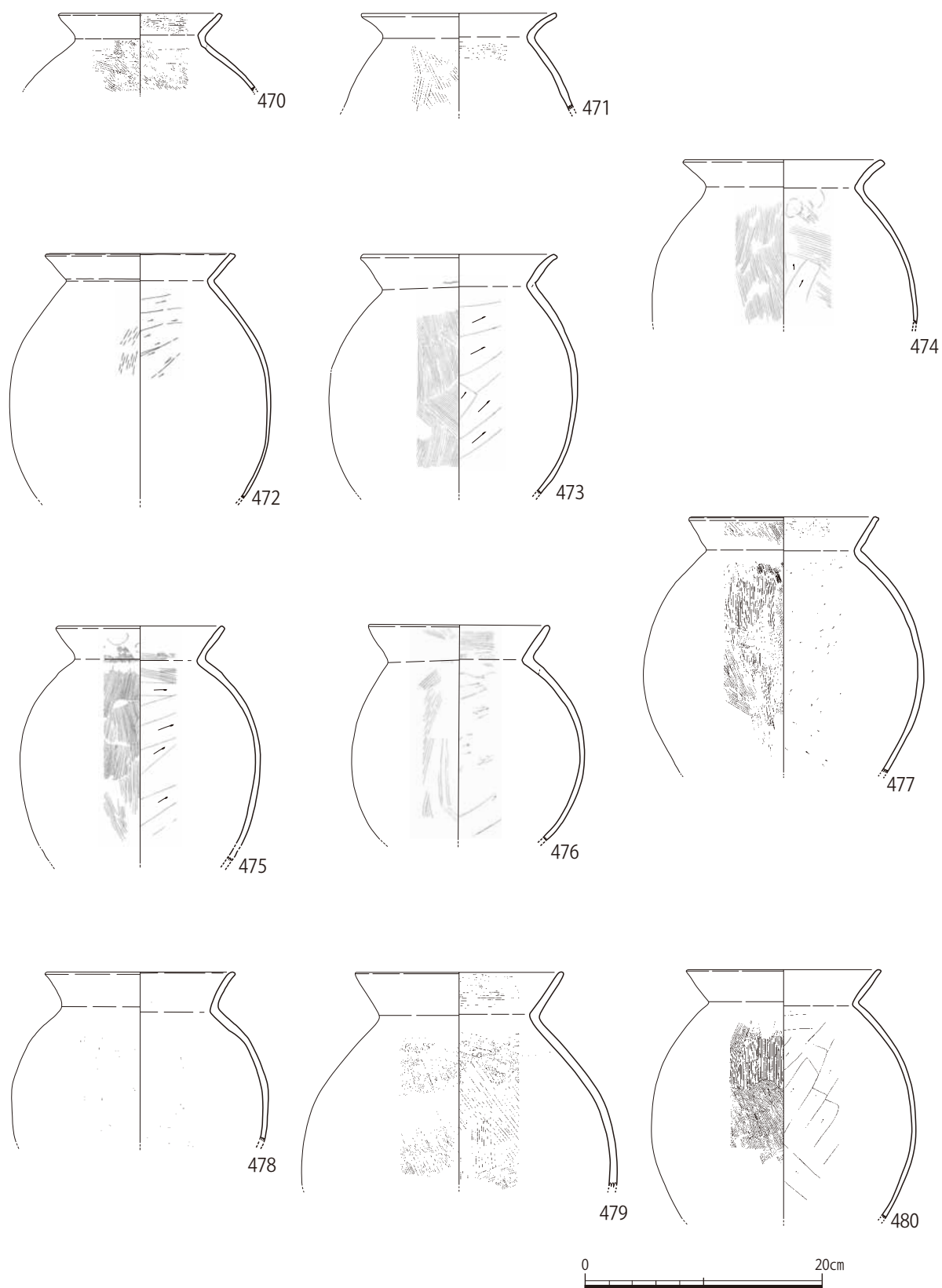
は綿密なハケ目により調整される。口縁部は外反し頸部に突帯が巡っている。374・375は広口甕である。375は復元口径 23.6cm、器高 25.3cm を測る。内外面ともに橙色を呈する。内面は指オサエ、ハケ目により調整され、外面はハケ目後タタキにより仕上げられる。器壁は厚い。376は山陰系の甕と考えられる資料である。口径 24.5cm、器高 34.3cm、最大胴部径 31.6cm を測る。内面はケズリおよび頸部付近に指頭圧痕が認められ、外面は縦方向のハケ目の後横方向のハケ目が実施される。底部は平底状を呈する。377～0415は中甕 A タイプである。器高 19cm 以上 28cm 以下の資料のなかで、球形率が 0.8 以下のものが属している。378～382は中甕 A1-ai に相当する。378は口径 18.3cm、器高 27.8cm、最大胴部径 21.2cm を測る。内面はケズリ後ミガキ、外面はハケ目後ナデにより調整される。頸部は肥厚して内面に明確な稜を持つ。口縁部は外反し底部は丸底である。381は口径 15.0cm、器高 27.4cm、復元最大胴部径 19.6cm を測る。内外ともに橙色を呈し、内面は



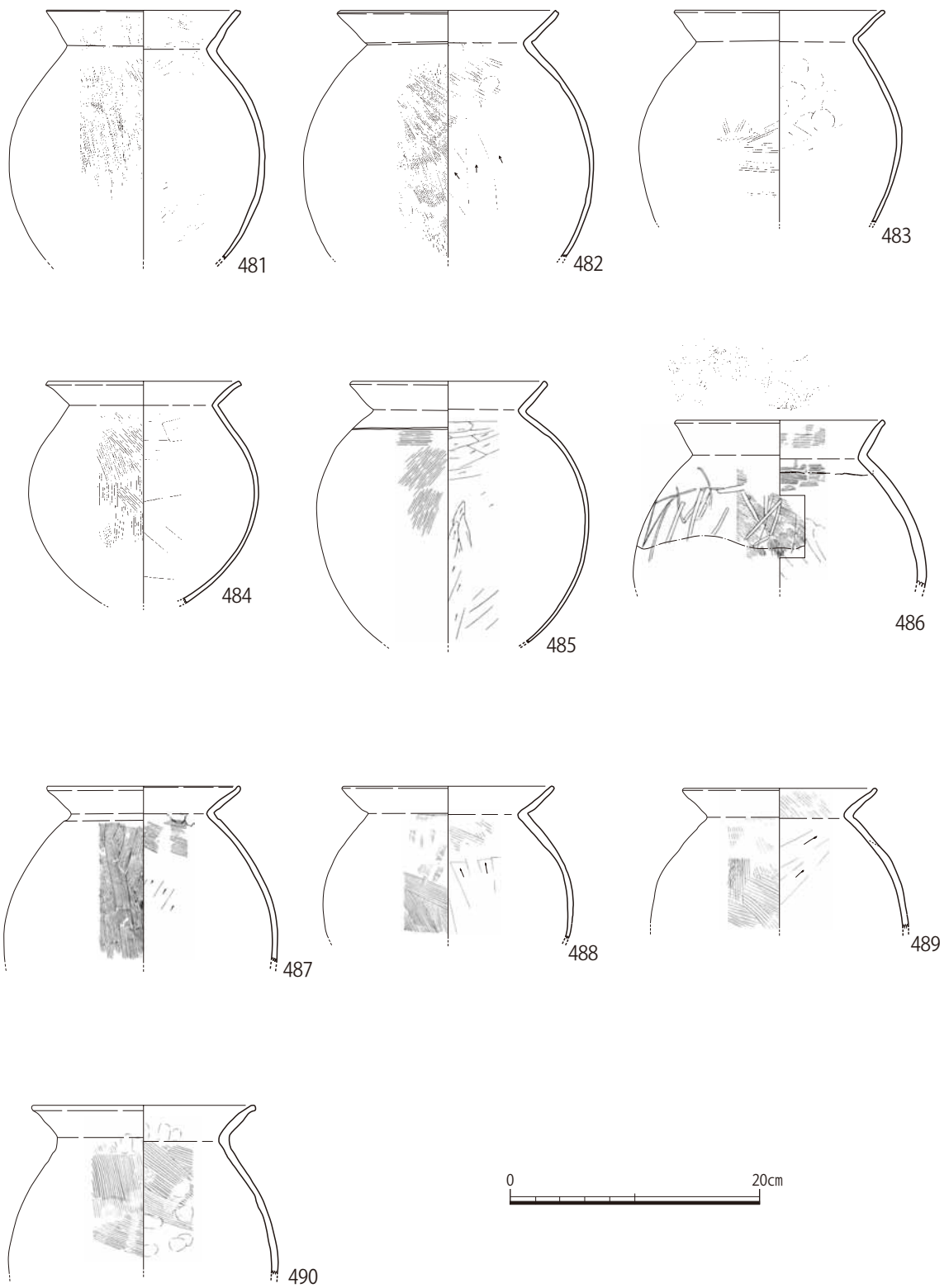
第 142 図 20SD001 出土遺物実測図 42 (1/5)



第 143 図 20SD001 出土遺物実測図 43 (1/5)

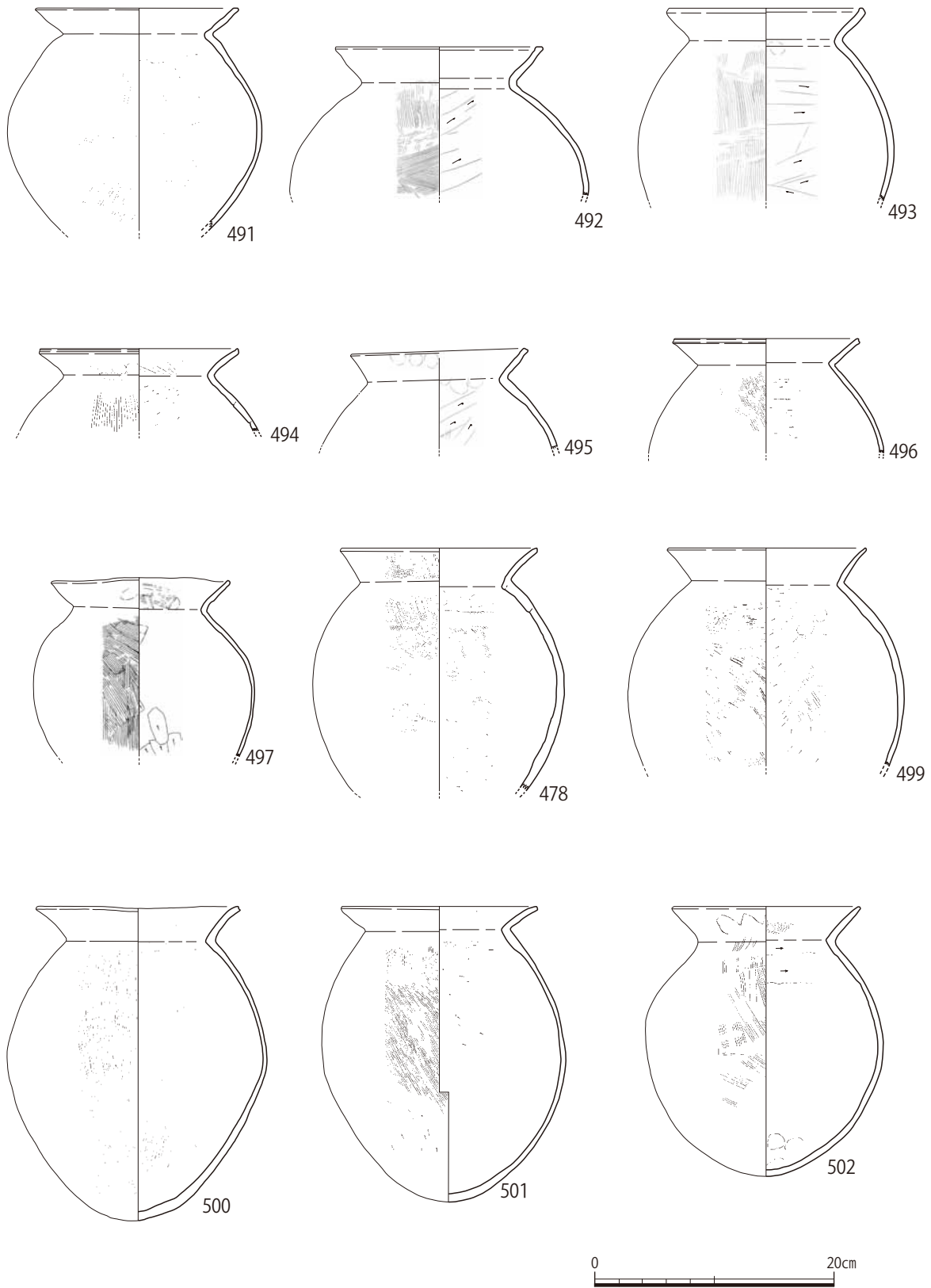


第 144 図 20SD001 出土遺物実測図 44 (1/5)

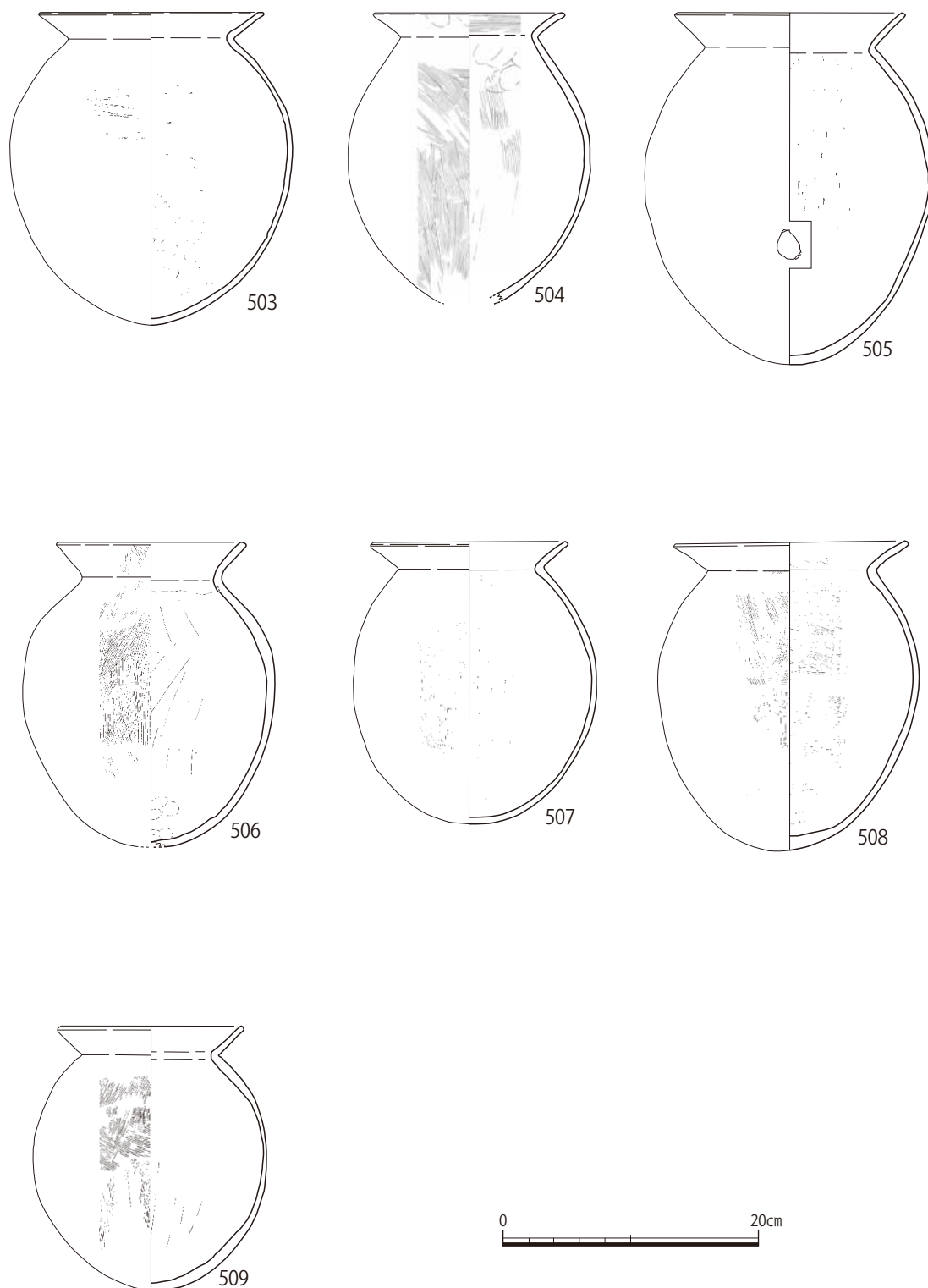


第 145 図 20SD001 出土遺物実測図 45 (1/5)

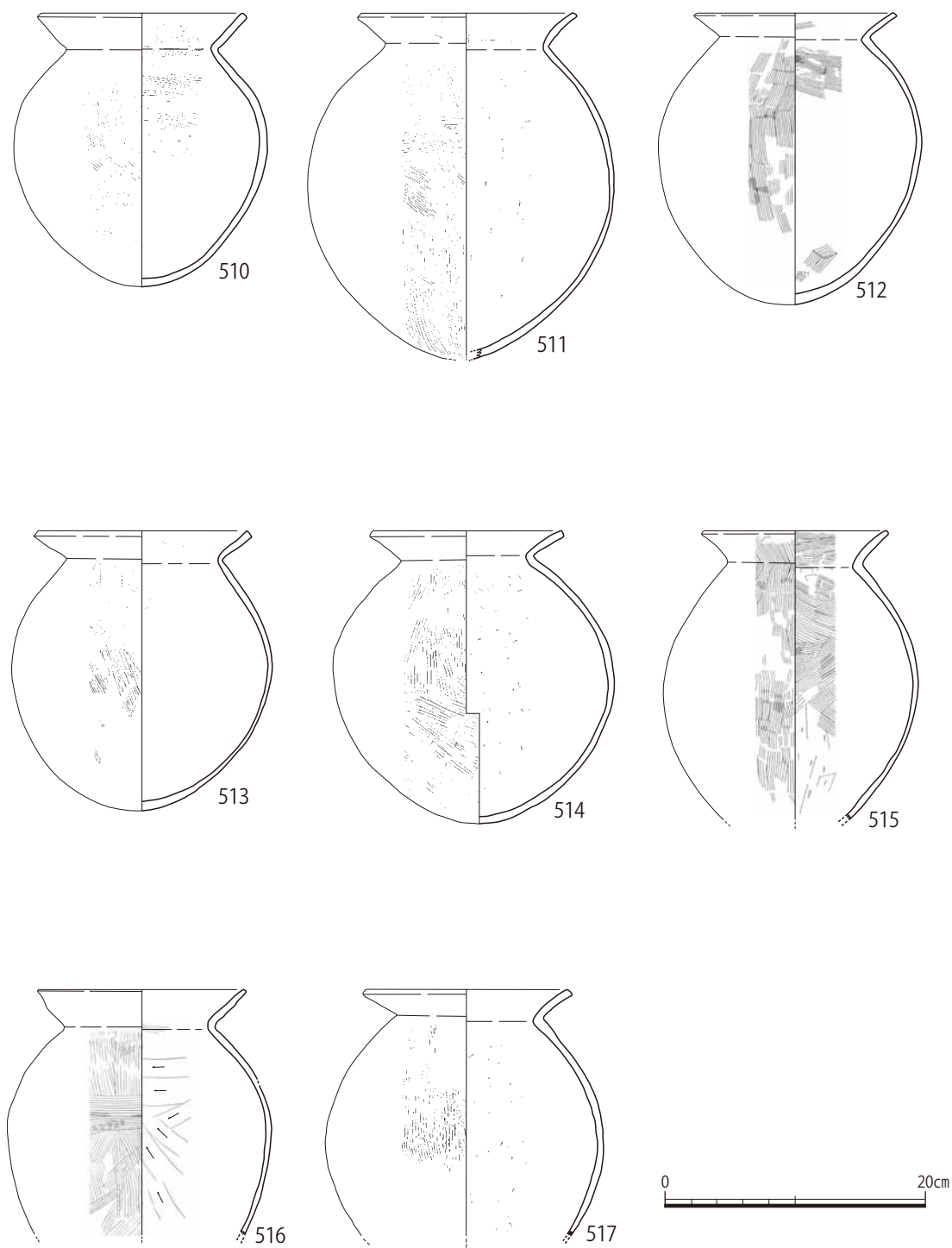
ケズリ後ナデ、外面はハケ目により調整されている。底部は尖底状を呈し、器壁は厚い。頸部は厚く、内面はナデにより稜がなく平坦に仕上げられている。388 は底部が欠損する資料である。内外面ともに淡橙色を呈し、内面は胴部下半はケズリ、頸部付近は指オサエが認められる。外面はハケ目により調整される。口縁端部は面取りされ平坦に仕上げられ中央に沈線状の凹みが認められる。392 は口縁部資料である。復元口径 17.1cm を測り内面はケズリ、ミガキにより、外面はハケ目により調整される。頸部の締めりはゆるく、口縁部は外反し、口縁端部は外方に面を持って沈線状に凹んでいる。北部九州型布留系甕にこのような口縁部の特徴を持つものが見られる。393 は口径 17.0cm、器高 26.3cm、最大胴部径 19.2cm を測る。内面はハケ目後ミガキ、外面はハケ目により調整され、黒変が認められる。器壁は厚く底部は尖底状をなす。口縁部は外反する。中甕 A1-bi に相当する。074 ～ 077 は中甕 A1-bii に属する甕である。395 は口径 15.3cm、器高 24.9cm、最大胴部径 19.6cm を測る資料である。内面・黒褐色、外面・橙色を呈し、内面はケズリ、外面はハケ目により調整される。長胴タイプではあるが球形化の進んだものであり、口縁部は上方に直線的に立ち上がり、端部付近で外方へ屈曲し丸く納める。底部は丸底を呈する。396 は中甕の中でも小ぶりのタイプであり、口径 18.3cm、器高 21.7cm、最大胴部径 17.0cm を測る。内面はケズリ、外面はハケ目により調整される。口縁部は外反し、端部はツマミ上げ状に肥厚する。403 ～ 405 は口縁部が直線的に立ち上がって外傾し、頸部の締めりは緩く、底部は丸底状をなす中甕 A2-aii に相当する資料である。405 は復元口径 16.1cm、器高 26.2cm、最大胴部径 20.4cm を測る。内外面ともに、にぶい橙色を呈し、ハケ目により調整される。口縁端部は外方にツマミ上げて肥厚する。407 は底部を欠損する資料である。口径は 18.6cm 測る。内面は胴下半にケズリ、上半部はハケ目により、外面はタテハケ目の後、斜め横方向のハケ目により調整される。ナデ肩状を呈し、布留式系甕を模倣する資料である。416 ～ 523 は中甕 B タイプに属する資料である。このタイプは第 20 次出土の土師器甕の中でも半数以上を占めるものである。416・417 は中甕 B1-ai である。418 ～ 424 は中甕 B1-aii に相当する資料である。418 は口径 17.7cm、器高 26.7cm、最大胴部径 21.6cm を測る。内外面はにぶい褐色を呈し、内面はケズリ後ミガキ、外面はハケ目により調整される。口縁部は中位において外方へ屈曲し外反する。421 は復元口径 18.6cm、器高 27.3cm、最大胴部径 23.0cm を測る。内外面ともに淡白茶色を呈し、内面は底部から頸部付近までケズリが認められ、外面はハケ目が実施される。口縁部は外反し、内外面にススが付着する。422 は口径 14.1cm、器高 22.4cm、最大胴部径 18.4cm を測る。内面はケズリにより、外面はハケ目により調整される。頸部は肥厚し、口縁部は外反し、底部は丸底を呈する。いずれも外来の技術を取り入れた在地系の甕資料である。436 ～ 440 は中甕 B1-bii に属する資料である。436 は復元口径 13.9cm、器高 25.3cm、最大胴部径 20.4cm を測る。内外面ともに赤褐色を呈する。頸部は締めり、口縁部は外反し、端部は先細る。内面はケズリ後ナデ、指頭圧痕が認められる。441 は底部を欠損する資料である。復元口径 16.0cm を測る。胴部はケズリにより薄く作られており、頸部付近で肥厚する。外面はハケ目により調整される。443 ～ 448 は中甕 B2-ai に属する資料である。444 は復元口径 14.8cm、器高 24.1cm、復元最大胴部径 20.4cm を測る。内面胴部下半から底部にかけては指頭圧痕が顕著に認められ、外面はハケ目が実施される。底部は尖底状をなし、口縁部は直線的に立ち上がり、中位において肥厚する。布留式系甕の影響を強く受けている甕である。448 は口径 16.4cm、復元最大胴部径 22.4cm を測る甕資料である。内面は底部付近にケズリ調整、外面は縦方向の後横方向のハケ目が実施される。口縁部は中位付近において肥厚し端部は面取りされる。底部をわずかに欠損するが、446 や 447 と同様の布留式系甕の様相を呈しており、底部は尖底状と推測される。449 ～ 464 は中甕 B2-aii に相当する甕資料である。中甕 B タイプに属する資料のうち数が一番多いタイプである。451 は内外面ともに最終調整にミガキが施されており、成形が粗雑化していくこの時期の甕にしては珍しく丁寧に作られている。459 は口径 16.8cm、器高 25.3cm、最大胴部径 22.3cm を測る。内面はケズリ、指頭圧痕、外面はハケ目が認められる。なで肩を呈し、口縁は直線的に立ち上がり、端部は面取りされ平坦に仕上げられる。460 は口径 17.1cm、復元最大胴部径は 22.2cm を測る。459 と同様に内面はケズリと指頭圧痕、外面はハケ目により調整される。461 も 459 および 460 の甕と同種の布留式系甕である。口縁端部の処理は面取りした後、外方につままれる。485 は中甕 B2-a タイプに相当し、底部形態は欠損のため不明



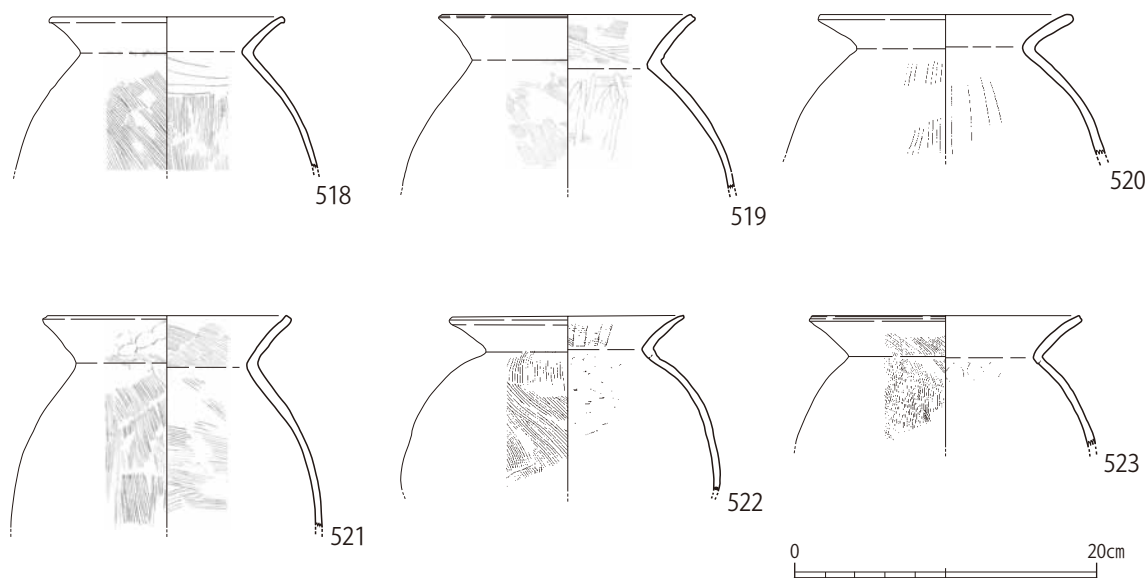
第 146 図 20SD001 出土遺物実測図 46 (1/5)



第 147 図 20SD001 出土遺物実測図 47 (1/5)

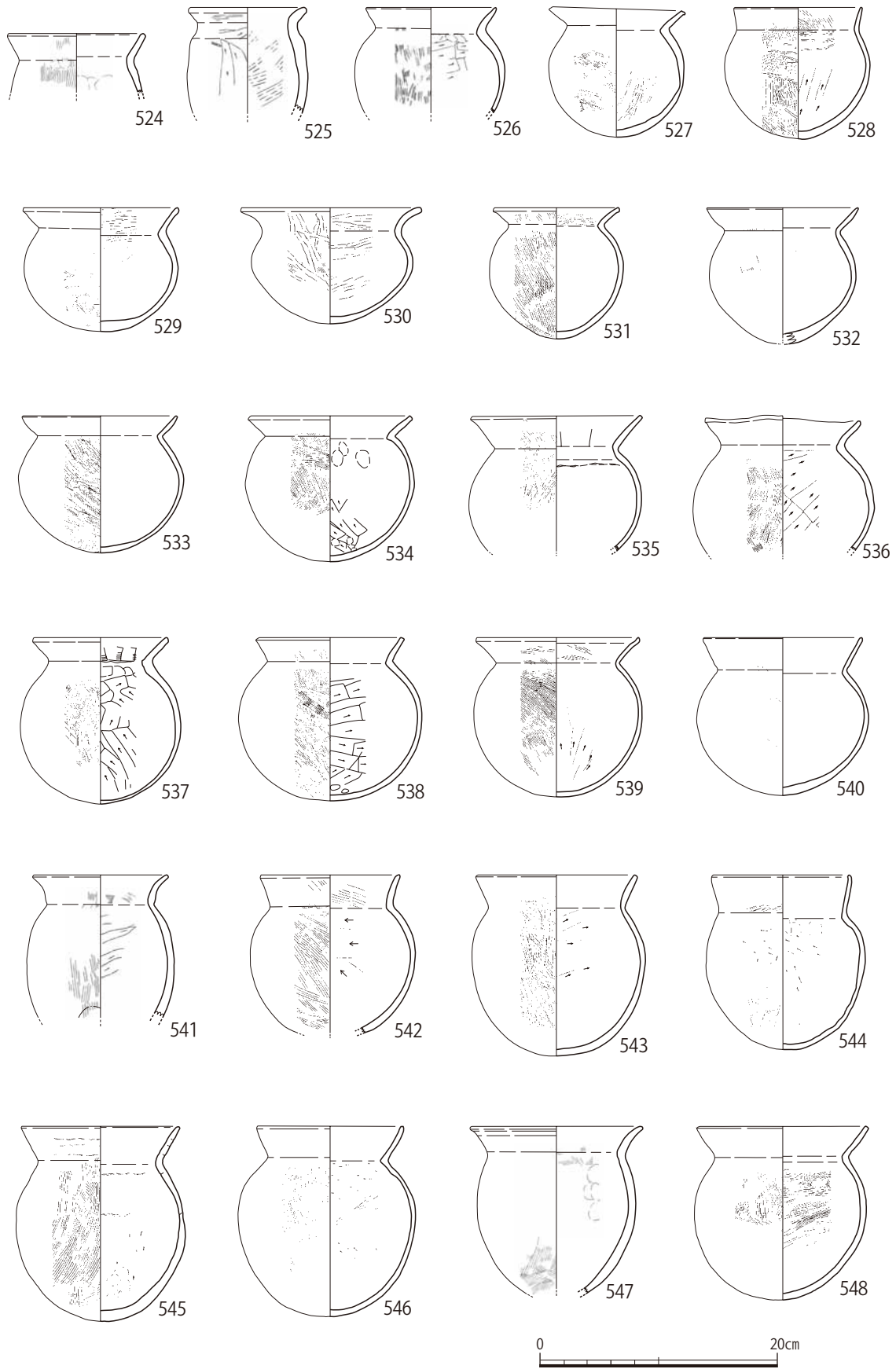


第 148 図 20SD001 出土遺物実測図 48 (1/5)

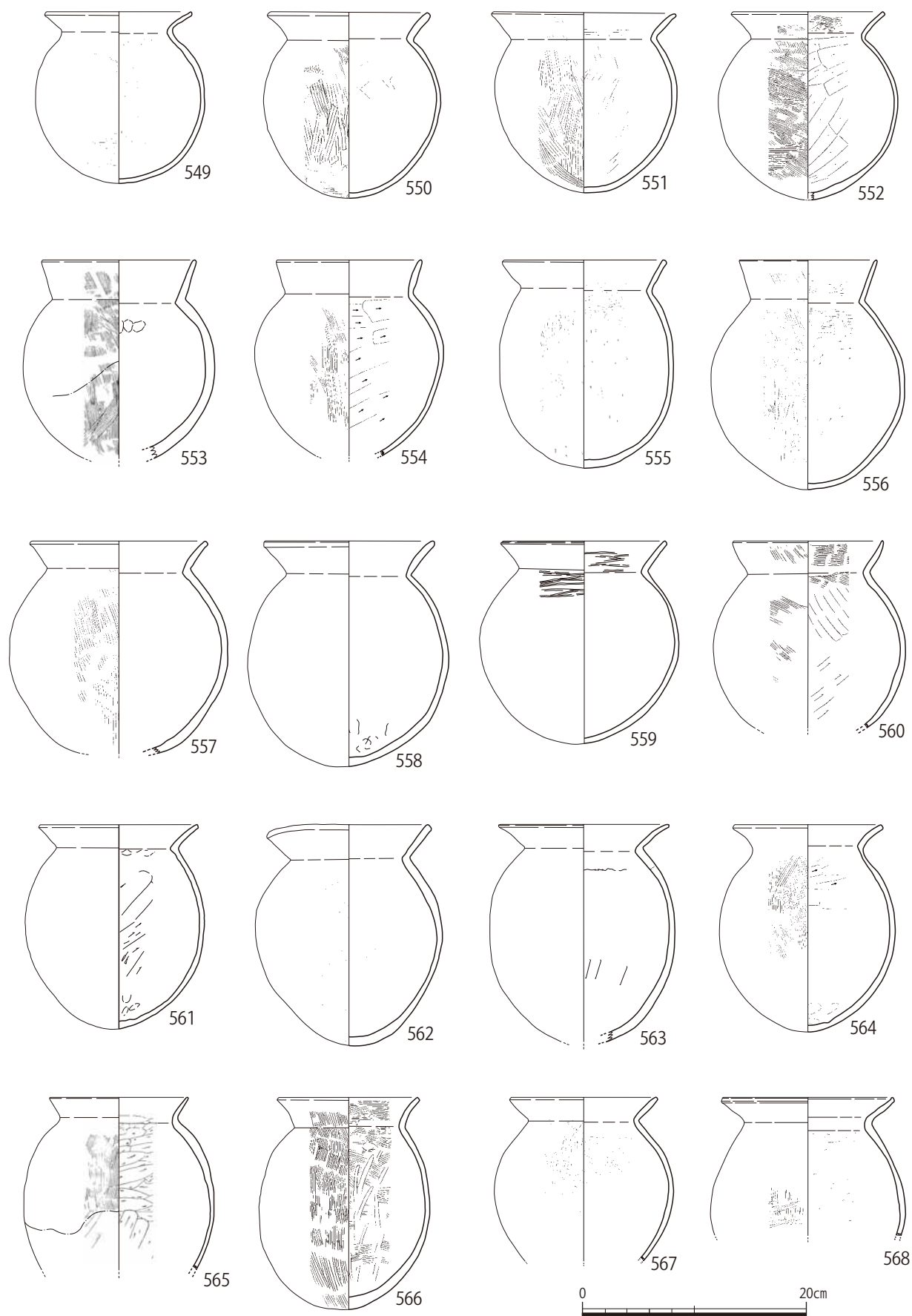


第 149 図 20SD001 出土遺物実測図 49 (1/5)

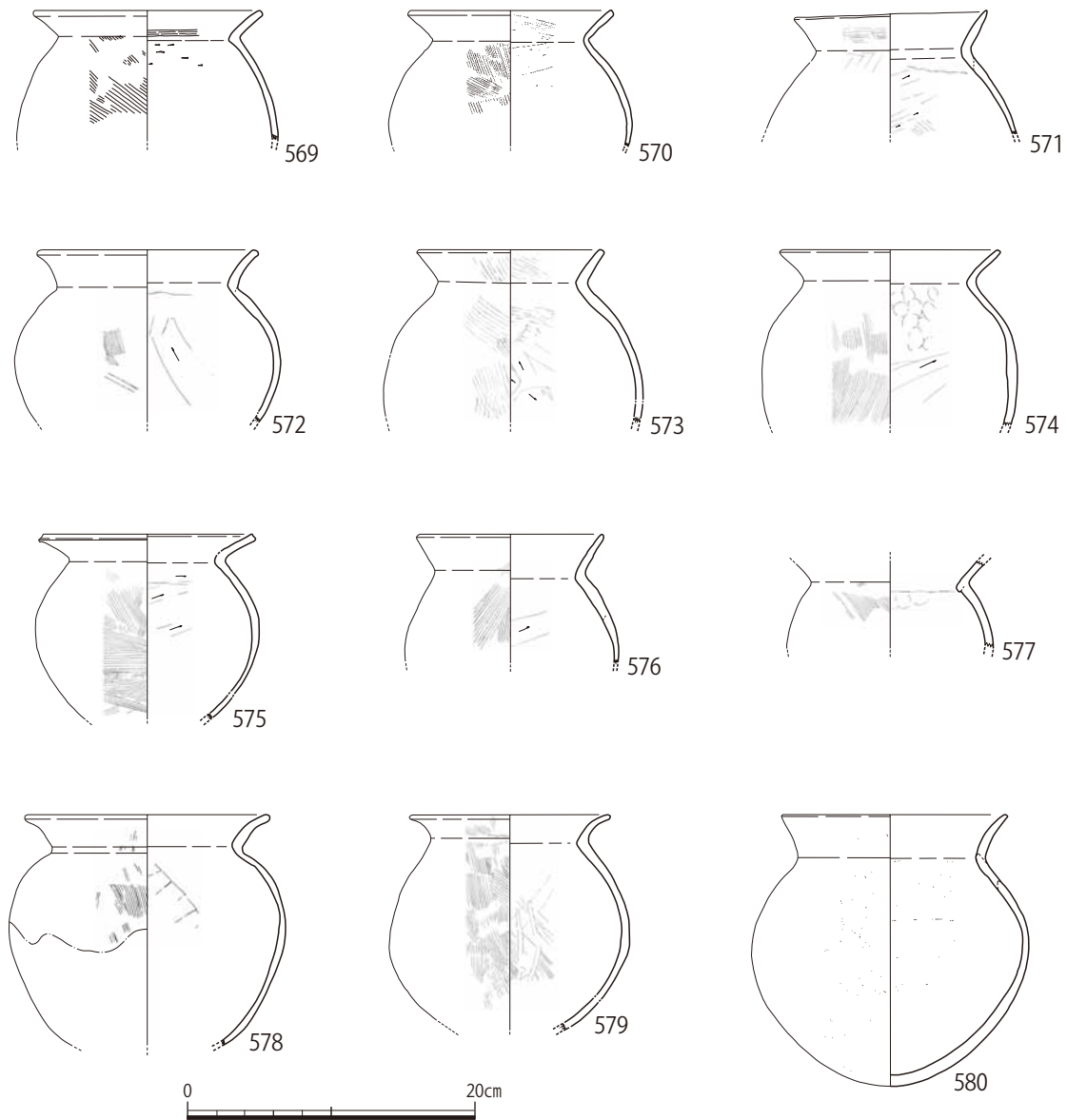
であるが、類似の甕資料から丸底と推測される。内面はケズリにより、外面はハケ目により調整される。また、外面肩部には沈線がめぐっている。486 は胴部下半を欠損する資料である。復元口径 16.9cm を測り、内面はハケ目、指頭圧痕が認められ、外面はハケ目が実施される。ナデ肩状の肩部には連続する三角様の線刻が認められる。何かを意識して彫られたものと考えられるが、その内容は現段階では不明である。大分平野における、線刻による絵画土器の類例はあまりなく、大道遺跡群の東に位置する東田室遺跡から 1 点「龍」をモチーフとした甕が出土している。500 ～ 504 は中甕 B2-bi に分類される資料である。503 は復元口径 17.2cm、器高 24.5cm、復元最大胴部径 22.1cm を測る。内外面ともににぶい黄橙色を呈し、内面は底部下半に指頭圧痕が顕著に認められ、外面は横方向のハケ目により調整される。底部は尖底状を呈し口縁端部は平坦に面取りされる。505 ～ 514 は中甕 B2-bii に相当する甕資料である。507 は口径 15.0cm、器高 22.1cm、最大胴部径 19.0cm を測る。内外面ともに橙色を呈し、内面はケズリ後ナデにより、外面はハケ目により調整される。頸部は肥厚し、底部形状は丸底である。514 は口径 14.2cm、器高 22.5cm、最大胴部径 21.5cm を測る。内面はケズリにより、外面はハケ目により調整される。頸部は締りが強く、胴部の張りは中位からわずかに下位付近にみられる資料である。524 ～ 580 は小形の甕資料である。529 は口径 12.9cm、器高 10.5cm を測る。内外面ともに橙色を呈し、ハケ目により調整される。534 は復元口径 11.4cm、器高 14.7cm を測る。内面はケズリと指オサエにより、外面はハケ目により調整される。外来の要素を取り入れた小形の甕と考えられる。しかしながら、529・534 ともに、口縁部がわずかながら内湾しながら立ち上がる点や、頸部の締り具合等をみると小型丸底鉢を模倣した資料とも推測され、どちらともとれる資料である。544・546 もまた、小形甕とした資料ではあるが、小型丸底壺の変形とも考えられる資料である。552 は底部をわずかに欠損した資料であり、復元口径 13.7cm を測る。内面はケズリにより、外面は密なハケ目により調整される。565 は内面にヘラケズリ、外面にハケ目が実施され、口縁部は体部をそのまま外方に引っ張りあげたような短い口縁がつく。566 は口径 12.4cm、器高 18.9cm を測る小形甕である。内面はハケ目後ミガキ、外面はハケ目により調整される。外面にススが付着する。574 は胴下半部を欠損する資料である。口縁部は直線的に立ち上がり外傾する。内面はケズリ、指オサエが頸部付近に認められる。頸部から口縁端部にかけて、器壁の厚さがかなり薄くなる資料である。580 は口径 15.7cm、器高 18.9cm を測る甕資料である。内面はハケ目、指オサエにより、外面はハケ目、タタキにより調整される。底部形状は尖底状を呈する。581 ～ 590 は台付き甕の底部である。587・588 は台付き鉢の可能性も考えられる。591 ～ 601 は



第150図 20SD001 出土遺物実測図 50 (1/5)



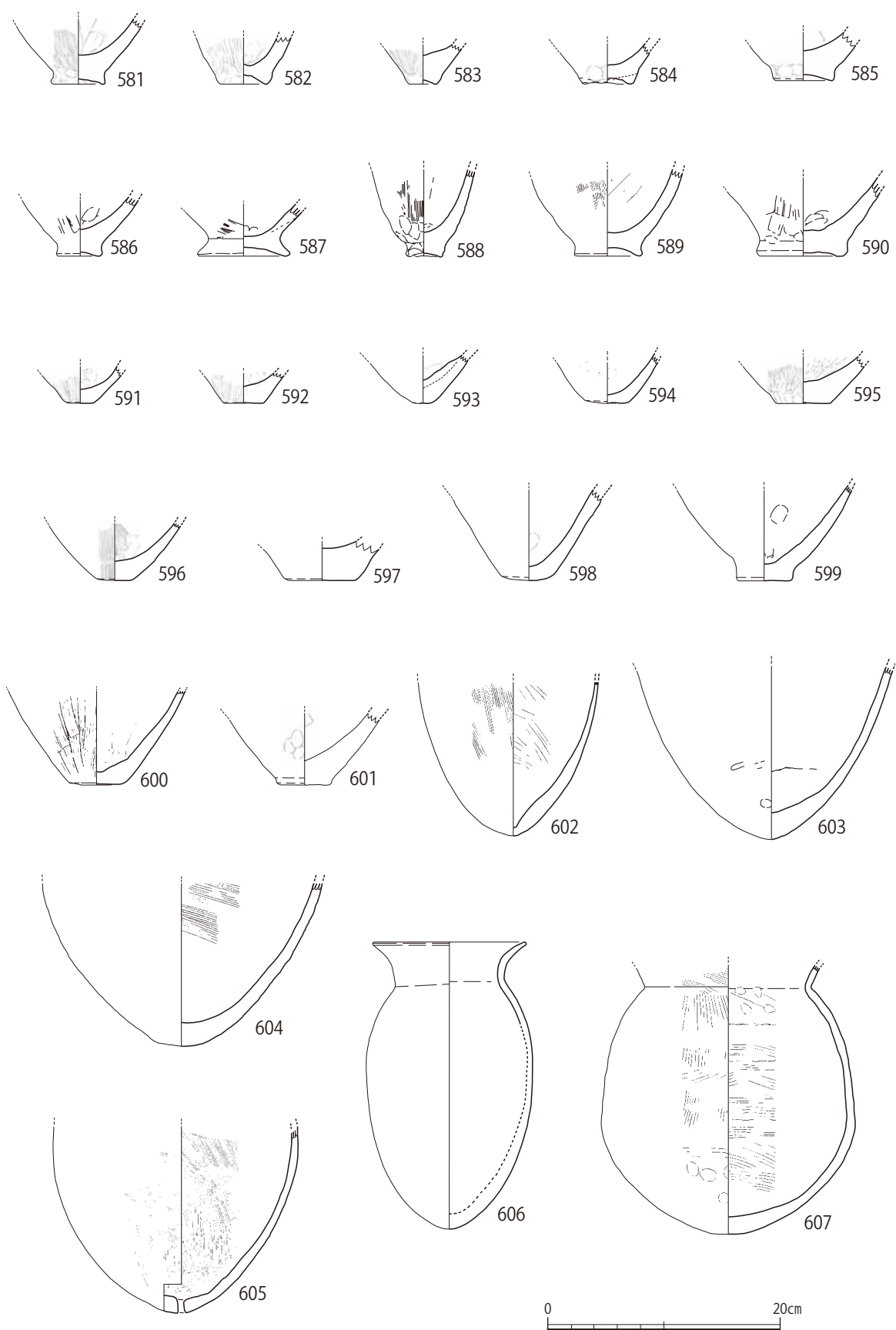
第 151 図 20SD001 出土遺物実測図 51 (1/5)



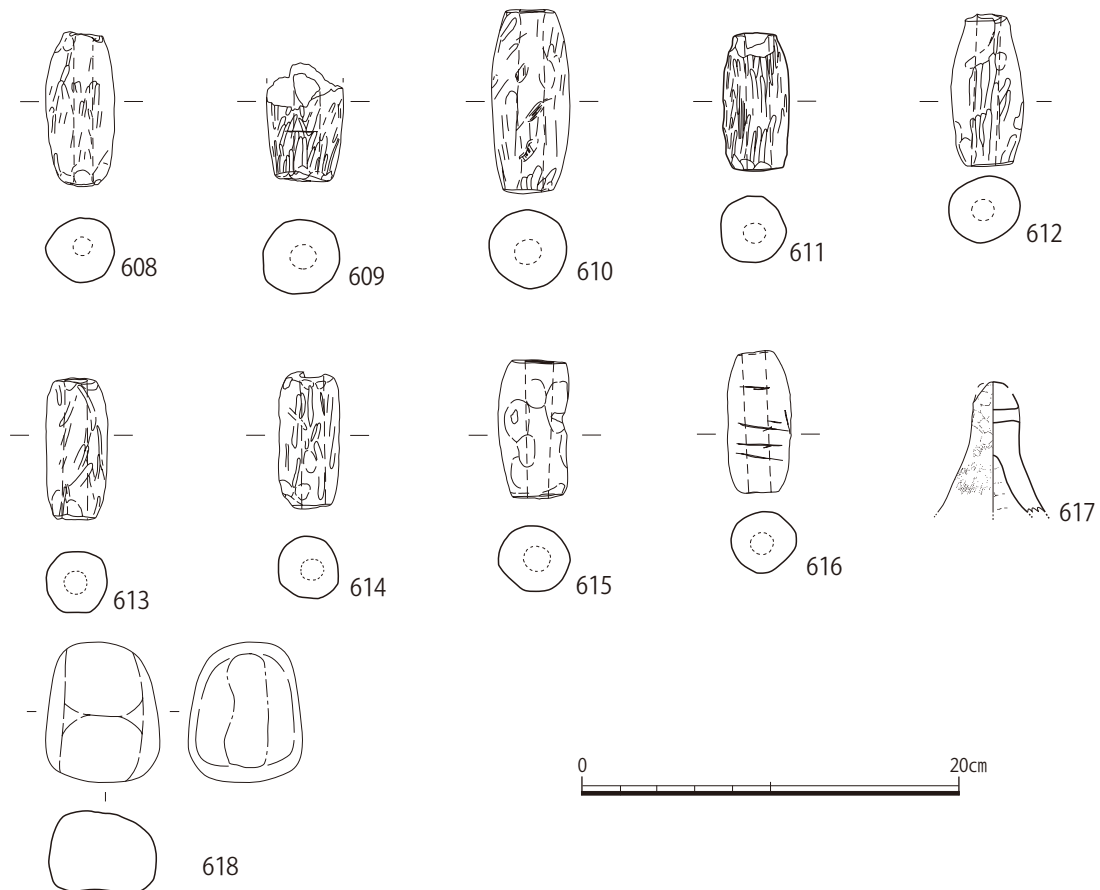
第 152 図 20SD001 出土遺物実測図 52 (1/5)

平底状を呈する弥生土器甕の底部である。弥生時代後期後葉から終末に比定されるものである。602・603 は底部が尖底を呈する弥生土器甕の底部であり、604 は凹レンズ状を呈する資料である。605 は甕の底部から胴部の資料と考えられるが、底部に径 6cm ほどの穿孔が認められ、あるいは甑とも考えられるものである。606 は弥生土器甕である。復元口径 12.9cm、器高 24.6cm を測る資料である。底部は尖底状を呈し、口縁部は外反する。器壁は厚い。607 は口縁部が欠損する器種不明の資料である。

以上が 20SD001 出土の甕資料についての報告である。ここで、20SD001 出土の甕について分類結果を踏まえて時間的位置付けを検討する。20SD001 出土の甕は小甕から大甕まであわせて 250 点である。そのうち大甕とする資料は全体の 18% に過ぎない。小甕は 23% である。残りの半数以上にのぼる 147 個体 (59%) は中甕とした資料である。これらをさらに胴部形態別に分別すると、大甕は長胴タイプの占める割合が 63% と高い。しかしながら、出土点数が一番多い中甕は、73% が球形タイプのものである。さらにこの球形タイプの甕の底部状況は、ii 類とした丸底が 8 割強を占める。次に、口縁部を形態別に見ると、1 類とした外反するタイプの甕は 1 割ほどしかなく、残りの 9 割は直線的に立ち上がるタイプ、および布留式系甕に見られるようなバリエ



第 153 図 20SD001 出土遺物実測図 53 (1/5)

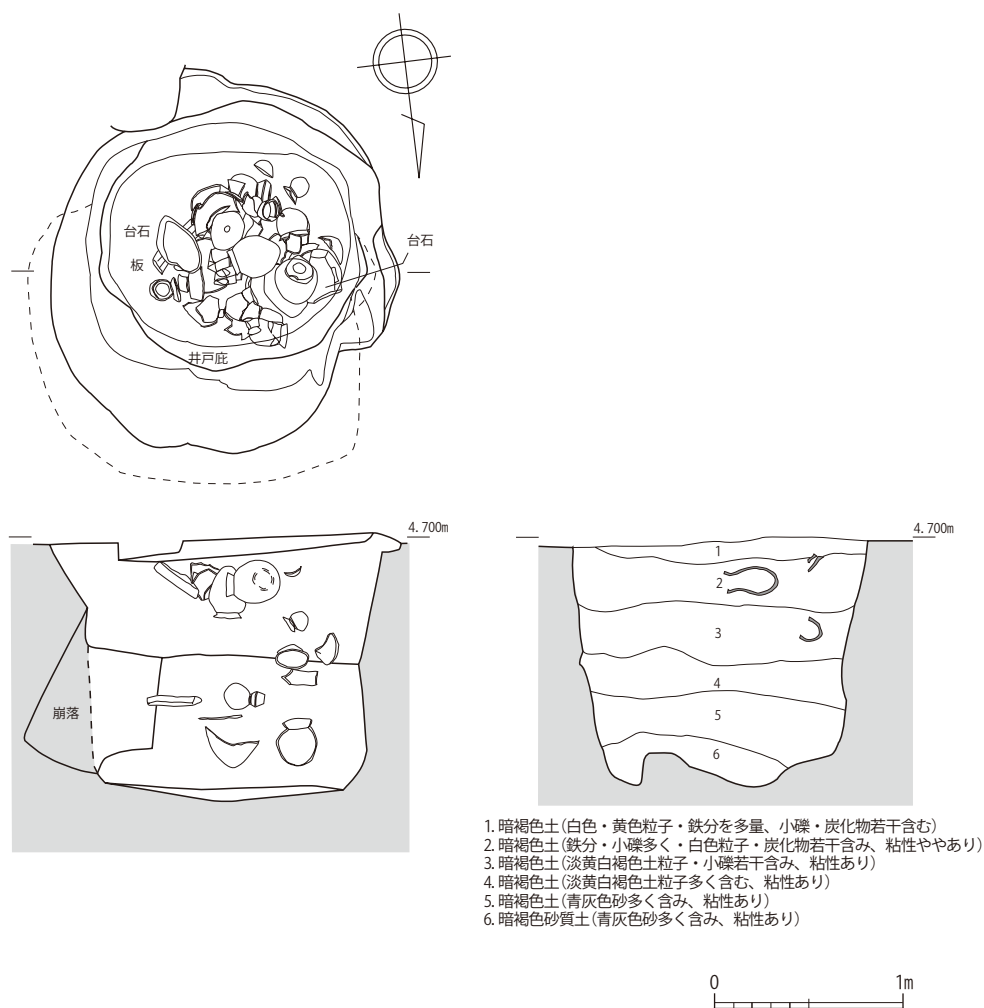


第 154 図 20SD001 出土遺物実測図 54 (1/4)

ーションに富む口縁を持つものである。具体的に示せば、324・325・333・344 は口縁部が外反し、長胴をなす。調整はハケ目、ミガキが主体であり、底部形態は丸底に近い尖底状のものである。このような形態を示す資料は下郡遺跡群第 90 次調査 SH020 出土の甕にもみられる要素であり、古墳時代前期前葉でも古相を示すものと考えられる。また、361・459・460 などは、胴部形態は球形であり、直線的に立ち上がる口縁部をもち、口縁端部は平坦に仕上げられる。ケズリ調整および指頭圧痕が顕著にみられる布留式系甕の要素を具備した資料である。下郡遺跡群第 92 次調査 SH343 出土の甕に類似資料が求められる。以上のことから、20SD001 出土の甕は、長胴タイプの甕が球形タイプの甕に凌駕されつつある、古墳時代前期前葉から前期中葉頃の所産となるものと考えられる。

土錘・石器 (第 154 図)

608～616 は土錘である。609 は一部欠損。617 は用途不明土器だが、飯蛸壺の一部である可能性が考えられる。618 は安山岩製のすり石である。長さ 7.4cm、幅 6.1cm、厚さ 4.3cm、重さ 281.0g を測る。全面に使用痕が認められる。



第 155 図 20SE001 遺構実測図 (1/40)

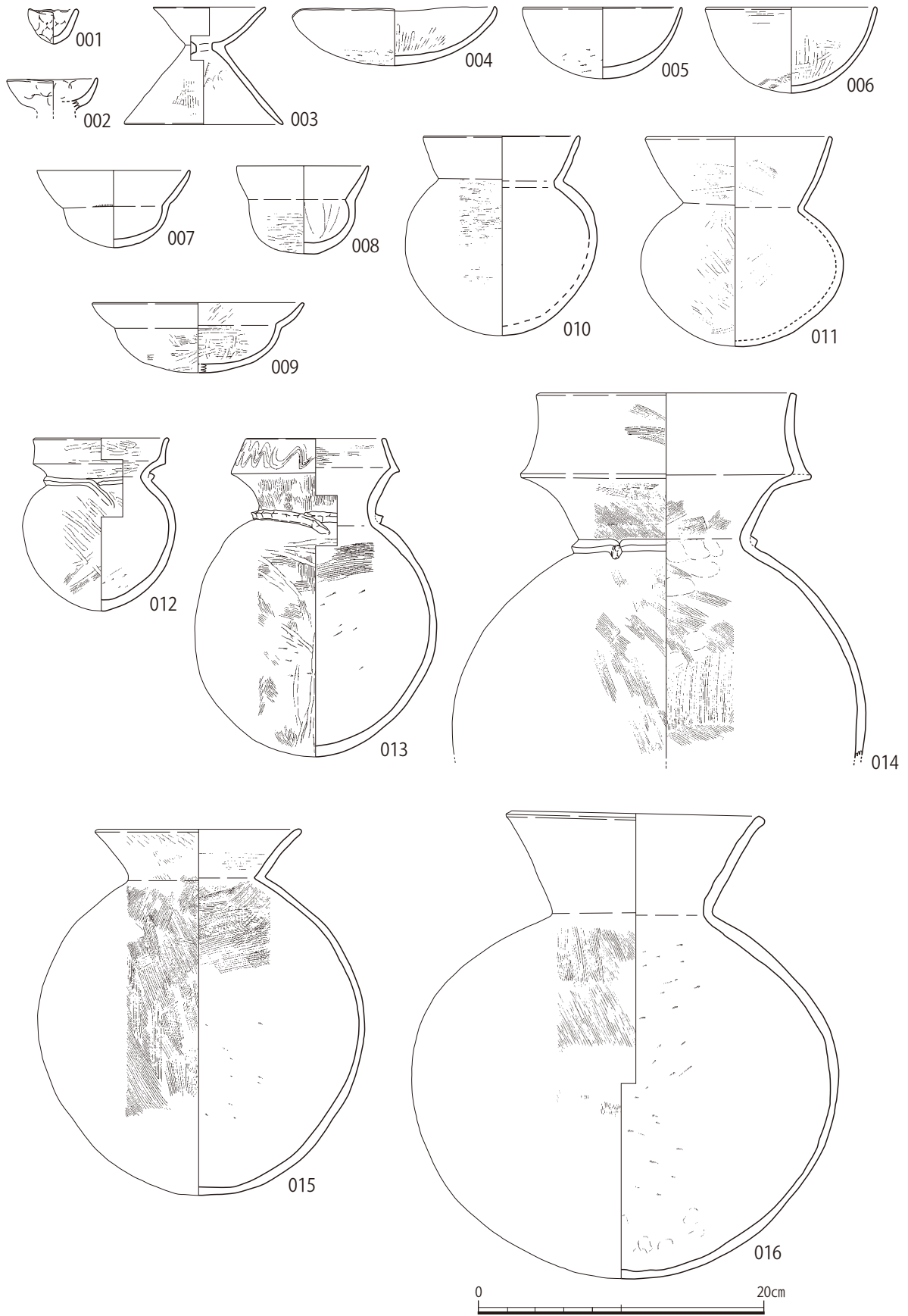
20SE001 (第 155 図)

調査区南東隅で検出し、南東を他遺構に切られている井戸状遺構である。平面プランは不整円形を呈し、中位部分に崩落してかなり広がっている部位がある。遺構の規模は長径約 2.0m、短径約 1.8m、深度約 1.3m を測る素掘りの井戸跡である。埋土は暗褐色土を基調とし、最下層のみ暗褐色砂質土である。完形ないし完形に近い土師器と台石 2 点が出土している。また、中層から樹皮が付いたままの板状の材が出土したほか、炭化材も検出している。

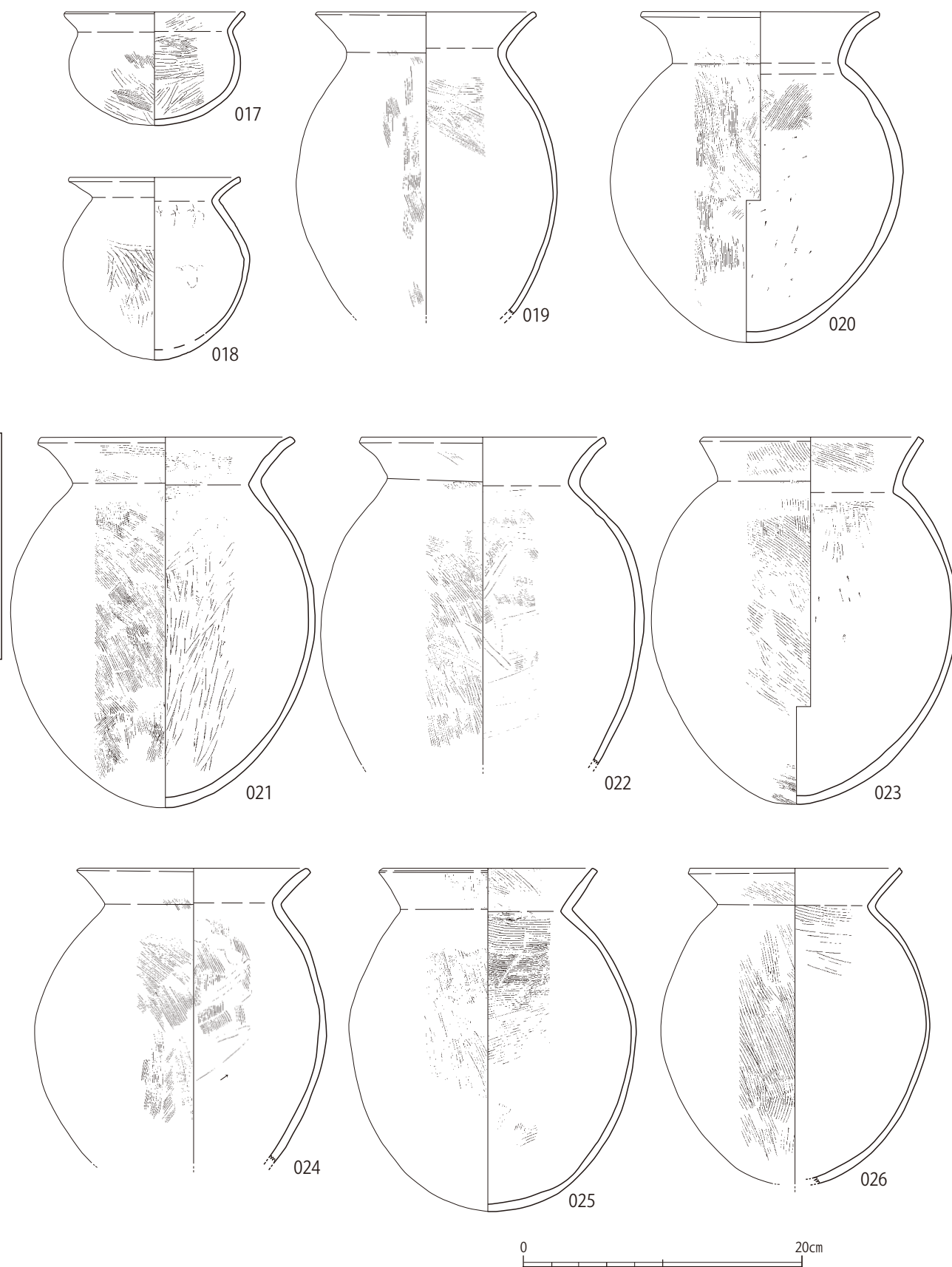
出土遺物の状況から、古墳時代前期中葉の新相前後の遺構と考えられる。

20SE001 出土遺物 (第 156 図～第 158 図)

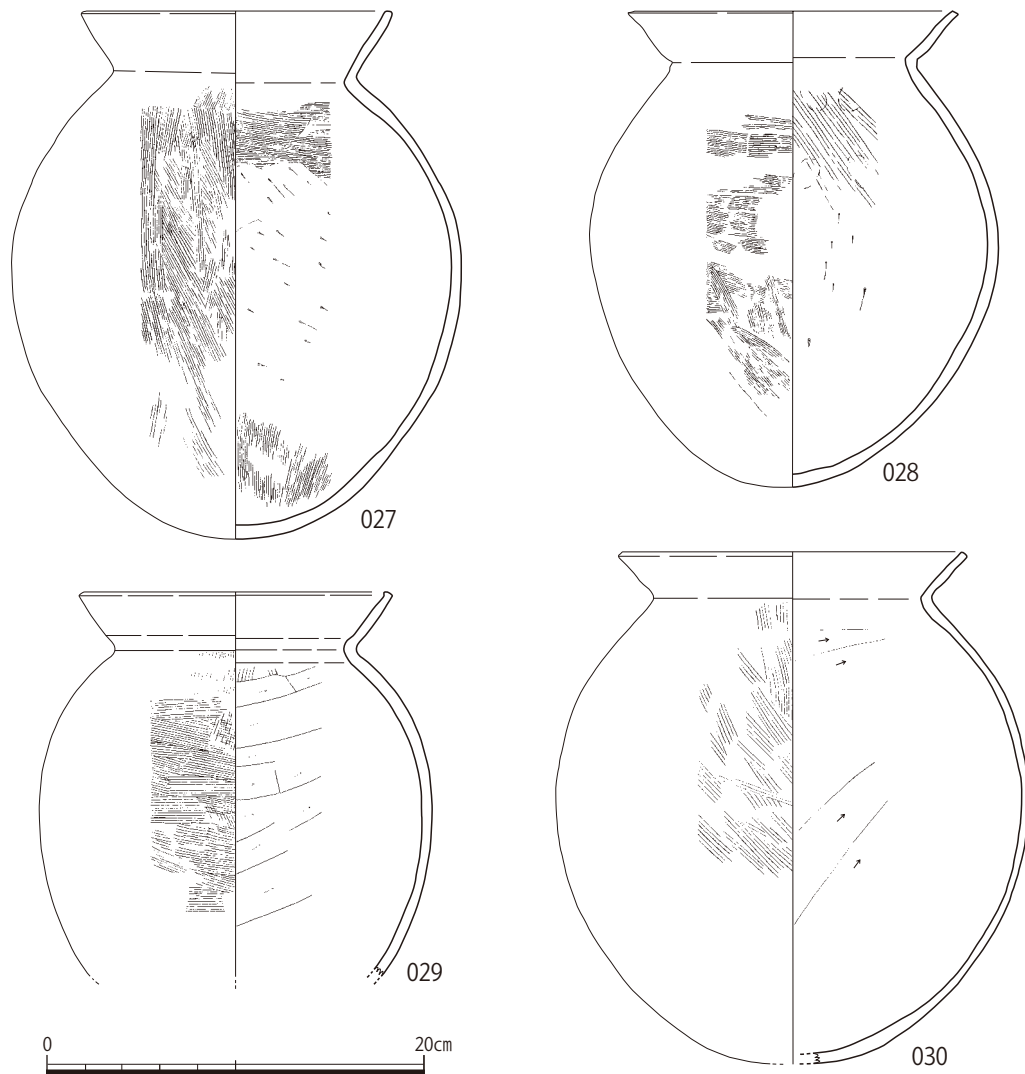
出土土器は、ミニチュア土器、土師器器台、鉢形土器、壺形土器、甕形土器がある。001・002 は共にミニチュア土器で、001 は鉢、002 は高坏坏部片である。003 は受部と脚部が同様に直線状に広がる形状を有する布留式系の小形器台(X 形)である。004～006 は坏・皿形状の鉢で、004・005 は鉢 A1、006 は鉢 A2 に分類される。007～009 は小型丸底壺で、007・008 は壺 A-a、009 は壺 A-c に分類される。007 は体部高と口縁部高が等しい。008 は外面にミガキ、内面に縦方向のケズリを施す。009 は内外面ともにミガキを施す。010・011 は直口壺で壺 B-a に分類される。012 は頸部に突帯を有する小形の複合口縁壺で、壺 D-d に分類される。外面にミガキ、内面にケズリ・ミガキを施す。山陰系か。013・014 は頸部に突帯を有する複合口縁壺で、壺 D-b に分類される。013 は口縁部に波状文を有し、内面下部にケズリを施す。014 は直線的に立ち上がる口縁部を有



第 156 図 20SE001 出土遺物実測図 1 (1/4)



第 157 図 20SE001 出土遺物実測図 2 (1/4)

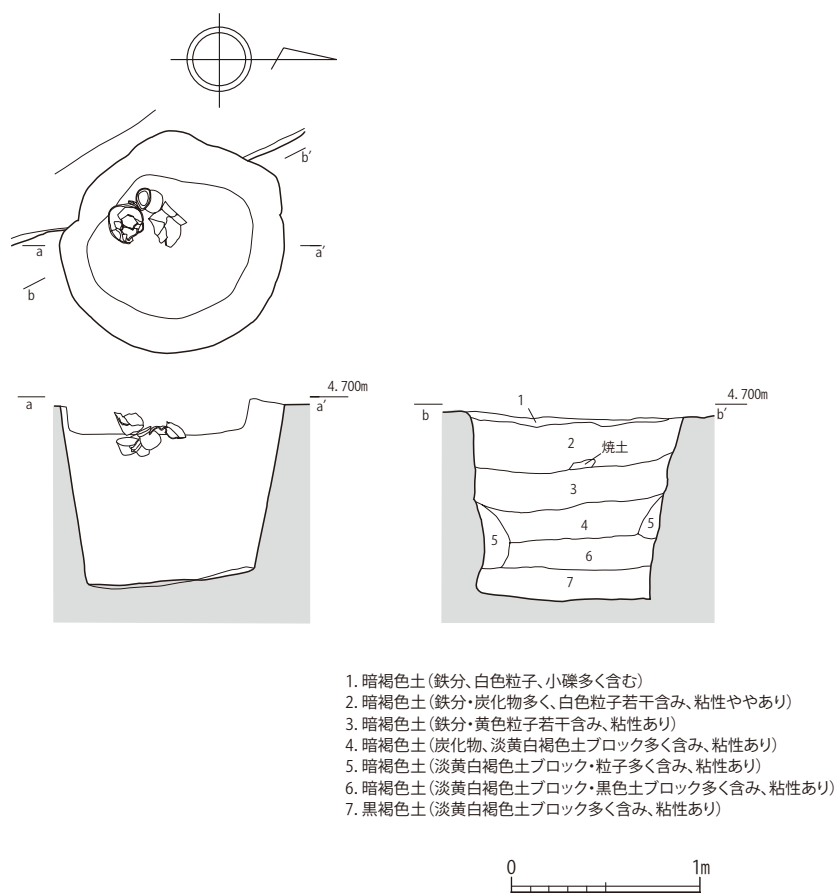


第 158 図 20SE001 出土遺物実測図 3 (1/4)

し、波状文を省略する。015・016 は単口縁壺で、共に壺 C-c に分類される。015 は内面下部にケズリが見られる。016 は玉縁状の口縁部を有し、胴部は球形化しており、内面にケズリを施す。017・018 は小形の球形の甕である。017 は内外面ともにミガキを施す。018 は内面に指頭圧痕が認められる。019 は中形の長胴の甕で、中甕 A1-b に分類される。胴部にスス付着。020 ～ 022 は中形の球形の甕で、中甕 B1-aii に分類される。020 は最下層から出土した遺物で、胴部中位の器壁が厚い。内面下部にケズリを施す。021 は「く」の字状に外反し肥厚した口縁部を有し、内面にミガキがみられる。022 は「く」の字状に外反する口縁部を有する。胴部にスス付着。023 ～ 030 は中形の甕で、中甕 B2-aii に分類される。023 は内面にケズリを施す。028 は内面にケズリを施し、口縁部外面下方が肥厚している。布留式系甕の影響か。029 は「く」の字状に開く直線的な口縁部で、端部が内側へ若干はね上げられている。外面調整にタテハケ目のちヨコハケ目、内面にミガキを施す。030 は「く」の字状に開く直線的な口縁部を有し、口縁部外面下方が若干肥厚している。布留式系だが球形化が進み、作りが粗い。

尚、20SE001 には 011、016、019、022、030 の 5 点が 20SD001 との遺構間接合遺物として含まれている。

20SE001 は、壺・甕共に胴部の球形化が進んでいる点や、内部にケズリを施したもの、布留式系の流れを汲みながらも作りが粗雑なものを含んでいることから、古墳時代前期中葉の新相前後の時期の遺構と考えられる。



第 159 図 20SE018 遺構実測図 (1/40)

20SE018 (第 159 図)

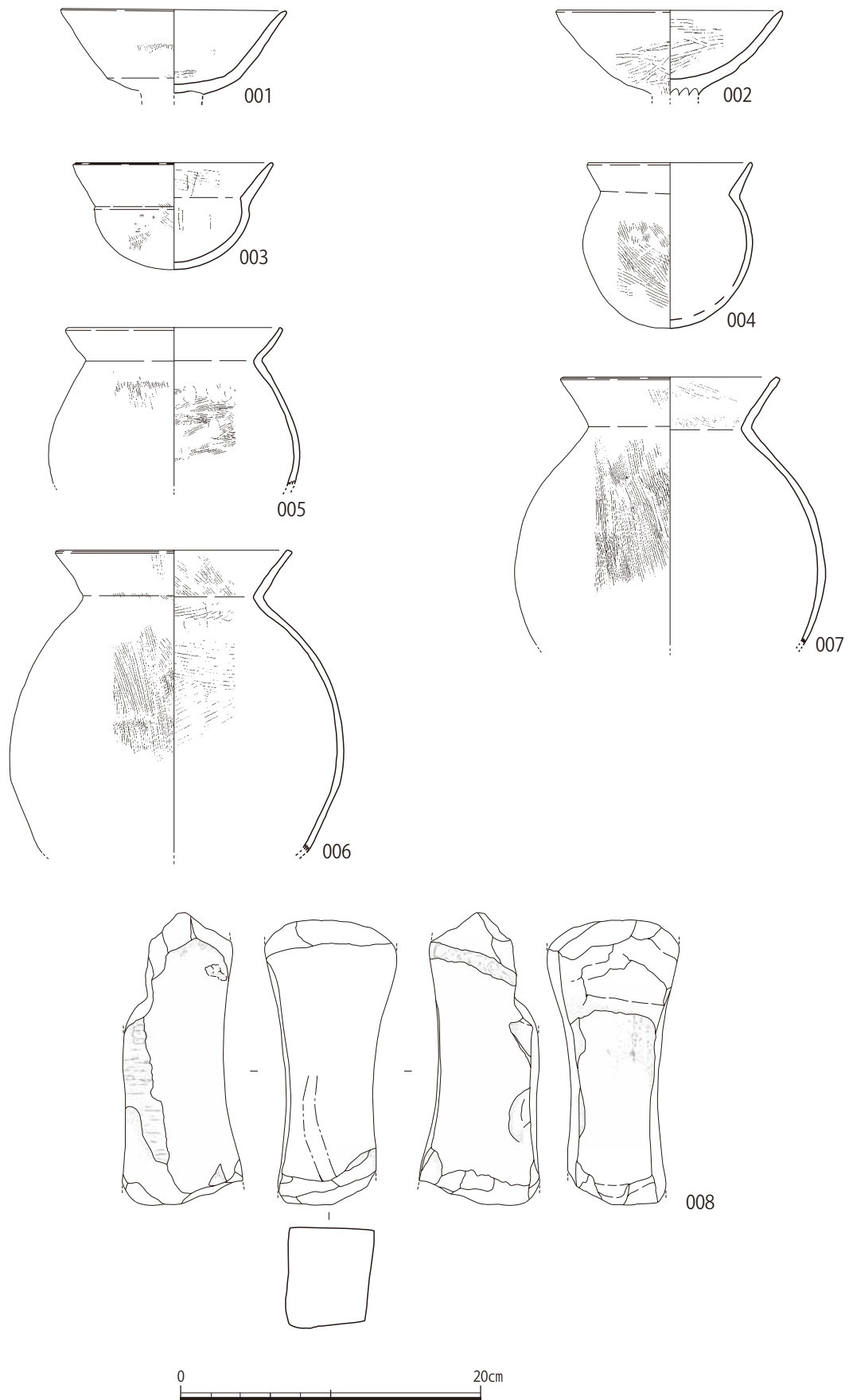
調査区南端で検出し、南西隅を他遺構に切られている井戸状遺構である。平面プランは円形を呈し、検出径約 1.15m、最大深度約 1.0m を測る素掘りの井戸跡である。井戸枠などの痕跡は認められず、中層付近に地山の崩れた跡が見られる。埋土は暗褐色土を基調とし、最下層のみ黒褐色土である。埋土上層 (2 層) から土師器が出土し、その下位には焼土塊も認められた。

出土遺物の状況から、古墳時代前期中葉頃の遺構と考えられる。

20SE018 出土遺物 (第 160 図)

001・002 は稜をもって直線的に外傾する口縁部をもつ高坏の坏部片である。共に、高坏 C に分類される。口径約 15.0cm を測る小さめの坏部をもつタイプである。002 は内外面にミガキがみられる。003 は壺 A-a に分類される小型丸底壺である。体部高と口縁部高がほぼ等しい。004 は小形の球形の甕である。005 ～ 007 はいずれも底部が欠損した中形の球形の甕で、中甕 B2-a に分類される。005 は「く」の字に開く口縁部で、肥厚し、やや内湾する端部を有する。内面にはハケ目・指頭圧痕が見られる。006 は「く」の字状の直線的な口縁部を有し、口縁部外面下方が若干肥厚している。調整は外面にハケ目、内面にハケ目・指頭圧痕が見られる。008 は石器で、砂岩製の砥石である。現存長 19.0cm、幅 8.7cm、厚さ 7.7cm、重さ 1267.0g を測る。

20SE018 は、出土遺物量が少なく、完形品も乏しい。しかし、003 の小型丸底壺に見られる体部高と口縁部高がほぼ等しいという形状や、布留式系の流れを汲みながらも粗い作りの甕が存在する点から、古墳時代前期中葉前後の遺構であろうと考えられる。



第 160 図 20SE018 出土遺物実測図 (1/4)

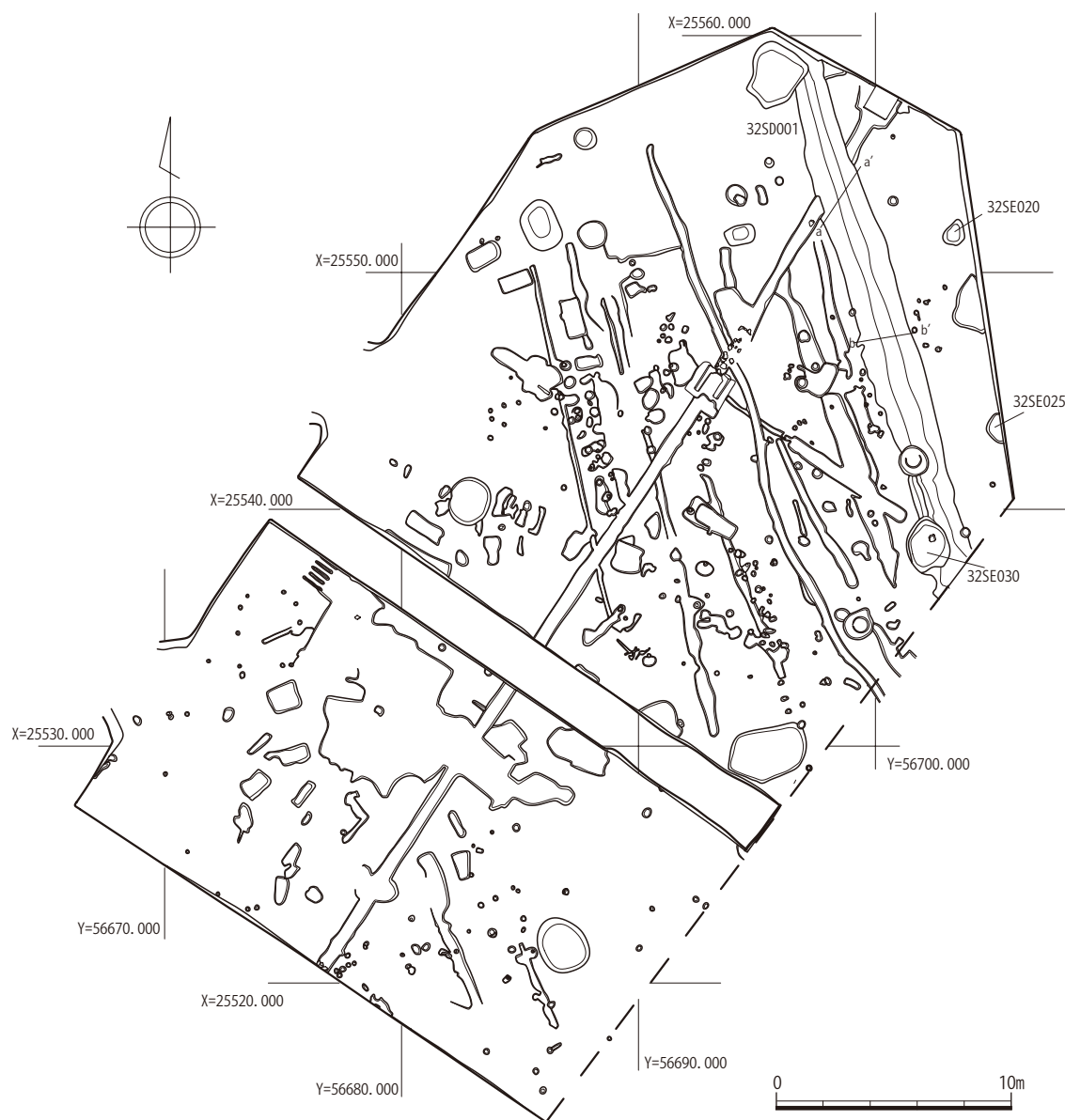
第4節 大道遺跡群第32次調査

概 要

第32次調査区は、今回報告する3地点中最も西側に位置する調査区で、古墳時代前期の遺構群、中世～近代の溝跡・土坑が検出された。

古墳時代前期の遺構は、環濠遺構(32SD001)及び井戸跡(32SE020・025・030)がある。遺構の分布は、南東部が20SD001に繋がる位置づけとなる環濠遺構32SD001が調査区北東辺に沿う形で検出され、井戸跡がこの環濠遺構に一部切り合いをもちながら(32SE030)北東部を中心に井戸跡が存在する。中世～近代の溝跡・土坑については、32SD001の南側、北と南に分かれた調査区のうちでも北側調査区一帯に分布している。溝跡については、その他の調査区同様に古墳時代の環濠と同じかやや西に主軸をもつ方向性を有しており、環濠周辺で密に分布し、南に離れた部分には分布しない。近代の土坑の性格は廃棄土坑と考えられる。

以下、弥生時代・古墳時代環濠関連遺構及び出土遺物についてその詳細を記す。



第161図 大道遺跡群第32次調査区全体図 (1/300)

32SD001 (第 162 図)

調査区北東において検出した南北方向に伸びる溝状遺構である。遺構の北端は調査区外に展開し、南端は隣接する 20SD001 と接続する。検出幅約 1.5m ～ 2.3m、検出長約 22.0m、最大深度約 0.9m を測る。断面形状は概ね逆台形を呈する。埋土は暗褐色土～灰褐色土を基調とし、遺構北側の底部は黒色粘質土で、滞水していたことが考えられる。土層堆積は不整合がみられ、少なくとも 1 回の掘り返しがあると考えられる。出土遺物は土師器甕・壺・高坏・鉢・ミニチュア土器とともに製塩土器・土製模造鏡などが出土している。主に 1 ～ 3 層に多く、ある程度埋まった時点で土器が廃棄されたと考えられる。遺構の南側は 32SE030 によって遺構が切られることから、それ以前に埋没した遺構と考えられる。古墳時代前期中葉を中心とした資料であり、溝の埋没時期もこの時期と推定できる。

32SD001 出土遺物 (第 163 図～第 176 図)

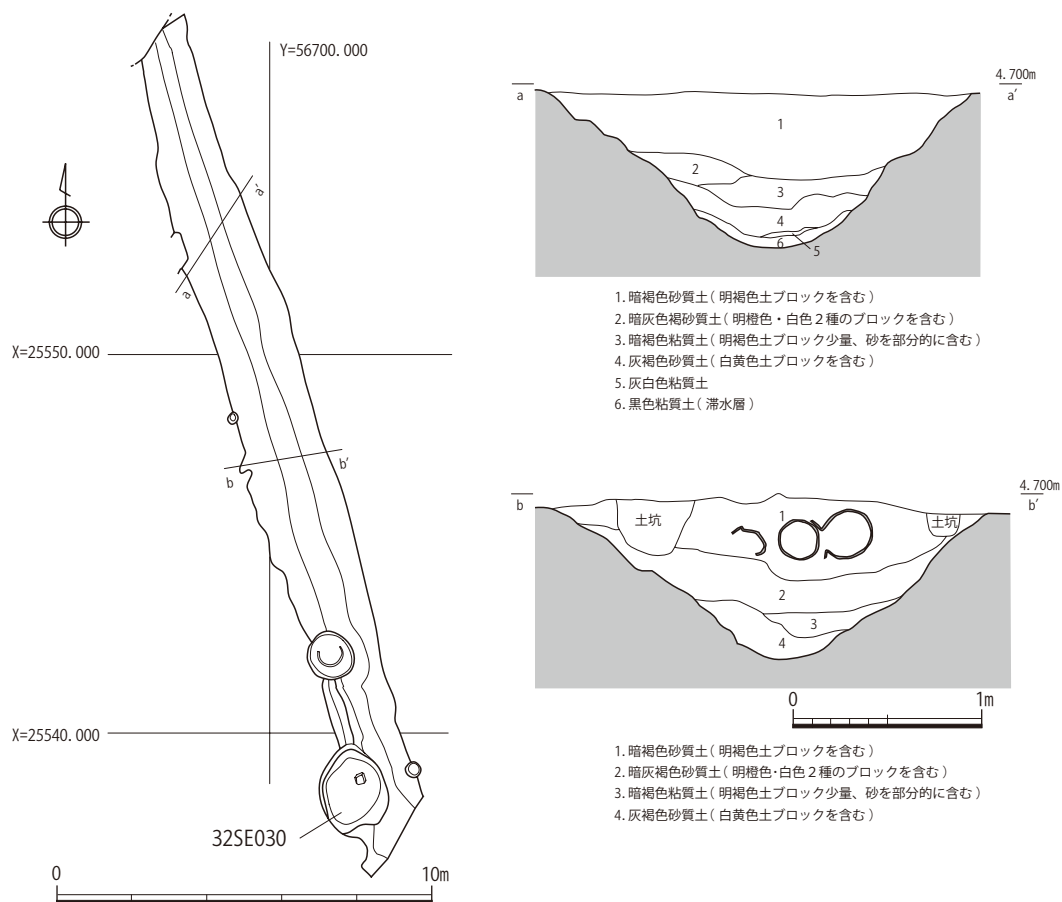
出土遺物には、ミニチュア土器、器台形土器、高坏形土器、鉢形土器、壺形土器、甕形土器、土錘、石器などがある。

ミニチュア土器・器台形土器 (第 163 図 001 ～ 005)

001・002 はミニチュア土器鉢である。いずれも内外面に指頭圧痕が明瞭に残る。003 は小形器台である。円孔を中位に 4 箇所施す。004 は小形器台の脚部。005 は高坏もしくは器台脚部。脚柱部の中位に円孔を施す。

高坏形土器 (第 163 図 006 ～ 014)

006 ～ 009 は坏部が稜をもって直線的に外傾する口縁部をもち、脚柱部に稜をもって屈曲する脚部をもつ高坏 Ca 類。器高の 1/2 前後の深い坏部をもつタイプ。006・009 は円孔が脚裾部に施す。内外面ともにミガキ調整。



第 162 図 32SD001 遺構実測図 (1/200・1/40)

007・008 は脚柱部中位に円孔を施す。010・011 は高環 C 類の坏部。012 は脚 a 類で、円孔を屈曲部分に施す。013 は西瀬戸内式の高環脚部と考えられる。014 は土師器高環の一部。

32SD001 では実測図化に至った資料が極端に少ない。弥生土器が混じるが、分類する上では高環 Ca 類のものにとどまった。主体は古墳時代前期前葉頃と考えられる。また、013 のような岡山県百間川原尾島遺跡出土の高環と形状が酷似しているものが出土している。近年、同遺跡で大分平野の安国寺式壺形土器が出土していることから、西瀬戸内地域との交流があったことがうかがえる。出土高環の様相は、弥生時代後期後葉から古墳時代前期中葉頃の内容を備えている。

鉢形土器（第 163 図～第 164 図）

015 ～ 018 は鉢 A1 で、皿・坏に近い形状の小形の浅い鉢である。015 は器壁が厚く、口縁端部はヘラ切りのような平坦を呈する。内外面共に調整は粗い。019 ～ 023 は鉢 A2 で、椀型の小形の鉢である。024 は鉢 G1 で、小形の平底鉢である。025 ～ 030 は鉢 E で、台付鉢である。025・026 は底部の器壁が厚い。028 は在地系に見られない白色の胎土から、外来系と考えられる。031 は鉢 C1 で、口縁部に屈曲を有する浅鉢である。内外面共に、ミガキを施す。032 は鉢 D1 で、口縁部に屈曲を有する深鉢である。屈曲部の僅かに上部に突帯を有し、外面にタテ後ヨコハケ目、内面にケズリを施す。033 は鉢 D3 で、山陰系折衷型の二重口縁鉢である。034 は底部が平底を呈する深鉢。外面ハケ目、内面ケズリを施す。035 はほぼ直角に伸びる口縁部を有する深鉢である。内外面共にハケ目を施し、外面にスス付着。036・037 は弥生時代に比定される平底鉢である。036 は口縁部に指頭痕が見られる。

32SD001 出土の鉢の様相は、台付鉢の脚部形状などから主として古墳時代前期前葉の所産であると考えられる。

壺形土器（第 165 図～第 171 図）

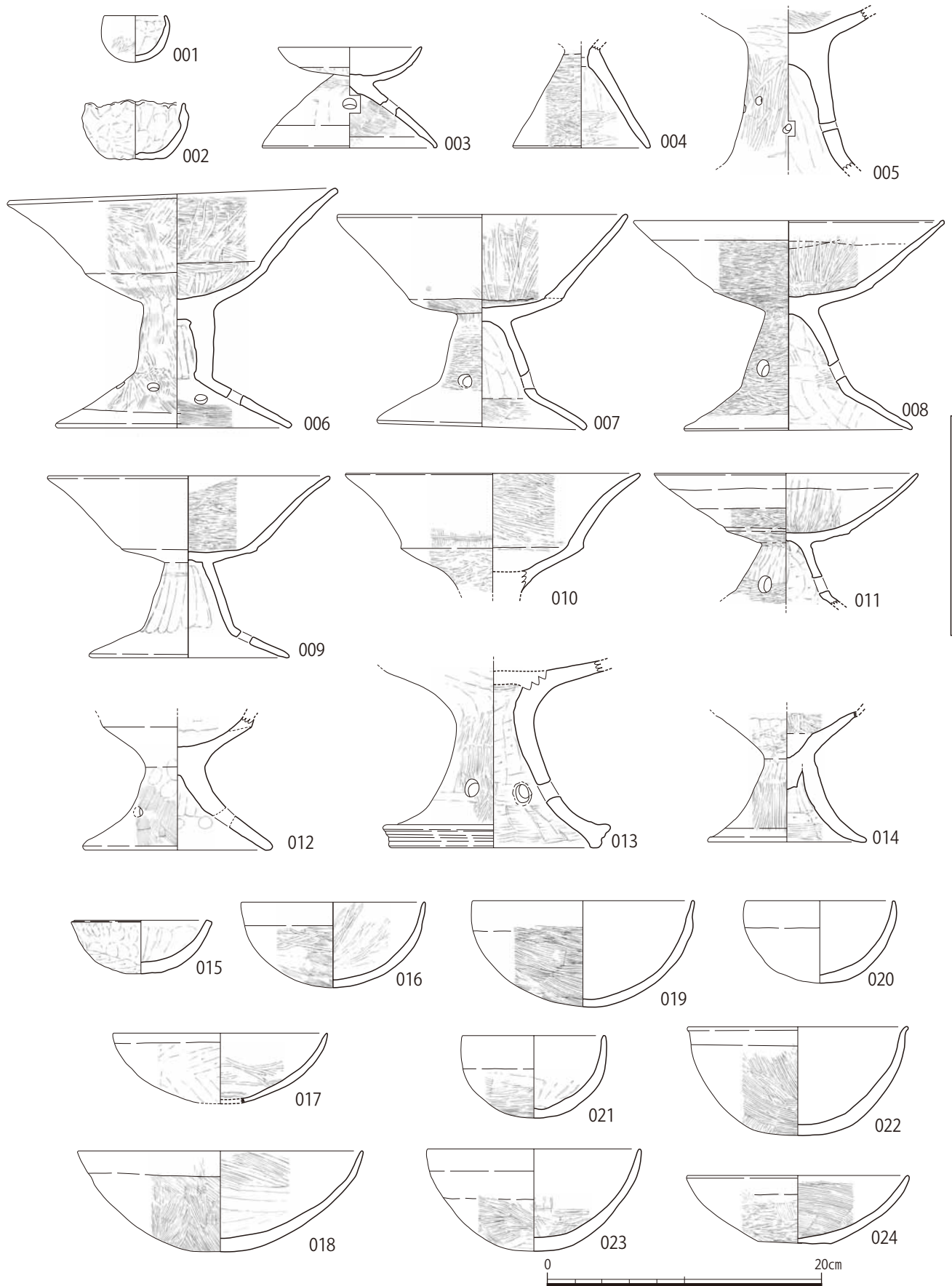
32SD001 から出土した壺形土器は、壺 A 類：小形の丸底壺・鉢、壺 B 類：直口壺、壺 C 類：単口縁壺、壺 D 類：複合口縁壺、壺 E 類：二重口縁壺がある。038 ～ 077 は土師器、078 ～ 082 は弥生土器である。

038 ～ 043 は、小形の丸底壺・鉢である。038 ～ 040 は、口縁部が大きく開き、高さが器高の 1/2 程度を占める壺 A-a 類である。038・039 は外面に赤色塗彩か。内外面ともにミガキを施すような精製品は無く、ハケ目・ケズリで仕上げている。041 ～ 043 は壺 A-d 類。043 は法量がやや大きい資料である。

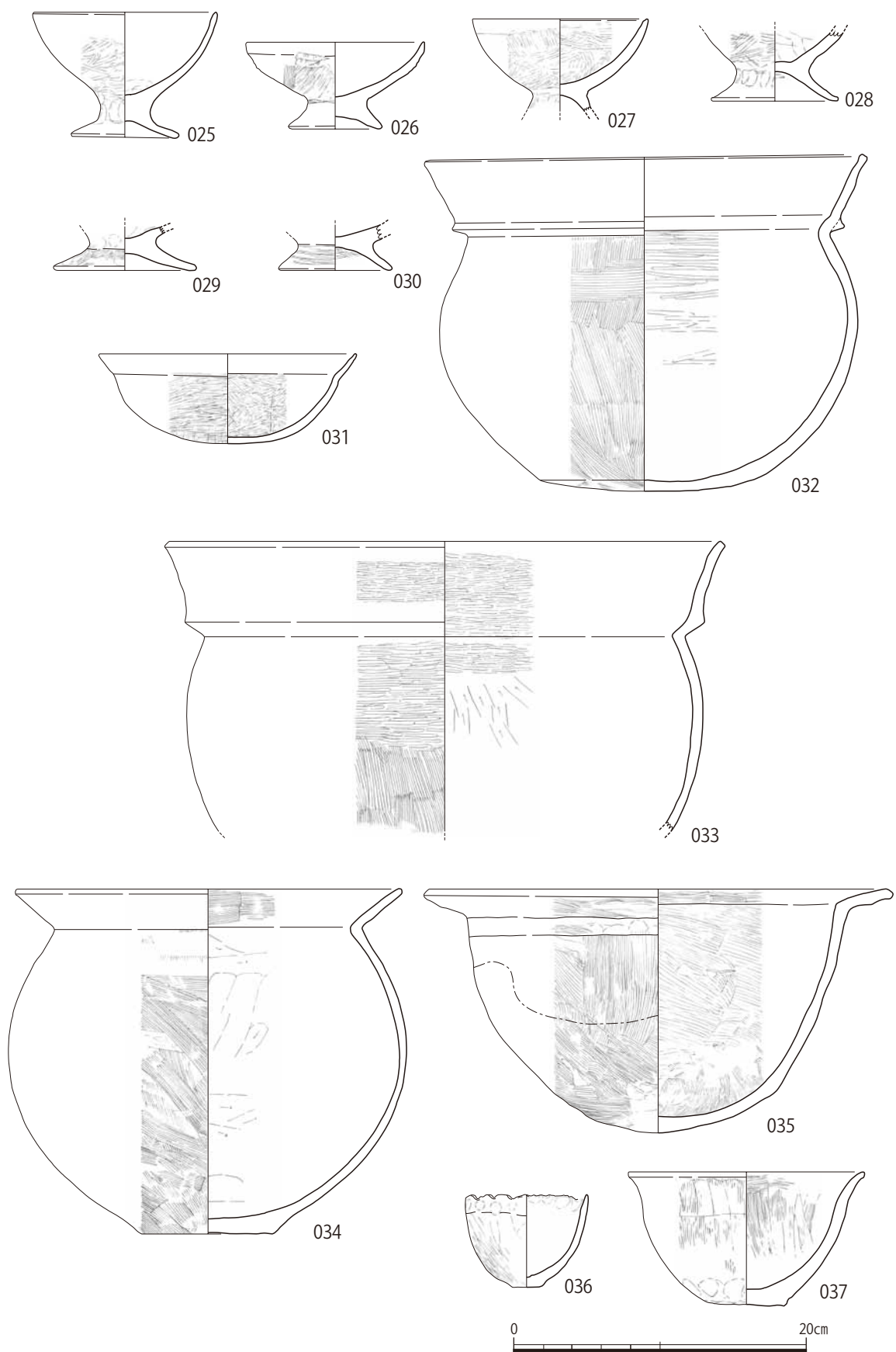
044 は直口壺。口縁端部は内湾し、外面にはススが付着している。045・046 は、直口壺もしくは、小形壺の体部片と考えられる資料である。045 は、内外面ともにミガキが施され、赤色塗彩されるなど丁寧な作りである。

047 ～ 053 は、単口縁壺である。047 ～ 049 は、器高 15cm 程度の小形。049 は、内外面ともにヘラケズリ。外面にはススが付着している。050 ～ 052 は壺 C-a 類で、長胴形の胴部に短く外反する口縁がつく。050 は、内面ヘラケズリ。052 は胴部から底部を欠損する。053 は壺 C-c 類で、球形化が進んだ胴部に大きく開く口縁部を持つ。

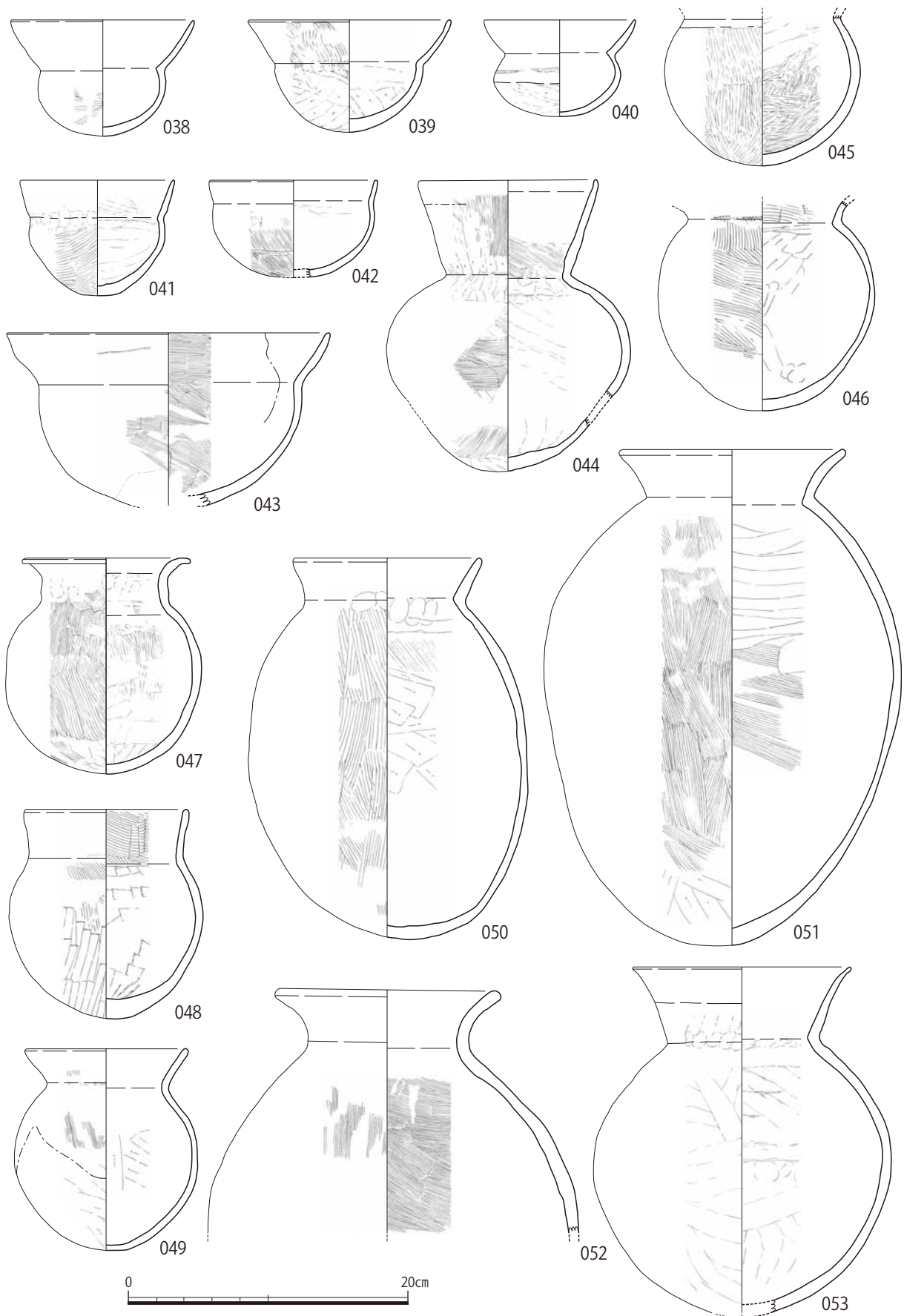
054 は完形で、安国寺式の複合口縁壺と考えられる資料である。複合口縁部には、安国寺式複合口縁壺に特徴的な櫛描波状文を施文せず、斜め方向の沈線を施す。外面は胴部から頸部にかけてハケ目調整を施す。胴部は長胴形で底部は厚く、平底の名残があることなどから、古相を示していると考えられる。古墳時代初頭の所産か。055 ～ 058 は壺 D-a 類で、安国寺式タイプの複合口縁壺。胴部及び頸部に突帯を持つ。055 は、複合口縁部を欠損するが、同タイプの壺であると考えられる資料である。056 は底部を欠損するが、器高が 60cm を超える大形の資料である。複合口縁部に文様は施文されない。頸部のしまりが弱く、他資料に比べ広口である。055・056 は胎土が類似する。057 は、やや胴部が球形化している。複合口縁部の立ち上がりも直線的である。058 は複合口縁部を欠損する。057 に比べ長胴化が目立つ。059 ～ 061 は壺 D-b 類で、胴部の突帯を省略する。複合口縁部の櫛描波状文は、2 段から 3 段にわたって施文されているが、精緻ではなく、だれた印象となっている。



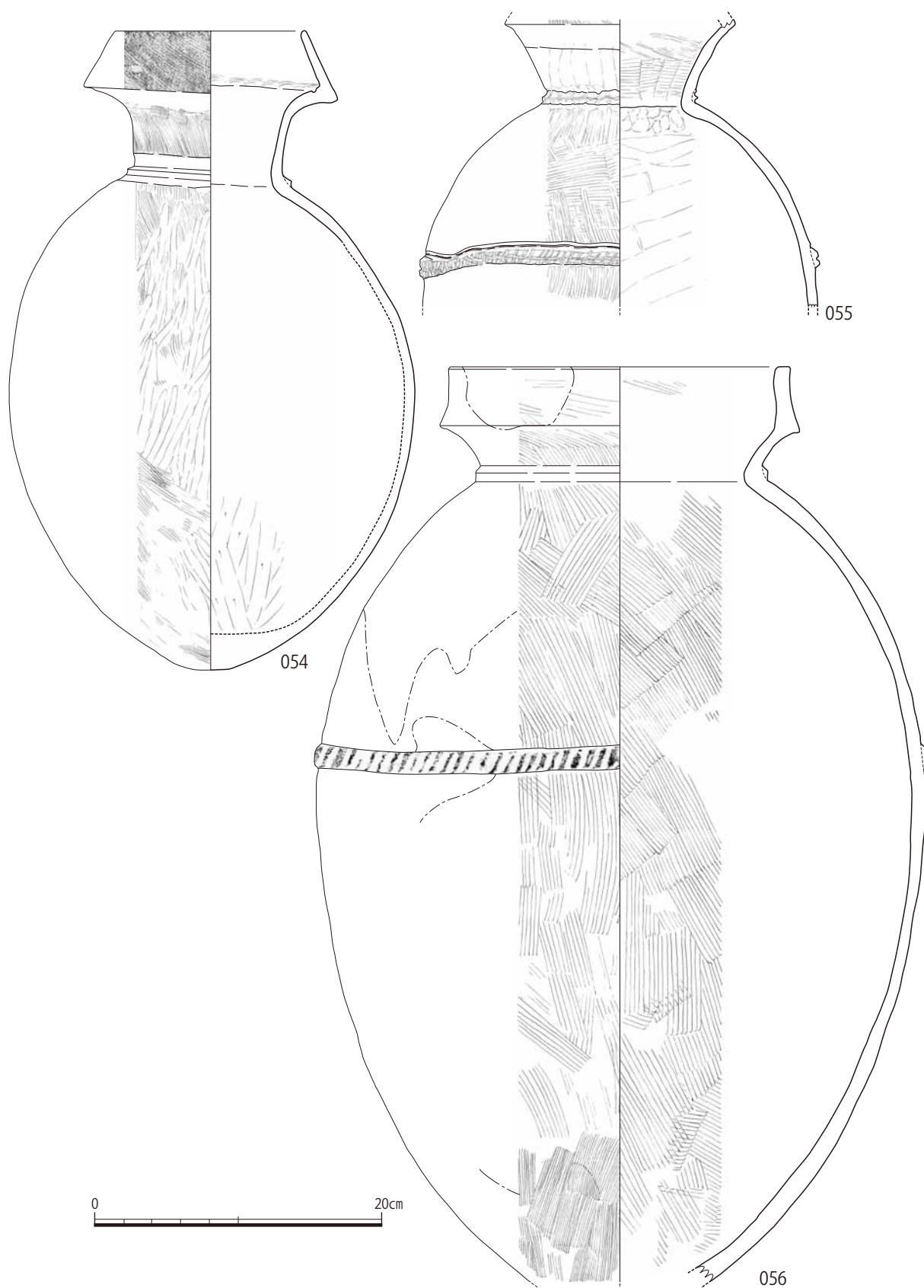
第 163 図 32SD001 出土遺物実測図 1 (1/4)



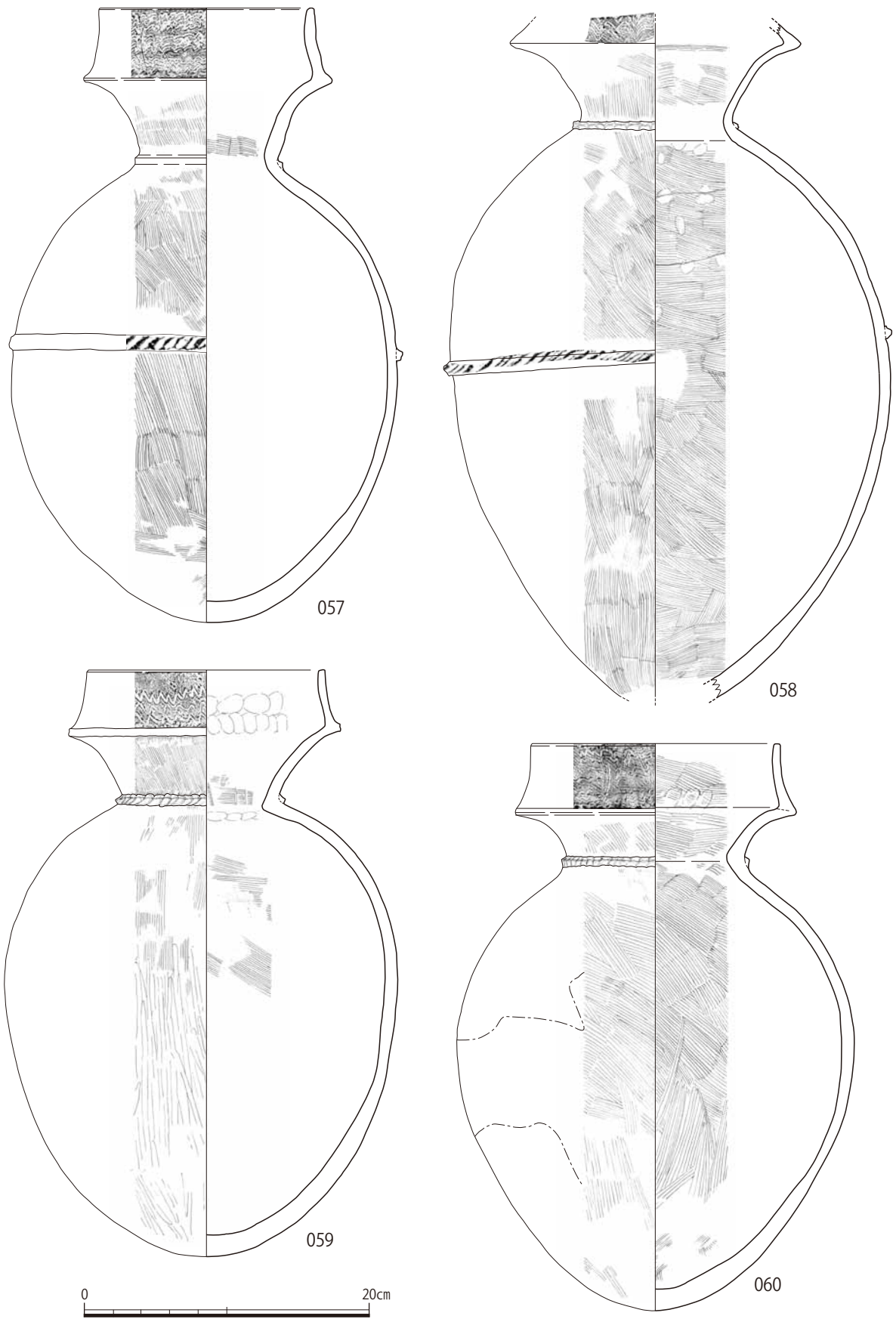
第 164 図 32SD001 出土遺物実測図 2 (1/4)



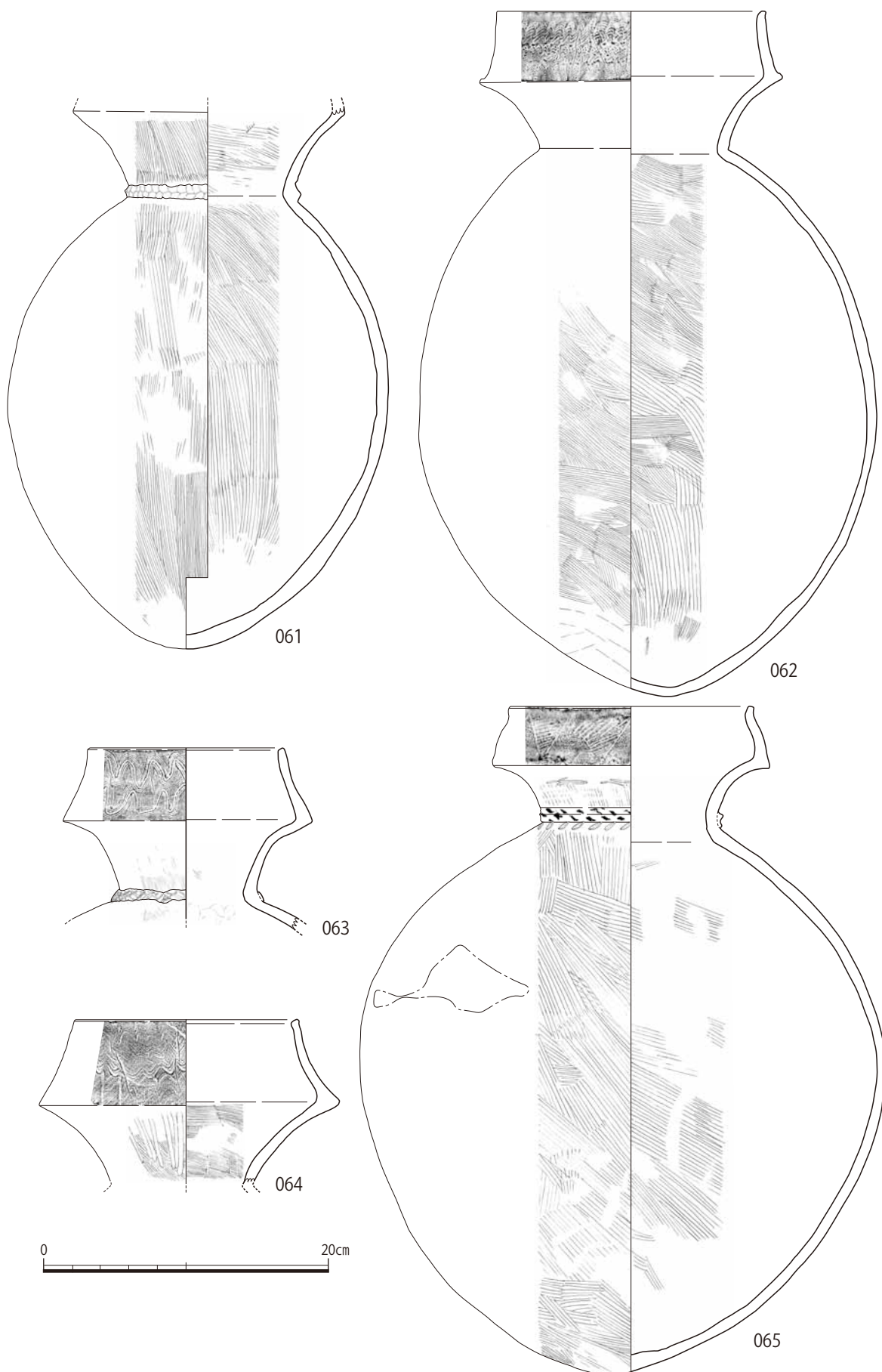
第 165 図 32SD001 出土遺物実測図 3 (1/4)



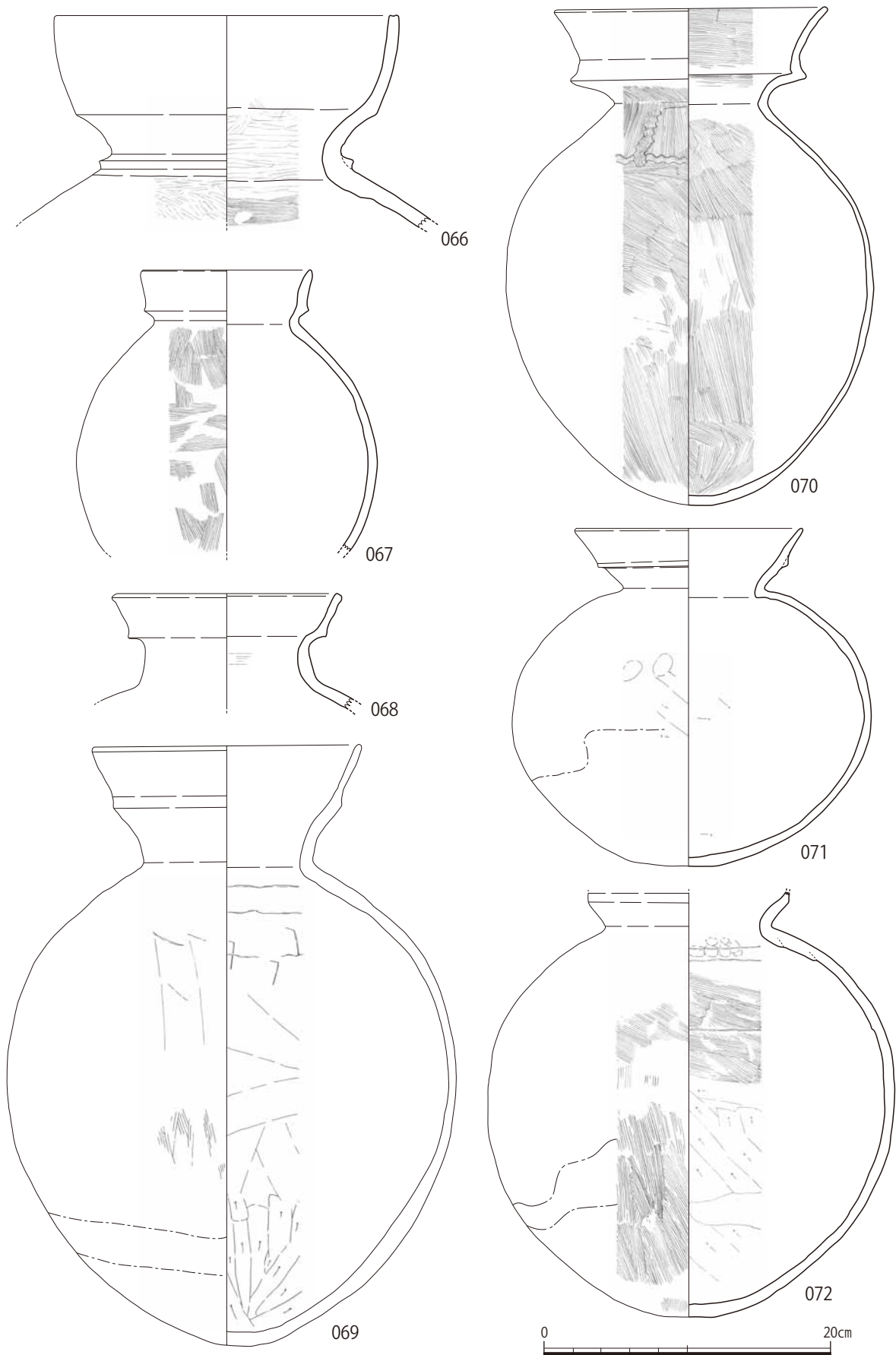
第 166 図 32SD001 出土遺物実測図 4 (1/4)



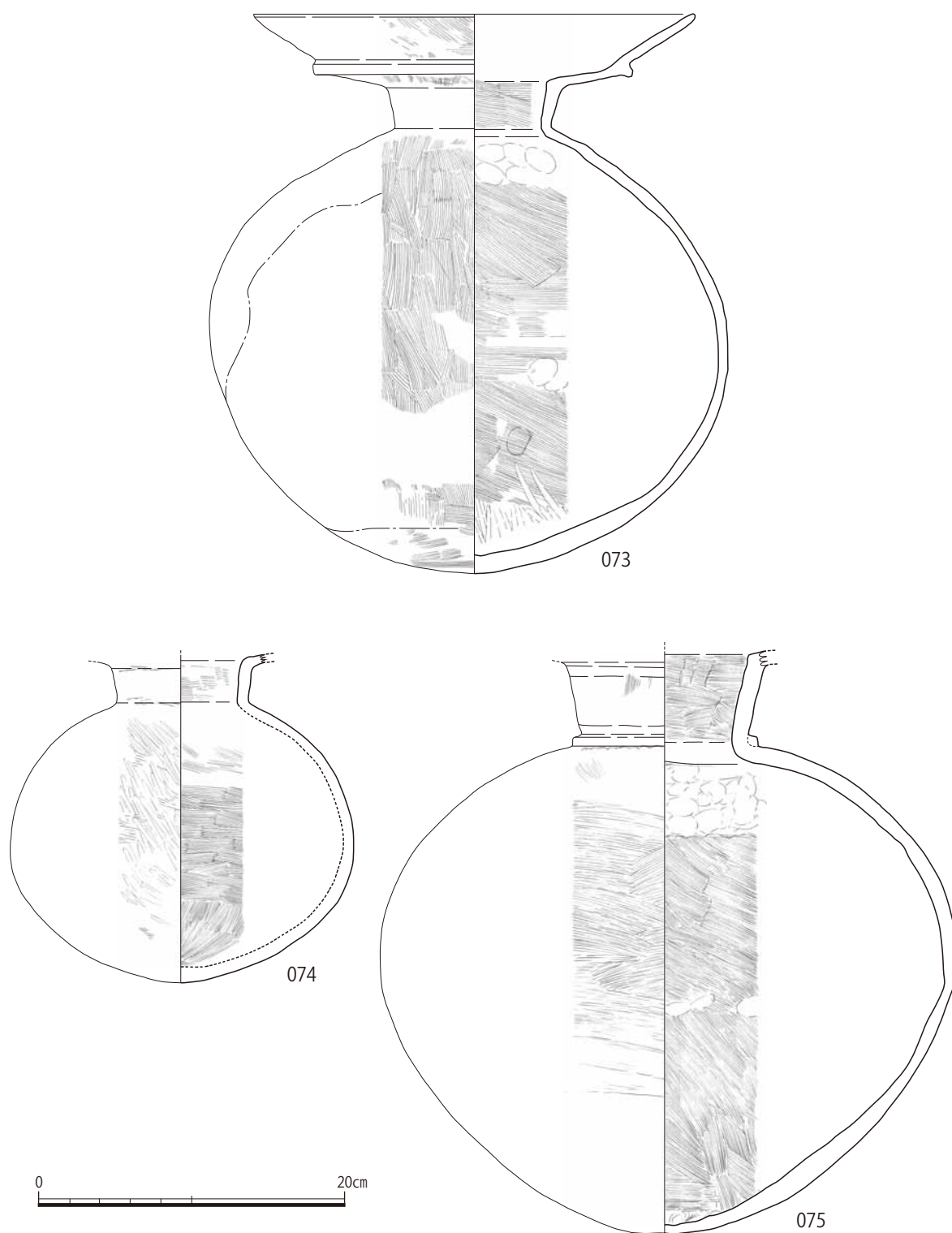
第 167 図 32SD001 出土遺物実測図 5 (1/4)



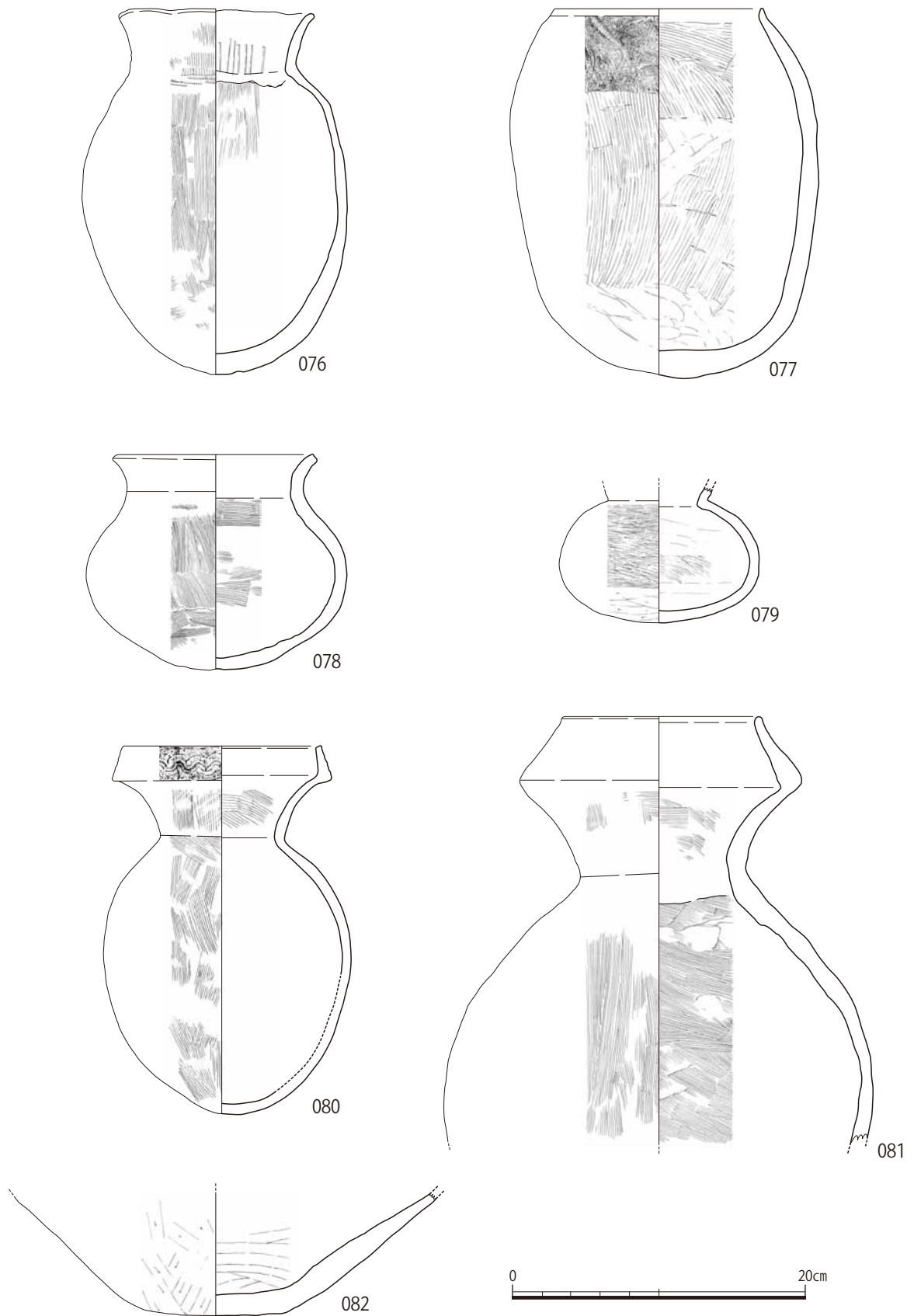
第 168 図 32SD001 出土遺物実測図 6 (1/4)



第 169 図 32SD001 出土遺物実測図 7 (1/4)



第 170 図 32SD001 出土遺物実測図 8 (1/4)



第 171 図 32SD001 出土遺物実測図 9 (1/4)

061 は複合口縁部を欠損する。062 は壺 D-c 類で、頸部・胴部の突帯を省略する。複合口縁部の櫛描波状文は粗い。063 は、壺 D 類の複合口縁部片。2 条の単位の粗い櫛描波状文が施文される。064 は壺 D 類の複合口縁部片。頸部の突帯を省略する。065 は複合口縁部の形状が、壺 D-d 類に分類した複合口縁壺と類似する壺である。山陰系の影響か。また、かなり球形化がすすんだ胴部形態にも、外来系の影響が考えられる。しかしながら、胴部内面の調整が横方向のケズリではなく、ヨコナデとハケ目であることや、複合口縁部に連続三角文（鋸歯文）が施文されることなど、在地系の壺の特徴を有している。066～067 は壺 D-d 類か。066 は口縁部から頸部片。067 は、中形で底部を欠損する。外面にはススが付着している。

068～072 は壺 E-a 類で、二次口縁部が大きく開く二重口縁壺である。068 は頸部から口縁部資料。069～070 は、胴部が比較的長胴の壺である。069 は内面にケズリが施される。071・072 は、胴部がかなり球形化している。内面にはヘラケズリ、外面にススが付着している。070 は、安国寺式タイプの複合口縁壺より明らかに口縁部が外反している。073～075 は壺 E-b 類で、頸部が直立し、1 次口縁との境が明瞭なものである。

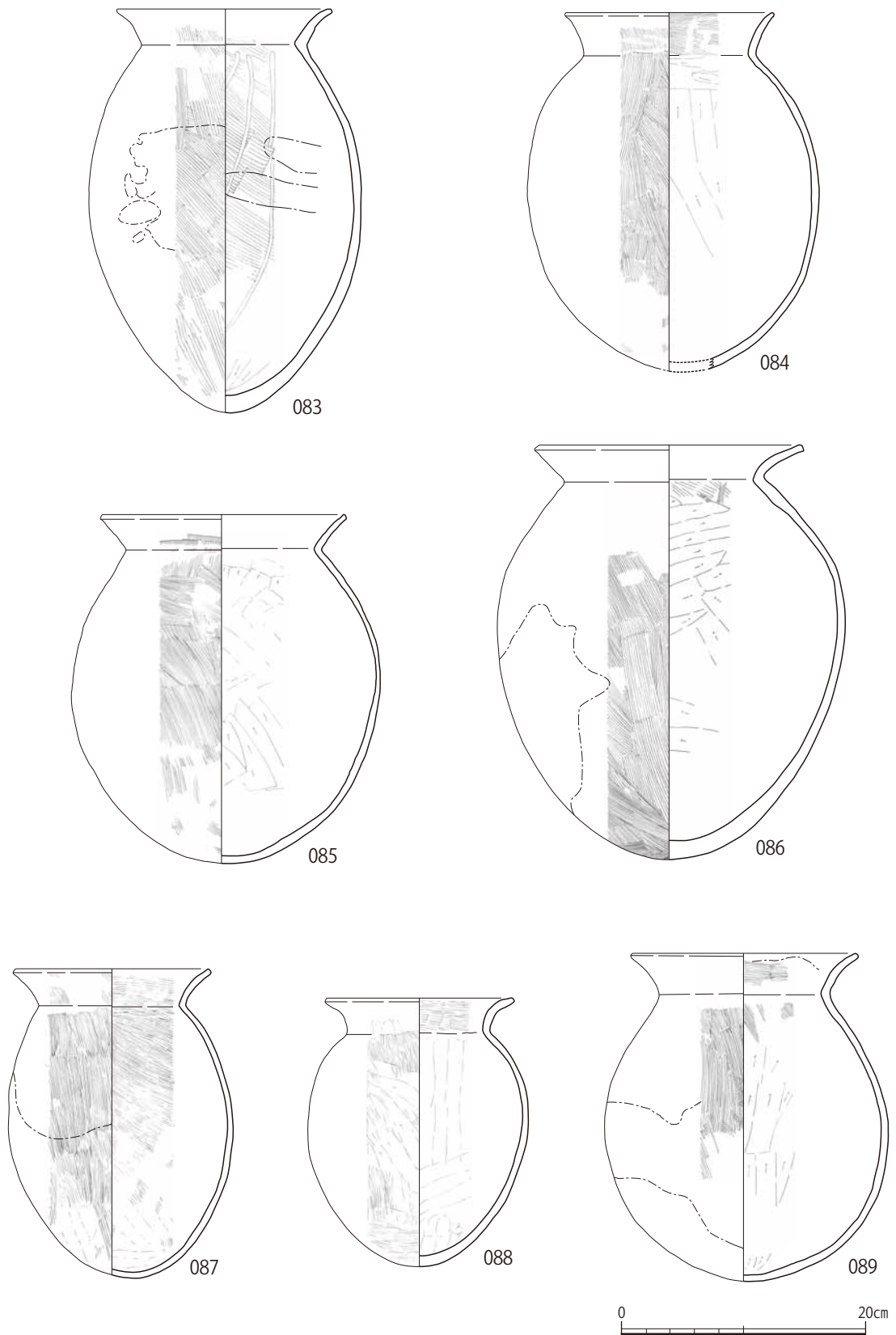
076・077 は、土師器壺と考えられる資料である。今回分類していないタイプである。039 は底部がかなり厚く、頸部は器壁が薄くなっているが、全体的に粗い作りである。077 は、内外面にはハケ目が施される。外面にはタタキか。壺もしくは甕の頸部から上を切り取ったような形状をしている。器壁はかなり厚い。

078～082 は、弥生土器壺と考えられる。078 は小形壺。079 は長頸壺。外面はミガキ調整が施される。080 は、安国寺式タイプの複合口縁壺で、小形のものである。複合口縁部の伸びは短く、外面はハケ目調整。弥生時代後期終末の所産か。081 は複合口縁壺で、器壁が厚く、外面にはススが付着している。弥生時代後期の所産か。082 は、弥生土器壺の底部資料である。しっかりした平底を呈す。

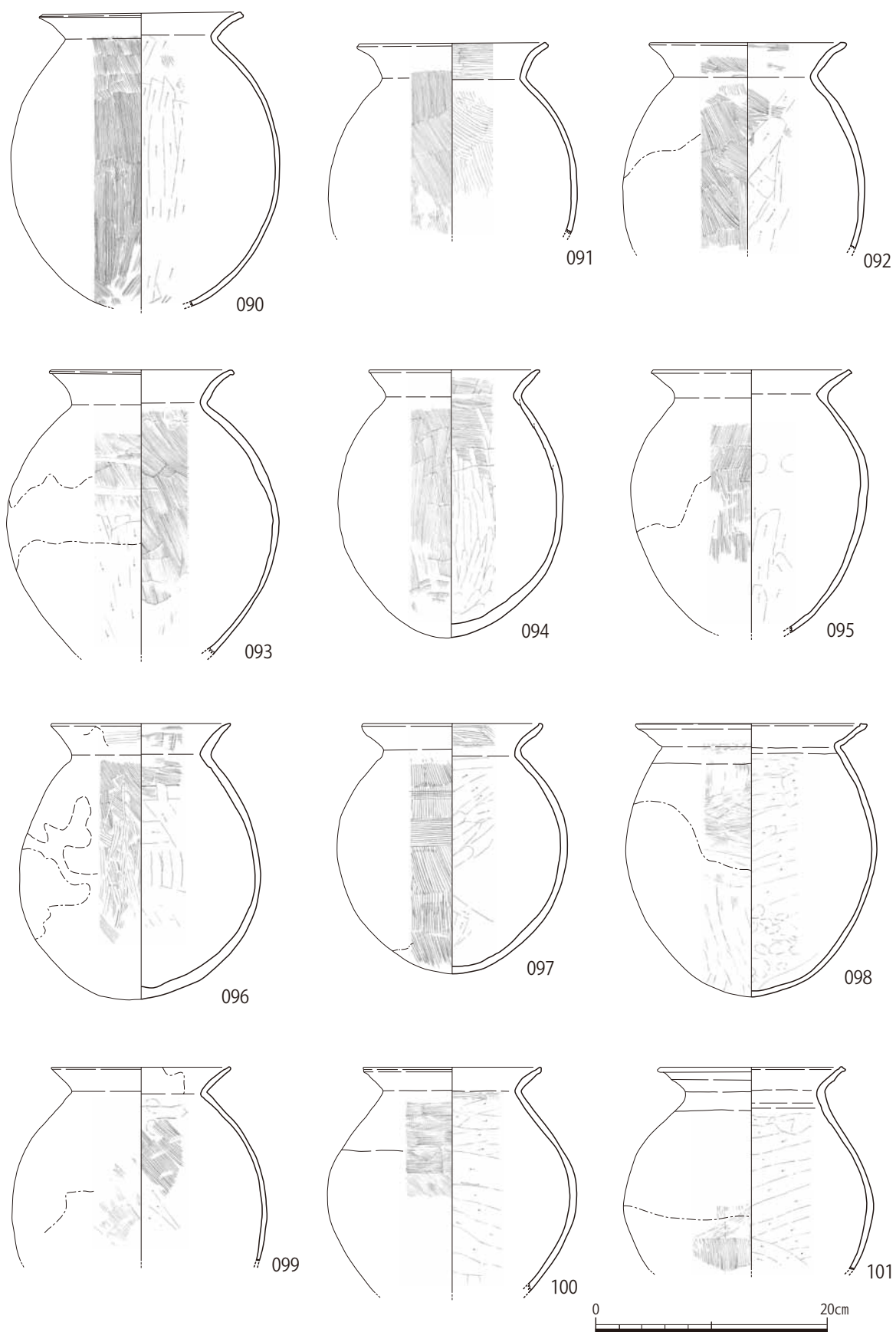
全体の様相として、小型丸底壺は口縁部が伸長する壺 A-b 類がみられない。また、単口縁壺や複合口縁壺は長胴形が残り、底部はやや尖底気味の資料が混じる。また外来系と思われる壺 E 類の遺物が比較的多く出土している。23SD001 や 20SD001 と比べ古相を示している。大分市守岡遺跡 19 号住居跡出土資料と比較すると、やや球形化がすすんでいる様相がみられ、主体は古墳時代前期前葉でも新相を示していると考えられる。

甕形土器（第 172 図～第 175 図）

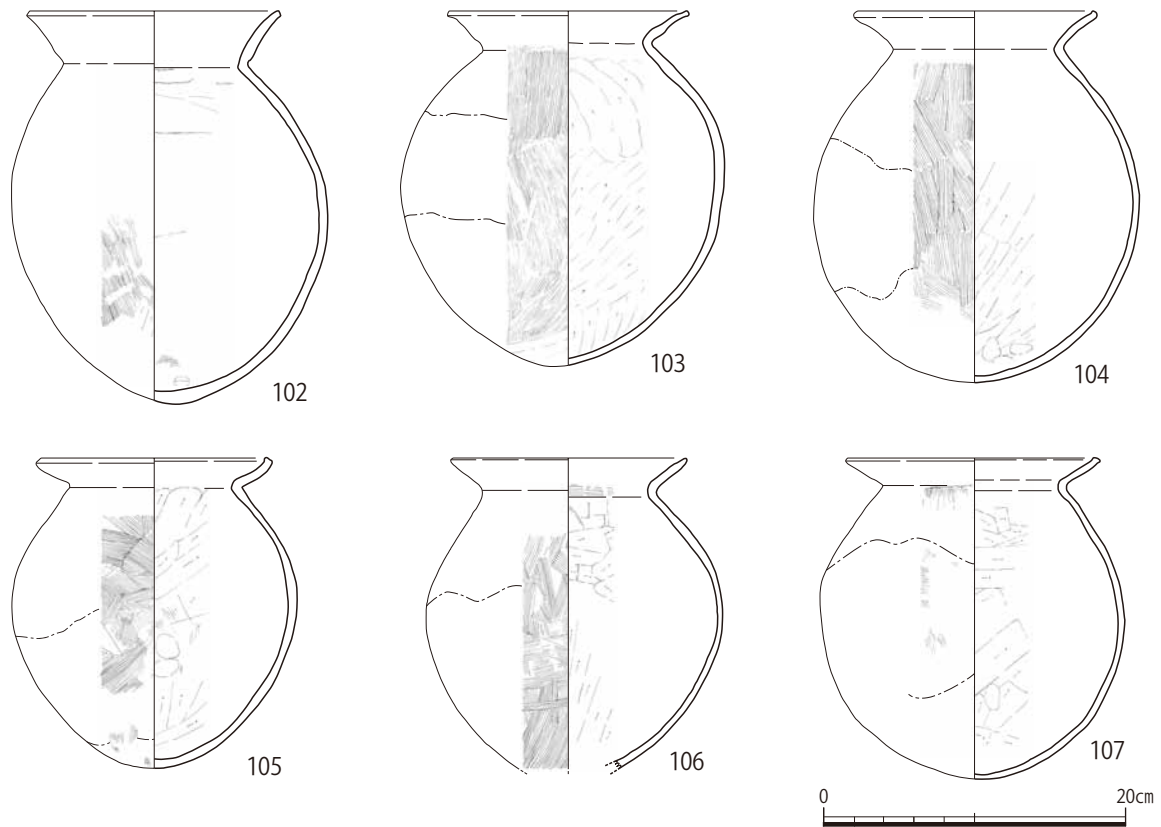
32SD001 出土の土師器甕資料は、遺構検出長が他の次数に比して短い事もあり、35 点と数が少ない。分類については、他次数と同様に本稿における分類基準に沿って分類する（第 190 図参照）。大甕の資料のうち甕 A に属する資料は 2 点のみであり、残りは甕 B に属する資料である。083 は復元口径 17.6cm、器高 33.0cm、最大胴部径 22.3cm を測る資料である。内外面ともに橙色を基調とする色調であり、胴部中位付近にはススが付着している。内面底部にケズリが認められるが、器壁は厚く内外面ともにハケ目により調整される。大甕 A1-ai に相当する。084～086 は大甕 B タイプである。特に 086 は大きく、口径 22.0cm、器高 33.9cm、最大胴部径 28.3cm を測る。内面はケズリ、外面はハケ目により調整される。底部形状は丸底を呈し、大甕 B2-aii に相当する。087 は中甕 A1-bii に分類される長胴タイプの甕資料である。内外面ともにハケ目により調整される。088～107 は中甕 B タイプに属する資料である。089 は口径 18.6cm、器高 26.8cm、最大胴部径 23.2cm を測る。胎土中には角閃石粒・雲母粒等を内包する。内面はケズリ後ナデ、外面はハケ目により調整される。頸部付近は肥厚する。胴部最大径は中位より下がり、下膨れしたフォルムを呈す。090 は中甕 B1-aii タイプである。内面はケズリ、外面は綿密なハケ目により調整される。口縁部は外反し、口縁端部は平坦に仕上げられ中ほどに沈線状の窪みを持つ。球形化の進んだタイプである。096 は 089 と同様に下膨れ様を呈する資料であり、中甕 B2-aii に分類される。口径 15.5cm、器高 23.8cm、最大胴部径は 20.7cm を測る。内面ケズリ、外面ハケ目により調整され、頸部の締りはゆるい。器壁は頸部付近から肥厚し口縁端部に向かって先細る。098 は復元口径 20.0cm、器高 23.6cm、最大胴部径 21.6cm を測る中甕 B2-aii の資料である。内面底部から胴部上位にかけて指頭圧痕が顕著に見られ、胴部中位ほどから頸部付近までケズリにより調整され器壁は薄い。外面は縦方向ののち横方向のハケ目が実施されている。また、口縁端部は平坦に仕上げられ、布留式系甕の影響を強く受けた資料



第 172 図 32SD001 出土遺物実測図 10 (1/5)



第 173 図 32SD001 出土遺物実測図 11 (1/5)

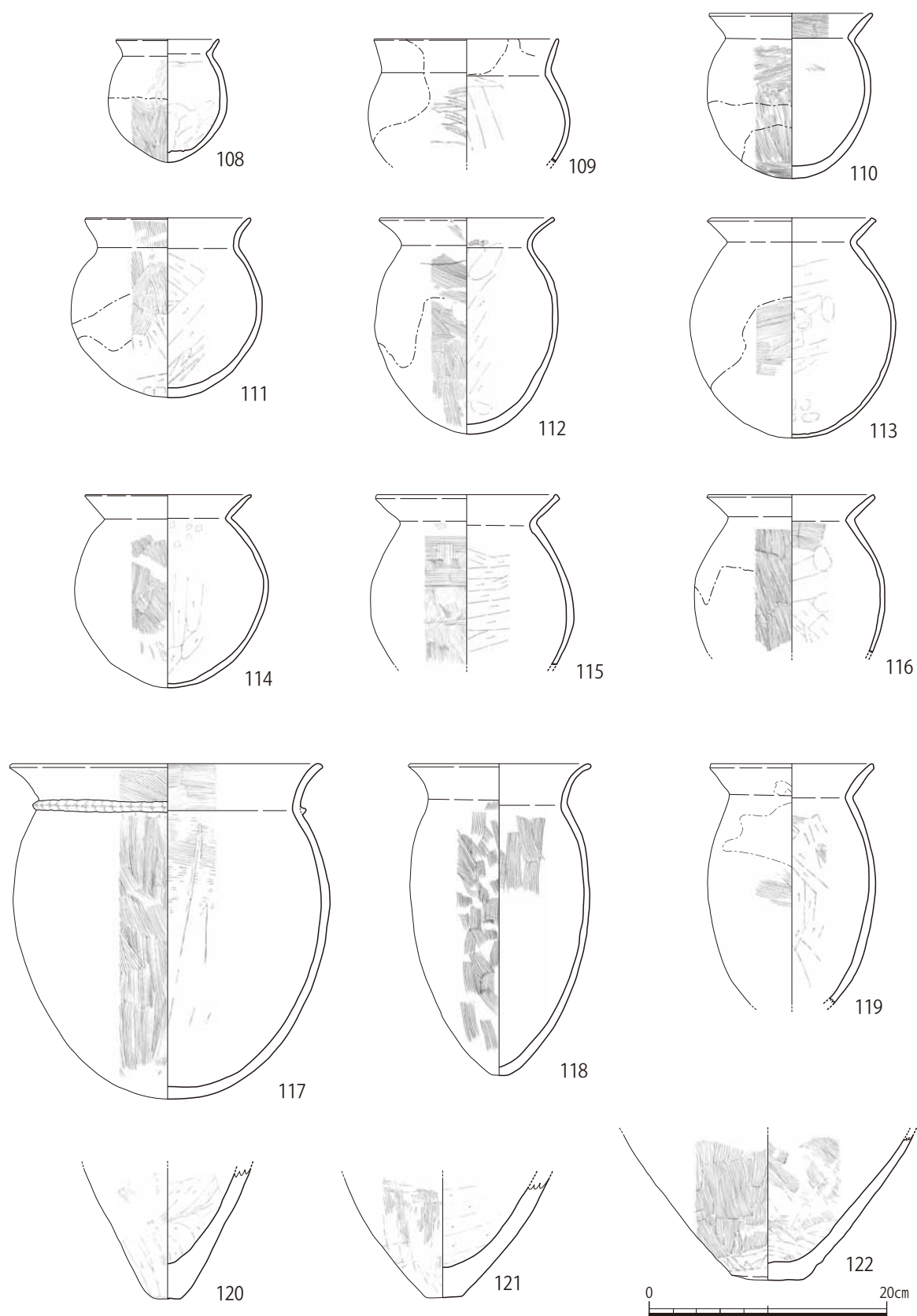


第 174 図 32SD001 出土遺物実測図 12 (1/5)

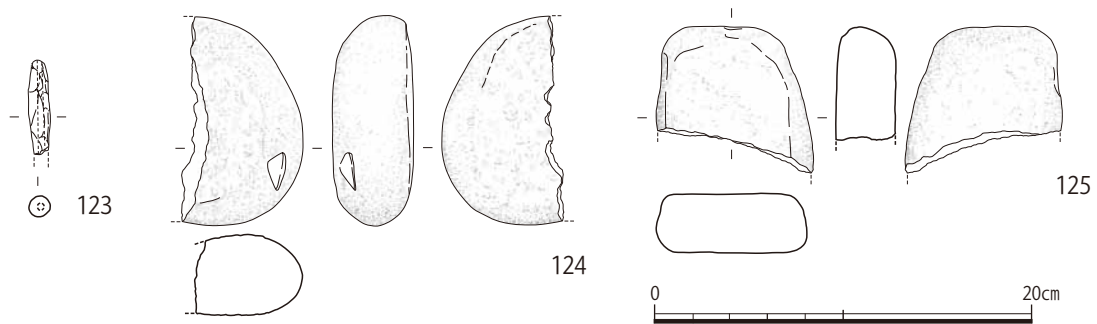
である。104 は復元口径 16.0cm、器高 24.6cm、最大胴部径 21.4cm を測る甕資料である。内面底部に指頭圧痕、ケズリが実施されており、外面はハケ目により仕上げられる。胴部中位にススの付着が認められる。頸部の締りは強く、口縁端部は若干のツマミ上げ様の強調が認められる。107 の資料もまた、布留式系甕の属性を具備したものであり、内面のケズリにより器壁の薄壁化は顕著である。108 ～ 116 は小甕資料である。109 は底部を欠損する資料であり小形の壺もしくは鉢資料とも考えられるが、本稿では小形の甕資料として分類している。112 は復元口径 14.8cm、器高 18.2cm を測り、内外面ともに明赤褐色を呈する資料である。内面は指頭圧痕およびヘラケズリが認められ、外面はハケ目により仕上げられた小甕である。外来の手法を取り入れた在地系の甕と考えられる。114 は口径 14.0cm、器高 16.2cm を測る。内面は頸部付近に指頭圧痕、底部から胴部はケズリにより調整され、外面はハケ目が実施される。117 は頸部に突帯をもつ広口甕である。口径 26.1cm、器高 28.2cm を測り、内面・灰褐色、外面・にぶい橙色を呈する。内面は工具によるナデ、横方向のハケ目、外面は綿密なハケ目により調整される。118 ～ 122 は弥生時代後期後葉～終末の範疇におさまると考えられる資料である。118 は口径 15.4cm、器高 26.2cm を測り、内外面ともにハケ目により調整される。底部形状はわずかに平底を残す。120 ～ 122 は底部資料である。いずれの資料も底部は明瞭な平底を呈していることから弥生時代後期後葉から終末の所産と判断される。

ここで、32SD001 出土甕の時間的位置づけを分類結果を踏まえ検討する。

32SD001 出土の甕資料は 35 点と少ないが、そのうち球形タイプの甕 B に属するものは 9 割を占め、残る長胴タイプの甕 A は僅少である。また、口縁部形態別に見ると 2 類にあたる直線的に立ち上がるタイプのものが 7 割を占めている。底部形態別では、8 割強が ii 類にあたる丸底タイプである。以上の事から 32SD001 出土の甕は球形タイプのものが主流であり、口縁形態も直線的なタイプのものであり、底部は丸底である。この結果から 32SD001 出土の甕は古墳時代前期中葉から前期後葉の様相を示すと推定される。具体的に示せば、089・096・104 など新来の技術が定着し球形タイプの甕が主流を占める中で製作されたものと考えられ、調整



第 175 図 32SD001 出土遺物実測図 13 (1/5)



第 176 図 32SD001 出土遺物実測図 14 (1/4)

の粗雑化や口縁端部の処理に伴い、胴部形態などは球形から下膨れの形状に移行しているものである。類似の資料が植田市遺跡 E 区溝資料に求められ、古墳時代前期中葉から前期後葉の時期に相応すると考えられる。しかしながら、083・087 のような長胴タイプのものや 117 にみられる突帯が貼付された、底部丸底の広口甕など古墳時代前期中葉に属する資料も認められることから、32SD001 出土の甕は古墳時代前期中葉から後葉に位置付けられ、その主体は古墳時代前期中葉と考えられる。

土錘・石器 (第 176 図)

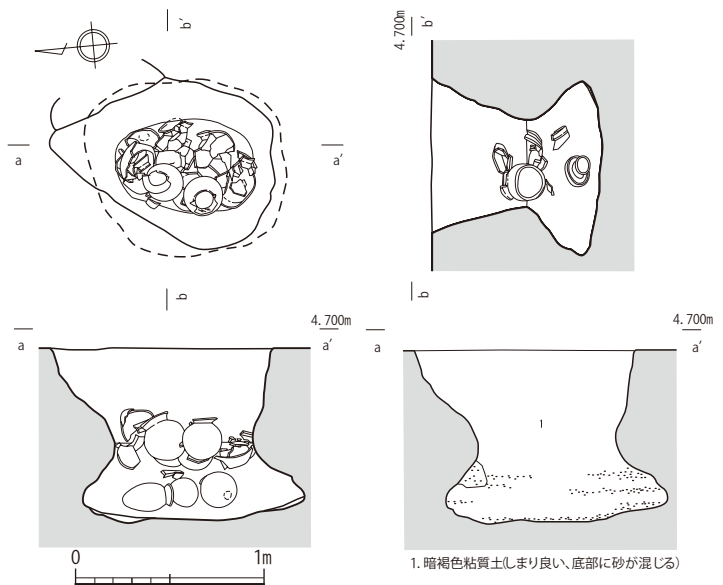
123 は土錘である。124 は角閃石安山岩製のすり石である。すり面に敲き成形の痕跡がみられる。長さ 11.1cm、幅 6.4cm、厚さ 4.3cm、重さ 419.8g を測る。125 は角閃石安山岩製の敲き石か。色調は灰黄色で、残存長 7.7cm、幅 8.3cm、厚さ 3.1cm、重さは 335.0g を測る。調整は不明である。

32SE020(第 177 図)

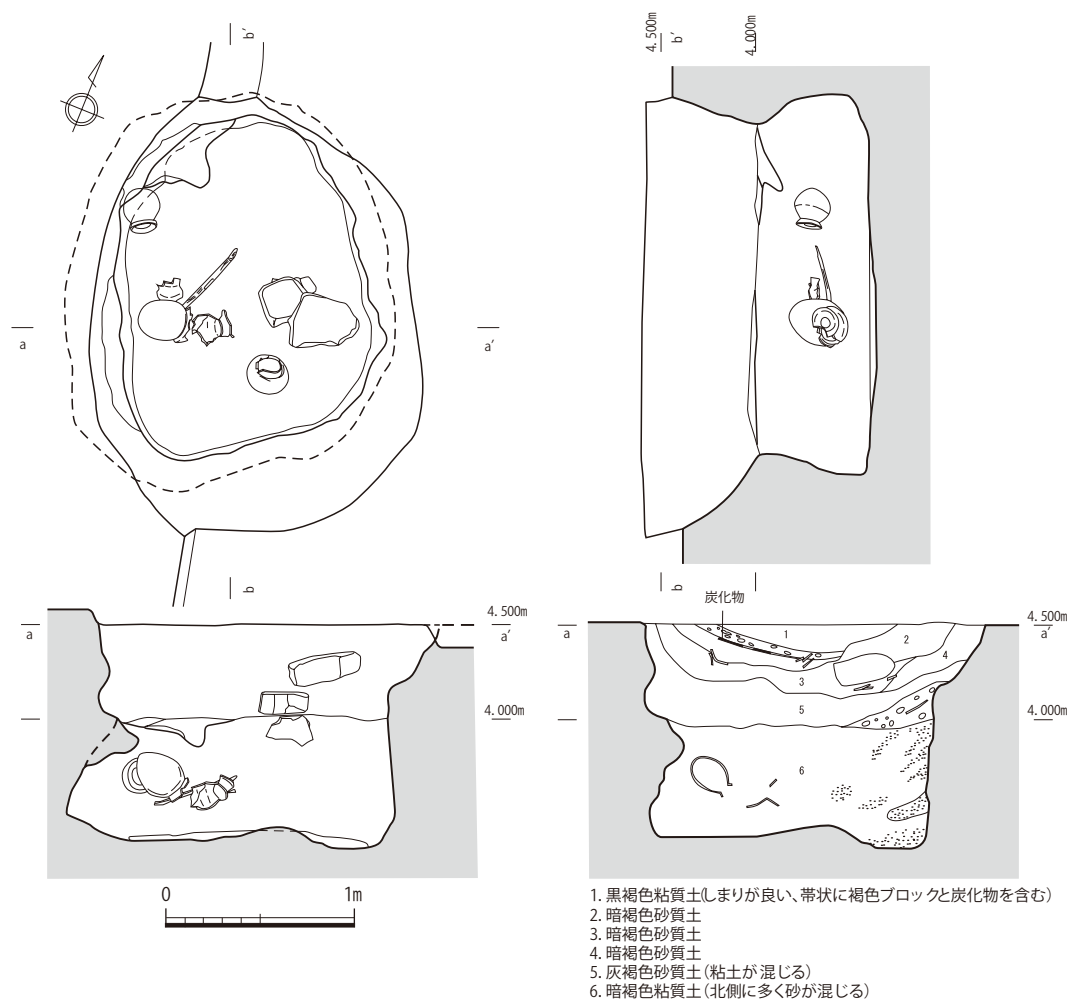
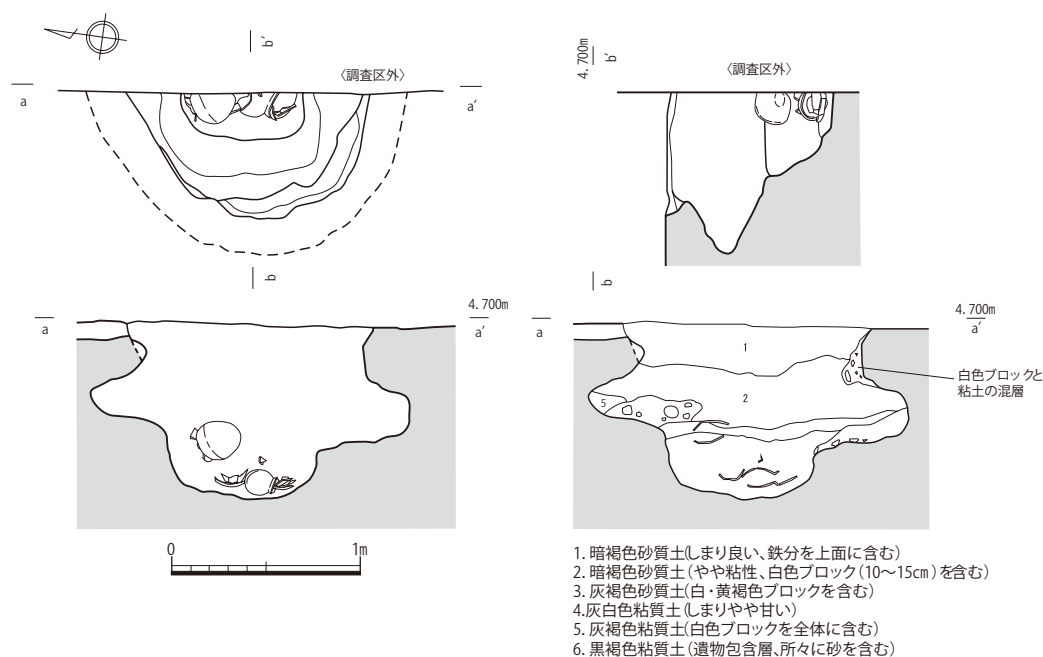
調査区北東において検出された遺構で、平面プランは楕円形状を呈する井戸状遺構と考えられる。長径 1.1m、短径 0.9m、最大深度 0.9m を測る。断面形状はフラスコ状を呈する。井筒の痕跡は認められず、素掘りの井戸であったと考えられる。検出面から 0.8m 付近は滞水時の浸食により、壁面がオーバーハングしている。埋土は暗褐色粘質土を基調とし、底部に近づくにつれ粘性を増し、砂が混じる。出土遺物はほぼ完形の土師器甕・壺がまわって出土している。一括廃棄されたものと考えられる。上層の遺物は 32SE025 の下層の出土遺物と接合関係にあるため、同時期に廃絶されたことが推測できる。出土遺物から古墳時代前期前葉から前期中葉頃と考えられる。

32SE025(第 178 図)

調査区中央からやや東において検出され、平面プランが不整形形状を呈する井戸状遺構と考えられる。東側半分は調査区外に展開しており、全容は不明である。検出南北径約 1.3m、東西径 0.6m+ α 、最大深度約 0.9 m を測る。井筒の痕跡は確認されず、素掘りの井戸であったと考えられる。壁面の中央付近は滞水時の浸食によって大きくオーバーハングしている。出土遺物は 6 層下位付近から完形の土師器甕が出土している。接合関係が 32SE020 上層とあることから同時期の廃絶が推測される。出土遺物から古墳時代前期前葉から前期中葉頃と考えられる。



第 177 図 32SE020 遺構実測図 (1/40)



32SE030(第 179 図)

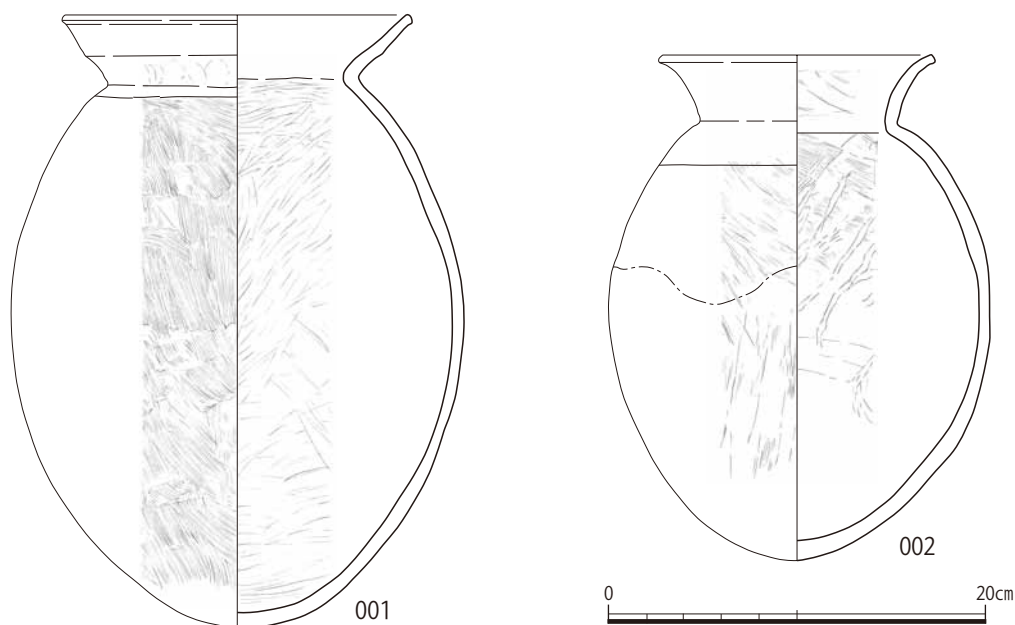
調査区東において検出され、32SD001 の南端を切る井戸状遺構である。平面プランは楕円形状を呈し、長径約 2.3m、短径約 1.8m、最大深度約 1.2m を測る。井筒の痕跡は確認されず、素掘りの井戸と考えられる。井戸の下半の西壁では壁面がオーバーハングしている。滞水時の浸食によるものか。1 層は褐色土ブロックと炭化物を含む。2～4 層では完形の土師器高坏、小型丸底壺、単口縁壺、甕、砥石片などが出土している。砥石片は、砂岩製で面取り (5 面) をしている。長さ 3.2cm、幅 3.7cm、重さ 51.6g を量る。6 層では完形の土師器甕、壺、ミニチュア土器などが出土している。32SD001 との遺構間接合が認められる。また、井戸の基底部では桃の種子が出土している。遺構の廃絶時期は、出土遺物から古墳時代前期後葉頃と考えられる。

32SE020・SE025 出土遺物 (第 180 図～第 182 図)

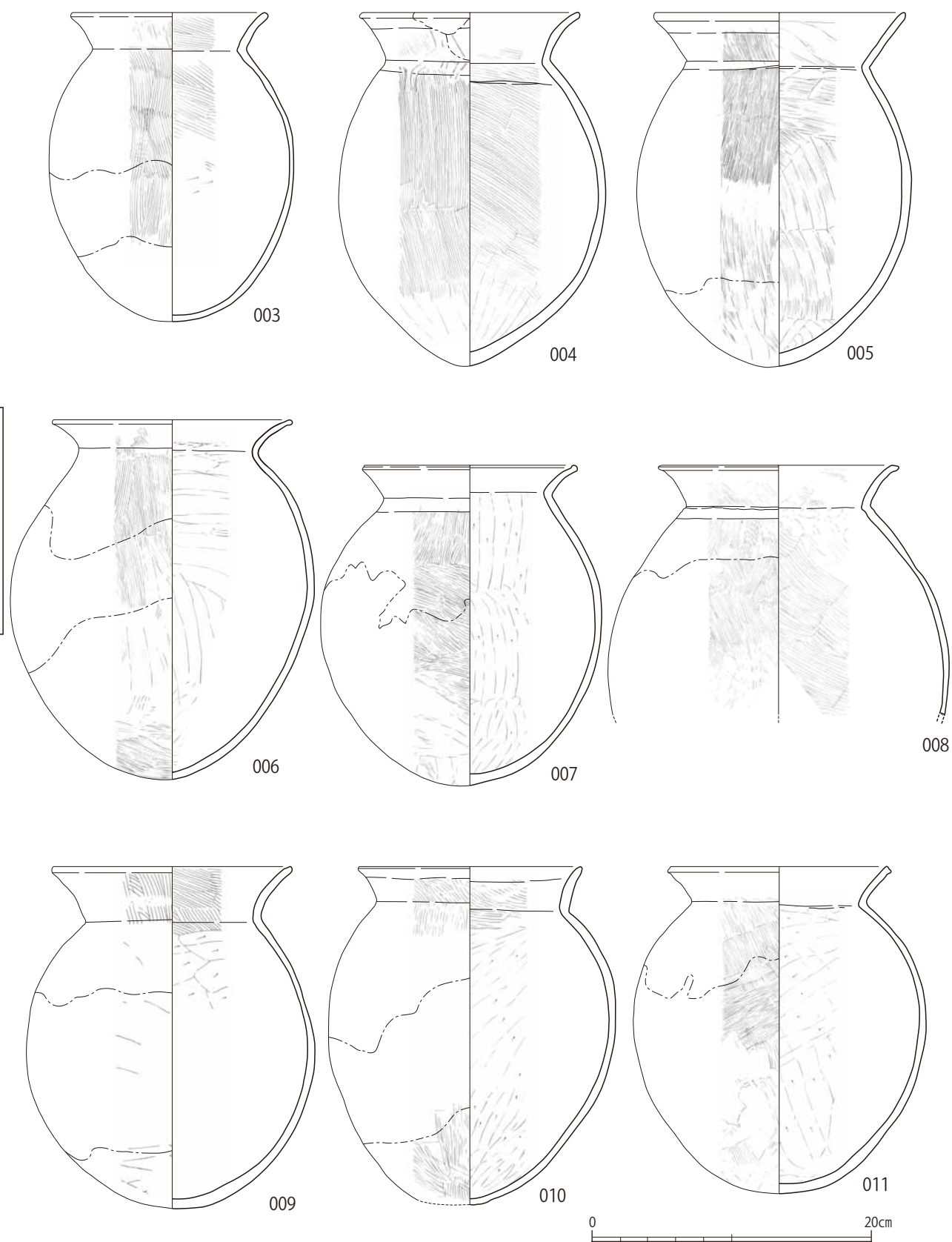
32SE020・32SE025 では遺構間接合がみられるため、出土遺物を一括掲載する。出土遺物は土師器壺・甕で、完形品が 6 点出土している。32SE020 上層と 32SE025 下層の土器片が接合することが整理段階で確認され、それによりほぼ完形に復元できたものも複数点あげられる。ほぼ全個体の外面にスス付着が認められる。

001・002 は壺である。長胴卵形の胴部に短く外傾する口縁部を有する壺 C-a 類で、001 は底部が丸底を呈する。口縁部の中位に稜が認められ、二重口縁形状化への意識が感じられる。32SE020 暗褐色粘質土下層から完形で出土。002 は口縁部が短くやや外反し、底部は丸底を呈する。

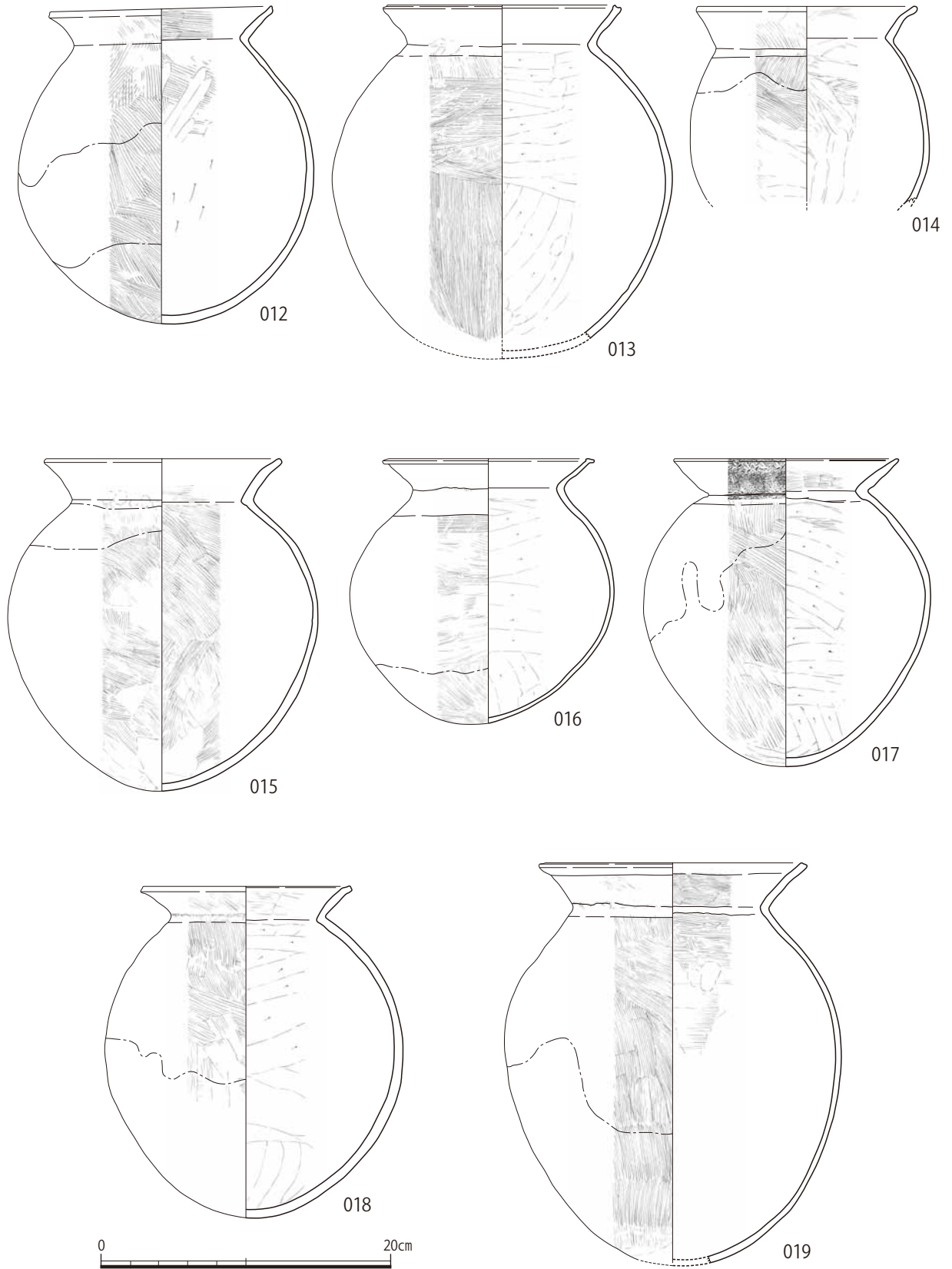
003～019 は甕である。003～005 は胴部が長胴形状を呈するもの (中甕 A) である。003 は口縁部が外反し、丸底を呈する。法量は、口径 14.1cm、器高 22.1cm、最大胴部径 17.5cm を測る。004 は口縁部が外反し、尖底を呈する。005 は口縁部が直線的に外傾し、尖底を呈する。法量は、口径 15.8cm、器高 25.2cm、最大胴部径 19.7cm を測る。004・005 は 32SE020 暗褐粘質土下層から完形で出土。006～019 は胴部が球胴形状を呈するもの (中甕 B) である。006～009 は口縁部がやや外反し、底部は丸底を呈する。006 は口縁端部が肥厚する。法量は、口径 19.2cm、器高 25.7cm、最大胴部径 21.8cm を測る。内面はヘラケズリ。32SE025 黒褐色粘質土から出土。007 は口縁端部をつまみ上げ、内側に丸くおさめる。法量は、口径 15.4cm、器高 22.9cm、最大胴部径 20.1cm を測る。調整は、外面は縦方向のハケ目から横方向のハケ目、内面はヘラケズリ。008 は底部が欠損する資料。調整は、外面は縦方向のハケ目、内面は頸部に指オサエ以下斜め方向のハケ目を施す。009 は、内面上半部にヘラケズリ。法量は、口径 17.2cm、器高 24.4cm、最大胴部径 20.6cm を測る。内外面にススが



第 180 図 32SE020・025 出土遺物実測図 1 (1/4)



第 181 図 32SE020・025 出土遺物実測図 2 (1/4)



第 182 図 32SE020・025 出土遺物実測図 3 (1/4)

付着。007・009 は 32SE020 暗褐粘質土下層から完形で出土。010 ～ 019 は、口縁部が直線的に外傾し、底部は丸底を呈する。010 は口縁部が肥厚気味。法量は、口径 16.0cm、器高 24.1cm、最大胴部径 20.6cm を測る。調整は、外面は上部と底部は縦方向のハケ目、内面はハケ目・ケズリを施す。011 は口縁端部を平坦にし、沈線状の凹みがみられる。調整は、外面は縦方向のハケ目から横方向のハケ目、内面は頸部に指オサエ、以下はケズリを施す。32SE020 下層の出土。012 は最大胴部径が中位で、球形化の進んだタイプである。法量は口径 15.4cm、器高 21.9cm、最大胴部径 20.2cm を測る。調整は、外面は縦方向のハケ目から斜め・横方向のハケ目、内面は横方向のハケ目・ケズリを施す。013・018・019 口縁端部を平坦にし、沈線状の凹みがみられる。外面の調整は、縦方向のハケ目・横方向のハケ目が施される。内面の調整は、013・018 はケズリ、019 はハケ目・指オサエが施される。014 は口縁端部が肥厚する。底部を欠損する資料である。017 は口縁部が肥厚する。法量は、口径 15.5cm、器高 21.2cm、最大胴部径 19.9cm を測る。調整は、内面に横方向のハケ目後ケズリ、外面は体部の上位は縦方向のハケ目から横方向のハケ目を施す。015・017 は 32SE025 暗褐粘質土出土。016 は口縁端部の上面を平坦に仕上げる。法量は、口径 14.6cm、器高 18.3cm、最大胴部径 18.2cm を測る。調整は、外面は横方向のハケ目、内面はヘラケズリ。018 は 32SE020 上層出土。

出土遺物から、001 のような口縁部が二重口縁を意識した形状の壺は、下郡遺跡群 90SH020 が示すような古墳時代前期中葉頃の壺と同様の形状をなす。内面の調整はヘラケズリで仕上げられる。甕は長胴のものや尖底を呈する古い様相がみられるが、球形化が進み丸底を呈する新しい様相のものが大半を占める。調整も、内面の調整にケズリを施すことや 017 の甕のように外面の調整が頸部から肩部付近は縦方向のハケ目、それ以下は横方向のハケ目に転じるなど外来系技術の影響を受けている。全体の様相は古墳時代前期前葉から前期中葉頃と考えられる。

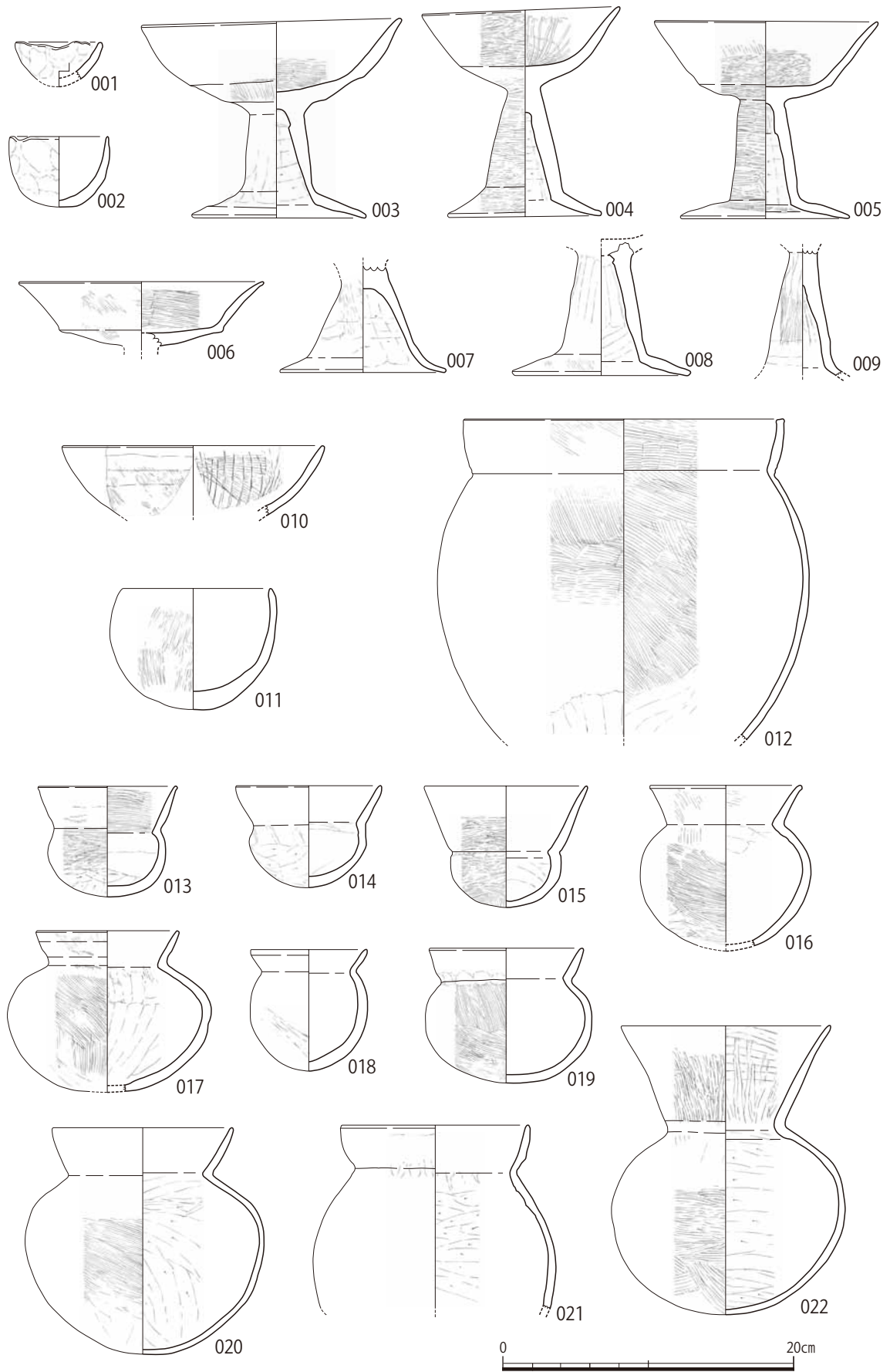
32SE030 出土遺物（第 183 図～第 186 図）

出土遺物は、ミニチュア土器、土師器高坏、鉢、壺、甕がある。

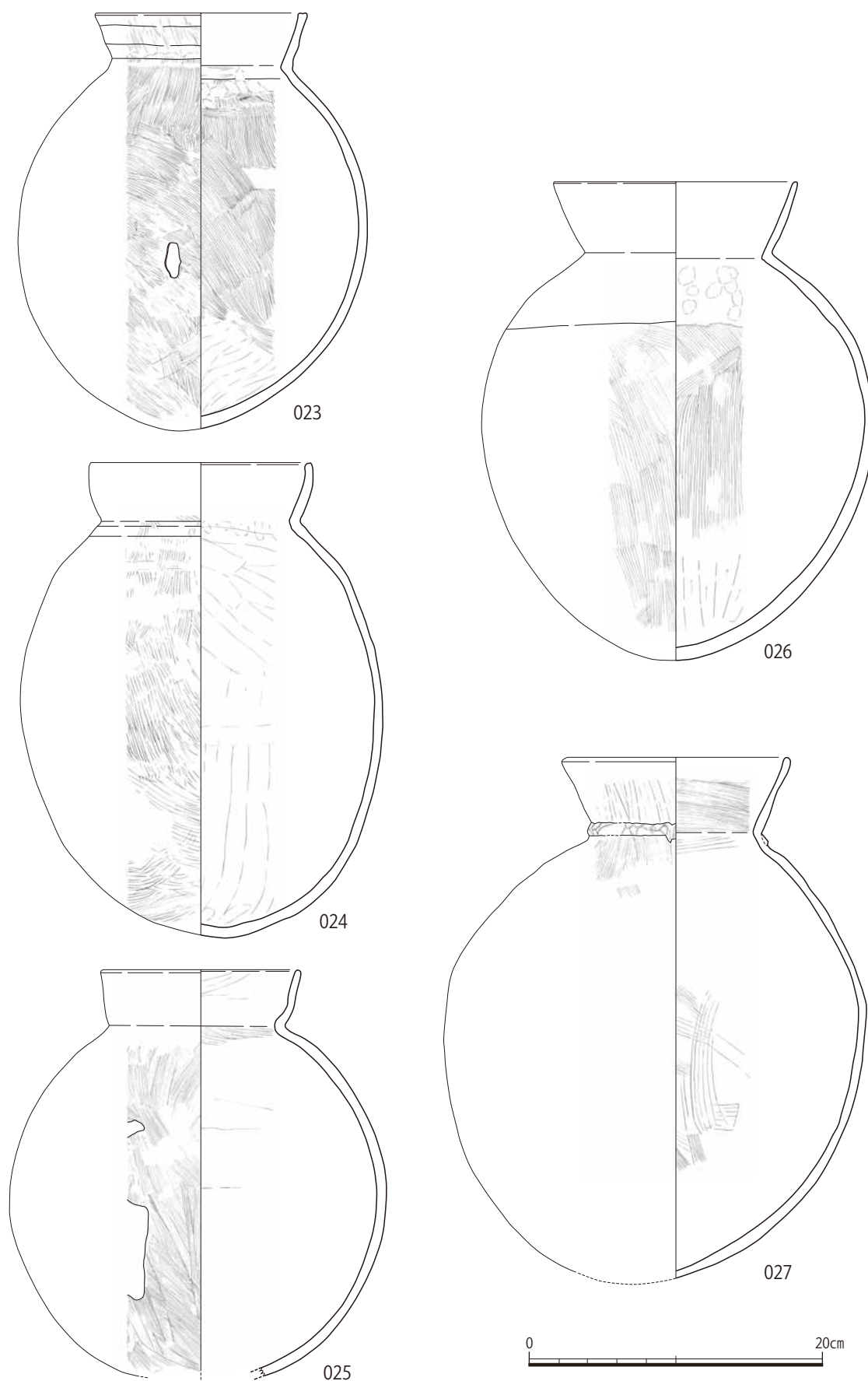
001・002 はミニチュア土器鉢である。003 ～ 009 は高坏である。003 ～ 005 は稜をもって直線的に外傾する坏部に、脚柱部から稜をもって低平に屈曲する脚をもつ高坏 C 類。003 は、坏の深さが器高の 1/3 前後の浅い坏部をもつ高坏 Cd 類。口径は 17.8cm を測る。004・005 で、小さめの坏部に脚部が細長く稜をもって低平に屈曲する高坏 Ce 類。いずれも完形で出土した。004 は外面が丁寧なミガキで、坏内面には放射状のミガキを施す。脚柱部はエンタシス状を呈する。口径 13.6cm を測る。005 は 004 に比べ器壁が薄く、坏底部の平坦化が進んでいる。内外面ともに丁寧なミガキがみられる。口径 15.4cm を測る。006 は坏部 C 類の資料。口縁端部を外側に丸くおさめる。007 ～ 009 は坏部 C 類と組合せられる脚部の資料である。007 はラッパ状で直線的に広がる脚部（脚 c 類）で、内面はヘラケズリ。008 は脚柱部から稜をもって低平に屈曲する脚部（脚 e 類）である。009 は脚柱部のみ残存する資料。004 と同様の高坏 Ce 類と考えられる。外面はハケで 004 に比べ雑な仕上がりである。

010 ～ 012 は鉢である。010 は底部が欠損しているが、坏・皿状に近い形状の鉢（鉢 A）と考えられる。内面は放射状のミガキを施す。011 は 010 より深く、口縁部が内湾する椀状を呈する鉢（鉢 B）である。口縁端部は細く先細るのに対し、底部は肉厚である。012 は口縁部が屈曲し深いタイプの鉢（鉢 D）である。口縁部は内湾して立ち上がり、端部は平坦に仕上げる。底部は欠損している。

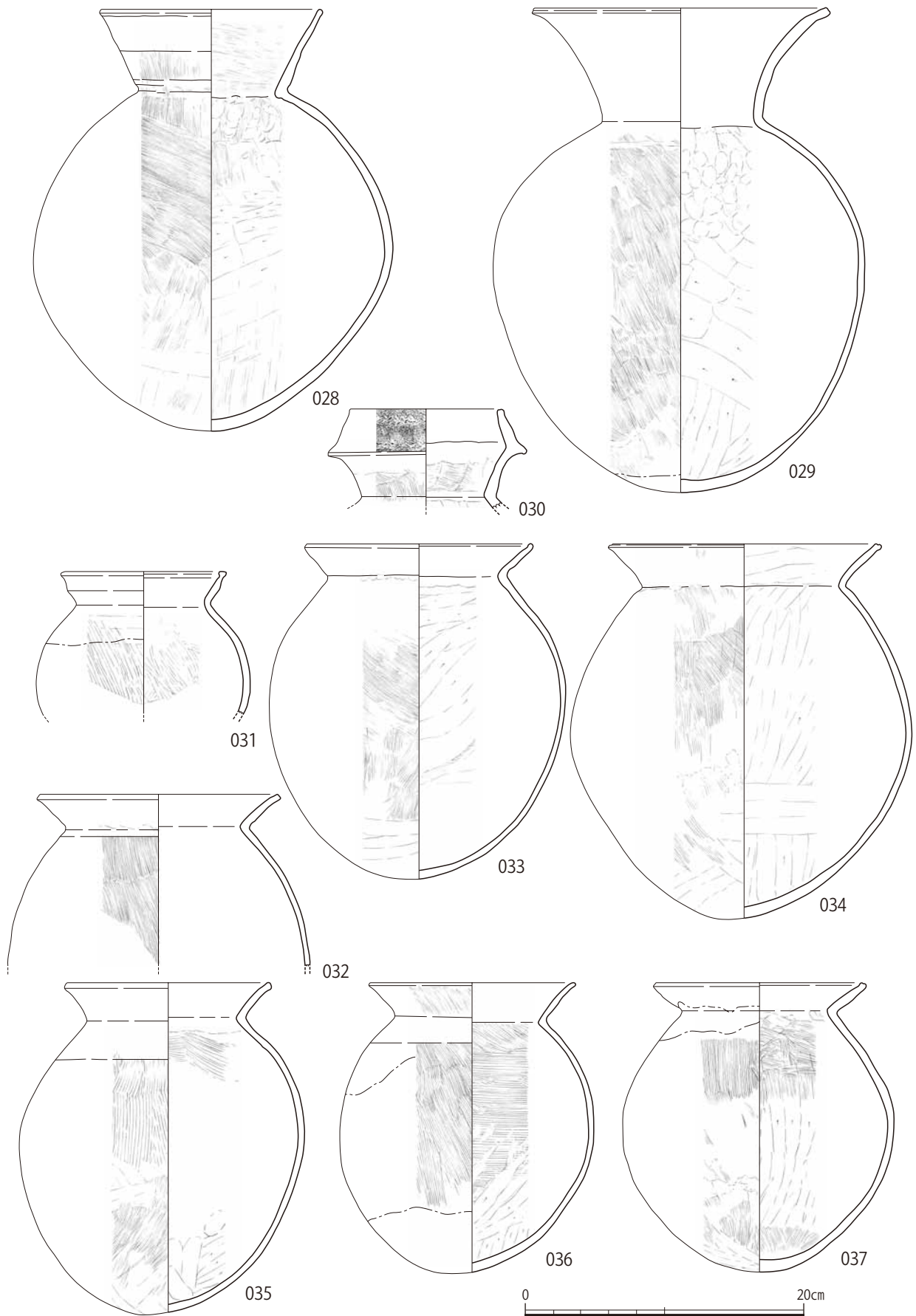
013 ～ 030 は壺である。013 ～ 020 は小形の丸底壺である。013・014 は壺 A-a 類で口径を器高が上回り、偏球形の体部に器高の 1/3 程度の口縁部が内湾気味に広がる。013 は口縁部が肥厚気味で端部を外方に丸くおさめる。外面は丁寧なミガキで、底部はヘラケズリ。014 は体部外面の大半がヘラケズリ。014 は完形で出土。015 は壺 A-b 類で、口径が器高を上回り、口縁部高が器高の 1/2 以上のものである。外面はヨコナデ後ミガキで、底部はハケ目調整。色調は内面黄灰色、外面にぶい黄橙色。016 ～ 017 は壺 A-f 類で、口縁部高が概ね器高の 1/4 以下で最大胴部径が体部にあるものである。016 は口縁端部がやや外方に丸くおさめられる。017 は



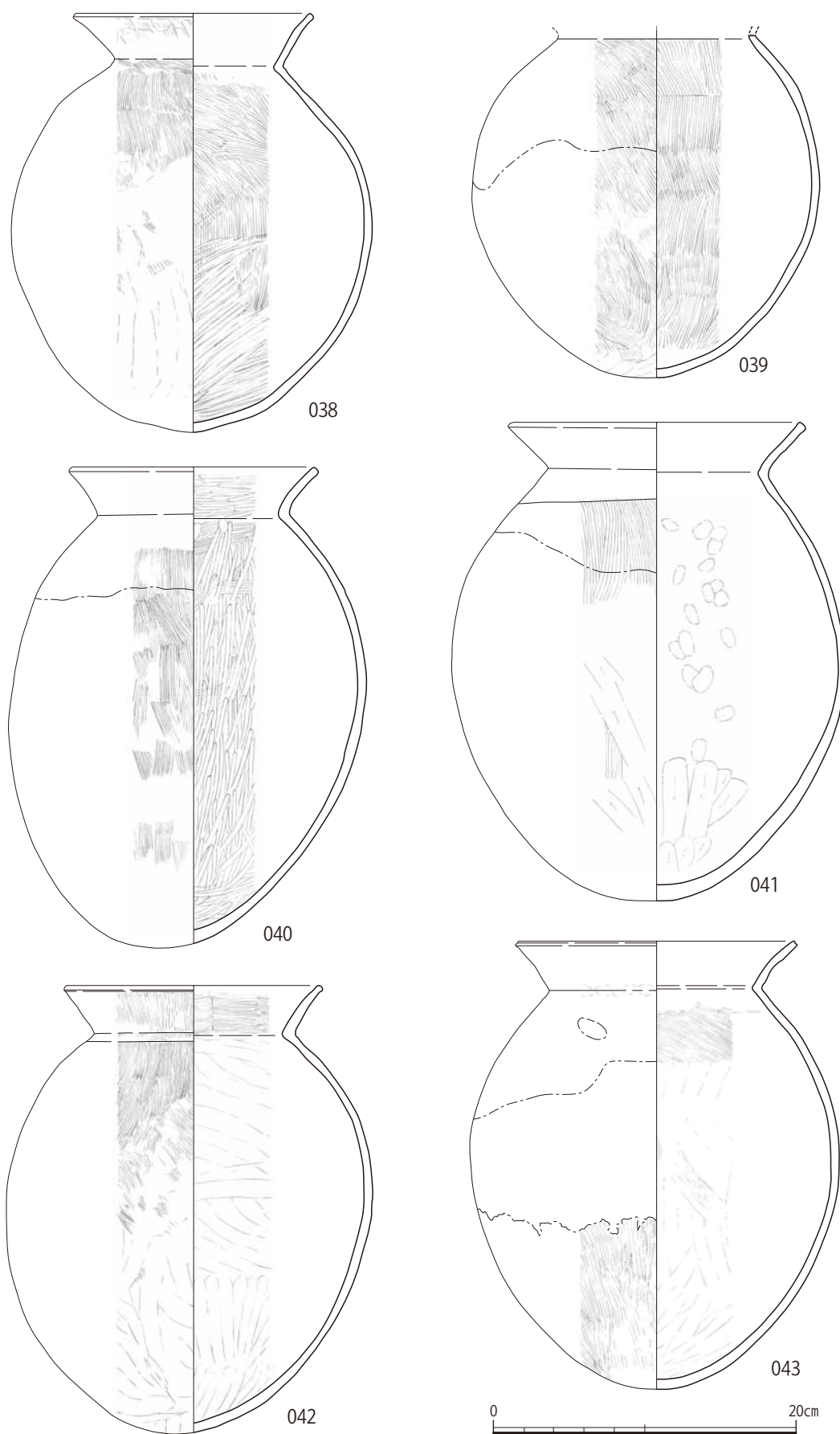
第 183 図 32SE030 出土遺物実測図 1 (1/4)



第 184 図 32SE030 出土遺物実測図 2 (1/4)



第 185 図 32SE030 出土遺物実測図 3 (1/4)



第 186 図 32SE030 出土遺物実測図 4 (1/4)

口縁部が肥厚気味。018・019は壺A-g類で、鉢状の体部に短い口縁部がつくものである。口縁部は肥厚している。暗褐色砂質土から完形で出土した。

020・022は直口壺である。020は壺B-a類で、口縁部は内湾気味に広がり、体部は内面のヘラケズリにより器壁は薄い。022は壺B-b類で口縁部の高さが器高の1/3以上のものである。口縁部は内外面ともにミガキを施す。暗褐色砂質土(上層)から005の完形の高坏とともに出土している。021・023～029は単口縁壺である。021・023～027は長胴卵形の胴部に外方に短く開く口縁部をもつ壺C-a類。021は底部が欠損し、口縁部は内湾して立ち上がり肥厚している。023は口縁部が肥厚し、口縁端部は上面に沈線状の凹みが認められる。体部側面には穿孔が1箇所認められる。024は口縁部が内湾して立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。025は底部が欠損している。体部の球胴化が進み、023・024より新しい様相である。026・027は壺C-b類で、口縁部が壺C-a類より長いものである。026は口縁端部に向かって細くなり、口縁端部は丸くおさめる。027は頸部に突帯を貼り付ける。028・029は壺C-c類で、体部は球形胴化が進み、外方へ大きく開く口縁部をもつものである。028は最大胴部径が体部の中位で、底部は丸底を呈する。内面はケズリで、器壁も薄い。029は口縁部が外反し、口縁端部は沈線状の凹みがみられる。体部の内面はケズリで器壁は薄い。底部は丸底を呈する。

030は小形の複合口壺の口縁部である。安国寺式タイプの複合口縁で頸部に突帯は認められないため、壺D-c類と考えられる。複合口縁部は内傾し、2段のやや粗雑な櫛描波状文が施文される。

031～042は甕である。031は小形の甕の口縁部である。口縁部は肥厚し、口縁端部は平坦に仕上げ、内側に丸くおさめる。底部は欠損しているが球形タイプのもと考えられる。

032～039は中形の甕で球形タイプ(中甕B類)のものである。口縁部は直線的に広がり、底部は丸底を呈する。032は底部が欠損。033は口縁端部が肥厚し内側に丸くおさめている。法量は口径16.4cm、器高24.0cm、最大胴部径21.1cmを測る。調整は、外面横方向のハケ目から縦方向のハケ目へと移行する。内面はヘラケズリ。034は口縁端部に沈線状の凹みがみられる。内面調整はヘラケズリ。外面にススが付着。035は口縁端部を内側に丸くおさめる。調整は外面縦方向のハケ目、内面は上部はハケ目・底部はケズリ・指オサエを施す。036は完形の資料。口縁端部を外側に丸くおさめる。法量は口径14.8cm、器高20.8cm、最大胴部径18.0cmを測る。調整は外面縦方向のハケ目、内面は横方向のハケ目・底部ヘラケズリを施す。037は口縁部が肥厚し、口縁端部は平坦に仕上げ内側におさめる。法量は、口径15.2cm、器高20.7cm、最大胴部径19.4cmを測る。調整は、外面縦方向のハケ目・ナデ、内面横方向のハケ目から縦方向のハケ目・胴部はヘラケズリを施す。外面にススが付着。038は口縁端部を丸くおさめる。法量は、復元口径15.8cm、器高27.6cm、最大胴部径23.9cmを測る。039は胴部のみが残存する資料で、歪みが大きい。調整は、内外面縦方向のハケ目を施す。

040～043は大形の甕である。040は長胴タイプの甕(大甕A)で、ほぼ完形の資料である。口縁部は直線的に広がり、底部は丸底を呈する。法量は、口径16.4cm、器高31.7cm、最大胴部径23.4cmを測る。調整は、外面縦方向のハケ目、内面はミガキを施す。外面にはススが付着。041～043は球胴タイプの甕(甕B)である。口縁部は直線的に外傾し、底部は丸底を呈する。口縁端部は肥厚している。041はほぼ完形の資料である。口縁端部は平坦に仕上げる。法量は、口径19.6cm、器高31.5cm、最大胴部径25.5cmを測る。調整は、外面には縦方向のハケ目・ヘラケズリを施す。内面は頸部から胴部に指オサエ、底部にはヘラケズリを施す。外面にはススが付着。042は完形の資料。口縁端部は外側に丸くおさめる。法量は、口径18.5cm、器高29.5cm、最大胴部径24.2cmを測る。043はほぼ完形の資料である。口縁端部が沈線状の凹みがみられる。法量は、口径18.5cm、29.5cm、最大胴部径24.3cmを測る。調整は、外面は指オサエ・縦方向のハケ目、内面は斜め方向のハケ目・ケズリを施す。

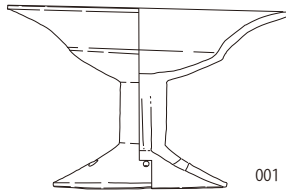
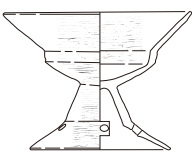
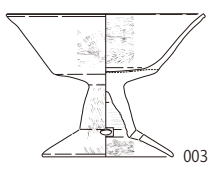
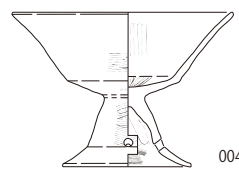
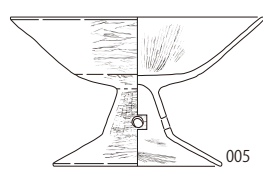
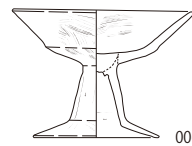
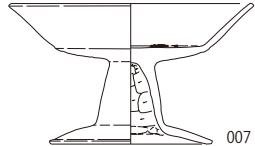
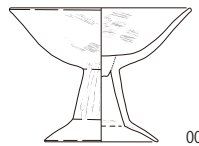
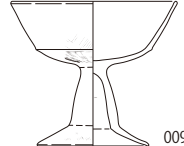
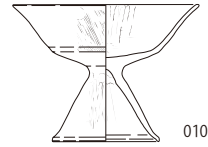
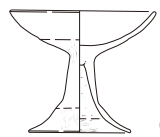

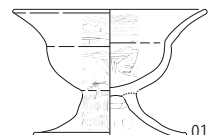
004・005は植田市遺跡E区溝Iを標識とする古墳時代前期中葉から前期後葉の布留式系高坏と同様のものである。それ以外の器種においても、015の小型丸底壺は口縁部高が器高の1/2以上を測る口縁部が伸長したもの、鉢・壺・甕では内面の調整にヘラケズリを施す。甕では040のように内面の調整が下部にヘラケズリが施され、上部に指オサエが施されるものなど、古墳時代前期中葉でも新相を示すものもみられる。全体の遺物の様相は、古墳時代前期中葉(新相)から前期後葉の頃と考えられる。

大道遺跡第20・23・32次出土の土師器高坏の分類について

高坏の分類は、坏部と脚部で二分されることから下記のように行った。

高坏C類は脚部にバリエーションがあるため、さらに細分した。

- 高坏A類 坏部が稜をもって大きく外反する口縁部をもち、
脚部は脚柱部が円柱状で稜をもって屈曲する脚裾部を有するもの
- 高坏B類 坏下半部が有段を呈し、概ね直線的に外傾する口縁部をもち、
脚柱部の下部に広がりをもち稜をもって屈曲する脚裾部を有するもの
- 高坏C類 坏部が稜をもって概ね直線的に外傾する口縁部をもつもの
- 脚a類 脚柱部の下部に広がりをもち稜をもって屈曲するもの
- 脚b類 脚柱部から稜をもって低平に屈曲する脚裾部を有するもの
- 脚c類 ラッパ状で稜をもたずに直線的に広がるもの
- 脚d類 長脚で稜をもって緩やかに広がる脚裾部を有するもの
- 脚e類 脚柱部が細長く、稜をもって低平に屈曲する脚裾部を有するもの
- 高坏D類 坏部が深く緩やかに外反する口縁部をもち、低脚でラッパ状に広がるもの

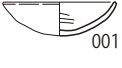



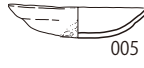

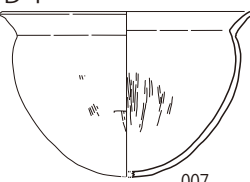
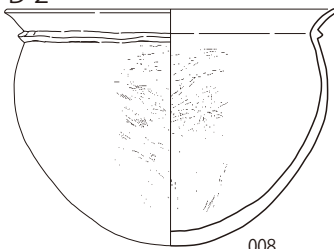
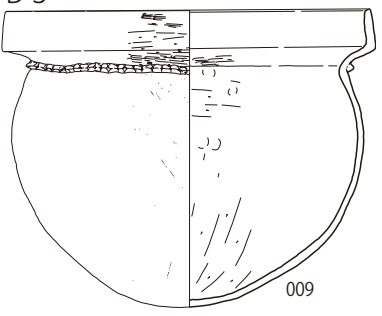




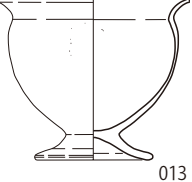


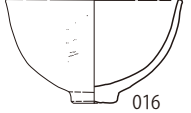
高坏A類		001	高坏B類		002			
高坏C類	〈Ca〉 	003		004		005		
	〈Cb〉 	006		007		008		009
	〈Cc〉 	010	<div>《掲載遺物一覧》</div> <div>001:第101図 024 008:第102図 036 002:第61図 012 009:第24図 034 003:第61図 017 010:第24図 040 004:第62図 024 011:第103図 045 005:第62図 030 012:第103図 047 006:第102図 032 013:第63図 031 007:第23図 033</div>					
	〈Cd〉 	011						
	〈Ce〉 	012						
高坏D類		013						

第 187 図 第 20・23・32 次調査出土土師器（高坏）分類図（1/8）

大道遺跡 20・23・32 次出土土師器の分類について

鉢形土器に関しては、以下の通りに分類した。

- ・ A 類 坏・皿に近い形状をしたもの
 - A 1 浅いもの(口縁部/器高の数値が 2.5 を超えるもの)
 - A 2 深いもの(口縁部/器高の数値が 1.5 から 2.5 のもの)
- ・ B 類 A 類よりも深い形状のもの
 - B 1 浅いもの(口縁部/器高の数値が 1.0 から 1.5 のもの)
 - B 2 深いもの(口縁部/器高の数値が 1.0 に満たないもの)
- ・ C 類 口縁部が屈曲した浅い鉢
 - C 1 浅いもの(口縁部/器高の数値が 2.5 を超えるもの)
 - C 2 深いもの(口縁部/器高の数値が 2.5 に満たないもの)
- ・ D 類 口縁部が屈曲した深い鉢
 - D 1 小～中形のもの(口縁部径 35cm 未満のもの)
 - D 2 大形のもの(口縁部径 35cm 以上のもの)
 - D 3 山陰系折衷とされるもの
- ・ E 類 坏・碗の形状を持つ台付鉢
- ・ F 類 口縁部が屈曲した台付鉢
- ・ G 類 平底の鉢
 - G 1 小形のもの(18cm 未満のもの)
 - G 2 G 1 よりも大きいもの(18cm 以上のもの)

鉢 A	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">A 1  001</div> <div style="text-align: center;">A 2  002</div> </div>	鉢 B	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">B 1  003</div> <div style="text-align: center;">B 2  004</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">鉢 C  005</div> <div style="text-align: center;">C 2  006</div> </div>
鉢 D	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">D 1  007</div> <div style="text-align: center;">D 2  008</div> <div style="text-align: center;">D 3  009</div> </div> <div style="margin-top: 10px;">  </div>		
鉢 E	 010  011  012	鉢 F	<div style="display: flex; align-items: center;">  013 </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">鉢 G</div> <div style="margin-left: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">G 1  014</div> <div style="text-align: center;">G 2  015</div> <div style="text-align: center;">G 2  016</div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p><掲載遺物一覧></p> <p>001 : 第 105 図 008, 007 : 第 107 図 075, 013 : 第 30 図 064, 002 : 第 105 図 035, 008 : 第 108 図 083, 014 : 第 65 図 016, 003 : 第 106 図 045, 009 : 第 109 図 087, 015 : 第 106 図 049, 004 : 第 106 図 048, 010 : 第 106 図 054, 016 : 第 106 図 050, 005 : 第 28 図 040, 011 : 第 65 図 024, 006 : 第 106 図 064, 012 : 第 28 図 045,</p> </div> </div> </div>

第 188 図 第 20・23・32 次調査出土土師器(鉢)分類図(1/8)

壺 A 類：小形の丸底壺・鉢

- A-a：体部が偏球形で、口径が器高より大きく、さらに口縁部が内湾気味に大きく広がり、口縁部高が体部高と同じかやや小さいもの。
- A-b：a 類より口縁部が伸長したもので、口縁部高が器高の $1/2$ を超えるもの。
- A-c：器高が口径の $1/2$ より小さく、浅い鉢状の体部に、おおむね体部高より小さい口縁部がつくもの。
- A-d：内湾しつつ開きながら立ち上がる体部に、短い口縁部がつくもの。
- A-e：体部が偏球形で、器高の $1/3$ 程度の口縁部が直線的に立ち上がり、口縁部径が体部最大径に近いもの。
- A-f：体部が球形ないし偏球形で、口縁部高がおおむね器高の $1/4$ 以下で、最大径が体部にあるもの。
- A-g：内湾しつつすばまる鉢状の体部に短い口縁部がつくもの。
- A-h：口径が器高あるいは、胴部最大径より小さいもの。

壺 B 類：直口壺

- B-a：口縁部が器高の $1/3$ 以上のもの。
- B-b：口縁部が器高の $1/3$ 未満のもの。

壺 C 類：単口縁壺

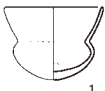
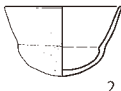

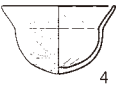
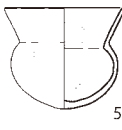

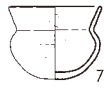
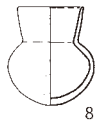
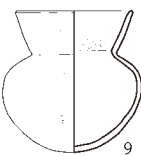
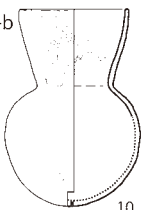
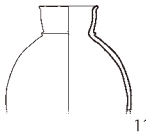
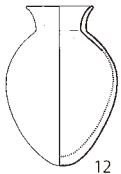
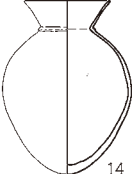
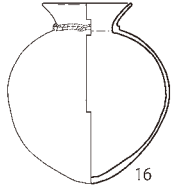
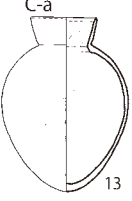
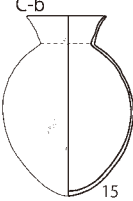
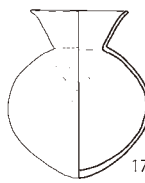
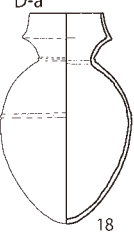
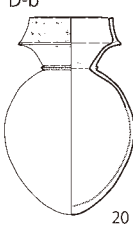
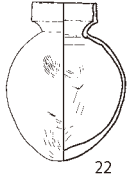
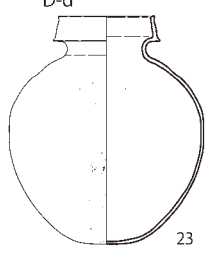
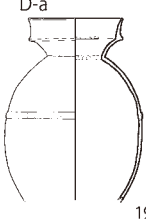
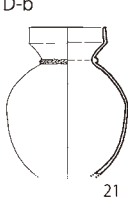
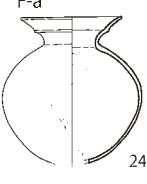
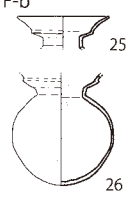
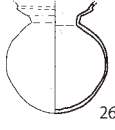
- C-a：長胴形の胴部に、外反ないし内湾気味に外方へ開く、短い口縁部を有するもの。
- C-b：長胴形の胴部に、a 類より長い外方へ開く口縁部を有するもの。
- C-c：球形胴化のすすんだ胴部に直線的に外方へ大きく開く口縁部を有するもの。

壺 D 類：複合口縁壺

- D-a：安国寺式タイプの複合口縁壺で胴部に突帯があるもの。
- D-b：安国寺式タイプの複合口縁壺で胴部に突帯がないもの。
- D-c：安国寺式タイプの複合口縁壺で胴部、頸部に突帯がないもの。
- D-d：外来系（山陰系）と考えられる複合口縁壺で、複合口縁部が発達し、内傾もしくは、直立するもの。

壺 E 類：二重口縁壺

- E-a：一次口縁との境がスムーズで、二次口縁部が大きく外反するもの。
- E-b：頸部が筒状を呈し、一次口縁との境が明瞭なもの。

壺A類	<div><div>A-a</div><div>1</div></div> <div><div>A-b</div><div>2</div></div> <div><div>A-c</div><div>3</div></div> <div><div>A-d</div><div>4</div></div> <div><div>A-e</div><div>5</div></div> <div><div>A-f</div><div>6</div></div> <div><div>A-g</div><div>7</div></div> <div><div>A-h</div><div>8</div></div>
壺B類	<div><div>B-a</div><div>9</div></div> <div><div>B-b</div><div>10</div></div> <div>1 ~ 10 : 1/8</div>
壺C類	<div><div>C-a</div><div>11</div></div> <div><div>C-a</div><div>12</div></div> <div><div>C-b</div><div>14</div></div> <div><div>C-c</div><div>16</div></div> <div><div>C-a</div><div>13</div></div> <div><div>C-b</div><div>15</div></div> <div><div>C-c</div><div>17</div></div>
壺D類	<div><div>D-a</div><div>18</div></div> <div><div>D-b</div><div>20</div></div> <div><div>D-c</div><div>22</div></div> <div><div>D-d</div><div>23</div></div> <div><div>D-a</div><div>19</div></div> <div><div>D-b</div><div>21</div></div>
壺F類	<div><div>F-a</div><div>24</div></div> <div><div>F-b</div><div>25</div></div> <div><div>26</div></div>

《掲載遺物一覧》

1 : 第 111 図 193	11 : 第 113 図 253	21 : 第 121 図 295
2 : 第 111 図 199	12 : 第 114 図 259	22 : 第 122 図 299
3 : 第 111 図 214	13 : 第 114 図 257	23 : 第 123 図 307
4 : 第 111 図 219	14 : 第 115 図 268	24 : 第 124 図 311
5 : 第 111 図 220	15 : 第 116 図 271	25 : 第 124 図 316
6 : 第 112 図 223	16 : 第 117 図 276	26 : 第 124 図 317
7 : 第 112 図 228	17 : 第 117 図 282	
8 : 第 32 図 187	18 : 第 120 図 289	
9 : 第 112 図 239	19 : 第 120 図 290	
10 : 第 112 図 243	20 : 第 120 図 291	

11 ~ 26 : 1/16

第 189 図 第 20・23・32 次調査出土土師器（壺）分類図（1/8・1/16）

大道遺跡群第 20・23・32 次出土の土師器甕の分類について

古墳時代初頭～中頃にかけての土師器甕の様相は先学の指摘するように、弥生時代後期からの在地の系譜を引く甕、他地域から流入した外来系甕、さらにその外来系甕の製作技法を在地の甕に取り入れた甕、外来系甕と在地の甕との折衷系等多種多様である。それらを以下の属性で分類し掲載している。

大甕・・・口径 19cm 以上、器高 29cm 以上

中甕・・・口径 15 ～ 18cm 未満、器高 概ね 18 ～ 28cm 前後

小甕・・・口径 14cm 以下、器高 概ね 18cm 未満

甕 A・・・長胴タイプ（球形率 0.8 以下）

甕 B・・・球形タイプ（球形率 0.81 以上）

1・・・口縁部が外半する

2・・・口縁部が外方に直線的に立ち上がる

a・・・頸部のしまりゆるい（頸部 / 口径の値が 0.75 以上）

b・・・頸部のしまり強い（頸部 / 口径の値が 0.75 未満）

i・・・底部尖底

ii・・・底部丸底

（例）

大甕 A1－a i・・・長胴、頸部のしまりゆるく口縁部は外反し底部尖底

大甕 A1－a ii・・・長胴、頸部のしまりゆるく口縁部は外反し底部丸底

大甕 A1－b i・・・長胴、頸部のしまり強く口縁部は外反し底部尖底

大甕 A1－b ii・・・長胴、頸部のしまり強く口縁部は外反し底部丸底

大甕 A2－a i・・・長胴、頸部のしまりゆるく口縁部は直立気味、底部尖底

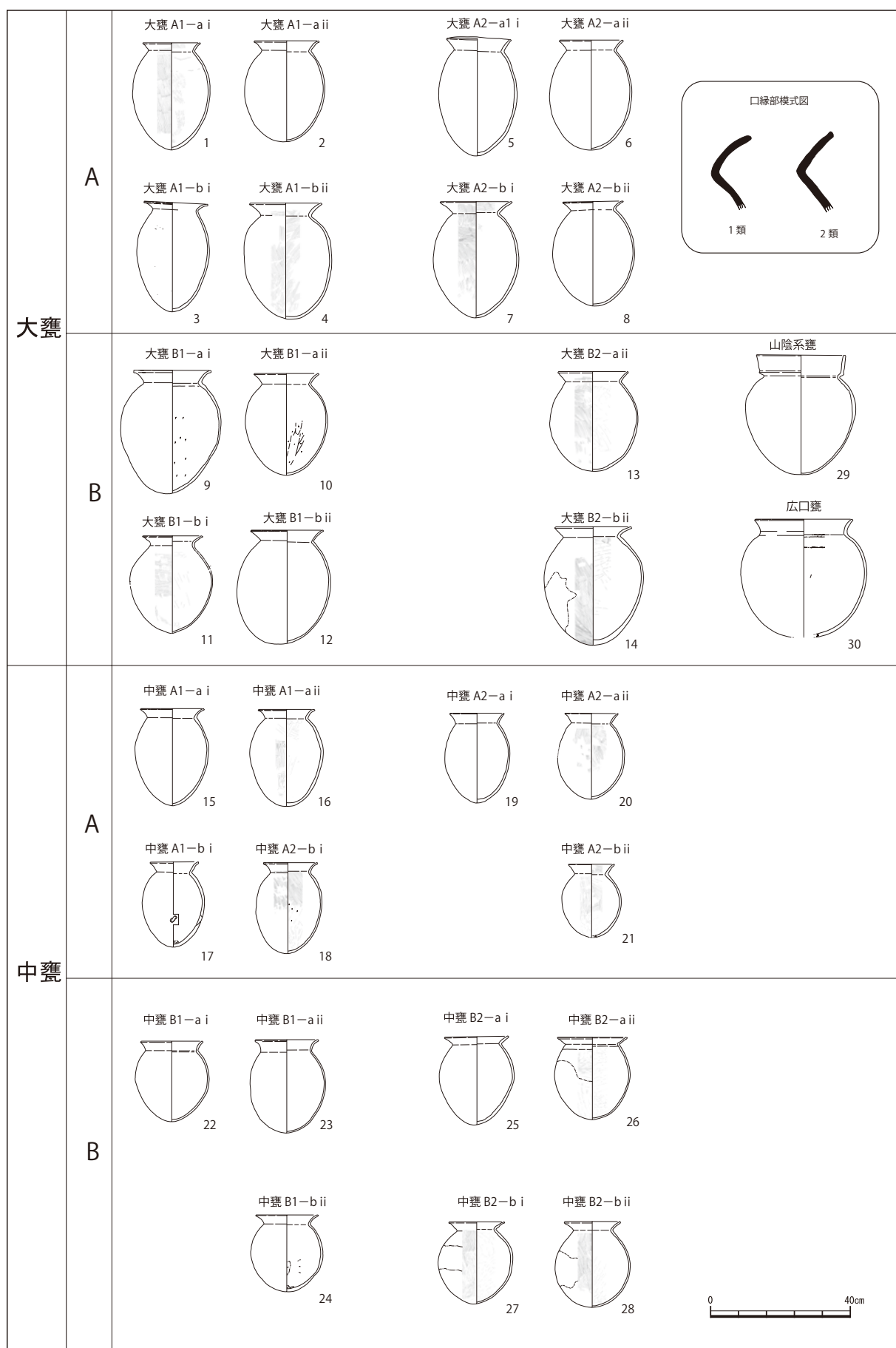
大甕 A2－a ii・・・長胴、頸部のしまりゆるく口縁部は直立気味、底部丸底

大甕 A2－b i・・・長胴、頸部のしまり強く口縁部は直立気味、底部尖底

大甕 A2－b ii・・・長胴、頸部のしまり強く口縁部は直立気味、底部丸底

《掲載遺物一覧》

1：第 76 図 152	2：第 127 図 327	3：第 128 図 333	4：第 77 図 164	5：第 43 図 256
6：第 129 図 343	7：第 78 図 168	8：第 43 図 260	9：第 44 図 261	10：第 131 図 350
11：第 79 図 179	12：第 131 図 351	13：第 172 図 085	14：第 172 図 086	15：第 135 図 378
16：第 81 図 197	17：第 46 図 280	18：第 81 図 202	19：第 47 図 288	20：第 82 図 214
21：第 82 図 215	22：第 138 図 417	23：第 138 図 418	24：第 49 図 310	25：第 140 図 445
26：第 173 図 098	27：第 174 図 103	28：第 174 図 104	29：第 134 図 376	30：第 45 図 270



第 190 図 第 20・23・32 次調査出土土師器 (甕) 分類図 (1/16)

参考文献

- 玉永光洋 1989「第3章考察 1節 大溝出土土器群の時期幅について」『安国寺遺跡』大分県・国東町文化財調査報告書第4集 国東町教育委員会
- 高橋 徹 2001「大分の弥生・古墳時代土器編年」『大分県立歴史博物館研究紀要』2 大分県立歴史博物館
- 坪根伸也 2002「090SH020 出土土器の時間的位置づけについて」『下郡遺跡群Ⅰ』一大分市下郡地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1 大分市教育委員会
- 久住 猛 1999「庄内式併行期の土器生産とその動き」『庄内式土器研究』XⅠⅩ 庄内式土器研究会
- 大分市教育委員会 1979『守岡遺跡』昭和50・51年度発掘調査概報
- 大分市教育委員会 1982『多武尾遺跡調査概報』
- 柳田康雄 1991「土師器の編年2 九州」『古墳時代の研究』6 雄山閣出版
- 大分市教育委員会 1992『賀来中学校遺跡』大分市賀来中学校プール移設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- 大分市教育委員会 1993『羽田遺跡』一大分市営羽田住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一
- 大分県教育委員会 1994『植田市遺跡』一七瀬川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一
- 大分市教育委員会 2005『東田室遺跡2』都市計画道路田室町春日線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- 坪根伸也 2005『下郡遺跡群Ⅲ』一大分市下郡地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2 大分市教育委員会
- 大分県教育委員会 2008『東田室遺跡』大分駅付近連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(7) 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第27集
- 大分市教育委員会 2008『大道遺跡群1』一大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4 大分市教育委員会
- 大分市教育委員会 2009『大道遺跡群2』一大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5 大分市教育委員会
- 大分市教育委員会 2010『大道遺跡群3』一大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6 渡邊 誠 2009「古墳時代開始前後における土器編年研究～山陰地域を素材として～」『島根考古学会誌』第26集
- 重藤輝行 2010「北部九州における古墳時代中期の土師器編年」『古文化談叢』第63集 九州古文化研究会
- 久住町教育委員会・大分県教育委員会 2001『都野原田遺跡』県営担い手育成基盤整備事業久住町都野東部地区に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅴ
- 大分市教育委員会 2005『玉沢地区条里跡』第3次発掘調査報告一植田新都心西部土地区画整理事業及び大規模店舗建設に伴う発掘調査報告書
- 中西武尚・服部真和 2002「古墳時代中・後期の土師器一大分県一」『第5回九州前方後円墳研究会発表要旨資料 古墳時代中・後期の土師器一その編年と地域性』九州前方後円墳研究会
- 寺沢 薫 1986「古式土師器の形式分類」『矢部遺跡』一国道24号線樫原バイパス建設に伴う遺跡調査報告(Ⅱ) 一奈良県立橿原考古学研究所
- 岡山県教育委員会・国土交通省岡山河川事務所 2008『百間川原尾島遺跡7 百間川二の荒手遺跡』旭川放水路(百間川)改修工事に伴う発掘調査ⅩⅦ

第 5 節 特殊遺物について

今次の調査での出土遺物の中で特徴的なものに製塩土器、猿形土製品、土製模造鏡がある。

製塩土器（第 191 図）

第 191 図には、大道遺跡群第 20・23・32 次調査において出土した製塩土器を示している。その数は 16 点におよび、いずれも脚台付タイプであり、古墳時代前期の遺構から出土している。

001 は、32SD001 出土の製塩土器。底部から胴部に伸びる破片。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面淡橙褐色・外面暗橙茶褐色を呈し、内面ナデ、外面タタキ調整がみられる。

002 は、32SD001 出土の製塩土器。底部から胴部に伸びる破片。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面淡黄茶褐色・外面橙褐色を呈し、内外面ともにナデ調整がみられる。

003 は、20SD001 出土の製塩土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。

004 は、20SD001 出土の製塩土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面淡橙褐色・外面暗橙茶褐色を呈する。

005 は、20SD001 出土の製塩土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面淡橙褐色・外面淡黒褐色を呈する。調整は内面ナデ、外面タタキ痕が認められ、底径 4.6cm を測る。

006 は 20SD001 出土の製塩土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面淡橙褐色・外面淡黒褐色を呈する。調整は内面ナデ、外面タタキ痕が認められ、底径 4.6cm を測る。

007 は、20SD001 出土の製塩土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内外面淡黄褐色を呈する。調整は内面ナデ、外面タタキ痕が認められ、底径 5.6cm を測る。

008 は、20SD001 出土の製塩土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石・赤色粒子を含み色調は内面淡黄褐色・外面淡橙褐色を呈する。調整は内面ナデ、外面タタキ痕が認められ、底径 5.6cm を測る。

009 は、20SD001 出土の製塩土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石・褐色粒子を含み色調は内面淡橙褐色・外面淡黒褐色を呈する。調整は内面ナデ、外面タタキ痕が認められ、底径 6.0cm を測る。

010 は、20SD001 出土の製塩土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面淡橙褐色・外面淡黒褐色を呈する。調整は内面ナデ、外面タタキ痕が認められ、底径 5.3cm を測る。

011 は、20SD001 出土の製塩土器。内面ナデ、外面に指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面灰黒色・外面淡黄褐色を呈する。調整は内面ナデ、指押さえ痕とナデが認められ、底径 5.6cm を測る。

012 は、23SD001 出土の製塩土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面淡黄茶褐色・外面淡黄白色～橙褐色を呈する。調整は内外面ナデが認められ、底径 4.0cm を測る。

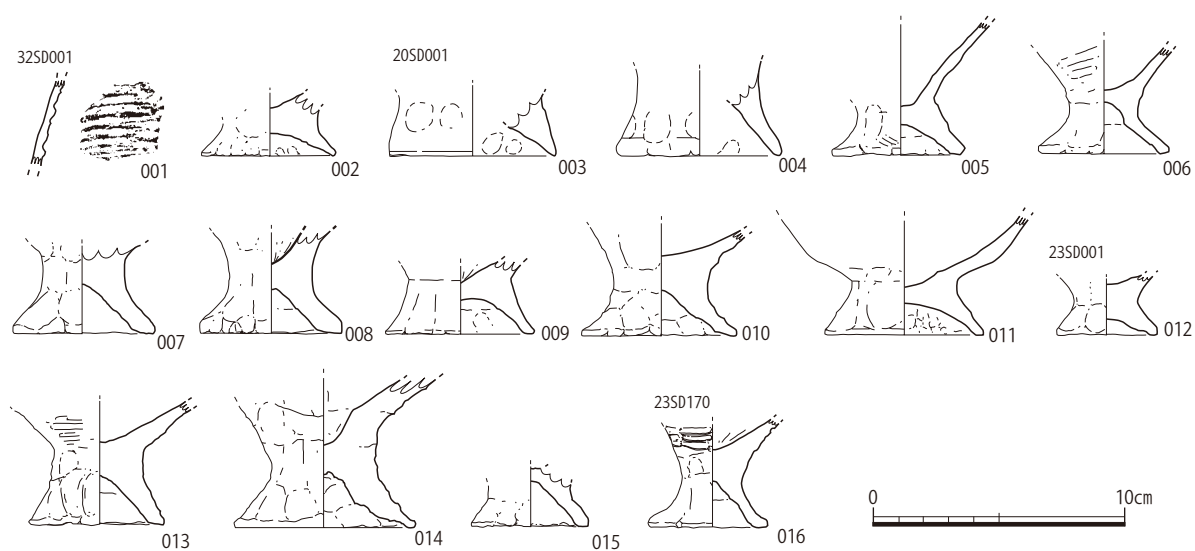
013 は、20SD001 出土の製塩土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面淡橙褐色・外面淡黒褐色を呈する。調整は内面ナデ、外面タタキ痕が認められ、底径 4.6～5.4cm を測る。

014 は、23SD001 出土の製塩土器。内外面ともに指頭圧痕が認められる。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内外面明橙褐色～淡黄褐色を呈する。調整は内面ナデ、外面指押さえと粗いナデが認められ、底径 6.3cm を測る。

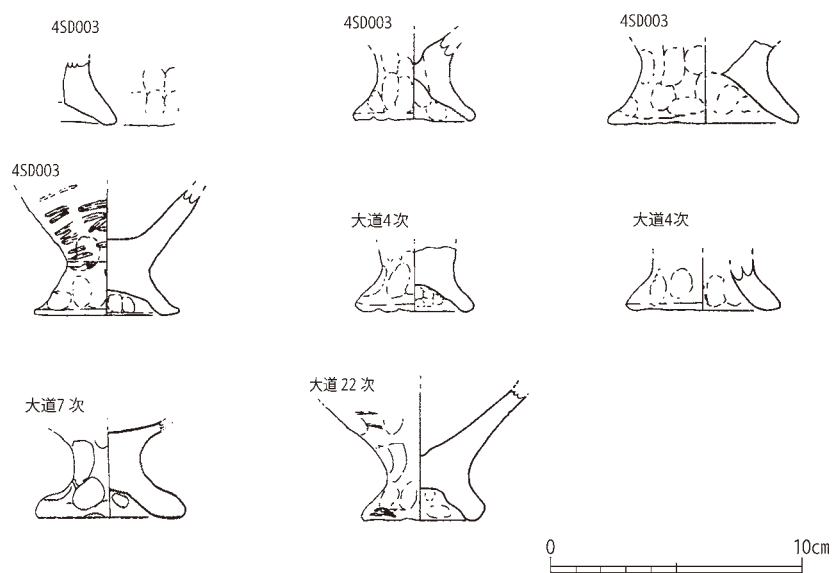
015 は、23SD001 出土の製塩土器。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面黄茶褐色・外面淡橙色を呈する。調整は内外面ともにナデ、底径ともに指頭圧痕が認められる。

016 は、23SD170 出土の製塩土器。胎土は石英・角閃石粒を含み色調は内面淡黄灰褐色・外面橙褐色を呈する。調整は内面ナデ、外面タタキ痕が認められ、底径 4.8cm を測る。

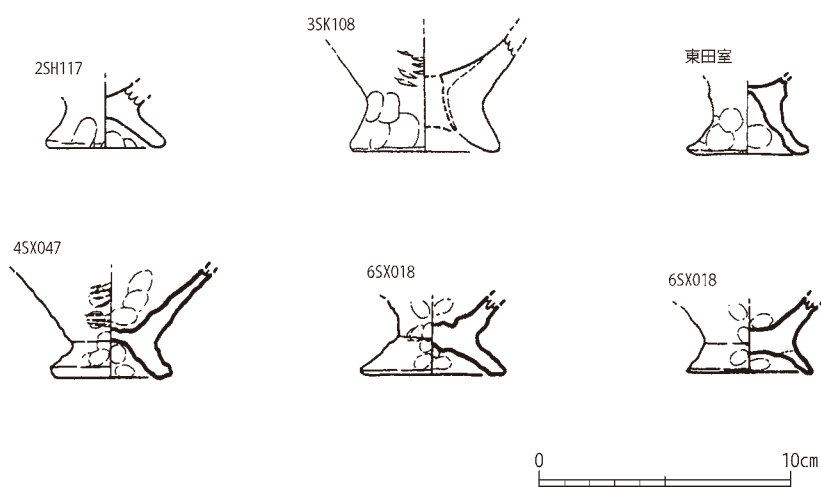
大道遺跡群や隣接する東室田遺跡では、すでに報告済みの調査地点でも同種の製塩土器の出土が確認されており、第 192・193 図に示している。大分平野に脚台付製塩土器の出土が認められるのは、古墳時代前期（布留Ⅰ式）の段階であり、大野川中流域、大分川上流域等に出土が認められるようになるのもほぼ同じ時期である。しかし



第 191 図 大道遺跡群第 20 次・23 次・32 次出土製塩土器実測図 (1/3)



第 192 図 大道遺跡群第 4 次・7 次・22 次出土製塩土器実測図 (1/3)

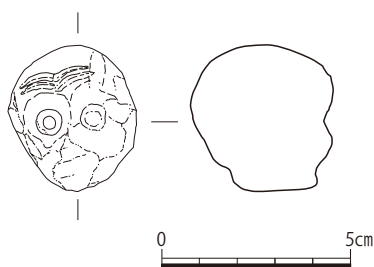


第 193 図 東田室遺跡出土製塩土器実測図 (1/3)

ながら、各遺跡から出土する製塩土器の数は 1 点、あるいは数点とごく僅かであり、水系を介した遺跡間のネットワークによって別府湾沿岸地域から持ち込まれたものと考えられる。

こうした状況とは対照的に、大道遺跡群や近接する東田室遺跡からは比較的まとまった出土が認められる。このような様相は大分川の対岸に位置する下郡遺跡群で製塩土器の出土数が数点であるという点と大きく異なっており、大分川河口付近の左岸一帯の特殊性を示している。

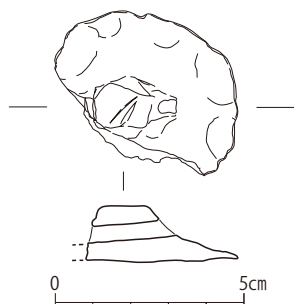
また、製塩土器の胎土を観察すると、大野川流域で出土する資料には、比較的大きめの石英や角閃石を含む資料が多い。それに対し、大道遺跡群をはじめとする大分川河口付近の遺跡で出土する製塩土器の胎土には、粒子の小さい石英粒を含む資料が大多数（8 割以上）認められるという差異がある。こうした事実は、両者の生産地が異なる可能性を強くするものである。つまり、大分市東部に位置する大野川河口付近の旧海部群域とは別に、旧大分郡域でも製塩遺跡が営まれていた可能性が示唆されるのである。これまでの調査で製塩遺跡の検出はなされていないが、近隣にその存在を想定した上で、今後の調査を進めていく必要がある。



第 194 図 23SD001 出土猿形土製品実測図(1/2)

猿型土製品（第 194 図）

23SD001（環濠）から出土。胎土中には、石英・雲母・角閃石・赤色粒子を含み色調は橙色、成形は手づくねで、額の皺はヘラ調整、眼は竹管による刺突で表現されている。胎土の状況は環濠出土の土師器と変わりがない。この時期の動物形土製品の出土は極めて珍しく、管見する限り、徳島県の足代東原遺跡出土資料のみである。集落廃棄の際の祭祀に使用され、環濠に廃棄されたものと考えられる。



第 195 図 32SD001 出土土製模造鏡実測図（1/2）

土製模造鏡（第 195 図）

32SD001（環濠）から出土。胎土中には石英・角閃石・雲母粒を含み、色調は明茶褐色。手づくね成形により作られている。紐は粘土をつまみ上げて成形され、穿孔がなされている。鏡面は、やや凹面を呈する。径 5.3cm、器高 1.5cm を測り、上部を欠く。今回注目されるのは、古墳時代前期と考えられる環濠から出土した点である。こうした単純な形の模造鏡は古墳時代中期の遺構からの出土事例が多く、大分県内では最も古い段階の模造鏡といえる。

参考文献

- 田中裕介 1993 「大分県沿岸部採集の製塩土器 2 例—東九州古墳時代前期の製塩土器の年代と系譜—」『おおいた考古』第 6 集 大分県考古学会
- 大分市教育委員会 2005 『東田室遺跡 2』都市計画道路田室町春日線建設に伴う発掘調査報告書
- 大分県教育委員会 2008 『東田室遺跡』大分駅付近連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（7）
- 大分市教育委員会 2008 『大道遺跡群 1』大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4
- 大分市教育委員会 2009 『大道遺跡群 2』大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 5
- 大分市教育委員会 2008 『大道遺跡群 3』大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 6
- 大分県教育委員会 2002 『毛井遺跡 B 地区』国道 197 号線大分南バイパス工事に伴う発掘調査報告書第 135 輯
- 大分市教育委員会 2006 『下郡遺跡群Ⅲ』大分市下郡地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書 2 -

第2表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表1

23SE003

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量 (cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
23SE003 6層 P-1	第7図	001	弥生土器	複合口縁壺	長石・角閃石	褐灰色	にぶい黄橙色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	14.4	20.0+ α	-	-	ハケメ (5本/cm)・ 体部外面・黒斑・ 突帯2条
23SE003 ハンサイ	第7図	002	弥生土器	甕	石英・雲母・赤褐色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	(16.6)	7.3+ α	-	-	ハケメ (4本/cm)
23SE003 ハンサイ	第7図	003	弥生土器	甕底部	長石・角閃石	にぶい褐色	灰褐色	ケズリ	ハケメ	-	7.0+ α	3.9	-	ハケメ (8本/cm)・ 底部内外面黒斑
23SE003 3～5層	第7図	004	弥生土器	鉢底部	長石・角閃石・赤褐色粒子	明黄褐色	にぶい黄橙色	ケズリ	ナデ・指頭痕	-	6.3+ α	(3.8)	-	
23SE003 3～5層	第7図	005	弥生土器	鉢底部	長石・雲母・角閃石	にぶい褐色	淡褐色	ナデ	ヨコナデ	-	2.5+ α	(6.6)	-	体部外面赤色塗彩 痕跡
23SE003 ハンサイ	第7図	006	弥生土器	甕底部	長石・角閃石	浅黄色	にぶい褐色	ナデ・ケズリ	ナデ	-	10.4+ α	(4.0)	-	外面底面付近黒斑
23SE003 P-2	第7図	007	木製品	杓	-	-	-	-	-	22.1	7.4	-	-	

23SE011

遺構名	挿図番号	遺物番号	種類	器種	胎土	色調		器面調整		法量 (cm)				備考
						内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
23SE011 P-42	第9図	001	弥生土器	高坏	白色粒子・雲母	橙色・褐灰色	橙色・にぶい褐色・黒色	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ミガキ?・ナデ	18.0	16.0	(12.7)	-	
23SE011 P-46・P-48	第9図	002	弥生土器	高坏	雲母・白色粒子・赤色粒子	浅黄褐色	浅黄褐色～褐色	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ	29.2	10.6+ α	-	-	黒斑
23SE011 検出面	第9図	003	弥生土器	高坏	白色粒子・長石・角閃石・雲母	灰黄褐色～褐灰色・黒色	灰黄褐色・褐灰色・黒色	ナデ	ナデ	(28.0)	6.0+ α	-	-	全体的に磨減する
23SE011	第9図	004	弥生土器	高坏	白色粒子・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ミガキ・ナデ・ハケメ	ナデ後ミガキ	-	9.9+ α	-	-	
23SE011 P-36	第9図	005	弥生土器	高坏	白色粒子・雲母・赤色粒子・角閃石	にぶい褐色	にぶい褐色	ハケメ	ハケメ	-	11.4+ α	-	-	坏部欠損
23SE011 検出面	第9図	006	弥生土器	高坏	白色粒子・雲母・角閃石	にぶい褐色	にぶい褐色	ナデ	ナデ	-	12.2+ α	(17.0)	-	坏部欠損
23SE011 P-8	第9図	007	弥生土器	鉢	白色粒子・角閃石・石英	黒褐色	明黄褐色	ハケメ	ナデ	(15.0)	8.2	-	-	黒斑
23SE011 検出面	第9図	008	弥生土器	小形鉢	白色粒子・雲母・角閃石	にぶい褐色	にぶい黄褐色・にぶい褐色	ナデ	ヨコナデ・ハケメ	15.4	10.5	4.5	-	
23SE011 P-11	第9図	009	弥生土器	鉢	白色粒子・角閃石・雲母	浅黄褐色	にぶい黄褐色・にぶい褐色・黒色	ナデ	ヨコナデ・ハケメ	21.0	16.2	5.2	-	黒斑
23SE011 P-27	第9図	010	弥生土器	鉢	白色粒子・雲母	褐色	褐色・明褐灰色・黒色	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	17.7	16.7	-	-	黒斑
23SE011 P-49	第9図	011	弥生土器	鉢	白色粒子・角閃石・雲母	にぶい黄褐色・褐灰色	にぶい橙路	ナデ・指オサエ・ケズリ	ナデ・ケズリ	(15.6)	15.85	-	-	
23SE011 P-27・P-43 P43-2	第9図	012	弥生土器	鉢	白色粒子・角閃石・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ケズリ後ナデ	20.7	16.4+ α	-	-	
23SE011 P-25・P-26	第9図	013	弥生土器	鉢	白色粒子・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ・ケズリ後ナデ	(39.0)	19.6+ α	-	-	黒斑
23SE011 P-21	第10図	014	弥生土器	鉢	白色粒子・雲母・赤色粒子・角閃石	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	(50.0)	20.1+ α	-	-	
23SE011 P-24	第10図	015	弥生土器	長頸壺	白色粒子・黒色粒子・角閃石・雲母	にぶい褐色	にぶい褐色	ヨコナデ?・ナデ	ミガキ・ハケメ・ナデ	7.0	24.3	6.3	-	
23SE011 P-3	第10図	016	弥生土器	小形台付壺	白色粒子・黒色粒子・雲母・角閃石・赤色粒子	褐色	にぶい褐色・にぶい黄褐色・黒色	ナデ・指オサエ	ナデ?	(8.0)	11.0	6.4	-	黒斑・外面磨耗の 為調整不明
23SE011	第10図	017	弥生土器	小形壺	長石・角閃石・白色粒子・褐色粒子・砂粒	浅黄橙～黄褐色	黄褐色	ナデ・指オサエ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ	13.8	15.0	4.8	-	黒斑・外面サビ付着・穿孔
23SE011 P-15	第10図	018	弥生土器	壺	白色粒子・雲母・角閃石	褐灰色	にぶい黄褐色・褐灰色	ヨコナデ・ナデ・指オサエ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	(16.0)	18.0	4.7	-	
23SE011	第10図	019	弥生土器	無頸壺	角閃石・白色粒子・赤色粒子	褐色	褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(13.8)	7.7+ α	-	-	
23SE011	第10図	020	弥生土器	小形壺	長石・角閃石・白色粒子・褐色粒子	褐灰色	黄褐色	ナデ・指オサエ	ヨコナデ・ナデ・指オサエ	(8.8)	16.3+ α	-	-	
23SE011 P-44	第10図	021	弥生土器	壺	角閃石・白色粒子・雲母・赤色粒子	黄灰色・浅黄褐色	褐色・浅黄褐色	ナデ・指オサエ	ヨコナデ・ナデ	(14.4)	29.4	4.2	-	黒斑
23SE011 P-39	第10図	022	弥生土器	壺	白色粒子・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色～褐灰色	ヨコナデ・工具ナデ	ヨコナデ・ハケメ	-	26.3+ α	-	-	黒斑
23SE011	第10図	023	弥生土器	壺	白色粒子・赤色粒子・雲母・角閃石	にぶい褐色～褐灰色	褐色～黒色	ナデ	ハケメ・ナデ	-	26.0+ α	2.9	-	黒斑
23SE011 P-10	第11図	024	弥生土器	壺	白色粒子・雲母	にぶい褐色	にぶい黄褐色・褐色・黒色	ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ・施文	(15.0)	34.0	-	-	突帯
23SE011	第11図	025	弥生土器	壺	白色粒子・角閃石・雲母	褐色	褐色	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(16.0)	34.6	4.2	-	
23SE011	第11図	026	弥生土器	壺	白色粒子・雲母・角閃石	褐色	褐色・灰白色	ヨコナデ・指オサエ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	15.2	33.2+ α	5.3	-	黒斑
23SE011	第11図	027	弥生土器	壺	角閃石・長石・白色粒子・褐色粒子	浅黄褐色	浅黄褐色	ナデ・指オサエ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ・ケズリ?・ナデ	14.0	39.7	6.8	-	外面スス付着
23SE011 P-43	第11図	028	弥生土器	壺	白色粒子・雲母・角閃石	にぶい褐色	褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(15.0)	19.5+ α	-	-	
23SE011 P-7	第11図	029	弥生土器	壺	白色粒子・角閃石・雲母・長石	灰黄褐色～にぶい褐色	にぶい褐色～灰褐色	ナデ・ケズリ	ハケメ	(15.4)	10.0+ α	-	-	
23SE011	第12図	030	弥生土器	壺	白色粒子・雲母	褐灰色	褐色・褐灰色	ハケメ	ハケメ	(14.8)	16.4+ α	-	-	

第3表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表2

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量 (cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
23SE011 P-30	第12図	031	弥生土器	壺	白色粒子・赤色粒子・雲母・角閃石	にぶい褐色	にぶい褐色	ハケメ	ハケメ	(14.0)	10.7+ <i>a</i>	-	-	
23SE011 P-23	第12図	032	弥生土器	壺底部	白色粒子・赤色粒子・雲母・角閃石	褐色	にぶい褐色～黒色	ナデ	ナデ	-	11.5+ <i>a</i>	6.0	-	
23SE011 P-9・P-10 P-43・P-43-2	第12図	033	弥生土器	複合口縁壺	白色粒子・雲母・角閃石	褐色	褐色	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・波状文・浮文	16.5	45.1+ <i>a</i>	-	-	安国寺式・突帯・黒斑
23SE011 P-22	第12図	034	弥生土器	複合口縁壺	白色粒子・赤色粒子・角閃石・雲母	灰褐色	にぶい褐色・褐色・灰褐色	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・波状文・ハケメ・ヨコナデ	17.5	29.5+ <i>a</i>	-	-	安国寺式・突帯
23SE011	第12図	035	弥生土器	複合口縁壺	白色粒子・角閃石・雲母	にぶい褐色・明褐色	にぶい褐色・褐色	ナデ	ナデ・ハケメ・波状文	(14.0)	18.4+ <i>a</i>	-	-	安国寺式・突帯
23SE011 P-30・P-37	第12図	036	弥生土器	複合口縁壺	白色粒子・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ハケメ・指オサエ	ヨコナデ・ハケメ	20.7	19.7+ <i>a</i>	-	-	焼成やや不良・安国寺式
23SE011 P-47	第12図	037	弥生土器	複合口縁壺	角閃石・赤色粒子・雲母・白色粒子	浅黄褐色	浅黄褐色～にぶい褐色	ヨコナデ・指オサエ	ヨコナデ・波状文・ナデ?	15.1	12.8+ <i>a</i>	-	-	安国寺式
23SE011 P-09 検出面	第13図	038	弥生土器	複合口縁壺	白色粒子・角閃石・黒色粒子・赤色粒子	にぶい褐色・褐色	にぶい褐色	指オサエ・ナデ	ナデ・ヨコナデ・波状文・ナデ	12.2	14.5+ <i>a</i>	-	-	安国寺式・突帯
23SE011	第13図	039	弥生土器	複合口縁壺	白色粒子・雲母・角閃石	にぶい褐色	にぶい褐色	ハケメ	波状文・ハケメ	(18.0)	7.1+ <i>a</i>	-	-	安国寺式
23SE011	第13図	040	弥生土器	複合口縁壺	白色粒子・角閃石・雲母	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ	波状文・ナデ・ハケメ	12.4	5.4+ <i>a</i>	-	-	安国寺式・黒斑
23SE011	第13図	041	弥生土器	複合口縁壺か	白色粒子・雲母・角閃石	にぶい黄褐色・にぶい褐色・黒色	にぶい黄褐色・にぶい褐色・黒色	ナデ	ハケメ・ヨコナデ・ハケメ痕	-	14.2+ <i>a</i>	-	-	安国寺式か
23SE011	第13図	042	弥生土器	小形甕	白色粒子・黒色粒子・雲母	にぶい褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(15.2)	17.5	2.5	-	
23SE011 P-9	第13図	043	弥生土器	甕	白色粒子・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい褐色	浅黄褐色～にぶい褐色	ヨコナデ・ナデ・指オサエ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	(19.0)	25.5	-	-	黒斑
23SE011 P-22	第13図	044	弥生土器	甕	白色粒子・角閃石・雲母	褐色	褐色～黒色	ナデ	ナデ	(17.8)	29.2	3.0	-	黒斑・全体的に摩耗の為、調整不明瞭
23SE011 P-26 検出面	第13図	045	弥生土器	甕	白色粒子・赤色粒子・角閃石	にぶい褐色	にぶい黄褐色・褐色	ナデ?	ナデ・ハケメ・ナデ	(19.8)	35.2	4.9	-	
23SE011	第13図	046	弥生土器	甕	長石・雲母・角閃石	浅黄褐色	灰白色	ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ痕	22.4	35.2			ハケメ(6本/cm)・外面黒斑
23SE011	第14図	047	弥生土器	甕	長石・雲母・角閃石	灰白色	灰白色	ヨコナデ・ハケメ・ナデ・指頭	ヨコナデ・ハケメ	22.2	24.4+ <i>a</i>			ハケメ(8本/cm)・体部外面黒斑
23SE011 P-29	第14図	048	弥生土器	甕	白色粒子・雲母・角閃石	にぶい黄褐色～灰黄褐色	にぶい黄褐色～灰黄褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	(21.2)	20.5+ <i>a</i>	-	-	
23SE011 検出面	第14図	049	弥生土器	甕	白色粒子・角閃石・雲母	にぶい褐色～褐色	にぶい褐色～褐色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	(17.0)	10.5+ <i>a</i>	-	-	
23SE011 P-49	第14図	050	弥生土器	甕	白色粒子・雲母・角閃石	褐色～にぶい黄褐色	褐色・にぶい黄褐色・黒色	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	(19.0)	16.7+ <i>a</i>	-	-	
23SE011 検出面	第14図	051	弥生土器	甕	白色粒子・雲母・角閃石	褐色	褐色・黒色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	(16.2)	18.2+ <i>a</i>	-	-	スス付着
23SE011 P-18	第14図	052	弥生土器	甕	白色粒子・角閃石・雲母	褐色	褐色・灰褐色	ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(17.8)	12.4+ <i>a</i>		-	
23SE011	第14図	053	弥生土器	甕	白色粒子・雲母・角閃石	にぶい褐色	にぶい褐色～にぶい黄褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(25.0)	13.7+ <i>a</i>	-	-	
23SE011	第14図	054	弥生土器	甕	白色粒子・赤色粒子・雲母・角閃石	にぶい黄褐色～にぶい褐色	褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	(22.0)	10.5+ <i>a</i>	-	-	
23SE011 P-14	第14図	055	弥生土器	甕	白色粒子・角閃石・赤色粒子	にぶい褐色	にぶい黄褐色・灰黄褐色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(23.4)	12.8+ <i>a</i>	-	-	
23SE011 検出面	第14図	056	弥生土器	甕	白色粒子・角閃石・雲母	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色・褐色・黒色	ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(24.2)	11.8+ <i>a</i>	-	-	
23SE011	第15図	057	弥生土器	甕	白色粒子・雲母・角閃石	褐色	にぶい褐色～褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(25.0)	11.0+ <i>a</i>	-	-	
23SE011 P-14	第15図	058	弥生土器	甕	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲母・角閃石	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ	ナデ・ヨコナデ	(22.0)	8.1+ <i>a</i>	-	-	
23SE011 P-12・P-32 P-43-2	第15図	059	弥生土器	甕	白色粒子・角閃石・雲母	にぶい褐色	にぶい褐色・褐色	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	17.7	15.4+ <i>a</i>	-	-	
23SE011 P-40	第15図	060	弥生土器	甕	白色粒子・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ミガキ	ハケメ	-	17.2+ <i>a</i>	(6.8)	-	
23SE011 P-18	第15図	061	弥生土器	甕	白色粒子・黒色粒子・雲母	褐色	灰褐色・にぶい黄褐色	ナデ	ハケメ・ナデ	-	17.0+ <i>a</i>	2.3	-	
23SE011	第15図	062	弥生土器	甕	白色粒子・石英・長石・雲母	にぶい黄褐色	褐色～にぶい黄褐色	ナデ	ナデ	-	7.8+ <i>a</i>	4.6	-	
23SE011	第15図	063	弥生土器	甕	白色粒子・黒色粒子・雲母・角閃石	にぶい黄褐色～黒褐色	にぶい黄褐色・灰黄褐色・黒色	ナデ	ハケメ・ナデ	-	9.7+ <i>a</i>	5.3	-	
23SE011 P-12	第15図	064	弥生土器	甕	角閃石・白色粒子・赤色粒子・石英・長石	にぶい褐色	にぶい黄褐色～灰黄褐色	ナデ	ハケメ・ナデ	-	22.5+ <i>a</i>	5.3	-	黒斑
23SE011 P-33	第15図	065	弥生土器	甕	白色粒子・黒色粒子・雲母・角閃石	にぶい黄褐色	褐色・浅黄褐色・黒色	ハケメ	ハケメ	-	20.5+ <i>a</i>	4.5	-	黒斑
23SE011 P-30	第15図	066	弥生土器	甕	白色粒子・赤色粒子・角閃石・雲母	灰黄褐色	褐色～にぶい褐色	ハケメ後ナデ	ナデ	-	17.4+ <i>a</i>	4.0～5.0	-	内面磨耗の為調整不明
23SE011 P-34	第15図	067	弥生土器	壺	白色粒子・雲母	にぶい黄褐色	明褐色～にぶい褐色	ハケメ	ハケメ・ナデ	-	14.4+ <i>a</i>	5.9	-	黒斑

第4表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表3

23SX038

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量 (cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
23SX038 1・2層	第17図	001	弥生土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ・指オサエ後ケズリ後ナデ	(15.9)	7.0	-	-	外面黒斑
23SX038 1・2層	第17図	002	弥生土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐色	にぶい褐色～黒褐色	ヨコナデ・粗いケズリ後ナデ	指オサエ後ヨコナデ・粗いハケメ後ナデ後ミガキ	(13.0)	8.9	-	-	内面底部黒斑・スス付着
23SX038 ハンサイ	第17図	003	弥生土器	無頸壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐色	にぶい褐色	ナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・工具痕?	(15.8)	11.0+α	-	-	
23SX038 P-5	第17図	004	弥生土器	壺	石英・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	褐色～明褐色	黄褐色～浅黄褐色	ナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ナデ・縦方向のナデ(ミガキ)・ケズリ後ナデ	(11.6)	30.6	4.0	-	外面黒変
23SX038	第17図	005	弥生土器	壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐色	褐色	ナデ・ケズリ・工具オサエ	ナデ・ケズリ後ナデ・ミガキ	-	23.4+α	4.2	-	外面一部黒変
23SX038 ハンサイー括 P-3・7・22	第17図	006	弥生土器	壺	角閃石・白色粒子・黒色粒子	黒褐色	明褐色～灰褐色～黒色	ナデ・斜めハケメ・ケズリ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・粗いナデ(ケズリ?)・横方向のハケメ・縦方向のハケメ	-	25.7+α	-	-	ハケメ(3本/cm)・外面胴部黒変
23SX038 ハンサイ 1・2層	第17図	007	弥生土器	壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐色～明褐色	褐色	ナデ・工具ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ナデ後ミガキ	-	31.3+α	3.9	-	外面黒斑
23SX038 1・2層 P-12	第17図	008	弥生土器	壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐色～明褐色	黄褐色	ナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ナデ・縦方向のナデ・ミガキ	-	31.5+α	-	-	外面胴部黒変
23SX038 ハンサイ 1・2層一括 P-7・13・14	第18図	009	弥生土器	壺	石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄褐色～灰褐色	にぶい黄褐色	ナデ・指頭痕	ナデ	-	35.1+α	3.8	-	外面一部黒変
23SX038 ハンサイ 1・2層一括 P-11	第18図	010	弥生土器	複合口縁壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	明黄褐色～にぶい黄褐色	にぶい褐色～にぶい黄褐色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・粗いミガキ・指頭痕	12.3	25.9+α	-	-	外面黒変
23SX038 ハンサイ カクラン P-2	第18図	011	弥生土器	複合口縁壺	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	赤褐色～にぶい黄褐色	明褐色～にぶい黄褐色	ナデ・指頭痕	ナデ・縦方向のハケメ・横描波状文・指頭痕・浮文貼付	19.6	20.0+α	-	-	安国寺式・突帯2条・012と同一個体か
23SX038 一括カクラン P-6 P-9	第18図	012	弥生土器	壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄褐色	褐色	ハケメ	縦方向のハケメ・ハケメ・ヨコナデ	-	31.3+α	-	-	安国寺式・ハケメ内(8本/cm)外(6本/cm)(10本/cm)・011と同一個体か
23SX038 ハンサイ	第18図	013	弥生土器	壺	石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄褐色	褐色	ケズリ後ナデ	ハケメ後丁寧なナデ	-	13.1+α	(5.0)	-	
23SX038 ハンサイ P-1・18	第18図	014	弥生土器	壺	角閃石・赤色粒子・白色粒子	明褐色～灰褐色	明褐色～にぶい黄褐色～褐色	ナデ・縦方向のハケメ(ハケメナデ?)	ナデ・ヨコナデ・縦方向のハケメ	-	29.4+α	-	-	ハケメ(10本/cm)
23SX038 一括 P-4 P-21	第19図	015	弥生土器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐色	褐色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	20.6	28.9	3.5	22.0	ハケメ(3本/cm)・黒斑
23SX038 ハンサイ 1・2層 P-7 P-22	第19図	016	弥生土器	甕	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黄褐色	黄褐色～褐色～黒色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ後粗いナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・工具ナデ・ミガキ・工具オサエ	(18.8)	32.3+α	3.7	-	内外面黒変
23SX038 ハンサイ 1・2層一括 P-15・16・20	第19図	017	弥生土器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明黄褐色	明黄褐色～赤褐色～黒褐色	ナデ・横～斜めハケメ	ナデ・縦方向のハケメ	22.2	33.1	3.6	-	ハケメ(4本/cm)・スス付着
23SX038 P-12	第19図	018	弥生土器	甕	長石・角閃石・白色粒子	にぶい褐色～褐色	褐色～黒褐色	ナデ	ナデ	24.5	33.8	4.1	-	外面黒変
23SX038 一括 P-8・19・20・21	第19図	019	弥生土器	甕	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐色～黒色	褐色～黒色	ナデ・横方向のハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・縦方向のハケメ	(19.3)	33.2+α	5.4	-	内外面黒変
23SX038 ハンサイー括 P-7	第19図	020	弥生土器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ナデ・横方向のハケメ後ナデ	ナデ・縦方向のハケメ後ヨコナデ・縦方向のハケメ	19.1	31.9	-	-	ハケメ(4本/cm)(4～8本/cm)
23SX038 ハンサイ 1・2層	第20図	021	弥生土器	甕	石英・長石・角閃石・白色粒子	褐色～黒褐色	明褐色～灰褐色～黒色	ナデ・横方向のハケメ・斜めハケメ・ケズリ・ミガキ	ナデ・ヨコナデ・斜めハケメ後ナデ・縦～斜めハケメ	(22.2)	38.4+α	(5.4)	-	ハケメ(4～5本/cm)
23SX038 ハンサイー括	第20図	022	弥生土器	甕	長石・角閃石・白色粒子・2～3mmの砂粒	にぶい褐色～黒色	黒褐色～褐色	ケズリ後ナデ・ミガキ?・指頭痕・ナデ	ナデ・縦方向のハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ・ヨコナデ	(24.0)	34.7+α	(5.2)	-	内面黒変
23SX038 ハンサイ 1・2層一括 P-4	第20図	023	弥生土器	甕	石英・長石・角閃石・白色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色～赤褐色	ナデ・ヨコナデ・指頭痕	丁寧なナデ・ヨコナデ	(23.6)	32.2+α	-	-	内外面黒変
23SX038 ハンサイ 1・2層	第20図	024	弥生土器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黒褐色	明褐色～黒褐色	ナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ハケメ後ナデ・指頭痕	ハケメ後ナデ	19.6	29.5	-	-	
23SX038 ハンサイ 1・2層 P-8 P-12	第20図	025	弥生土器	甕	長石・白色粒子	褐色	にぶい褐色	ハケメ後ヨコナデ(指頭痕)	ナデ後ハケメ・ヨコナデ	20.7	25.5+α	-	-	ハケメ(9本/cm)
23SX038 ハンサイ 1・2層 P-10	第20図	026	弥生土器	甕	石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ後ナデ・ミガキ	ハケメ後ナデ・ケズリ後ミガキ・ミガキ	18.1	27.2+α	-	-	
23SX038 ハンサイ 1・2層一括 P-8	第21図	027	弥生土器	甕	石英・長石・角閃石・白色粒子	褐色	褐色～黒褐色	ナデ・ケズリ後ナデ・横方向のハケメ	ヨコナデ・縦方向のハケメ	(22.4)	24.7+α	-	-	ハケメ(5本/cm)・外面胴部下半黒変・接合痕

第5表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表4

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	種類	器 種	胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
						内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SX038 ハンサイ 1・2層	第21図	028	弥生土器	甕	石英・長石・角 閃石・赤色粒子・ 白色粒子	黄褐色	明褐色	ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	26.2	18.6	-	-	赤色塗彩・一部黒 変
23SX038 ハンサイ 1・2層	第21図	029	弥生土器	甕	石英・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・工具ナデ ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナ デ	(22.0)	19.2+ α	-	-	外面胴部下黒変
23SX038 P-17	第21図	030	弥生土器	甕	長石・角閃石・ 赤色粒子・白色 粒子	にぶい褐色	褐色	ナデ・ヨコナデ ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ	(20.0)	13.0+ α	-	-	
23SX038 P12・23	第21図	031	弥生土器	甕	長石・角閃石・ 白色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・指頭痕	ナデ	(21.0)	9.5+ α	-	-	外面黒斑
23SX038 ハンサイ	第21図	032	弥生土器	甕	石英・長石・角 閃石・赤色粒子・ 白色粒子	褐色	にぶい褐色	ヨコナデ	ナデ・ヨコナ デ・指頭痕	(17.0)	10.3+ α	-	-	外面サビ付着
23SX038	第21図	033	弥生土器	甕	角閃石・赤色粒 子・白色粒子	褐色	褐色	ナデ	ナデ	(24.0)	9.5+ α	-	-	外面黒斑
23SX038 ハンサイ	第21図	034	弥生土器	甕	長石・角閃石・ 赤色粒子・白色 粒子	にぶい褐色	褐色	ナデ	ナデ	-	10.0+ α	-	-	
23SX038	第21図	035	弥生土器	甕	長石・角閃石・ 白色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	丁寧なナデ・指 頭痕	ナデ・指頭痕	-	9.0+ α	-	-	
23SX038 1・2層	第21図	036	弥生土器	甕	石英・長石・角 閃石・白色粒子	褐色	褐色～黒色	ナデ・粗いナデ ・工具ナデ	ナデ・ケズリ 後粗いナデ・ ミガキ	-	11.7+ α	4.5	-	外面底部黒変
23SX038	第21図	037	石器	すり石						10.6	7.8	5.1	-	蛇紋岩

23SD001

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SD001	第23図	001	ミニチュア 土器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子・ 白色粒子	褐色	褐色	ナデ	ナデ・指オサ エ後ナデ	3.5	2.0	-	-	
23SD001 検出時	第23図	002	ミニチュア 土器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子・ 白色粒子	灰黄褐色	褐灰色	ナデ・指オサエ	ナデ・指オサ エ	3.4	2.4	-	-	
23SD001 1層	第23図	003	ミニチュア 土器	鉢	長石・雲母・角 閃石・白色粒子	にぶい褐色	明褐色	ナデ・指頭痕	ナデ・ハケメ・ 指頭痕	3.5	2.0	-	-	
23SD001	第23図	004	ミニチュア 土器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子・ 白色粒子	褐色	にぶい黄褐色	指オサエ後ナデ	ナデ・指オサ エ後ナデ	4.2	2.7	-	-	内外面黒斑
23SD001-10 下層	第23図	005	ミニチュア 土器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子・ 白色粒子	褐色	褐色	ナデ	指オサエ後ナ デ	6.4	3.1	-	-	
23SD001-6 中層 P-162	第23図	006	ミニチュア 土器	鉢	石英・長石・雲 母・角閃石・赤 色粒子・白色粒 子	褐色	褐色～にぶい 褐色	ナデ・ナデ後ヨ コナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・指頭痕	7.4	4.3	-	-	
23SD001 1層	第23図	007	ミニチュア 土器	鉢	石英・長石・角 閃石・白色粒子	褐色	にぶい褐色	ナデ・指頭痕	指頭痕	4.0	3.5	-	-	黒斑
23SD001 1層	第23図	008	ミニチュア 土器	鉢	長石・角閃石・ 赤色粒子・白色 粒子	浅黄褐色～褐 灰色	灰白色～褐灰 色	指頭痕	指頭痕	4.8	3.9	-	-	
23SD001-10 中層	第23図	009	ミニチュア 土器	鉢	石英・長石・角 閃石・白色粒子	黒褐色	灰白色	指頭痕	指頭痕	5.8	5.0	-	-	外面黒斑・内面黒 変
23SD001-8 P-110	第23図	010	ミニチュア 土器	鉢	石英・長石・雲 母・角閃石・赤 色粒子・白色粒 子	褐色	褐色	ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	7.2	5.0	-	-	
23SD001 検出時	第23図	011	ミニチュア 土器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子	浅黄褐色	浅黄褐色～橙 色	粗いナデ・指オ サエ	丁寧なナデ・ 指オサエ	4.7	2.6	3.9	-	
23SD001-10 中層 P-130	第23図	012	ミニチュア 土器	壺	長石・角閃石・ 白色粒子	浅黄褐色～橙 色	浅黄褐色	ナデ・ハケメ後 ナデ	ナデ・指オサ エ	5.0	4.6	-	-	底部黒斑・外面サ ビ付着
23SD001 1層	第23図	013	ミニチュア 土器	壺	黒色粒子・褐色 粒子			ナデ・指頭痕	ナデ	-	5.5+ α	2.8	-	
23SD001 1層	第23図	014	ミニチュア 土器	底部片	白色粒子・褐色 粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	指頭痕	ケズリ?	-	2.4+ α	2.6	-	摩耗により不明瞭
23SD001-0 中層 P-219	第23図	015	土師器	小形器台	石英・長石・角 閃石・赤色粒子・ 白色粒子	褐色	褐色～にぶい 褐色	ナデ後ミガキ・ 指オサエ	ハケメ後ナデ ・ハケメ後ミガ キ	5.8	9.5	11.8	-	脚部内面黒斑
23SD001 1層	第23図	016	土師器	小形器台	長石・雲母・黒 色粒子	にぶい黄褐色 ～灰色	にぶい黄褐色	ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	-	1.9+ α	7.6	-	ハケメ外(4本/cm) ・外面黒斑?
23SD001 P-41	第23図	017	土師器	小形器台	長石・雲母・角 閃石・赤褐色粒 子	褐色	褐色	ナデ・ハケメ・ ミガキ	ミガキ	8.6	5.6+ α	-	-	ハケメ(8本/cm)
23SD001-2	第23図	018	土師器	小形器台	雲母・白色粒子	褐色	褐色	ナデ・ヨコナデ	ハケメ後ナデ	-	3.3+ α	7.9	-	
23SD001-6 中層 P-172	第23図	019	土師器	小形器台	石英・雲母・角 閃石・赤褐色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色 ～褐色～赤灰 色	ナデ・絞り痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	-	5.9+ α	10.2	-	ハケメ(6本/cm)・ 穿孔3箇所
23SD001-2 中層	第23図	020	土師器	小形器台	雲母・角閃石・ 砂粒	明赤褐色	明赤褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ケズ リ	ヨコナデ・ミ ガキ	-	5.9+ α	(9.8)	-	ハケメ(7本/cm)
23SD001-4 中層 P-258・287	第23図	021	土師器	高坏	石英・長石・雲 母・角閃石・赤 色粒子・白色粒 子	赤色～灰黄色	赤色～浅黄橙 色	工具後ナデ・ハ ケメ後ナデ・ナ デ後ミガキ・指 オサエ	ナデ・ハケメ 後ミガキ・ハ ケメ後ナデ・ ナデ後ミガキ	21.2	13.5	13.3	-	穿孔4箇所・黒変 ・全面赤色塗彩
23SD001 南 上層 P-79	第23図	022	土師器	高坏	石英・長石			ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ	(21.8)	13.5	(15.0)	-	穿孔4箇所
23SD001 P-214・525 23SD001-8	第23図	023	土師器	高坏	石英・長石・角 閃石・赤色粒子			ハケメ・ハケメ 後ミガキ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ミガキ	(19.8)	13.5	16.5	-	穿孔あり
23SD001-10 中層 P-125	第23図	024	土師器	高坏	石英・長石・雲 母・赤色粒子			ナデ・ハケメ・ ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ・ 指頭痕	20.3	12.4	14.5	-	
23SD001 1層 20次SD001 F区上層	第23図	025	土師器	高坏	石英・長石			ナデ・ハケメ	ナデ(工具痕)・ ヨコナデ・ミ ガキ	19.6	14.5	(13.8)	-	穿孔1箇所

第6表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表5

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SD001-0 中層 23SD001 1層 23SD001-6 中層	第 23 図	026	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色～浅黄橙色	ナデ後ミガキ・ハケメ・ハケメ後ナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ミガキ	23.3	18.9	14.9	-	穿孔 (推定 8 力所)
23SD001 P-40・37	第 23 図	027	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黒褐色～浅黄褐色	黒褐色～浅黄褐色	ナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ミガキ	21.6	15.7	13.4	-	
23SD001 P-8・9 1層	第 23 図	028	土師器	高坏	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ミガキ後ナデ・ナデ・ケズリ後ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ヨコナデ・縦方向のミガキ	20.5	15.7	13.2	-	ハケメ (8 本 /cm) (8～10 本 /cm)・外面口縁付近黒斑
23SD001 1層 20SD001 e 区上層	第 23 図	029	土師器	高坏	石英・長石・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ミガキ・工具痕	(19.0)	13.2	(13.4)	-	
23SD001-2 P-34	第 23 図	030	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄褐色	明赤褐色	ケズリ後ナデ	ハケメ後ミガキ?・ミガキ	19.6	13.3	11.6	-	ハケメ (11 本 /cm)・黒斑・摩耗により調整不明瞭
23SD001 1層・検出 P-39	第 23 図	031	土師器	高坏	石英・長石・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・指オサエ	(20.5)	14.6	(11.8)	-	
23SD001-4 P-73・72	第 23 図	032	土師器	高坏	石英・長石・雲母・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ・ミガキ・ミガキ後ヨコナデ	24.2	14.8	7.8	-	
23SD001 第 23 図	033	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄褐色	にぶい橙色	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ・指オサエ	ナデ・ヨコナデ	(25.9)	14.9	-	-	ハケメ (8～10 本 /cm)・黒斑	
23SD001 1層・検出 23SD001-10 P-90	第 24 図	034	土師器	高坏	石英・長石			ヨコナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	(17.6)	15.3	11.8	-	
23SD001 P-28	第 24 図	035	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ	ハケメ後ナデ・ヨコナデ・ナデ	18.3	14.7	12.2	-	ハケメ (6～7 本 /cm)・黒斑
23SD001 検出	第 24 図	036	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	赤色	赤色	ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ナデ・ミガキ・ケズリ後ナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ	(17.1)	14.2	(11.6)	-	内面赤色塗彩
23SD001 1層 検出	第 24 図	037	土師器	高坏	石英・長石			ナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	18.2	13.7	(12.8)	-	
23SD001-4 P-47	第 24 図	038	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色～灰白色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ヨコナデ後ミガキ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ・ハケメ後ヨコナデ後ミガキ・ミガキ	17.3	13.1	(11.5)	-	ハケメ (6 本 /cm)・内外面黒斑
23SD001 P-16	第 24 図	039	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄褐色	にぶい橙色	ナデ後ミガキ・ヨコナデ後ミガキ?・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ミガキ・指オサエ	17.6	13.0	11.0	-	ハケメ (8～9 本 /cm)・内外面黒斑
23SD001-6 中層 23SD001-8 P-2 群	第 24 図	040	土師器	高坏	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	浅黄褐色～にぶい橙色	ナデ・工具ナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ナデ後ミガキ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ハケメ後ミガキ・指オサエ後ナデ・ハケメ後ナデ	19.6	14.5	-	-	
23SD001-4 P-59	第 24 図	041	土師器	高坏	長石・赤色粒子・白色粒子	浅黄褐色	浅黄褐色	ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ・指オサエ	ハケメ後ナデ	19.5	16.0	12.4	-	外面黒斑
23SD001-4 P-67	第 24 図	042	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	赤色～暗赤灰色	赤色	ナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ・ケズリ後ナデ	ナデ・ナデ後ミガキ・ハケメ後ナデ・ミガキ・ケズリ	17.9	13.9	7.0	-	
23SD001-8 1層 P-107・106	第 24 図	043	土師器	高坏	角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～灰黄褐色	橙色～灰褐色	ナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ミガキ・指オサエ	(21.0)	12.2	12.0	-	
23SD001 1層 23SD001-8 P-2 群	第 24 図	044	土師器	高坏	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色	横方向のハケメ後ナデ・ハケメ・ミガキ・ケズリ後ナデ	ナデ・ナナムハケメ	(17.1)	13.6	14.3	-	ハケメ (7 本 /cm)
23SD001-8 P96 23SD001-10 P125	第 24 図	045	土師器	高坏	石英・長石・赤色粒子			ナデ・ケズリ後ナデ	ナデ	(18.0)	12.7	(11.0)	-	
23SD001-4 P-48	第 24 図	046	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色～浅黄褐色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ後ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ?・ナデ	11.4	10.1	8.4	-	ハケメ (10～11 本 /cm)・黒斑
23SD001 P-29・32 1層	第 24 図	047	土師器	高坏 脚部	石英・長石・雲母			ナデ・ケズリ	ナデ・工具ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	-	11.5+α	12.9	-	
23SD001 1層 23SD001-8 P-2 群	第 24 図	048	土師器	高坏	長石・角閃石・白色粒子	橙色～黄褐色	黄褐色	ナデ・ハケメ・ミガキ?・ケズリ後ナデ	ナデ・ミガキ (摩耗により不明瞭)	16.0	11.9+α	-	-	全体に磨減顯著で調整不明瞭
23SD001-4 中層 P-282	第 24 図	049	土師器	高坏	角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ	ナデ・指オサエ	14.5	11.0	-	-	スス付着
23SD001-8 中層	第 24 図	050	土師器	高坏	石英・長石・角閃石・白色粒子	橙色～明赤褐色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	14.5	12.3	10.6	-	
23SD001-8 P-3 群	第 24 図	051	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子			ヨコナデ・ヨコナデ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(17.8)	15.8	12.1	-	内面裾部スス付着

第7表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表6

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SD001-12	第24図	052	土師器	高坏	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ケズリ後ナデ・指オサエ・ハケメ	タテナデ・ヨコナデ・指オサエ	16.0	16.5	-	-	
23SD001-8	第24図	053	土師器	高坏	角閃石・白色粒子	褐灰色～にぶい橙色	にぶい橙色～褐灰色	ハケメ後ナデ・ナデ	ナデ・ケズリ・ケズリ後ナデ	(11.0)	14.0	11.5	-	
23SD001-0 中層 23SD001-2 中層	第25図	054	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ後ミガキ・ヨコナデ後ミガキ	ナデ後ミガキ・ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ナデ後ミガキ	14.7	13.5	10.4	-	
23SD001	第25図	055	土師器	高坏	長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ミガキ?ハケメ後ミガキ?	(13.2)	15.1	11.3	-	
23SD001 P-23	第25図	056	土師器	高坏	石英・長石・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ミガキ・ケズリ	(11.9)	12.5	11.7	-	
23SD001-0 上層	第25図	057	土師器	高坏	長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ハケメ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ・ヨコナデ	15.5	14.7	14.1	-	ハケメ(10～12本/cm)
23SD001-0 上層 23SD001-0 中層	第25図	058	土師器	高坏 坏部	石英・長石・角閃石			ヨコナデ後ミガキ	ハケメ・ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ	(20.7)	5.6+α	-	-	
23SD001 1層 23SD001 P-4	第25図	059	土師器	高坏 坏部	石英・長石・雲母・黒色粒子	赤色	赤色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	19.3	8.5	-	-	
23SD001 1層	第25図	060	土師器	高坏 坏部	雲母・赤褐色粒子・白色粒子	にぶい橙色～灰色	明黄褐色～灰色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ	19.8	7.0+α	-	-	脚部接合面で剥離
23SD001-6 中層 P-169	第25図	061	土師器	高坏 坏部	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色～褐色	にぶい橙色	ナデ・ナデ後ミガキ・ヨコナデ後ミガキ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ	17.5	9.5+α	-	-	
23SD001 P-45	第25図	062	土師器	高坏 坏部	石英・長石・雲母			ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ	17.0	5.7+α	-	-	
23SD001-6 中層 23SD001-4 中層	第25図	063	土師器	高坏 坏部	石英・雲母・黒色粒子	浅黄褐色～にぶい橙色	浅黄褐色～にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ	16.0	5.9+α	-	-	
23SD001 P-25	第25図	064	土師器	高坏 坏部	石英・長石・雲母・赤色粒子			ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	16.9	5.7+α	-	-	
23SD001 1層 23SD001-4 1層 23SD001-4 P66	第25図	065	土師器	高坏 坏部	白色粒子	にぶい黄褐色	明赤褐色～黒色	ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ	18.6	5.4+α	-	-	ハケメ(6本/cm)・外面黒斑
23SD001-2 中層	第25図	066	土師器	高坏 坏部	白色粒子	にぶい橙色	橙色	ナデ(摩耗により不明瞭)	ナデ・ミガキ	15.9	6.0+α	-	-	
23SD001 P-8	第25図	067	土師器	高坏 坏部	石英・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	摩耗により不明瞭	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	18.2	6.2	-	-	ハケメ(6本/cm)
23SD001-8 P-105	第25図	068	土師器	高坏 坏部	角閃石・白色粒子	褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ	17.2	5.8+α	-	-	ハケメ(8本/cm)
23SD001-2	第25図	069	土師器	高坏	石英・長石・雲母			ナデ・ヨコナデ・ハケメ・絞り痕・指オサエ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・指オサエ	14.8	11.6+α	-	-	
23SD001 1層 検出	第25図	070	土師器	高坏 坏部	角閃石・白色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ヨコナデ	ヨコナデ・ケズリ	(14.8)	5.5+α	-	-	
23SD001 1層	第25図	071	土師器	高坏	長石・白色粒子	褐色	褐色	ヨコナデ(摩耗により不明瞭)	ナデ	14.4	4.4+α	-	-	脚部接合面で剥離
23SD001-4 P-57	第25図	072	土師器	高坏 坏部	石英・長石・角閃石・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色～にぶい黄褐色	ヨコナデ・ナナムハケメ後ナデ・ミガキ	ナデ・ナナムハケメ・ミガキ	12.7	4.7+α	-	-	
23SD001 拡張	第25図	073	土師器	高坏 坏部	石英・長石・雲母・角閃石			ナデ・ヨコナデ・ミガキ	ナデ・ヨコナデ	13.8	5.1+α	-	-	
23SD001-0 下層	第25図	074	土師器	高坏 坏部	石英・長石・雲母・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ	20.0	6.3+α	-	-	
23SD001-2	第25図	075	土師器	高坏 脚部	石英・長石			ハケメ・ケズリ	ナデ・ハケメ・ヨコナデ	-	7.6+α	10.1	-	
23SD001-8 中層	第25図	076	土師器	高坏 脚部	石英・長石・雲母・角閃石	褐色～にぶい黄褐色	褐色～にぶい黄褐色	ハケメ・工具痕・ケズリ・ナデ	ナデ・ヨコナデ後ハケメ・ミガキ	-	9.1+α	14.6	-	ハケメ(7本/cm)・穿孔4箇所・一部黒斑
23SD001-0 中層	第25図	077	土師器	高坏 脚部	長石・雲母・赤褐色粒子・白色粒子	暗灰黄色	暗灰黄色	ヨコナデ後ハケメ・ケズリ	ヨコナデ後ハケメ・ヨコナデ	-	7.9+α	17.4	-	ハケメ(5本/cm)・穿孔4箇所
23SD001-8 中層	第25図	078	土師器	高坏 脚部	長石・雲母・角閃石	褐色～黒色	褐色～灰白色	強いナデ・ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ヨコナデ後ハケメ	-	11.4+α	(16.0)	-	ハケメ(9本/cm)・穿孔3箇所・底部黒斑
23SD001 P-9	第25図	079	土師器	高坏 脚部	石英・長石・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ後ヨコナデ	-	8.5+α	11.8	-	
23SD001-8 P-97	第25図	080	土師器	高坏 脚部	石英・長石・角閃石			ナデ・ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	-	7.8+α	13.0	-	脚部穿孔8箇所
23SD001 P-42 23SD001-2	第25図	081	土師器	高坏 脚部	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ナデ・ハケメ・指オサエ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	-	10.0+α	11.8	-	脚中央部穿孔6箇所
23SD001 P-38	第25図	082	土師器	高坏 脚部	雲母・角閃石・白色粒子	灰白色～灰褐色	灰白色～灰褐色	ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ミガキ	-	5.9+α	(11.8)	-	
23SD001 P-22	第25図	083	土師器	高坏 脚部	雲母・角閃石・白色粒子	褐色～褐灰色	褐色～にぶい黄褐色	ハケメ・ケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ・ミガキ	-	6.8+α	14.7	-	ハケメ(6本/cm)
23SD001-0 上層 23SD001-2 中層 P-286	第25図	084	土師器	高坏	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	赤色～浅黄褐色	赤色～浅黄褐色	ナデ・ナデ後ミガキ・ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・指オサエ後ミガキ	ナデ後ミガキ・ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ・ミガキ・波状文	23.3	12.3	-	-	浮文貼付・全面赤色塗彩

第8表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表7

遺構名	挿図番号	遺物番号	器種		胎土	色調		器面調整		法量 (cm)				備考
			種類	器種		内面	外面	内面	外面	口径/長	器高/幅	底径/厚	最大胴部径/重さ	
23SD001-0 下層 P-290	第26図	085	弥生土器	高坏 坏部	雲母・角閃石・白色粒子	赤褐色	赤色～赤黒色	ハケメ・ミガキ	ヨコナデ・ミガキ	-	6.9+ α	-	-	赤色塗彩
23SD001-8 中層	第26図	086	土師器	高坏 脚部	石英・長石・角閃石			ナデ・絞り痕・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ後一部ナデ	-	13.8+ α	16.4	-	脚部穿孔4箇所
23SD001-2 下層 P-294	第26図	087	土師器	高坏 脚部	石英・長石・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・刺突文・沈線	-	11.9+ α	19.2	-	沈線・脚上部穿孔4箇所・脚底穿孔2箇所(推定5箇所?)
23SD001 1層 23SD001-2 中層	第27図	088	土師器	鉢	石英・長石・雲母・褐色粒子			ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ?・ミガキ	(11.3)	2.9	-	-	
23SD001-4 中層 P-275	第27図	089	土師器	鉢	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黄灰色	黄灰色	ナデ・ミガキ	ナデ	13.0	3.8	-	-	
23SD001-4 中層 P-261	第27図	090	土師器	鉢	石英・角閃石・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ミガキ	ハケメ後ナデ後ミガキ・指オサエ後ミガキ	15.0	4.7	-	-	
23SD001 中層 P-174	第27図	091	土師器	鉢	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	浅黄褐色	ナデ・指オサエ・ハケメ	ナデ・指オサエ	13.5	4.5	-	-	ハケメ(9本/cm)
23SD001 1層 23SD001 1層	第27図	092	土師器	鉢	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい黄褐色～黒褐色	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	(10.5)	4.0	-	-	ハケメ(9～10本/cm)
23SD001-2 中層 23SD001-4 中層	第27図	093	土師器	鉢	石英・長石			ヨコナデ・ミガキ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	15.4	4.2+ α	-	-	内外面スス付着
23SD001-2 中層 P-245	第27図	094	土師器	鉢	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ	ナデ	13.0	3.5	-	-	黒斑 被熱
23SD001 1層 23SD001-8 中層	第27図	095	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石			ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(16.4)	4.6+ α	-	-	
23SD001-6 中層 SD001 F区上層	第27図	096	土師器	鉢	石英・長石・角閃石			ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(16.3)	4.9+ α	-	-	
23SD001-2 中層	第27図	097	土師器	鉢	石英・長石・角閃石			ヨコナデ後ミガキ	ナデ(一部ケズリ)・ヨコナデ	12.0	3.8+ α	-	-	
23SD001-10 中層	第27図	098	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ後ミガキ・ミガキ	ケズリ後ミガキ・ハケメ後ミガキ	14.5	4.7	-	-	ハケメ(8本/cm)・外面黒斑
23SD001-8 中層 P-3群	第27図	099	土師器	鉢	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	14.0	5.5	-	-	外面黒斑
23SD001-0 中層 P-284	第27図	100	土師器	鉢	長石・角閃石・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケメ	13.8	5.4	-	-	
23SD001 P-233	第27図	101	土師器	鉢	長石・角閃石・白色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ	ハケメ後ナデ	13.5	4.5	-	-	被熱
23SD001-8 中層	第27図	102	土師器	鉢	石英・長石・雲母			ヨコナデ・ナデ後ミガキ?	ヨコナデ・ハケメ後ナデ後ミガキ	(16.0)	5.5	-	-	
23SD001-4 中層 P-278	第27図	103	土師器	鉢	雲母・角閃石・白色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ナデ	ナデ	15.6	5.5	-	-	
23SD001-6 中層	第27図	104	土師器	鉢	長石・角閃石・白色粒子	明褐灰色	にぶい褐色	ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ後ナデ	15.0	5.2	-	-	全体スス付着
23SD001-2 中層	第27図	105	土師器	鉢	雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄褐色	浅黄褐色	ナデ	ナデ	16.0	5.8	-	-	
23SD001 1層 23SD001-6 中層	第27図	106	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ・工具痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	17.7	6.2+ α	-	-	
23SD001-6 P-247	第27図	107	土師器	鉢	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ナデ・指オサエ	ナデ	14.0	5.1	-	-	
23SD001-0 中層	第27図	108	土師器	鉢	長石・角閃石・白色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ナデ	ナデ・ハケメ	17.0	6.7	2.0	-	ハケメ(6～7本/cm)
23SD001-4 1層	第27図	109	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・白色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ミガキ・指オサエ後横方向のハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ・ハケメ後ナデ後ミガキ・ヨコナデ後ミガキ・指オサエ	15.0	4.5	-	-	ハケメ(11本/cm)
23SD001-2 中層	第27図	110	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ	ナデ・指オサエ	14.5	4.6	-	-	
23SD001-4 P-231	第27図	111	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ後ミガキ・ミガキ	ヨコナデ・ケズリ後ハケメ後ナデ	16.6	6.0	-	-	ハケメ(6～7本/cm)
23SD001-4 P-51	第27図	112	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄褐色～橙色	橙色～浅黄褐色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	17.4	6.9	-	-	ハケメ(10～11本/cm)・黒斑
23SD001-4 中層 P-229	第27図	113	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄褐色～褐色	褐色～浅黄褐色	ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ	ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ナデ後ミガキ	18.1	7.2	-	-	内外面黒斑
23SD001-2 中層	第27図	114	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐色～浅黄褐色	褐色～浅黄褐色	ナデ・ヨコナデ・指オサエ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・指オサエ	14.5	6.0	-	-	ハケメ(10～11本/cm)・黒斑
23SD001-2 中層	第27図	115	土師器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐色	褐色	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・指オサエ	14.4	6.2	-	-	黒斑

第9表 大道遺跡群第20・23・32次調査出土遺物観察表8

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SD001-8 中層	第27図	116	土師器	鉢	長石・角閃石・ 白色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ナデ・指オサエ	ナデ・ミガキ・ 指オサエ	17.5	8.5	-	-	赤色塗彩
23SD001-8 P-111	第27図	117	土師器	鉢	石英・角閃石・ 白色粒子	明赤褐色	橙色	ナデ・指オサエ 後ヨコナデ	指オサエ後ハ ケメ後ナデ後 粗いミガキ	8.0	4.5	-	-	
23SD001 南下層 P-204	第27図	118	土師器	鉢	石英・雲母・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	赤色	赤色	ナデ	ナデ	11.5	6.6	-	-	赤色塗彩
23SD001-4 中層 P-281	第27図	119	土師器	鉢	角閃石・赤色粒 子・白色粒子	浅黄褐色	浅黄褐色	ナデ	ナデ	11.0	4.5	-	-	
23SD001-4 P-52	第27図	120	土師器	鉢	石英・長石・赤 色粒子・白色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色 ～灰黄褐色	工具ナデ	粗いケズリ後 丁寧なナデ	12.7	5.7	-	-	外面黒斑・サビ付 着
23SD001-2 中層 23SD001-6 中層 P-186	第27図	121	土師器	鉢	石英・長石・赤 色粒子			ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ	(12.4)	6.3+α	-	-	
23SD001-10 下層	第27図	122	土師器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	淡赤褐色	にぶい橙色～ 褐色	ミガキ・横方向 のハケメ後ナデ	ミガキ	9.8	8.1	-	-	内外面赤色塗彩
23SD001-0 下層 23SD001-2 下層	第27図	123	土師器	鉢	石英・長石・赤 色粒子			ミガキ	ナデ・ヨコナ デ	(11.2)	8.7	-	-	
23SD001-4 中層	第27図	124	土師器	鉢	石英・長石・雲 母・角閃石・赤 色粒子・白色粒 子	褐色	浅黄褐色	ヨコナデ・ケズ リ後ハケメ後ミ ガキ・指オサエ 後ケズリ後ミガ キ・ハケメ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ・ ハケメ後ミガ キ・ケズリ後 ミガキ	(17.3)	11.9	-	-	ハケメ(5～8本/ cm)(7～8本/cm)
23SD001-2	第27図	125	土師器	鉢	角閃石・赤色粒 子・白色粒子	にぶい褐色	明赤褐色	ナデ・ミガキ・ 指オサエ	ハケメ・ミガ キ	(9.8)	5.5	-	-	ハケメ(9～10本/ cm)
23SD001-10 中層	第27図	126	土師器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ ・ナデ部分的ケ ズリ?	ナデ・ヨコナ デ	(12.5)	8.1	(5.2)	-	
23SD001 P-249	第28図	127	土師器	鉢	石英・雲母・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	浅黄褐色	褐色	ナデ	ナデ・ハケメ	15.0	3.5	-	-	ハケメ(8本/cm)・ 外面黒斑
23SD001-6 中層 P-200 23SD001-1 拡張	第28図	128	土師器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	浅黄褐色	浅黄褐色～橙 色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	19.4	7.6	-	-	ハケメ(13本/cm) ・内外面黒斑
23SD001 1層	第28図	129	土師器	鉢	長石・角閃石・ 赤色粒子・白色 粒子	褐色	にぶい褐色	ナデ・ヨコナデ ・ミガキ・指オ サエ	ナデ・ハケメ・ 指オサエ	15.0	7.5	-	-	ハケメ(6本/cm)
23SD001-2 中層 P-235	第28図	130	土師器	鉢	長石・角閃石・ 赤色粒子	明黄褐色	明黄褐色	ナデ	ハケメ後ナデ・ タテ～ハケメ・ 横方向のハケ メ	(19.5)	10.6	-	-	ハケメ(9本/cm)・ 外面一部黒変
23SD001-0	第28図	131	土師器	鉢	石英・長石・雲 母・角閃石			ヨコナデ	ヨコナデ	(13.8)	6.3+α	-	-	
23SD001-4 下層 P-292	第28図	132	土師器	台付鉢	石英・長石・角 閃石・白色粒子	にぶい褐色～ (赤色)明赤褐 色	赤色	ナデ・ヨコナデ ・縦方向のハケ メ	ナデ・ミガキ・ 櫛描波状文	10.2	9.1+α	-	-	赤色塗彩・浮文2 ×5箇所貼付・突 帯
23SD001 中層 P-154	第28図	133	土師器	鉢	石英・長石・雲 母・角閃石・赤 色粒子・白色粒 子	にぶい黄褐色	褐灰色	ハケメ・ケズリ 後ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ・指オ サエ	9.8	9.1	-	-	ハケメ(8～11本/ cm)・黒斑
23SD001-6 中層 P-192	第28図	134	土師器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	褐色	褐色	ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナ デ・指オサエ	12.0	7.0	-	-	
23SD001-6 中層	第28図	135	土師器	鉢	石英・長石・角 閃石・白色粒子	褐色	にぶい褐色	ミガキ・横方向 のミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ後 ミガキ	14.9	9.5+α	-	-	外面黒斑
23SD001-0 中層	第28図	136	土師器	鉢	石英・長石・雲 母・黒色粒子			ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナ デ	14.3	10.1	-	-	
23SD001-10	第28図	137	土師器	鉢	石英・長石・雲 母・角閃石・赤 色粒子・白色粒 子	褐色	褐色	ヨコナデ・ナデ 後ミガキ・ケズ リ後ナデ・指オ サエ	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ナデ ・ケズリ後ナデ 後ミガキ?	19.4	14.5	-	-	ハケメ(9～11本/ cm)・黒変
23SD001 P-216	第28図	138	土師器	鉢	石英・長石・雲 母・角閃石・赤 色粒子・白色粒 子	褐色	褐色～明褐灰 色	ナデ・ハケメ・ ハケメ後ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	22.4	12.6	-	-	一部黒変
23SD001-2 中層 23SD001-4 中層	第28図	139	土師器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子			ヨコナデ・ハケ メ後ミガキ・ケ ズリ後ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ・ ケズリ後ミガ キ?	(20.8)	14.8+α	-	-	内外面口縁部～体 部上位にかけ黒斑
23SD001-4 P-60 23SD001-6 中層 23SD001 1層 検出時	第28図	140	土師器	鉢	石英・長石・黒 色粒子			ナデ・ヨコナデ 後細いミガキ?	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	25.6	12.1+α	-	-	外面スス附着
23SD001-0 上層・中層	第28図	141	土師器	鉢	石英・長石・赤 色粒子			ナデ・ヨコナデ (工具痕)	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ後ヨコ ナデ	22.8	18.6	-	-	
23SD001 中層 P-224	第28図	142	土師器	鉢	長石・角閃石・ 白色粒子	灰黄褐色	灰黄褐色～褐 灰色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ・ミガ キ	ナデ・ミガキ・ ケズリ後ナデ	26.8	22.2	-	-	
23SD001-4 中層 P-263	第29図	143	土師器	鉢	石英・長石・雲 母・角閃石・赤 色粒子・白色粒 子	浅黄褐色	淡黄色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ナデ ・ハケメ後ミガ キ・ケズリ・指 オサエ	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ナデ ・ハケメ後ミガ キ・ミガキ	27.3	22.1	-	-	ハケメ(6～7本/ cm)・外面黒変
23SD001-10 下層 23SD001-12 上層 23SD001 1層	第29図	144	土師器	鉢	石英・長石・雲 母			ナデ・ハケメ後 ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ後ヨコ ナデ・指オサ エ	(27.9)	15.6+α	-	-	

第 10 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 9

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SD001-10 中層	第 29 図	145	土師器	鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子			ヨコナデ・ハケ メ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	(30.4)	13.9+ α	-	-	
23SD001-10 中層	第 29 図	146	土師器	鉢	角閃石・石英・ 長石・赤色粒子 ・白色粒子	にぶい橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ後・ナデ	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ ・ケズリ? 工具 ナデ	(32.0)	13.0+ α	-	-	
23SD001-0	第 29 図	147	土師器	鉢	石英・長石・赤 色粒子			ヨコナデ・ケズ リ後ナデ・ハケ メ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ・工具ナ デ・ナデ	25.7	30.5	-	-	
23SD001-4 中層 P-255 23SD001-2 中層 23SD001-12 上層	第 29 図	148	土師器	鉢	長石・角閃石・ 白色粒子	赤褐色	赤褐色	ナデ・横方向の ハケメ・ケズリ 後ハケメ・指オ サエ	ナデ・ハケメ・ ケズリ後ハケ メ	29.5	27.0	-	-	
23SD001 南下層 南 P-202	第 29 図	149	土師器	鉢	角閃石・長石・ 雲母・赤色粒子 ・白色粒子	浅黄色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ	ハケメ後ナデ	(48.0)	16.4+ α	-	-	突帯
23SD001-6 中層 P-183 23SD001 中層・検出 時 P-176・177 23SD001-8 中層	第 30 図	150	土師器	鉢	石英・長石・黒 色粒子			ヨコナデ・ハケ メ後ヨコナデ・ ハケメ・ハケメ 後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ後 ハケメ後ナデ	31.3	29.5	-	-	内面スス付着・刻 み目突帯
23SD001-2 中層 P-212	第 30 図	151	土師器	台付鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	明赤褐色	にぶい橙色	工具ナデ後ナデ ・横方向のハケ メ後ナデ・ハケ メ後ナデ後ミガ キ・ハケメ後 ナデ・ハケメ オサエ・指オサ エ後ヨコナデ	ナデ・縦方向 のハケメ・横 方向のハケメ 後ナデ後ミガ キ・ハケメ後 ナデ・ハケメ 後ミガキ・指 オサエ後ハケ メ後ナデ	(20.4)	17.1	-	-	ハケメ (10 本 /cm)・ 底部内側黒斑
23SD001-2 中層 P-270	第 30 図	152	土師器	台付鉢	角閃石・赤色粒 子・白色粒子	浅黄褐色	浅黄褐色	ナデ	ナデ・ハケメ・ ミガキ	13.2	6.9	3.9	-	ハケメ (6 本 /cm)・ 外面黒斑
23SD001-4 下層	第 30 図	153	土師器	小形鉢	長石・石英・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	浅黄色	浅黄色～黒褐 色	ミガキ? 指オ サエ	ケズリ後ナデ	-	7.5+ α	1.4	-	黒斑
23SD001-4 下層 P-289	第 30 図	154	土師器	鉢	石英・長石			ナデ (一部指オ サエ)	ヨコナデ一部 ケズリ	(9.7)	14.7	-	-	
23SD001-10 中層 P-119	第 30 図	155	土師器	鉢	長石・角閃石・ 白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ・指オサエ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	16.0	10.5	-	-	ハケメ (5 本 /cm)(10 ～ 11 本 /cm)
23SD001-4 P-54	第 30 図	156	土師器	鉢	石英・長石・雲 母・角閃石・赤 色粒子・白色粒 子	橙色	明赤褐色	ナデ・ケズリ・ 指オサエ	ナデ・指オサ エ	13.5	6.5	8.7	-	黒斑
23SD001-4 中層	第 31 図	157	土師器	小型丸底壺	長石・角閃石・ 赤色粒子・白色 粒子	橙色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ミ ガキ・ケズリ 後ナデ	12.0	9.8	-	-	
23SD001-6 中層 P-165	第 31 図	158	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲 母・角閃石・赤 色粒子・白色粒 子	浅黄褐色	浅黄褐色	ナデ・ヨコナデ ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・指頭痕	10.5	8.4	-	-	黒斑
23SD001-2 中層 P-250	第 31 図	159	土師器	小型丸底壺	石英・角閃石・ 赤色粒子・白色 粒子	にぶい橙色	浅黄褐色～橙 色	ナデ・指オサエ 後ナデ	ハケメ後ナデ 後ミガキ・ミ ガキ	10.1	7.3	-	-	内面サビ付着
23SD001-4 P-68 1 層	第 31 図	160	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲 母・角閃石			ナデ・ヨコナデ ・指頭痕	ハケメ後ヨコ ナデ・ハケメ・ ヨコナデ	(12.3)	7.5	-	-	
23SD001-4 P-232	第 31 図	161	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角 閃石	橙色	にぶい橙色	ヨコナデ後ミガ キ・横方向のハ ケメ後ナデ後ミ ガキ・ヨコナデ ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ後ミ ガキ・ハケメ 後ナデ・ミガ キ	10.5	7.4	-	-	ハケメ (8 本 /cm) ・外面黒斑
23SD001-2 中層 P-257	第 31 図	162	土師器	小型丸底壺	長石・角閃石・ 赤色粒子・白色 粒子	にぶい橙色	浅黄褐色	ヨコナデ	ヨコナデ・ミ ガキ	12.0	7.0	-	-	外面黒斑
23SD001 南	第 31 図	163	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角 閃石・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ミ ガキ	11.6	6.6	-	-	内面体部～底部ス ス付着
23SD001-8 中層 P-135	第 31 図	164	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	にぶい橙色～ にぶい赤褐色	にぶい橙色～ 明赤褐色	ハケメ後ナデ・ ハケメ後ナデ後 ヨコナデ・指頭 痕	ハケメ後ナデ 後ミガキ	11.6	6.4	-	-	外面黒斑
23SD001-10 中層 P-128	第 31 図	165	土師器	小型丸底壺	石英・角閃石・ 白色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ハケメ後ナデ後 ヨコナデ・指オ サエ後ヨコナデ	ハケメ後ナデ・ ハケメ後ナデ 後ヨコナデ	11.7	6.8	-	-	外面黒斑
23SD001-8 中層 P-146	第 31 図	166	土師器	小型丸底壺	長石・角閃石・ 赤色粒子・白色 粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ・ ミガキ・指頭痕	ナデ・ケズリ 後ナデ・指頭 痕	13.8	9.2	-	-	
23SD001-8 中層 P-143	第 31 図	167	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲 母・角閃石・赤 色粒子・白色粒 子	橙色～浅橙色	橙色～浅橙色	ハケメ後ナデ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	12.7	7.5	-	-	ハケメ (10～13 本 /cm)・黒斑
23SD001 拡張	第 31 図	168	土師器	丸底壺	石英・長石・雲 母・角閃石・赤 色粒子・白色粒 子	橙色	橙色～浅黄橙 色	ヨコナデ・ハケ メ・ミガキ・ケ ズリ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ後ミガ キ?	20.2	13.7	-	-	ハケメ (12～13 本 /cm)
23SD001-8 中層 P-132	第 31 図	169	土師器	丸底壺	石英・長石・角 閃石・赤色粒子 ・白色粒子	浅黄褐色	橙色～浅黄橙 色	ナデ・ハケメ後 ヨコナデ後ミガ キ・ケズリ後ナ デ	ナデ・ケズリ 後ヨコナデ後 ミガキ・ケズ リ後ミガキ	16.6	13.2	-	-	ハケメ (8～10 本 /cm)
23SD001-6 P-103	第 31 図	170	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角 閃石・赤色粒子			ナデ・ミガキ	ミガキ	-	6.4+ α	-	-	
23SD001-0 中層	第 31 図	171	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子	にぶい黄褐色 ～にぶい橙色	橙色	横方向のハケ メ・ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ	14.5	6.3	-	-	ハケメ (11 本 /cm)
23SD001-6 中層	第 31 図	172	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・角 閃石・赤色粒子			ヨコナデ・ミガ キ	ヨコナデ・ヨ コナデ後ミガ キ・ハケメ後ヨ コナデ・ケズリ 後ミガキ	(15.0)	6.3	-	-	

第 11 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 10

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SD001 拡張	第 31 図	173	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ナデ・ハケメ後ヨコナデ	ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	13.3	6.4	-	-	ハケメ (8～9 本/cm)・黒斑
23SD001-0 P-227	第 31 図	174	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ハケメ後ミガキ・ミガキ	ミガキ	14.3	6.2	-	-	外面黒斑
23SD001-6 下層・中層 P-191	第 31 図	175	土師器	小型丸底鉢	長石・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・工具ナデ	ナデ・ミガキ	13.8	6.8	-	-	外面黒斑
23SD001-2 中層	第 31 図	176	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ (工具痕)	ナデ・ヨコナデ後部分的ケズリ・ハケメ後ヨコナデ	(16.4)	5.9+a	-	-	
23SD001-6 P-74	第 31 図	177	土師器	小形の丸底鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色～橙色	にぶい黄橙色～橙色	ヨコナデ後ミガキ・ケズリ後ミガキ・ミガキ・指頭痕・指オサ工後ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ハケメ	11.0	7.7	4.2	-	ハケメ (12 本/cm)
23SD001-10 中層 P-127	第 31 図	178	土師器	小形の丸底鉢	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	浅黄橙色	ナデ・ミガキ	ナデ	12.5	7.0	-	-	黒斑
23SD001-6 中層 P-171	第 31 図	179	土師器	小形の丸底鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ	9.8	6.0	-	-	黒斑
23SD001-4 中層	第 31 図	180	土師器	小形の丸底鉢	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	橙色	ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	12.0	7.5	-	-	
23SD001-8 P-104	第 31 図	181	土師器	小形の丸底壺	石英・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい黄橙色～橙色	ハケメ後ナデ後ミガキ・ケズリ・指頭痕	ハケメ後ナデ後ヨコナデ・横方向のハケメ後粗いミガキ・ミガキ・指頭痕	13.1	13.5	-	-	
23SD001 P-13	第 31 図	182	土師器	小形の丸底壺	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙色～にぶい赤褐色		ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	9.4	12.8	-	-	
23SD001-4 P-61	第 31 図	183	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	淡橙色	橙色～淡橙色	ナデ・ヨコナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	10.8	14.0	-	-	ハケメ (7～8 本/cm)・黒斑
23SD001-8 P-12	第 31 図	184	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黄褐色	明黄褐色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(11.8)	15.5	-	-	黒斑
23SD001 P-10	第 31 図	185	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	11.9	15.4	-	-	ハケメ (6～7 本/cm)
23SD001-4 P-56	第 32 図	186	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄褐色～褐灰色	灰黄褐色	ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	9.4	8.5	-	-	ハケメ (7 本/cm)・スス付着
23SD001-4 P-62	第 32 図	187	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ後ナデ・指頭痕	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	7.0	10.4	-	-	ハケメ (9 本/cm)
23SD001 1 層 23SD001-8 P-15	第 32 図	188	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・角閃石・黒色粒子			ナデ	ハケメ	(7.2)	10.5	-	-	
23SD001 P-30	第 32 図	189	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄褐色～褐灰色	にぶい黄褐色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	7.0	8.7	-	-	ハケメ (7 本/cm) 黒斑
23SD001 1 層	第 32 図	190	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・角閃石・褐色粒子			ナデ・ヨコナデ (指頭痕)	ナデ・ヨコナデ	(7.4)	7.8+a	-	-	
23SD001-4 P-68	第 32 図	191	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・角閃石			ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	7.0	7.9+a	-	-	
23SD001-8 P-100	第 32 図	192	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・雲母			ナデ・ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ一部ナデ・ハケメ後ヨコナデ	(6.2)	7.4+a	-	-	
23SD001-4 P-64	第 32 図	193	土師器	小形の丸底壺	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ナデ	ナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	6.2	7.0	-	-	
23SD001 1 層	第 32 図	194	土師器	小形の丸底壺	長石・角閃石・赤色粒子			ヨコナデ・ケズリ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	(9.0)	9.2+a	-	-	
23SD001-10 P-88	第 32 図	195	土師器	小形の丸底壺	石英・長石・角閃石・白色粒子	浅黄橙色	灰白色～にぶい褐色	ハケメ後ナデ・指頭痕・指オサ工後ミガキ	ハケメ後ナデ後ミガキ・横方向のハケメ後ナデ後ミガキ・指頭痕・指オサ工後ナデ	9.1	10.0	-	-	内外面黒斑
23SD001-10 P-83	第 32 図	196	土師器	直口壺	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい褐色～褐灰色	浅黄褐色～褐灰色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	14.0	14.7	-	-	
23SD001-0 中層 P-234	第 32 図	197	土師器	直口壺	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい褐色～褐灰色	浅黄褐色～明褐灰色	ナデ・指頭痕	ナデ・ナデ後ミガキ・指頭痕	13.5	16.7	-	-	
23SD001-10 中層 P-122	第 32 図	198	土師器	直口壺	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐色	にぶい褐色	ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ミガキ	15.0	17.4	-	-	ハケメ (8 本/cm)
23SD001-8 中層 P-144	第 32 図	199	土師器	直口壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐色～淡黄褐色	淡黄褐色～浅黄褐色	ナデ・ヨコナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	(14.0)	19.0	-	-	ハケメ (11～13 本/cm)・黒斑・工具による文様?
23SD001-8 中層 P-149	第 32 図	200	土師器	直口壺	赤色粒子・石英・長石・角閃石	明赤褐色	褐色～浅黄褐色	ナデ・オサエ・ナデ	ミガキ	-	15.4+a	-	-	黒斑
23SD001-2 中層	第 32 図	201	土師器	直口壺	石英・長石・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ミガキ	10.8	14.0+a	-	-	
23SD001-4 P-63	第 32 図	202	土師器	直口壺	石英・長石・角閃石			ナデ・ヨコナデ (指頭痕)	ナデ・ヨコナデ	9.9	11.5+a	-	-	

第 12 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 11

遺構名	挿図番号	遺物番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
23SD001-8 P-98	第 32 図	203	土師器	直口壺	長石・角閃石・白色粒子	にぶい黄褐色～橙色～黒褐色	にぶい黄褐色～明黄褐色	ナデ・ヨコナデ・斜めハケメ・ミガキ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・縦方向のハケメ・縦方向のハケメ後ナデ・縦～斜めハケメ・ミガキ	20.8	34.3	-	-	ハケメ (10 本 /cm) (10 ～ 11 本 /cm)
23SD001-8 P-158	第 33 図	204	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	橙色	ナデ・工具ナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	13.7	24.3	-	-	ハケメ (6 ～ 13 本 /cm)・黒斑
23SD001 南 P-80	第 33 図	205	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ハケメ・ハケメ後ミガキ・ハケメ後指オサエ・ケズリ	ナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	13.5	28.0	-	-	ハケメ (4 ～ 5 本 /cm)・外面黒変
23SD001-6 中層 P-198	第 33 図	206	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい黄褐色	ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・指頭痕	ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	(15.9)	31.9	-	-	黒斑
S001-10 中層	第 33 図	207	土師器	壺	角閃石・石英・長石・白色粒子・雲母	にぶい黄褐色～黒褐色	にぶい黄褐色～黒褐色	ヨコナデ・オサエ・ハケメ後ナデ・ナデ・ミガキ	ヨコナデ・オサエ・ハケメ?	(16.8)	23.6+α	-	-	黒斑
23SD001 P-31	第 33 図	208	土師器	壺	赤色粒子・白色粒子・石英・角閃石	明赤褐色～にぶい橙色	明赤褐色	ハケメ後ヨコナデ・指オサエ・ケズリ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	14.3	15.8+α	-	-	黒斑
23SD001 中層 P-221・224 23SD001-0 中層 P-241	第 34 図	209	土師器	壺	石英・長石・赤色粒子			ヨコナデ・ナデ一部ハケメ	ハケメ	15.9	34.0	-	-	外面スス付着
23SD001-4 中層 P-262 23SD001-6 P-210	第 34 図	210	土師器	壺	石英・赤色粒子・白色粒子	橙色～明褐色	にぶい橙色～褐色	ナデ・縦方向のハケメ・縦方向のハケメ・横～斜めハケメ・斜めハケメ・ケズリ・指頭痕	ナデ・縦方向のハケメ後ヨコナデ・縦～斜めハケメ・ハケメ	(19.3)	37.0	-	-	ハケメ (9 ～ 10 本 /cm) (10 本 /cm) 外面スス付着
23SD001-4 中層 P-276	第 34 図	211	土師器	壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・黒色粒子			工具ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	17.6	36.0	-	-	突帯
23SD001-8 中層 P-163 23SD001-4・6 中層	第 34 図	212	土師器	壺	石英・長石			ヨコナデ・ケズリ・ハケメ後ナデ・ナデ・ナデ?	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ	18.2	39.1	-	-	突帯貼付・外面スス付着
23SD001-0・2 中層	第 35 図	213	土師器	壺	石英・長石・赤色粒子			ハケメ・ハケメ後ナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	18.5	42.5	-	-	
23SD001-4 P-58	第 35 図	214	土師器	壺	石英・角閃石・白色粒子	灰褐色	褐色	ナデ・ヨコナデ・斜めハケメ	ナデ・ヨコナデ・斜めハケメ	18.0	41.4	-	-	ハケメ (5 本 /cm)・外面黒変・サビ付着
23SD001 P-18	第 35 図	215	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明黄褐色～暗灰色	にぶい赤褐色	ヨコナデ・ケズリ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	15.3	19.9	-	-	ハケメ (9 ～ 10 本 /cm)・黒斑
23SD001-8 P-130	第 35 図	216	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰褐色	褐色	ヨコナデ・ハケメ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	15.0	19.8	-	-	ハケメ (9 ～ 15 本 /cm)・黒斑
23SD001-0 中層	第 35 図	217	土師器	壺	角閃石・白色粒子・赤色粒子・長石・雲母	明赤褐色	明赤褐色～黒褐色	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後オサエ・ケズリ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(13.6)	18.7+α	-	-	黒斑
23SD001 中層 P-220	第 35 図	218	土師器	壺	石英・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐色	褐色	ナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ヨコナデ後ミガキ・指頭痕	ハケメ後ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ	17.8	32.2	-	-	ハケメ (5 ～ 6 本 /cm)・黒斑
23SD001-12 上層・中層 P-198・201 23SD001 拡張	第 35 図	219	土師器	壺	石英・長石・角閃石			ナデ・ヨコナデ・ミガキ・工具痕	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ミガキ	17.1	27.7+α	-	-	
23SD001-6 中層 P-182	第 36 図	220	土師器	壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色～明赤褐色	ハケメ・ハケメ後ヨコナデ・指頭痕	ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	18.1	32.6	-	-	ハケメ (3 ～ 8 本 /cm)・黒斑・穿孔
23SD001-2 P-225	第 36 図	221	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄褐色	にぶい褐色	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ	16.3	32.3	-	-	ハケメ (6 ～ 7 本 /cm)
23SD001-2 中層 P-273 23SD001-4 中層	第 36 図	222	土師器	壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ハケメ後ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	(17.5)	36.3	-	-	
23SD001-0 中層 P-213	第 36 図	223	土師器	壺	石英・長石・赤色粒子			ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	17.4	36.2+α	-	-	外面スス付着
23SD001-2・4 中層 23SD001 P-36	第 36 図	224	土師器	壺	石英・長石・雲母・赤色粒子			ハケメ後ナデ・ナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	20.2	26.3+α	-	-	内面スス付着
23SD001 拡張 23SD001-8 中層 23SD001-12 上層・中層	第 36 図	225	土師器	壺	石英・長石・雲母・赤色粒子			ハケメ・ハケメ後ヨコナデ・ナデ (指頭痕)・一部ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ヨコナデ	16.5	15.6+α	-	-	
23SD001-8 P-1 群 中層 P-176・175	第 37 図	226	土師器	壺	石英・長石・角閃石・白色粒子	にぶい黄褐色～褐色	明黄褐色	ナデ後ミガキ・ハケメ・ハケメ後ミガキ・指オサエ後ナデ	ナデ・ナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ	(17.2)	36.4	-	-	黒変・接合痕

第 13 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 12

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SD001-P-1	第 37 図	227	土師器	壺	石英・長石・赤色粒子・黒色粒子			ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ミガキ	-	32.8+ α	-	-	外面スス付着
23SD001 拡張	第 37 図	228	土師器	壺	石英・角閃石・白色粒子・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	19.1	13.0+ α	-	-	丁寧なナデで器壁整う
23SD001-0 中層・上層・下層 P-241 など	第 37 図	229	土師器	複合口縁壺	長石・角閃石・白色粒子	にぶい黄橙色～橙色	明赤褐色～橙色	ナデ・工具ナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	縦方向のハケメ後ナデ・斜めハケメ後ナデ・ミガキ・櫛描波状文	18.6	51.1	-	-	突帯(肩部・胴部)・内外面部分的に黒変
23SD001-6 中層	第 37 図	230	土師器	複合口縁壺	石英・長石			指頭痕・ハケメ・ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ・ヨコナデ・キサミ・ハケメ・ナデ	-	41.2+ α	-	-	
23SD001-2 中層 P-211 P-237 P-271 23SD001-4 中層	第 38 図	231	土師器	複合口縁壺	石英・長石・雲母・赤色粒子			ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ・ハケメ後一部ナデ	ヨコナデ・ヨコナデ後櫛描波状文・ハケメ・ヨコナデ後キサミ・ハケメ後ミガキ・ケズリ	17.8	40.1	-	-	突帯貼付
23SD001-2 中層 P-236 23SD001-4 中層 P-272	第 38 図	232	土師器	複合口縁壺	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	浅黄橙色～橙色	ナデ・ヨコナデ・縦方向のハケメ・斜めハケメ・ミガキ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・縦方向のハケメ	15.0	37.6	-	-	ハケメ(5～6本/cm)(6～7本/cm)・外面スス付着・突帯
23SD001-4 中層 P-280 23SD001-6 中層	第 38 図	233	土師器	複合口縁壺	石英・長石・赤色粒子			ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・櫛描波状文・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後一部ミガキ・ハケメ後ナデ	15.8	36.4+ α	-	-	
23SD001-2	第 38 図	234	土師器	複合口縁壺	角閃石・雲母・石英・赤色粒子	灰黄色	にぶい橙色	ヨコナデ・ナデ・指オサエ・ハケメ後ナデ	櫛描波状文・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	17.2	20.5+ α	-	-	突帯貼付
23SD001-2 P-236 23SD001-0 上層	第 38 図	235	土師器	複合口縁壺	長石・角閃石・白色粒子・橙色粒子	明黄褐色～黄褐色にぶい黄褐色	明黄褐色～黄褐色	ナデ・ヨコ・斜めハケメ・縦方向のハケメ・指頭痕	斜めハケメ・縦方向のハケメ・斜めハケメ後ナデ(ミガキ?)	-	42.6+ α	-	-	ハケメ内(10～11本/cm)(11～12本/cm)外(10～11本/cm)・突帯・外面黒変
23SD001-0 下層 P-296	第 38 図	236	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子・礫	灰白色	灰白色 断面灰色	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・櫛描波状文	15.0	11.3+ α	-	-	黒斑
23SD001-4 P-65	第 39 図	237	土師器	複合口縁壺	石英・長石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	浅黄褐色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	5.4	8.0	-	-	ハケメ(6本/cm)(8本/cm)
23SD001-4 中層 20SD001 f区上層	第 39 図	238	土師器	複合口縁壺	石英・長石・赤色粒子			ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	14.6	32.2+ α	-	-	
23SD001-4 P-66	第 39 図	239	土師器	複合口縁壺	石英・長石・角閃石・白色粒子	橙色～黒色	明赤褐色～橙色	ナデ・横方向のハケメ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・縦方向のハケメ後ナデ・斜めハケメ後ナデ	19.8	33.5	-	-	ハケメ(5本/cm)(6本/cm)
23SD001-6 中層 P-196 23SD001-8 中層 23SD001-12 上層	第 39 図	240	土師器	二重口縁壺	石英・長石・雲母・赤色粒子			ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ヨコナデミガキ・ハケメ・ハケメ(一部ミガキ?)	19.4	23.0+ α	-	-	
23SD001-4 中層 P-63・69	第 39 図	241	土師器	二重口縁壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄褐色	浅黄褐色	ナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後丁寧なナデ・ハケメ後ヨコナデ	15.5	31.9	-	-	ハケメ(3～11本/cm)(4～6本/cm)
23SD001-8 P-101 P-1 群	第 39 図	242	土師器	二重口縁壺か	白色粒子・赤色粒子・角閃石	明褐色	にぶい黄褐色～黒褐色	ヨコナデ・ケズリ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	-	31.2+ α	-	-	黒斑
23SD001-4・6 中層	第 40 図	243	土師器	壺	角閃石・白色粒子	赤褐色	橙色	斜めハケメ・指頭痕	ナデ・縦方向のハケメ後ナデ・縦方向のハケメ・ミガキ	-	41.6+ α	-	-	ハケメ(7本/cm)(7～9本/cm)(9本/cm)・外面黒変・突帯
23SD001-4 中層 P-263・274	第 41 図	244	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄褐色	浅黄褐色	ハケメ後ミガキ・ケズリ後ミガキ・指オサエ後ミガキ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	17.8	30.6	-	21.6	ハケメ(9～12本/cm)
23SD001-0 中層	第 41 図	245	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	黄褐色	ナデ・ヨコナデ・指頭痕	ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	20.4	31.1	-	23.6	ハケメ(8本/cm)・外面スス付着
23SD001-6 中層 P-242	第 41 図	246	土師器	甕	雲母・角閃石・白色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ後ヨコナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ	17.5	29.2	-	22.2	黒斑・スス付着
23SD001-4 中層 P-209	第 41 図	247	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子			ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ	(17.8)	29.8	-	23.8	内面底部・外面口縁部・胴部～底部スス付着
23SD001-6 中層 P-210	第 41 図	248	土師器	甕	石英・長石・赤色粒子			ハケメ後ミガキ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ミガキ・ミガキ	19.4	31.6+ α	-	28.0	外面胴部スス付着
23SD001-8 中層 P-159・146	第 41 図	249	土師器	甕	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	(16.8)	29.4+ α	-	21.5	ハケメ(7本/cm)・外面スス付着
23SD001-4 中層	第 42 図	250	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黄褐色	黄褐色	ナデ・ミガキ・ケズリ後ミガキ・指オサエ後ナデ・指オサエ後ミガキ	工具ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ	16.6	29.7	-	22.0	ハケメ(5～7本/cm)外面黒変
23SD001-0 中層	第 42 図	251	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色～赤色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ・指頭痕	ナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	(18.0)	29.0	-	22.2	ハケメ(8本/cm)・胴部下半剥離顕著

第 14 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 13

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SD001-2 中層 P-254	第 42 図	252	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい黄橙色 ～橙色	橙色～にぶい 橙色	ナデ・ハケメ後 ヨコナデ・ハケ メ後ミガキ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	21.6	34.5	-	23.8	ハケメ (6 本 /cm)・ 黒斑
23SD001-6 中層 P-200 23SD001-8 中層 23SD001-12 上層	第 42 図	253	土師器	甕	石英・長石・ 赤色粒子			ハケメ・ハケメ 後ナデ・ハケメ 後ヨコナデ・ケ ズリ後ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	20.1	31.5	-	23.2	内外面スス付着
23SD001-4 中層	第 42 図	254	土師器	甕	角閃石・石英・ 長石・赤色粒 子・白色粒子	橙色	にぶい橙色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ	ヨコナデ・ナ デ・指オサエ ・ハケメ後ナ デ	(16.2)	26.8+α	-	-	
23SD001-6 中層	第 42 図	255	土師器	甕	角閃石・石英・ 雲母・白色粒 子・赤色粒子	浅黄橙色	にぶい黄橙色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ナ デ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	(18.4)	21.5+α	-	-	
23SD001-6 中層 P-246	第 43 図	256	土師器	甕	長石・角閃石・ 白色粒子	にぶい橙色・ 橙色	にぶい橙色～ 橙色	ヨコナデ・ヨコ ハケメ・ミガキ	ナデ・ヨコナ デ・ケズリ後 ナデ?	18.5	34.1	-	22.6	内外面スス付着
23SD001-2 中層 P-208	第 43 図	257	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石			ナデ・ハケメ・ ヨコナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ヨコ ナデ	(16.5)	29.3	-	22.7	胴部穿孔 1 箇所
23SD001-8 中層	第 43 図	258	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	浅黄橙色～橙 色～黒色	浅黄橙色～橙 色	ナデ・ヨコハケ メ・ミガキ?・ 指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ケズリ後ハケ メ・ミガキ	18.4	31.7	-	24.6	ハケメ (6 ～ 7 本 / cm) (7 本 /cm)・内 面黒変
23SD001-6 中層 P-170	第 43 図	259	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・ケズ リ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(18.5)	28.3	-	22.5	ハケメ (6 本 /cm)・ 黒斑
23SD001-4 中層・P-252	第 43 図	260	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ハケメ後ナデ・ ケズリ後ナデ・ 指オサエ後ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	16.8	30.0	-	23.4	ハケメ (5 ～ 10 本 /cm)・内面一部黒 変
23SD001-8 中層	第 44 図	261	土師器	甕	長石・角閃石・ 白色粒子	橙色	明褐灰色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ後ナデ ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ナデ	22.0	35.4	-	28.8	ハケメ (9 本 /cm)・ 外面スス付着
23SD001 中層 P183・190 23SD01 下 層	第 44 図	262	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石			ナデ・ハケメ後 ナデ・ハケメ後 ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ後ヨコナデ	(16.4)	28.5	-	23.3	口縁～胴部下位・ 内面底部スス付着
23SD001 P-17	第 44 図	263	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	にぶい黄橙色	浅黄橙色	ナデ・ハケメ後 ナデ・ハケメ後 ミガキ・指頭痕	ナデ・ハケメ 後ナデ・ミガ キ	(17.6)	30.1	-	26.0	
23SD001 P-15	第 44 図	264	土師器	甕	長石・角閃石・ 白色粒子	明褐色～黒褐 色	にぶい橙色～ 橙色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・指頭 痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	(16.7)	28.4	-	24.5	ハケメ (5 本 /cm)・ 内外面黒変
23SD001-2 集中	第 44 図	265	土師器	甕	石英・長石・ 雲母			ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後一部 ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後一部ナ デ・ハケメ後 ヨコナデ	18.3	28.6	-	24.4	
23SD001-6 P-195	第 44 図	266	土師器	甕	角閃石・白色 粒子・赤色粒 子	橙色	橙色	ハケメ・ハケメ 後ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(16.4)	13.3+α	-	-	
23SD001	第 44 図	267	土師器	甕	角閃石・長石・ 石英・白色粒 子・赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・指オ サエ・ナデ・ケ ズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	(16.6)	17.2+α	-	-	
23SD001-6 中層 P-186・190	第 45 図	268	土師器	甕	白色粒子・角 閃石・石英・ 赤色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ハケメ後ナデ・ ナデ・ハケメ後 ナデ	ハケメ後ナデ ・ナデ	(18.4)	16.5+α	-	-	
23SD001-4 中層 P-229	第 45 図	269	土師器	甕	角閃石	橙色	橙色	ヨコナデ・ミガ キ・ハケメ後ミ ガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ	(18.0)	20.3+α	-	-	
23SD001 P-12	第 45 図	270	土師器	広口甕	長石・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	黄橙色～橙色 ～赤色	橙色～黒褐色	ナデ・ナナメハ ケメ・ナナメハ ケメ後ナデ・指 頭痕	ナデ・ハケメ	(27.6)	33.9+α	-	-	ハケメ (5 本 /cm)・ 赤変・スス付着
23SD001 南中層 P-116	第 46 図	271	土師器	甕	長石・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色～黒色	橙色～褐灰色 ～赤褐色	ナデ・ハケメ・ ミガキ・ケズリ ・指頭痕	ナデ・ハケメ ・ミガキ	18.8	28.3	-	21.2	ハケメ (5 ～ 6 本 / cm)・内面黒変・外 面スス付着
23SD001-6 中層 P-189・183	第 46 図	272	土師器	甕	長石・角閃石・ 白色粒子・橙 色粒子	橙色～黒褐色	橙色～黒褐色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ後ナ デ・ナデ・指頭 痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ケズリ後ナデ ・ミガキ?	(16.3)	26.6	-	20.2	ハケメ (12 ～ 13 本 /cm)・外面スス付 着
23SD001-0 P-226	第 46 図	273	土師器	甕	雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色～浅黄橙 色	ヨコナデ・ケズ リ後ハケメ後ミ ガキ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ ・ミガキ	15.1	26.0	-	20.9	ハケメ (5 ～ 11 本 /cm)・黒斑・スス 付着
23SD001-10 中層・P-129	第 46 図	274	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコハケメ後ミ ガキ・指オサエ 後ナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ・ミガキ	(14.3)	22.0+α	-	18.1	ハケメ (8 本 /cm)
23SD001 中層集中	第 46 図	275	土師器	甕	角閃石・石英・ 白色粒子・赤 色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(17.7)	15.6+α	-	-	
23SD001-8 中層	第 46 図	276	土師器	甕	赤色粒子・白 色粒子・角閃 石・石英・長 石・雲母	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズ リ・ケズリ後ナ デ	ハケメ後ヨコ ナデ・ハケメ 後一部ナデ	(17.0)	13.5+α	-	-	黒斑
23SD001 P-26	第 46 図	277	土師器	甕	角閃石・長石・ 石英・白色粒 子・赤色粒子	明褐色	にぶい黄橙色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後指 オサエ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	(14.5)	12.8+α	-	-	
23SD001-0 P-241	第 46 図	278	土師器	甕	角閃石・雲母・ 石英・赤色粒 子・白色粒子	灰黄褐色	灰黄褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ナ デ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	(15.1)	13.1+α	-	-	
23SD001-0 中層	第 46 図	279	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ナデ ・指オサエ後ナ デ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ後ミガキ	16.2	27.4	-	19.6	黒変
23SD001-0 中層 P-223	第 46 図	280	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	浅黄橙色～明 赤褐色	ハケメ後ナデ・ ハケメ後ヨコナ デ・ミガキ・指 頭痕	ナデ・ハケメ ・ハケメ後ヨ コナデ	13.9	23.5	-	17.8	ハケメ (7 ～ 18 本 /cm)・黒斑

第 15 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 14

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SD001-6 中層 P-177・183	第 46 図	281	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石			ハケメ・ハケメ 後ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ後ヨコナデ	(17.8)	27.2+α	-	22.0	外面胴部・内面底 部付近スス付着
23SD001-8 中層 P-140	第 47 図	282	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	浅黄橙色	浅黄橙色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ後ナ デ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ	18.1	28.0	-	22.5	ハケメ(8～9本/ cm)・黒斑・スス付 着
23SD001-0 上層	第 47 図	283	土師器	甕	角閃石・長石・ 白色粒子・赤 色粒子	にぶい褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(17.6)	25.5+α	-	-	
23SD001-2 中層	第 47 図	284	土師器	甕	角閃石・石英・ 雲母・赤色粒 子・白色粒子	にぶい褐色	褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ・ケ ズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(15.4)	18.1+α	-	-	
23SD001-8 中層 P-136	第 47 図	285	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子・黒色粒子			ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ(一 部指頭痕)・ ハケメ・ハケ メ後ナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ	(16.0)	12.6+α	-	-	外面口縁一部～胴 部スス付着
23SD001-8 中層 P-164	第 47 図	286	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい黄褐色	浅黄褐色	ヨコナデ・ケズ リ後ミガキ・指 オサエ後ハケ メ後ナデ	ヨコナデ・指 オサエ後ナデ	20.3	23.0+α	-	-	ハケメ(6～8本/ cm)(7～9本/cm) ・黒変
23SD001-8	第 47 図	287	土師器	甕	角閃石・石英・ 白色粒子・赤 色粒子	にぶい褐色	褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ	(16.8)	15.2+α	-	-	黒斑
23SD001-0 中層 P-213・219	第 47 図	288	土師器	甕	角閃石・白色 粒子	にぶい褐色～ にぶい褐色	にぶい褐色～ 暗赤褐色	ナデ・ハケメ後 ミガキ・指頭痕	ナデ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ・ケズリ後 ナデ	25.5	25.5	-	18.6	ハケメ(6～7本/ cm)・外面黒斑
23SD001-4 中層 P-260	第 47 図	289	土師器	甕	石英・雲母・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	褐色	褐色～灰白色	ヨコナデ後ミガ キ・ハケメ後ミ ガキ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	17.3	27.8	-	21.3	ハケメ(9～11本 /cm)・スス付着
23SD001-2 中層 P-251	第 47 図	290	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	にぶい褐色	褐色～灰白色	ハケメ後ヨコナ デ・ミガキ・指 頭痕	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	17.7	27.8	-	21.2	ハケメ(10～11本 /cm)・黒斑・スス 付着
23SD001-6 中層 P-181	第 47 図	291	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	明赤褐色	明赤褐色～淡 褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ・指 頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ後ヨコナデ	13.9	23.9	-	19.1	ハケメ(7～14本 /cm)
23SD001-10	第 47 図	292	土師器	甕	角閃石・石英・ 雲母・白色粒 子・赤色粒子	明黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ後ヨコ ナデ・ハケメ 後ナデ	(14.6)	20.6	-	-	黒斑
23SD001-6 P-195	第 47 図	293	土師器	甕	角閃石・雲母・ 石英・赤色粒 子・白色粒子	褐色	にぶい褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ナ デ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(15.4)	15.1+α	-	-	
23SD001-8 中層 P-137	第 47 図	294	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	浅黄褐色～黒 褐色	浅黄褐色～明 赤褐色～赤黒 色	ケズリ後ナデ・ ミガキ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ・ミガキ	15.6	20.8	-	17.7	黒変
23SD001-6 中層	第 47 図	295	土師器	甕	角閃石・石英・ 長石・赤色粒 子・白色粒子	褐色	褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ナ デ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	14.2	10.2+α	-	-	
23SD001-4 中層 P-283・209	第 48 図	296	土師器	甕	石英・長石・ 赤色粒子			ヨコナデ・ハケ メ・ハケメ後ヨ コナデ・ケズリ 後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	16.7	22.5+α	-	20.8	外面胴部中位～下 位スス付着
23SD001 中層 P-173	第 48 図	297	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	にぶい黄褐色	浅黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ・ハケメ後ナ デ・ケズリ後ミ ガキ・指オサエ 後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	(17.8)	26.4	-	21.5	ハケメ(6本/cm)(6 ～10本/cm)・外 面スス付着
23SD001-2 中層 P-256	第 48 図	298	土師器	甕	雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ後ナ デ・指頭痕	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	15.7	25.5	-	20.4	ハケメ(8～11本 /cm)・黒斑・スス 付着・赤変
23SD001-2 中層 P-268	第 48 図	299	土師器	甕	長石・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色	淡褐色～褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ナ デ・ハケメ後指 オサエ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ナデ	15.2	24.7	-	20.2	ハケメ(7～10本 /cm)・スス付着
23SD001-8 中層 23SD001-6 中層 P-164	第 48 図	300	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色	褐色	ナデ・ハケメ・ ハケメ後ナデ・ ハケメ後ミガキ ・指頭痕	工具ナデ・ヨ コナデ・ハケ メ・ハケメ後 ナデ・ミガキ ・指頭痕	(19.6)	27.6	-	23.1	内外面一部黒変
23SD001-6 中層 P-193	第 48 図	301	土師器	甕	角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	浅黄褐色	浅黄褐色	ケズリ後ナデ・ 指頭痕・指オサ エ後ヨコナデ	ケズリ後ナデ ・指オサエ後 ヨコナデ	15.5	24.6	-	20.8	黒斑
23SD001-8 中層 P-161	第 48 図	302	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色	褐色	ケズリ後ナデ・ ケズリ後ヨコナ デ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	15.0	20.2	-	17.5	ハケメ(4本/cm)・ 黒斑・スス付着・ 赤変
23SD001-0 中層	第 48 図	303	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・白色 粒子	褐灰色	浅黄褐色	ナデ・ハケメ・ ハケメ後ナデ・ ケズリ後ミガキ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ミガキ	16.9	24.0	-	22.0	
23SD001-6 中層 P-185	第 48 図	304	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色	褐色～灰白色	ヨコナデ・ハケ メ後ミガキ・ハ ケメ後指オサ エ・ケズリ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	15.7	24.0	-	22.4	スス付着
23SD001 P-35	第 49 図	305	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色 ～褐色	ハケメ・ハケメ 後ナデ・ハケメ 後ヨコナデ・指 頭痕	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	(15.2)	20.2	-	18.6	ハケメ(5本/cm)・ 黒斑
23SD001 P-11	第 49 図	306	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子			ヨコナデ・ハケ メ(一部指頭 痕)・ハケメ一 部ケズリ・ケズ リ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ一 部ナデ	(15.9)	17.7+α	-	24.2	頭部～胴部スス付 着
23SD001-6 中層	第 49 図	307	土師器	甕	白色粒子・角 閃石・赤色粒 子・石英・雲 母	赤褐色	赤褐色～黄褐 色	ヨコナデ・ハケ 後ナデ	ヨコナデ・ナ デ	(18.1)	12.9+α	-	-	黒斑

第 16 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 15

遺構名	挿図番号	遺物番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SD001-8 P-1 群 P-155	第 49 図	308	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子			ヨコナデ・ハケ メ後ナデ (一部 指頭痕)	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	15.5	21.3+α	-	21.0	胴部上位へ下位ス ス付着
23SD001-6 中層	第 49 図	309	土師器	甕	角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	橙色～黒褐色	橙色～黒褐色	ナデ・ハケメ・ 指頭痕	ハケメ・ハケ メ後ナデ・指 頭痕	21.5	21.5+α	-	21.3	
23SD001-6 中層 P-199	第 49 図	310	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ハケメ後ナデ・ ハケメ・後ヨコ ナデ・ケズリ後 ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	(17.9)	22.0	-	15.6	ハケメ (7～8 本 / cm)・黒斑
23SD001-8 中層 P-133	第 49 図	311	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子			ヨコナデ・ケズ リ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ後ヨコナデ	(15.8)	23.7+α	-	20.2	外面スス付着
23SD001-6 P-183	第 49 図	312	土師器	甕	角閃石・石英・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ 後オサエ・ナデ ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケ	(17.7)	17.7+α	-	-	反転復元
23SD001-6 中層 P-184	第 50 図	313	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	明黄褐色～灰 黄褐色	にぶい黄褐色 ～灰黄褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ・指 頭痕	ハケメ・ハケ メ後ナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ	15.5	19.9	-	17.4	ハケメ (8～10 本 /cm)・黒斑
23SD001 P-217	第 50 図	314	土師器	甕	長石・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	黄褐色	灰白色～浅黄 褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ケズ リ・指頭痕	ナデ・ハケメ ・ヨコナデ	17.0	23.5	-	21.0	外面スス付着
23SD001-0 中層	第 50 図	315	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ハケメ後ナデ・ 指オサエ後ナ デ・ハケメ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ナデ	15.6	25.0	-	22.4	ハケメ (6～8 本 /cm)(7～9 本 / cm)・外面一部黒変
23SD001-2 中層 P-269	第 50 図	316	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい赤褐色	浅黄褐色～橙 色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ナデ ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	(15.2)	24.5	-	19.8	ハケメ (8～9 本 / cm)・黒斑・スス付 着
23SD001-6 中層 P-188	第 50 図	317	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色～灰褐色	橙色～褐灰色	ハケメ後ナデ 後ミガキ	ハケメ・ヨコ ナデ	14.1	21.3+α	-	19.0	ハケメ (5～6 本 / cm)
23SD001-4	第 50 図	318	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・黒色 粒子			ハケメ・ハケメ 後ヨコナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ・ハケメ 後ヨコナデ	(12.8)	18.9+α	-	17.8	
23SD001-6 中層 P-180・190	第 50 図	319	土師器	甕	石英・角閃石	にぶい橙色	にぶい橙色～ 褐色	ハケメ後ミガキ ・ミガキ・指オ サエ後ミガキ	ハケメ後ナデ ・ハケメ後ヨ コナデ・指頭 痕・指オサエ 後ハケメ	14.5	19.5	-	16.7	ハケメ (7～9 本 / cm)・内外面黒斑
23SD001-2 中層 P-264	第 50 図	320	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄褐色 ～褐色	にぶい黄褐色 ～褐色	ナデ・ヨコナデ	ハケメ後ナデ 後ヨコナデ・ ハケメ後ナデ 後ミガキ・ハ ケメ後粗いミ ガキ	15.0	20.8	-	18.4	ハケメ (13 本 /cm) ・内面底部黒斑・ 外面スス付着
23SD001-8 中層 P-160	第 50 図	321	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	褐色～浅黄褐 色	ヨコナデ・ケズ リ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	15.0	24.7	-	20.7	ハケメ (7～9 本 / cm)・黒斑・スス付 着
23SD001-0	第 51 図	322	土師器	甕	長石・角閃石・ 白色粒子	明赤褐色～黒 褐色	明赤褐色～黒 褐色	ナデ・ハケメ後 ナデ・ミガキ・ ケズリ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	17.3	27.2	-	22.0	ハケメ (6 本 /cm)(6 ～7 本 /cm)・内外 面黒変・スス付着
23SD001-8 中層 P-99	第 51 図	323	土師器	甕	石英・長石・ 雲母			ヨコナデ・ハケ メ・ハケメ後ナ デ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	14.4	25.2	-	21.2	外面スス付着
23SD001 P-230	第 51 図	324	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 白色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ・指頭 痕	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(17.3)	25.1	-	21.6	黒斑・スス付着
23SD001-8 中層	第 51 図	325	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	浅黄褐色	浅黄色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・指オ サエ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ後ミガ キ	17.8	25.3	-	22.2	ハケメ (8～10 本 /cm)(9～12 本 / cm)・黒変
23SD001-8 P-29	第 51 図	326	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	明赤褐色～に ぶい赤褐色	にぶい褐色～ 褐色	ハケメ後ナデ	ナデ・ハケメ 後ヨコナデ・ ハケメ後ナデ	(16.5)	25.5	-	22.3	ハケメ (6～7 本 / cm)(6 本 /cm)・外 面黒変
23SD001-8 中層 P-184	第 51 図	327	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	浅黄褐色	にぶい褐色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ	ヨコナデ・ケ ズリ後ナデ・ ケズリ後ヨコ ナデ	(17.5)	26.6	-	23.4	黒斑
23SD001 P-24	第 51 図	328	土師器	甕	石英・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色	にぶい黄褐色 ～褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ	ハケメ後ヨコ ナデ・ハケメ ・ハケメ後ナ デ	16.0	23.2	-	20.5	ハケメ (8～9 本 / cm)・黒斑
23SD001-4 中層	第 51 図	329	土師器	甕	石英・長石・ 黒色粒子			ナデ・ヨコナデ ・ケズリ・指頭 痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	16.4	23.1	-	20.4	胴部下半スス付着
23SD001-2 中層 P-238	第 51 図	330	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・黒色粒 子			ナデ・ヨコナデ ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	(15.9)	21.0	-	19.3	
23SD001 P-5	第 52 図	331	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤褐 色粒子・黒色 粒子			ナデ・ヨコナデ (一部指頭痕)	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ヨコ ナデ	(14.5)	20.0	-	18.3	内外面赤色化粧土 施す
23SD001-8 P-94	第 52 図	332	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子			ナデ (工具痕) ・ヨコナデ・ハ ケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	(14.4)	22.5+α	-	21.0	
23SD001-8 P-98	第 52 図	333	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	黄褐色	浅黄褐色～黄 褐色～明赤褐 色	ハケメ後ナデ・ ケズリ・ミガキ ・指頭痕	ナデ・ハケメ	15.3	22.6	-	21.0	ハケメ (5～12 本 /cm)
23SD001	第 52 図	334	土師器	甕	角閃石・雲母・ 石英・白色粒 子・赤色粒子	にぶい褐色	灰褐色	ハケメ後ヨコナ デ・指オサエ・ ハケメ・ケズリ 後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	(16.8)	25.7+α	-	24.5	黒斑
23SD001 拡張	第 52 図	335	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい赤褐色	褐色～にぶい 黄褐色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ・指頭 痕	ハケメ・ヨコ ナデ	(18.9)	24.9	-	23.2	ハケメ (9～10 本 /cm)・黒斑・スス 付着

第 17 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 16

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SD01-4 P-68	第 52 図	336	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・黒色 粒子			ナデ・ハケメ・ ハケメ後ヨコナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	(16.6)	24.3	-	22.6	
23SD001 P-19	第 52 図	337	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・白色 粒子	黒褐色～橙色	橙色～明赤褐 色～黒褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	(16.0)	22.6	-	21.2	ハケメ(5本/cm)(7 本/cm)
23SD001-2	第 52 図	338	土師器	甕	角閃石・長石・ 石英・白色粒 子	明赤褐色	にぶい黄色～ 褐灰色	ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	(15.4)	20.0+ α	-	19.8	黒斑
23SD001-4 中層	第 52 図	339	土師器	甕	石英・長石・ 雲母			ナデ・ヨコナデ ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	16.4	24.3+ α	-	23.0	胴部下位スス付着
23SD001	第 52 図	340	土師器	甕	白色粒子・長 石・石英・赤 色粒子	褐色	赤褐色～褐灰 色	ヨコナデ・指オ サエ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ	(16.2)	22.4	-	22.2	黒斑
23SD001 P-14	第 53 図	341	土師器	甕	白色粒子・角 閃石・長石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色 ～褐灰色	暗褐色～褐灰 色	ハケメ後ヨコナ デ・ナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	15.2	11.5+ α	-	-	黒斑
23SD001-6 P-6	第 53 図	342	土師器	甕	角閃石・石英・ 長石・白色粒 子・赤色粒子	浅黄褐色	にぶい橙色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	16.5	9.4+ α	-	-	
23SD001-6 中層	第 53 図	343	土師器	甕	白色粒子・長 石・石英・角 閃石・赤色粒 子	明赤褐色～褐 灰色	にぶい黄褐色 ～褐灰色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(16.3)	11.8+ α	-	-	黒斑
23SD001-0 中層	第 53 図	344	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・黒色粒 子			ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ナデ	ナデ・ヨコナ デ後ハケメ?	(14.6)	11.4+ α	-	-	
23SD001-4 P-44	第 53 図	345	土師器	甕	角閃石・白色 粒子・赤色粒 子	明黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ	(15.6)	12.1+ α	-	-	
23SD001 中 層 P-176	第 53 図	346	土師器	甕	角閃石・石英・ 長石・白色粒 子・赤色粒子	明赤褐色	橙色	ヨコナデ・指オ サエ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	15.1	16.6+ α	-	-	黒斑
23SD001-8 中層 P-108	第 53 図	347	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子			ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ (一 部指頭痕)	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ ・ヨコナデ	13.3	19.2+ α	-	-	胴部上位～下位ス ス付着
23SD001 P-215	第 53 図	348	土師器	甕	角閃石・白色 粒子・赤色粒 子・雲母	明赤褐色	明赤褐色～褐 灰色	ヨコナデ・ハケ メ後一部ナデ・ ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	(16.4)	16.6+ α	-	-	黒斑
23SD001-8 中層 P-2 群 P-148	第 53 図	349	土師器	甕	角閃石・石英・ 雲母・赤色粒 子・白色粒子	褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	(15.2)	14.4+ α	-	-	黒斑
23SD001-8 中層 P-3 群	第 53 図	350	土師器	甕	角閃石・白色 粒子・雲母	赤褐色	赤褐色	ハケメ後ナデ・ ミガキ・ナデ	ハケメ後ナデ ・ミガキ・ナ デ	(19.2)	12.3+ α	-	-	
23SD001-0 中層	第 53 図	351	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子			ヨコナデ・ハケ メ後ケズリ・ケ ズリ後ミガキ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	(15.7)	15.4+ α	-	-	外面胴部スス付着
23SD001-0 中層	第 53 図	352	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石			ハケメ・ハケメ 後ヨコナデ・ハ ケメ後ケズリ・ ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ後ヨコナデ	15.1	20.1+ α	-	-	胴部外面スス付着
23SD001-8 中層	第 53 図	353	土師器	甕	長石・石英・ 角閃石・雲母・ 赤色粒子・白 色粒子	明赤褐色	明黄褐色～褐 灰色	ヨコナデ・一部 指オサエ・ヨコ ナデ・指オサエ ・ケズリ・ナデ・ 指オサエ	ヨコナデ一部 指オサエ・ハ ケメ後ナデ	(15.8)	17.2+ α	-	-	黒斑
23SD001-6 中層 23SD001-8 中層 P-159・163	第 54 図	354	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子			ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	(16.8)	24.2	-	20.1	外面スス付着
23SD001-8 中層 P-150	第 54 図	355	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色	褐色	ハケメ後ナデ・ ハケメ後ヨコナ デ・指頭痕	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	17.2	23.9	-	19.8	ハケメ(8～9本/cm)・黒斑・スス付 着
23SD001-8 中層 P-130 23SD001-10 中層	第 54 図	356	土師器	甕	石英・長石・ 黒色粒子			ヨコナデ・ハケ メ後ミガキ・ハ ケメ後ナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	16.6	24.3	-	21.0	胴部中位～下部ス ス付着
23SD001-10 中層 P-123	第 54 図	357	土師器	甕	石英・雲母・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	浅黄褐色	褐色	ハケメ・ハケメ 後ヨコナデ・ケ ズリ後指オサ エ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	16.2	26.1	-	18.4	ハケメ(5～8本/cm)・黒斑・スス付着 赤変
23SD001-4 P-53	第 54 図	358	土師器	甕	長石・雲母・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	褐色	褐色	ナデ・ハケメ・ ミガキ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ	17.2	18.3	-	17.2	ハケメ(3～4本/cm)(6～7本/cm) (8～9本/cm)・口 縁～底部にかけて スス付着
23SD001-10 P-83・86	第 54 図	359	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・白色 粒子	明赤褐色	明赤褐色～に ぶい黄褐色	ハケメ後ミガキ ・ミガキ	ハケメ・ハケ メ後ナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ	14.8	18.2	-	17.4	ハケメ(6～9本/cm)(7本/cm)・黒 斑
23SD001-4 中層	第 54 図	360	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子			ナデ・ハケメ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	(10.4)	25.8+ α	-	22.0	
SD01-4 中層 P-252・263	第 54 図	361	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子			ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	16.5	23.7	-	20.7	外面胴部上位～底 部・内面底部スス 付着
23SD001-10 中層 P-119	第 54 図	362	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子			ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ・ケ ズリ後ナデ・ ケズリ後ヨコナ デ・指頭痕・ヨ コナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	(16.4)	23.1	-	20.7	内面底部黒斑・外 面口縁部下位・胴 部中位～下位スス 付着
23SD001-4 中層	第 54 図	363	土師器	甕	石英・長石・ 雲母			ヨコナデ・ケズ リ後ナデ・指頭 痕	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	16.6	23.1+ α	-	20.4	
23SD001-0 上層・中層 20次 SD001 f 区下層	第 54 図	364	土師器	甕	石英・長石・ 赤色粒子			ヨコナデ・ケズ リ・ケズリ後ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ	18.4	19.8+ α	-	-	胴部上位刺突文風 工具痕 4 箇所

第 18 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 17

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
23SD001-0 中層	第 54 図	365	土師器	甕	石英・長石・ 赤色粒子			ヨコナデ・ケズ リ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	(15.3)	19.5+α	-	-	外面胴部スス付着
23SD001-8 中層 P-153	第 55 図	366	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい橙色	橙色	ハケメ・ケズリ ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	13.6	20.7	-	17.6	ハケメ (8～14 本 /cm)・黒斑・スス 付着
23SD001-8 P-2 群 P-3 群	第 55 図	367	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子			ナデ・ヨコナデ ・ケズリ?後ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ後ヨコナデ	16.9	22.4+α	-	22.1	外面胴部下半スス 付着
23SD001-4 中層 P-277	第 55 図	368	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子			ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	16.2	14.3+α	-	-	外面全体所々スス 付着
23SD001-6 中層 P-189	第 55 図	369	土師器	甕	角閃石・長石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	16.5	9.7+α	-	-	
23SD001 南 P-114・115	第 56 図	370	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ後ミガ キ・ケズリ・ケ ズリ後ミガキ・ 指オサエ後ミ ガキ	ヨコナデ・ケ ズリ後ナデ・ケ ズリ後ミガキ	(15.2)	15.1	-	-	内面全体にうっす らスス付着
23SD001-4 中層 P-228	第 56 図	371	土師器	小形甕	雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ後ナ デ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	13.6	16.3	-	-	ハケメ (9～10 本 /cm)・スス付着
23SD001 中層 P-179	第 56 図	372	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい橙色～ 灰褐色	浅黄褐色～赤 褐色～灰褐色	ナデ・ハケメ・ ケズリ後ナデ・ 指頭痕	ハケメ・ハケ メ後ナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ	13.3	16.5	-	-	ハケメ (7～9 本 / cm)・黒斑・スス 付着
23SD001-10 中層 P-121	第 56 図	373	土師器	小形甕	長石・雲母・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	橙色	灰褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ミ ガキ・指頭痕	ハケメ後ヨコ ナデ・ハケメ 後ミガキ	14.7	17.8	-	-	ハケメ (8～13 本 /cm)・黒斑
23SD001-2 中層 P-267	第 56 図	374	土師器	小形壺	雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい橙色	浅黄褐色～黒 色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ・ケ ズリ後ナデ・指 頭痕	ナデ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ後ヨコナデ	(13.2)	15.7	-	-	ハケメ (7～8 本 / cm)・黒斑
23SD001-6 中層 P-248	第 56 図	375	土師器	小形甕	石英・長石・ 赤色粒子			ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ	(13.5)	15.2+α	-	-	胴部中位～下位ス ス付着
23SD001-8 中層	第 56 図	376	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子			ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ後ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ後ヨコ ナデ・ケズリ 後ナデ	15.8	16.7+α	-	-	
23SD001-8 中層 P-156	第 56 図	377	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・白色 粒子	にぶい黄褐色 ～明黄褐色～ 褐灰色	にぶい黄褐色 ～明黄褐色	ナデ・ヨコナデ ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ	14.7	17.4	-	-	胴部穿孔 3 箇所 (内 →外面)
23SD001-2 中層 P-265	第 56 図	378	土師器	小形甕	雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ後ナ デ・指頭痕	ハケメ後ナデ ・ハケメ後ヨ コナデ	13.3	15.3	-	-	ハケメ (8～9 本 / cm)・黒斑・スス 付着
23SD001 P-7	第 56 図	379	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	明赤褐色	ヨコナデ・ケズ リ・ケズリ後ナ デ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ 指頭痕	14.3	15.3	-	-	ハケメ (4～8 本 / cm)
23SD001-0	第 56 図	380	土師器	小形甕	赤色粒子・角 閃石・石英	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(11.9)	15.7+α	-	-	
23SD001-8 中層	第 56 図	381	土師器	小形甕	角閃石・赤色 粒子・白色粒 子・長石	橙色	褐灰色	ヨコナデ・ケズ リ・ケズリ後ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(13.6)	14.5+α	-	-	黒斑
23SD001-0 中層	第 56 図	382	土師器	小形甕	石英・長石・ 赤色粒子・黒 色粒子			ナデ・ハケメ後 ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ	(13.1)	16.6	-	-	外面全体スス付着
23SD001-10 P-87	第 56 図	383	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	明赤褐色	明赤褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ・指 頭痕	ハケメ・ヨコ ナデ・ハケメ 後ヨコナデ	13.2	16.7	-	-	
23SD001 P-5	第 56 図	384	土師器	小形甕	石英・長石			ハケメ・ケズリ 後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	(15.2)	15.2+α	-	-	
23SD001-0 中層	第 56 図	385	土師器	小形甕	角閃石・長石・ 赤色粒子・白 色粒子	灰白色	浅黄褐色	ヨコナデ・ケズ リ	ハケメ後ヨコ ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	(15.5)	15.5+α	-	-	
23SD001-0 中層	第 57 図	386	土師器	小形壺×小 形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	橙色～灰褐色	橙色	横方向のミガ キ・ケズリ後ナ デ・指頭痕	ナデ・ハケメ	(8.6)	9.5	-	-	ハケメ (7 本 /cm)
23SD001-6 中層 P-197	第 57 図	387	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	橙色	橙色～灰白色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ後ナ デ	ハケメ後ナデ ・ハケメ後ヨ コナデ	11.6	10.2	-	-	
23SD001-6 中層	第 57 図	388	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ケズ リ・指オサエ後 ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ	11.1	11.5	-	-	ハケメ (6 本 /cm) (14 本 /cm)・外面 黒斑
23SD001-4 中層 P-277	第 57 図	389	土師器	小形甕	石英・長石・ 赤色粒子			ナデ・ヨコナデ ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(12.8)	13.4	-	-	
23SD001-4 中層 P-259	第 57 図	390	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	浅黄褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ナデ ・ケズリ後ナデ ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	11.9	13.0	-	-	ハケメ (10～13 本 /cm)・黒斑
23SD001-4 P-55	第 57 図	391	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐灰色～浅黄 褐色	褐色～褐灰色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ・指頭 痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	11.1	12.9	-	-	ハケメ (8～9 本 / cm)・黒斑
23SD001-10 中層 P-124	第 57 図	392	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐灰色	褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ後ナ デ・指頭痕	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	13.6	13.0	-	-	ハケメ (8～9 本 / cm)・黒斑
23SD001 P-2	第 57 図	393	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色～灰白色	褐色～灰白色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ・ケズ リ後ミガキ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	13.2	11.1	-	-	ハケメ (10～12 本 /cm)・黒斑

第 19 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 18

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SD001 P-27	第 57 図	394	土師器	小形壺×小 形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	明黄褐色	明赤褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ナデ ・ケズリ後ナデ ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(11.9)	11.2	-	-	ハケメ (9～11 本 /cm)・黒斑
23SD001-2 中層	第 57 図	395	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・白色 粒子	灰黄色	浅黄色～にぶ い橙色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ・指頭 痕	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	(12.5)	14.3	-	-	ハケメ (11～13 本 /cm)・黒斑
23SD001-10 P-1	第 57 図	396	土師器	小形壺×小 形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色～にぶ い	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ後ナ デ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	9.6	12.2	-	-	ハケメ (8～10 本 /cm)・黒斑
23SD001-4 中層 P-288	第 57 図	397	土師器	小形甕	長石・角閃石・ 白色粒子	褐灰色～にぶ い黄褐色	浅黄色～黄灰 色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ケズ リ後ナデ・指頭 痕	ハケメ・ハケ メ後ナデ・ミ ガキ	11.3	12.9	-	-	ハケメ (7～8 本 / cm)・内外面黒変
23SD001 P-20	第 57 図	398	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	にぶい褐色	にぶい褐色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	(12.7)	15.2	-	-	ハケメ (7～8 本 / cm)
23SD001-6 中層	第 57 図	399	土師器	小形甕	白色粒子・角 閃石・石英・ 赤色粒子・長 石	褐色	明赤褐色～褐 灰色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(13.3)	9.5+α	-	-	黒斑
23SD001-6 1層	第 57 図	400	土師器	小形甕	石英・長石			ナデ・指頭痕・ ハケメ後ナデ・ ハケメ後ヨコナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	14.1	8.0+α	-	-	
23SD001-8	第 57 図	401	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石			ナデ (一部指頭 痕)・ヨコナデ ・ハケメ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	(15.4)	12.7	-	-	頸部～底部ス付 着
23SD001-4 P-293	第 57 図	402	弥生土器	甕	角閃石・長石・ 石英・白色粒 子	灰黄色	灰黄色	ナデ	ナデ	-	6.7+α	(4.0)	-	内面磨滅により調 整不明
23SD001-8 P-2 群	第 58 図	403		土錘	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	-	赤褐色	ナデ後ミガキ・ 指オサエ後ナ デ	-	7.4	3.4	3.1	-	
23SD001-10	第 58 図	404		土錘	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 白色粒子	-	褐色～黒褐色	ナデ後ミガキ・ 指オサエ後ナ デ後ミガキ	-	8.0	3.3	3.0	-	
23SD001-4 下層	第 58 図	405	石器	すり石						7.0	5.3	4.3	201.0g	安山岩
23SD001-6	第 58 図	406	石器	不明						6.6	2.2	1.8	36.0g	砂岩
23SD001-4 P-4	第 58 図	407	石器	すり石						10.3	15	3.4	857.0g	安山岩
23SD001-4 中層	第 58 図	408	石器	すり石						22.0	13.4	4.9	2150.0g	安山岩
23SD001 南下層 P-78	第 58 図	409	石器	すり石						18.8	13.7	5.8	2,410.0g	安山岩
SD001-6 中層 P-194	第 59 図	410	石器	台石						36.4	28.0	11.4	19,800.0g	安山岩

23SD170

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SD170-13	第 61 図	001	ミニチュ ア土器	鉢	角閃石・石英・ 赤色粒子・白 色粒子	褐灰色	浅黄褐色	指オサエ・ナデ	ナデ	-	3.5+α	-	-	線刻
23SD170-4 上層	第 61 図	002	ミニチュ ア土器	鉢	白色粒子・角 閃石・雲母	褐色・明褐灰 色	褐色・明褐灰 色	指頭痕	ナデ・指頭痕	5.0	3.2	-	-	
23SD170-14	第 61 図	003	ミニチュ ア土器	鉢	角閃石・石英・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色	褐色～黒褐色	ヨコナデ・ナデ ・指頭痕	ナデ・指頭痕 後ナデ	(6.4)	5.3	1.8	-	黒斑
23SD170-17	第 61 図	004	ミニチュ ア土器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	褐灰色～にぶ い褐色	褐灰色～にぶ い褐色	ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	6.9	4.7	-	-	黒斑
23SD170-10	第 61 図	005	土師器	小形器台	長石・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	明赤褐色	褐色	ナデ	ナデ	11.0	6.8	8.4	-	
23SD170-3	第 61 図	006	土師器	小形器台	白色粒子・赤 色粒子・雲母	にぶい褐色・ 褐色・褐灰色	にぶい褐色・ 褐色・褐灰色	ナデ	ナデ	13.4	5.1+α	-	-	
23SD170-2	第 61 図	007	土師器	小形器台	白色粒子・雲 母・角閃石	にぶい褐色～ 灰褐色	にぶい褐色～ 灰褐色	ミガキ・ナデ・ ハケメ	横方向のミガ キ・ナデ・ハ ケメ	12.7	10.05	12.6	-	穿孔残存 4 箇所
23SD170-7	第 61 図	008	土師器	小形器台	長石・角閃石・ 石英・赤色粒 子・白色粒子	明赤褐色	褐色	ミガキ・ハケメ ・指オサエ	ナデ後ミガキ ・ハケメ後ミ ガキ	(12.6)	12.0	12.6	-	穿孔 3 箇所
23SD170-6 下層	第 61 図	009	土師器	高坏	角閃石・雲母	赤色～黒褐色	赤色	ハケメ後ナデ・ ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ後ミガ キ・ミガキ	(20.2)	12.1+α	-	-	黒斑・赤色塗彩・ 穿孔痕 2 箇所
S-170-6.7 下層	第 61 図	010	土師器	高坏	角閃石・雲母・ 長石・白色粒 子	明赤褐色	明赤褐色	ミガキ・ナデ・ シボリ・ハケメ 後ナデ・ヨコナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ ・ナデ・ミガ キ	23.2	15.5	(16.9)	-	穿孔推定 4 箇所
23SD170 トレンチ	第 61 図	011	土師器	高坏	角閃石・長石・ 砂粒・褐色粒 子	褐色	褐色	ミガキ・ヨコナ デ・ナデ・ケズ リ	横方向のミガ キ	19.7	14.6	14.8	-	穿孔 4 箇所
23SD170-5	第 61 図	012	土師器	高坏	白色粒子・雲 母・角閃石	褐色	褐色	ヨコナデ・ナデ ・ハケメ・ケズ リ後ナデ	ヨコナデ・ナ デ・ミガキ・ ヨコナデ後細 かいミガキ	(21.8)	14.0	(16.0)	-	穿孔 4 箇所・黒斑 ・赤色塗彩
23SD170- 11・12	第 61 図	013	土師器	高坏	角閃石・長石・ 石英・白色粒 子・赤色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ・ナデ ・指オサエ (摩 耗により不明瞭)	ハケメ後ナデ ・ヨコナデ	(23.7)	15.0	(15.4)	-	穿孔残存 1 箇所
23SD170-11	第 61 図	014	土師器	高坏	石英・長石・ 角閃石・白色 粒子	にぶい褐色	にぶい黄褐色 ～褐色	ハケメ後ミガキ ・ナデ・ハケメ 後ナデ	ハケメ一部ミ ガキ・ハケメ 後ミガキ	24.2	16.8	16.2	-	外面黒斑・穿孔 4 箇所・接合痕

第 20 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 19

遺構名	挿図番号	遺物番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴径 / 重さ	
23SD170-17	第 61 図	015	土師器	高坏	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐色	褐色	横方向のハケメ後ナデ・ナデ・粗いヨコナデ	縦～斜めハケメ・ナデ・ハケメ	23.2	14.9	12.7	-	穿孔 4 箇所
23SD170-13 23SD170-14 23SD170-15	第 61 図	016	土師器	高坏	角閃石・白色粒子・褐色粒子	にぶい黄褐色～褐色	褐色	ナデ・ハケメ・ハケメ後ミガキ・ハケメ・工具ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ	(24.0)	16.1	(17.1)	-	ハケメ (8 本 /cm)・穿孔 4 箇所 (推定 6 箇所?)
23SD170-6,7	第 61 図	017	土師器	高坏	角閃石・赤色粒子・白色粒子・石英	明赤褐色	明赤褐色	ハケメ・ハケメ後ミガキ・ナデ・ハケメ・工具ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ミガキ	21.0	15.1	(13.8)	-	黒斑・穿孔残存 4 箇所
23SD170-5,6	第 61 図	018	土師器	高坏	白色粒子・赤色粒子・角閃石・石英・雲母	明褐色	明褐色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ハケメ後ナデ・ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ	21.7	14.1	(14.0)	-	穿孔残存 2 箇所
23SD170-10	第 61 図	019	土師器	高坏	石英・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明黄褐色	明黄褐色～褐色	斜めハケメ・横方向のハケメ・ナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ	縦～斜めハケメ・ナデ・ミガキ・横方向のハケメ	25.2	16.5	(17.6)	-	ハケメ内 (6～7 本 /cm) 外 (4 本 /cm)・穿孔 4 箇所
23SD170-4 上層	第 62 図	020	土師器	高坏	白色粒子・雲母・角閃石	褐色	褐色～にぶい褐色	ミガキ・ナデ	ミガキ	20.0	12.7	12.5	-	穿孔 4 箇所
23SD170-14	第 62 図	021	土師器	高坏	角閃石・石英・長石・赤色粒子・白色粒子	褐色	褐色	ナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	(24.0)	14.9	14.9	-	穿孔残存 4 箇所
23SD170-7	第 62 図	022	土師器	高坏	角閃石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色～明褐色	ミガキ? (摩耗により不明瞭)	ヨコナデ・ミガキ	22.1	16.3+α	-	-	穿孔残存 2 箇所
23SD170-3	第 62 図	023	土師器	高坏	白色粒子・雲母・角閃石	にぶい褐色～褐色	褐色～褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(21.6)	15.0	(14.0)	-	穿孔残存 2 箇所、痕跡 1 箇所
23SD170-7	第 62 図	024	土師器	高坏	白色粒子・赤色粒子・角閃石	明赤褐色	明赤褐色	ミガキ後ナデ・ハケメ・ナデ	ミガキ後ナデ・ヨコナデ	23.4	16.3	(13.5)	-	穿孔残存 1 箇所、痕跡 2 箇所
23SD170-2	第 62 図	025	土師器	高坏	白色粒子・黒色粒子・雲母	褐色	褐色～灰色	ヨコナデ・放射状のミガキ・ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ミガキ・ナデ	(23.6)	15.0	(15.4)	-	黒斑・穿孔残存 1 箇所、痕跡 2 箇所
23SD170-7	第 62 図	026	土師器	高坏	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ミガキ・ナデ	24.3	16.3	(16.2)	-	穿孔 3 箇所
23SD170-7	第 62 図	027	土師器	高坏	角閃石・赤色粒子・白色粒子・長石	浅黄色	にぶい黄褐色～赤褐色	ミガキ・ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・指オサエ・ナデ・ハケメ後ミガキ・ミガキ	(24.0)	15.8	(17.7)	-	穿孔残存 2 箇所
23SD170-16	第 62 図	028	土師器	高坏	白色粒子・長石・砂粒	褐色	褐色	縦方向のミガキ・ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ミガキ・ナデ	(23.9)	15.0	16.9	-	穿孔 3 箇所
23SD170-5,6	第 62 図	029	土師器	高坏	白色粒子・雲母・角閃石	褐色	明褐色～褐色	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ・ナデ	ヨコナデ・ミガキ	(25.0)	17.6	(18.0)	-	穿孔 3 箇所
23SD170-5,6	第 62 図	030	土師器	高坏	白色粒子・赤色粒子・雲母・角閃石	褐色	褐色	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ・ナデ	ヨコナデ・ミガキ	(26.4)	15.8	17.8	-	黒斑・穿孔 3 箇所
23SD170-11	第 63 図	031	土師器	高坏	角閃石・雲母・石英・赤色粒子・白色粒子	褐色	褐色	ハケメ後ミガキ・ミガキ・指オサエ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ハケメ後ナデ	20.6	13.6	16.2	-	
23SD170-13	第 63 図	032	土師器	高坏	角閃石・長石・石英・赤色粒子	浅黄色	明赤褐色～浅黄色	工具痕? ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ハケメ後ナデ	(21.0)	13.5	(14.8)	-	黒斑
23SD170-11	第 63 図	033	土師器	高坏 坏部	雲母・赤褐色粒子・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ミガキ	19.6	6.3+α	-	-	
23SD170-4	第 63 図	034	土師器	高坏 坏部	赤色粒子・角閃石・石英・雲母	明赤褐色	明赤褐色	ハケメ後ヨコナデ	ヨコナデ	(20.9)	7.4+α	-	-	
23SD170-11	第 63 図	035	土師器	高坏 坏部	長石・雲母・角閃石・赤褐色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ハケメ後ミガキ	ヨコナデ後ミガキ	23.6	8.3+α	-	-	ハケメ (5 本 /cm)・内外面黒斑
23SD170-5 5 トレンチ	第 63 図	036	土師器	高坏	角閃石・赤色粒子・白色粒子・石英	にぶい黄褐色～褐色	にぶい黄褐色～褐色	ミガキ? ナデ?・工具痕? (摩耗により不明瞭)	ハケメ・ハケメ後ミガキ	27.0	15.1	-	-	黒斑・赤色塗彩・穿孔残存・脚部中央 4 箇所・裾 1 箇所
23SD170-2	第 63 図	037	土師器	高坏 坏部	角閃石・雲母・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ミガキ・ハケメ後ミガキ	18.6	12.0+α	-	-	
23SD170-7	第 63 図	038	土師器	高坏 脚部	長石・雲母・角閃石・赤褐色粒子	褐色	褐色	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ミガキ	-	7.5+α	13.8	-	ハケメ (5 本 /cm)・穿孔 3 箇所
23SD170-5 トレンチ	第 63 図	039	土師器	高坏	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子・黒色粒子	褐色～にぶい黄褐色	褐色 断面 褐色	ヨコナデ後ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	-	10.4+α	17.2	-	ハケメ (5 本 /cm)・穿孔 3 箇所
23SD170-4	第 63 図	040	土師器	高坏	角閃石・赤色粒子・石英・白色粒子	赤～明褐色	赤～明褐色	ミガキ?	ハケメ後ヨコナデ・ミガキ	(10.7)	9.1+α	-	-	赤色塗彩
23SD170-9	第 63 図	041	土師器	高坏	角閃石・白色粒子・黒色粒子・褐色粒子	赤～褐色	赤～褐色	ナデ・放射状のミガキ・ハケメ	浮文張付・刺突文 (2 条)・ヨコナデ・ミガキ・ハケメ・ナデ	21.7	15.9+α	-	-	
23SD170-2	第 63 図	042	弥生土器	高坏 坏部	白色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ミガキ	ミガキ	28.4	7.0+α	-	-	内外面赤色塗彩
23SD170-6	第 64 図	043	弥生土器	高坏	白色粒子・雲母	褐色～にぶい褐色	褐色～にぶい褐色	ミガキ・ナデ	ナデ・ハケメ	23.7	15.9	14.0	-	赤色塗彩・穿孔 2 箇所
23SD170-12	第 64 図	044	弥生土器	高坏 脚部	角閃石・赤色粒子・長石・石英・白色粒子	褐色	明赤褐色～褐色	ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ナデ・ケズリ (摩耗により不明瞭)	-	13.3+α	13.7	-	
23SD170-5 トレンチ	第 64 図	045	弥生土器	高坏	白色粒子・雲母・角閃石	褐色	褐色	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ	-	17.0+α	-	-	
23SD170-8	第 64 図	046	弥生土器	高坏 坏部	白色粒子・長石・角閃石・赤色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ナデ・ミガキ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ナデ・指オサエ	(23.0)	11.2+α	-	-	

第 21 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 20

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SD170-13	第 64 図	047	弥生土器	高坏 脚部	角閃石・白色 粒子・赤色粒 子	灰褐色～にぶ い黄褐色	にぶい黄褐色 ～黒褐色	ミガキ・ナデ	ナデ・ミガキ ・ハケメ後ナ デ	-	5.4+ α	11.6	-	黒斑
23SD170-4	第 64 図	048	弥生土器?	高坏 坏部	石英・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	明赤褐色～橙 色～黒色	橙色	ヨコナデ・ミガ キ・ナデ	縦方向のナデ ・ミガキ	17.8	10.6+ α	-	-	内面黒変
23SD170-13	第 64 図	049	土師器	高坏 脚部	角閃石・白色 粒子・赤色粒 子・石英	浅黄色～黒褐 色	浅黄色～黒褐 色	ナデ・指オサエ	ハケメ後ナデ	-	7.4+ α	16.0	-	黒斑
23SD170-7	第 65 図	050	土師器	鉢	角閃石・赤褐 色粒子・白色 粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ミガ キ	ヨコナデ・ハ ケメ	(13.6)	4.7	-	-	ハケメ (7 本 /cm)・ スス付着
23SD170-9	第 65 図	051	土師器	鉢	角閃石・赤色 粒子・長石・ 雲母	にぶい黄褐色 ～褐色	褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	13.3	4.5	-	-	
23SD170-5	第 65 図	052	土師器	鉢	角閃石・長石・ 石英・白色粒 子・赤色粒子	浅黄褐色	浅黄褐色	ヨコナデ・指オ サエ・ミガキ・ ハケメ後ミガキ	ハケメ後ヨコ ナデ・ハケメ ・ミガキ	(15.6)	5.3+ α	4.0	-	
23SD170-7	第 65 図	053	土師器	鉢	角閃石・長石・ 石英・赤色粒 子・白色粒子	明黄褐色	にぶい黄褐色	ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ	18.0	7.7	-	-	
23SD170-11	第 65 図	054	土師器	鉢	角閃石・石英・ 長石・赤色粒 子・白色粒子	褐色	明褐色	ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	10.7	4.6	-	-	
23SD170-17	第 65 図	055	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	7.8	3.5	-	-	黒斑
23SD170-11	第 65 図	056	土師器	鉢	角閃石・石英・ 白色粒子	褐色	褐色	ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	13.2	6.5	-	-	黒斑
23SD170-10-11	第 65 図	057	土師器	鉢	白色粒子・石 英・角閃石	にぶい黄褐色 ～褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ	ヨコナデ・ケ ズリ	12.2	5.3	-	-	
23SD170-4 上層	第 65 図	058	土師器	鉢	白色粒子・角 閃石・雲母	褐色	褐色・浅黄色 ・褐色	ナデ	ナデ	11.1	5.2	-	-	黒斑
23SD170-15	第 65 図	059	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色	褐色	ナデ	ナデ	(11.1)	6.2	-	-	
23SD170-8	第 65 図	060	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色	褐色	ミガキ後ナデ	ヨコナデ・ミ ガキ	17.9	8.9	-	-	
23SD170-8	第 65 図	061	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	赤褐色～褐色	褐色～淡褐色	ヨコナデ・ナデ ・工具ナデ・指 頭痕	ヨコナデ・ケ ズリ後ナデ・ 工具ナデ	15.2	8.7	-	-	黒斑
23SD170-14	第 65 図	062	土師器	鉢	角閃石・石英・ 長石・白色粒 子・赤色粒子	明褐色	にぶい褐色	ハケメ後ミガ キ・ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	14.9	8.0+ α	-	-	黒斑
23SD170-8	第 65 図	063	土師器	鉢	石英・雲母・ 角閃石・白色 粒子・赤色粒 子	明赤褐色	明赤褐色～に ぶい褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナ デ	10.3	8.0	-	-	
23SD170-11	第 65 図	064	土師器	鉢	角閃石・石英・ 白色粒子・赤 色粒子・長石	褐色	明赤褐色～褐 灰色	ケズリ後ナデ	ハケメ	(11.0)	7.3	-	-	黒斑
23SD170-3	第 65 図	065	土師器	鉢	角閃石・白色 粒子	明赤褐色	褐色	ナデ	ナデ	9.0	3.3	2.4	-	
23SD170-9	第 65 図	066	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい黄褐色	浅黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・ナデ	ヨコナデ・ナ デ・ハケメ	21.8	13.4	5.8	-	ハケメ (6～8 本 / cm)・黒斑・沈線
23SD170-12	第 65 図	067	土師器	台付鉢	雲母・角閃石・ 赤褐色粒子・ 白色粒子	浅黄褐色	褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・工具 痕	ヨコナデ・ハ ケメ	5.2+ α	9.6	-	-	ハケメ (8 本 /cm)
23SD170-4	第 65 図	068	土師器	台付鉢	長石・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子			ケズリ	ヨコナデ	13.0	7.0	6.2	-	
23SD170-3	第 65 図	069	土師器	台付鉢	角閃石・石英・ 雲母・白色粒 子・赤色粒子	にぶい黄色	明黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(12.6)	7.6+ α	-	-	黒斑・脚部欠損
23SD170-3	第 65 図	070	土師器	台付鉢	白色粒子・雲 母・角閃石・ 角閃石	褐色	褐色～褐色	ハケメ・ミガ キ・ナデ	ハケメ・ミガ キ・ケズリ	14.0	14.5	10.6	-	
23SD170-1-4	第 65 図	071	土師器	台付鉢	白色粒子・角 閃石・石英	明褐色	明褐色～黒褐 色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(17.7)	12.3	(10.5)	-	黒斑
23SD170-4	第 65 図	072	土師器	台付鉢	白色粒子・赤 色粒子・雲母	褐色	にぶい褐色～ 灰褐色	ミガキ	ヨコナデ・ナ デ・ハケメ	(22.2)	12.5	9.9	-	スス付着
23SD170-13	第 65 図	073	土師器	台付鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色～にぶい 褐色	褐色～にぶい 褐色	ナデ・ケズリ・ ミガキ	ヨコナデ・ナ デ・ケズリ・指 頭痕	16.3	10.1	8.1	-	黒斑
23SD170-14	第 65 図	074	土師器	鉢	角閃石・白色 粒子・赤色粒 子・石英	褐色～褐色	褐色～褐色	ハケメ後ヨコ ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後一部ナ デ	17.2	6.0+ α	-	-	黒斑
23SD170-4	第 65 図	075	土師器	鉢	白色粒子・雲 母・角閃石	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナ デ	(24.0)	15.0	-	-	
23SD170-15	第 65 図	076	土師器	鉢	角閃石・白色 粒子・赤色粒 子	黄褐色	にぶい黄褐色	ハケメ後ヨコ ナデ・ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	(11.2)	7.5	2.2	-	
23SD170-17	第 65 図	077	土師器	鉢	角閃石・石英・ 長石・白色粒 子・雲母	褐色	褐色	ハケメ後ヨコ ナデ・ナデ	ナデ・ハケメ	(11.1)	7.7	-	-	黒斑
23SD170-3	第 66 図	078	土師器	鉢	白色粒子・赤 色粒子・雲母	浅黄褐色・暗 灰色	浅黄褐色・暗 灰色	ハケメ・ナデ・ 工具痕	ナデ・ハケメ	(17.4)	12.6+ α	-	-	黒斑
23SD170-11	第 66 図	079	土師器	鉢	角閃石・長石・ 石英・赤色粒 子・白色粒子	灰黄褐色	褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ	ヨコナデ・ナ デ	14.2	9.2+ α	-	-	
23SD170-4 上層	第 66 図	080	土師器	鉢	角閃石・赤褐 色粒子・白色 粒子	にぶい褐色	褐色～灰白色	ヨコナデ・ミガ キ・ケズリ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	(10.0)	10.3+ α	-	-	ハケメ (8 本 /cm)
23SD170-2	第 66 図	081	土師器	鉢	角閃石・白色 粒子・赤色粒 子	浅黄褐色・褐 色・褐色	褐色・にぶい 褐色	ヨコナデ後ミガ キ・ハケメ後ナ デ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(28.6)	20.4	-	-	黒斑

第 22 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 21

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴径/ 重さ	
23SD170-3	第 66 図	082	土師器	鉢	角閃石・長石・ 石英・赤色粒子・ 白色粒子	にぶい黄褐色	橙色	ハケメ後ナデ・ ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(27.2)	23.2	-	-	
23SD170-13	第 66 図	083	土師器	大鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白色 粒子	明赤褐色～橙 色	橙色～明赤褐 色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ?・ハ ケメ後ナデ・ナ デ	ヨコナデ・縦 方向のハケメ ・ナデ	32.7	27.2	-	-	ハケメ内(7～8本 /cm)外(7.5本/ cm)・内外面黒変・ 突帯貼付
23SD170-4	第 66 図	084	土師器	鉢	角閃石・長石・ 赤色粒子・白色 粒子	明黄褐色	浅黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(30.2)	36.0	-	-	黒斑・突帯
23SD170-14	第 67 図	085	土師器	鉢	角閃石・長石・ 雲母・赤色粒子 ・白色粒子	にぶい橙色～ 褐色	褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ヨコナデ・ ハケメ後ナデ・ ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ・ハケメ	(35.0)	29.4	-	-	
23SD170-5 下層	第 67 図	086	弥生土器	鉢		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ケズリ	ナデ	10.0	9.0	-	-	外面黒斑
23SD170-9	第 67 図	087	弥生土器	鉢	石英・角閃石・ 長石	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色 ～赤色	ナデ	ミガキ	-	12.3+α	-	-	底部穿孔・赤色塗 彩
23SD170- 2・3・4	第 67 図	088	弥生土器	鉢	白色粒子・雲 母・角閃石	褐色～にぶい 褐色	褐色	ナデ	ハケメ・ミガ キ・ナデ	(12.2)	13.6	(1.4)	-	内外面赤色塗彩・ 黒斑
23SD170-17	第 67 図	089	弥生土器	鉢	角閃石・長石・ 石英・赤色粒子 ・白色粒子	明赤褐色	褐色	ハケメ後ナデ・ ナデ	ハケメ後ヨコ ナデ・ナデ	12.4	13.6+α	-	-	突帯
23SD170-11	第 68 図	090	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 角閃石・赤色粒 子・白色粒子	褐色～にぶい 褐色	褐色～にぶい 褐色	ミガキ・ナデ・ 指頭痕	ヨコナデ・ナ デ・指頭痕	9.6	7.6	-	-	黒斑
23SD170- 7・6	第 68 図	091	土師器	小型丸底壺	白色粒子・角 閃石・赤色粒子 ・長石	褐色～褐灰色	浅黄色	ハケメ後ミガキ ・ヨコナデ・ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(11.3)	7.4	-	-	黒斑
23SD170-3	第 68 図	092	土師器	小型丸底 鉢	白色粒子・赤 色粒子・雲母	褐色	褐色・にぶい 褐色	ナデ	ナデ	12.5	6.8+α	-	-	
23SD170-11	第 68 図	093	土師器	小型丸底 鉢	赤色粒子・白 色粒子・角閃 石・石英	明赤褐色	褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ケ ズリ後ナデ・ ケズリ	(13.8)	6.2	-	-	
23SD170-3	第 68 図	094	土師器	小型丸底 鉢	白色粒子・雲 母・角閃石	褐色・にぶい 褐色・灰褐色	褐色・にぶい 褐色・褐灰色	ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナ デ・ケズリ	(13.0)	7.1	-	-	
23SD170- 7・8・9	第 68 図	095	土師器	小型丸底 鉢	角閃石・赤色 粒子・石英・ 白色粒子	明赤褐色～暗 赤灰色	明赤褐色	ヨコナデ・工具 ナデ?	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	17.8	8.4+α	-	-	
23SD170-10	第 68 図	096	土師器	小形の丸底 鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色粒 子・白色粒子	にぶい褐色	浅黄褐色～に ぶい褐色	横方向のハケ メ・ヨコナデ・ ミガキ	ハケメ後ヨコ ナデ・ケズリ 後ナデ	11.7	6.6	-	-	ハケメ内(6本/ cm)・内外口縁部 黒変
23SD170-11	第 68 図	097	土師器	小形の丸底 鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白色 粒子	褐色	浅黄褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	11.9	7.3	-	-	ハケメ(8～9本/ cm)・黒斑
23SD170-2 上層	第 68 図	098	土師器	小形の丸底 鉢	赤色粒子・石 英・長石	明赤褐色	明赤褐色	ミガキ?	ケズリ?	(13.0)	8.4	-	-	全体的に磨滅し調 整不明瞭
23SD170-6	第 68 図	099	土師器	小形の丸底 鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色粒 子・白色粒子	褐色	褐色	横方向のハケ メ・ハケメ後ナ デ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ	13.3	7.5	-	-	ハケメ外(7本/ cm)
23SD170-2	第 68 図	100	土師器	小形の丸底 壺	白色粒子・赤 色粒子・雲母・ 角閃石	褐色	褐色・黒色	ハケメ・ナデ	ナデ・ハケメ	(16.2)	12.4	-	-	黒斑
23SD170-2	第 68 図	101	土師器	小形の丸底 壺	角閃石・雲母・ 石英・赤色粒子 ・白色粒子	褐色	褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ナ ズリ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	(13.1)	14.8+α	-	-	
23SD170-3	第 68 図	102	土師器	小形の丸底 壺	白色粒子・赤 色粒子・雲母・ 角閃石	褐色	褐色	ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ナデ	(13.0)	8.95	-	-	
23SD170-10	第 68 図	103	土師器	小形の丸底 壺	角閃石・白色 粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色 ～褐灰色	ヨコナデ・オサ エ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	(12.8)	8.7	-	-	黒斑
23SD170-5 トレンチ	第 68 図	104	土師器	小形の丸底 壺	石英・長石・ 角閃石・赤色粒 子・白色粒子	褐灰色	褐色～浅黄褐 色	ミガキ・指頭痕 ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	11.9	11.3	-	-	ハケメ(5～6本/ cm)・口縁部穿孔 2箇所
23SD170-3	第 68 図	105	土師器	小形の丸底 壺	白色粒子・赤 色粒子・雲母・ 角閃石	褐色	褐色・褐灰色	ハケメ・ナデ・ ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	19.6	10.6+α	-	-	黒斑
23SD170-14	第 68 図	106	土師器	小形の丸底 壺	雲母・角閃石 ・赤褐色粒子・ 白色粒子	褐色	にぶい赤褐色	ヨコナデ・ハケ メ・ハケメ後ケ ズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	15.4	11.8+α	-	-	ハケメ(5本/cm)
23SD170- 7・8	第 68 図	107	土師器	直口壺	角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	褐色	褐色	ヨコナデ・ナデ	ハケメ後ヨコ ナデ・ハケメ ・ハケメ後ナ デ	10.8	19.2	-	-	
23SD170-14	第 68 図	108	土師器	直口壺	石英・角閃石・ 赤色粒子・白色 粒子	明赤褐色	褐色～浅黄褐 色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナ デ	9.9	12.6	-	-	
23SD170-4	第 68 図	109	土師器	直口壺	石英・長石・ 白色粒子	浅黄色	明黄褐色～黄 褐色	ナデ	ナデ	13.9	18.2	-	-	外面2箇所・スス 付着
23SD170-2	第 68 図	110	土師器	直口壺	白色粒子・黒 色粒子・雲母	褐色	褐色～にぶい 褐色	ヨコナデ・ハケ メ・ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ・ミガキ	(12.6)	19.5	-	-	
23SD170-11	第 68 図	111	土師器	直口壺	石英・長石・ 角閃石・赤色粒 子・白色粒子	灰褐色	褐色～褐灰色 ～赤色	ヨコナデ・ナデ	ナデ・ヨコナ デ・ミガキ・ 斜めハケメ後 ナデ	11.9	22.0	-	-	外面黒変・赤変
23SD170-6	第 68 図	112	土師器	直口壺	石英・長石・ 白色粒子・赤 色粒子	褐色	にぶい黄褐色 ～褐色	ミガキ・ハケメ 後ナデ	ミガキ	-	18.1+α	-	-	
23SD170-9	第 68 図	113	土師器	直口壺	雲母・角閃石 ・赤褐色粒子・ 白色粒子・黒 色粒子	明褐灰色～赤 褐色	褐色～灰白色	ナデ・強いナデ ・ハケメ・指頭 痕	ヨコナデ・ハ ケメ	-	14.6+α	-	-	外面体部黒斑
23SD170- 8・9・10	第 69 図	114	土師器	壺	赤色粒子・角 閃石・白色粒 子	褐灰色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	16.0	41.0	-	-	突帯・黒斑・内外 面部分的に磨滅

第 23 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 22

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SD170-6・7 下層	第 69 図	115	土師器	壺	角閃石・石英・ 長石・赤色粒 子・白色粒子	灰黄色	橙色	ナデ・ハケメ後 ナデ・ケズリ後 ナデ	ハケメ後ヨコ ナデ・ハケメ 後ナデ	15.3	42.9	-	-	突帯
23SD170-3	第 69 図	116	土師器	壺	赤色粒子・角 閃石	明赤褐色～に ぶい黄色	明赤褐色～黒 褐色	ヨコナデ・ナデ ハケメ・ハケ メ後ナデ	ハケメ後ヨコ ナデ・突帯・ ナデ・ハケメ 後ナデ	(19.0)	44.1	-	-	黒斑・スス付着
23SD170-9	第 69 図	117	土師器	壺	白色粒子・角 閃石	橙色～黒褐色	橙色～黒褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・ケズ リ・工具ナデ・ ナデ	ナデ	15.6	19.0+a	-	-	黒斑・突帯・外面 磨耗の為調整不明
23SD170-16	第 70 図	118	土師器	壺	角閃石・石英・ 長石・赤色粒 子・白色粒子	橙色	明赤褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(14.5)	33.2+a	-	-	黒斑
23SD170-9	第 70 図	119	土師器	壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	橙色～赤褐色	橙色～灰白色	ヨコナデ・斜め ハケメ・ナデ・ 横方向のハケ メ・ケズリ	ヨコナデ・縦 方向のハケメ 後ナデ・ 縦～横方向の ハケメ後ナデ ・ナデ	13.3	31.3	-	-	ハケメ (5 本 /cm)・ 外面黒変
23SD170	第 70 図	120	土師器	壺	白色粒子・砂 粒・角閃石・ 長石・雲母	橙色	橙色	ナデ・ケズリ後 ナデ	ナデ・ハケメ	(15.4)	15.9+a	-	-	
23SD170-7	第 70 図	121	土師器	壺	角閃石・白色 粒子・雲母・ 石英・長石・ 赤色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ・指オ サエ・ハケメ後 ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ケズリ後ナデ	(13.0)	21.4+a	-	-	
23SD170-4	第 70 図	122	土師器	壺	雲母・角閃石 ・赤褐色粒子・ 白色粒子	橙色～灰白色	橙色～灰白色	ヨコナデ・指頭 痕	ヨコナデ・ハ ケメ	(15.0)	16.7+a	-	-	ハケメ (10 本 /cm)
23SD170-9	第 71 図	123	土師器	壺	長石・雲母・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	明赤褐色～黄 褐色～黒褐色	明赤褐色～に ぶい黄褐色～ 褐灰色	ヨコナデ・指頭 痕・粗いヨコナ デ・ナデ	ナデ・ヨコ～ 斜めハケメ・ ミガキ・縦方 向のハケメ	14.9	27.0	-	-	外面黒変
23SD170	第 71 図	124	土師器	壺	角閃石・長石・ 白色粒子	橙色	橙色	ハケメ・指オサ エ・ナデ	ハケメ・ナデ ・ミガキ	-	27.9+a	-	-	
23SD170-3	第 71 図	125	土師器	壺	角閃石・赤褐 色粒子・白色 粒子	橙色～褐色	明赤褐色～灰 黄褐色	ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	(15.8)	15.2+a	-	-	ハケメ (7 本 /cm)・ 粘土継ぎ目
23SD170-1	第 71 図	126	土師器	壺	角閃石・赤色 粒子・長石	浅黄色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ナデ	ハケメ後ヨコ ナデ・ハケメ	(14.6)	20.2+a	-	-	
23SD170	第 71 図	127	土師器	複合口縁壺	角閃石・長石・ 白色粒子	にぶい黄褐色	明黄褐色～に ぶい黄褐色	ナデ・指オサエ ・工具ナデ	ナデ・櫛描波 状文	(16.0)	45.0+a	-	-	黒斑・突帯貼付
23SD170-5,6,9	第 71 図	128	土師器	複合口縁壺	角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	橙色	橙色～にぶい 黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ヨコナデ・ ハケメ後ナデ・ オサエ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	(16.7)	39.1+a	-	-	
23SD170	第 72 図	129	土師器	複合口縁壺	白色粒子・角 閃石・褐色粒 子・砂粒	明赤褐色	明赤褐～明黄 褐色	指オサエ・ナデ ・ハケメ後ナデ ・ミガキ・丁寧 なナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ・鋸歯 文・ハケメ後 ナデ・ミガキ	21.6	48.6	-	-	突帯貼付
23SD170-11	第 72 図	130	土師器	複合口縁壺	白色粒子・角 閃石・長石・ 石英・赤色粒 子	橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・ハケ メ・ケズリ	波状文・ハケ メ後ナデ	13.0	40.9+a	-	-	黒斑・突帯
23SD170-6・7	第 73 図	131	土師器	複合口縁壺	角閃石・長石・ 石英・赤色粒 子・白色粒子	浅黄褐色	浅黄褐色	ヨコナデ・指オ サエ・ナデ・ハ ケメ	ナデ・ハケメ 後ナデ	(18.4)	38.7+a	-	-	黒斑・鋸口縁欠損 ・突帯
23SD170-8	第 73 図	132	土師器	複合口縁壺	角閃石・白色 粒子・長石・ 赤色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ・ミガ キ・ヨコナデ・ ナデ	波状文・ハケ メ後ナデ・ハ ケメ後ナデ・ ナデ	16.3	18.3+a	-	-	突帯
23SD170-12 下層	第 73 図	133	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石 ・赤褐色粒子・ 白色粒子・黒 色粒子	橙色	にぶい黄褐色 ～にぶい褐色	ヨコナデ・ハケ メ・指頭痕・工 具痕	ヨコナデ・ハ ケメ・櫛描波 状文	17.0	11.6+a	-	-	ハケメ (8 本 /cm)・ 突帯
23SD170-14	第 73 図	134	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・ 白色粒子	橙色～浅黄橙 色	橙色～にぶい 褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・指頭 痕	ハケメ・櫛描 波状文	(18.0)	13.5+a	-	-	ハケメ (5 本 /cm)・ 突帯
23SD170-8	第 73 図	135	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・ 白色粒子	浅黄褐色～橙 色	浅黄褐色～明 赤褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・指頭 痕	ヨコナデ・ハ ケメ・櫛描波 状文	16.2	13.3+a	-	-	突帯
23SD170-5	第 73 図	136	土師器	複合口縁壺	角閃石・赤褐 色粒子・白色 粒子	にぶい褐色	褐色	ヨコナデ・ミガ キ	ヨコナデ・ハ ケメ・櫛描波 状文	13.4	11.0+a	-	-	ハケメ (4 本 /cm)・ 口縁部外面黒斑・ 突帯
23SD170-13	第 73 図	137	土師器	複合口縁壺	角閃石・石英・ 雲母・白色粒 子・赤色粒子	褐色	にぶい褐色	ヨコナデ・指オ サエ・ナデ・ハ ケメ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	27.1	11.4+a	-	-	
23SD170-7・8	第 73 図	138	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・オサ エ・ハケメ後ミ ガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後オサエ ・ハケメ・櫛 描波状文	-	6.9+a	-	-	口縁上部欠損
23SD170-8	第 74 図	139	土師器	複合口縁壺	角閃石・石英・ 雲母・赤色粒 子・白色粒子	褐色	褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ヨコナデ・ 指オサエ・ハケ メ後ナデ・ハケ メ	ヨコナデ・波 状文・ヨコナ デ・ハケメ	18.5	24.7+a	-	-	黒斑
23SD170-7	第 74 図	140	土師器	複合口縁壺	角閃石・石英・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色	褐色	ヨコナデ・指オ サエ・ハケメ後 ナデ	ヨコナデ・ナ デ・ハケメ後 ナデ	(16.3)	39.9	-	-	
23SD170-8	第 74 図	141	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・ 白色粒子・黒 色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ・ハケ メ	ヨコナデ・ハ ケメ・櫛描波 状文	17.6	10.6+a	-	-	ハケメ内 (7 本 / cm)・黒斑
23SD170-3	第 74 図	142	土師器	複合口縁壺	白色粒子・赤 色粒子・雲母	にぶい褐色～ にぶい黄褐色	にぶい褐色～ にぶい黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	15.6	8.4+a	-	-	
23SD170-15 23SD170-16 23SD170-17	第 74 図	143	土師器	小形複合口 縁壺	雲母・赤褐色 粒子・白色粒 子・黒色粒子	赤色	赤色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・櫛描波 状文	(8.2)	3.7+a	-	-	内外面赤色塗彩
23SD170-2	第 74 図	144	土師器	小形脚付複 合口縁壺	白色粒子・雲 母・角閃石	褐色	褐色・にぶい 褐色・黒色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ナデ	(8.4)	8.0+a	-	-	
23SD170-9・14	第 74 図	145	土師器	複合口縁壺	長石・石英・ 雲母・赤色粒 子・白色粒子	褐色	褐灰色	ヨコナデ	ヨコナデ	12.4	6.4+a	-	-	

第 24 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 23

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴径/ 重さ	
23SD170-12	第 74 図	146	土師器	二重口縁壺 か	雲母・角閃石・ 赤褐色粒子・ 白色粒子	にぶい橙色	橙色～浅黄橙 色	ヨコナデ	ヨコナデ	16.1	7.1+ α	-	-	
23SD170-10	第 74 図	147	土師器	壺	角閃石・白色 粒子	明褐色	明黄褐色～橙 色	ヨコナデ・ケズ リ後ハケメ	ヨコナデ・ミ ガキ	7.8	6.0+ α	-	-	ハケメ (6 本 /cm)・ 内面粘土紐痕跡
23SD170-14	第 74 図	148	弥生土器	長頸壺	角閃石・長石・ 石英・白色粒 子・赤色粒子・ 雲母	黒褐色	にぶい黄褐色 ～黒褐色	ハケメ・ハケメ 後ナデ・ケズリ ・ミガキ	ミガキ	-	11.1+ α	-	-	黒斑
23SD170- 2,3,4 5 トレンチ	第 75 図	149	土師器	壺	角閃石・石英・ 長石・赤色粒 子	明黄褐色	にぶい黄褐色 ～黒褐色	ナデ・ハケメ	ハケメ後ナデ ・ナデ	-	60.4+ α	-	-	黒斑
23SD170-14	第 76 図	150	土師器	甕	雲母・角閃石・ 赤褐色粒子・ 白色粒子・黒 色粒子	灰白色～浅黄 橙色	灰白色～浅黄 橙色	工具ナデ (ミガ キ?)・ヨコナ デ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ	(18.4)	28.6	-	18.2	ハケメ (7 本 /cm)・ 外面体部スス付着
23SD170-9	第 76 図	151	土師器	甕	石英・赤色粒 子・白色粒子	黄褐色～橙色	黄褐色～浅黄 褐色～黒褐色	ハケメ・ケズリ	ナデ・ハケメ	18.5	31.1	-	20.8	ハケメ内 (3 本 / cm) 外 (5 本 /cm)
23SD170- 3,4	第 76 図	152	土師器	甕	白色粒子・雲 母・赤色粒子	橙色	橙色・にぶい 褐色・黒褐色	ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	16.4	30.7	-	22.0	
23SD170-14	第 76 図	153	土師器	甕	雲母・角閃石・ 赤褐色粒子・ 白色粒子・黒 色粒子	灰白色～橙色	灰白色～橙色	ハケメ・ハケメ 後ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	(18.0)	30.3	-	24.0	ハケメ (5 本 /cm)・ (10 本 /cm)・外面 底部付近スス付着
23SD170- 9-10	第 76 図	154	土師器	甕	角閃石・白色 粒子・長石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色 ～黒褐色	明赤褐色	ハケメ	ハケメ	19.6	31.5+ α	-	22.0	穿孔黒斑・スス付 着
23SD170-11	第 76 図	155	土師器	甕	赤色粒子・角 閃石・長石・ 白色粒子	明褐色	明褐色～黒褐 色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	17.6	29.5	-	20.8	黒斑
23SD170-13	第 76 図	156	土師器	甕	角閃石・赤色 粒子・白色粒 子・石英	にぶい橙色～ 褐灰色	褐色～黒褐色	ヨコナデ・指オ サエ・ハケメ後 ミガキ・ハケメ ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ナデ	21.4	33.4	-	24.4	黒斑
23SD170-3	第 76 図	157	土師器	甕	白色粒子・角 閃石・雲母	褐色	褐色・にぶい 赤褐色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	(19.2)	31.0	-	23.0	
23SD170-9	第 76 図	158	土師器	甕	角閃石・赤褐 色粒子	淡黄褐色	淡黄褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ・ケズリ	(18.6)	22.6+ α	-	21.3	ハケメ (8 本 /cm)
23SD170-11	第 77 図	159	土師器	甕	雲母・角閃石・ 赤褐色粒子・ 白色粒子	褐色	褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ	20.0	31.4	-	21.0	ハケメ (4 本 /cm)・ (7 本 /cm)・外面体部 黒斑
23SD170-14	第 77 図	160	土師器	甕	石英・長石	褐色	褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ	(21.0)	32.7	-	23.2	ハケメ (11 本 /cm)・ (6 本 /cm)
23SD170-8	第 77 図	161	土師器	甕	角閃石・長石・ 白色粒子	褐色	橙～黒色	ナデ・指オサエ ・ハケメ・ケズ リ後ナデ	ナデ・工具ナ デ・ケズリ後 ナデ	(13.9)	28.8	-	22.6	外面スス付着
23SD170-6	第 77 図	162	土師器	甕	角閃石・赤色 粒子・石英・ 長石・雲母	にぶい黄褐色 ～褐灰色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ・ハケメ後ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ	(17.5)	28.3+ α	-	19.5	黒斑
23SD170-6	第 77 図	163	土師器	甕	長石・角閃石・ 白色粒子	灰褐色	灰褐色	ミガキ・ハケメ	ナデ・ハケメ	17.4	28.4+ α	-	21.3	
23SD170-2	第 77 図	164	土師器	甕	角閃石・白色 粒子・長石	明赤褐色	明黄褐色～黒 褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ナ デ・ナデ	ハケメ後ヨコ ナデ・ハケメ 後ナデ	(29.7)	33.2	-	24.7	
23SD170-11	第 77 図	165	土師器	甕	角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	赤褐色	赤褐色～にぶ い黄褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ・ハ ケメ後ケズリ・ ハケメ後ナデ	ハケメ後ヨコ ナデ・ハケメ ・ナデ	(17.8)	28.7	-	21.8	
23SD170-6	第 77 図	166	土師器	甕	角閃石・赤色 粒子・白色粒 子・石英	明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・ケズ リ後ナデ・ナデ ・オサエ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(17.4)	33.4	-	23.3	
23SD170-9	第 77 図	167	土師器	甕	長石・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色	にぶい褐色～ 褐灰色	ナデ・ハケメ・ ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ナデ	14.8	28.7		19.6	ハケメ (10 本 /cm)・ 外面黒変
23SD170-2	第 78 図	168	土師器	甕	角閃石・雲母・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい黄褐色 ～黒褐色	にぶい黄褐色	ハケメ・ハケメ 後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ	(20.6)	33.2	-	24.3	黒斑
23SD170-14	第 78 図	169	土師器	甕	角閃石・赤色 粒子・長石・ 石英・雲母	明赤褐色	明赤褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ・ナ デ・ナデ後ミガ キ	ヨコナデ・ハ ケメ・ケズリ	(19.7)	31.5+ α	-	25.3	
23SD170	第 78 図	170	土師器	甕	長石・白色粒 子・砂粒・角 閃石	褐色	橙～明赤褐色	ヨコナデ・ハケ メ・ミガキ・ケ ズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ミガキ・ ケズリ	(18.0)	33.0+ α	-	25.2	黒斑
23SD170-2	第 78 図	171	土師器	甕	白色粒子・角 閃石・長石・ 雲母	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ケズリ・ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ	18.2	22.2+ α	-	-	
23SD170-4	第 78 図	172	土師器	甕	白色粒子・雲 母・角閃石	明褐灰色～に ぶい褐色	褐色～にぶい 褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナ デ	(19.4)	21.2+ α	-	-	スス付着
23SD170-11	第 78 図	173	土師器	甕	雲母・角閃石・ 白色粒子	褐色	にぶい褐色～ 褐色	ハケメ・ハケメ 後ナデ・指頭痕	ナデ・ハケメ ・工具痕	(18.6)	23.7+ α	-	-	ハケメ (10 本 /cm)・ 外面スス付着
23SD170-7	第 78 図	174	土師器	甕	雲母・角閃石・ 赤褐色粒子・ 白色粒子	明赤褐色	にぶい褐色	工具ナデ・ヨコ ナデ	ナデ・工具ナ デ・ヨコナデ	(19.2)	19.7+ α	-	-	
23SD170-8	第 78 図	175	土師器	甕	角閃石・石英・ 雲母・白色粒 子・赤色粒子	灰黄色	にぶい黄褐色	ハケメ・指オサ エ・ナデ・ハケ メ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	(20.0)	18.3+ α	-	-	
23SD170-5	第 78 図	176	土師器	甕	雲母・赤褐色 粒子・白色粒 子	褐色	にぶい黄褐色 ～褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ミガ キ	ヨコナデ・ハ ケメ	(18.8)	11.8+ α	-	-	ハケメ (7～9 本 / cm)
23SD170-3	第 78 図	177	土師器	甕	角閃石・長石・ 石英・赤色粒 子・白色粒子	褐色	褐色	ナデ・指オサエ 後ナデ・ハケメ 後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ後ヨコ ナデ	17.6	29.1+ α	-	-	
23SD170- 1,2	第 79 図	178	土師器	甕	角閃石・長石・ 白色粒子・砂 粒	黒褐色	黒褐色	ミガキ・ケズリ 後ミガキ	ヨコナデ・指 オサエ・ハケ メ後ナデ	16.5	21.7+ α	-	-	
23SD170-3	第 79 図	179	土師器	甕	角閃石・長石・ 雲母・赤色粒 子・白色粒子	明黄褐色	浅黄褐色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ・指オ サエ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(17.1)	27.9	-	23.2	

第 25 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 24

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SD170-7,8	第 79 図	180	土師器	甕	角閃石・長石・雲母・黒色粒子・赤色粒子	橙色	橙～黒褐色	ハケメ後ナデ・指オサエ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ナデ	(24.0)	30.8	-	26.0	
23SD170	第 79 図	181	土師器	甕	長石・角閃石・白色粒子・橙色粒子・砂粒	橙～明褐色	橙色	ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ	(18.6)	27.0+a	-	24.4	
23SD170-9	第 79 図	182	土師器	甕	角閃石・白色粒子・赤褐色粒子・石英	橙色	橙～明褐色	ヨコナデ・指オサエ・ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	21.4	20.8+a	-	-	
23SD170-14 23SD170-15	第 79 図	183	土師器	甕	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	19.5	26.1+a	-	-	ハケメ(7本/cm)・外面体部スス付着
23SD170-7・8	第 79 図	184	土師器	甕	角閃石・石英・雲母・赤褐色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(18.1)	21.5+a	-	-	スス付着
23SD170-5 トレンチ確認トレンチ	第 79 図	185	土師器	甕	角閃石・石英・雲母・白色粒子・赤褐色粒子	明褐色	橙色	ヨコナデ・指オサエ・ハケメ後ナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ナデ?	(24.2)	35.5	-	29.0	黒斑
23SD170-7	第 79 図	186	土師器	甕	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子・黒色粒子	にぶい橙色～灰白色	灰白色	ヨコナデ・指頭痕・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	18.4	12.9+a	-	-	ハケメ(6本/cm)
23SD170-7	第 79 図	187	土師器	甕	角閃石・白色粒子	にぶい橙色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	16.2	9.7+a	-	-	ハケメ(8～10本/cm)
23SD170-17	第 79 図	188	土師器	甕	長石・石英・角閃石・白色粒子・赤褐色粒子・雲母	灰白色	浅黄色	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	18.4	12.6+a	-	-	
23SD170-16	第 79 図	189	土師器	甕	角閃石・雲母・長石・赤褐色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	(15.4)	11.4+a	-	-	黒斑
23SD170-6	第 80 図	190	土師器	甕	角閃石・石英・赤褐色粒子・雲母	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ	(23.0)	20.2+a	-	-	突帯貼付
23SD170-7・8	第 80 図	191	土師器	甕	角閃石・石英・赤褐色粒子・雲母・赤褐色粒子	明黄褐色～黒褐色	明褐色～褐灰色	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	(22.0)	38.3+a	-	-	黒斑・突帯貼付
23SD170-2	第 80 図	192	土師器	甕	角閃石・白色粒子・赤褐色粒子・赤褐色粒子・黒色粒子	浅黄褐色・褐灰色	浅黄褐色・明赤褐色・褐灰色	ヨコナデ・ナデ・指オサエ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ	20.6	38.5	-	-	突帯貼付
23SD170-3,4,6,7,8	第 80 図	193	土師器	甕	赤褐色粒子・角閃石・雲母	橙色	にぶい黄褐色～褐色	ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ケズリ・ナデ	26.4	42.0	-	-	突帯貼付・黒斑
23SD170-7	第 81 図	194	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	明赤褐色～黄褐色	褐色～黄褐色	ハケメ・ナデ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	15.6	25.7	-	18.0	ハケメ内外(5～6本/cm)・胴部外面スス付着
23SD170-11	第 81 図	195	土師器	甕	石英・長石・角閃石・白色粒子	明黄褐色～黒褐色	黄褐色～黒褐色	ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ナデ	(16.4)	26.0	-	18.6	内外面黒変
23SD170-3	第 81 図	196	土師器	甕	白色粒子・赤褐色粒子・雲母	にぶい黄褐色・褐灰色	褐色・にぶい黄褐色・褐灰色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	(16.0)	25.5	-	18.7	
23SD170-7	第 81 図	197	土師器	甕	角閃石・長石・石英・赤褐色粒子・白色粒子	浅黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・指オサエ・ケズリ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ケズリ・ナデ	16.2	27.7	-	21.0	スス付着
23SD170-2	第 81 図	198	土師器	甕	白色粒子・雲母・赤褐色粒子・黒色粒子	褐色・褐灰色	褐色・にぶい黄褐色・灰褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	(14.2)	24.4	-	19.2	スス付着
23SD170-2	第 81 図	199	土師器	甕	長石・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	褐色	褐色	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	20.0	26.0	-	20.0	ハケメ(6本/cm)・内面黒斑
23SD170-14	第 81 図	200	土師器	甕	角閃石・長石・赤褐色粒子・白色粒子	褐色	褐色	ナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(17.2)	26.9	-	18.3	黒斑
23SD170-12	第 81 図	201	土師器	甕	角閃石・長石・白色粒子・赤褐色粒子	黒褐色	にぶい黄褐色	ハケメ・ナデ・ナデ後ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	(15.1)	22.6	-	16.4	
23SD170-14	第 81 図	202	土師器	甕	白色粒子・石英・角閃石・黒色粒子	褐色	褐色	ヨコナデ・ハケメ・ナデ・ケズリ後ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	15.4	26.0	-	19.1	
23SD170-3	第 82 図	203	土師器	甕	白色粒子・雲母	にぶい褐色～褐灰色	にぶい黄褐色・灰黄褐色・褐灰色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	16.2	25.6+a	-	19.3	
23SD170-4	第 82 図	204	土師器	甕	長石・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	褐色	褐色	ナデ・ハケメ後ナデ・ヨコナデ・ミガキ	ナデ	19.8	26.9	-	20.0	外面黒斑
23SD170-14	第 82 図	205	土師器	甕	角閃石・白色粒子・赤褐色粒子・雲母	明褐色	明褐色	ハケメ後ヨコナデ・指オサエ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・一部ミガキか?	(14.6)	21.7	-	17.3	
23SD170-7	第 82 図	206	土師器	甕	角閃石・石英・赤褐色粒子・黒色粒子	にぶい褐色～褐色	褐色	ハケメ後ミガキ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	(17.1)	25.3+a	-	18.6	
23SD170	第 82 図	207	土師器	甕	角閃石・黒色粒子・白色粒子	褐色	褐色	ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ケズリ	ナデ・ハケメ後ナデ	15.0	12.7+a	-	-	
23SD170-3	第 82 図	208	土師器	甕	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	13.9	12.3+a	-	-	ハケメ(5本/cm)
23SD170-14	第 82 図	209	土師器	甕	角閃石・白色粒子・赤褐色粒子・長石	褐灰色	にぶい黄褐色～褐灰色	ハケメ・ハケメ後ケズリ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	16.5	13.9+a	-	-	黒斑
23SD170-2,3,4	第 82 図	210	土師器	甕	赤褐色粒子・白色粒子・雲母	褐色・明褐灰色	褐色・灰白色・黒色	ナデ・ケズリ・ナデ	ナデ・ケズリ後ナデ・ケズリ	13.2	19.0	-	16.2	黒斑
23SD170-2	第 82 図	211	土師器	甕	白色粒子・赤褐色粒子・雲母・角閃石	褐色～にぶい褐色	褐色～褐灰色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・指オサエ・ハケメ・ケズリ	16.3	21.5	-	17.0	スス付着
23SD170-13	第 82 図	212	土師器	甕	角閃石・雲母・石英・白色粒子	浅黄褐色	褐色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	(18.8)	9.9+a	-	-	

第 26 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 25

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SD170-3	第 82 図	213	土師器	甕	赤色粒子・角閃石・石英・白色粒子	赤褐色	赤褐色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	16.2	17.7+α	-	-	
23SD170-3	第 82 図	214	土師器	甕	白色粒子・角閃石・雲母	橙色・にぶい黄褐色・褐灰色	橙色・にぶい黄褐色・にぶい褐色	ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	15.2	24.5	-	19.1	黒斑
23SD170-11	第 82 図	215	土師器	小形甕	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	灰白色～橙色	灰白色～橙色	ハケメ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	(13.1)	21.9+α	-	16.5	ハケメ (11 本 /cm) (9 本 /cm)・外面一部黒斑
23SD170-13	第 83 図	216	土師器	甕	角閃石・石英・長石・白色粒子・赤色粒子	褐灰色	橙色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(26.0)	22.6	-	19.3	黒斑
23SD170-10	第 83 図	217	土師器	甕	長石・雲母・角閃石・赤色粒子	浅黄褐色	浅黄褐色	ヨコナデ・ナデ・ケズリ・指オサエ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	17.1	23.3	-	21.2	黒斑
23SD170-10	第 83 図	218	土師器	甕	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子・黒色粒子	橙色	橙色	ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	18.6	24.9+α	-	21.3	ハケメ (7 ～ 9 本 /cm)
23SD170-13	第 83 図	219	土師器	甕	雲母・角閃石・白色粒子・褐色粒子	にぶい黄褐色	にぶい褐色	工具ナデ・ハケメ・ミガキ・ケズリ	ナデ・ハケメ	(16.5)	14.9+α	-	-	ハケメ (9 本 /cm) (9 本 /cm)・外面スス付着
23SD170-6	第 83 図	220	土師器	甕	長石・角閃石・赤褐色粒子	淡褐色	浅黄褐色	ヨコナデ・指頭痕・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	16.3	13.6+α	-	-	ハケメ (8 本 /cm)・外面黒斑
23SD170-10	第 83 図	221	土師器	甕	石英・赤色粒子・雲母・角閃石	黒褐色	にぶい黄色～黒褐色	ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ	13.9	19.8	-	20.7	
23SD170-7 23SD170-8	第 83 図	222	土師器	甕	雲母・赤褐色粒子・白色粒子	淡黄褐色	橙色	ナデ・ヨコナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	16.2	13.8+α	-	-	ハケメ (13 本 /cm) (8 本 /cm)・口縁部スス付着
23SD170-7	第 83 図	223	土師器	甕	角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	浅黄褐色～黄褐色	浅黄褐色～橙色	ヨコナデ・指頭痕・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	17.2	14.1+α	-	-	ハケメ (5 本 /cm)
23SD170-7	第 83 図	224	土師器	甕	雲母・角閃石・白色粒子	褐色	褐色～褐灰色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(15.9)	13.9+α	-	-	ハケメ (10 本 /cm)
23SD170-3	第 83 図	225	土師器	甕	赤色粒子・白色粒子・長石・雲母	明赤褐色	明赤褐色～黒褐色	ヨコナデ・指オサエ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(15.4)	17.7+α	-	-	スス付着
23SD170-5・6	第 83 図	226	土師器	甕	角閃石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子	褐色	浅黄褐色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ	14.5	17.8+α	-	-	
23SD170	第 83 図	227	土師器	甕	褐色粒子・砂粒	橙～にぶい褐色	褐色	ナデ・ケズリ後ハケメ	ナデ・ハケメ	(15.4)	(16.6)	-	-	外面スス付着
23SD170-11	第 83 図	228	土師器	甕	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	褐色	ヨコナデ・指オサエ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ・ナデ	(17.9)	17.1	-	18.9	
23SD170-17	第 83 図	229	土師器	甕	角閃石・石英・長石・赤色粒子・白色粒子	褐灰色～浅黄褐色	浅黄褐色	ヨコナデ・ハケメ後ケズリ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(14.4)	6.7+α	-	-	
23SD170-13	第 83 図	230	土師器	甕	角閃石・石英・赤色粒子・白色粒子	褐灰色～褐色	褐色	ナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(13.3)	8.3+α	-	-	
23SD170-16	第 83 図	231	土師器	甕	角閃石・雲母・石英・長石・白色粒子・赤色粒子	褐色	褐色	ハケメ後ヨコナデ・指オサエ・ナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	16.1	10.9+α	-	-	黒斑
23SD170-14	第 83 図	232	土師器	甕	赤色粒子・角閃石・白色粒子	明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	(14.0)	8.9+α	-	-	黒斑
23SD170-10	第 84 図	233	土師器	小形甕	角閃石・白色粒子	にぶい黄褐色～褐色	褐色～浅黄褐色	工具ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ・指頭痕	(9.6)	10.3+α	-	-	
23SD170-2・3	第 84 図	234	土師器	小形甕	白色粒子・赤色粒子・雲母・角閃石	褐色・にぶい黄褐色	褐色・灰褐色	ナデ	ナデ・ハケメ	10.5	10.9	-	-	スス付着
23SD170-4	第 84 図	235	土師器	小形甕	角閃石・石英・赤色粒子・白色粒子	褐色	にぶい黄褐色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	11.1	7.4+α	-	-	
23SD170-4	第 84 図	236	土師器	小形甕	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰白色～明赤褐色	明赤褐色～浅黄褐色～赤褐色～黒褐色	ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ヨコナデ・縦～斜めハケメ・ナデ	(13.9)	12.2	-	-	外面スス付着
23SD170-2	第 84 図	237	土師器	小形甕	角閃石・長石・石英・赤色粒子・白色粒子	褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ケズリもしくは強いナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	12.0	12.3	-	-	
23SD170-6	第 84 図	238	土師器	小形甕	角閃石・雲母・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	(14.6)	12.4+α	-	-	黒斑
23SD170-9	第 84 図	239	土師器	小形甕	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	にぶい褐色	明黄褐色～にぶい褐色	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	(14.8)	10.9+α	-	-	ハケメ (12 本 /cm)
23SD170-2	第 84 図	240	土師器	小形甕	白色粒子・雲母・赤色粒子	褐色	褐色～灰褐色	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	13.2	17.0	-	-	
23SD170-8	第 84 図	241	土師器	小形甕	角閃石・石英・雲母・白色粒子・赤色粒子	明赤褐色	にぶい赤褐色～にぶい黄褐色	指オサエ・ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ	13.6	18.3	-	-	
23SD170-11	第 84 図	242	土師器	小形甕	角閃石・石英・白色粒子・赤色粒子	褐色	明赤褐色～褐色	ヨコナデ・ナデ・オサエ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	13.9	13.6	-	-	
23SD170	第 84 図	243	土師器	小形甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐色～黄褐色	褐色～黄褐色	横方向のハケメ後ナデ・指頭痕・ナデ・斜めハケメ後ナデ	横方向のハケメ後ナデ・ヨコナデ・縦方向のハケメ後ナデ	15.5	18.5	-	-	ハケメ内 (4 本 /cm)・外面一部黒斑
23SD170-1	第 84 図	244	土師器	小形甕	角閃石・石英・白色粒子・赤色粒子	灰白色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(14.0)	15.0	-	-	
23SD170-14	第 84 図	245	土師器	甕	白色粒子・角閃石・赤色粒子・長石・石英	赤褐色	赤褐色～黒褐色	ヨコナデ・ハケメ?ケズリ?後ナデ	ヨコナデ・ナデ	-	21.7+α	-	-	黒斑
23SD170-4	第 84 図	246	土師器	小形甕	角閃石・白色粒子	にぶい褐色	褐色	ナデ・ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	-	11.1+α	-	-	ハケメ (6 本 /cm)

第 27 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 26

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SD170-7	第 84 図	247	弥生土器	甕	赤色粒子・角閃石・雲母・石英	橙～明褐色	明赤褐色	ヨコナデ?・ケズリ?	ヨコナデ?・ケズリ	(17.8)	29.8	2.5	-	全体的に磨減し調整不明瞭
23SD170-5 トレンチ	第 84 図	248	弥生土器	小形甕	白色粒子・雲母・角閃石	橙色・にぶい橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	(13.5)	19.2+α	-	-	
23SD170-7	第 84 図	249	弥生土器	小形甕	角閃石・長石・石英・白色粒子・赤色粒子	明赤褐色	明赤褐色～黒褐色	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ケズリ	ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(13.8)	18.2+α	-	-	黒斑
23SD170-14	第 84 図	250	土師器	甕	角閃石・白色粒子・長石	褐灰色	にぶい黄褐色～褐灰色	ナデ	ハケメ	-	8.0+α	-	-	黒斑
23SD170-4	第 84 図	251	弥生土器	甕×甕?	角閃石・白色粒子・雲母	にぶい黄色	にぶい黄色	ナデ	ハケメ	-	7.0+α	(6.2)	-	
23SD170-3	第 85 図	252	石器	すり石						8.1	6.5	5.5	430.0g	安山岩
23SD170-7	第 85 図	253	石器	不明						7.7	2.0	1.85	43.0g	チャート
23SD170	第 85 図	254	石器	すり石						9.5	5.7	4.6	369.0g	安山岩
23SD170-3	第 85 図	255		土錘	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子・砂粒	-	赤褐色～黒褐色	-	指オサエ後ナデ・指オサエ後ナデ後ミガキ	8.8	5.0	4.8	-	

23SE051

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SE051	第 88 図	001	土師器	器台	石英・角閃石・白色粒子	橙色	橙色	丁寧なナデ後ミガキ・ケズリ	ヨコナデ・指オサエ後ミガキ	-	5.4+α	9.0	-	穿孔
23SE051	第 88 図	002	土師器	小形二重口縁壺	角閃石・白色粒子	褐灰色～黒褐色	褐灰色～黒褐色	ナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・指頭痕	(8.0)	9.0+α	-	-	
23SE051 P-2	第 88 図	003	土師器	複合口縁壺	石英・長石・角閃石・白色粒子	橙色	にぶい赤褐色～にぶい橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・縦方向のハケメ後ヨコナデ・ハケメ	17.5	8.7	-	-	内面口縁部黒斑・粘土ナデ付け痕
23SE051 上層 P-2・11	第 88 図	004	土師器	二重口縁壺	長石・角閃石・白色粒子	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色～褐灰色	粗いナデ・ヨコナデ	縦～斜めナデ・ヨコナデ	17.0	19.0	-	-	
23SE051 P-2・11・14	第 88 図	005	土師器	甕	長石・角閃石・白色粒子	にぶい赤褐色～灰褐色	にぶい赤褐色～黒褐色	ナデ・ケズリ後ナデ・ミガキ・指頭痕	ヨコナデ・ケズリ後ナデ・ミガキ	(16.2)	22.7	-	-	
23SE051 上層 P-6	第 88 図	006	土師器	甕	石英・長石・角閃石・白色粒子	橙色	黄褐色～黒色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ・指頭痕・ケズリ・ナデ	ヨコナデ・縦～斜めハケメ・ケズリ後ナデ(ミガキ?)	13.8	24.6	-	-	ハケメ外(6～7本/cm)・外面スス付着・内面黒変
23SE051 P-1	第 88 図	007	土師器	甕	石英・長石・角閃石・白色粒子	橙色～褐色	明褐色～褐色	ヨコナデ・ケズリ後ナデ・ケズリ	ナデ・ヨコナデ・斜めハケメ(ハケメナデ?)	16.0	26.3	-	-	スス付着
23SE051 P-13	第 88 図	008	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～にぶい赤褐色	橙色～浅黄褐色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ハケメ・ハケメ	ハケメ後ナデ・ヨコナデ・ハケメ	14.3	25.1	-	-	ハケメ(15～20本/cm)・黒斑
23SE051 P-5	第 88 図	009		土錘	石英・長石・角閃石・白色粒子	-	褐色～黒褐色	-	ナデ後ミガキ・指頭痕	10.7	4.6	4.5	-	黒変
23SE051	第 88 図	010		土錘	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	明褐色～黒色	-	ケズリ後ナデ・ハケメ・指頭痕	9.8	4.3	4.1	-	
23SE051 P-4	第 88 図	011		土錘	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	褐色～黒褐色	-	指頭痕・ナデ・かけ紐の跡	9.7	4.1	3.9	-	上下端部黒変
23SE051 P-3	第 88 図	012		土錘	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	赤褐色	-	指オサエ後ナデ後ミガキ?	7.6	3.2	3.1	-	中央～下端黒変
23SE051	第 88 図	013		土錘	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	橙色～黄褐色	-	指オサエ後ナデ	6.1	4.2	4.1	-	一部黒変
23SE051	第 88 図	014		土錘	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	明赤褐色	-	指オサエ後ナデ	7.5	3.1	3.1	-	
23SE051	第 88 図	015		土錘	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	黒褐色	-	指オサエ後ナデ	7.1	3.0	2.8	-	残存部全面黒変
23SE051 P-10	第 88 図	016		土錘	長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	赤褐色	-	指オサエ後ナデ・指オサエナデ後ミガキ	8.4	3.7	3.5	-	一部黒変
23SE051 P-9	第 88 図	017		土錘	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	明赤褐色	-	ナデ後ミガキ	8.4	3.7	3.4	-	
23SE051 P-12	第 88 図	018		土錘	長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	-	黒色	-	指オサエ後ナデ後ミガキ	7.8+α	4.0	4.1	-	全面黒変
23SE051 P-7	第 88 図	019		土錘	石英・長石・角閃石・雲母・赤色粒子・白色粒子	-	明赤褐色	-	ナデ	7.7	3.1	3.0	-	使用痕(掛け紐痕?)
23SE051 P-8	第 88 図	020		土錘	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	-	明赤褐色	-	指オサエ後ナデ後ミガキ	7.0	3.4	3.3	-	全面黒変

23SE052

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
23SE052	第 87 図	001	土師器	小型丸底壺	長石・角閃石・白色粒子	明赤褐色～浅黄褐色	明褐色	ヨコナデ・斜め～横方向のハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ・ケズリ後丁寧なナデ	11.6	7.8	-	-	ハケメ内(8本/cm)内外面黒変
23SE052 P-1	第 87 図	002	土師器	鉢	雲母・角閃石・赤褐色粒子・白色粒子	黄褐色	黄褐色	ナデ・ヨコナデ・一部ハケメ残	ヨコナデ・ハケメ	14.9	4.7	-	-	ハケメ(7本/cm)

第 28 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 27

遺構名	挿図番号	遺物番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
23SE076 P-3	第 90 図	001	土師器	丸底壺	石英・長石・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ミガキ・ケズリ後ナデ・ケズリ	ミガキ・ハケメ後ミガキ	13.3	13.3	-	-	ハケメ (12 ～ 13 本 /cm)・黒斑
23SE076 P-4	第 90 図	002	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～浅黄橙色	にぶい橙色～明褐色	ミガキ・ハケメ後指オサエ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	15.9	23.2	-	19.4	ハケメ (7 ～ 8 本 /cm)・黒斑・スス付着
23SE076 P-2	第 90 図	003	土師器	甕	長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	浅黄褐色～黒褐色	浅黄褐色～灰褐色	ミガキ後ヨコナデ・ミガキ・ハケメ後ミガキ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ	17.2	25.3	-	21.3	ハケメ (5 ～ 7 本 /cm)・穿孔・スス付着
23SE076 P-1	第 90 図	004	土師器	甕	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	暗赤褐色	橙色～にぶい赤褐色	ハケメ・指頭痕・ケズリ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ケズリ?・ケズリ?・ナデ	(15.6)	25.6	-	20.9	ハケメ (9 ～ 11 本 /cm)・スス付着

遺構名	挿図番号	遺物番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
23SE087 P-1	第 93 図	001	土師器	二重口縁壺	長石・角閃石・赤褐色粒子	褐灰色	橙色～明赤褐色	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	17.8	34.2	-	-	ハケメ (9 本 /cm) (11 本 /cm)・口縁部と体部外面黒斑
23SE087 P-7	第 93 図	002	弥生土器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～黒色	黒色	ケズリ・指頭痕・ハケメ後ナデ	ハケメ・ナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ	19.0	23.2	-	24.8	ハケメ (8 ～ 12 本 /cm)・全体にスス付着
23SE087 P-3	第 93 図	003	弥生土器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色～暗赤褐色	明赤褐色～暗赤褐色	ハケメ・ハケメ後ナデ・指頭痕	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ	15.3	23.3	-	20.3	ハケメ (7 ～ 10 本 /cm)・穿孔 接合痕
23SE087 P-4	第 93 図	004	弥生土器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色～褐灰色～黒褐色	橙色～褐灰色	ケズリ後ナデ・ミガキ	ナデ・ハケメ後ナデ	13.0	21.5	-	17.7	穿孔・スス付着・接合痕
23SE087 P-5	第 93 図	005	弥生土器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	褐色～黒褐色	にぶい褐色	打ち欠き・ハケメ・ケズリ・指頭痕	打ち欠き・ハケメ後ナデ・ハケメ	14.8	22.4	-	19.1	ハケメ外 (6 ～ 8 本 /cm)・接合痕

遺構名	挿図番号	遺物番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
23SE099 P-1	第 95 図	001	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明褐色～灰褐色	にぶい黄褐色～にぶい黄褐色	ナデ・ケズリ・指頭痕	ヨコナデ・ケズリ・指頭痕・ナデ	7.2	13.9	-	-	黒斑
23SE099 ハンサイ	第 95 図	002	土師器	小形二重口縁豆	長石・雲母・赤褐色粒子	浅黄色	浅黄色	ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	(7.6)	7.0+α	-	-	ハケメ (10 本 /cm)・内外面赤色塗彩
23SE099 ハンサイ P-5	第 95 図	003	土師器	小形長頸壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・指頭痕・ケズリ後ナデ	ヨコナデ後ミガキ・ナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ	10.8	3.3+α	-	-	一部黒変
23SE099	第 95 図	004	土師器	壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	黄褐色～橙色～黒褐色	黄褐色～明赤褐色～黒褐色	ハケメ後ナデ・ミガキ・ケズリ後粗いミガキ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ミガキ	19.8	38.4	-	-	内外面一部黒変・外面スス付着
23SE099 ハンサイ 下層	第 95 図	005	土師器	壺	長石・角閃石・白色粒子	赤褐色～黒褐色	赤褐色	ヨコナデ・工具ナデ?・ナデ・指頭痕	ナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ	18.5	31.0+α	-	-	ハケメ外 (8 本 /cm)・外面一部黒変
23SE099 P-3	第 95 図	006	土師器	甕	長石・雲母・角閃石・白色粒子	明褐灰色～橙色	橙色～明褐色	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後タタキ・ハケメ・ナデ	(16.1)	24.9	-	20.2	ハケメ内 (7 ～ 8 本 /cm)外 (7 本 /cm)・外面スス付着
23SE099 ハンサイ 下層 P-3	第 95 図	007	土師器	甕	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	赤褐色～黒褐色	赤褐色～黒褐色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	23.3	39.5	-	-	ハケメ (7 ～ 12 本 /cm)・突帯貼付

遺構名	挿図番号	遺物番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
20SD001 c 区上層	第 101 図	001	ミナ7土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	指頭痕	指頭痕	4.0	2.2	-	-	
20SD001 c 区上層	第 101 図	002	ミナ7土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	灰黄褐色	黒褐色	ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	(5.9)	1.9	-	-	
20SD001 e 区上層	第 101 図	003	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい褐色～明赤褐色	ナデ・指頭痕	ナデ・指オサエ後工具によるナデ	(6.2)	2.5	-	-	
20SD001 P-206	第 101 図	004	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	橙色	指頭痕	ナデ	3.6	3.0	-	-	
20SD001 e 区上層	第 101 図	005	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	指頭痕	ナデ・指頭痕	(4.4)	3.4	-	-	外面黒斑・スス付着
20SD001 d 区中層	第 101 図	006	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・指頭痕	指頭痕	5.4	3.7	-	-	
20SD001 e 区上層	第 101 図	007	ミナ7土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	指頭痕	指頭痕・ナデ	4.5	3.3	-	-	
20SD001 f 区上層 P-206	第 101 図	008	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙色	橙色	指頭痕	指頭痕	5.0	3.7	2.5	-	

遺構名	挿図番号	遺物番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
20SD001 c 区上層	第 101 図	001	ミナ7土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	指頭痕	指頭痕	4.0	2.2	-	-	
20SD001 c 区上層	第 101 図	002	ミナ7土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	灰黄褐色	黒褐色	ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	(5.9)	1.9	-	-	
20SD001 e 区上層	第 101 図	003	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい褐色～明赤褐色	ナデ・指頭痕	ナデ・指オサエ後工具によるナデ	(6.2)	2.5	-	-	
20SD001 P-206	第 101 図	004	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	橙色	指頭痕	ナデ	3.6	3.0	-	-	
20SD001 e 区上層	第 101 図	005	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	指頭痕	ナデ・指頭痕	(4.4)	3.4	-	-	外面黒斑・スス付着
20SD001 d 区中層	第 101 図	006	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・指頭痕	指頭痕	5.4	3.7	-	-	
20SD001 e 区上層	第 101 図	007	ミナ7土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	指頭痕	指頭痕・ナデ	4.5	3.3	-	-	
20SD001 f 区上層 P-206	第 101 図	008	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙色	橙色	指頭痕	指頭痕	5.0	3.7	2.5	-	

遺構名	挿図番号	遺物番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
20SD001 c 区上層	第 101 図	001	ミナ7土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	指頭痕	指頭痕	4.0	2.2	-	-	
20SD001 c 区上層	第 101 図	002	ミナ7土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	灰黄褐色	黒褐色	ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	(5.9)	1.9	-	-	
20SD001 e 区上層	第 101 図	003	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい褐色～明赤褐色	ナデ・指頭痕	ナデ・指オサエ後工具によるナデ	(6.2)	2.5	-	-	
20SD001 P-206	第 101 図	004	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	橙色	指頭痕	ナデ	3.6	3.0	-	-	
20SD001 e 区上層	第 101 図	005	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	指頭痕	ナデ・指頭痕	(4.4)	3.4	-	-	外面黒斑・スス付着
20SD001 d 区中層	第 101 図	006	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・指頭痕	指頭痕	5.4	3.7	-	-	
20SD001 e 区上層	第 101 図	007	ミナ7土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	指頭痕	指頭痕・ナデ	4.5	3.3	-	-	
20SD001 f 区上層 P-206	第 101 図	008	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙色	橙色	指頭痕	指頭痕	5.0	3.7	2.5	-	

遺構名	挿図番号	遺物番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
20SD001 c 区上層	第 101 図	001	ミナ7土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	指頭痕	指頭痕	4.0	2.2	-	-	
20SD001 c 区上層	第 101 図	002	ミナ7土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	灰黄褐色	黒褐色	ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	(5.9)	1.9	-	-	
20SD001 e 区上層	第 101 図	003	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい褐色～明赤褐色	ナデ・指頭痕	ナデ・指オサエ後工具によるナデ	(6.2)	2.5	-	-	
20SD001 P-206	第 101 図	004	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	橙色	指頭痕	ナデ	3.6	3.0	-	-	
20SD001 e 区上層	第 101 図	005	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	指頭痕	ナデ・指頭痕	(4.4)	3.4	-	-	外面黒斑・スス付着
20SD001 d 区中層	第 101 図	006	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・指頭痕	指頭痕	5.4	3.7	-	-	
20SD001 e 区上層	第 101 図	007	ミナ7土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	指頭痕	指頭痕・ナデ	4.5	3.3	-	-	
20SD001 f 区上層 P-206	第 101 図	008	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙色	橙色	指頭痕	指頭痕	5.0	3.7	2.5	-	

遺構名	挿図番号	遺物番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
20SD001 c 区上層	第 101 図	001	ミナ7土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	指頭痕	指頭痕	4.0	2.2	-	-	
20SD001 c 区上層	第 101 図	002	ミナ7土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	灰黄褐色	黒褐色	ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	(5.9)	1.9	-	-	
20SD001 e 区上層	第 101 図	003	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい褐色～明赤褐色	ナデ・指頭痕	ナデ・指オサエ後工具によるナデ	(6.2)	2.5	-	-	
20SD001 P-206	第 101 図	004	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	橙色	指頭痕	ナデ	3.6	3.0	-	-	
20SD001 e 区上層	第 101 図	005	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	指頭痕	ナデ・指頭痕	(4.4)	3.4	-	-	外面黒斑・スス付着
20SD001 d 区中層	第 101 図	006	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・指頭痕	指頭痕	5.4	3.7	-	-	
20SD001 e 区上層	第 101 図	007	ミナ7土器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	指頭痕	指頭痕・ナデ	4.5	3.3	-	-	
20SD001 f 区上層 P-206	第 101 図	008	ミナ7土器	鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙色	橙色	指頭痕	指頭痕	5.0	3.7	2.5	-	

遺構名	挿図番号	遺物番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	

第 29 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 28

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
20SD001 e 区上層	第 101 図	009	ミチナ7土器	鉢	石英・長石・ 角閃石	黄灰色	橙色	指頭痕	指頭痕	3.8	3.4	-	-	外面スス付着?
20SD001 f 区上層	第 101 図	010	ミチナ7土器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄褐色	灰白色	ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	2.9	3.9	-	-	
20SD001 c 区下層	第 101 図	011	ミチナ7土器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい橙色	にぶい黄褐色	指頭痕	指頭痕	(7.6)	4.7	-	-	
20SD001 b 区 P-209	第 101 図	012	ミチナ7土器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	灰黄褐色	灰黄褐色	ナデ・指頭痕	ヘラによるナ デ・指頭痕	8.0	4.3	-	-	
20SD001 c 区上層	第 101 図	013	ミチナ7土器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ	ナデ・指オサ エ	(7.3)	3.8	3.2	-	
20SD001 d 区上層	第 101 図	014	ミチナ7土器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐灰色	にぶい黄褐色	指頭痕	ナデ・指頭痕	(4.5)	4.9+a	-	-	黒斑
20SD001 e 区下層 P-146	第 101 図	015	ミチナ7土器	鉢(高台付)	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	黄灰色	灰黄色	指オサエ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ 指オサエ	5.1	3.3	(3.0)	-	
20SD001 e 区上層	第 101 図	016	ミチナ7土器	壺	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	黒褐色	黒褐色	ヨコナデ・指オ サエ・ナデ	ヨコナデ・ナ デ・指オサエ	(4.0)	5.3	-	-	
20SD001 d 区 P-75	第 101 図	017	ミチナ7土器	壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・指オ サエ	ヨコナデ・ナ デ・指オサエ	3.8	4.9	-	-	
20SD001 f 区上層	第 101 図	018	ミチナ7土器	脚部	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・指オ サエ	ナデ・ヨコナ デ	-	2.9+a	(4.0)	-	内外面赤色塗彩
20SD001 c 区上層	第 101 図	019	ミチナ7土器	脚部	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色	橙色	指オサエ・しぼ り痕	ミガキ	-	4.1+a	-	-	
20SD001 e 区下層	第 101 図	020	土師器	高坏×小形 器台	石英・雲母・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ? (摩耗に より不明瞭)	ナデ・指オサ エ・ケズリ	13.4	4.5+a	-	-	
20SD001 a 区下層	第 101 図	021	弥生土器	筒形器台	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	灰黄褐色	にぶい黄褐色	指オサエ	ナデ・指オサ エ	-	8.7+a	(8.7)	-	
20SD001 e 区 P-157	第 101 図	022	土師器	鼓形器台	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ミガ キ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ ・ハケメ後ナ デ	18.5	10.2	15.5	-	
20SD001 f 区上層	第 101 図	023	土師器	高坏	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	白橙色	白橙色	ナデ?	ヨコナデ・ハ ケメ後ケズリ 後ナデ・ケズ リ・ケズリ後 ナデ	(25.8)	9.0+a	-	-	
20SD001 f 区上層・下 層	第 101 図	024	土師器	高坏	長石・角閃石・ 白色粒子	明赤褐色～に ぶい橙色	明赤褐色～に ぶい橙色	ナデ	ナデ・ヨコナ デ	(29.8)	19.5	18.3	-	赤色塗彩・穿孔 4 箇所
20SD001 f 区上層	第 101 図	025	土師器	高坏	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ケズ リ後ミガキ・絞 り痕・ミガキ	ナデ後粗いミ ガキ・ヨコナ デ・ハケメ後 粗いミガキ・ ケズリ後粗い ミガキ	(17.9)	13.6	12.8	-	穿孔 4 箇所
20SD001 f 区上層 P-180	第 101 図	026	土師器	高坏	長石・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	浅黄褐色～橙 色	浅黄褐色～橙 色	ナデ・丁寧なナ デ or 粗いミガ キ・ハケメ後ナ デ・ハケメ後ミ ガキ・指オサエ 後粗いナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ミガキ?	22.1	15.5	15.0	-	ハケメ内 (6～8 本/cm) 外 (8～ 10 本/cm) (8～ 12 本/cm)
20SD001 f 区中層・上 層	第 101 図	027	土師器	高坏	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ後 ナデ・ミガキ・ ケズリ・指オサ エ	ナデ・工具ナ デ・ナデ後ミ ガキ・ハケメ 後ミガキ・ミ ガキ	24.8	17.3	13.4	-	穿孔 3 箇所
20SD001 f 区上層	第 101 図	028	土師器	高坏	長石・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色	ナデ後ミガキ・ ケズリ後粗いナ デ・工具痕	ナデ後ミガキ ・ヨコナデ後ミ ガキ・ハケメ 後ミガキ後ナ デ?	20.9	18.6	14.4	-	黒変・赤色塗彩
20SD001 f 区上層	第 101 図	029	土師器	高坏	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	浅黄褐色～橙 色	浅黄褐色～橙 色	ヨコナデ後ミガ キ・ハケメ後ナ デ・ナデか?	ナデ・ナデ後 ミガキ・ハケ メ後ナデ後ミ ガキ	20.0	15.1	13.4	-	一部黒変
20SD001 f 区上層 e 区 P-116	第 102 図	030	土師器	高坏	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・黒 色粒子	淡橙色	淡橙色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・細か い横方向のミガ キ	ヨコナデ・細 かい横方向の ミガキ	19.6	13.5	(16.5)	-	穿孔 4 箇所
20SD001 e 区上層 f 区上層 23SD001 1 層	第 102 図	031	土師器	高坏	長石・雲母・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	明赤褐色～浅 黄褐色～黒褐 色	橙色	ナデ・ナデ後ミ ガキ・ヨコナデ 後ミガキ	ナデ後ミガキ ・ハケメ後ナ デ後ミガキ	16.8	11.5	16.4	-	穿孔 4 箇所・赤色 塗彩・黒変
20SD001 f 区上層 試掘 2 トレ ンチ	第 102 図	032	土師器	高坏	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色～浅黄橙 色	ナデ・ハケメ・ ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ・ケズ リ後ナデ	19.2	13.6	13.3	-	ハケメ (5～6 本/ cm)
20SD001 e 区上層	第 102 図	033	土師器	高坏	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	黄褐色～黒色 ～明赤褐色	黄褐色～黒色	ナデ・ナデ後ミ ガキ・ハケメ・ ケズリ後ナデ・ 指頭痕	ナデ・ハケメ 後ナデ・ミガ キ	20.0	14.0	11.7	-	赤色塗彩
20SD001 f 区上層	第 102 図	034	土師器	高坏	長石・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	明赤褐色	ヨコハケメ後ナ デ・ケズリ	ヨコナデ・縦 方向のハケメ 後ナデ・斜め ハケメ後ミガ キ・縦方向の ケズリ後ミガ キ	20.8	14.1	(13.2)	-	ハケメ内 (4 本/ cm) 外 (2～3 本 /cm)
20SD001 f 区上層 P-226 e 区上層	第 102 図	035	土師器	高坏	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	にぶい橙色～ 褐色	褐色	ナデ後ミガキ・ ヨコナデ後ミガ キ・ミガキ・ケ ズリ	ナデ後ミガキ ・ミガキ	20.8	14.7	13.1	-	
20SD001 f 区試掘 2 トレンチ	第 102 図	036	土師器	高坏	雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色～にぶい 褐色	褐色～にぶい 褐色	ナデ・ハケメ後 ヨコナデ・ケズ リ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ケズリ後 ナデ・ケズリ 後ミガキ	19.2	14.2	(12.0)	-	ハケメ (7～8 本/ cm)・黒斑

第 30 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 29

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
20SD001 f区試掘 2トレンチ	第 102 図	037	土師器	高坏	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	橙色	橙色～にぶい 赤褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ミガキ・ケ ズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ミガキ	19.4	15.1	13.0	-	ハケメ (6～8 本 / cm)・黒斑
20SD001 f区試掘 2トレンチ	第 102 図	038	土師器	高坏	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	明赤褐色～浅 黄褐色	明赤褐色～浅 黄褐色	ナデ・ハケメ後 ナデ・ハケメ後 ヨコナデ・ケズ リ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ・ハケメ 後ヨコナデ	17.8	13.4	11.6	-	ハケメ (7～8 本 / cm)・黒斑
20SD001 f区 P-231	第 102 図	039	土師器	高坏	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ヨコ ナデ後ハケメ・ ケズリ・しほり 痕	ヨコナデ・指 オサエ・ナデ	(17.2)	12.8	12.3	-	ハケメ (6 本 /cm)
20SD001 f区上層	第 102 図	040	土師器	高坏	長石・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色～にぶい 橙色～明赤褐 色	明赤褐色～暗 赤灰色	ナデ・粗いナデ ・ハケメ後ミガ キ	ナデ・ヨコナ デ・粗いナデ 後斜めハケメ ・斜めハケメ・ ハケメ後ナデ	16.9	11.8	11.8	-	ハケメ外 (7 本 / cm) (8～9 本 / cm) (9 本 /cm)
20SD001 e区上層	第 102 図	041	土師器	高坏	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・黒 色粒子	明赤褐色～灰 白色	橙色～灰白色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ヨコ ナデ・ケズリ・ ハケメ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ナデ ・ハケメ後ヨ コナデ	16.7	13.6	11.8	-	ハケメ (7～8 本 / cm)・黒斑
20SD001 e区上層	第 102 図	042	土師器	高坏	石英・長石・ 角閃石	淡赤褐色	淡赤褐色	ヨコナデ・ナデ ・ケズリ	ハケメ後ヨコ ナデ・ヨコナ デ・ナデ・脚 部沈線状ナデ 痕	(16.4)	14.3	(13.1)	-	
20SD001 e 区上層 23SD001-10 1層	第 102 図	043	土師器	高坏	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	淡橙茶色	淡橙茶色	ヨコカキメ風 ハケメ後斜めハ ケメ・ナデ・ヨ コナデ・ハケメ 後ヨコナデ・ケ ズリ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ヨコナデ・ケ ズリ後ナデ?	23.7	15.4	12.4	-	
20SD001 e区上層 f区上層 P-227	第 102 図	044	土師器	高坏	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	明赤褐色～浅 黄褐色	明赤褐色～浅 黄褐色	ナデ・丁寧なナ デ・ナデ後ミガ キ・ナデ後ミガ キ・ミガキ・指 オサエ	ナデ・ナデ 後ミガキ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ後ミガ キ・ミガキ	17.1	14.6	12.3	-	赤色塗彩
20SD001 f区上層	第 103 図	045	土師器	高坏	石英・長石・ 角閃石	橙色	橙色	ナデ・ミガキ・ ハケメ・ケズリ	ナデ・ミガキ ・ハケメ	(15.4)	13.0	10.6	-	ハケメ (9 本 /cm) ・摩耗により不明 瞭
20SD001 f区上層	第 103 図	046	土師器	高坏	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい赤褐色	橙色	ナデ?・ケズリ 後ナデ	ナデ・ハケメ ・ミガキ	12.9	12.2	(11.3)	-	ハケメ (11 本 / cm)
20SD001 c区上層	第 103 図	047	土師器	高坏	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ハケメ後ミガキ ・ヨコナデ	ミガキ・ヨコ ナデ	13.3	13.5	10.6	-	
20SD001 c区上層	第 103 図	048	土師器	高坏	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・ケズリ	ナデ・ミガキ	15.6	14.4	11.6	-	
20SD001 e区上層	第 103 図	049	土師器	高坏 坏部	石英・雲母・ 角閃石・白色 粒子	橙色	橙色	ミガキ・ケズリ	ハケメ後ミガ キ・ヘラケス リ	(21.0)	6.7+ α	-	-	ハケメ (8 本 /cm)
20SD001 f区上層	第 103 図	050	土師器	高坏 坏部	石英・白色粒 子	にぶい黄褐色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ	ハケメ後ヨコ ナデ・指オサ エ・ハケメ	(22.0)	7.2+ α	-	-	ハケメ内 (8 本 / cm) 外 (7 本 / cm)
20SD001 f区上層	第 103 図	051	土師器	高坏 坏部	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	横方向のハケメ (掻き目風) 後 放射状ミガキ・ ヨコナデ・ハケ メ後ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ ・綿密な横方 向のミガキ	(22.8)	7.4+ α	-	-	
20SD001 f区上層 P-202	第 103 図	052	土師器	高坏 坏部	雲母・微砂粒	黄褐色	にぶい黄色	ミガキ・工具ナ デ	摩耗により不 明瞭	21.0	7.3+ α	-	-	
20SD001 a区上層	第 103 図	053	土師器	高坏 坏部	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	明赤褐色	橙色	縦方向のミガキ	横方向のミガ キ	(18.0)	5.6+ α	-	-	
20SD001 c区中層	第 103 図	054	土師器	高坏 坏部	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ナデ後ミガキ・ ヨコナデ・ハケ メ後ミガキ・横 方向のミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ ・ケズリ後ミ ガキ?	(16.3)	5.7+ α	-	-	
20SD001 e区上層	第 103 図	055	土師器	高坏 坏部	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙茶色	橙茶色	ハケメ・ハケメ 後ナデ・ハケメ 後ヨコナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ナデ ・絞り痕	17.1	6.9+ α	-	-	
20SD001 d区上層	第 103 図	056	土師器	高坏	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	淡褐色	淡褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ケス リ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ?	17.4	11.7+ α	-	-	
20SD001	第 103 図	057	土師器	高坏 坏部	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	白茶色	白茶色	ヨコナデ	ヨコナデ	(15.8)	5.6+ α	-	-	
20SD001 a区上層	第 103 図	058	土師器	高坏 坏部	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい橙色	橙色	ミガキ	摩耗により不 明瞭	(17.4)	4.8+ α	-	-	
20SD001	第 103 図	059	土師器	高坏 坏部	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	茶灰色	茶灰色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ナデ ・ハケメ後ケ ズリ	18.1	6.3+ α	-	-	
20SD001 c区 P-50	第 103 図	060	土師器	高坏 坏部	石英・長石・ 赤色粒子	にぶい黄色	灰黄色	ハケメ後ナデ・ ナデ	ハケメ後ナデ ・ミガキ	19.0	8.7+ α	-	-	
20SD001 c区上層	第 103 図	061	土師器	高坏 坏部	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	17.4	6.0+ α	-	-	
20SD001 e区 P-153	第 103 図	062	土師器	高坏 坏部	石英・黒色粒 子・赤褐色粒 子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ハケメ後ヨコナ デ	ハケメ後ヨコ ナデ	18.2	5.5+ α	-	-	ハケメ内 (6 本 / cm) 外 (5 本 / cm) 黒斑
20SD001 e区上層	第 103 図	063	土師器	高坏	石英・雲母・ 角閃石・白色 粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・ケス リ	ナデ・ヨコナ デ	(18.8)	11.8+ α	-	-	ハケメ (11 本 / cm)・穿孔 5 箇所
20SD001 a区中層	第 103 図	064	土師器	高坏 脚部	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	浅黄褐色	浅黄褐色	ミガキ・ハケメ 後ナデ・ケズリ 後ナデ	ミガキ・ハケ メ後ミガキ	-	9.7+ α	-	-	ハケメ (7 本 /cm) ・穿孔 3 箇所
20SD001 c区中層	第 103 図	065	土師器	高坏 脚部	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	灰褐色	にぶい橙色	ハケメ後ナデ・ 指オサエ・ナデ	ミガキ・ハケ メ後ミガキ・ ハケメ	-	8.2+ α	(14.6)	-	ハケメ (5 本 /cm) ・穿孔 3 箇所

第 31 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 30

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
20SD001 f 区上層	第 103 図	066	土師器	高坏 脚部	雲母・角閃石・ 微砂粒	灰黄褐色	明黄褐色	ハケメ・ヨコナ デ	ハケメ・ヨコ ナデ・ハケメ 後ミガキ	-	9.0+ α	14.4	-	ハケメ (9 本 /cm) ・穿孔 4 箇所
20SD001 f 区上層	第 103 図	067	土師器	高坏 脚部	石英・長石・ 雲母・角閃石	橙色	橙色	ハケメ・ヨコナ デ	ハケメ後ミガ キ・ケズリ	-	7.0+ α	14.2	-	ハケメ (8 本 /cm) (12 本 /cm)・穿 孔 4 箇所
20SD001 c 区 P-119	第 103 図	068	土師器	高坏 脚部	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい橙色	橙色	ヨコナデ・ケズ リ・ナデ	ハケメ後ミガ キ	-	7.2+ α	14.9	-	穿孔 4 箇所
20SD001 試験 2 トレ ンチ	第 103 図	069	土師器	高坏 脚部	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・黒色粒 子	淡橙茶色	淡橙茶色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ナデ ・ケズリ	ハケメ後ナデ ・ハケメ後ヨ コナデ・ハケ メ後ミガキ	-	11.4+ α	-	-	坏部見込み部分は 被熱のため器面剥 離
20SD001 e 区上層	第 103 図	070	土師器	高坏 脚部	角閃石・白色 粒子・黒色粒 子	淡橙色	淡橙色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ	ナデ・ヨコナ デ	-	6.7+ α	9.3	-	
20SD001 f 区上層	第 103 図	071	土師器	高坏 脚部	石英・白色粒 子・雲母・角 閃石・赤色粒 子	淡茶灰色	淡茶灰色	ヨコナデ・ケズ リ	ナデ・ヨコナ デ	-	6.2+ α	(12.4)	-	
20SD001 e 区上層	第 103 図	072	土師器	高坏 脚部	石英・長石・ 雲母・角閃石	にぶい黄色	浅黄色	ケズリ・ハケメ ・ヨコナデ・ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ	-	7.3+ α	(12.8)	-	ハケメ (7 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 103 図	073	土師器	高坏 脚部	雲母・角閃石 ・赤褐色粒子・ 白色粒子	淡黄色	淡黄色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ・指オ サエ	ナデ・ヨコナ デ・ヨコナデ 後ミガキ	-	8.3+ α	12.6	-	
20SD001 e 区上層	第 104 図	074	土師器	高坏 脚部	赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズ リ	ナデ後ミガキ ・ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ 横方向のミガ キ	-	8.2+ α	(11.2)	-	
20SD001 e 区上層	第 104 図	075	土師器	高坏 脚部	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	茶白色	茶白色	ヨコナデ・ケズ リ・ケズリ後ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ後ケズリ	-	8.0+ α	(10.6)	-	
20SD001 a 区中層	第 104 図	076	土師器	高坏 脚部	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ミガキ・ハケメ ・ケズリ	ミガキ	-	10.1+ α	-	-	
20SD001 c 区上層	第 104 図	077	土師器	高坏 脚部	角閃石・白色 粒子・灰色粒 子	白茶色	白茶色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ミ ガキ	-	11.0+ α	(11.7)	-	
20SD001 d 区中層	第 104 図	078	弥生土器	高坏 口縁 部片	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	赤橙色	赤橙色	ミガキ	ミガキ	(26.5)	4.7+ α	-	-	内外面赤色塗彩
20SD001 e 区下層	第 104 図	079	弥生土器	高坏 口縁 部片	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	白色	橙白色	ナデ?・ヨコナ デ・ハケメ後ヨ コナデ・ハケメ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	-	5.0+ α	-	-	外面赤色塗彩
20SD001 f 区上層	第 104 図	080	弥生土器	高坏	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	赤色 (下地白 茶色)	赤色 (下地白 茶色)	ナデ・ハケメ後 ナデ・ミガキ	ハケメ後ナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ	-	17.0+ α	-	-	穿孔 4 箇所・内 外面赤彩
20SD001 d 区中層	第 104 図	081	弥生土器	高坏 脚部	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	淡白橙色	淡白橙色	ナデ・ヨコナデ ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ヨコナデ	-	5.1+ α	-	-	
20SD001 b 区 P-28	第 104 図	082	弥生土器	高坏 脚部 片	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	橙色	ミガキ・ハケメ ・しぼり痕	ナデ・ハケメ 後ナデ	-	12.1+ α	15.9	-	ハケメ (10 本 / cm)・穿孔 5 箇所
20SD001 a 区 P-19	第 104 図	083	弥生土器	高坏 脚部	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	灰白色	赤色	ハケメ後ミガキ ・ナデ・しぼり 痕	ハケメ後ミガ キ	-	13.5+ α	(14.6)	-	穿孔 5 箇所
20SD001 f 区上層	第 104 図	084	弥生土器	高坏 脚部	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	淡茶灰色	淡茶灰色	ナデ	ナデ・ミガキ	-	12.0+ α	-	-	穿孔 6 箇所・中位 口まで充填
20SD001 e 区上層	第 104 図	085	弥生土器	高坏 口縁 部片	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	茶白色	茶白色	ヨコナデ・ハケ メ後ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ	-	4.7+ α	-	-	内面赤色塗彩
20SD001 f 区上層	第 104 図	086	土師器	高坏 脚部	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	橙色	橙色	ケズリ・ナデ	ナデ	-	6.1+ α	(5.9)	-	
20SD001 f 区上層	第 105 図	087	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	橙色	白茶色	ヨコナデ・ケズ リ後粗いミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後粗いナ デ	(14.6)	3.3	-	-	
20SD001 d 区中層	第 105 図	088	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	浅黄褐色	橙色	ミガキ	ナデ	15.2	4.6	-	-	
20SD001 d 区上層 e 区上層	第 105 図	089	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ミガ キ	ナデ・ヨコナ デ・工具痕	16.9	4.9	-	-	黒斑
20SD001 b 区 c 区上層	第 105 図	090	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ後ミガキ	ナデ・ケズリ	16.3	4.8+ α	-	-	
20SD001 e 区上層	第 105 図	091	土師器	鉢	長石・雲母・ 角閃石・赤色 粒子	灰白色～橙色	橙色	ヨコナデ・ミガ キ	ヨコナデ・ケ ズリ後ミガキ ・ミガキ	(12.0)	3.6	-	-	黒斑・スス付着
20SD001 e 区上層	第 105 図	092	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色	浅黄褐色～橙 色	ヨコナデ・ハケ メ後ミガキ?	ヨコナデ・ハ ケメ	16.1	4.8	-	-	ハケメ (8～11 本 /cm)・黒斑・スス 付着
20SD001 f 区上層	第 105 図	093	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	明赤褐色～黒 褐色	橙色	ナデ後ミガキ	ナデ・ケズリ 後ナデ・ミガ キ	14.5	4.5	-	-	
20SD001 d 区上層	第 105 図	094	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・黒 色粒子	橙色～灰白色	橙色～明褐灰 色	工具ナデ・ヨコ ナデ	ヨコナデ	(12.0)	3.6	-	-	黒斑
20SD001 f 区上層	第 105 図	095	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	淡橙色	淡橙色	ヨコナデ・ミガ キ・丁寧なミガ キ	ヨコナデ・ケ ズリ後手持ち ナデ	(13.0)	3.9	-	-	内外面スス付着
20SD001 f 区上層	第 105 図	096	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	橙色	橙色	ナデ・ミガキ?	ミガキ?・ケズ リ	15.8	5.4	-	-	
20SD001 e 区上層 f 区上層	第 105 図	097	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	にぶい黄褐色 ～にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ケ ズリ後ハケメ	(14.3)	4.8+ α	-	-	ハケメ (7 本 /cm)

第 32 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 31

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
20SD001 f区上層	第 105 図	098	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ	ヨコナデ	10.3	3.5	-	-	
20SD001 f区上層	第 105 図	099	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	淡橙色	淡橙色	ヨコナデ・ナデ ・丁寧なナデ	ヨコナデ・ケ ズリ後ナデ・ 工具痕	(13.4)	4.6	-	-	内外面スス付着
20SD001 c区上層	第 105 図	100	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケメ 後ナデ	(16.2)	5.7	-	-	ハケメ (12 本 /cm)
20SD001 e区上層 20SE001 上層	第 105 図	101	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・黒 色粒子	橙色～灰白色	橙色～灰白色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ヨコ ナデ	ナデ・ヨコナ デ・ケズリ・ 指オサエ	16.0	5.2+α	-	-	ハケメ (8 本 /cm)・ 黒斑・スス付着
20SD001 e区 P-126	第 105 図	102	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ	ヨコナデ・ケ ズリ	12.4	4.3	-	-	黒斑
20SD001 b区 P-5	第 105 図	103	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石	橙色	褐灰色	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケメ	15.7	5.5	-	-	ハケメ (13 本 /cm)
20SD001 f区上層	第 105 図	104	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	灰茶色	灰茶色	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ ・ハケメ後丁 寧なナデ後ミ ガキ	(17.6)	6.1	-	-	
20SD001 f区上層	第 105 図	105	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	黄灰色～黒褐 色	にぶい黄橙色 ～明赤褐色	工具ナデ・ヨコ ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	(12.6)	4.9	-	-	ハケメ (9 ～ 10 本 /cm)・黒斑
20SD001 d区上層 d区下層 P-91	第 105 図	106	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・黒色粒 子	橙色～浅黄橙 色	橙色～灰白色	工具ナデ・ヨコ ナデ	ナデ・ヨコナ デ・ケズリ・ ケズリ後ナデ	(14.8)	5.6	-	-	黒斑・口縁部の歪 み著しい
20SD001 f区上層	第 105 図	107	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ミガ キ後ナデ	ヨコナデ・ケ ズリ後ナデ	14.8	5.8	-	-	黒斑
20SD001 e区上層	第 105 図	108	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナ デ	12.1	4.0	-	-	
20SD001 e区 104 上 層	第 105 図	109	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石	橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ 後ミガキ	ナデ・ハケメ	17.1	6.7	-	-	ハケメ (17 本 / cm)・黒斑
20SD001 c区上層	第 105 図	110	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケメ 後ナデ	(13.8)	5.4	-	-	ハケメ (15 本 /cm)
20SD001 d区上層 d区中層	第 105 図	111	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・黒 色粒子	にぶい褐色～ 灰白色	橙色～灰白色	工具ナデ・ヨコ ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	16.4	6.3	-	-	ハケメ (10 ～ 11 本 /cm)・黒斑・歪み 著しい
20SD001 d区 P-74	第 105 図	112	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	放射状のハケメ ・ハケメ後ミガ キ	ヨコナデ・ハ ケメ	15.4	6.1	-	-	
20SD001 b区上層	第 105 図	113	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石	黄灰色	黒褐色	摩耗により不明 瞭	摩耗により不 明瞭	-	2.6+α	-	-	
20SD001 b区上層	第 105 図	114	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい橙色	灰黄褐色	摩耗により不明 瞭	ミガキ・ケズ リ	-	3.8+α	-	-	
20SD001 c区上層	第 105 図	115	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	灰黄色	灰黄色	ナデ	ナデ・ケズリ 後ミガキ	(12.8)	5.4	-	-	
20SD001 e区上層 P-243	第 105 図	116	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい橙色	橙色	ナデ	ハケメ	13.4	5.3	-	-	ハケメ (8 本 /cm)
20SD001 b区上層 P-4・6	第 105 図	117	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	にぶい赤褐色	ミガキ	ハケメ後ミガ キ	(17.2)	5.6+α	-	-	
20SD001 f区上層	第 105 図	118	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	灰黄褐色	黒褐色	ハケメ・ナデ	ナデ	15.5	7.0	-	-	ハケメ (6 本 /cm)
20SD001 f区上層	第 105 図	119	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい褐色～ 褐色	にぶい褐色～ 褐色	工具ナデ・ヨコ ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	10.8	4.4	-	-	ハケメ (7 ～ 8 本 / cm)・黒斑
20SD001 e区上層 f区上層	第 105 図	120	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色～にぶい 黄褐色	褐色～にぶい 黄褐色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	14.4	6.0	-	-	ハケメ (8 本 /cm)
20SD001 f区上層	第 105 図	121	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ・ナ デ	13.8	6.1	-	-	黒斑
20SD001 b区 P-4	第 105 図	122	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい褐色	ナデ後ミガキ	ナデ・ハケメ ・ミガキ・ケ ズリ	(14.0)	6.0+α	-	-	ハケメ (10 本 /cm)
20SD001 b区中層	第 105 図	123	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	浅黄褐色	にぶい褐色	ナデ	ナデ	(12.0)	5.2	-	-	
20SD001 e区 P-113	第 105 図	124	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	灰白色	灰白色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	14.0	5.9	-	-	ハケメ (9 本 /cm)
20SD001 d区 P-77	第 105 図	125	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	13.1	6.4	-	-	ハケメ (7 本 /cm)・ 黒斑
20SD001 f区上層	第 105 図	126	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	浅黄褐色～橙 色	にぶい黄褐色	ナデ?・ヨコナ デ	ナデ一部ハケ メ・ヨコナデ・ 工具痕	11.3	5.6	-	-	黒斑
20SD001 c区上層	第 105 図	127	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・ミガキ・ ケズリ	ナデ・指オサ エ・ケズリ後 ミガキ	(12.3)	6.1	-	-	
20SD001 f区 P-249	第 105 図	128	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	褐色	ヨコナデ・ミガ キ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ 指オサエ	13.4	6.8	-	-	
20SD001 d区上層	第 105 図	129	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・黒 色粒子	褐色	褐色～灰白色	工具ナデ・ヨコ ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	12.9	6.4	-	-	ハケメ (8 ～ 9 本 / cm)・スス付着?
20SD001 f区試掘 2 トレンチ	第 105 図	130	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい褐色～ 灰黄褐色	明赤褐色～に ぶい黄褐色	ナデ・ヨコナデ ・工具痕	ナデ・ヨコナ デ	10.5	6.6	-	-	黒斑・スス付着
20SD001 d区 P-57	第 106 図	131	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	にぶい褐色	ヨコナデ・ミガ キ	ヨコナデ・ケ ズリ後ナデ	15.2	7.7	-	-	黒斑

第 33 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 32

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
20SD001 c 区 P-57	第 106 図	132	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	橙色	橙色	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケメ 後ナデ	12.0	7.6	-	-	ハケメ (9 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 106 図	133	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ミガキ	ナデ・ハケメ 後ミガキ	(11.4)	9.1	-	-	ハケメ (8 本 /cm)
20SD001 e 区下層	第 106 図	134	土師器	鉢	長石・角閃石・ 赤色粒子	赤色	赤色	ミガキ・ミガキ 後ヨコナデ? 丁寧なナデ	ミガキ・ミガキ 後ヨコナデ? 丁寧なナデ	(9.6)	9.4	-	-	内外面赤色塗彩・ 精製品
20SD001 d 区上層 d 区中層	第 106 図	135	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・黒色粒 子	橙色～浅黄橙 色	橙色～灰白色	工具ナデ・ヨコ ナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	(11.9)	6.6	3.6	-	ハケメ (7 本 /cm)・ 黒斑
20SD001 上層 P-256	第 106 図	136	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ケズ リ後ミガキ	ヨオナデ・ハ ケメ後ミガキ ・指オサエ	18.0	11.0	4.2	-	黒斑
20SD001 f 区上層	第 106 図	137	土師器	台付鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	にぶい橙色～ 褐色	ヨコナデ・ミガ キ	ナデ・ヨコナ デ・指オサエ	15.1	9.5	7.0	-	黒斑
20SD001 d 区上層	第 106 図	138	土師器	台付鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	灰白色～褐色	褐色	ハケメ・ハケメ 後ヨコナデ	ナデ・強いナ デ・ヨコナデ	(13.6)	7.0	(7.6)	-	ハケメ (5 本 /cm)・ 黒斑
20SD001 c 区上層	第 106 図	139	土師器	台付鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	褐色	ミガキ	ナデ・ハケメ 後ミガキ	(12.9)	6.8	-	-	ハケメ (7 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 106 図	140	土師器	台付鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	明赤褐色～赤 黒色	明赤褐色	ナデ・ミガキ	ナデ・縦～横 方向のハケメ 後ナデ	(13.4)	6.5	7.6	-	
20SD001	第 106 図	141	土師器	台付鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	淡褐色	淡褐色	ナデ・指オサエ ・ヨコナデ	ヨコナデ	-	4.6+α	(11.0)	-	
20SD001 c 区中層	第 106 図	142	土師器	台付鉢底部	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	褐色	ハケメ・ナデ	ハケメ・ヨコ ナデ	-	5.8+α	(12.7)	(13.2)	ハケメ (5 本 /cm)
20SD001 c 区上層	第 106 図	143	土師器	台付鉢底部	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色	褐色	摩耗により不明 瞭	ナデ・指オサ エ	-	5.9+α	(10.0)	-	
20SD001 c 区下層	第 106 図	144	土師器	台付鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	黄灰色	にぶい褐色	摩耗により不明 瞭	ハケメ・指オ サエ後ナデ	-	4.6+α	-	-	ハケメ (6 本 /cm)
20SD001 d 区中層	第 106 図	145	土師器	台付鉢	石英・長石	赤褐色	赤褐色	ナデ・ケズリ後 ナデ・ハケメ・ 丁寧な一部ミガ キ・ケズリ (周 面上げ底)	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ 粗い縦方向の ハケメ	(19.2)	17.5	9.2	-	
20SD001 d 区上層	第 106 図	146	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	褐色～暗褐色	褐色～暗褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ミガキ・放 射状ハケメ風ミ ガキ・斜め～ヨ コナデ風ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ・ ケズリ後ナデ	(21.0)	5.5+α	-	-	
20SD001 f 区上層	第 106 図	147	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	淡褐色	淡褐色	ヨコナデ・丁寧 なナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ ・丁寧なナ デ	(18.4)	5.9+α	-	-	内外面黒斑
20SD001 e 区上層	第 106 図	148	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	茶白色	ナデ後ミガキ・ ヨコナデ・ケズ リ後ミガキ・密 な横方向のミガ キ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ 斜めハケメ後 ナデ	(21.1)	5.6+α	-	-	
20SD001 f 区上層	第 106 図	149	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(9.4)	5.0	-	-	
20SD001 c 区上層	第 106 図	150	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ヨコナデ・ミガ キ	ヨコナデ・ハ ケメ	(15.4)	8.7	-	-	ハケメ (7～10 本 /cm)・黒斑
20SD001 c 区 P-54	第 106 図	151	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ	ナデ	14.5	8.2	-	-	
20SD001 d 区下層	第 106 図	152	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	浅黄褐色	浅黄褐色	ナデ・ナデ後粗 いミガキ・ヨコ ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ後 粗いミガキ	23.7	10.5	-	-	口縁部打ち欠き・ 一部黒変
20SD001 f 区上層	第 106 図	153	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	明黄褐色	にぶい黄褐色 ～褐色	ナデ後ミガキ・ 指オサエ・指オ サエ後ナデ	ナデ・ケズリ 後ミガキ・指 オサエ後ナデ	(22.8)	11.6	(5.0)	-	
20SD001 e 区上層 p-109 d 区上層	第 106 図	154	土師器	鉢	雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色	褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ミガキ・ミ ガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ後ヨコ ナデ	(25.9)	14.5	-	-	ハケメ (8 本 /cm)・ 黒斑
20SD001 e 区 P-222	第 106 図	155	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	褐色	褐色	ハケメ・指オサ エ・ケズリ	ナデ・ハケメ ・指オサエ	21.4	14.9	-	-	ハケメ (6 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 106 図	156	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	明褐色	灰白色～明褐 色	ナデ後ミガキ・ ヨコナデ後ミガ キ・ケズリ後ミ ガキ	ナデ後ミガキ ・ハケメ後ナ デ後ミガキ	12.0	11.6	-	-	赤色塗彩
20SD001 d 区上層	第 106 図	157	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	白茶色	白茶色	ハケメ?・ナデ	ナデ?	(12.6)	8.3+α	-	-	
20SD001 e 区中層	第 107 図	158	土師器	鉢	角閃石・白色 粒子・石英・ 赤色粒子	明赤褐色	明赤褐色～に ぶい黄褐色	ケズリ後ナデ	ハケメ後ヨコ ナデ・ハケメ 後ナデ・オサ エ	(18.5)	10.5+α	-	-	
20SD001 f 区上層	第 107 図	159	土師器	鉢	角閃石・石英・ 雲母・赤色粒 子・白色粒子	褐色	にぶい褐色	ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(12.7)	13.4+α	-	-	
20SD001 f 区上層	第 107 図	160	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	褐色	ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後粗いミガキ ・粗いミガキ	28.6	23.5+α	-	-	山陰系鉢に類似
20SD001 c 区 P-107	第 107 図	161	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ナデ ・ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(26.1)	17.5	-	-	ハケメ (4 本 /cm)・ 黒斑

第 34 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 33

遺構名	挿図番号	遺物番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴径 / 重さ	
20SD001 d 区上層	第 107 図	162	土師器	大鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙色	にぶい黄橙色	ハケメ後ナデ・ミガキ・指オサエ	ハケメ後ナデ後ミガキ・ケズリ後ミガキ	-	20.7+α	-	-	ハケメ (6 本 /cm) (8 ~ 12 本 /cm)・黒変・接合痕
20SD001 c 区 P-32・33 c 区上層	第 107 図	163	土師器	大鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	橙色	ナデ・ハケメ後ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ	(31.5)	20.3	-	(32.0)	ハケメ (7 本 /cm)
20SD001 e 区下層 f 区上層	第 107 図	164	土師器	鉢	石英・長石・赤色粒子	淡橙色	淡橙色	ミガキ?・ミガキ	ヨコナデ・指オサエ・ハケメ・ミガキ	25.7	19.0+α	-	-	三角突帯
20SD001 f 区上層	第 107 図	165	土師器	鉢	石英・長石・赤色粒子	淡橙白色	淡橙白色	ナデ・ハケメ後ミガキ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ・指オサエ・タタキ風の粗いハケメ後細かい縦方向のハケメ	(29.0)	26.4+α	-	-	突帯
20SD001 f 区上層	第 108 図	166	土師器	鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	灰白色～黒褐色	にぶい黄橙色～褐色	ハケメ後ヨコナデ・ケズリ後ミガキ・指オサエ後ケズリ	ハケメ後ナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ	(25.2)	23.7+α	-	-	ハケメ (4 ~ 6 本 /cm) (6 ~ 8 本 /cm)・内面黒変・突帯
20SD001 e 区上層 P-103	第 108 図	167	土師器	大鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ後ミガキ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	33.7	29.5	-	-	ハケメ (9 ~ 10 本 /cm)・黒斑
20SD001 e 区上層・下層 f 区上層	第 108 図	168	土師器	大鉢	雲母・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ケズリ後ミガキ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ後一部ミガキ?	34.4	29.3+α	-	-	ハケメ (7 ~ 8 本 /cm)・黒斑
20SD001 e 区上層 P-135・146	第 108 図	169	土師器	大鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ後ミガキ	ナデ・ハケメ後ミガキ	34.6	25.1	-	-	ハケメ (9 本 /cm)
20SD001 e 区上層 P-160	第 108 図	170	土師器	大鉢	石英・長石・角閃石・白色粒子	橙色	明赤褐色	ヨコナデ・指オサエ・斜め～横方向のハケメ後ナデ	ヨコナデ・縦方向のハケメ後ナデ・ナデ	(35.3)	28.4	-	-	内面部分的黒変
20SD001 e 区上層	第 108 図	171	土師器	鉢	石英・長石・雲母	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケメ後ナデ (一部粗いミガキ?)・ナデ後ミガキ風ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ナデ・丁寧なナデ	(36.5)	24.9	-	-	突帯
20SD001 f 区上層	第 109 図	172	土師器	鉢	石英・長石・赤褐色粒子	橙白色	橙白色	ヨコナデ後ミガキ・ハケメ後ミガキ・ハケメ後ナデ後ミガキ?	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・ナデ一部ケズリ	(44.0)	28.3	-	-	全体的に歪み
20SD001 f 区上層	第 109 図	173	土師器	大鉢	石英・長石・角閃石・赤色粒子・白色粒子	明赤褐色	橙色～にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ・工具ナデ? (ケズリ?)	粗いナデ (ケズリ?) 後ナデ (ミガキ?)・斜めハケメ・ナデ	38.5	31.4	-	-	ハケメ (6 本 /cm)・外面一部黒変・突帯貼付
20SD001 c 区上層	第 109 図	174	土師器	大鉢	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ハケメ	ナデ・指オサエ・ハケメ	(35.4)	14.4+α	-	-	ハケメ (9 本 /cm)
20SD001 b 区中層 20SD001 b 区下層	第 109 図	175	土師器	山陰系鉢口縁部	石英・長石・角閃石・赤色粒子	にぶい橙色	橙色	ミガキ・ナデ	ナデ・ミガキ・ハケメ後ミガキ	(37.4)	14.3+α	-	-	ハケメ (7 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 109 図	176	土師器	鉢	角閃石・石英・長石・白色粒子	灰黄褐色～黒褐色	橙色～黒褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	-	3.3+α	4.2	-	黒斑
20SD001 f 区上層 P-193	第 110 図	177	土師器	台付鉢	石英・長石・赤色粒子	茶白色～明褐色	茶白色～明褐色	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ミガキ後ナデ (一部ケズリ風工具痕)	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ナデ	22.9	17.9+α	-	-	
20SD001 f 区上層 d 区中層	第 110 図	178	土師器	台付鉢	石英・長石・黒色粒子	淡橙茶色	淡橙茶色	ハケメ・ハケメ後ナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ハケメ後ナデ・指オサエ	(20.2)	17.1	11.5	-	
20SD001 f 区上層	第 110 図	179	土師器	台付鉢	石英・長石・赤色粒子・雲母	橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ・工具痕・丁寧なナデ	ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ・ナデ (指オサエ)	-	11.8+α	(12.4)	-	
20SD001 c 区 P-88	第 110 図	180	土師器	台付鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ・ハケメ後ミガキ	(16.4)	11.7+α	-	-	ハケメ (11 本 /cm)・赤色塗彩
20SD001 d 区中層	第 110 図	181	土師器	台付鉢	石英・長石・角閃石・白色粒子	赤色～淡橙色	淡橙色～褐色	ナデ・ヨコナデ・斜めハケメ後ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ	(24.0)	15.7+α	-	-	赤色塗彩
20SD001 d 区中層	第 110 図	182	弥生土器	鉢	石英・長石・雲母・角閃石	口縁部 赤色～茶白色	赤色	工具ナデ・ヨコナデ・ヨコナデ後ミガキ	ヨコナデ・ミガキ・櫛書波状文	(9.5)	11.2+α	-	-	内外面赤色塗彩・外面スス付着
20SD001 f 区上層	第 111 図	183	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	橙色	にぶい黄橙色～褐色	ナデ・ヨコナデ・ミガキ	ナデ・ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ミガキ	10.2	6.2	-	-	ハケメ (不明瞭)
20SD001 a 区中層	第 111 図	184	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	10.0	7.2	-	-	
20SD001 e 区上層 P-217	第 111 図	185	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄橙色	橙色～にぶい黄褐色	ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ	(10.2)	7.0	-	-	黒斑・スス付着
20SD001 f 区上層	第 111 図	186	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	明赤褐色～にぶい黄褐色	明赤褐色～浅黄褐色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ミガキ?・指オサエ	(10.3)	7.2	-	-	黒斑
20SD001 c 区 P-43	第 111 図	187	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・赤色粒子	灰白色	橙色	ナデ・指オサエ	ナデ・指オサエ	(11.0)	7.8	-	-	
20SD001 a 区上層	第 111 図	188	土師器	小型丸底壺	石英・長石・角閃石・赤色粒子	黒褐色	にぶい橙色	ハケメ後ナデ・ナデ	ナデ・ハケメ後ナデ・ハケメ後ミガキ	(10.4)	8.4	-	-	ハケメ (6 本 /cm)
20SD001 c 区 P-57	第 111 図	189	土師器	小型丸底壺	石英・長石・雲母・角閃石・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	摩耗により不明瞭	ナデ・ハケメ	12.8	6.9	-	-	ハケメ (9 本 /cm)

第 35 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 34

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
20SD001 e 区上層	第 111 図	190	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ ・ミガキ・ケズ リ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	11.5	6.6	-	-	ハケメ (8 本 /cm)・ 黒斑
20SD001 f 区 P-174	第 111 図	191	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	灰黄色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ケズリ	12.1	8.2	-	-	ハケメ (10 本 /cm)
20SD001 e 区上層	第 111 図	192	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ミガ キ・ナデ	ヨコナデ・ナ デ	(11.0)	6.6	-	-	
20SD001 e 区上層	第 111 図	193	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ヨコ ナデ後粗いミガ キ・ケズリ後ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ後ヨコナデ	(10.5)	7.7	-	-	ハケメ (9 ~ 11 本 /cm)・黒斑・スス 付着
20SD001 f 区上層	第 111 図	194	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 赤色粒子	橙白色	白茶色	工具ナデ?	粗いナデ	(10.8)	7.1	-	-	全体的に歪な形状
20SD001 e 区上層 P-244	第 111 図	195	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 赤色粒子	橙色	橙色	横方向のハケメ 後縦方向のハケ メ・ミガキ・ナ デ	ヨコナデ・ミ ガキ・ハケメ 後ナデ	12.4	8.4	-	-	ハケメ (15 本 /cm)
20SD001 e 区上層 P-194	第 111 図	196	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナ デ	12.2	6.9	-	-	黒斑
20SD001 f 区上層	第 111 図	197	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	灰白色～褐色	褐色	工具ナデ・ヨコ ナデ	工具ナデ・ヨ コナデ・ハケ メ	12.4	7.2	-	-	ハケメ (13 本 / cm)・黒斑・スス付 着
20SD001 e 区上層	第 111 図	198	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	褐色	褐色	ナデ	ナデ・ミガキ	12.5	7.3	-	-	
20SD001 d 区上層	第 111 図	199	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	赤褐色	にぶい褐色～ 明赤褐色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ケ ズリ後ハケメ ・ミガキ	(12.4)	7.4	-	-	ハケメ (8 ~ 9 本 / cm)・黒斑
20SD001 f 区上層	第 111 図	200	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙茶色	淡橙茶色	(丁寧な) ナデ	(丁寧な) ナデ	(14.4)	8.2	-	-	やや精製品・外面 スス付着
20SD001 f 区上層	第 111 図	201	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	浅黄褐色～褐 灰色	浅黄褐色～褐 灰色	ヨコナデ・ケズ リ後ハケメ後ミ ガキ・ケズリ後 ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ	(13.8)	7.6+a	-	-	内外面黒変
20SD001 d 区上層 P-78・79・84 20SE001 上 層	第 111 図	202	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄褐色	明赤褐色～灰 黄褐色	工具ナデ・ヨコ ナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ナデ	(12.6)	7.3	-	-	ハケメ (7 ~ 14 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 111 図	203	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	茶白色	茶白色	工具ナデ・ヨコ ナデ・丁寧なナ デ	ハケメ後ヨコ ナデ・ケズリ・ ケズリ後ナデ ・ヨコナデ	(11.6)	6.5+a	-	-	外面ケズリ顕著
20SD001 f 区上層	第 111 図	204	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 角閃石	暗褐色～にぶ い褐色	褐色～灰褐色	ミガキ	ナデ・ハケメ ・ハケメ後ミ ガキ	12.1	6.7+a	-	-	
20SD001 f 区上層	第 111 図	205	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	白茶色	白茶色	ナデ後ミガキ・ ヨコナデ・ヨコ ナデ後ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	(13.2)	6.8+a	-	-	全体的に丁寧なナ デ (ミガキ風)
20SD001 f 区上層	第 111 図	206	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 角閃石	赤褐色	赤褐色	ナデ・工具痕・ ケズリ	ケズリ後ナデ	-	7.4+a	-	-	内外面黒斑
20SD001 a 区上層	第 111 図	207	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	摩耗により不明 瞭	摩耗により不明 瞭	(9.0)	4.8+a	-	-	
20SD001 a 区上層	第 111 図	208	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 角閃石	にぶい褐色	にぶい褐色	ナデ・ハケメ	摩耗により不明 瞭	(13.8)	6.5+a	-	-	
20SD001 f 区上層	第 111 図	209	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	褐色	ヨコナデ・工具 ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ ・ハケメ	(11.0)	5.5	-	-	
20SD001 f 区上層	第 111 図	210	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	淡褐色	茶灰色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・ナデ 後ミガキ (放射 状)	ヨコナデ・工 具ナデ (丁寧)	(14.2)	5.0+a	-	-	
20SD001 f 区上層	第 111 図	211	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ヨコナデ・ ハケメ後ミガ キ?	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ケズリ後 ナデ?	(14.6)	5.4+a	-	-	内面ミガキ痕
20SD001 f 区上層	第 111 図	212	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色	褐色～にぶい 黄褐色	ナデ・指オサエ	ナデ・ヨコナ デ・ケズリ・ ケズリ後ナデ	(14.0)	5.9	-	-	
20SD001 e 区上層	第 111 図	213	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・黒 色粒子	灰白色～にぶ い褐色	灰白色～にぶ い褐色	ヨコナデ・ミガ キ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ミガキ	(16.8)	7.9	-	-	ハケメ (8 本 /cm)・ 黒斑
20SD001 c 区上層	第 111 図	214	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	にぶい黄褐色	ミガキ	ハケメ後ナデ ・指オサエ・ ハケメ	(15.7)	6.8	-	-	ハケメ (10 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 111 図	215	土師器	小型丸底鉢	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	にぶい褐色	にぶい褐色～ 褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ	工具ナデ・ハ ケメ後ナデ	17.4	7.5	-	-	口縁部赤色塗彩
20SD001 a 区上層	第 111 図	216	土師器	小形の丸底 鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	褐色	ナデ	ナデ・ケズリ	(12.4)	8.0	-	-	
20SD001 f 区 P-252	第 111 図	217	土師器	小形の丸底 鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナ デ・ハケメ後 ナデ	11.7	7.1	-	-	ハケメ (6 本 /cm)・ 黒斑
20SD001 c 区上層	第 111 図	218	土師器	小形の丸底 鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色	灰黄色	ナデ・ナデ後ミ ガキ	ナデ・ハケメ 後ナデ	20.6	7.5+a	-	-	ハケメ (9 本 /cm)
20SD001 e 区上層	第 111 図	219	土師器	小形の丸底 鉢	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	褐色	褐色～黄灰色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・工具 痕	ハケメ・ヨコ ナデ	(12.0)	7.2	-	-	ハケメ (8 ~ 10 本 /cm)
20SD001 b 区 P-8	第 111 図	220	土師器	小形の丸底 壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	褐色	にぶい黄褐色	ハケメ・ナデ・ ケズリ後ナデ	ハケメ・ミガ キ・ナデ	(12.5)	10.7	-	-	ハケメ (7 本 /cm)
20SD001 e 区上層	第 111 図	221	土師器	小形の丸底 壺	白色粒子・灰 色粒子・赤色 粒子	赤褐色	赤褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナ デ	(12.8)	9.7+a	-	-	煤けて黒みを帯び る
20SD001 c 区 P-41	第 111 図	222	土師器	小形の丸底 壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	灰黄色	ハケメ後ミガキ ・ナデ	ナデ・ミガキ	(12.8)	10.9	-	-	ハケメ (9 本 /cm)

第 36 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 35

遺構名	挿図番号	遺物番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
20SD001 f区上層 P-176	第 112 図	223	土師器	小形の丸底 壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ハケメ・ 指オサエ後ナデ	ハケメ	9.1	11.7	-	11.5	ハケメ (7 本 /cm)
20SD001 a区上層	第 112 図	224	土師器	小形の丸底 壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	橙色	ナデ・指オサエ	ナデ	(10.6)	11.5+ α	-	(12.4)	
20SD001 f区上層 試掘 2 トレ ンチ	第 112 図	225	土師器	小形の丸底 壺	石英・長石	明赤橙色	明赤橙色	ハケメ・ケズリ 後丁寧なナデ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	10.9	11.2+ α	-	-	外面被熱痕著しい
20SD001 b区上層	第 112 図	226	土師器	小形の丸底 壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ハケメ後ナデ・ ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	(9.9)	8.0+ α	-	-	ハケメ (8 本 /cm)
20SD001 b区上層	第 112 図	227	土師器	小形の丸底 壺	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	黄灰色	にぶい橙色	ハケメ	ハケメ	(9.6)	6.9+ α	-	-	ハケメ (10 本 /cm)
20SD001 f区試掘 2 トレ ンチ	第 112 図	228	土師器	小形の丸底 壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・黒 色粒子	橙色～にぶい 褐色	橙色～にぶい 褐色	工具ナデ・ハケ メ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ後ヨコ ナデ	(9.8)	7.7	-	-	ハケメ (8～9 本 / cm)
20SD001 f区上層	第 112 図	229	土師器	小形の丸底 壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	橙色	橙色	ナデ後ミガキ・ ケズリ後ミガキ	ナデ後ミガキ ・ヨコナデ	10.7	7.8	-	-	赤色塗彩
20SD001 e区上層 P-152	第 112 図	230	土師器	小形の丸底 壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	浅黄橙色～橙 色	ナデ・ハケメ・ ハケメ後ヨコナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	(13.7)	9.2	-	-	ハケメ (8～9 本 / cm)・黒斑・スス付 着
20SD001 d区 P-71	第 112 図	231	土師器	小形の丸底 壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ	11.4	9.8	-	12.0	黒斑
20SD001 e区 P-113	第 112 図	232	土師器	小形の丸底 壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	灰黄褐色	灰黄褐色	ヨコナデ・ナデ ・ケズリ	ヨコナデ・ナ デ・ハケメ	11.8	10.0	-	12.2	ハケメ (7 本 /cm)
20SD001 a区 P-9	第 112 図	233	土師器	小形の丸底 壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	浅黄褐色	浅黄褐色	ハケメ	ハケメ後ミガ キ	11.7	10.6	-	-	ハケメ (8 本 /cm)
20SD001 e区上層	第 112 図	234	土師器	小形の丸底 壺	白色粒子・角 閃石・長石・ 赤色粒子・石 英	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 ～赤褐色	ハケメ後ナデ・ ナデ	ハケメ後ナデ ・ハケメ	(14.2)	11.4	-	-	
20SD001 d区上層 P-72	第 112 図	235	土師器	小形の丸底 壺	雲母・角閃石・ 白色粒子・赤 褐色粒子	橙色	橙色	ナデ	ハケメの上か らヨコナデ	-	8.7+ α	-	-	ハケメ (7 本 /cm)
20SD001 d区上層 f区上層	第 112 図	236	土師器	小形の丸底 壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・黒 色粒子	橙色	にぶい橙色～ 褐色	ナデ・ハケメ後 ヨコナデ・ケズ リ・工具痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ・ハケメ 後ヨコナデ	(5.9)	8.7+ α	-	-	ハケメ (10～11 本 /cm)
20SD001 c区 P-56	第 112 図	237	土師器	小形の丸底 壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい橙色	灰黄褐色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(5.2)	6.7+ α	-	-	黒斑
20SD001 e区上層	第 112 図	238	土師器	小形の丸底 壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	茶灰色	茶灰色	工具ナデ・ヨコ ナデ・ハケメ・ ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	(9.0)	9.3+ α	-	-	外面黒斑・スス付 着・粗い器形調整
20SD001 e区 P-148	第 112 図	239	土師器	直口壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	12.0	15.0	-	14.6	ハケメ (9 本 /cm)・ 黒斑
20SD001 e区上層	第 112 図	240	土師器	直口壺	雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ後 ヨコナデ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	12.5	16.3	-	-	ハケメ (4～13 本 /cm)・黒斑
20SD001 d区 P-68	第 112 図	241	土師器	直口壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ナデ後ミガキ・ ナデ	ナデ	13.1	18.3	-	-	
20SD001 a区 P-20	第 112 図	242	土師器	直口壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄橙色	褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ミガキ・ナ デ	ヨコナデ・ミ ガキ・ハケメ 後ミガキ	13.5	21.7	-	16.9	ハケメ (7 本 /cm)
20SD001 f区 P-173	第 112 図	243	土師器	直口壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	褐色	褐色	ナデ・ハケメ	ハケメ・指オ サエ	11.4	20.8	-	-	ハケメ (10 本 / cm)・底部穿孔
20SD001 f区上層	第 112 図	244	土師器	直口壺	石英・長石・ 赤色粒子	淡茶褐色	淡茶褐色	ハケメ・ナデ・ ケズリ後ナデ・ ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	19.6	32.4+ α	-	-	外面部分的スス付 着・口縁部打ち欠 き痕・内面単位不 明瞭
20SD001 d区上層	第 112 図	245	土師器	直口壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色	褐色～黒色	ハケメ後ナデ・ 指オサエ後ナデ ・ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ・ 指オサエ・指 オサエ後ナデ	(11.0)	17.2+ α	-	-	黒変・接合痕
20SD001 f区上層	第 113 図	246	土師器	直口壺	長石・角閃石・ 雲母・赤色粒 子・白色粒子	浅黄褐色	明褐色～明 褐色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナ デ	(11.2)	8.95+ α	-	-	
20SD001 d区上層 P-62	第 113 図	247	土師器	直口壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	褐色	浅黄褐色～橙 色	ナデ・ケズリ・ 指オサエ	ハケメ後ナデ	-	13.7+ α	-	-	ハケメ (不明瞭)
20SD001 a区中層	第 113 図	248	土師器	直口壺	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	明赤褐色	明赤褐色	指オサエ・ケズ リ後ナデ	ハケメ	-	13.3+ α	-	-	ハケメ (9 本 /cm)
20SD001 e区 P-132	第 113 図	249	土師器	壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	灰黄色	灰黄色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	12.6	17.1	-	14.8	
20SD001 d区 P-108	第 113 図	250	土師器	壺	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ	ハケメ後ナデ ・ハケメ・ナ デ	(11.9)	18.1	-	14.6	ハケメ (6 本 /cm)
20SD001 e区上層	第 113 図	251	土師器	壺	角閃石・石英・ 雲母・白色粒 子・赤色粒子	褐色	褐色～明赤褐 色	ヨコナデ・ケズ リ	ナデ・ハケメ 後ナデ	(13.0)	23.7	-	-	
20SD001 f-e区上層	第 113 図	252	土師器	壺	角閃石・石英・ 雲母・赤色粒 子・白色粒子	褐色	褐色	ハケメ後ナデ・ ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	(14.3)	10.9+ α	-	-	
20SD001 f区上層・下 層	第 113 図	253	土師器	壺	石英・長石・ 角閃石・灰色 粒子	白茶色	白茶色	ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナ デ・工具痕	(12.5)	22.2+ α	-	-	突帯
20SD001 d区上層 P-79	第 113 図	254	土師器	壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	赤色～褐色	赤色～淡褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ミガ キ・ケズリ後ミ ガキ・指オサエ	工具ナデ・ヨ コナデ後ミガ キ・ハケメ後 ミガキ	(15.0)	17.1+ α	-	-	突帯

第 37 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 36

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
20SD001 e 区上層	第 113 図	255	土師器	壺	石英・長石・ 赤色粒子	淡橙色	淡橙色	ヨコナデ・ハケ メ・ハケメ後ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ	(12.8)	22.3+a	-	-	口縁端部打ち欠き
20SD001 e 区上層	第 113 図	256	土師器	壺	角閃石・石英・ 白色粒子・赤 色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ナ デ	ナデ・指オサ エ	(13.4)	18.0+a	-	-	外面摩滅の為調整 不明瞭
20SD001 f 区上層	第 114 図	257	土師器	壺	長石・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色～暗赤褐 色	橙色～にぶい 褐色～にぶい 褐色	ナデ・横方向の ハケメ・斜めハ ケメ・ケズリ後 ナデ・指オサエ	ナデ・ナデミ ガキ?・縦方向 のハケメ・縦 ～斜めハケメ	13.6	37.0	-	-	ハケメ内 (4 本 / cm)(6 ～ 7 本 /cm) 外 (4 ～ 5 本 /cm)
20SD001 f 区上層 P-207	第 114 図	258	土師器	壺	長石・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	明赤褐色～赤 褐色	明赤褐色～橙 色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ミガ キ・ケズリ後ナ デ・指オサエ	ナデ・縦方向 のハケメ後ナ デ・斜めハケ メ	(14.5)	35.2	-	-	ハケメ外 (4 ～ 5 本 /cm)(8 本 /cm)・内 外面黒変
20SD001 d 区 P-92	第 114 図	259	土師器	壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ハケメ・ハケメ 後ナデ・指オサ エ	ハケメ・ハケ メ後ミガキ	(13.8)	33.8	-	23.5	ハケメ (6 本 /cm)
20SD001 c 区中層 P-49	第 114 図	260	土師器	壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄褐色	橙色	ハケメ後ナデ・ 指オサエ・ナデ	ハケメ後ナデ ・ハケメ	14.4	32.4	-	(22.0)	ハケメ (6 本 /cm)・ スス付着
20SD001 a 区中層・ 下層	第 114 図	261	土師器	壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	にぶい橙色	ナデ・指オサエ ・ハケメ	ナデ・ハケメ	(14.2)	15.4+a	-	-	ハケメ (7 本 /cm)
20SD001 e 区 P-160	第 114 図	262	土師器	壺	角閃石・石英・ 雲母・赤色粒 子・白色粒子	灰黄色	灰黄色～灰白 色	ヨコナデ・ナデ ・ハケメ後ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ケズリ	(15.2)	13.2+a	-	-	
20SD001 c 区上層	第 114 図	263	土師器	壺	石英・長石・ 雲母	にぶい橙色	にぶい褐色	ハケメ・ハケメ 後ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ	(11.9)	6.3+a	-	-	ハケメ (11 本 /cm)
20SD001 a 区下層	第 115 図	264	土師器	壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	明赤褐色	灰白色～明赤 褐色	ヨコナデ後ミガ キ・ハケメ後ケ ズリ・指オサエ	ナデ・ヨコナ デ後ミガキ・ ハケメ後ミガ キ	13.0	31.0	-	-	
20SD001 f 区上層	第 115 図	265	土師器	壺	石英・長石・ 赤色粒子	淡橙褐色	淡橙褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ヨコナデ・ 指オサエ・斜め ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ・斜めハ ケメ	(15.0)	29.5	-	-	
20SD001 f 区上層 e 区 P-183	第 115 図	266	土師器	壺	白色粒子・赤 色粒子	淡黒茶白色	淡黒茶白色	ヨコナデ・ナデ ・指オサエ・ケ ズリ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	(16.9)	21.0+a	-	-	部分的スス付着
20SD001 e 区上層	第 115 図	267	土師器	甕	角閃石・石英・ 雲母・赤色粒 子・白色粒子	浅黄色	にぶい橙色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ナ デ	ハケメ後ヨコ ナデ・ハケメ	15.5	11.1+a	-	-	
20SD001 a 区上層・ 中層	第 115 図	268	土師器	壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	灰黄色	にぶい黄褐色	ハケメ・ナデ・ 指オサエ・ナデ	ハケメ後ナデ ・ハケメ	(17.9)	36.8	-	27.3	ハケメ (7 本 /cm)(8 本 /cm) 頸部突帯
20SD001 a 区中層・ 下層	第 115 図	269	土師器	壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	20.9	35.3	-	(26.4)	ハケメ (8 本 /cm) 頸部突帯
20SD001 e 区上層 P-160・166 f 区上層	第 116 図	270	土師器	壺	石英・長石	淡白茶色	淡白茶色	ナデ・ハケメ・ ハケメ後ナデ・ ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ・指オ サエ	(24.0)	41.9	-	-	頸部突帯・口縁部 波状文風のハケメ
20SD001 d 区中層	第 116 図	271	土師器	壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ後ナデ ・指オサエ	ナデ・ヨコナ デ・縦～斜め ハケメ・ミガ キ	16.8	38.6	-	-	
20SD001 f 区上層	第 116 図	272	土師器	壺	角閃石・長石・ 雲母・白色粒 子・赤色粒子	橙色	にぶい橙色	ハケメ・ハケメ 後ナデ	ハケメ	-	34.5+a	-	-	
20SD001 f 区上層 e 区下層	第 116 図	273	土師器	壺	石英・長石・ 角閃石・赤褐 色粒子	橙白色	橙白色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	16.0	34.3	-	-	口縁部 3 箇所打ち 欠き
20SD001 f 区上層	第 116 図	274	土師器	壺	石英・雲母・ 白色粒子・黒 色粒子	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ一部 ハケメ痕・ハ ケメ	(16.2)	8.7+a	-	-	ハケメ (15 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 116 図	275	土師器	壺	石英・赤褐色 粒子・白色粒 子・黒色粒子	黒褐色～褐色	黒褐色～褐色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ミガキ	14.6	9.5+a	-	-	ハケメ (8 本 /cm) (10 本 /cm)
20SD001 b 区上層 P-172 e 区	第 117 図	276	土師器	壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ハケメ後ナデ・ ハケメ・指オサ エ	ナデ・ハケメ	(18.3)	58.2	-	(34.1)	突帯・ハケメ (6 本 /cm)(7 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 117 図	277	土師器	甕	角閃石・白色 粒子・長石・ 石英	明赤褐色～灰 褐色	赤褐色～灰褐 色	ハケメ後ナデ・ ハケメ後指オサ エ・ハケメ後ケ ズリ	ハケメ後ヨコ ナデ・ハケメ 後ナデ	(13.2)	17.6+a	-	-	
20SD001 f 区上層	第 117 図	278	土師器	壺	長石・角閃石・ 白色粒子	にぶい黄褐色 ～褐色	明褐色～にぶ い黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ナ デ・ハケメ後 ナデ	15.8	22.6+a	-	-	
20SD001 e 区上層	第 117 図	279	土師器	壺	長石・角閃石・ 白色粒子	橙色	橙色	ナデ・斜めハケ メ・指オサエ	ナデ・縦方向 のハケメ・斜 めハケメ・ミ ガキ	16.2	17.7+a	-	-	ハケメ内 (4 ～ 5 本 /cm)(8 本 /cm) 外 (7 本 /cm)(8 本 /cm)・ 口縁部斜突文 (2 箇所)
20SD001 f 区上層	第 117 図	280	土師器	壺	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子・黒色粒子	茶白色	茶白色	ナデ・ハケメ・ ハケメ後ヨコナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ・ 縦方向のハケ メ・斜めハケ メ・横方向の ハケメ	15.3	13.8+a	-	-	内外面赤色塗彩・ 同時期 (やや古相) のタタキ調整を意 識か
20SD001 f 区上層	第 117 図	281	土師器	壺	石英・長石・ 赤褐色粒子	淡橙色	淡橙色	ヨコナデ・ナデ ・ハケメ・ハケ メ後ナデ・指オ サエ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ?・やや粗 いナデ・ハケ 目	(18.0)	37.5	-	-	
20SD001 f 区上層 e 区上層	第 117 図	282	土師器	壺		橙色	橙色	ヨコナデ・斜め ハケメ・指オサ エ・ナデ・ケズ リ後ナデ	ヨコナデ・縦 方向のハケメ ・縦～斜めハ ケメ・ナデ・ ミガキ?	15.6	35.5	-	-	ハケメ (5 ～ 6 本 / cm)(9 本 /cm)(9 ～ 10 本 /cm)・外面ス ス付着
20SD001 e 区 P-133	第 118 図	283	土師器	壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	にぶい黄褐色	ナデ・ケズリ後 ナデ・指オサエ ・ナデ	ハケメ後ナデ ・ハケメ	17.6	33.9	-	27.2	ハケメ (6 本 /cm)(7 本 /cm)

第 38 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 37

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
20SD001 d 区中層	第 118 図	284	土師器	壺	石英・長石・ 雲母	淡橙白色	淡橙白色	ナデ・ヨコナデ・ ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ・ ケズリ後ナデ・ 指オサエ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ナデ	(16.0)	33.9	-	-	外面赤色塗彩か
20SD001 e 区上層 P-136	第 118 図	285	土師器	壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい褐色	橙色	ナデ・指オサエ 後ハケメ・ケス リ	ナデ・ハケメ	18.2	30.0+α	-	31.5	ハケメ (12 本 /cm)
20SD001 d 区中層	第 118 図	286	土師器	壺	石英・長石・ 雲母・角閃石	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ後ヨコナデ	ハケメ	(17.6)	27.5+α	-	-	ハケメ (10 本 /cm)
20SD001 e 区 P-124 e 区上層 23SD001-0 上層	第 119 図	287	土師器	複合口縁壺	角閃石・赤色 粘土・石英・ 長石・白色粒 子	にぶい橙～浅 黄色	浅黄色	ヨコナデ・ナデ ・ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ (磨滅)・櫛描 波状文	20.2	65.7	-	-	黒斑・突帯
20SD001 d 区上層	第 119 図	288	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙白色	橙白色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・櫛 描波状文・ハ ケメ後ヨコナ デ	(34.6)	10.2+α	-	-	複合口縁部外面ス ス付着
20SD001 f 区上層 23SD001-0 中層・上層	第 120 図	289	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粘土・白色粒 子	明赤褐色～橙 色	明赤褐色～浅 黄褐色	ヨコナデ・指オ サエ・ハケメ・ ナデ・ハケメ ケズリ後ナデ・ ミガキ・ケズリ	櫛描波状文・ 斜めハケメ・ キザミ・縦～ 斜めハケメ	15.2	44.7	-	-	ハケメ (6 本 /cm)(7 本 /cm)・三角突帯
20SD001 f 区上層	第 120 図	290	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粘土・白色粒 子	明赤褐色	明赤褐色～橙 色	ヨコナデ・指オ サエ・斜めハケ メ・ナデ・横方向 のハケメ・ハケ メ後ナデ	櫛描波状文・ ナデ・縦方向 のハケメ・斜 めハケメ後ナ デ	19.7	38.6+α	-	-	ハケメ (5 本 /cm)・ 突帯貼付
20SD001 f 区上層	第 120 図	291	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 赤色粒子	淡茶灰色	淡茶灰色	ナデ・ハケメ・ ハケメ後ナデ・ 指オサエ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ後ヨコ ナデ・ハケメ 後ミガキ・波 状文・ハケメ ・指オサエ	17.7	41.8	-	-	突帯
20SD001 d 区中層 b 区 P-24	第 120 図	292	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい橙色	橙色	ハケメ後ナデ・ 指オサエ・ハケ メ・ナデ	ハケメ後ミガ キ・ハケメ後 ナデ・櫛描波 状文	(14.6)	39.0	-	25.7	ハケメ (7～9 本 / cm)・突帯
20SD001 f 区上層	第 121 図	293	土師器	複合口縁壺	長石・角閃石・ 赤色粒子	橙色～にぶい 橙色	橙色～にぶい 橙色	ナデ?・指オサ エ?・ケズリ	ナデ?・指オサ エ?・ケズリ?・ 櫛描波状文	18.2	44.0	-	-	突帯貼付か
20SD001 e 区 P-160	第 121 図	294	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 角閃石・白色 粘土	橙色～にぶい 橙色	黄褐色～にぶ い橙色	ナデ・ハケメ (ハケメ後ナ デ?)・指オサ エ・縦方向のハ ケメ	櫛描波状文・ 斜め～縦方向 のハケメナデ ・縦方向のハ ケメ後ナデ	16.2	50.0	-	-	ハケメ (10 本 / cm)・打ち欠き・突 帯
20SD001 e 区上層	第 121 図	295	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粘土・白色粒 子	橙色	橙色～灰白色	ハケメ・ハケメ 後ナデ・指オサ エ後ハケメ後 ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・櫛描波 状文	16.2	31.2+α	-	-	ハケメ (6～8 本 / cm)・頸部突帯 (一 条)
20SD001 d 区上層 P-74	第 121 図	296	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粘土・白 色粒子	橙色～にぶい 黄褐色	橙色～灰白色	ナデ・ハケメ・ ハケメ後ナデ・ 指オサエ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ ・ハケメ後波 状文	18.4	21.9+α	-	-	ハケメ (6～8 本 / cm)・黒斑・貼付突 帯
20SD001 f 区上層 P-177	第 121 図	297	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・ 白色粒子	灰黄色	灰黄色	横方向のハケ メ	ハケメ・櫛描 波状文	18.6	12.9+α	-	-	ハケメ口縁部 (7 本 /cm) 体部 (12 本 / cm)・頸部突帯貼 付
20SD001 e 区上層	第 121 図	298	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粘土・白 色粒子	灰色	橙色	ナデ・ハケメ後 ナデ・ハケメ後 ミガキ・指オサ エ	ナデ・ハケメ後 ナデ・ハケメ後 ミガキ・ミガキ・ 指オサエ	13.7	18.5+α	-	-	ハケメ内 (6～7 本 /cm)・突帯
20SD001 f 区上層	第 122 図	299	土師器	複合口縁壺	長石・角閃石・ 白色粘土・石 子	浅黄褐色～明 褐色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・ミガキ?・ハ ケメ後ナデ?・ 指オサエ	ナデ?・ミガキ? ケズリ後丁寧 なナデ (ミガ キ?)・櫛描波 状文	13.4	33.7	-	-	黒変
20SD001 f 区上層 P-195	第 122 図	300	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 赤褐色粒子	淡白茶色	淡白茶色	ヨコナデ・ハケ メ・ハケメ後部 分的にナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ・ 波状文	(18.4)	30.2+α	-	-	
20SD001 e 区上層	第 122 図	301	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 赤色粒子	白茶色	橙色	ハケメ・ナデ・ ハケメ後丁寧 なナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	16.8	34.8+α	-	-	
20SD001 e 区上層 P-83 d 区上層	第 122 図	302	土師器	複合口縁壺	長石・角閃石・ 赤色粘土・白 色粒子			ヨコナデ・横方 向のハケメ・ナ デ・横～斜めハ ケメ・指オサエ	ヨコナデ・斜 めハケメ・ナ デ	-	52.5+α	-	-	ハケメ (4 本 /cm)(5 本 /cm)(7 本 /cm)(8 本 /cm)・外面スス 付着
20SD001 f 区 P-199	第 123 図	303	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粘土	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・指オサエ ・ケズリ	ナデ・ハケメ	12.1	25.9	-	20.5	ハケメ (6 本 /cm)
20SD001 a 区中層	第 123 図	304	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい黄褐色	橙色	ナデ・指オサエ 後ナデ・工具ナ デ・ケズリ	ナデ・ハケメ	-	32.8+α	-	28.5	ハケメ (9 本 /cm)
20SD001 試掘 2 トレ ンチ	第 123 図	305	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 雲母	茶灰色	茶灰色	ヨコナデ・横方 向のケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	(14.5)	16.3+α	-	-	
20SD001 e 区上層 P-96	第 123 図	306	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 角閃石			ヨコナデ・横方 向のケズリ	ヨコナデ・ナ デ部ハケメ・ ハケメ	(20.4)	48.2+α	-	-	
20SD001 d 区中層	第 123 図	307	土師器	二重口縁壺 か	石英・雲母・ 角閃石・白色 粘土	明黄褐色	明黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ	ナデ・口縁上 半ヨコナデ・ 下半ハケメ	15.1	8.1+α	-	-	ハケメ (10 本 /cm) (13 本 /cm)・黒斑
20SD001 f 区上層	第 123 図	308	土師器	二重口縁壺 か	石英・雲母・ 角閃石・白色 粘土	明赤褐色～淡 赤褐色	明赤褐色～淡 赤褐色	ハケメ後ヨコナ デ	上半斜めハケ メ・中位ヨコ ナデ・下半縦 方向のハケメ	20.2	9.3+α	-	-	ハケメ (11 本 / cm)・黒斑
20SD001 c 区 P-55	第 124 図	309	土師器	小形二重口 縁壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	明赤褐色	ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ 後ミガキ	10.0	9.8	-	-	ハケメ (8 本 /cm)・ 赤色塗彩

第 39 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 38

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
20SD001 d 区上層・ 中層 d 区下層 P-91	第 124 図	310	土師器	二重口縁壺	石英・角閃石・ 赤色粒子	浅黄橙色～明 黄褐色	明黄褐色	ナデ・ケズリ後 ナデ・指オサエ	ナデ・斜めハ ケメ後ナデ・ ミガキ	(18.8)	32.8	-	-	黒変あり・突帯
20SD001 f 区上層 P-182・195	第 124 図	311	土師器	二重口縁壺	石英・長石・ 黒色粒子・赤 褐色粒子	淡橙茶色	淡橙茶色	ヨコナデ・ハケ メ後ヨコナデ・ ナデ・ハケメ・ ハケメ後ケズ リ?	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ナデ	(21.4)	30.9+a	-	-	畿内系か
20SD001 e 区上層	第 124 図	312	土師器	二重口縁壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	浅黄橙色～橙 色	浅黄橙色～橙 色	ハケメ・ハケメ 後ミガキ・ハ ケメ後ミガキ・ ケズリ後ミガキ ・指オサエ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ後ミガキ・ ハケメ後ナデ	16.6	21.3+a	-	-	口縁部 4 箇所打ち 欠き
20SD001 d 区上層・ 上層 P-64	第 124 図	313	土師器	二重口縁壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	浅黄褐色	浅黄褐色	ハケメ・ハケメ 後ミガキ・ミガ キ・ケズリ後ミ ガキ・指オサエ 後ナデ	ハケメ後ナデ ・ハケメ後ヨ コナデ・ケズ リ	-	32.7+a	-	-	ハケメ (6～8 本 /cm)(8～13 本/ cm)・黒変・打ち欠 き
20SD001 d 区上層 P-204	第 124 図	314	土師器	二重口縁壺	角閃石・長石・ 白色粒子・赤 色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色～ 明赤褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	18.3	12.5+a	-	-	
20SD001 d 区 P-26	第 124 図	315	土師器	二重口縁壺	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・指オサエ ・ハケメ	ハケメ後ナデ	(18.0)	15.9+a	-	-	ハケメ (5 本 /cm)
20SD001 b 区上層・ 中層 P-39	第 124 図	316	土師器	二重口縁壺 口縁部	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色	ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ミ ガキ	19.4	6.8+a	-	-	
20SD001 e 区上層	第 124 図	317	土師器	二重口縁壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	浅黄褐色	ナデ後ミガキ・ ハケメ後ナデ・ ハケメ後ナデ・ ハケメ後ミガ キ・指オサエ 後ナデ	ナデ後ミガキ ・ハケメ後ナ デ後ミガキ	-	23.4+a	-	20.6	ハケメ (6～8 本 / cm)・接合痕
20SD001 f 区上層 P-203・204	第 125 図	318	弥生土器	複合口縁壺	石英・長石・ 赤色粒子・角 閃石	淡橙茶色	淡橙茶色	ヨコナデ・ハケ メ後ヨコナデ・ ナデ・ハケメ後 ナデ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	(19.8)	27.4+a	-	-	突帯・外面赤色塗 彩
20SD001 c 区上層	第 125 図	319	弥生土器	長頸壺	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	橙色	赤色	ナデ	ハケメ後ミガ キ	-	12.0+a	-	-	M 字形貼付突帯
20SD001 c 区下層	第 125 図	320	弥生土器	大壺底部	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	灰白色	にぶい橙色	ナデ・指オサエ	ナデ・指オサ エ	-	11.0+a	9.7	-	
20SD001 c 区 P-46・47	第 126 図	321	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	橙色	ハケメ後ミガキ ・ケズリ	ナデ・ハケメ 後ミガキ	16.3	28.3	-	20.6	ハケメ (5 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 126 図	322	土師器	甕	石英・長石・ 赤褐色粒子・ 角閃石			ナデ・ヨコナデ ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ナデ後ハ ケメ	(21.8)	34.4	-	25.0	胴部中央スス付着
20SD001 f 区上層	第 126 図	323	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	赤褐色～黒色	明赤褐色～に ぶい褐色	指頭痕・ケズリ 後粗いミガキ	ナデ・ハケメ 後ミガキ	21.8	35.6	-	26.2	ハケメ (4～6 本 /cm)(8～10 本 / cm)(9～12/cm)・ 一部黒変
20SD001 b 区上層 P-10	第 126 図	324	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい褐色	にぶい褐色～ 褐灰色	工具ナデ・ナデ 後ハケメ・ヨコ ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・タタキ後 ハケメ・タタ キ後ナデ	(18.8)	29.5+a	-	22.6	ハケメ (9～10 本 /cm)・スス付着
20SD001 a 区上層	第 126 図	325	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ハケメ後ナデ・ ハケメ・指オサ エ・ナデ	ハケメ・ナデ	(16.8)	28.3	-	21.5	ハケメ (6 本 /cm)
20SD001 b 区中層 P-37・38・39	第 126 図	326	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	暗褐色	黒褐色	ナデ・ケズリ後 ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	18.6	28.5	-	21.9	ハケメ (7 本 /cm)・ スス付着
20SD001 e 区上層・ 下層	第 127 図	327	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ミ ガキ	ハケメ・ハケ メ後ナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ	18.6	28.9	-	23.0	ハケメ (7～11 本 /cm)・黒斑
20SD001 e 区 P-241	第 127 図	328	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ後 ミガキ・ケズリ 後ナデ	ナデ・ハケメ ・ハケメ後ナ デ	29.8	17.8	-	23.8	ハケメ (12 本 /cm)
20SD001 f 区上層 P-205	第 127 図	329	土師器	甕	石英・長石・ 赤色粒子	白褐色	白褐色	ヨコナデ・ナデ ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ナ デ後ハケメ・ ハケメ	21.2	28.9+a	-	26.4	内外面スス付着
20SD001 d 区中層・ 下層	第 127 図	330	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色～明赤褐 色	橙色～浅黄橙 色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ	ナデ・ヨコナ デ・ケズリ	(17.9)	28.3+a	-	20.0	黒斑
20SD001 f 区下層	第 127 図	331	土師器	甕	石英・長石・ 黒色粒子	白茶色	白茶色	ヨコナデ・指頭 痕・ナデ	ヨコナデ・ナ デ	19.7	18.2+a	-	-	
20SD001 d 区上層・ 下層	第 127 図	332	土師器	甕	石英・長石・ 赤色粒子・灰 色粒子	橙白色	橙白色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ	ナデ・ヨコナ デ	(23.9)	17.4+a	-	-	
20SD001 f 区上層	第 128 図	333	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色～灰褐色	明赤褐色～に ぶい褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ミガキ・ケ ズリ後ミガキ・ 指オサエ後ナ デ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	(18.3)	30.8+a	-	20.9	ハケメ (5～7 本 / cm)(10～12 本 / cm)・内面黒変
20SD001 f 区上層 P-181・189	第 128 図	334	土師器	甕	石英・長石・ 黒色粒子・赤 色粒子	白茶色	白茶色	ヨコナデ・ナデ ・ハケメ後ケズ リ風ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ナデ	21.2	35.8	-	24.2	内外面スス付着
20SD001 f 区上層	第 128 図	335	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	白褐色	白褐色	ヨコナデ・ナデ (一部ケズリ風) ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ナデ	21.3	36.2+a	-	25.8	内外面スス付着
20SD001 e 区 P-238	第 128 図	336	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	黄褐色	橙色	ナデ・ハケメ後 ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	(19.0)	30.6	-	22.9	ハケメ (6 本 /cm)・ スス付着
20SD001 e 区上層	第 128 図	337	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	橙色～明赤褐 色	橙色～にぶい 褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	(18.0)	29.2	-	23.2	ハケメ (10～13 本 /cm)・スス付着 ・赤変

第 40 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 39

遺構名	挿図番号	遺物番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴径/ 重さ	
20SD001 b区 P-18	第 128 図	338	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄橙色	褐灰色	ハケメ後ナデ・ 指オサエ・ケズ リ後ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ	(19.5)	18.1+α	-	(21.2)	ハケメ (8 本 /cm)
20SD001 f区上層 P-200	第 129 図	339	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ後 ナデ	ナデ・ハケメ	15.3	28.9+α	-	21.1	ハケメ (5 本 /cm)
20SD001 e区上層 P-93	第 129 図	340	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	灰黄色	にぶい橙色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ後ミ ガキ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	(15.7)	28.4	-	22.0	ハケメ (9 ~ 11 本 /cm)・スス付着
20SD001 a区中層	第 129 図	341	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい褐色	橙色	ハケメ後ナデ・ ケズリ	ナデ・ハケメ	19.2	30.3	-	24.2	ハケメ (9 本 /cm)
20SD001 f区上層 P-242	第 129 図	342	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	白橙色	白橙色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ	(15.3)	28.4+α	-	19.8	胴部中位スス付着
20SD001 e区上層 P-242	第 129 図	343	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい橙色～ 褐灰色	にぶい橙色	ハケメ後ナデ・ 後ミガキ・ハケ メ後ヨコナデ	ハケメ・ハケ メ後ナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ	18.3	31.5	-	23.6	ハケメ (6 ~ 8 本 / cm)・黒斑
20SD001 d区 P-63	第 129 図	344	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・指オサエ ・ハケメ後ミガ キ・ミガキ	ナデ・ハケメ	15.9	28.9	-	22.1	ハケメ (6 本 /cm)
20SD001 f区上層	第 130 図	345	土師器	甕	長石・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	灰白色～黒褐 色	明赤褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・ハ ケメ後ミガキ・ ミガキ・指 頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	16.8	32.6	-	21.6	ハケメ外 (7 本 / cm)
20SD001 f区 P-230	第 130 図	346	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ後 ミガキ	ナデ・ハケメ	16.2	34.2	-	22.7	ハケメ (7 本 /cm)
20SD001 f区 P-251	第 130 図	347	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい黄褐色	橙色	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	16.0	29.7	-	20.7	ハケメ (9 本 /cm)・ スス付着
20SD001 f区上層 P-185	第 130 図	348	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	灰白色～灰褐 色	橙色～浅黄橙 色	ヨコナデ・ハケ メ後ミガキ・ケ ズリ後ミガキ・ 指オサエ後ナ デ	ハケメ後ナデ ・ハケメ後ヨ コナデ・ケズ リ	(16.4)	29.4	-	20.2	ハケメ (6 ~ 8 本 / cm)・黒変
20SD001 f区上層	第 130 図	349	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	白橙色	白橙色	ヨコナデ・ハケ メ後ヨコナデ・ ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	18.4	28.0+α	-	24.0	胴部下半スス付着
20SD001 e区上層 P-139	第 131 図	350	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	淡橙色	浅黄褐色	ヨコナデ・ケズ リ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	(18.7)	29.1	-	23.6	ハケメ (不明瞭)・ 黒斑
20SD001 f区上層	第 131 図	351	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい橙色	淡黄色	ハケメ・ハケメ 後ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ケズリ	20.9	32.6	-	26.6	ハケメ (7 本 /cm) (10 ~ 12 本 /cm)
20SD001 a区上層	第 131 図	352	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	にぶい黄褐色	ハケメ後ナデ	ナデ・ハケメ	17.0	25.0+α	-	(21.5)	ハケメ (6 本 /cm)・ スス付着
20SD001 c区上層	第 131 図	353	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	橙色	橙色	ナデ・指オサエ ・ハケメ・ケズ リ後ナデ・ケズ リ	ナデ・ハケメ 後ナデ	18.6	25.0+α	-	23.7	ハケメ (9 本 /cm)
20SD001 d区上層・ 中層	第 131 図	354	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ミ ガキ・ケズリ 後ミガキ?	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	19.6	26.0+α	-	23.8	ハケメ (7 ~ 12 本 /cm)
20SD001 e区上層 P-168	第 131 図	355	土師器	甕	石英・長石	白茶色	白茶色	ハケメ・ハケメ 後ヨコナデ・ケ ズリ・ケズリ後 ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	(18.8)	24.2+α	-	25.4	外面スス付着
20SD001 e区上層	第 132 図	356	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・黒 色粒子	明赤褐色～橙 色	橙色～灰白色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ミ ガキ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	(20.0)	20.8+α	-	-	ハケメ (7 ~ 12 本 /cm)・黒斑・スス 付着
20SD001 f区上層	第 132 図	357	土師器	甕	角閃石・長石・ 雲母・赤色粒 子・白色粒子	にぶい橙色～ 褐色	にぶい黄褐色 ～にぶい褐色	ヨコナデ・ハケ メミガキ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	(16.9)	19.1+α	-	-	スス付着
20SD001 d区上層 P-78 d区中層	第 132 図	358	土師器	甕	長石・雲母・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	にぶい褐色	にぶい褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	(19.5)	29.6	-	25.2	ハケメ (9 ~ 11 本 /cm)・黒斑
20SD001 f区上層	第 132 図	359	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	浅黄褐色	黄褐色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	19.6	28.8	-	25.7	ハケメ (9 本 /cm)・ 口縁底部黒変
20SD001 e区上層 P-96	第 132 図	360	土師器	甕	角閃石・白色 粒子・石英・ 赤色粒子	赤褐色～褐灰 色	にぶい黄褐色 ～黒色	ヨコナデ・ハケ メ・ハケメ後ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	(19.1)	35.2+α	-	28.1	黒斑・スス付着
20SD001 f区上層 P-195・196	第 132 図	361	土師器	甕	石英・白色粒 子・灰色粒子	褐色	浅黄褐色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	26.0	34.5	-	29.6	ハケメ (3 本 /cm)(5 本 /cm)
20SD001 d区上層 P-88	第 133 図	362	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色～にぶい 赤褐色	にぶい褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ミガキ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	18.5	28.5+α	-	23.0	ハケメ (7 ~ 8 本 / cm)・黒斑・スス付 着
20SD001 f区上層	第 133 図	363	土師器	甕	石英・長石・ 赤色粒子・角 閃石	淡褐色	淡褐色	ヨコナデ・ハケ メ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	17.7	20.9+α	-	24.4	体部中位～下位ス ス付着
20SD001 f区上層	第 133 図	364	土師器	甕	白色粒子・角 閃石・雲母・ 長石	褐色	褐色～黒色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・ハケ メ後ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	(19.8)	18.4+α	-	-	黒斑
20SD001 b区 P-24	第 133 図	365	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄褐色	にぶい褐色	ナデ・ヘラによ るナデ・指オサ エ	ナデ・ハケメ	(15.1)	14.0+α	-	-	ハケメ (9 本 /cm)
20SD001 d区上層	第 133 図	366	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色	にぶい褐色～ 褐色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ	17.1	18.7+α	-	-	ハケメ (9 ~ 12 本 /cm)・黒斑
20SD001 c区中層	第 134 図	367	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい褐色	褐色	ヨコナデ・指オ サエ・ケズリ後 ナデ	ヨコナデ・ナ デ	(21.0)	11.8+α	-	-	突帯貼付

第 41 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 40

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
20SD001 d 区中層	第 134 図	368	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色～浅黄橙 色	橙色～浅黄橙 色	ナデ後ミガキ・ ミガキ	ヨコナデ・ヨ コナデ後ミガ キ・ミガキ	(22.4)	18.9+ α	-	-	突帯貼付
20SD001 f 区上層	第 134 図	369	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・黒色粒 子	白茶色	白茶色	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケム後ナデ	22.5	27.7+ α	-	-	突帯貼付
20SD001 d 区上層 中層・下層 P-91	第 134 図	370	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・白色 粒子	浅黄橙色～橙 色	浅黄橙色～橙 色	ナデ	ナデ?	21.2	21.3+ α	-	-	突帯貼付
20SD001 f 区上層	第 134 図	371	土師器	甕	石英・長石・ 赤褐色粒子・ 黒色粒子	白茶色	白茶色	ヨコナデ・ナデ	ハケム後ヨコ ナデ・ハケム ・ハケム後ナ デ	24.3	36.6	-	-	突帯貼付・外面ス ス付着
20SD001 f 区上層	第 134 図	372	土師器	甕	長石・角閃石・ 白色粒子	浅黄橙色～明 褐色～灰色～橙 色	浅黄橙色～に ぶい橙色～橙 色	ハケム後ナデ・ ナデ・ハケム後 ミガキ・ナデ後 ミガキ	ハケム	24.6	41.9	-	-	ハケム(5本/cm)(5 ～6本/cm)(7本/ cm)(11～12本/ cm)・内外面スス付 着・突帯貼付
20SD001 e 区 P-254	第 134 図	373	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ハケム・ミガキ	ハケム後ナデ・ ハケム・ナ デ	24.2	37.6	-	-	ハケム(6～9本/ cm)・突帯貼付
20SD001 e 区上層	第 134 図	374	土師器	甕	角閃石・石英・ 長石・赤色粒 子・白色粒子	にぶい黄色	にぶい黄褐色	ハケム後ヨコナ デ・ハケム後ナ デ・ケズリ	ヨコナデ	(16.2)	11.5+ α	-	-	全体的に磨耗の為 調整不明瞭
20SD001 c 区中層 P-48・49	第 134 図	375	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	橙色	ハケム・指オサ エ・ケズリ・ハ ケム	タタキ・ハケ ム	(23.6)	25.3	-	25.6	ハケム(5～10本 /cm)
20SD001 a 区中層	第 134 図	376	土師器	山陰系甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・指オサエ ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケム	24.5	34.3	-	31.6	ハケム(8本/cm)
20SD001 f 区上層	第 135 図	377	土師器	甕	角閃石・雲母・ 長石・白色粒 子・赤色粒子	橙色	にぶい黄褐色	ハケム後ナデ・ ハケム	ヨコナデ・ハ ケム後ナデ・ ハケム	(16.8)	13.0+ α	-	19.0	
20SD001 f 区上層	第 135 図	378	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	浅黄褐色	灰白色～赤色	ハケム後ナデ・ ケズリ後ミガキ ・指頭痕	ナデ・ハケム ・ハケム後ヨ コナデ	18.3	27.8	-	21.2	ハケム(10～12本 /cm)・外面黒変
20SD001 d 区 P-70	第 135 図	379	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	褐色	褐色	ナデ・ハケム後 ミガキ・ケズリ 後ミガキ	ナデ・ハケム (厚耗により不明 瞭)	15.4	27.8	-	21.3	ハケム(6本/cm)
20SD001 a 区上層	第 135 図	380	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	褐色	ナデ・ハケム・ ナデ・指オサエ	ナデ・ハケム	(15.8)	25.1	-	19.4	ハケム(7本/cm)
20SD001 c 区 P-42	第 135 図	381	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	褐色	褐色	ハケム後ナデ・ ケズリ	ナデ・ハケム	15.0	27.4	-	(19.6)	ハケム(4本/cm)
20SD001 f 区上層	第 135 図	382	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色	褐色～明褐色	ヨコナデ後ミガ キ・ハケム後指 オサエ・ミガキ	ヨコナデ・ハ ケム後ヨコナ デ・ハケム	17.8	27.6	-	21.1	ハケム内(5～6本 /cm)外(5～6本 /cm)口縁部(9～ 10本/cm)
20SD001 e 区上層	第 135 図	383	土師器	甕	角閃石・石英・ 白色粒子・赤 色粒子・雲母	にぶい黄褐色	明赤褐色～褐 灰色	ハケム後ヨコナ デ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケム・ハケム 後ナデ	(14.8)	21.4+ α	-	-	黒斑
20SD001 f 区上層	第 135 図	384	土師器	甕	角閃石・長石・ 赤色粒子・石 英・白色粒子	明赤褐色	褐色	ハケム後ヨコナ デ・ケズリ・ハ ケム後ナデ・ケ ズリ後ミガキ	ヨコナデ・ハ ケム	(13.8)	18.5+ α	-	-	
20SD001 f 区上層	第 135 図	385	土師器	甕	長石・角閃石・ 白色粒子・赤 色粒子	灰黄褐色	灰黄褐色～に ぶい黄褐色	ヨコナデ・ハケ ム	ヨコナデ・ハ ケム後ナデ	16.8	12.4+ α	-	-	
20SD001 e 区上層	第 135 図	386	土師器	甕	角閃石・石英・ 長石・白色粒 子・赤色粒子	明赤褐色	褐色	ハケム後ヨコナ デ・ハケム後ナ デ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケム後ヨコナ デ・ハケム	(16.4)	19.4+ α	-	-	
20SD001 f 区上層	第 135 図	387	土師器	甕	角閃石・石英・ 赤色粒子	褐色	褐色～にぶい 黄褐色	ヨコナデ・ナデ ・ハケム後ナデ ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケム後ナデ	(18.4)	16.7+ α	-	-	黒斑
20SD001 f 区上層	第 135 図	388	土師器	甕	石英・長石・ 赤色粒子	淡褐色	淡褐色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ・指頭 痕	ヨコナデ・ハ ケム後ナデ・ ハケム後ヨコ ナデ	17.0	22.6+ α	-	21.9	外面スス付着
20SD001 f 区上層 P-237	第 136 図	389	土師器	甕	石英・長石・ 赤色粒子	淡褐色	淡褐色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ	ヨコナデ・ケ ズリ後ナデ	16.8	22.0+ α	-	20.9	外面スス付着
20SD001 c 区上層	第 136 図	390	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	黄灰色	にぶい褐色	ナデ・ケズリ後 ナデ	ナデ・ハケム 後ナデ	(16.0)	10.0+ α	-	-	ハケム(9本/cm)
20SD001 c 区中層	第 136 図	391	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・指オサエ ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケム 後ナデ	(16.2)	10.5+ α	-	-	ハケム(4本/cm)
20SD001 b 区上層	第 136 図	392	土師器	甕	長石・角閃石・ 赤色粒子	灰黄褐色	黒褐色	ナデ・ミガキ・ ケズリ	ナデ・ハケム	(17.1)	7.5+ α	-	-	ハケム(7本/cm)
20SD001 f 区上層	第 136 図	393	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	にぶい褐色～ 褐色	にぶい褐色～ 褐色	ヨコナデ・ハケ ム・ハケム後ミ ガキ・ハケム後 ナデ	ヨコナデ・ハ ケム・ハケム 後ナデ	17.0	26.3	-	19.3	ハケム内(7～12 本/cm)外(9～12 本/cm)・黒変
20SD001 a 区中層	第 136 図	394	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	灰黄色	灰黄色	ヨコナデ・ハケ ム・ハケム後ナ デ・指オサエ・ ナデ	ヨコナデ・ハ ケム後ナデ・ ハケム	16.7	23.2	-	18.0	ハケム(6本/cm)
20SD001 b 区 P-23	第 136 図	395	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	黒褐色	褐色	ナデ・ハケム後 ナデ・ケズリ	ナデ・ハケム	15.3	24.9	-	19.6	ハケム(6本/cm)・ スス付着
20SD001 f 区上層	第 136 図	396	土師器	甕		明赤褐色～赤 褐色	褐色～灰白色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケム後ナデ	18.3	21.7	-	-	ハケム外(12本/ cm)・外面黒変
20SD001 b 区 P-25	第 136 図	397	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい褐色	明赤褐色	ハケム・指オサ エ・ケズリ後ナ デ	ナデ・ハケム	(16.0)	25.7	-	20.2	ハケム(6本/cm)
20SD001 f 区上層	第 136 図	398	土師器	甕	角閃石・石英・ 長石・白色粒 子・赤色粒子	明赤褐色	褐色	ハケム後ヨコナ デ・ハケム	ヨコナデ・ハ ケム後ヨコナ デ・ハケム	(17.0)	20.0+ α	-	-	
20SD001 e 区上層	第 136 図	399	土師器	甕	角閃石・白色 粒子・長石・ 石英・赤色粒 子	灰黄褐色	明黄褐色	ヨコナデ・ハケ ム後ナデ	ヨコナデ・ハ ケム後ナデ	18.3	14.5+ α	-	-	

第 42 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 41

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
20SD001 f 区上層	第 136 図	400	土師器	甕	角閃石・白色 粒子・赤色粒 子・石英	明褐色	明褐色～明黄 褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ケ ズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	16.4	11.1+α	-	-	
20SD001 b 区中層	第 136 図	401	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄褐色	にぶい橙色	ヨコナデ・指オ サエ・ケズリ後 ナデ	ヨコナデ・ナ デ	(15.6)	14.3+α	-	(18.2)	
20SD001 2 区上層	第 136 図	402	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	にぶい黄褐色	ハケメ後ナデ・ ケズリ後ナデ	ハケメ後ナデ ・ハケメ	(16.1)	10.9+α	-	-	ハケメ (7 本 /cm)
20SD001 d 区上層 P-79・84 上層・中層	第 137 図	403	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい橙色～ 褐灰色	橙色～浅黄橙 色	ヨコナデ後ハケ メ後ミガキ・ハ ケメ後ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ	(17.2)	26.3	-	19.5	ハケメ (8～9 本 / cm)・黒斑
20SD001 a 区上層	第 137 図	404	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色	灰黄褐色	ハケメ後ナデ・ ハケメ・指オサ エ・ケズリ	ナデ・ハケメ	(14.2)	22.4+α	-	(17.9)	ハケメ (8 本 /cm)
20SD001 e 区 P-118	第 137 図	405	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ	(16.1)	26.2	-	20.4	ハケメ (6～7 本 / cm)・黒斑・スス付 着
20SD001 a 区中層	第 137 図	406	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい橙色	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	(14.9)	14.8+α	-	-	ハケメ (5 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 137 図	407	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	淡橙茶色	淡橙茶色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ・ケ ズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	18.6	20.1+α	-	-	外面胴部スス付着
20SD001 e 区上層	第 137 図	408	土師器	甕	角閃石・白色 粒子・長石・ 赤色粒子	橙色～灰白色	橙色～灰白色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ミ ガキ	ハケメ後ヨコ ナデ・ハケメ	(17.7)	17.2+α	-	-	
20SD001 c 区上層	第 137 図	409	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	褐灰色	橙色	ナデ・ハケメ後 ミガキ	ナデ・ハケメ	(19.2)	8.9+α	-	-	ハケメ (8 本 /cm)
20SD001 d 区上層	第 137 図	410	土師器	甕	角閃石・石英・ 長石・赤色粒 子・白色粒子	明褐色	にぶい黄褐色	ハケメ・ナデ後 指オサエ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ	18.8	12.7+α	-	-	
20SD001 d 区上層・ 中層	第 137 図	411	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	浅黄褐色～橙 色	浅黄褐色～橙 色～明赤褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ケズ リ後ナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ・ミガキ	16.6	18.1+α	-	20.0	ハケメ内 (7 本 / cm) 外 (8 本 /cm)
20SD001 d 区上層 P-79・88	第 137 図	412	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい黄褐色	橙色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ後ナ デ・指頭痕	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	16.9	26.7	-	21.0	ハケメ (8～9 本 / cm)・黒斑
20SD001 f 区上層	第 137 図	413	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石	白茶色	白茶色	ハケメ・ナデ・ 工具ナデ後ハ ケメ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	18.6	20.4+α	-	21.0	内外面スス付着
20SD001 f 区上層	第 137 図	414	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	明赤褐色～黒 色	明赤褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ミガ キ・ケズリ後ミ ガキ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ 指オサエ後ナ デ	15.0	22.4+α	-	20.8	
20SD001 e 区上層 P-183・ 20SE001 上 層	第 137 図	415	土師器	甕	長石・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色～灰白色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ	19.1	18.0+α	-	-	ハケメ (6～8 本 / cm)
20SD001	第 138 図	416	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	にぶい黄褐色	ナデ・ケズリ後 ナデ	ナデ・ハケメ	14.4	23.8	-	(19.3)	ハケメ (8 本 /cm)
20SD001 b 区上層	第 138 図	417	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	にぶい橙色	ナデ	ナデ・ハケメ	(17.2)	23.1+α	-	(21.2)	ハケメ (8 本 /cm)
20SD001 b 区 P-14	第 138 図	418	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ナデ・ミガキ・ ケズリ後ミガキ	ナデ・ハケメ	17.7	26.7	-	21.6	ハケメ (10 本 /cm)
20SD001 e 区上層 P-110	第 138 図	419	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色～灰白色	ケズリ後ミガキ	ハケメ	17.2	27.3	-		ハケメ (6～7 本 / cm)・黒斑・スス付 着
20SD001 d 区 P-82	第 138 図	420	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい黄褐色	橙色	ナデ・ケズリ後 ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ ・ハケメ後ナ デ	16.2	26.3	-	21.2	ハケメ (8 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 138 図	421	土師器	甕	石英・長石・ 赤色粒子・角 閃石	淡白茶色	淡白茶色	ケズリ後ナデ・ ヨコナデ・指頭 痕	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ後ヨコナデ	(18.6)	27.3	-	23.0	内外面スス付着
20SD001 e 区上層 P-122	第 138 図	422	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	明赤褐色～灰 白色	橙色～明赤褐 色	ヨコナデ・ハケ メ後ケズリ・ケ ズリ・ケズリ後 ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ後ヨコナデ	14.1	22.4	-	18.6	ハケメ (7～9 本 / cm)・黒斑・スス付 着
20SD001 d 区中層	第 138 図	423	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・白色粒 子	明褐灰色～淡 橙色	明褐灰色～橙 色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ・指 頭痕・指オサエ 後ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	14.6	21.3	-	19.2	ハケメ (7～8 本 / cm)・黒斑
20SD001 c 区 P-57 c 区上層	第 138 図	424	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい褐色	にぶい橙色	ハケメ後ナデ・ ハケメ・ナデ	ハケメ後ナデ ・ハケメ	18.6	27.2	-	(24.7)	ハケメ (7 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 139 図	425	土師器	甕	雲母・角閃石・ 赤褐色粒子・ 白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	(17.8)	22.5+α	-	20.2	ハケメ (9 本 /cm)・ 外面スス付着
20SD001 f 区上層 P-208	第 139 図	426	土師器	甕	角閃石・長石・ 石英・赤色粒 子・白色粒子	橙色	にぶい橙色	ハケメ後ナデ・ ハケメ後指オ サエ・ナデ・ハ ケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	(17.8)	19.6+α	-	-	
20SD001 f 区上層	第 139 図	427	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	18.6	20.8+α	-	23.5	
20SD001 e 区上層	第 139 図	428	土師器	甕	角閃石・白色 粒子・石英・ 雲母・長石	橙色	橙色	ヨコナデ・指オ サエ・ハケメ後 ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(19.8)	13.5+α	-	-	
20SD001 b 区上層	第 139 図	429	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(17.9)	7.7+α	-	-	
20SD001 f 区上層	第 139 図	430	土師器	甕	角閃石・長石・ 雲母・赤色粒 子・白色粒子	褐色	にぶい橙色	ナデ・ハケメ後 ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ	(18.4)	13.9+α	-	-	穿孔あり

第 43 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 42

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
20SD001 f 区上層	第 139 図	431	土師器	甕	石英・長石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ヨコナ デ・ナデ・ハケ メ後ミガキ・指 頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ	18.9	20.2+a	-	24.1	
20SD001 e 区上層	第 139 図	432	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石	白茶色	白茶色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	19.0	16.3+a	-	-	
20SD001 f 区上層	第 139 図	433	土師器	甕	角閃石・雲母 ・長石・石英・ 白色粒子・赤 色粒子	灰褐色～橙色	橙色	ハケメ後ナデ・ 指オサエ・ナデ	ハケメ・ハケ メ後ナデ・	(16.8)	22.1+a	-	-	黒斑
20SD001 a 区	第 139 図	434	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	明褐色	橙色	ナデ・ハケメ後 ナデ・ハケメ後 ミガキ・ケズリ 後ミガキ	ナデ・ハケメ ・ケズリ後ナ デ	(17.8)	26.3	-	22.8	ハケメ (6 本 /cm)
20SD001 f 区 P-234	第 139 図	435	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	にぶい黄褐色	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ ・ケズリ後ナ デ	15.7	24.4	-	19.8	ハケメ (7 本 /cm)・ スス付着
20SD001 b 区 P-2	第 140 図	436	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	赤褐色	赤褐色	ナデ・指オサエ 後ナデ・ケズリ 後ナデ	ナデ	(13.9)	25.3	-	20.4	
20SD001 f 区 P-209	第 140 図	437	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	浅黄褐色	浅黄褐色	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケメ	17.1	27.1	-	22.3	ハケメ (8 本 /cm)
20SD001 f 区 P-101	第 140 図	438	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ・ 指オサエ	ナデ・ハケメ 後ナデ	(15.8)	25.0	-	29.0	ハケメ (6 本 /cm)
20SD001 d 区上層 c 区 P-52 c 区上層	第 140 図	439	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	明赤褐色	明赤褐色～橙 色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ミ ガキ・ケズリ後 ミガキ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	17.8	24.9+a	-	22.3	ハケメ (8～10 本 /cm)・黒斑
20SD001 a 区中層	第 140 図	440	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ	18.3	27.4	-	23.3	ハケメ (6 本 /cm)
20SD001 f 区上層 P-198	第 140 図	441	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石	茶灰色	茶灰色	ナデ後指オサ エ・ヨコナデ・ ケズリ・工具痕	ヨコナデ・ナ デ後ハケメ	(16.0)	21.1+a	-	20.8	外面スス付着
20SD001 e 区上層 P-100	第 140 図	442	土師器	甕	長石・角閃石・ 白色粒子	にぶい黄褐色	浅黄褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・指頭 痕	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	16.7	14.5+a	-	-	ハケメ内 (5～6 本 /cm)・内外面黒変
20SD001 d 区 P-65	第 140 図	443	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ・ 指オサエ	ナデ・ハケメ ・ミガキ	(24.4)	13.8	-	19.7	ハケメ (10 本 /cm)
20SD001 e 区 P-247	第 140 図	444	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ	ナデ・ケズリ ・指オサエ	(14.8)	24.1	-	(20.4)	ハケメ (7 本 /cm)・ スス付着
20SD001 f 区上層	第 140 図	445	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	灰白色～橙色	灰白色～橙色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ後ナデ ・指オサエ後ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	18.4	25.3	-	21.4	ハケメ外 (5～7 本 /cm)・一部黒変
20SD001 e 区上層	第 141 図	446	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色～浅黄橙 色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ後ナ デ・指頭痕	ハケメ後ナデ ・ハケメ後ヨ コナデ	16.4	23.9	-	21.2	ハケメ (5～6 本 / cm)・黒斑・スス付 着
20SD001 d 区上層 P-85	第 141 図	447	土師器	甕	雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	暗灰黄色	浅黄褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ナ デ・指頭痕	ハケメ後ナ デ?・ハケメ後 ヨコナデ	(17.0)	25.4	-	22.6	ハケメ (11～12 本 /cm)・黒斑
20SD001 a 区中層	第 141 図	448	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	灰白色	にぶい黄褐色	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ	16.4	25.4+a	-	(22.4)	ハケメ (7 本 /cm)・ スス付着
20SD001 e 区上層	第 141 図	449	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色 ～にぶい赤褐 色	にぶい赤褐色	ナデ・ヨコナデ ・ヨコナデ後ナ デ・ハケメ・ケ ズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	(14.2)	20.2+a	-	17.4	ハケメ (8～9 本 / cm)・スス付着
20SD001 e 区上層	第 141 図	450	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色	ハケメ・ハケメ 後ヨコナデ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	14.2	22.3	-	20.8	ハケメ (6～8 本 / cm) スス付着
20SD001 試掘 2 トレ ンチ	第 141 図	451	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい橙色～ 灰褐色	にぶい橙色～ 灰褐色	ヨコナデ後ミガ キ・ハケメ後ミ ガキ・ケズリ後 ミガキ・指オサ エ後ハケメ	ヨコナデ後ミ ガキ・ハケメ 後ミガキ・ケ ズリ後ミガキ	(14.9)	24.2	-	21.3	ハケメ内 (5～7 本 /cm) 外 (4～9 本 / cm)・底部黒変
20SD001 c 区上層	第 141 図	452	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ハケメ・ ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ	15.8	23.9	-	(21.4)	ハケメ (7 本 /cm)
20SD001 試掘 2 トレ ンチ	第 141 図	453	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	暗白茶色	暗白茶色	ヨコナデ後ヨコ ナデ・ハケメ・ケ ズリ後ナデ	ハケメ後ヨコ ナデ・ハケメ	(17.2)	22.8	-	21.2	単位不明瞭
20SD001 e 区上層 P-145	第 142 図	454	土師器	甕	雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	灰黄色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ後ミガキか?	ハケメ後ナデ ・ハケメ後ヨ コナデ	17.4	25.7+a	-	21.8	ハケメ (7～9 本 / cm)
20SD001 d 区上層・ 中層 P-84	第 142 図	455	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	明褐色～黒色	橙色	ヨコナデ・ケズ リ後ミガキナデ (ミガキ?)・指 頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	(18.5)	27.8	-	23.0	ハケメ外 (6 本 / cm)
20SD001 a 区上層	第 142 図	456	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄褐色	にぶい橙色	ナデ・指オサエ ・ミガキ	ナデ・ハケメ	(17.0)	25.8+a	-	(21.6)	ハケメ (9 本 /cm)・ 底部穿孔か?
20SD001 e 区 P-115・145	第 142 図	457	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	明赤褐色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ・指頭 痕	ヨコナデ・ハ ケメ	18.6	26.1	-	22.0	ハケメ (10～12 本 /cm)・黒斑
20SD001 a 区中層	第 142 図	458	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	橙色	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ 後ナデ	(15.8)	20.4	-	18.6	ハケメ (12 本 /cm)
20SD001 d 区上層	第 142 図	459	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ・指頭 痕	ヨコナデ・ハ ケメ	16.8	25.3	-	22.3	ハケメ (6 本 /cm)・ 黒斑・スス付着
20SD001 d 区中層	第 142 図	460	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・白色 粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色 ～褐灰色	ヨコナデ・ケズ リ・指オサエ後 ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	17.1	24.4+a	-	22.0	
20SD001 f 区上層	第 142 図	461	土師器	甕	白色粒子・角 閃石・石英・ 長石・赤色粒 子	にぶい黄褐～ 灰黄褐色	にぶい黄褐～ 明赤褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後指 オサエ・ケズリ	ヨコナデ・指 オサエ・ハケ メ	16.9	22.9+a	-	22.0	

第 44 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 43

遺構名	挿図番号	遺物番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
20SD001 e 区 P-172	第 143 図	462	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	灰色	浅黄褐色	ナデ・ケズリ後 ナデ・ハケメ・ 指オサエ	ナデ・ハケメ	(14.6)	22.1	-	20.4	ハケメ (6 本 /cm)
20SD001 d 区上層 P-66	第 143 図	463	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい黄褐色	橙色～浅黄褐 色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	16.8	22.3	-	21.2	ハケメ (7～8 本 / cm)・スス付着
20SD001 f 区 P-197	第 143 図	464	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・ハケメ	ハケメ後ナデ ・ケズリ後ナ デ・指オサエ	15.8	24.1	-	22.0	ハケメ (5 本 /cm)・ スス付着
20SD001 b 区 P-10	第 143 図	465	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい橙色～ 褐色	にぶい橙色～ 黒褐色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ・指頭 痕	ナデ・ヨコナ デ	(14.4)	20.4+α	-	19.0	黒斑・スス付着
20SD001 a 区上層 e 区上層	第 143 図	466	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	明赤褐色	明赤褐色	ナデ・ナデ後ミ ガキ・ハケメ後 ミガキ・ケズリ 後ミガキ・指頭 痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	16.9	22.8	-	20.4	一部黒変
20SD001 b 区上層	第 143 図	467	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・ナデ後ミ ガキ・ケズリ後 ミガキ	ハケメ後ナデ ・ハケメ	18.2	18.1+α	-	(24.2)	ハケメ (9 本 /cm)
20SD001 b 区 P-7	第 143 図	468	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	灰黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ 後ナデ (摩耗 により不明瞭)	(16.6)	20.3+α	-	(23.6)	ハケメ (4 本 /cm)
20SD001 e 区上層	第 143 図	469	土師器	甕	角閃石・白色 粒子・雲母・ 赤色粒子	明赤褐色	橙色	ヨコナデ・ナデ ・ケズリ	ハケメ後ヨコ ナデ・ナデ・ ハケメ後ナデ	(20.2)	18.9+α	-	-	
20SD001 a 区中層	第 144 図	470	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	褐色	褐色	ハケメ	ナデ・ハケメ	(13.3)	6.6+α	-	-	ハケメ (9～10 本 /cm)
20SD001 c 区中層	第 144 図	471	土師器	甕	長石・角閃石・ 赤色粒子	にぶい褐色	褐色	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	(16.2)	8.2+α	-	-	ハケメ (5 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 144 図	472	土師器	甕	角閃石・雲母・ 石英・赤色粒 子・白色粒子	灰白色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ	ヨコナデ・ナ デ・ハケメ後 ナデ	17.1	14.1+α	-	-	
20SD001 e 区上層	第 144 図	473	土師器	甕	石英・長石・ 赤色粒子・角 閃石	白茶色	白茶色	ヨコナデ・ナデ ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ナ デ (一部ハケ メ)	(16.0)	20.7+α	-	22.0	体部下位スス付 着?
20SD001 e 区 P-136	第 144 図	474	土師器	甕	角閃石・白色 粒子・赤色粒 子・石英・長 石	にぶい赤褐色	にぶい黄褐色 ～褐灰色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	16.6	20.2+α	-	-	黒斑
20SD001 e 区上層	第 144 図	475	土師器	甕	角閃石・石英・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ヨコナデ ・ハケメ後ナ デ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	(14.2)	19.8+α	-	-	黒斑
20SD001 f 区上層	第 144 図	476	土師器	甕	白色粒子・赤 色粒子・角閃 石	赤褐色	赤褐色～褐灰 色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後 ケズリ・ケズリ	ハケメ後ヨコ ナデ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ	(15.2)	18.1+α	-	-	
20SD001 a 区中層	第 144 図	477	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	褐色	ハケメ・ナデ・ ケズリ	ナデ・ハケメ	(15.6)	21.6+α	-	-	ハケメ (9 本 /cm)
20SD001 b 区上層 P-17	第 144 図	478	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	灰白色	にぶい褐色	ケズリ後ナデ・ 指オサエ・ケズ リ後ハケメ	ナデ・ハケメ	(15.6)	14.3+α	-	-	ハケメ (13 本 /cm)
20SD001 a 区上層	第 144 図	479	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい黄褐色	にぶい褐色～ にぶい褐色	ハケメ・ハケメ 後ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後一部ナ デ・ハケメ後 ヨコナデ	(17.6)	18.0+α	-	26.7	ハケメ (4～13 本 /cm)・黒斑・スス 付着
20SD001 a 区上層	第 144 図	480	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい褐色～ 黒褐色	にぶい褐色～ 灰黄褐色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ	(16.4)	21.0+α	-	-	ハケメ (10～11 本 /cm) 黒斑 スス付 着
20SD001 a 区	第 145 図	481	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色	褐色	ハケメ・指オサ エ・ナデ・ケズ リ後ハケメ	ハケメ後ナデ ・ハケメ・ケ ズリ後ナデ	15.4	20.0+α	-	-	ハケメ (9 本 /cm)
20SD001 d 区上層 c 区 P-33	第 145 図	482	土師器	甕	雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色	褐色	ハケメ後ナデ・ ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ後ナ デ・指頭痕	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	17.7	19.7+α	-	-	ハケメ (5～12 本 /cm)
20SD001 e 区上層 P-220	第 145 図	483	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 白色粒子	にぶい黄褐色	灰黄褐色	ヨコナデ・ケズ リ・ケズリ後ナ デ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(16.8)	17.0+α	-	-	ハケメ (6～7 本 / cm)・黒斑
20SD001 e 区 P-123	第 145 図	484	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい褐色～ 明赤褐色	灰白色～褐色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	(15.6)	17.8+α	-	-	ハケメ (6～8 本 / cm)・黒斑
20SD001 f 区上層 P-207	第 145 図	485	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	淡白褐色	淡白褐色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ	15.8	20.9+α	-	-	胴部下半スス付着
20SD001 f 区上層	第 145 図	486	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・灰色粒 子	褐色	褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ナ デ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ	(16.9)	13.4	-	-	外面スス付着・外 面線刻 (絵画?)
20SD001 f 区上層	第 145 図	487	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・黒色粒 子	橙白色	橙白色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・ケズ リ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	15.5	14.1+α	-	-	
20SD001 e 区上層	第 145 図	488	土師器	甕	角閃石・石英・ 長石・白色粒 子・赤色粒子	にぶい黄褐色	褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ	(17.0)	12.2+α	-	-	スス付着
20SD001 f 区上層	第 145 図	489	土師器	甕	角閃石・石英・ 長石・赤色粒 子・白色粒子	灰白色	にぶい黄褐色	ハケメ後ナデ・ ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	(15.6)	11.2+α	-	-	
20SD001 e 区上層	第 145 図	490	土師器	甕	角閃石・白色 粒子・長石・ 石英・赤色粒 子	明褐色	明褐色～褐灰 色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	(18.0)	13.2+α	-	-	
20SD001 e 区上層	第 146 図	491	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄褐色 ～褐灰色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・指オ サエ後ヨコナ デ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	11.9	18.6+α	-	-	ハケメ (5～7 本 / cm)・スス付着
20SD001 f 区上層	第 146 図	492	土師器	甕	長石・石英・ 角閃石・白色 粒子・赤色粒 子	浅黄色	灰黄色	ヨコナデ・ナデ ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	(17.3)	12.4+α	-	-	

第 45 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 44

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
20SD001 f 区上層	第 146 図	493	土師器	甕	角閃石・石英・ 雲母・白色粒 子・赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・指オ サエ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(16.6)	16.1+α	-	-	黒斑
20SD001 b 区上層	第 146 図	494	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	明赤褐色	にぶい褐色	ハケメ後ナデ・ ナデ・ケズリ	ナデ・指オサ エ・ハケメ	(16.4)	6.9+α	-	-	ハケメ (6 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 146 図	495	土師器	甕	角閃石・長石・ 石英・赤色粒 子・白色粒子	にぶい黄褐色	褐色	ナデ・指オサエ ・ケズリ	ヨコナデ・ナ デ	14.8	8.2+α	-	-	
20SD001 c 区下層	第 146 図	496	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	灰黄褐色	にぶい褐色	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ	(15.2)	9.6+α	-	-	ハケメ (9 本 /cm)
20SD001 f 区上層 P-212	第 146 図	497	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石	暗褐色	暗褐色	工具ナデ・ナデ 後ケズリ・ヨコ ナデ・ハケメ後 指頭痕	ヨコナデ・指 頭痕・ハケメ ・ハケメ後ヨ コナデ	14.9	14.9+α	-	-	
20SD001 b 区中層 P-36	第 146 図	498	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・指オサエ 後ナデ・ハケ メ・ケズリ	ハケメ後ナデ ・ナデ・ハケ メ	16.3	20.3+α	-	-	ハケメ (8 ~ 10 本 /cm)・スス付着
20SD001 d 区上層 P-69	第 146 図	499	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	浅黄褐色～褐 灰色	浅黄褐色	ナデ後ケズリ・ ハケメ後ケズリ ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ	16.6	18.2+α	-	23.2	ハケメ (5 ~ 15 本 /cm)・スス付着 粘 土接合痕
20SD001 f 区上層	第 146 図	500	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ナデ・ハケメ後 ナデ・ハケメ後 ミカキ・指オサ エ後ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ・指頭痕	17.0	26.3	-	21.6	ハケメ (8 ~ 9 本 / cm)・黒変
20SD001 a 区	第 146 図	501	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄褐色	明黄褐色	ハケメ後ナデ・ ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ ・ケズリ	16.2	24.6	-	20.4	ハケメ (10 本 /cm)
20SD001 e 区上層	第 146 図	502	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色	褐色～浅黄褐 色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ後ナ デ・指頭痕	ハケメ後ナデ ・ハケメ後ヨ コナデ	15.7	22.5	-	19.8	ハケメ (8 本 /cm) 黒斑
20SD001 b 区 P-12	第 147 図	503	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・ケズリ後 ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ	(17.2)	24.5	-	(22.1)	摩耗により不明瞭
20SD001 f 区上層	第 147 図	504	土師器	甕	角閃石・長石・ 白色粒子・赤 色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ハケメ後ナデ・ ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	(15.0)	22.6+α	-	18.8	
20SD001 e 区 P-233	第 147 図	505	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	褐色	褐色	ナデ・指オサエ 後ナデ・ケズリ 後ナデ	ナデ	(17.5)	27.5	-	22.7	
20SD001 f 区上層 P-232	第 147 図	506	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	灰白色～褐色	浅黄褐色～褐 色	ナデ・ヨコナデ ・ヨコナデ後ナ デ・ケズリ・指 頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ後ヨコナデ	14.9	23.8+α	-	19.8	ハケメ (7 ~ 10 本 /cm)・黒斑・スス 付着
20SD001 c 区 P-29 c 区上層	第 147 図	507	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石	にぶい褐色	にぶい赤褐色	ナデ・指オサエ ・ケズリ・ハケ メ	ナデ・ハケメ ・ハケメ後ナ デ	15.0	22.1	-	19.0	ハケメ (7 本 /cm)
20SD001 a 区上層	第 147 図	508	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	褐色	ヨコナデ・ハケ メ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ	17.9	24.1	-	20.3	ハケメ (8 本 /cm)(9 本 /cm)
20SD001 e 区 P-131	第 147 図	509	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	褐色	褐色	ナデ	ナデ・ハケメ ・ハケメ後ナ デ	14.0	20.6	-	18.2	ハケメ (10 本 /cm)
20SD001 e 区 P-238	第 148 図	510	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	褐色	ハケメ・ケズリ 後ハケメ・ナデ	ナデ・ハケメ	15.4	21.0	-	19.4	ハケメ (6・7 本 / cm)
20SD001 b 区上層	第 148 図	511	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	褐色	褐色	ナデ・ハケメ・ ケズリ	ナデ・ハケメ	16.3	26.5+α	-	(23.5)	ハケメ (6 ~ 9 本 / cm)
20SD001 f 区上層	第 148 図	512	土師器	甕	石英・長石・ 赤色粒子	白茶色	白茶色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	(15.5)	22.4	-	20.3	
20SD001 e 区上層	第 148 図	513	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	浅黄褐色	浅黄褐色	ナデ・ハケメ・ ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	16.7	21.5	-	20.0	ハケメ (8 本 /cm)・ スス付着
20SD001 a 区中層	第 148 図	514	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	褐色	ナデ・指オサエ ・ケズリ	ナデ・ハケメ	14.2	22.5	-	21.5	ハケメ (5 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 148 図	515	土師器	甕	石英・長石	茶灰色	茶灰色	ハケメ・ハケメ 後ナデ・ケズリ 後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	14.3	22.2+α	-	19.4	外面スス付着
20SD001 f 区上層	第 148 図	516	土師器	甕	角閃石・長石・ 石英・赤色粒 子・白色粒子	浅黄色	浅黄色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	16.0	18.8+α	-	20.2	
20SD001 b 区 P-37 b 区中層	第 148 図	517	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい褐色	褐色	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ	15.4	18.9+α	-	21.3	ハケメ (6 本 /cm)
20SD001 中層	第 149 図	518	土師器	甕	角閃石・白色 粒子・赤色粒 子	にぶい黄褐色	明赤褐色～褐 色	ヨコナデ・ハケ メ後ヨコナデ・ ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	(15.6)	10.1+α	-	-	
20SD001 e 区下層	第 149 図	519	土師器	甕	角閃石・石英・ 赤色粒子・白 色粒子	灰黄褐色	褐色	ハケメ後ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ後 ミガキ	17.0	11.5+α	-	-	
20SD001 b 区 P-37・39	第 149 図	520	土師器	甕	石英・長石・ 赤色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ヨコナデ・指オ サエ・ケズリ後 ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(15.9)	9.3+α	-	-	ハケメ (4 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 149 図	521	土師器	甕	角閃石・長石・ 雲母・赤色粒 子・白色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ハケメ・ハケメ 後ナデ	ヨコナデ・指 オサエ・ハケ メ	(16.4)	14.0+α	-	-	
20SD001 b 区上層	第 149 図	522	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	明赤褐色	にぶい褐色	ハケメ後ナデ・ 指オサエ・ケズ リ後ナデ	ナデ・ハケメ	15.2	11.7+α	-	-	ハケメ (8 本 /cm)
20SD001 b 区中層	第 149 図	523	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	明赤褐色	ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ	(17.6)	8.7+α	-	-	ハケメ (11 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 150 図	524	土師器	小形甕	角閃石・石英・ 長石・赤色粒 子・白色粒子	にぶい褐色	にぶい黄褐色	ナデ	ハケメ後ナデ ・ハケメ	(11.6)	4.7+α	-	-	

第 46 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 45

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
20SD001 f区上層	第 150 図	525	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	淡橙色	淡橙色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ	ケズリ後ナデ	(10.0)	8.9+α	-	-	
20SD001 e区上層	第 150 図	526	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石	橙色	橙色	ナデ・指頭痕・ ナデ後ケズリ・ ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	11.0	8.9+α	-	-	
20SD001 e区上層 P-218	第 150 図	527	土師器	小形壺×小 形甕	石英・長石・ 赤色粒子	にぶい橙色	灰褐色	ナデ・ナデ後ミ ガキ	ナデ・ハケメ	10.9	11.0	-	-	ハケメ (12 本 /cm)
20SD001 f区上層	第 150 図	528	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・黒 色粒子	灰白色～橙色	灰白色～橙色	ナデ後粗いミ ガキ・ハケメ後 ヨコナデ・ケス リ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ後 粗いミガキ	(10.8)	11.1	-	-	ハケメ (8～9 本 / cm)
20SD001 d区 P-121	第 150 図	529	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ・ ミガキ	ハケメ	12.9	10.5	-	-	ハケメ (13 本 /cm)
20SD001 f区上層	第 150 図	530	土師器	小形甕		橙色	橙色	ナデ・ハケメ・ ミガキ	ミガキ	(15.0)	9.8	-	-	
20SD001 e区上層 P-94	第 150 図	531	土師器	小形壺×小 形甕	石英・長石	橙色	橙色	ナデ・ハケメ	ハケメ後ナデ ・ハケメ	(10.3)	11.0	-	-	ハケメ (8 本 /cm)
20SD001 d区上層 P-58	第 150 図	532	土師器	小形壺×小 形甕	石英・長石・ 赤色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ 後ナデ	(12.4)	11.4	-	-	
20SD001 e区上層 P-95	第 150 図	533	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色 ～にぶい橙色	灰白色～にぶ い橙色	工具ナデ・ヨコ ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	(13.1)	11.5	-	-	ハケメ (15 本 / cm)・黒斑
20SD001 d区上層・ 中層	第 150 図	534	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	黄灰色	灰白色～にぶ い橙色	工具ナデ・ヨコ ナデ・ケズリ・ 指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	(13.8)	12.3	-	-	ハケメ (8～9 本 / cm)・黒斑・スス付 着
20SD001 e区上層	第 150 図	535	土師器	小形壺×小 形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石	にぶい黄褐色 ～灰白色	明赤褐色～灰 白色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ後ナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ヨコ ナデ	14.4	11.4+α	-	-	ハケメ (8～9 本 / cm)・黒斑・スス付 着
20SD001 d区上層・ 上層	第 150 図	536	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	灰白色～橙色	橙色～灰白色	ヨコナデ・ケス リ・ケズリ後ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ後ヨコ ナデ	13.1	11.7+α	-	-	ハケメ (9～10 本 /cm)・黒斑・スス 付着
20SD001 d区上層	第 150 図	537	土師器	小形壺×小 形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色～褐灰色	にぶい橙色～ 褐色	工具ナデ・ヨコ ナデ・ハケメ後 ヨコナデ・ケス リ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ後ヨコナデ	(11.4)	14.0	-	-	ハケメ (11～12 本 /cm)・黒斑
20SD001 d区上層 P-60	第 150 図	538	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・黒 色粒子	にぶい黄褐色 ～褐色	灰黄色～褐色	ヨコナデ・ケス リ・ケズリ後指 オサエ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	(12.5)	13.7	-	-	ハケメ (10～11 本 /cm)・黒斑・スス 付着
20SD001 e区上層	第 150 図	539	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・黒色 粒子	灰白色	灰白色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ヨコ ナデ・ケズリ後 ナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ヨコ ナデ	(13.8)	13.4	-	-	ハケメ (8～9 本 / cm)・黒斑・スス付 着
20SD001 c区 P-53	第 150 図	540	土師器	小形壺×小 形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	灰黄色	灰黄色	ヨコナデ・指オ サエ・ケズリ後 ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	13.2	13.3	-	-	ハケメ (7 本 /cm)
20SD001 f区中層	第 150 図	541	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	白茶色	白茶色	ヨコナデ・ハケ メ後ヨコナデ・ ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ?	(11.4)	12.0+α	-	-	外面黒斑・スス付 着
20SD001 e区上層	第 150 図	542	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	橙色	橙色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ後ナ デ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	11.8	13.3+α	-	-	ハケメ (6～7 本 / cm)・スス付着
20SD001 e区上層	第 150 図	543	土師器	小形壺×小 形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	灰白色～にぶ い橙色	浅黄褐色～橙 色	ヨコナデ・ケス リ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	(13.6)	15.2	-	-	ハケメ (7～8 本 / cm)・スス付着
20SD001 c区 P-57	第 150 図	544	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	明赤褐色	にぶい赤褐色	ナデ・指オサエ ・ケズリ後ナデ	ナデ・ミガキ ・ケズリ後ミ ガキ・ハケメ 後ナデ	(11.4)	14.7	-	-	
20SD001 f区 P-235	第 150 図	545	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	橙色	ナデ・ケズリ後 ナデ・指オサエ ・ケズリ	ナデ・ハケメ	(13.2)	16.4	-	-	ハケメ (7 本 /cm)
20SD001 b区中層	第 150 図	546	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	灰白色	にぶい黄褐色	ナデ・ハケメ・ ケズリ	ナデ・ハケメ	12.1	16.0	-	-	ハケメ (8 本 /cm)・ スス付着
20SD001 f区上層	第 150 図	547	土師器	小形甕	角閃石・白色 粒子・長石・ 赤色粒子・石 英	橙色	明褐色～褐灰 色	ハケメ後ナデ・ ナデ	ハケメ後ヨコ ナデ・ハケメ 後ナデ	(14.6)	14.1+α	-	-	
20SD001 a区上層	第 150 図	548	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ハケメ後ナデ・ ハケメ	ナデ・ハケメ 後ナデ	(13.9)	14.6	-	-	ハケメ (9 本 /cm)
20SD001 c区 P-56	第 151 図	549	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	橙色	ハケメ・指オサ エ・ナデ・ケス リ	ヨコナデ・ハ ケメ	12.8	15.2	-	-	
20SD001 b区 P-13	第 151 図	550	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ	ナデ・ハケメ ・指オサエ	13.9	16.6	-	-	ハケメ (5 本 /cm)
20SD001 f区上層	第 151 図	551	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色～にぶい 褐色	褐色～黒色	ヨコナデ・ケス リ後ミガキ	ナデ・ハケメ 後ナデ	16.2	16.1	-	-	黒変・部分的にス ス付着
20SD001 d区上層	第 151 図	552	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐灰色～灰色	にぶい黄褐色 ～にぶい褐色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ後ヨコナデ	(13.7)	16.8+α	-	-	ハケメ (8～10 本 /cm)・黒斑・スス 付着
20SD001 f区上層	第 151 図	553	土師器	小形壺×小 形甕	角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	白黄褐色	白黄褐色	ナデ・指頭痕	ナデ・ハケメ 後一部ナデ	(13.8)	17.7+α	-	-	胴部中位～底部ス ス付着
20SD001 e区上層	第 151 図	554	土師器	小形壺×小 形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	浅黄褐色	にぶい黄褐色 ～にぶい褐色	ナデ・ケズリ	ナデ・ナデ後 粗いハケメ	(13.0)	17.5+α	-	-	ハケメ (8～9 本 / cm)・黒斑
20SD001 c区 P-40	第 151 図	555	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石	にぶい褐色	浅黄褐色	ナデ・ハケメ・ ケズリ	ハケメ後ナデ ・ハケメ・ケ ズリ	14.0	18.6	-	-	ハケメ (12 本 /cm)
20SD001 b区中層 P-24	第 151 図	556	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	褐色	褐色	ナデ・ハケメ・ 指オサエ・ケス リ後ナデ	ハケメ後ナデ ・ハケメ・ハ ケメ後ミガキ	12.2	20.5	-	-	ハケメ (8 本 /cm)

第 47 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 46

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
20SD001 c 区 P-35	第 151 図	557	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ (摩耗に より不明瞭)	(15.4)	18.9+a	-	-	ハケメ (5 本 /cm)
20SD001 a 区中層	第 151 図	558	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ・指オ サエ	ヨコナデ・ナ デ	14.8	20.1	-	-	外面黒斑
20SD001 e 区 P-172	第 151 図	559	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ミガキ・ナデ	ナデ・ナデ後 ミガキ	14.4	18.1	-	-	
20SD001 f 区上層 P-224	第 151 図	560	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	にぶい橙色～ 褐色	明赤褐色	工具ナデ・ハケ メ後ナデ・ケズ リ後ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	13.2	14.7+a	-	-	ハケメ内 (6～8 本 /cm)・一部黒変・ 粘土接合痕
20SD001 e 区上層 P-97・118	第 151 図	561	土師器	小形甕	長石・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	浅黄褐色～橙 色～赤褐色	褐色～にぶい 赤褐色	ヨコナデ・ケズ リ後粗いナデ・ 指オサエ後ナ デ	丁寧なナデ?・ ヨコナデ	14.0	17.2	-	-	一部黒変・スス付 着
20SD001 a 区中層	第 151 図	562	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	褐色	ハケメ・指ナデ ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	14.0	19.7	-	-	ハケメ (6～8 本 / cm)
20SD001 b 区 P-27	第 151 図	563	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	黒褐色	にぶい褐色	ナデ	ナデ	(14.6)	19.4+a	-	-	
20SD001 e 区上層	第 151 図	564	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・黒 色粒子	にぶい褐色～ 褐色	にぶい黄褐色 ～明赤褐色	ヨコナデ・ケズ リ後ナデ・指頭 痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ナデ	(13.4)	18.5	-	-	ハケメ (7～8 本 / cm)・スス付着
20SD001 e 区下層	第 151 図	565	土師器	小形甕	石英・長石・ 赤色粒子・雲 母・角閃石	橙茶色	橙茶色	ヨコナデ・ナデ ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ・ ハケメ後ナデ?	(12.4)	15.4+a	-	-	内外面スス付着
20SD001 f 区上層	第 151 図	566	土師器	小形甕	長石・雲母・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	褐色	褐色～にぶい 褐色	ハケメ後ナデ・ ハケメ後粗い ミガキ・指オサ エ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	12.4	18.9	-	-	ハケメ内 (5～7 本 /cm) 外 (6～8 本 / cm)・一部黒変・ス ス付着
20SD001 e 区 P-105	第 151 図	567	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色 ～褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	(13.2)	14.6+a	-	-	ハケメ (10～11 本 /cm)・スス付着
20SD001 a 区下層	第 151 図	568	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ 後ナデ	(15.1)	12.3+a	-	-	ハケメ (6 本 /cm)
20SD001 b 区上層 P-39	第 152 図	569	土師器	小形甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	明赤褐色	赤褐色	ハケメ後ナデ・ ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ	15.6	9.1+a	-	-	ハケメ (5 本 /cm)
20SD001 c 区 P-57	第 152 図	570	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	灰色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ	(14.0)	9.5+a	-	-	ハケメ (9 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 152 図	571	土師器	小形甕	角閃石・雲母・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい黄褐色	褐色	ナデ・ケズリ	ハケメ後ナデ ・ナデ	(13.4)	8.5+a	-	-	
20SD001 e 区上層	第 152 図	572	土師器	小形甕	角閃石・長石・ 雲母・石英・ 赤色粒子	明褐色	明褐色～にぶ い黄褐色	ヨコナデ・指オ サエ後ヨコナデ ・ハケメ後ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	15.6	11.3+a	-	-	
20SD001 e 区上層 P-166	第 152 図	573	土師器	小形甕	角閃石・白色 粒子・雲母	灰黄褐色	赤褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ナデ・ハケ メ後ケズリ	ナデ後ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	13.0	12.0+a	-	-	
20SD001 f 区上層	第 152 図	574	土師器	小形甕	角閃石・石英・ 赤色粒子・白 色粒子	明赤褐色～橙 色	明赤褐色～橙 色	ヨコナデ・ハケ メ後指オサエ・ ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	(15.3)	12.2+a	-	-	黒斑
20SD001 e 区上層	第 152 図	575	土師器	小形甕	角閃石・石英・ 長石・赤色粒 子・白色粒子	にぶい褐色	にぶい赤褐色	ヨコナデ・ナデ ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ	(15.2)	12.6+a	-	-	
20SD001 f 区上層	第 152 図	576	土師器	小形甕	角閃石・白色 粒子・石英・ 長石・赤色粒 子	明赤褐色	明赤褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ケズリ	ハケメ後ヨコ ナデ・ハケメ 後ナデ	(13.0)	9.0+a	-	-	
20SD001 f 区上層	第 152 図	577	土師器	小形甕	角閃石・石英・ 赤色粒子	明赤褐色	赤褐色	ヨコナデ・ナデ 指オサエ	ナデ・ハケメ 後ナデ	-	6.1+a	-	-	口縁部欠損
20SD001 d 区上層	第 152 図	578	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石	暗褐色	暗褐色	ヨコナデ・ナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ナデ ・ハケメ後ヨ コナデ	(17.0)	16.1+a	-	-	外面スス付着
20SD001 f 区上層	第 152 図	579	土師器	小形甕	角閃石・長石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい褐色	浅黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・ケズ リ後ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ハケメ	14.0	15.0+a	-	-	スス付着
20SD001 e 区上層 P-154	第 152 図	580	土師器	小形甕	長石・雲母・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	褐色	褐色	ナデ・ハケメ・ ハケメ後ナデ・ ハケメ後ヨコナ デ・指頭痕	ハケメ・ハケ メ後ナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ	15.7	18.9	-	-	ハケメ (5～7 本 / cm)・黒斑・粘土接 合痕
20SD001 d 区下層	第 153 図	581	弥生土器	甕 底部	角閃石・白色 粒子	黒褐色	にぶい黄褐色	ケズリ?・指頭 痕	ハケメ・指頭 痕	-	5.1+a	4.6	-	ハケメ (7 本 /cm)
20SD001 d 区下層	第 153 図	582	弥生土器	甕 底部	角閃石・白色 粒子・褐色粒 子	黒色	灰白色	指頭痕	ナデ・ハケメ	-	4.0+a	4.5	-	ハケメ (4～5 本 / cm)
20SD001 d 区中層	第 153 図	583	弥生土器	甕 底部	雲母・角閃石・ 赤褐色粒子・ 白色粒子	にぶい褐色～ 褐色	明褐色～褐色	ナデ	ナデ・ハケメ ・工具痕	-	3.4+a	(2.4)	-	ハケメ (8 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 153 図	584	弥生土器	甕 底部	角閃石・白色 粒子・長石・ 石英	にぶい黄色～ 黒褐色	灰黄色	ナデ	ハケメ後ナデ ・ヨコナデ・ ハケメ後ナデ	-	2.9+a	4.5	-	黒斑・内面磨耗の 為調整不明
20SD001 d 区下層	第 153 図	585	弥生土器	甕 底部	石英・長石・ 雲母	褐色～灰白色	灰色	ケズリ	ナデ・指頭痕	-	4.2+a	5.2	-	
20SD001 f 区上層	第 153 図	586	弥生土器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい褐色	灰白色	指オサエ後ナ デ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	-	5.1+a	3.9	-	黒変
20SD001 f 区上層	第 153 図	587	弥生土器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	浅黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・指オサエ 後ナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	-	4.5+a	7.5	-	一部黒変

第 48 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 47

遺構名	挿図番号	遺物番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径 / 長	器高 / 幅	底径 / 厚	最大胴部径 / 重さ	
20SD001 f 区上層	第 153 図	588	弥生土器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	にぶい黄橙色	灰白色	ナデ・指頭痕	ハケメ後ナデ・ 指頭痕	-	7.5+ α	3.1	-	ハケメ (8 ~ 9 本 / cm)
20SD001 c 区上層	第 153 図	589	土師器	甕 底部	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	褐灰色	にぶい橙色	ナデ・ハケメ・ ケズリ	ケズリ後ナデ・ ハケメ	-	7.5+ α	5.2	-	ハケメ (8 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 153 図	590	弥生土器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	明褐灰色	にぶい橙色～ 褐色	指オサエ後ナ デ	指オサエ後ハ ケメ後ナデ	-	6.8+ α	3.6	-	一部黒変
20SD001 d 区中層	第 153 図	591	弥生土器	甕 底部	雲母・黒色粒 子・赤褐色粒 子・白色粒子	明褐灰色	橙色～灰白色	ケズリ・指頭痕	ハケメ	-	3.4+ α	2.4	-	ハケメ (5 本 /cm)
20SD001 d 区下層	第 153 図	592	弥生土器	甕 底部	石英・雲母・ 黒色粒子	灰白色	灰白色～褐灰 色	ケズリ	ナデ・ハケメ	-	2.6+ α	(3.4)	-	ハケメ (5 本 /cm)・ 外面黒斑
20SD001 f 区上層	第 153 図	593	弥生土器	甕 底部	白色粒子・角 閃石・石英・ 長石	にぶい黄色	明赤褐色	ナデ	ナデ	-	4.2+ α	2.3/1.8	-	外面磨耗の為調整 不明・底部楕円形
20SD001 b 区下層	第 153 図	594	弥生土器	甕 底部	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	暗灰色	にぶい橙色	ナデ・指オサエ	ハケメ後ナデ・ ナデ	-	4.3+ α	3.7	-	ハケメ (7 本 /cm)
20SD001 d 区中層	第 153 図	595	弥生土器	甕 底部	雲母・赤褐色 粒子・白色粒 子	灰白色	浅黄褐色	ケズリ	ミガキ・指頭 痕	-	4.0+ α	4.7	-	外面底部黒斑
20SD001 f 区上層	第 153 図	596	弥生土器	甕 底部	角閃石・白色 粒子・赤色粒 子・石英・長 石	にぶい橙色	にぶい橙色～ 褐灰色	ハケメ・ナデ	ハケメ	-	5.2+ α	3.1	-	
20SD001 d 区中層	第 153 図	597	弥生土器	甕 底部	雲母・白色粒 子	灰白色	黒色	ケズリ	ナデ	-	3.4+ α	6.2	-	外面底部黒斑 ?
20SD001 f 区上層	第 153 図	598	弥生土器	甕 底部	角閃石・長石・ 石英・白色粒 子・赤色粒子	灰黄褐色	にぶい黄褐色	ハケメ後ナデ・ 指オサエ	ナデ・ハケメ 後ナデ	-	7.8+ α	3.8	-	
20SD001 d 区下層	第 153 図	599	弥生土器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	明赤褐色～に ぶい褐色	指オサエ後ナ デ	ナデ	-	8.2+ α	4.3	-	
20SD001 a 区下層	第 153 図	600	弥生土器	甕 底部	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・指オサエ	ハケメ	-	8.1+ α	4.6	-	
20SD001 f 区上層	第 153 図	601	弥生土器	甕 底部	角閃石・白色 粒子・赤色粒 子	黄灰色	明黄褐色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ・ ヨコナデ	-	6.2+ α	(4.6)	-	黒斑
20SD001 d 区中層	第 153 図	602	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	灰白色	灰白色～浅黄 褐色	ナデ・ハケメ後 ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	-	13.2+ α	-	-	ハケメ外 (7 ~ 8 本 /cm)・黒変
20SD001 d 区中層	第 153 図	603	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	赤褐色	赤褐色～赤色	ナデ	ミガキ・指頭 痕	-	14.9+ α	-	-	
20SD001 d 区中層・ 下層	第 153 図	604	土師器	甕		橙色	赤橙色	ハケメ後ナデ	ナデ	-	14.0+ α	-	-	ハケメ (4 ~ 6 本 / cm)・一部黒変
20SD001 c 区 P-47	第 153 図	605	弥生土器	甕×甌	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	橙色	ハケメ・指オサ エ	ハケメ	-	16.1+ α	-	-	ハケメ (10 本 / cm)・底部穿孔か ?
20SD001 c 区 P-87	第 153 図	606	弥生土器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	灰白色	灰白色	ナデ	ナデ・ハケメ ?	(12.9)	24.6	-	-	
20SD001 e 区上層 P-130	第 153 図	607	弥生土器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子 3 ~ 10mm 大の 小石	明赤褐色	明赤褐色	ナデ・ケズリ後 ナデ・ハケメ後 ナデ・指頭痕	工具ナデ・ハ ケメ後ナデ・ ハケメ後工具 ナデ・指頭痕	-	23.1+ α	-	-	
20SD001 b 区 遺構検出 面	第 154 図	608		土鍾	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	-	明赤褐色	-	指オサエ後ミ ガキ	8.2	3.7	3.4	-	
20SD001 f 区上層	第 154 図	609		土鍾	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	-	黒色	-	ミガキ・指頭 痕	6.3+ α	4.1	3.9	-	
20SD001 e 区上層 P-248	第 154 図	610		土鍾	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	-	橙色～明赤褐 色	-	ナデ後ミガキ ミガキ	9.8	4.2	4.2	-	
20SD001 f 区上層	第 154 図	611		土鍾	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	-	橙色	-	ハケメ後ミガ キ	7.3	3.5	3.5	-	
20SD001 f 区上層 P-255	第 154 図	612		土鍾	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	-	灰白色	-	指オサエ後ナ デ後ミガキ	8.1	3.9	0.4	-	黒変・接合痕
20SD001 f 区上層	第 154 図	613		土鍾	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	-	明褐色～黒色	-	ナデ後ミガキ ・指頭痕・指 オサエ後ミガ キ	7.5	3.3	3.2	-	
20SD001 f 区上層	第 154 図	614		土鍾	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	-	にぶい赤褐色	-	ナデ・ミガキ ・指頭痕・指 オサエ後ミガ キ	7.3	3.2	3.3	-	
20SD001 f 区上層	第 154 図	615		土鍾	長石・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	-	橙色	-	指オサエ後ナ デ	7.4	3.8	3.5	-	一部黒変
20SD001 d 区上層	第 154 図	616		土鍾	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	-	明赤褐色	-	指オサエ後ナ デ	7.5	3.4	3.2	-	一部黒変
20SD001 d 区上層	第 154 図	617		器種不明	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	工具ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ・指頭 痕	-	6.9+ α	-	-	ハケメ (12 本 /cm)
20SD001 f 区上層	第 154 図	618	石器	すり石						7.4	6.1	4.3	281.0g	安山岩

第 49 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 48

20SE001

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
20SE001 南半中層	第 156 図	001	ミニチュ ア土器	鉢	石英・長石・ 雲母	にぶい黄橙色	灰白色	指頭痕	指頭痕	3.3	2.5	-	-	
20SE001 上層	第 156 図	002	ミニチュ ア土器	高坏 坏部?	石英・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	指頭痕後ナデ	指頭痕後ナデ	6.2	2.1+α	-	-	
20SE001 P-5	第 156 図	003	土師器	小形器台	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい褐色	にぶい橙色	ナデ?・ハケメ ・指オサエ	ナデ・ハケメ	7.7	8.2	11.0	-	ハケメ(7本/cm)・ 全体的に摩耗によ り不明瞭
20SE001 中層 P-19	第 156 図	004	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい橙色	にぶい橙色	ミガキ・ナデ	ナデ・ケズリ ・指オサエ	14.0	4.1	-	-	
20SE001 P-9	第 156 図	005	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	明赤褐色	ナデ	ナデ・ケズリ	(11.0)	5.0	-	-	
20SE001 P-6	第 156 図	006	土師器	鉢	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ミガキ	ハケメ・ナデ	11.8	6.0	-	-	
20SE001 P-8・4 中層	第 156 図	007	土師器	小型丸底壺	長石・角閃石・ 赤色粒子	灰白色	灰白色	ナデ	ナデ・ハケメ	10.6	5.4	-	-	摩耗により不明瞭
20SE001 南半下層	第 156 図	008	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい褐色	にぶい褐色	ナデ	ナデ・ミガキ 後ヘラによる ナデ	(9.2)	6.2	-	-	
20SE001 P-2・上層	第 156 図	009	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄橙色	にぶい褐色	ナデ後ミガキ・ ミガキ	ナデ・ハケメ 後ミガキ	(14.5)	4.9	-	-	
20SE001 P-8	第 156 図	010	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	ナデ	ナデ・ミガキ ・ハケメ	(11.8)	14.0	-	13.4	ハケメ(8本/cm)・ 外面スス付着
20SE001 南半中層 20SD001 e 区上層 a 区上層	第 156 図	011	土師器	壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	褐色	褐色～にぶい 黄褐色	ハケメ後ヨコナ デ後ミガキ・ミ ガキ	ハケメ後ヨコ ナデ後ミガキ ・ハケメ後ミ ガキ	(13.1)	14.6	-	-	ハケメ(17～19本 /cm)
20SE001 P-10	第 156 図	012	土師器	小形複合口 縁壺	赤色粒子	にぶい褐色	褐色	ナデ後ミガキ・ ナデ・ケズリ	ナデ・ミガキ ・ミガキ後ハ ケメ	9.3	12.1	-	-	突帯貼付
20SE001 中層 P-12	第 156 図	013	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	黒褐色	褐色	ハケメ後ナデ・ ナデ・ハケメ・ ケズリ	波状文・ハケ メ・ハケメ後 ミガキ・ハケ メ後ケズリ	9.5	22.2	-	16.9	ハケメ(8本/cm)・ 突帯貼付
20SE001 中層 P-15	第 156 図	014	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	灰黄褐色～に ぶい黄褐色	灰白色～褐色	ハケメ・ハケメ 後ヨコナデ・指 頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	18.1	25.5+α	-	-	ハケメ(9～13本 /cm)・黒斑
20SE001 P-151	第 156 図	015	土師器	壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	灰白色	灰白色	ナデ・ハケメ・ ケズリ後ナデ	ハケメ・ナデ	13.8	25.6	-	(22.9)	ハケメ(12本/cm)
20SE001 中層 P-18 北半下層 20SD001 e 区上層 P-98	第 156 図	016	土師器	壺	石英・長石・ 雲母・赤色粒 子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・ケズリ・ 指オサエ	ナデ・ハケメ 後ナデ	17.3	32.6	-	29.8	ハケメ(8本/cm)
20SE001 中層 P-20	第 157 図	017	土師器	小形甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	灰白色	浅黄褐色	ミガキ・ハケメ 後ミガキ	ナデ・ハケメ 後ミガキ	(12.4)	8.1	-	-	ハケメ(11本/cm)
20SE001 P-6	第 157 図	018	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・指オサエ	ナデ・ハケメ	12.1	13.1	-	-	ハケメ(4本/cm)
20SE001 中層 P-18 北半下層 南半中層 20SD001 e 区上層 P-98	第 157 図	019	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ハケメ・ハケメ 後ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	15.8	21.7+α	-	-	ハケメ(8～10本 /cm)・スス付着
20SE001 P-25	第 157 図	020	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・ハケメ・ ケズリ	ナデ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ	16.8	23.7	-	20.9	ハケメ(9本/cm)
20SE001 中層	第 157 図	021	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ナデ・指オサエ ・ハケメ後ミガ キ・ケズリ	ナデ・ハケメ	17.7	26.5	-	21.8	ハケメ(10本/cm)
20SE001 中層 P-18・21 SD001 e 区上層 P-98 e 区中層	第 157 図	022	土師器	甕	雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	にぶい黄褐色	褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ミ ガキ	ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ	17.6	23.5+α	-	18.8	ハケメ(7～11本 /cm)・スス付着
20SE001 中層	第 157 図	023	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい褐色	褐色	ハケメ後ナデ・ ハケメ後ミガキ ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	15.4	26.3	-	21.8	ハケメ(7本/cm)
20SE001 中層 P-21 20SD001 e 区上層	第 157 図	024	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	褐色	褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ミガキ・ケ ズリ後ミガキ・ 指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ	16.7	21.1+α	-	21.0	ハケメ(9～11本 /cm)
20SE001 P-4	第 157 図	025	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	褐色	褐色	ハケメ後ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	15.0	24.6	-	20.6	ハケメ(7本～10 本/cm)・スス付着
20SE001 中層 P-16・22	第 157 図	026	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石	にぶい黄褐色 ～褐色	褐色	工具ナデ・ヨコ ナデ・ハケメ 後ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	15.3	22.6+α	-	19.2	ハケメ(5～6本/ cm)・黒斑・スス 付着
20SE001 上層・中層	第 158 図	027	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	褐色	褐色	ナデ・ハケメ・ ケズリ	ナデ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ	15.8	28.0	-	(23.8)	ハケメ(9本/cm)・ スス付着
20SE001 P-3	第 158 図	028	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	黒褐色	にぶい赤褐色	ナデ・指オサエ ・ハケメ後ナデ ・ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	16.8	25.2	-	21.6	ハケメ(6本/cm) (12本/cm)
20SE001 北半中層	第 158 図	029	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	灰白色～褐色	灰白色～褐色	ヨコナデ・ハケ メ後一部ハケ メ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	(16.6)	20.4+α	-	20.7	ハケメ(7～8本/ cm)・黒斑・スス 付着
20SE001 上層 20SD001 e 区上層	第 158 図	030	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	灰黄褐色～褐 色	褐色～にぶい 黄褐色	ケズリ後ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ後ヨコナデ	(18.4)	27.1+α	-	25.2	ハケメ(6～7本/ cm)・黒斑

第 50 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 49

20SE018

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
20SE018 P-4	第 160 図	001	土師器	高坏坏部	石英・長石・ 雲母・角閃石	浅黄褐色	浅黄褐色	ハケメ後ナデ	ナデ・ハケメ 後ナデ	14.9	5.6+α	-	-	ハケメ (10 本 /cm)
20SE018 P-6	第 160 図	002	土師器	高坏坏部	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	橙色	淡褐色	ナデ後ミガキ	ナデ・ナデ後 ミガキ	14.8	5.7+α	-	-	
20SE018 P-6	第 160 図	003	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	橙色	にぶい橙色	ハケメ後ナデ・ ナデ	ナデ・ケズリ 後ハケメ	13.0	7.1	-	-	ハケメ (6 本 /cm)
20SE018 P-1	第 160 図	004	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	浅黄褐色	浅黄褐色	ナデ	ナデ・ハケメ	10.8	11.0	-	-	ハケメ (7 本 /cm)
20SE018 北半下層	第 160 図	005	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい褐色	灰黄褐色	ナデ・ハケメ・ 指オサエ	ナデ・ハケメ 後ナデ	(14.0)	10.5+α	-	-	ハケメ (10 本 /cm)
20SE018 P-5	第 160 図	006	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石・ 赤色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ハケメ後ナデ・ 指オサエ後ハ ケメ・ハケメ	ナデ・ハケメ 後ナデ・ハケ メ	15.1	20.1+α	-	(22.2)	ハケメ (5 本 /cm)(8 本 /cm)
20SE018 P-2	第 160 図	007	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい褐色	にぶい黄褐色	ハケメ・ナデ	ナデ・ハケメ	(14.2)	17.9+α	-	(20.7)	ハケメ (8 本 /cm)
20SE018 西半下層	第 160 図	008	石器	砥石						19.0	8.7	7.7	1,267.0g	砂岩

32SD001

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
32SD001 J7 暗褐砂質土	第 163 図	001	ミヅ17土器	鉢	長石・赤褐色 粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・指頭 痕	ナデ・ハケメ 痕	4.6	3.4	-	-	ハケメ (7 本 /cm)・ 外面黒斑
32SD001 I9 暗褐砂質土	第 163 図	002	ミヅ17土器	鉢	石英・長石・ 赤褐色粒子	黄褐色	黒褐色	指頭痕	指頭痕	7.3	4.4	4.4	-	内外面黒斑
32SD001 I8 暗褐砂質土 暗褐粘質土	第 163 図	003	土師器	小型器台	石英・長石・ 赤褐色粒子	黄褐色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ナデ・ヨコナ デ・ミガキ・ ケズリ	(10.4)	7.3	12.7	-	ハケメ (8 本 /cm)・ 穿孔 4 箇所
32SD001 I10 暗褐砂質土	第 163 図	004	土師器	小型器台	石英・長石・ 雲母・赤褐色 粒子	橙色	橙色	ナデ・ミガキ	ミガキ	-	7.5+α	(10.0)	-	
32SD001 H11 暗褐粘質土	第 163 図	005	土師器	高坏	石英・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色	ミガキ・絞り痕	ミガキ・ケズ リ	-	11.6+α	-	-	穿孔 10 箇所
32SD001 H12 暗褐砂質土 E	第 163 図	006	土師器	高坏	石英・角閃石・ 白色粒子・茶 褐色粒子	明褐灰色	にぶい黄褐色 ～褐色	ナデ・ハケメ後 ミガキ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ	24.1	17.3	17.2	-	ハケメ (10 本 /cm)・ 穿孔 7 箇所
32SD001 I9 暗褐砂質土 暗褐粘質土	第 163 図	007	土師器	高坏	角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ハ ケメ後ナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ヨコ ナデ・ミガキ	21.2	15.8	(15.2)	-	ハケメ (9 本 /cm)・ 穿孔 3 箇所
32SD001 I10 暗褐粘質土	第 163 図	008	土師器	高坏	微砂粒	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ミガ キ	ヨコナデ・ミ ガキ	22.6	15.2	16.6	-	内面黒斑・穿孔 3 箇 所
32SD001 H12 暗褐砂質土 F I10 暗褐粘 質土 I	第 163 図	009	土師器	高坏	赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色	ナデ・ミガキ	ナデ・ヨコナ デ	(20.6)	13.2	14.6	-	穿孔 3 箇所
32SD001 H12 暗褐砂質土	第 163 図	010	土師器	高坏 坏部	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	明黄褐色	明赤褐色	ミガキ・ケズリ	ハケメ・ケズ リ・ケズリ後 ミガキ	(21.4)	8.7+α	-	-	ハケメ (10 本 /cm)
32SD001 I9 暗褐粘質土 暗褐砂質土 I10 ベルト	第 163 図	011	土師器	高坏	角閃石・赤褐 色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ヨコナデ・ケズ リ・ミガキ	ヨコナデ・ミ ガキ	(19.2)	9.6+α	-	-	内外面黒斑・穿孔 3 箇所
32SD001 H11・ H 12 暗褐砂質土	第 163 図	012	土師器	高坏 脚部	白色粒子・褐 色粒子	橙色～灰白色	橙色～灰白色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ・指オサ エ	-	9.7+α	13.8	-	ハケメ (11 本 /cm)・ 穿孔 3 箇所
32SD001 I11 トレンチ	第 163 図	013	弥生土器	高坏 脚部	角閃石・赤褐 色粒子・白色 粒子	橙色	橙色	ミガキ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ミガキ	-	13.6+α	15.2	-	ハケメ (5 本 /cm)・ 内外面赤色塗彩・穿 孔 6 箇所
32SD001 I9 暗褐砂質土	第 163 図	014	土師器	高坏	石英・雲母・ 赤褐色粒子・ 白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハ ケメ・ミガキ・ ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ケズリ 後ミガキ	-	9.5+α	(11.6)	-	ハケメ (8 本 /cm)
32SD001 I10 暗褐砂質土	第 163 図	015	土師器	鉢	雲母・赤褐色 粒子・白色粒 子	浅黄色	明黄褐色	ヨコナデ・ミガ キ	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ	(13.4)	6.2	-	-	ハケメ (10 本 /cm)・ 外面黒斑
32SD001 I10 暗褐粘質土	第 163 図	016	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤褐 色粒子	にぶい褐色	橙色	ケズリ・ケズリ 後ナデ	ナデ・ケズリ ・指頭痕	10.2	3.9	-	-	
32SD001 I8 暗褐砂質土 暗褐粘質土	第 163 図	017	土師器	鉢	角閃石・赤褐 色粒子・白色 粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ナデ 後ミガキ・ケズ リ	ヨコナデ・ケ ズリ後ナデ	(15.6)	5.1+α	-	-	内外面黒斑
32SD001 I11 暗褐砂質土 暗褐粘質土	第 163 図	018	土師器	鉢	石英・長石・ 赤褐色粒子	明黄褐色	黄褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ	20.8	7.3	-	-	ハケメ (5 本 /cm)(12 本 /cm)
32SD001 I9 暗褐砂質土	第 163 図	019	土師器	鉢	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	黄褐色	明黄褐色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	16.2	7.7	-	-	ハケメ (8 本 /cm) 外 面黒斑
32SD001 I9 暗褐砂質土 暗褐粘質土	第 163 図	020	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤褐 色粒子	淡黄色	にぶい黄色	ナデ	ヨコナデ	10.8	6.0	-	-	外面黒斑
32SD001 I8 暗褐砂質土	第 163 図	021	土師器	鉢	石英・長石・ 角閃石・赤褐 色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・工具 痕?	ヨコナデ・ハ ケメ	(10.4)	6.0	-	-	ハケメ (8 本 /cm)

第 51 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 50

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
32SD001 I11 暗褐粘質土 L	第 163 図	022	土師器	鉢	石英・角閃石・ 赤褐色粒子	浅黄色	にぶい黄色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	16.0	7.9	-	-	ハケメ (9 本 /cm) 外 面黒斑
32SD001 I8 暗褐砂質土 カクラン	第 163 図	023	土師器	鉢	長石・雲母・ 角閃石	橙色	橙色	ヨコナデ・ミガ キ	ヨコナデ・ハ ケメ	(15.6)	7.4	-	-	ハケメ (11 本 /cm)
32SD001 I12 暗褐砂質土 F	第 163 図	024	土師器	鉢	石英・赤褐色 粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハ ケメ	ヨコナデ・ハ ケ後ミガキ・ ケズリ	16.2	5.0	5.3	-	ハケメ (8 本 /cm) 外 面黒斑
32SD001 H10 暗褐砂質土 A	第 164 図	025	土師器	台付鉢	角閃石・白色 粒子	灰黄褐色	にぶい褐色	ナデ?	ナデ?・ミガキ ・紋り痕	12.6	8.6	7.4	-	全体の歪み・摩滅著 しく調整不明瞭
32SD001 I9 暗褐砂質土	第 164 図	026	土師器	台付鉢	雲母・角閃石・ 赤褐色粒子・ 白色粒子	にぶい褐色	にぶい褐色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	(12.2)	5.9	6.4	-	ハケメ (10 本 /cm)
32SD001 I8 暗褐粘質土	第 164 図	027	土師器	台付鉢	石英・長石・ 角閃石・赤褐 色粒子	灰褐色	橙色	ヨコナデ・ミガ キ	ナデ・ヨコナ デ・ミガキ・ 指頭痕	(12.0)	6.3+α	-	-	
32SD001 I10 暗褐砂質土	第 164 図	028	土師器	台付鉢脚部	長石・赤褐色 粒子	淡黄色	灰白色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ・指頭痕	-	4.7+α	8.6	-	ハケメ (8 本 /cm)
32SD001 I10 暗褐砂質土	第 164 図	029	土師器	台付鉢脚部	石英・長石・ 雲母・赤褐色 粒子・白色粒 子	にぶい褐色	橙色	ヨコナデ・ハ ケメ	ヨコナデ・ハ ケメ・指頭痕	9.6	3.0+α	9.9	-	ハケメ (12 本 /cm)
32SD001 H12 暗褐砂質土	第 164 図	030	土師器	台付鉢	角閃石・赤褐 色粒子・白色 粒子	褐色	明赤褐色	ナデ・ケズリ後 ヨコナデ	ハケメ or ヨコ ナデ?・ケズリ	-	3.1+α	7.8	-	ハケメ (8 本 /cm)
32SD001 I10 暗褐粘質土 J	第 164 図	031	土師器	鉢	石英・長石・ 赤褐色粒子	褐色	褐色	ヨコナデ・ミガ キ	ヨコナデ・ミ ガキ	17.6	6.1	-	-	
32SD001 I10 暗褐粘質土 I	第 164 図	032	土師器	鉢	雲母・赤褐色 粒子・白色粒 子	にぶい褐色	にぶい褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ミガ キ・ケズリ後ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ	30.2	22.8	14.5	-	ハケメ (8 本 /cm)・ 内外面黒斑
32SD001 I10 暗褐粘質土 I11 暗褐砂質 土	第 164 図	033	土師器	鉢	石英・長石・ 赤褐色粒子	浅黄褐色	褐色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ・ミガ キ	ヨコナデ・ハ ケメ・ミガキ	(38.2)	19.8+α	-	-	ハケメ (8 本 /cm)
32SD001 H12 暗褐砂質土 F	第 164 図	034	土師器	鉢	白色粒子・黒 褐色粒子	褐色	褐色～灰黄色	ヨコナデ・ハ ケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	(26.3)	23.5	8.9	-	ハケメ (9 本 /cm)・ 外面黒斑
32SD001 I10 暗褐粘質土 I 暗褐砂質土 G	第 164 図	035	土師器	鉢	長石・赤褐色 粒子	淡褐色	褐色	ヨコナデ・ハ ケメ	ヨコナデ・ハ ケメ	32.0	16.6	-	-	ハケメ (5 本 /cm)(10 本 /cm)・内外面黒化 ・スス付着
32SD001 I9 暗褐砂質土	第 164 図	036	弥生土器	鉢	石英・長石・ 雲母・赤褐色 粒子	褐色	褐色	ナデ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ 指頭痕	(8.4)	6.3	1.9	-	ハケメ (8 本 /cm)
32SD001 I9 暗褐粘質土	第 164 図	037	弥生土器	鉢	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	灰白色	浅黄褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・指頭痕	16.1	9.1	5.5	-	ハケメ (10～12 本 /cm)・内外面黒斑・ 内面赤色塗彩?
32SD001 H10 暗褐砂質土 A	第 165 図	038	土師器	小型丸底壺	角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	にぶい褐色	灰白色～褐色	ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	13.1	8.3	-	-	ハケメ (5 本以上 / cm)・内外面黒斑・ 外面赤色塗彩
32SD001 I10 暗褐砂質土 B	第 165 図	039	土師器	小型丸底壺	角閃石・赤褐 色粒子・白色 粒子	褐色	褐色	ヨコナデ・ケズ リ	ハケメ後ヨコ ナデ・ケズリ 後ナデ・指頭 痕・ケズリ	(14.5)	8.0	-	-	ハケメ (8 本 /cm)・ 外面赤色塗彩?・内 面黒化
32SD001 H10・I10 暗褐砂質土 A	第 165 図	040	土師器	小型丸底壺	石英・雲母・ 赤褐色粒子	褐色	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ・ミ ガキ・ケズリ ・ケズリ後ナ デ	(10.8)	6.9	-	-	
32SD001 I12 暗褐砂質土 F	第 165 図	041	土師器	小形の丸底 鉢	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	にぶい黄色	浅黄色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ・指頭痕	(11.0)	8.3	-	-	ハケメ (5 本 /cm)・ 内外面黒斑
32SD001 I11 暗褐砂質土	第 165 図	042	土師器	小形の丸底 鉢	長石・角閃石	褐色	黄灰色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	(12.0)	6.9+α	-	-	ハケメ (9 本 /cm)
32SD001 I8 暗褐砂質土 暗褐粘質土	第 165 図	043	土師器	丸底鉢	雲母・角閃石・ 白色粒子・黒 色粒子	にぶい黄褐色	褐色～にぶい 黄褐色	ナデ・ハケメ・ ハケメ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	23.1	12.3+α	-	-	ハケメ (11 本 /cm)・ 内スス付着・口縁部 内面褐色に変色
32SD001 I10・I11 暗褐粘質土 J	第 165 図	044	土師器	直口壺	白色粒子	褐色	褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・指頭 痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ケズリ	(12.8)	19.6+α	-	-	ハケメ (11 本 /cm)・ スス付着
32SD001 I9・I10 暗褐粘質土	第 165 図	045	土師器	直口壺	石英・角閃石・ 赤褐色粒子	赤褐色	明赤褐色	ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ミ ガキ	-	10.7+α	-	-	内外面赤色塗彩・内 外面黒斑
32SD001 I10 暗褐粘質土 I	第 165 図	046	土師器	直口壺	雲母・角閃石・ 白色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ハ ケメ・ケズリ・ ケズリ後ナデ・ 指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	-	15.0+α	-	-	ハケメ (6 本 /cm)
32SD001 I10 暗褐粘質土 暗褐粘質土 J	第 165 図	047	土師器	小形壺	石英・長石・ 赤褐色粒子	にぶい褐色	褐色	ヨコナデ・ハ ケメ・ケズリ・ ケズリ後ナデ・ 指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ・指頭痕	(12.0)	15.4	-	-	ハケメ (6 本 /cm)(8 本 /cm)(10 本 /cm)
32SD001 I9 暗褐砂質土	第 165 図	048	土師器	小形壺	雲母・赤色粒 子・白色粒子	明赤褐色	褐色～褐灰色	工具ナデ・ハ ケメ	工具ナデ・ヨ コナデ・ハ ケメ	(11.8)	15.0	-	-	ハケメ (6 本 /cm)・ 外面黒斑
32SD001 H11 暗褐砂質土 ベリト	第 165 図	049	土師器	小形壺	角閃石・白色 粒子・黒色粒 子	褐色	灰黄色～褐色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ ケズリ	11.7	14.4	-	-	ハケメ (10 本 /cm)・ スス付着

第 52 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 51

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴径/ 重さ	
32SD001 I9 暗褐砂質土 暗褐粘質土	第 165 図	050	土師器	壺	赤色粒子・白 色粒子	橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・ケズ リ・ケズリ後ナ デ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ・指頭痕	(13.4)	27.2	-	-	ハケメ (5 本 /cm)・ 内面黒斑・スス付着
32SD001 I10・I11 暗褐粘質土	第 165 図	051	土師器	壺	長石・赤褐色 粒子	浅黄褐色	浅黄褐色	ナデ・工具ナデ ・ヨコナデ・ハ ケメ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ケズリ	(16.2)	35.4	-	-	ハケメ (7 本 /cm)・ 外面黒斑
32SD001 I8 暗褐砂質土 暗褐粘質土	第 165 図	052	土師器	壺	雲母・赤色粒 子・白色粒子	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ・ハケメ・ 指頭痕	ハケメ	(16.1)	17.5+α	-	-	ハケメ (10 本 /cm)
32SD001 I11 暗褐砂質土 H	第 165 図	053	土師器	壺	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ ・指頭痕	工具ナデ・ヨ コナデ・指頭 痕	15.6	24.7+α	-	-	口縁部黒斑・粘土継 ぎ目
32SD001 I11 暗褐粘質土 K	第 166 図	054	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 角閃石	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ミガキ	13.4	44.4	-	-	ハケメ (8 本 /cm)・ 外面赤色塗彩か・外 面黒斑・突帯
32SD001 I12 暗褐砂質土 F	第 166 図	055	土師器	複合口縁壺	長石・赤褐色 粒子	黄褐色	黄褐色	工具ナデ・ヨコ ナデ・ハケメ・ 指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ 口縁部刻み目	-	20.0+α	-	-	頸部・胴部突帯
32SD001 I9 暗褐砂質土 暗褐粘質土 I11 暗褐砂質 土 D トレンチ I12 暗褐砂 質土 F G11	第 166 図	056	土師器	複合口縁壺	雲母・白色粒 子・褐色粒子	褐灰色～にぶ い橙色	黄褐色～明赤 褐色	ヨコナデ・ハケ メ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	23.8	63.6+α	-	-	ハケメ (5 本 /cm)(8 本 /cm) 外面黒斑・ 突帯
32SD001 I10 暗褐粘質土 I 暗褐砂質土 I	第 167 図	057	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・ 白色粒子・褐 色粒子	浅黄褐色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・工具 痕	ナデ・ヨコナ デ・ヨコナデ 後櫛描波状文 ・ハケメ後ヨ コナデ	15.0	43.0	-	-	ハケメ内 (4 本 /cm) 外 (6 本 /cm)(8 本 / cm)・内外面黒斑 突 帯
32SD001 I8・H12 暗褐砂質土 I9 暗褐砂質 土 暗褐粘質土	第 167 図	058	土師器	複合口縁壺	長石	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・指頭痕	ナデ・ハケメ ・櫛描波状文	-	47.7+α	-	-	ハケメ (7～9 本 / cm)・外面黒斑
32SD001 I10 暗褐粘質土 J	第 167 図	059	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・ 白色粒子・褐 色粒子	褐色～にぶい 黄褐色	褐色～にぶい 黄褐色	ヨコナデ・ナデ 後ハケメ・指頭 痕	ナデ・工具ナ デ・ヨコナデ ・ハケメ・櫛 描波状文	16.7	41.1	-	-	ハケメ (9 本 /cm)・ 外面黒斑・突帯
32SD001 I11 暗褐砂質土 D	第 167 図	060	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・ 白色粒子・黒 色粒子・褐色 粒子	褐色	褐色	ナデ・ハケメ・ 指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ・櫛描波 状文	17.4	39.7	-	-	ハケメ (6 本 /cm)・ スス付着・突帯
32SD001 I10 暗褐砂質土 J	第 168 図	061	土師器	複合口縁壺	雲母・赤色粒 子・白色粒子	にぶい橙色	褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ・ツマミ	-	38.0+α	-	-	ハケメ (5 本 /cm)(8 本 /cm)・外面黒斑・ 頸部突帯
32SD001 I11 暗褐砂質土 D I12 暗褐砂 質土 H11 暗褐砂 質土 H12 暗褐砂 質土 F	第 168 図	062	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 赤褐色粒子	淡褐色	褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ 櫛描波状文	18.8	48.0	-	-	ハケメ (4 本 /cm)(6 ～8 本 /cm)・外面 黒斑
32SD001 I10 暗褐粘質土 I	第 168 図	063	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・ 白色粒子	褐色～褐灰色	褐色～浅黄褐 色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ヨコ ナデ・指頭痕	ハケメ・櫛描 波状文・工具 痕	13.8	12.0+α	-	-	ハケメ (5 本 /cm)(13 本 /cm)・スス付着・ 突帯
32SD001 I10 暗褐砂質土 I	第 168 図	064	土師器	複合口縁壺	白色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ ・櫛描波状文・ ケズリ	15.7	11.5+α	-	-	ハケメ (12 本 /cm)
32SD001 H11 暗褐砂質土 ベルト I11 暗褐粘質 土	第 168 図	065	土師器	複合口縁壺	雲母・角閃石・ 白色粒子	灰褐色	褐色～明赤褐 色	ヨコナデ・ハケ メ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ・キサミ 目・工具痕・ 線刻	17.0	46.8	-	-	ハケメ (6 本 /cm)・ 外面黒斑・突帯
32SD001 J7・I8 暗褐砂質土	第 169 図	066	土師器	複合口縁壺	角閃石・白色 粒子	褐色	褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ミガ キ	ヨコナデ・ミ ガキ	(24.0)	14.7+α	-	-	ハケメ (10 本 /cm)・ 突帯
32SD001 I12 暗褐砂質土	第 169 図	067	土師器	複合口縁壺	長石・角閃石・ 赤色粒子	淡褐色	淡褐色～褐色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(11.6)	19.7+α	-	-	ハケメ (8～10 本 / cm)・スス付着
32SD001 I10 暗褐砂質土 G	第 169 図	068	土師器	二重口縁壺	石英・雲母・ 白色粒子	褐色	褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ	ヨコナデ	16.0	8.0+α	-	-	
32SD001 H12 暗褐砂質土 E	第 169 図	069	土師器	二重口縁壺	雲母・角閃石・ 赤色粒子・白 色粒子	灰赤色～褐色	褐色～にぶい 褐色	工具ナデ・ヨコ ナデ・ケズリ・ 粘土紐痕	ナデ・工具ナ デ・ヨコナデ ハケメ	(18.7)	41.9	-	-	ハケメ (8 本 /cm)・ スス付着・黒斑
32SD001 I9 暗褐砂質土 C	第 169 図	070	土師器	二重口縁壺	雲母・角閃石・ 白色粒子	明赤褐色	にぶい赤褐色	ヨコナデ・ハケ メ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ	(19.0)	34.6	-	-	ハケメ (9 本 /cm)・ 外面黒斑
32SD001 I11 暗褐粘質土	第 169 図	071	土師器	二重口縁壺	白色砂礫	明赤褐色	明赤褐色	ケズリ	ナデ・ケズリ ・指頭痕	15.8	23.5	-	-	スス付着・全体の磨 減著しい
32SD001 I9 暗褐砂質土	第 169 図	072	土師器	二重口縁壺	石英・角閃石・ 白色粒子・茶 色粒子	黄灰色	灰白色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ケズ リ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ後 ナデ	14.0	29.6	-	-	ハケメ (8 本 /cm)(11 本 /cm)・外面黒斑・ 内面黒色化・スス付 着
32SD001 I10 暗褐砂質土 暗褐粘質土 暗褐粘質土	第 170 図	073	土師器	二重口縁壺	雲母・角閃石・ 白色粒子・褐 色粒子	明褐灰色～橙 色	明褐灰色～橙 色	工具ナデ・ヨコ ナデ・ハケメ・ 指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ	28.8	36.5	-	-	ハケメ (8 本 /cm)・ 外面黒斑

第 53 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 52

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
32SD001 I10 暗褐砂質土	第 170 図	074	土師器	二重口縁壺	雲母・白色粒 子	黒褐色	にぶい黄褐色 ～橙色	ナデ・ハケメ	ハケメ後ミガ キ	-	21.3+ <i>a</i>	-	-	ハケメ (10 本 /cm)・ 内外面頸部赤色差彩 ・外面黒斑・内面黒 色化
32SD001 I11 暗褐砂質土 H	第 170 図	075	土師器	二重口縁壺	角閃石・赤褐 色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ハケメ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ	-	38.0+ <i>a</i>	-	-	ハケメ (9 本 /cm)(10 本 /cm) 磨減著しい
32SD001 I12 暗褐砂質土 E	第 171 図	076	土師器	壺	雲母・赤色粒 子・白色粒子	明赤褐色～褐 灰色～黒色	赤褐色～褐灰 色	ナデ・工具ナデ ・ハケメ・指頭 痕	ヨコナデ・ハ ケメ	13.3	24.9	-	-	ハケメ (10 本 /cm)
32SD001 I10 暗褐粘質土 J	第 171 図	077	土師器	壺	石英・赤褐色 粒子	にぶい橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ タタキ	14.2	25.2	-	-	ハケメ (5 本 /cm)
32SD001 I9 暗褐砂質土	第 171 図	078	弥生土器	壺	雲母・角閃石・ 赤褐色粒子・ 白色粒子	橙色	橙色～にぶい 褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ	13.9	14.7	-	-	ハケメ (11 本 /cm)・ 内外面黒斑
32SD001 I10 暗褐粘質土 J	第 171 図	079	弥生土器	長頸壺	長石・雲母・ 赤褐色粒子	にぶい橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ	ミガキ・ケズ リ	-	9.3+ <i>a</i>	-	-	ハケメ (10 本 /cm)
32SD001 I10 暗褐粘質土 I11 暗褐粘質 土 L	第 171 図	080	弥生土器	複合口縁壺	石英・長石・ 角閃石・赤褐 色粒子	浅黄褐色	浅黄褐色	ナデ・ハケメ	ハケメ・櫛描 波状文	13.4	25.1	-	-	ハケメ (6 本 /cm)(9 本 /cm)・外面黒斑・ 安国寺系
32SD001 I8 暗褐砂質土 灰褐砂質土	第 171 図	081	弥生土器	複合口縁壺	雲母・角閃石・ 赤褐色粒子・ 白色粒子	浅黄褐色～橙 色	浅黄褐色～橙 色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・指頭 痕	ハケメ	13.6	29.1+ <i>a</i>	-	-	ハケメ (11 本 /cm)・ スス付着
32SD001 H11 暗褐粘質土	第 171 図	082	弥生土器	壺底部	石英・長石・ 角閃石・赤色 粒子	にぶい橙色	にぶい褐色	ナデ	ケズリ・ケズ リ後ナデ	-	8.4+ <i>a</i>	9.7	-	外面黒斑
32SD001 H11 暗褐砂質土 ベルト	第 172 図	083	土師器	甕	角閃石・白色 粒子・褐色粒 子	にぶい橙色	橙色～赤褐色	ヨコナデ・ハケ メ・ミガキ・ケ ズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	(17.6)	33.0	-	22.2	内面スス付着
32SD001 I8 暗褐砂質土	第 172 図	084	土師器	甕	赤色粒子・白 色粒子	明赤褐色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	17.1	29.2+ <i>a</i>	-	23.8	ハケメ (8 本 /cm)・ スス付着
32SD001 I10 暗褐砂質土 G	第 172 図	085	土師器	甕	雲母・白色粒 子	にぶい橙色	にぶい黄褐色 ～黒褐色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	20.1	28.5	-	25.2	ハケメ (9～11 本 / cm)
32SD001 I10・I11 暗褐砂質土	第 172 図	086	土師器	甕	雲母・赤色粒 子・白色粒子・ 黒色粒子	橙色～褐灰色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ・ケ ズリ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	22.0	33.9	-	28.4	ハケメ (4 本 /cm)(8 本 /cm)・スス付着
32SD001 I10 暗褐粘質土 J	第 172 図	087	土師器	甕	石英・長石	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ	16.2	25.3	-	18.3	ハケメ (8 本 /cm)・ スス付着
32SD001 I11 暗褐砂質土 H	第 172 図	088	土師器	甕	角閃石・赤褐 色粒子・白色 粒子	明黄褐色	橙色	ナデ・ハケメ・ 指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ケズリ・指頭 痕	(15.4)	21.9	-	18.0	外面黒斑
32SD001 I10 暗褐粘質土 I	第 172 図	089	土師器	甕	雲母・角閃石・ 白色粒子	赤褐色	赤褐色	ヨコナデ・ハケ メ・ハケメ後ナ デ・ケズリ・ケ ズリ後ナデ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	18.6	26.8	-	23.2	ハケメ (8 本 /cm)・ 内面黒色化・スス付 着
32SD001 I9 暗褐砂質土	第 173 図	090	土師器	甕	雲母・角閃石・ 白色粒子	にぶい橙色	橙色～にぶい 黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	17.6	25.4+ <i>a</i>	-	23.2	ハケメ (9 本 /cm)・ 内面黒斑・スス付着 ・二次焼成
32SD001 I10 暗褐砂質土	第 173 図	091	土師器	甕	雲母・白色粒 子	橙色	橙色	ハケメ・ミガキ	ヨコナデ・ハ ケメ	16.5	16.5+ <i>a</i>	-	21.2	ハケメ内 (4 本 /cm) 外 (11 本 /cm)・スス 付着
32SD001 I10 暗褐粘質土 I	第 173 図	092	土師器	甕	雲母・角閃石・ 白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・ハケ メ後ケズリ・ケ ズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	(17.0)	17.9+ <i>a</i>	-	20.7	ハケメ (9 本 /cm)・ スス付着
32SD001 I10 暗褐粘質土 I	第 173 図	093	土師器	甕	雲母・赤色粒 子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ・指頭痕	ヨコナデ・ケ ズリ	15.9	24.6+ <i>a</i>	-	23.0	ハケメ (12 本 /cm)・ スス付着
32SD001 I10 暗褐砂質土 G	第 173 図	094	土師器	甕	雲母・赤褐色 粒子・白色粒 子	橙色	にぶい黄褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ	(14.7)	23.1	-	19.3	ハケメ (9 本 /cm)・ 内面黒斑・スス付着 ・二次被熱による赤 変
32SD001 I10 暗褐砂質土 G 暗褐粘質土 I11 暗褐砂質 土 暗褐粘質土	第 173 図	095	土師器	甕	雲母・白色粒 子・茶色粒子	灰黄褐色～橙 色	にぶい黄褐色 ～橙色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ・指頭 痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	17.3	22.7+ <i>a</i>	-	20.2	ハケメ (10 本 /cm)・ スス付着
32SD001 I10 暗褐砂質土	第 173 図	096	土師器	甕	雲母・角閃石・ 赤褐色粒子・ 白色粒子	明赤褐色	にぶい黄褐色 ～明赤褐色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ・ケ ズリ後ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ミガキ ・ケズリ?	15.5	23.8	-	20.6	ハケメ (11 本 /cm)・ スス付着
32SD001 I10 暗褐砂質土	第 173 図	097	土師器	甕	角閃石・白色 粒子・茶褐色 粒子	橙色～褐灰色	橙色～褐灰色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ後ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ	(15.6)	21.6	-	19.7	ハケメ (7 本 /cm)・ スス付着
32SD001 I11 暗褐砂質土 D I12 暗褐砂 質土	第 173 図	098	土師器	甕	石英・角閃石	浅黄色	にぶい黄色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ・指頭 痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	20.0	23.6	-	21.7	ハケメ (12 本 /cm)・ スス付着
32SD001 I10 暗褐粘質土 I	第 173 図	099	土師器	甕	角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	黄灰色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ケズ リ・指頭痕	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ケ ズリ	15.5	16.8+ <i>a</i>	-	22.0	ハケメ (9 本 /cm)・ 内外面黒斑・スス付 着
32SD001 I11 トレンチ	第 173 図	100	土師器	甕	角閃石・赤褐 色粒子	橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	(15.4)	19.5+ <i>a</i>	-	21.5	ハケメ (10 本 /cm)・ スス付着
32SD001 I10 暗褐粘質土 J	第 173 図	101	土師器	甕	石英・長石	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ	16.2	17.5+ <i>a</i>	-	21.5	ハケメ (10 本 /cm)・ スス付着

第 54 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 53

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
32SD001 I9 暗褐砂質土 暗褐粘質土	第 174 図	102	土師器	甕	石英・雲母・ 赤色粒子・白 色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ後ナデ・指頭 痕・工具痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ケズリ・ケズ リ後ナデ	16.8	26.0	-	20.9	ハケメ(10本/cm)・ 外面黒斑・内面黒色 化
32SD001 I11 暗褐砂質土 H	第 174 図	103	土師器	甕	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	黄褐色	明黄褐色	ヨコナデ・ケズ リ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	16.0	23.5	-	21.5	ハケメ(10本/cm)・ 内外面黒斑・スス付 着
32SD001 H11 暗褐砂質土 ベリト	第 174 図	104	土師器	甕	角閃石・赤色 粒子・白色粒 子・黒色粒子	橙色	橙色～明褐灰 色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ・指頭 痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	(16.0)	24.6	-	21.4	ハケメ(8本/cm)・ スス附着
32SD001 I10 暗褐砂質土 暗褐粘質土	第 174 図	105	土師器	甕	角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	浅黄褐色	浅黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ケズリ・指 頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ケズリ	15.6	20.5	-	18.6	ハケメ(8本/cm)(10 本/cm)・スス附着
32SD001 I8 暗褐砂質土 暗褐粘質土	第 174 図	106	土師器	甕	角閃石・赤色 粒子・白色粒 子・黒色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ケズ リ・工具痕	ヨコナデ・ハ ケメ	15.6	20.6+α	-	19.6	ハケメ(9本/cm)・ スス附着
32SD001 I10 暗褐砂質土	第 174 図	107	土師器	甕	石英・長石・ 雲母・角閃石	灰黄色～黄灰 色	灰黄色～黄灰 色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ・指頭 痕	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ・ 工具痕	16.7	21.2	-	20.0	ハケメ(10～11本/ cm)・スス附着
32SD001 J7 暗褐砂質土	第 175 図	108	土師器	小形甕	角閃石・白色 粒子	にぶい黄褐色	にぶい橙色	ヨコナデ・指頭 痕	ヨコナデ・ハ ケメ	(8.6)	10.3	-	-	ハケメ(9本/cm)・ スス附着
32SD001 I8 暗褐砂質土	第 175 図	109	土師器	小形甕	長石・雲母	淡橙色	浅黄褐色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	15.5	10.4+α	-	-	ハケメ(6本/cm)・ 内面スス附着
32SD001 I9 暗褐砂質土	第 175 図	110	土師器	小形甕	雲母・赤褐色 粒子・白色粒 子	灰色～橙色	灰色～橙色	ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ	13.7	13.9	-	-	ハケメ(11本/cm)・ 内面黒斑・スス付 着
32SD001 I8 暗褐砂質土	第 175 図	111	土師器	小形甕	雲母・赤色粒 子・白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズ リ後工具ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	13.9	15.1	-	-	ハケメ(6本/cm)・ スス附着
32SD001 I11 暗褐砂質土 D	第 175 図	112	土師器	小形甕	角閃石・白色 粒子・黒色粒 子	明赤褐色	明赤褐色	工具ナデ・ハケ メ後ヨコナデ・ ケズリ・指頭痕 ・工具痕	ヨコナデ・ハ ケメ・指頭痕	(14.8)	18.2	-	-	ハケメ(8本/cm)・ スス附着
32SD001 H10 暗褐砂質土	第 175 図	113	土師器	小形甕	石英・角閃石・ 白色粒子	灰黄色	灰黄褐色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ・指頭 痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ナデ	(14.2)	18.5	-	-	ハケメ(9本/cm)・ スス附着
32SD001 I8 暗褐砂質土	第 175 図	114	土師器	小形甕	雲母・白色粒 子	にぶい黄褐色	灰黄褐色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ・指頭 痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	14.0	16.2	-	-	ハケメ(9本/cm)・ 外面黒斑
32SD001 I11 暗褐砂質土 D	第 175 図	115	土師器	小形甕	雲母・赤褐色 粒子・白色粒 子	橙色	橙色～にぶい 橙色	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ	15.5	14.3+α	-	-	ハケメ(8本/cm)・ スス附着 体部歪み あり
32SD001 H12 暗灰砂質土 F	第 175 図	116	土師器	小形甕	角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	橙色	橙色	強いナデ・ヨコ ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ	14.1	13.3+α	-	-	ハケメ(13本/cm)・ スス附着
32SD001 I10 暗褐粘質土 I	第 175 図	117	土師器	広口甕	雲母・赤褐色 粒子・白色粒 子	灰褐色	にぶい橙色	ナデ・工具ナ デ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ	26.1	28.2	-	-	ハケメ(5本/cm)(10 本/cm)・外面黒斑・ 突帯貼付
32SD001 I11 暗褐粘質土 L	第 175 図	118	弥生土器	甕	石英・長石・ 角閃石	灰白色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	15.4	26.2	-	-	ハケメ(7～9本/ cm)
32SD001 H11 暗褐砂質土	第 175 図	119	弥生土器	甕	角閃石・赤色 粒子・白色粒 子	橙色～褐灰色	橙色～灰白色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ後ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ後ナデ	(13.8)	20.3+α	-	-	ハケメ(8本/cm)・ スス附着
32SD001 J8 暗褐粘質土	第 175 図	120	弥生土器	甕底部	長石・角閃石	にぶい橙色	明褐灰色	ケズリ	ハケ後ナデ・ ケズリ	-	11.0+α	2.1	-	ハケメ(6本/cm)
32SD001 I8 暗褐砂質土	第 175 図	121	弥生土器	甕底部	石英・雲母・ 角閃石・白色 粒子	にぶい黄褐色	明黄褐色	ケズリ	ナデ・ヘラケ ズリ後ハケメ	-	10.1+α	2.9	-	ハケメ(9本/cm)
32SD001 I8 暗褐砂質土	第 175 図	122	弥生土器	甕底部	石英・長石・ 角閃石・赤褐 色粒子・白色 粒子	橙色	橙色	ケズリ後ハケメ	ナデ・ハケメ	-	12.3+α	6.1	-	ハケメ(10本/cm)・ 外面黒斑
32SD001 H11 暗褐砂質土	第 176 図	123	土錘		角閃石・白色 粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	-	ナデ	5.0+α	1.1	-	-	孔径 0.4cm
32SD001 H12 暗褐粘質土	第 176 図	124	石器	すり石	-	-	灰黄色	-	-	11.1	6.4	4.3	419.8g	角閃石安山岩 敲き痕
32SD001 I9 暗褐砂質土	第 176 図	125	石器	敲き石か	-	-	灰黄色	-	-	7.7	8.3	3.1	335.0g	角閃石安山岩 調整不明

32SE020・025

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
32SE020 J10 暗褐粘質土 P-6	第 180 図	001	土師器	壺	雲母・赤褐色 粒子	橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ・指オサ エ	18.6	32.4	-	-	ハケメ(12本/cm) 外面黒斑
32SE020 J10 暗褐粘質土 P-4 J11 暗褐粘 質土 32SE025 J11 黒褐粘質土	第 180 図	002	土師器	壺	石英・長石	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ハケ メ後ヨコナデ・ ミガキ・ハケメ 後ケズリ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	(14.6)	26.7	-	-	ハケメ(12本/cm) 内面黒色化・外面ス ス附着
32SE020 J10・J11 暗褐粘質土 32SE025 J11 黒褐粘質土	第 181 図	003	土師器	甕	雲母・白色粒 子	明赤褐色～灰 白色	明赤褐色～灰 白色	ハケメ・ケズリ ・ケズリ後ナデ ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	14.1	22.1	-	17.5	ハケメ(6本/cm) 外面スス附着

第 55 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 54

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
32SE020 J10 暗褐色粘土 P-8	第 181 図	004	土師器	甕	角閃石・白色 粒子	にぶい橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ	ヨコナデ・ハ ケメ	15.8	25.2	-	19.7	ハケメ (6 ~ 8 本 / cm) 内面黒斑・外面ス ス付着
32SE020 J10 暗褐色粘土 P-8	第 181 図	005	土師器	甕	角閃石・白色 粒子	橙色	橙色	ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ	18.0	25.3	-	19.7	ハケメ (12 本 /cm) 内面黒斑・外面ス ス付着
32SE025 J9 暗褐色粘土 最下層	第 181 図	006	土師器	甕	長石・赤褐色 粒子	にぶい橙色	橙色	ハケメ・ハケメ 後ヨコナデ・ケ ズリ・ハケメ後 ケズリ	ヨコナデ・縦 方向のハケメ	17.2	25.7	-	21.8	ハケメ (8 本 /cm) 外面スス付着
32SE020 J11 黒褐色粘土 P-2	第 181 図	007	土師器	甕	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	橙色	浅黄褐色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ	15.4	22.9	-	20.1	ハケメ (7 本 /cm) 内面黒色化・外面 スス付着
32SE025 J9 暗褐色粘土 最下層	第 181 図	008	土師器	甕	赤褐色粒子・ 白色粒子	明黄褐色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ・指オサエ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ	(17.2)	17.9+α	-	24.4	ハケメ (5 ~ 8 本 / cm) 外面スス付着
32SE020 J11 黒褐色粘土	第 181 図	009	土師器	甕	雲母・白色粒 子	灰白色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ (摩 耗により不明瞭)	ヨコナデ・ハ ケメ・ケズリ? ナデ?	17.2	24.4	-	20.6	ハケメ (5 本 /cm) 内外面スス付着
32SE020 J10 暗褐色粘土 32SE025 J11 黒褐色粘土	第 181 図	010	土師器	甕	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	淡黄色	淡黄色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ナデ	16.0	24.1	-	20.6	ハケメ (5 本 /cm) 外面スス付着
32SE020 J10 暗褐色粘土 P-9	第 181 図	011	土師器	甕	長石・赤褐色 粒子	浅黄色	明黄褐色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ	(16.0)	23.3	-	20.9	ハケメ (8 本 /cm) 外面スス付着
32SE020 J11 暗褐色粘土 P-3 32SE025 J11 黒褐色粘土	第 182 図	012	土師器	甕	雲母・白色粒 子	灰黄褐色	にぶい黄褐色	ハケメ・ハケメ 後ナデ・ケズリ ・ナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	15.4	21.9	-	20.2	ハケメ (6 本 /cm) 外面スス付着・二次 焼成による赤変
32SE020 J10 暗褐色粘土 32SE025 J11 黒褐色粘土	第 182 図	013	土師器	甕	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	黄灰色	浅黄色	ヨコナデ・ケズ リ・指オサエ	ヨコナデ・横 方向へ縦方向 ハケメ	(16.4)	22.9+α	-	23.5	ハケメ (7 ~ 11 本 / cm)
32SE020 J10 暗褐色粘土 P-10	第 182 図	014	土師器	甕	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ・ハ ケメ後ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	15.2	13.6	-	16.4	ハケメ (7 本 /cm) 外面スス付着
32SE025 J9 暗褐色粘土 最下層	第 182 図	015	土師器	甕	石英・長石・ 赤褐色粒子	淡橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ナデ	(16.4)	22.9	-	21.4	ハケメ (6 ~ 7 本 / cm) 外面スス付着
32SE020 J10 暗褐色粘土 32SE025 J11 黒褐色粘土	第 182 図	016	土師器	甕	石英・赤褐色 粒子	にぶい橙色	橙色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ	14.6	18.3	-	18.2	ハケメ (12 本 /cm) 外面スス付着
32SE025 J8 暗褐色粘土	第 182 図	017	土師器	甕	石英・赤褐色 粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ	15.5	21.2	-	19.9	ハケメ (8 本 /cm) 内面黒色化・外面ス ス付着
32SE020 J10 暗褐色粘土 32SE025 J11 黒褐色粘土	第 182 図	018	土師器	甕	赤褐色粒子・ 白色粒子	黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	14.6	22.8	-	20.5	ハケメ (10 本 /cm) 外面スス付着・二次 焼成による赤変?
32SE020 J10 暗褐色粘土 32SE025 J11 黒褐色粘土	第 182 図	019	土師器	甕	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	にぶい橙色	浅黄褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・指オ サエ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	18.4	27.5+α	-	23.2	ハケメ (10 本 /cm) 外面スス付着

32SE030

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
32SE030 J7 暗褐色粘土 上層	第 183 図	001	ミナ7土器	鉢	石英・赤褐色 粒子・白色粒 子	にぶい赤褐色	褐灰色	指頭痕	指頭痕	(6.0)	2.6+α	-	-	
32SE030 J7 黒褐色砂質土	第 183 図	002	ミナ7土器	鉢	角閃石・赤褐 色粒子	浅黄色	明黄褐色	ナデ	ナデ・指頭痕	6.8	4.8	-	-	外面黒斑
32SE030 J7 黒褐色砂質土 暗褐色粘土 上層	第 183 図	003	土師器	高坏	長石・赤褐色 粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ケズリ ・ナデ	17.8	13.6	11.9	-	ハケメ (6 本 /cm)
32SE030 J7 暗褐色砂質土 上層	第 183 図	004	土師器	高坏	石英・長石	橙色	橙色	放射状のミガ キ・ケズリ・ヨ コナデ	ヨコナデ・ミ ガキ・ケズリ	13.6	14.3	10.5	-	
32SE030 J7 暗褐色砂質土 上層	第 183 図	005	土師器	高坏	白色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズ リ・ハケメ・ナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ後ミガキ	15.4	13.6	11.6	-	
32SE030 J7 暗褐色砂質土 上層	第 183 図	006	土師器	高坏 坏部	長石・雲母・ 赤褐色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	(16.8)	4.9+α	-	-	ハケメ (9 ~ 10 本 / cm)
32SE030 J7 暗褐色砂質土 上層	第 183 図	007	土師器	高坏 脚部	石英・長石・ 雲母・赤褐色 粒子	橙色	にぶい褐色	ヨコナデ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	-	7.2+α	(11.4)	-	ハケメ (7 本 /cm)
32SE030 J7 暗褐色砂質土 上層	第 183 図	008	土師器	高坏 脚部	石英・長石	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ケズリ・ヨコナ デ	ヨコナデ・ハ ケメ後ヨコナ デ・ケズリ	-	9.1+α	(12.2)	-	ハケメ (8 本 /cm) 外面黒斑
32SE030 J7 暗褐色砂質土 上層	第 183 図	009	土師器	高坏 脚部	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	黒色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・しぼ り痕	ヨコナデ・ハ ケメ	-	8.6+α	-	-	ハケメ (10 本 /cm)
32SE030 J7 暗褐色砂質土 上層	第 183 図	010	土師器	鉢	石英・角閃石・ 赤褐色粒子	橙色	にぶい赤褐色	ハケメ後ヨコナ デ・ハケメ後ミ ガキ	ハケメ後ヨコ ナデ	(18.0)	4.8+α	-	-	ハケメ (9 ~ 10 本 / cm)

第 56 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 55

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴径/ 重さ	
32SE030 J7 暗褐粘質土 上層	第 183 図	011	土師器	鉢	石英・角閃石・ 赤褐色粒子	橙色	にぶい橙色	摩耗により不明 瞭	摩耗により不明 瞭	10.3	8.3	-	-	ハケメ (10 本 /cm) 外面黒斑
32SE030 J7 黒褐粘質土 J8 暗褐粘質 土最下層	第 183 図	012	土師器	鉢	角閃石・白色 粒子	橙色	黒褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	(22.0)	22.0+α	-	-	ハケメ (6 本 /cm) 外面スス付着
32SE030 J7 暗褐砂質土 上層	第 183 図	013	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 雲母・赤褐色 粒子	明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ・ハケ メ	ヨコナデ・ミ ガキ・ケズリ	9.6	7.6	-	-	ハケメ (10 本 /cm) 外面黒斑
32SE030 J7 暗褐粘質土 上層	第 183 図	014	土師器	小型丸底壺	石英・雲母・ 角閃石・赤褐 色粒子	橙色	橙色	ヨコナデ	ヨコナデ・ケ ズリ	10.0	7.0	-	-	
32SE030 J7 暗褐粘質土 上層	第 183 図	015	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 角閃石・赤褐 色粒子	黄灰色	にぶい黄褐色	ヨコナデ	ヨコナデ後ミ ガキ・ハケメ	(11.2)	8.3	-	-	ハケメ (7 本 /cm) 外面黒斑
32SE030 J7 暗褐砂質土 上層 32SE030 J7 暗褐粘質土 上層	第 183 図	016	土師器	小型丸底壺	石英・雲母・ 赤褐色粒子	橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ヨコ ナデ後ハケメ	ヨコナデ・ハ ケメ	(10.4)	11.0+α	-	-	ハケメ (10 本 /cm) 外面黒斑
32SE030 J7 暗褐砂質土 上層 暗褐粘質土 上層	第 183 図	017	土師器	小型丸底壺	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	にぶい黄褐色	明黄褐色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	(9.8)	11.1+α	-	-	ハケメ (7 ~ 9 本 / cm) 外面黒斑
32SE030 J7 暗褐砂質土 上層 J7 暗褐粘 質土	第 183 図	018	土師器	小型丸底壺	石英・角閃石・ 赤褐色粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナ デ	(8.0)	8.3	-	-	外面黒斑
32SE030 J7 暗褐砂質土 上層	第 183 図	019	土師器	小型丸底壺	石英・長石・ 角閃石	橙色	橙色	ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・指オサ エ	10.6	9.2	-	-	ハケメ (9 本 /cm) 外面黒斑
32SE030 J7 暗褐砂質土 上層	第 183 図	020	土師器	壺	石英・長石	橙色	橙色	ヨコナデ・ケズ リ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ナデ	12.4	15.5	-	-	ハケメ (10 本 /cm)
32SE030 J7 黒褐砂質土 暗褐粘質土 上層 暗褐砂質土 上層	第 183 図	021	土師器	壺	赤褐色粒子・ 白色粒子	にぶい黄褐色	にぶい橙色	ヨコナデ・ケズ リ・指オサエ	ナデ・ヨコナ デ・指オサエ	(13.0)	12.7+α	-	-	
32SE030 J7 黒褐砂質土 暗褐粘質土 上層 暗褐砂質土 上層	第 183 図	022	土師器	直口壺	長石・雲母	橙色	橙色	ハケメ後ミガキ ・ケズリ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ミガキハケメ 後ヨコナデ	14.4	19.8	-	-	ハケメ (3 本 /cm)(7 本 /cm)
32SE030 J7 黒褐粘質土 下層	第 184 図	023	土師器	壺	長石・赤褐色 粒子	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ナデ・ヨコナデ ・ハケメ・ケズ リ	ヨコナデ・ハ ケメ	14.4	28.4	-	-	ハケメ (8 本 /cm) 外面黒斑・穿孔 1 箇 所
32SE030 J7 暗褐砂質土 暗褐粘質土 上層 黒褐砂質土 上層	第 184 図	024	土師器	壺	赤褐色粒子・ 白色粒子	橙色	にぶい橙色	ナデ・ヨコナデ ・指オサエ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	(15.0)	32.3	-	-	ハケメ (6 本 /cm) 外面黒斑
32SE030 J7 暗褐粘質土 上層 暗褐砂質土 上層	第 184 図	025	土師器	壺	雲母・角閃石 ・赤褐色粒子・ 白色粒子・黒 色粒子	にぶい橙色	灰白色	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	13.6	27.8+α	-	-	ハケメ (5 本 /cm) 外面黒斑
32SD001 J7 暗褐砂質土 32SE030 J7 黒褐砂質土 暗褐砂質土 上層 暗褐粘質土 上層	第 184 図	026	土師器	壺	角閃石・長石・ 赤褐色粒子	淡橙色	淡橙色	ヨコナデ・ハケ メ・ハケメ後ケ ズリ・ケズリ・ 指オサエ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	16.6	32.5	-	-	ハケメ (8 本 /cm) 外 面黒斑 粘土継ぎ目
32SE030 J7 黒褐砂質土 暗褐粘質土 上層 暗褐砂質土 上層	第 184 図	027	土師器	壺	長石・雲母・ 角閃石・赤褐 色粒子・白色 粒子・黒色 粒子	灰白色～灰色	にぶい橙色～ 灰白色	ヨコナデ・ハケ メ	ヨコナデ・ハ ケメ	15.6	35.4+α	-	-	ハケメ (4 本 /cm)(8 本 /cm) 外面黒斑
32SE030 J7 黒褐砂質土 上層	第 185 図	028	土師器	壺	角閃石・赤褐 色粒子・白色 粒子	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ・指 オサエ後ハケ メ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	16.0	30.2	-	-	ハケメ (10 ~ 12 本 / cm) 外面赤彩
32SE030 J7 黒褐砂質土 暗褐粘質土 最下層 上層～下層	第 185 図	029	土師器	壺	石英・長石	橙色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ケズ リ・指頭痕	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	21.4	34.7	-	-	ハケメ (12 本 /cm) 外面スス付着
32SE030 J7 暗褐粘質土 上層	第 185 図	030	土師器	複合口縁壺	石英・長石・ 雲母・赤褐色 粒子	にぶい橙色	にぶい褐色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・櫛書波 状文 (2 案)	11.1	7.3+α	-	-	ハケメ (10 ~ 12 本 / cm)
32SE030 J7 黒褐砂質土 上層	第 185 図	031	土師器	甕	石英・長石・ 赤褐色粒子	灰黄色	にぶい黄色	ヨコナデ・ハケ メ・ハケメ後ヨ コナデ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ヨコナデ	(11.8)	10.3+α	-	15.3	ハケメ (3 ~ 4 本 / cm) 外面スス付着
32SE030 J7 黒褐砂質土 暗褐砂質土 上層	第 185 図	032	土師器	甕	角閃石・白色 粒子	黄褐色	浅黄褐色	ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハ ケメ	17.4	12.3+α	-	-	ハケメ (14 本 /cm)

第 57 表 大道遺跡群第 20・23・32 次調査出土遺物観察表 56

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
32SE030 J7 黒褐砂質土	第 185 図	033	土師器	甕	角閃石・赤褐色 粒子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ・ハケ メ後ケズリ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ 指オサエ	16.4	24.0	-	21.1	ハケメ (10 本 /cm)
32SE030 J7 黒褐粘質土 J8 暗褐粘質 土最下層	第 185 図	034	土師器	甕	石英・赤褐色 粒子	灰褐色	黒褐色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	(19.6)	26.9	-	24.0	ハケメ (10 本 /cm) 外面スス付着
32SE030 J7 暗褐砂質土 上層 黒褐砂質土 J7 暗褐粘 質土	第 185 図	035	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤褐色 粒子	橙色	橙色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ・ハ ケメ後ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ハケメ 後ナデ	(14.8)	23.8	-	20.5	ハケメ (6 ~ 10 本 / cm) 外面黒斑
32SE030 J7 暗褐砂質土 上層	第 185 図	036	土師器	甕	石英・長石	橙色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ・ハ ケメ後ケズリ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ヨコ ナデ	14.8	20.8	-	18.0	ハケメ (8 ~ 10 本 / cm) 外面スス付着
32SE030 J7 砂層	第 185 図	037	土師器	甕	石英・角閃石・ 赤褐色粒子	にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ・ハケ メ・ケズリ	ヨコナデ・ハ ケメ・ナデ	15.2	20.7	-	19.4	ハケメ (12 本 /cm) 外面スス付着
32SE030 J7 暗褐砂質土 上層	第 186 図	038	土師器	甕	石英・長石・ 角閃石・赤褐色 粒子	浅黄褐色	橙色	ヨコナデ・ハケ メ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ヨコ ナデ	(15.8)	27.6	-	23.9	ハケメ (4 本 /cm)(8 本 /cm)・外面黒斑・ 内面黒色化
32SE030 J7 砂層	第 186 図	039	土師器	甕	角閃石・赤褐色 粒子	灰黄色	浅黄色	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ		22.6+a	-		ハケメ (6 本 /cm) 外面スス付着
32SE030 J7 黒褐粘質土 J8 暗褐粘質土 最下層	第 186 図	040	土師器	甕	長石	灰白色	にぶい黄褐色	ヨコナデ・ハケ メ後ミガキ・ミ ガキ・指オサエ	ヨコナデ・ハ ケメ	16.4	31.7	-	23.4	ハケメ (9 ~ 11 本 / cm) 内底面黒斑・外面ス ス付着
32SE030 J7 黒褐粘質土 上層 暗褐粘質土 最下層	第 186 図	041	土師器	甕	長石・角閃石・ 赤褐色粒子	浅黄褐色	浅黄褐色	ナデ・ヨコナデ ・ケズリ・指オ サエ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ケズリ	19.6	31.5	-	25.5	ハケメ (6 本 /cm) 外面スス付着
32SE030 J7 黒褐粘質土 下層	第 186 図	042	土師器	甕	長石・赤褐色 粒子	褐灰色	にぶい橙色	ハケメ後ヨコナ デ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ・ ハケメ後ヨコ ナデ	17.0	29.5	-	24.2	ハケメ (12 本 /cm) 外面黒斑
32SE030 J7 暗褐粘質土 最下層	第 186 図	043	土師器	甕	長石・角閃石	にぶい橙色	浅黄褐色	ハケメ・ヨコナ デ・ケズリ	ナデ・ヨコナ デ・ハケメ	18.5	29.5	-	24.3	ハケメ (6 本 /cm) 外面スス付着

特殊遺物観察表

遺構名	挿図 番号	遺物 番号	器 種		胎 土	色 調		器 面 調 整		法 量 (cm)				備 考
			種 類	器 種		内 面	外 面	内 面	外 面	口径/ 長	器高/ 幅	底径/ 厚	最大胴部径/ 重さ	
32SD001 110 暗褐砂 質土	第 191 図	001		製塩土器	石英・砂粒	淡橙褐色	暗橙茶褐色	ナデ		-	3.2+a	0.4	-	
32SD001 19・110 暗褐砂質土	第 191 図	002		製塩土器	石英・褐色粒 子	淡灰茶褐色	橙褐色	ナデ	指オサエ・ナ デ	-	2.0+a	5.3	-	底部完存・端部に多 数のナデ
20SD001 f 区上層	第 191 図	003		製塩土器	石英	にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ・指オサエ	ナデ・指オサ エ	-	2.5+a	(6.6)	-	
20SD001 f 区上層	第 191 図	004		製塩土器	石英・赤色粒 子	灰褐色～明赤 褐色	明赤褐色	ナデ・指オサエ	ナデ・指オサ エ	-	4.7v	(6.3)	-	
20SD001 f 区上層	第 191 図	005		製塩土器	石英・Φ 1mm 程度の白色粒 子	淡黒色	暗橙褐色～淡 黒色	ナデ	タタキ後ナデ	-	4.6+a	4.6	-	底部完存・全面に二 次被熱の痕跡あり
20SD001 c 区上層	第 191 図	006		製塩土器	石英・角閃石	淡灰黒色	淡黄褐色	ナデ	タタキ後ナデ ・指オサエ後 ナデ	-	3.8+a	(4.6 ~ 5.4)	-	二次被熱
20SD001 d 区上層	第 191 図	007		製塩土器	石英・褐色粒 子を多量に含 む	淡橙褐色～淡 灰黒色	淡橙褐色～淡 灰黒色	ナデ	ナデ・指オサ エ	-	3.5+a	(5.6)	-	二次被熱
20SD001 d 区上層	第 191 図	008		製塩土器	石英・褐色粒 子を多量に含 む	淡褐黒色	淡橙褐色	ナデ	指オサエ・ナ デ	-	4.0+a	5.6	-	二次被熱・端部に多 数のナデ
20SD001 f 区上層	第 191 図	009		製塩土器	石英・褐色粒 子	淡橙褐色～淡 灰黒色	淡褐色～淡灰 黄白色	ナデ	ナデ	-	2.7+a	(6.0)	-	
20SD001 f 区上層	第 191 図	010		製塩土器	石英・砂粒	明褐色～淡灰 黒色土	明褐色～淡灰 黒色土	指オサエ・ナデ	指オサエ・ナ デ	-	3.8+a	5.3	-	底部完存・端部ヒビ 多数・全面二次被熱
20SD001 f 区上層	第 191 図	011		製塩土器	砂粒・赤色粒 子・石英	淡灰黒色	淡黄褐色	ナデ	ナデ・指オサ エ	-	4.2+a	(5.6)	-	脚内部無数のヒビが 入る・二次被熱
23SD001-6 下層	第 191 図	012		製塩土器	石英・角閃石	淡黄茶褐色	淡黄白色～橙 褐色	ナデ	指オサエ・ナ デ	-	2.3+a	4.0	-	二次被熱
23SD001-6	第 191 図	013		製塩土器	石英・褐色粒 子	淡黄褐色	橙白黄色～淡 灰黒色	ナデ	タタキ後ナデ ・横方向の連 続指オサエ	-	4.9+a	5.4	-	底部完存
23SD001-10	第 191 図	014		製塩土器	角閃石粒・石 英	明褐色～淡黄 褐色	明褐色～淡黄 褐色	ナデ	指オサエ・粗 いナデ	-	5.2+a	6.3	-	粘土輪痕跡・二次被 熱
23SD001-6 中層	第 191 図	015		製塩土器	石英粒	黄茶褐色～黒 色	淡褐色～黄褐 色	ナデ	指オサエ・ナ デ	-	2.4+a	4.7	-	底部完存・二次被熱 が顕著
23SD170-6	第 191 図	016		製塩土器	石英粒・結晶 片岩片	淡黄灰褐色	橙褐色	ナデ・絞り痕	タタキ痕・指 オサエ・ナデ	-	4.1+a	4.8	-	底部完存・端部ヒビ 多数・全面二次被熱
23SD001	第 194 図	001	土製品	猿形土製品	石英・雲母・ 角閃石・赤色 粒子		橙色			3.8	3.4	3.8	-	手づくね
32SD001 H12 暗褐砂 質土	第 195 図	001	土製品	土製模造鏡	長石・石英・ 角閃石・雲母・ 白色粒子・赤 色粒子・橙色 粒子	明赤褐色	明赤褐色	ナデ?	ナデ・指頭痕	5.3	3.6	1.5	-	端部に指オサエ痕あ り

第IV章 自然科学分析

第1節 大道遺跡群における樹種同定

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2. 試料

試料は、井戸から出土した木製品の木材1点である。試料の詳細を表1に示す。

3. 方法

カミソリを用いて新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目）、接線断面（板目）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって40～1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

4. 結果

表1に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

サカキ *Cleyera japonica* Thunb. ツバキ科 図版6

横断面：小型の道管が、単独ないし2個複合して密に散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は多く40を越える。放射組織は平伏細胞、方形細胞、直立細胞からなる異性である。接線断面：放射組織は、異性放射組織型で単列である。

以上の形質よりサカキに同定される。サカキは関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布する。常緑高木で、通常高さ8～10m、径20～30cmである。材は強靱、堅硬で、建築、器具などに用いられる。

5. 所見

樹種同定の結果、サカキが同定された。サカキは強靱、堅硬な材である。サカキは照葉樹林の構成要素で、暖温帯に分布する樹木である。当時の遺跡周辺もしくは近隣の地域で採取可能な樹種であったと考えられる。

文献

島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司（1985）木材の構造。文永堂出版，290p.

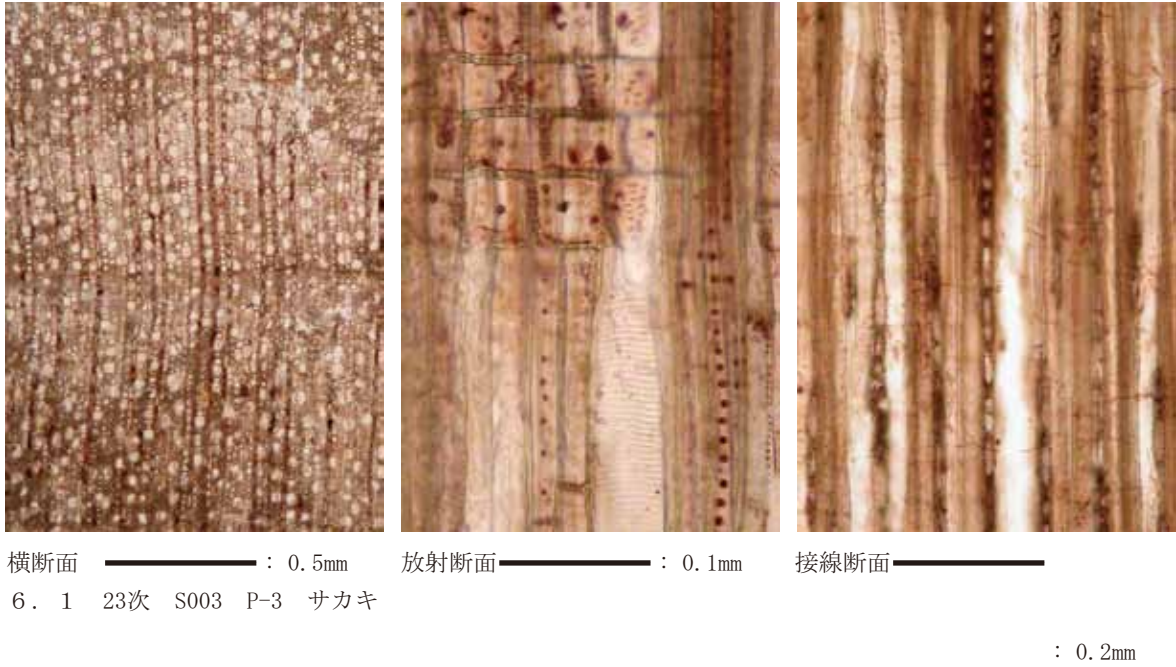
島地 謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧。雄山閣，296p.

山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成—用材から見た人間・植物関係史。植生史研究特別1号。植生史研究会，242p.

表1 大道遺跡群における樹種同定結果

No.	調査区	遺構No.	種類	結果（学名／和名）	
1	23次	S003 P-3		<i>Cleyera japonica</i> Thunb.	サカキ

大道遺跡群の木材



第 196 図 大道遺跡群の木材

第V章 まとめ

第1節 総括

今回の調査区では、弥生時代後期の土坑、古墳時代前期前葉と考えられる大溝（環濠）、井戸跡、古代の国衙関連と考えられる掘立柱建物跡が発見されている。検出遺構の中心は古墳時代の大溝（環濠）と井戸跡である。出土土師器は完存品、完形復元をした資料を含め 2000 点を超える膨大なものである。土師器の種類は、椀、器台、鼓形器台、高坏、壺、長頸壺、在地系甕、布留式系甕、大形土鍾、製塩土器など多種多様である。井戸跡の遺物と環濠の遺物は接合関係が見られることからほぼ同時期の廃棄と考えられる。廃棄された時期の主体は、古墳時代前期の時期に集中している。また第 24 次調査 SE008 出土の土器群の時期と共通している。中心時期は、布留Ⅰ式中頃と考えられる。今回の出土遺物の中で特筆すべきものは、大形管状土鍾と備讃瀬戸系の脚台付製塩土器であり、出土量が多量であることも注目される。製塩土器の胎土中には、やや大きめの石英や角閃石を含むことから豊後水道沿岸に位置する海部郡からの持ち込みであろうと推察されていた。しかしながら製塩土器の胎土を精査してみると、大分市域で出土した製塩土器の胎土中には石英の小さいものが多数認められることから、大分市中心部の海岸部でも作られていた可能性が想定される。大形土鍾は、川ではなく海での漁で利用するものである。両者の存在は、大道遺跡群が海との関わりを強く持つという性格を示している。

古墳時代の集落の時期的な変遷は下郡遺跡群→大道遺跡群→東田室遺跡と確認され、拠点的な集落の移転として捉えられる可能性が示唆される。

第2節 大道遺跡群第 20・23・32 次溝状遺構について

今回報告した第 20 次・23 次・32 次調査区で検出した溝状遺構は、断面が逆台形状を呈し、幅約 3 m で、出土土器の様相から、古墳時代前期に廃絶した一連の環濠と考えられる。環濠の端部は検出しておらず、現在の大分駅を囲むような形で弧状を呈している。その範囲からは後世の削平によるためか、住居跡は検出されなかったものの、環濠と同時期に廃絶したと考えられる井戸跡を数基検出した。特に第 20 次調査区では、溝状遺構（20SD001）と井戸跡（20SE001）の出土土器が遺構間接合^(註1)しており、遺構の同時代性がうかがえる。

また、環濠の南側に位置する大道遺跡群第 4 次・5 次調査^(註1)からも、廃絶時期が環濠と同じく、概ね古墳時代前期前葉から中葉までの遺構を検出している。井戸跡を中心とするが、特に第 4 次調査では古墳時代前期の竪穴遺構を検出している。今次報告の環濠の機能時期に、環濠の南北に集落のひろがりがあったことが推測される。

今次報告の環濠からは、製塩土器・土鍾・猿形土製品をはじめ古墳時代前期を中心とする土器が大量に出土した。遺物の大半は、埋土中層から上層にかけて出土しており、溝状遺構が環濠として機能を停止した後、埋没する段階に廃棄されたものと考えられる。出土遺物は点数も多く、器種也多岐にわたっていたため、器種ごとに分類を行い、当該期の編年における位置付けについて検討した。それぞれの溝状遺構出土土器の所産年代については、各次数の調査の成果を参照されたい。環濠出土遺物は少なくとも、古相は古墳時代初頭から、新相は古墳時代前期後葉までの時期幅を持っていると考えられる。遺物の時期幅から、廃棄の開始と最終廃棄段階には、一定程度の時間幅が認められる。特に 23SD170 出土遺物は、比較的古相を示している。また、23SD170 付近には、井戸跡の検出事例が少ないなど、環濠の東端部分は早い段階から機能を停止した可能性が想定できる。

環濠の廃絶時期は古墳時代前期と推定できるが、掘削時期および、それに伴う集落の開始時期については不明である。しかしながら、出土遺物の中には弥生時代後期終末期の遺物が散見される。また第 23 次調査区では、弥生時代後期の遺構として、環濠の南側から井戸跡（23SE011）、東側から廃棄土坑（23SX038）を検出した。これらのことから、環濠の掘削年代が弥生時代後期まで遡り、環濠に伴う集落も同時期にはすでに存在していた可能性を想定できる。

第 3 節 大道遺跡群 20・23・32 次井戸状遺構の変遷について

今回の調査では各次数ともそれぞれの地点において古墳時代前期に比定される井戸状遺構を検出している。ここでは、その中でも一括資料として良好な遺物が出土した 3 基（23SE051・23SE099・32SE030）の井戸跡を選出し、その出土遺物から時間的な位置付けを行い、遺構の変遷並びに該期の様相を検討する。なお、各井戸状遺構の概要は紙面の都合上割愛しているため、第三章を参照していただきたい。

大分平野における古墳時代前期の井戸状遺構検出事例は、本遺跡群の他、大分川を挟んで東側に位置する下郡遺跡群と本遺跡群の西側に所在する東田室遺跡の 3 遺跡である。いずれの遺跡群の井戸状遺構も平面プランは円形を基調とした素掘りの井戸であり、形態的な時期毎の変遷は認められない^(註2)。その規模や状況等は今次報告の遺構と 3 遺跡の遺構群とも類似している。次に出土遺物からみると、23SE099 出土の資料は、底部の丸底化や壺の球形化等新しい様相が認められるが、土師器Ⅱ b 期に比定される下郡遺跡群第 92 次 SH343 出土資料のような新しい様相は見受けられず、土師器Ⅱ a 期(古墳時代前期前葉)の範疇におさまるものと考えられる。さらに、その中でも球形化の進んだ新しい要素を含む直口縁壺が認められることから、土師器Ⅱ a 期の中でも新相に位置付けられるものとして理解しておきたい。23SE051 出土の甕資料は在地の甕に外来の成形技法が導入されており、細密なハケ目調整とともにケズリが顕著に見られる。底部は丸底であり、胴部形態は球形胴化が進展しながらも、長胴の名残を残している。土師器Ⅱ b 期でも古相と考えられる遺物群である。32SE030 出土の 004・005 は植田市遺跡 E 区溝 出土の布留式系高坏と同様のものであり、脚部がスラリと伸び、裾部が底面で開くタイプである。古墳時代前期中葉から後葉の所産と考えられる。以上のことから、井戸の新旧関係は 23SE099（古墳時代前期前葉の新相）→ 23SE051（古墳時代前期中葉の古相）→ 32SE030（古墳時代前期中葉の新相～後葉）と推定される。この他、20SE001^(註4)、32SE020・025 等の井戸状遺構を検出しており、いずれも出土遺物から古墳時代前期前葉から後葉の所産と推定される。

上記の様相を踏まえ、大道遺跡群内の該期の様相を整理すると、井戸状遺構群は第 198 図に示されるように、各次数を貫く環濠の東側にそのほとんどが位置し、遺跡の南東側から北西に向いながら変遷したと考えられる。また、第 4・5 次調査ではこの環濠の南側に竪穴遺構 2 基を伴う井戸状遺構を 6 基確認している。さらに第 23 次調査地点から南へ 300 m ほどの、第 16 次・24 次調査地点周辺を中心とするエリアでも、素掘りの井戸状遺構群が検出されており、特に 24SE008 では、井戸廃棄時に木臼を遺棄した状況が確認されている。年代測定分析により井戸廃棄年代は古墳時代前期前葉に比定されている。大道遺跡群内の集落は環濠を挟んでその両側に同時期あるいはわずかな時期差をもちながら複数展開していた可能性が考えられる。また、集落形成の始まりは確認できないが、第 32 次調査において、井戸状遺構と環濠の廃絶時期がほぼ同時であることが出土遺物から確認できており、古墳時代前期後葉には集落自体の衰退あるいは移動が行われたことを示唆している。

註

註 1 大分市教育委員会 2009『大道遺跡群 2』- 大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 5-

註 2 坪根伸也 2008「東九州（大分県）における弥生時代～古墳時代前期の井戸跡検出事例」『第 57 回埋蔵文化財研究集会 井戸再考—弥生時代～古墳時代前期を対象にして—』埋蔵文化財研究所

註 3 大分市教育委員会 2002『下郡遺跡群 I』- 大分市下郡地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1-

註 4 大分県教育委員会 1994『植田市遺跡』—七瀬川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

註 5 第 20 次調査においては、20SD001 出土の資料と 20SE001・20SE018 出土の資料が複数点、遺構間接合しており同時期に廃絶したのと考えられる。両遺構出土の遺物の様相から古墳時代前期中葉から後葉と考えられる。

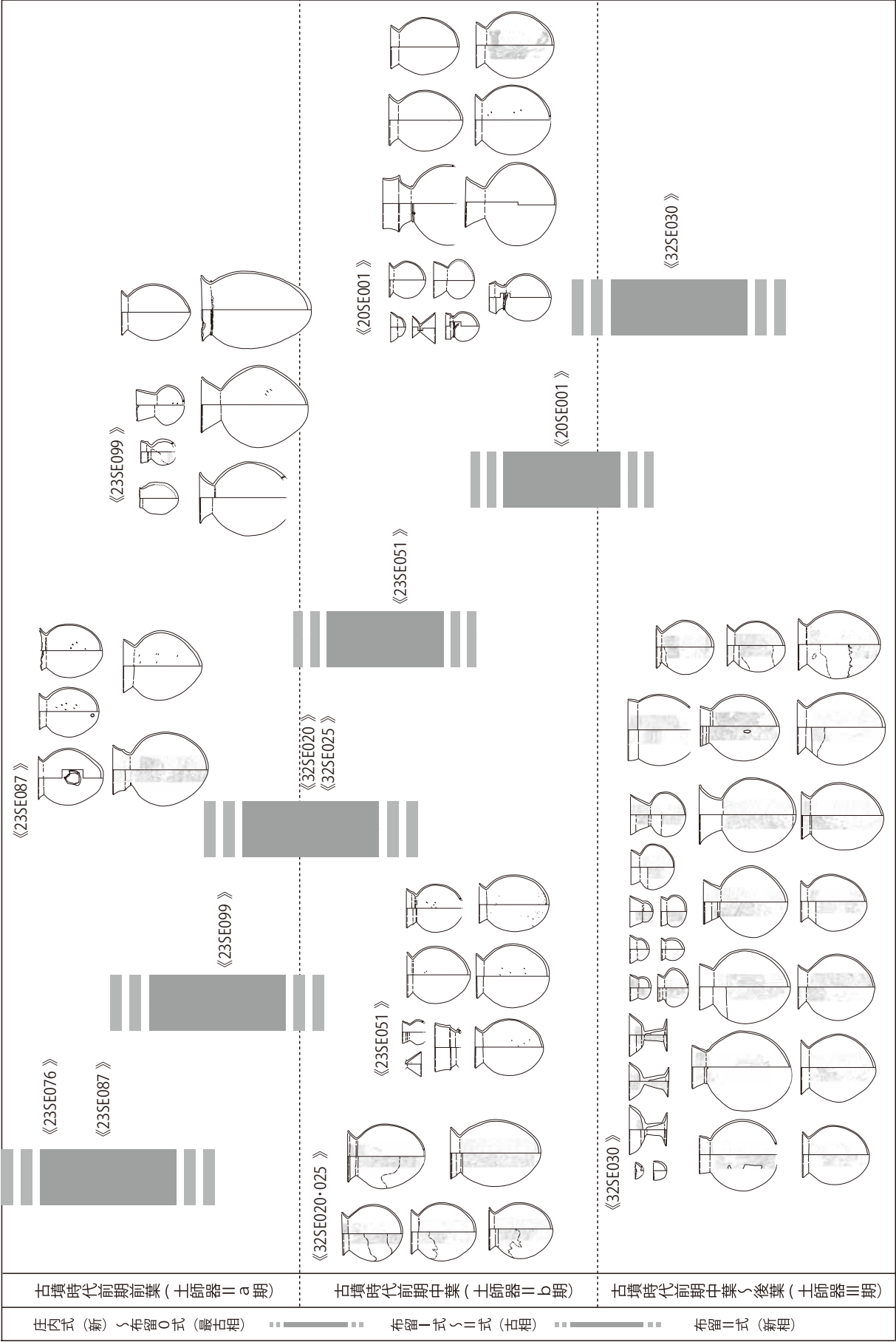
参考文献

大分市教育委員会 2008『大道遺跡群 1』- 大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4-

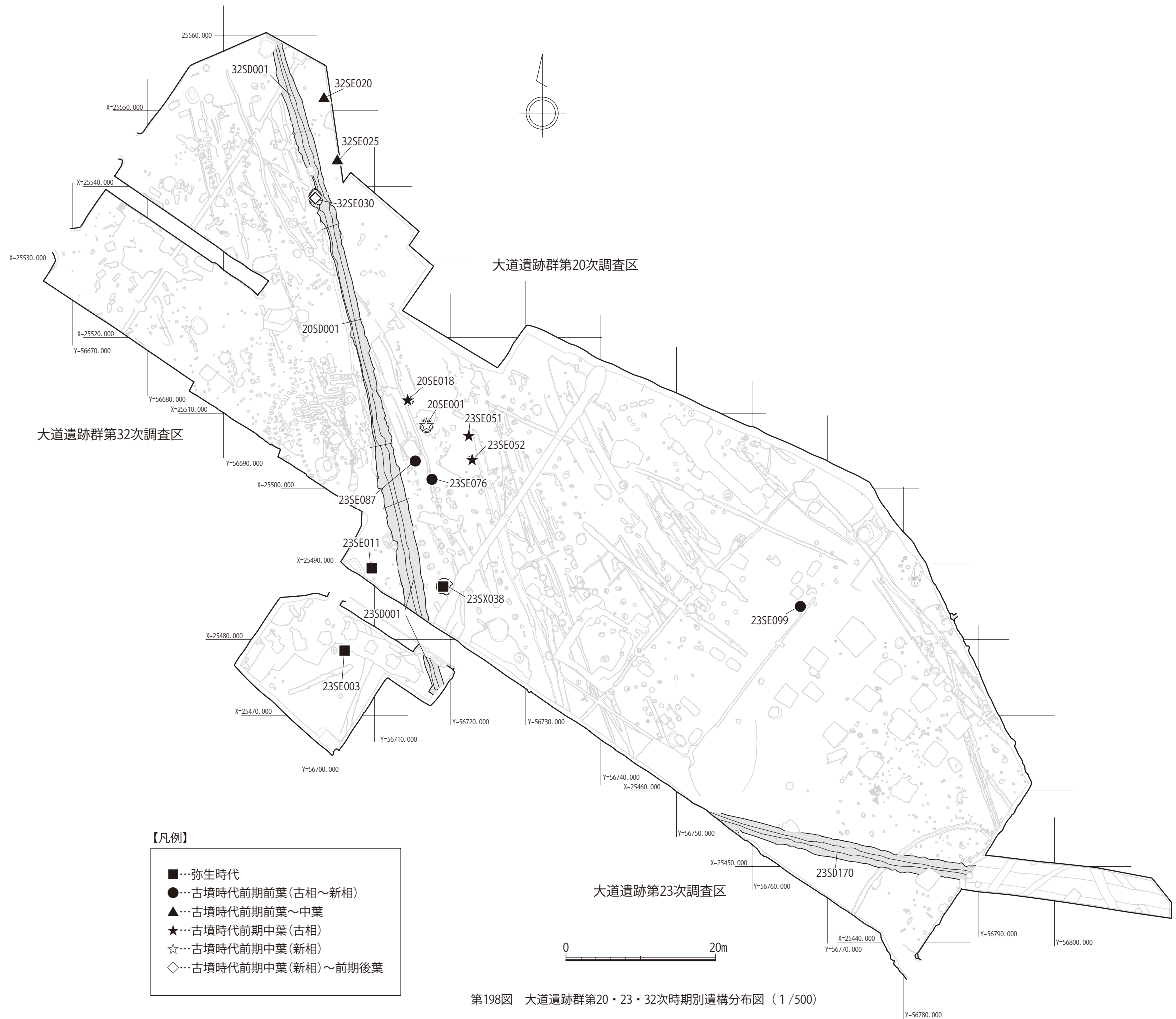
大分市教育委員会 2010『大道遺跡群 3』- 大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 6-

大分市教育委員会 2008『下郡遺跡群 VI』- 大分市下郡地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 6-

大分市教育委員会 2010『下郡遺跡群 VIII』- 大分市下郡地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 8-



第 197 図 大道遺跡群第 20・23・32 次井戸状遺構時期変遷模式図



第198図 大道遺跡群第20・23・32次時期別遺構分布図（1/500）

写真図版



1. 23SE011 土層断面 (南から)



2. 23SE011 遺物出土状況 1 (南から)



3. 23SE011 遺物出土状況 2 (南から)



4. 23SX038 完掘状況 (南から)



5. 23SX038 遺物出土状況 (南東から)



6. 23SX038 土層断面 (南から)



7. 23SE003 土層断面 (北から)



8. 23SE003 遺物出土状況 1 (北から)



1. 23SE003 遺物出土状況 2 (木器近景)



2. 23SD001 検出状況 (北西から)



3. 23SD001 検出作業状況 1 (北西から)



4. 23SD001 検出作業状況 2 (南から)



5. 23SD001 遺物出土状況 1 (北から)



6. 23SD001 遺物出土状況 2 (南東から)



7. 23SD001 検出作業状況 3 (北西から)



8. 23SD001 完掘状況 (南東から)



1. 23SD001 土層断面 (北西から)



2. 23SD001 遺物出土状況 3 (近景)



3. 23SD001 遺物出土状況 4 (近景)



4. 23SD001 遺物出土状況 5 (近景)



5. 23SD001 遺物出土状況 6 (猿形土製品)



6. 23SD170 拡張部検出状況 (北東から)



7. 23SD170 遺物出土状況 (東から)



8. 23SD170 土層断面 1 (北西から)



1. 23SD170 土層断面 2(東から)



2. 23SD170 完掘状況 (西から)



3. 23SE052 土層断面 (南西から)



4. 23SE052 完掘状況 (西から)



5. 23SE051 土層断面 (南から)



6. 23SE051 完掘状況 (東から)



7. 23SE051 遺物出土状況 1 (南から)



8. 23SE051 遺物出土状況 2 (近景)



1. 23SE085 完掘状況 (西から)



2. 23SE076 土層断面 (南西から)



3. 23SE076 遺物出土状況 (南西から)



4. 23SE076 完掘状況 (南から)



5. 23SE087 土層断面 (西から)



6. 23SE087 遺物出土状況 (南東から)



7. 23SE099 遺物出土状況 (北から)



8. 23SE099 土層断面 (北東から)



1. 23SE183 完掘状況 (西から)



2. 23SE209 完掘状況 (南東から)



3. 23SE209 土層断面 (南東から)



4. 20SD001 遺物出土状況 1 (北から)



5. 20SD001 遺物出土状況 2 (近景)



6. 20SD001 遺物出土状況 3 (東から)



7. 20SD001 遺物出土状況 4 (東から)



8. 20SD001 遺物出土状況 5 (近景)



1. 20SD001 遺物出土状況 6 (近景)



2. 20SD001 遺物出土状況 7 (南から)



3. 20SD001 遺物出土状況 8 (近景)



4. 20SD001 遺物出土状況 9 (南から)



5. 20SD001 遺物出土状況 10 (近景)



6. 20SD001 遺物出土状況 11 (近景)



7. 20SD001 遺物出土状況 12 (南から)



8. 20SD001 遺物出土状況 13 (近景)



1. 20SD001 遺物出土状況 14(近景)



2. 20SD001 土層断面 1(南から)



3. 20SD001 土層断面 2(南から)



4. 20SD001 土層断面 3(南から)



5. 20SD001 土層断面 4(南から)



6. 20SD001 完掘状況 (東から)



7. 20SE001 土層断面 (南から)



8. 20SE001 遺物出土状況 1(近景)



1. 20SE001 遺物出土状況 2 (近景)



2. 20SE001 完掘状況 (南から)



3. 20SE018 土層断面 (北から)



4. 20SE018 遺物出土状況 1 (近景)



5. 20SE018 遺物出土状況 2 (近景)



6. 20SE018 完掘状況 (西から)



7. 32SD001 遺構掘り下げ作業状況 (近景)



8. 32SD001 遺構検出状況 1 (東から)



1. 32SD001 遺構検出状況 2 (東から)



2. 32SD001 遺構検出状況 3 (東から)



3. 32SD001 遺物出土状況 (近景)



4. 32SD001 土層断面 (東から)



5. 32SD001 完掘状況 (西から)



6. 32SE020 遺物出土状況 1 (南から)



7. 32SE020 遺物出土状況 2 (南から)



8. 32SE020 遺物出土状況 3 (南から)



1. 32SE020 完掘状況 (西から)



2. 32SE025 土層断面 (南から)



3. 32SE025 完掘状況 (北から)



4. 32SE030 検出状況 (南から)



5. 32SE030 遺物出土状況 (近景)



6. 32SE030 調査状況 (東から)



7. 32SE030 土層断面 (東から)



8. 32SE030 完掘状況 (南から)



第 7 図 001



第 7 図 002



第 7 図 003



第 7 図 004



第 7 図 005



第 7 図 006



第 7 図 007



第 7 図 007



第 9 図 001



第 9 図 002



第 9 図 009



第 9 図 010



第 10 図 015



第 10 図 016



第 10 図 017



第 10 図 018



第 11 図 024



第 11 図 026



第 12 図 033



第 13 図 043



第 13 図 045



第 13 図 046



第 14 図 047



第 17 図 001



第 17 図 002



第 18 図 010



第 18 図 011



第 19 図 015



第 19 図 016



第 19 図 017



第 19 図 018



第 19 図 019



第 19 図 020



第 23 図 005



第 23 図 006



第 23 図 008



第 23 図 010



第 23 図 011



第 23 図 012



第 23 図 015



第 23 図 016



第 23 図 017



第 23 図 021



第 23 図 022



第 23 図 023



第 23 図 024



第 23 図 026



第 23 図 027



第 23 図 028



第 23 図 032



第 23 図 033



第 24 図 034



第 24 図 035



第 24 図 039



第 24 図 040



第 24 図 041



第 24 図 042



第 24 図 043



第 24 図 046



第 24 図 049



第 24 図 050



第 25 図 054



第 25 図 055



第 25 図 057



第 25 図 084



第 27 図 100



第 27 図 101



第 27 図 103



第 27 図 110



第 27 図 112



第 27 図 114



第 27 図 115



第 27 図 116



第 27 図 118



第 27 図 119



第 27 図 120



第 27 図 124



第 28 図 127



第 28 図 128



第 28 図 132



第 28 図 133



第 28 図 135



第 28 図 138



第 28 図 142



第 29 図 143



第 29 図 148



第 30 図 151



第 30 図 152



第 30 図 155



第 31 図 157



第 31 図 159



第 31 図 161



第 31 図 162



第 31 図 164



第 31 図 165



第 31 図 166



第 31 図 168



第 31 図 169



第 31 図 171



第 31 図 174



第 31 図 175



第 31 図 177



第 31 図 178



第 31 図 179



第 31 図 181



第 31 図 182



第 31 図 183



第 31 図 184



第 32 図 187



第 32 図 189



第 32 図 195



第 32 図 196



第 32 図 197



第 32 図 198



第 32 図 199



第 32 図 203



第 33 図 204



第 33 図 206



第 34 図 211



第 34 図 212



第 35 図 214



第 35 図 215



第 35 図 216



第 35 図 218



第 36 図 220



第 36 図 221



第 37 図 229



第 38 図 231



第 38 図 232



第 38 図 236



第 39 図 237



第 39 図 239



第 39 図 240



第 39 図 241



第 41 図 244



第 41 図 245



第 41 図 246



第 41 図 247



第 42 図 250



第 42 図 252



第 43 図 256



第 43 図 258



第 46 図 271



第 46 図 273



第 46 図 279



第 47 図 282



第 47 図 289



第 47 図 291



第 48 図 296



第 48 図 298



第 48 図 299



第 48 図 302



第 49 図 305



第 49 図 310



第 50 図 313



第 50 図 315



第 50 図 320



第 50 図 321



第 51 図 324



第 51 図 328



第 51 図 329



第 52 図 333



第 54 図 355



第 54 図 357



第 54 図 359



第 54 図 361



第 54 図 362



第 56 図 371



第 56 図 372



第 56 図 373



第 56 図 374



第 56 図 377



第 57 図 387



第 57 図 390



第 57 図 391



第 57 図 393



第 61 図 001



第 61 図 005



第 61 図 007



第 61 図 008



第 61 図 010



第 61 図 011



第 61 図 014



第 61 図 015



第 61 図 017



第 62 図 020



第 62 図 023



第 62 図 025



第 62 図 026



第 62 図 028



第 62 図 030



第 63 図 031



第 63 図 041



第 64 図 043



第 65 図 050



第 65 図 060



第 65 図 061



第 65 図 066



第 65 図 068



第 65 図 070



第 65 図 072



第 65 図 073



第 66 図 081



第 67 図 086



第 67 図 088



第 68 図 090



第 68 図 097



第 68 図 099



第 68 図 104



第 68 図 105



第 68 図 107



第 68 図 108



第 68 図 111



第 69 図 114



第 69 図 115



第 70 図 119



第 71 図 123



第 72 図 130



第 73 図 133



第 73 図 134



第 73 図 135



第 73 図 136



第 74 図 140



第 74 図 141



第 74 図 143



第 74 図 146



第 76 図 150



第 76 図 151



第 76 図 152



第 76 図 156



第 76 図 153



第 77 図 167



第 79 図 180



第 80 図 192



第 80 図 193



第 81 図 194



第 81 図 198



第 81 図 199



第 81 図 201



第 82 図 204



第 82 図 214



第 83 図 217



第 83 図 220



第 83 図 221



第 83 図 222



第 83 図 223



第 84 図 233



第 84 図 248



第 88 図 003



第 88 図 004



第 88 図 005



第 88 図 006



第 88 図 007



第 88 図 008



第 87 図 001



第 87 図 002



第 90 図 001



第 90 図 002



第 90 図 003



第 90 図 004



第 93 図 001



第 93 図 002



第 93 図 003



第 93 図 004



第 93 図 005



第 95 図 001



第 95 図 002



第 95 図 003



第 95 図 004



第 95 図 006



第 95 図 007



第 101 図 001



第 101 図 004



第 101 図 006



第 101 図 007



第 101 図 008



第 101 図 015



第 101 図 016



第 101 図 017



第 101 図 022



第 101 図 024



第 101 図 026



第 101 図 027



第 102 図 030



第 102 図 031



第 102 図 032



第 102 図 034



第 102 図 037



第 102 図 038



第 102 図 039



第 102 図 041



第 102 図 043



第 102 図 044



第 103 図 045



第 103 図 046



第 103 図 047



第 103 図 048



第 105 図 088



第 105 図 111



第 105 図 112



第 105 図 116



第 105 図 120



第 105 図 125



第 105 図 130



第 106 図 131



第 106 図 136



第 106 図 137



第 106 図 138



第 106 図 151



第 106 図 153



第 108 図 168



第 108 図 169



第 109 図 173



第 111 図 190



第 111 図 192



第 111 図 196



第 111 図 197



第 111 図 215



第 111 図 222



第 112 図 223



第 112 図 231



第 112 図 232



第 112 図 239



第 112 図 241



第 112 図 243



第 113 図 249



第 114 図 259



第 114 図 260



第 115 図 268



第 115 図 269



第 116 図 271



第 117 図 276



第 117 図 282



第 118 図 283



第 120 図 289



第 120 図 291



第 122 図 299



第 123 図 303



第 124 図 309



第 124 図 310



第 124 図 311



第 128 図 336



第 129 図 344



第 130 図 346



第 130 図 347



第 134 図 373



第 134 図 375



第 134 図 376



第 135 図 381



第 136 図 394



第 137 図 403



第 138 図 420



第 139 図 434



第 139 図 435



第 140 図 437



第 140 図 440



第 142 図 459



第 143 図 464



第 145 図 486



第 146 図 501



第 147 図 509



第 148 図 510



第 150 図 528



第 150 図 529



第 151 図 549



第 151 図 550



第 151 図 555



第 151 図 559



第 153 図 606



第 156 図 003



第 156 図 004



第 156 図 006



第 156 図 007



第 156 図 009



第 156 図 010



第 156 図 011



第 156 図 012



第 156 図 013



第 157 図 017



第 157 図 018



第 157 図 020



第 157 図 021



第 157 図 025



第 158 図 028



第 160 図 001



第 160 図 002



第 160 図 003



第 160 図 004



第 163 図 001



第 163 図 002



第 163 図 003



第 163 図 005



第 163 図 006



第 163 図 007



第 163 図 008



第 163 図 009



第 163 図 013



第 163 図 015



第 163 図 017



第 163 図 018



第 163 図 019



第 163 図 020



第 163 図 022



第 163 図 024



第 164 図 025



第 164 図 028



第 164 図 031



第 164 図 032



第 164 図 033



第 164 図 034



第 164 図 035



第 164 図 036



第 164 図 037



第 165 図 038



第 165 図 039



第 165 図 040



第 165 図 041



第 165 図 042



第 165 図 043



第 165 図 046



第 165 図 047



第 165 図 048



第 165 図 049



第 165 図 053



第 166 図 054



第 166 図 055



第 166 図 056



第 167 図 057



第 167 図 059



第 167 図 060



第 168 図 061



第 168 図 062



第 168 図 063



第 168 図 065



第 169 図 066



第 169 図 068



第 169 図 069



第 169 図 070



第 169 図 071



第 169 図 072



第 170 図 073



第 170 図 074



第 170 図 075



第 171 図 076



第 171 図 077



第 171 図 078



第 171 図 080



第 171 図 081



第 172 図 083



第 172 図 084



第 172 図 085



第 172 図 086



第 172 図 087



第 172 図 088



第 172 図 089



第 173 図 090



第 173 図 094



第 173 図 096



第 173 図 097



第 174 図 102



第 174 図 103



第 174 図 104



第 174 図 105



第 174 図 106



第 174 図 107



第 175 図 108



第 175 図 110



第 175 図 111



第 175 図 112



第 175 図 114



第 175 図 117



第 175 図 118



第 176 図 123



第 176 図 124



第 176 図 125



第 180 図 001



第 180 図 002



第 181 図 003



第 181 図 004



第 181 図 005



第 181 図 006



第 181 図 007



第 181 図 009



第 181 図 010



第 182 図 012



第 182 図 014



第 182 図 016



第 182 図 017



第 182 図 018



第 182 図 019



第 183 図 001



第 183 図 002



第 183 図 003



第 183 図 004



第 183 図 005



第 183 図 011



第 183 図 013



第 183 図 014



第 183 図 015



第 183 図 016



第 183 図 018



第 183 図 019



第 183 図 020



第 183 図 022



第 184 図 023



第 184 図 024



第 184 図 025



第 184 図 026



第 184 図 027



第 185 図 028



第 185 図 029



第 185 図 033



第 185 図 034



第 185 図 035



第 185 図 036



第 185 図 037



第 186 図 038



第 186 図 040



第 186 図 041



第 186 図 042



第 186 図 043



第 191 図 002



第 191 図 005



第 191 図 006



第 191 図 007



第 191 図 008



第 191 図 009



第 191 図 010



第 191 図 011



第 191 図 012



第 191 図 013



第 191 図 014



第 191 図 015



第 191 図 016



第 194 図 001



第 194 図 001



第 195 図 001



未掲載 (23SD001-R940)



未掲載 (23SD001-R941)



未掲載 (23SD170-R939)

報告書抄録

ふりがな	おおみちいせきぐん
書名	大道遺跡群 4
副書名	大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 7
巻次	
シリーズ名	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第 106 集
執筆者名	井口あけみ 河野史郎 木村藍子 倉増美智代 佐藤孝則 佐藤良子 稗田智美
編集機関	大分市教育委員会
所在地	〒 870-8504 大分市荷揚町 2 番 31 号 TEL097 (534) 6111
発行年月日	西暦 2011 年 3 月 15 日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m ²	
おおみちいせきぐん 大道遺跡群第 20 次調査	おおいたしひがしおおみち 大分市東大道 1 丁目 2512-1 他	44201	201325	33° 13′ 43″	131° 36′ 30″	20071209 ～ 20080328	1389	区画整理事業
大道遺跡群第 23 次調査	おおいたしかないけみなみ 大分市金池南 1 丁目 2511-4 他	44201	201325	33° 13′ 41″	131° 36′ 32″	20080724 ～ 20081201	4152	区画整理事業
大道遺跡群第 32 次調査	おおいたしひがしおおみち 大分市東大道 1 丁目 2512-1 他	44201	201325	33° 13′ 43″	131° 36′ 29″	20101013 ～ 20101203	954	区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大道遺跡群第 20 次調査	集落跡	古墳時代	環濠遺構 井戸跡	土師器	環濠遺構と井戸跡の検出
大道遺跡群第 23 次調査	集落跡	古墳時代・古代	環濠遺構 井戸跡 掘立柱建物跡	土師器	環濠遺構と井戸跡の検出 古代の掘立柱建物跡群の 検出
大道遺跡群第 32 次調査	集落跡	古墳時代	環濠遺構 井戸跡	土師器	環濠遺構と切り合い関係 のある井戸跡の存在

要約

東から第 23 次、20 次、32 次とそれぞれ隣接する位置関係にある全ての調査区にまたがる形で検出された古墳時代前期の環濠遺構が、JR 大分駅構内を中心とする環濠集落を想定した一連の環濠遺構（23SD001・23SD170・20SD001・32SD001）として捉えられる。

環濠内からは多量の土器が出土し、これらはこれまで大分平野において検出事例の少なかった古墳時代前期中頃を中心とするものであり、当該期の土器様相把握に際し、良好な資料を提供した。また猿形土製品や土製模造鏡、製塩土器の出土等も注目される。

大道遺跡群 4

大分駅周辺総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 7

平成 23 年 3 月 15 日

発行 大分市教育委員会
〒 870-8504 大分市荷揚町 2 番 31 号